愛知淑徳大学

履修要覧　学部

[2025 年度入学者用]

保存版

履修要覧は入学時のみ配付されます。
卒業まで大切に保管してください。

履修要覧は入学時のみ配付されるため、卒業まで大切に保管してください。
本冊子に記載されている内容は、2025年２月28日現在のものです。
最新の情報はCampusSquareもしくは掲示等で確認してください。

本学ホームページから閲覧可能

学 年 暦：トップページ ＞ 学生生活 ＞ 学年暦

履修要覧：トップページ ＞ 学生生活 ＞ 履修・授業関連 ＞ 履修要覧

カリキュラムマップ：
トップページ ＞ 学生生活 ＞ 履修・授業関連 ＞ カリキュラムマップ

時間割表：トップページ ＞ 学生生活 ＞ 履修・授業関連 ＞ 時間割表

目　次

はじめに
目次
履修にあたって…… 4
1　学生部の事務取扱い時間
2　掲示・連絡
3　問い合わせ
4　ガイダンス
5　進級
6　アドバイザー
7　教員との連絡
8　学籍の異動（休学・復学・退学）
9　卒業延期制度
授業科目の種類と単位…… 6
1　授業科目の種類
2　単位
3　カリキュラムマップおよびナンバリング
授業…… 8
1　授業時間
2　授業形態
3　遠隔授業受講に際しての注意事項
4　休講と補講等
5　授業の出欠席
履修登録…… 11
1　履修計画
2　時間割の作成方法
3　履修登録の流れ
4　履修登録上の注意事項
5　履修登録単位数の上限
6　履修中止
試験・成績評価…… 17
1　試験の実施
2　受験資格
3　受験上の注意
4　追試験
5　レポート提出上の注意
6　再試験
7　成績評価
8　GPA制度
9　成績発表
10　成績評価に関する質問
11　授業担当者に対する陳情等の禁止
12　卒業認定者の発表

学修機会を拡大する制度…… 22
学外修得単位の認定…… 24
全学共通履修科目カリキュラム表…… 25
1　違いを共に生きる科目 …… 26
2　AI・データサイエンス科目 …… 27
3　アクティブラーニング科目 …… 30
4　言語活用科目［英語］…… 35
5　言語活用科目［初めての外国語］…… 37
6　教職課程科目 …… 38
7　学芸員課程科目 …… 43
8　司書課程科目 …… 45
9　コンピュータ資格科目 …… 47
10　会計教育科目 …… 49
開放科目・単位互換科目…… 53
1　他学部・他学科開放科目
2　研究科開放科目
3　愛知学長懇話会単位互換科目
4　放送大学単位互換科目
カリキュラムと卒業要件…… 57
文学部カリキュラムと卒業要件…… 58
教育学部カリキュラムと卒業要件…… 71
人間情報学部カリキュラムと卒業要件…… 86
心理学部カリキュラムと卒業要件…… 107
創造表現学部カリキュラムと卒業要件…… 125
建築学部カリキュラムと卒業要件…… 143
健康医療科学部カリキュラムと卒業要件…… 158
食健康科学部カリキュラムと卒業要件…… 207
福祉貢献学部カリキュラムと卒業要件…… 232
福祉貢献学部で取得できる資格…… 246
交流文化学部カリキュラムと卒業要件…… 259
ビジネス学部カリキュラムと卒業要件…… 280
グローバル・コミュニケーション学部カリキュラムと卒業要件…… 299

履修にあたって

AICHI SHUKUTOKU UNIVERSITY

1 学生部の事務取扱い時間

学生部の事務取扱い時間は、下記のとおりである。時間外は取扱わない。

期　間	事務取扱い時間	証明書自動発行機稼動時間
授業日	9：00～18：30	9：00～18：30
授業日以外	9：00～17：00	9：00～17：00

ただし、土（補講日・集中授業を含む）・日・祝日および夏季・冬季休業期間は取扱わない。

2 掲示・連絡

学生への情報は、CampusSquareおよび掲示によって通知する。**緊急の情報もあるので、必ず情報を確認する**。情報の確認を怠ったことによる不利益は各自の責任とする。学生個人への授業に関する連絡は、CampusSquareで行われる。呼び出しがあった場合には早急に関係部署に連絡を取らなければならない。

3 問い合わせ

電話・メールによる各種問い合わせ（行事予定・休講・授業・試験・成績等）には対応できない。CampusSquareで確認するか、必要がある場合は、原則として関係事務室窓口に本人が出向き直接問い合わせる。

ただし、本人が感染症にかかり出校停止と判断されている場合は、この限りではない。

4 ガイダンス

新学期にあたり、学生の学習をサポートするために対面または遠隔による各種ガイダンスを実施している。

ガイダンスでは、学修計画の立て方、カリキュラム内容、資格取得上の注意、履修登録の方法等について、各担当者から詳細な説明がある。各種ガイダンスでの説明・注意事項に従った履修登録が必要となるので、自身が対象となるガイダンスは必ず出席または確認しなければならない。

ガイダンスの詳細な日程等は、CampusSquareで確認する（新年度ガイダンスの日程は毎年1月頃に掲載予定）。

5 進　　級

本学では、原則として修得単位数に関わらず、入学してから4年次まで順次進級する（休学の場合も同様）。ただし、卒業に必要な単位を満たしていなければ卒業が延期され、4年次留年となる。在学年数は、8年（休学期間は算入しない）を超えることはできない。編入学した学生の在学年数は、規程で定める在学すべき年数の2倍に相当する年数を超えることはできない。

6 アドバイザー

本学では、各クラスごとあるいは、ゼミ（基礎演習、専門演習など）ごとにアドバイザーが決められている。学修指導、生活相談等にあたっているので、遠慮なく相談してほしい。詳細については『GUIDEPOST』のアドバイザーのページを参照する。なお、自身のアドバイザーはCampusSquareの学生カルテでも確認することができる。

7 教員との連絡

大学の教員と連絡をとりたい場合は、次のような方法がある。

①授業の前後に教室で直接伝える。

②研究室を訪ねる：専任教員は学内に研究室があるので、オフィスアワーの時間に訪ねる。
研究室は『GUIDEPOST』の研究室一覧のページで参照する。一覧にない教員（非常勤講師）の場合は①③の方法をとる。
オフィスアワーはCampusSquareのダウンロード（マニュアル等）で確認する。

③メールを送る：専任教員・非常勤講師ともに本学用のメールアドレスを持っている。
【連絡先の検索方法】
大学HP下部またはCampusSquareのリンクにある「Webメール（Office365）」からログインする。
アプリOutlookの画面で連絡先を検索する。
教員名はCampusSquareで表示される授業担当者名で検索すること。
（ログインには大学のメールアドレス、学内LANアカウントのパスワードが必要。）
※ただし、これ以外のメールアドレスを利用している教員もいるので注意する。
※メールを利用するかどうかは教員によって異なり、返信がない可能性がある。

8 学籍の異動（休学・復学・退学）

学則の規定により、やむを得ない事情がある場合は休学や退学を願い出ることができる。休学期間が満了した場合は、手続き無く復学となる。手続きについては、詳細を『GUIDEPOST』の学籍のページやホームページで確認したうえで、事前にアドバイザーや保証人と相談してすすめる。不明な点は学生事務室・教学事務室で確認する。

また、履修登録についての質問は、教務事務室・教学事務室で確認する。

9 卒業延期制度

学部４年生で、卒業要件を満たしているが、就職活動・国家試験・資格取得・副専攻プログラム修了等のため引き続き在学を希望する場合、卒業を延期し、在学を最長１年（半年も可）まで延長することができる。

詳細は学生事務室・教学事務室に問い合わせる。

授業科目の種類と単位

AICHI SHUKUTOKU UNIVERSITY

1 授業科目の種類

（1）開講科目

- **専門教育科目**
- **違いを共に生きる科目**
- **AI・データサイエンス科目**
- **アクティブラーニング科目**
- **言語活用科目（英語、初めての外国語）**
- **教職課程科目**
- **学芸員課程科目**
- **司書課程科目**
- **コンピュータ資格科目**
- **会計教育科目**
- **他学部・他学科開放科目**
- **研究科開放科目**

他大学等で開講している科目で、学内で履修申込手続きのできるものは、下記のとおりである。

- **愛知学長懇話会単位互換科目**
- **放送大学単位互換科目**

（2）必修科目と選択科目と主要授業科目

卒業までに必ず単位を修得しなければならない科目を**必修科目**、その他複数科目の中から所定の単位を修得しなければならない科目を**選択必修科目**という。

適宜自由に選択して単位を修得する科目を、**選択科目**という。

学部のディプロマ・ポリシー（DP）で定めた学位を取得するに当たり、その学位のレベルと分野に応じて達成すべき能力を育成するために必要な科目群を**主要授業科目**という。当該科目が主要授業科目にあたるかどうかはシラバスに記載されている。

（3）通年科目と半期科目と1/4期科目

開講期間によって科目を区別することがあり、その場合、１年を通じて受講し、所定の単位を修得する科目を**通年科目**といい、半期で受講が完了する科目を**半期科目**、1/4期で受講が完了する科目を**1/4期科目**という。

一定の期間を設けて集中的に行う**集中授業**もある。

2 単　位

（1）単　位

45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とした授業科目を１単位とし、授業の方法に応じ、教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、定められた基準により単位数を計算する。

ひとつの授業科目を履修し、定められた回数以上の出席を確保し、試験等により評価を受け合格することで、単位が与えられる。

大学を卒業するためには、各学科・専攻ごとに定めている単位数以上を修得すること。

また、資格の取得には必要な単位数が定められており、その条件を満たさなければならない。

（2）単位計算の基準

本学では、講義科目、演習科目については15時間の授業をもって１単位とし、実験・実習・実技については、30時間の授業をもって１単位とする。１時限の授業時間は２時間（本学ではこれを１コマと呼び正味90分）として計算する。

ただし、学則第30条に「授業科目の単位数は、１単位の授業科目を45時間の学修を必要とする」とあり、授業時間以外にも各自の学修時間が要求されている。

具体的には下記のとおりである。

授業の形態	単位数
講義・演習	半期科目は２単位。 ただし、科目によっては単位数の異なるものがある。
実験・実習・実技	半期科目は１単位。１週間に２コマ連続して行われる半期科目は２単位。 ただし、科目によっては単位数の異なるものがある。

卒業論文・卒業研究・卒業制作等の授業科目については、これらの学修の成果を評価して単位を授与することが適切と認められる場合には、これらに必要な学修等を考慮し、単位数を定める。

3 カリキュラムマップおよびナンバリング

カリキュラムマップとは、学部・学科の教育課程（全学共通履修科目を含む）を体系的に示したイメージ図のことを指し、すべての科目が示されている。ディプロマ・ポリシーとの関連性がわかるように表現されており、カリキュラムの順次性の把握が容易になり、計画的な履修が可能になる。新入生配付資料の中にA3サイズでカラー印刷されたカリキュラムマップが同封されているので参照する。

また、ナンバリングとは、各科目に対して授業内容やそのレベルに応じて特定の数字（4桁）が付与されており、これによりカリキュラムの順次性の把握が容易になる。本学では以下のとおり、4桁の番号で意味づけを行っている。

授業レベル……基礎的内容，語学等におけるBasic＝1
　　中級的内容，語学等におけるIntermediate＝2
　　発展的内容，語学等におけるAdvanced＝3
中分類……学問領域・学問分野（0 から9）
小分類……授業分野・授業形態等（中分類の下位カテゴリに相当するもの）（0～9）
使用言語……日本語での授業＝ 0
　　英語での授業＝ 1
　　日本語と英語のバイリンガル ＝ 2
　　その他言語 ＝ 3

1521　　**Basic Pronunciation Training**

（↑ナンバリングの4桁）　（↑科目名）

授　業

AICHI SHUKUTOKU UNIVERSITY

1 授業時間

年間を通じて、次のとおりとする。

第１限　9：30～11：00	第４限　15：10～16：40
第２限　11：10～12：40	第５限　16：50～18：20
第３限　13：30～15：00	第６限　18：30～20：00

グローバル・コミュニケーション学部の一部の専門教育科目のみ60分授業を行う（以下のとおり）。

第G１限　9：30～10：30
第G２限　10：40～11：40
第G３限　11：50～12：50
第G４限　13：50～14：50

2 授業形態

授業には、対面により行われる「面接授業」とオンデマンド（遠隔）により行われる「M科目」の２種類がある。

※オンデマンド授業では、授業担当者がインターネット配信した資料にもとづいて、学生が各自任意の時間で学習をすすめ取り組んだ課題を提出する。

（１）面接授業

対面での授業回数が全授業回数の半数を超える授業をいう。面接授業においても、全授業回数の半数を超えない範囲でオンデマンド授業が行われることがある。なお、授業は、原則として、面接授業で行われる。

（２）M科目（遠隔授業科目）

オンデマンドによる授業回数が全授業回数の半数を超える授業をいう。「○○［M］」のように、科目名の後ろに「［M］」と記載されている。M科目（遠隔授業科目）は、卒業要件単位に含めることができる単位数に上限が定められているので、遠隔授業科目により修得した単位数を各自で把握し、在学期間を通して60単位を超えることのないよう注意する。

【注意事項】

学部における卒業要件単位数に含めることができる遠隔授業の単位数の上限は60単位である。（大学学則第30条２）

単位互換制度や入学前既修得単位認定制度などにより、他大学で修得した授業科目の単位を本学で修得したとみなす場合、当該科目が「遠隔授業」で実施されている科目であれば、その単位数も上記上限に含まれる。

3 遠隔授業受講に際しての注意事項

（1）オンデマンド授業について

学内ポータルサイト（CampusSquare）やMicrosoft Teams、ZOOM、YouTube等を利用し、教員が提示した資料に基づいて学生が各自で学習をすすめる授業である。授業の資料がCampusSquareやMicrosoft Teamsを通じてインターネット配信されるため、それを視聴した上で課題に取り組み、授業担当者に提出することによって学習をすすめる。質疑応答や個別指導もオンラインで行われる。資料の配信日については、担当教員からの指示を受ける。

遠隔で実施する授業については、全て「オンデマンド授業」の形態で実施する。

（2）遠隔授業を実施する授業の確認方法について

シラバスの「授業計画」欄にオンデマンド授業を行う授業回と使用するサービス（Microsoft Teams、ZOOM、CampusSquare、メール等）についての記載があるので、各自で確認をする。

（3）受講のために必要な機器について

遠隔授業を受講するためには、PCやタブレット端末、スマートフォンなどインターネットに接続ができる機器が必要である。なお、サポートの終了したOSは使用しない。

また、スマートフォンで閲覧をする場合、画面が小さく講義資料や動画が見づらい可能性がある。

（4）Microsoft Teamsについて

遠隔授業でMicrosoft Teamsを使用する場合は、CampusSquareの「授業掲示板」を使用し、授業担当者から履修者に対してチームへの招待コードがお知らせされるので、各自でチームに参加する。

なお、Microsoft Teamsへのログインは、大学のメールアドレス（×××@stu.aasa.ac.jp）を使用する。
操作の詳細については、CampusSquareのダウンロード（マニュアル等）＞ダウンロードセンター＞
マニュアル＞学生用マニュアル　に格納されている各種マニュアルを参照する。

（5）授業に関するお知らせについて

通常、授業に関するお知らせは、CampusSquareの掲示、Office365の大学ドメインのメールやMicrosoft Teamsを使用して行う。情報の確認を怠ったことによる不利益は各自の責任とするので、見落とすことがないよう、定期的にCampusSquareやメール、Microsoft Teamsを確認する。

（6）遠隔授業を受講する際の注意について

- 遠隔授業を受講する際は、自宅等の周りの人々に迷惑とならず、落ち着いて受講できる環境を確保する。
- 遠隔授業に参加できた場合でも、履修登録されていない科目については、単位を修得することができない。必ず一次登録確認日、追加登録確認日に履修登録の結果を確認する。
- 授業や配付資料へのアクセスのために与えられたアクセス先URL、学内LANアカウントなどのID、パスワードなどを他者に見せたり教えたりしない。
- 著作権等保護のため、授業で配布された音声ファイル、動画・画像ファイル、教材、資料、あるいは他の受講者や授業担当者の動画・画像や音声などを許可なく他者に送付したり、SNSや掲示板などインターネット上にアップロードしたりしない。
- 他の受講者や授業担当者について、SNSや掲示板などで誹謗中傷したり誤った情報を発信しない。

（7）関連資料アップロード先について

CampusSquare＞ダウンロード（マニュアル等）＞ダウンロードセンター

（8）Microsoft365の問い合わせ先について

CampusSquareのリンクにある「Microsoft365 Q&Aサイト」

4 休講と補講等

（1）休　　講

行事、天候、交通事情あるいは各科目の授業担当者のやむを得ない理由により、授業を休講にすることがある。休講情報はCampusSquareで確認する。当日休講になる場合もあるので、必ずCampusSquareで確認する。

授業開始後30分が経過しても授業担当者から何の連絡もなく、授業がなされない場合は、教務事務室・教学事務室に問い合わせる。

（2）補　　講

授業担当者の都合等による休講のため、規定の授業時間数に満たない科目については、補講を行う。その場合は、授業担当者より授業日、時間、教室等の指示がある。補講情報はCampusSquareで確認できる。

なお、規定の授業時間数を満たしていても、授業内容および進度等を考慮して、授業担当者が臨時に補講を行うことがある。

（3）暴風警報・地震情報発表等緊急時の授業（名古屋市営交通機関のストライキを含む）

①愛知県全域または愛知県西部の尾張西部・尾張東部・西三河北西部・西三河南部・知多地域のうちのいずれかの地域に暴風警報が発表された場合および名古屋市営交通機関（地下鉄・バス）が停止した場合、原則として下記の措置をとる。

ただし、下記にかかわらず、気象状況・交通事情等を勘案し、状況に応じて別の措置をとる場合があるので、必ずホームページ・CampusSquareにて確認する。

＜内規より抜粋＞

発　表　状　況	措　　置
（1）午前7時以前に解除	第1限目より平常通り
（2）午前7時現在発表中	第1限目及び第2限目の授業を中止 第G1限目から第G3限目の授業を中止
（3）午前10時現在発表中	第3限目及び第4限目の授業を中止 第G4限目の授業を中止
（4）午後2時現在発表中	第5限目以降の授業を中止
（5）授業開始時以後に発表	発表時において登校していない学生については、（1）～（4）の例による。 登校している学生については、学生の安全及び交通事情を勘案し、状況に応じて授業等の教育活動を打ち切り、帰宅又は避難させる。

②南海トラフ地震臨時情報が発表された場合、授業等の実施については大学からの指示に従う。

なお、試験については上記の取り扱いに準じて変更し、変更された試験の実施要項は後日公示する。

（4）教室変更

履修者数の増減または授業で使用する教材機器等の事情により、授業教室を変更することがある。その場合はCampusSquareによって通知する。

教室変更の内容については、臨時のものと常時のものがあるため注意する。

5 授業の出欠席

（1）授業の出欠席の取扱いについては、授業担当者に一任されている。本学には忌引や課外活動等のために欠席する場合の**公欠制度はない**。欠席する場合は、直接授業担当者に申し出て指示に従う。

（2）「学校保健安全法施行規則」に定める感染症に罹患した場合は、保健管理室に申し出て指示に従う。

履修登録

AICHI SHUKUTOKU UNIVERSITY

履修登録は、指定の期間内に各自が履修したい科目を決定し、自らの責任において登録するものである。

履修登録の手続きをしなかったり誤ったりした場合、その科目の履修は認められず、たとえ授業担当者から個別に口頭で履修を許可され、その授業に出席し試験を受けても、単位は認定されないので注意すること。

1 履修計画

卒業に必要な単位数は、入学年度、学科・専攻により異なるので注意する。

また、半期に履修できる総単位数は各学科等で定められているため「5　履修登録単位数の上限」で確認する。

履修計画を立てるにあたっては、年度当初のガイダンスの内容、履修要覧、時間割表、CampusSquareの「シラバス」、CampusSquareのリンク「履修登録の注意事項」を必ず確認し、間違いのないように履修登録をする。

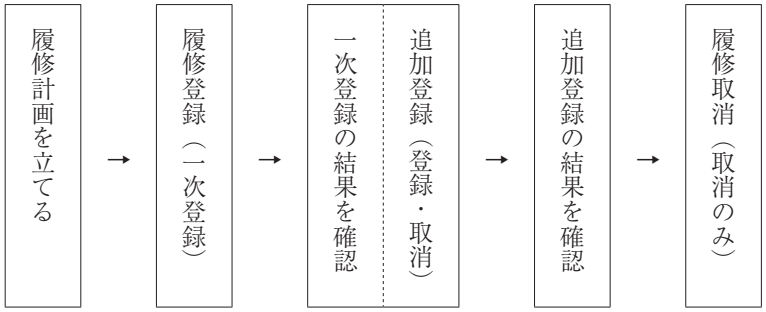
シラバスは、その授業科目の授業内容や進め方について、詳細に記したものである。

2 時間割の作成方法

（1）最初に必修科目の開講曜日時限を「時間割表」で確認する。
（2）次に選択必修科目の開講曜日時限を「時間割表」で確認する。
（3）空いている曜日時限に、選択科目の中から履修を希望する科目を選ぶ。
（4）「時間割表」から曜日時限・担当者が変更になっている場合もあるため、CampusSquareのリンク「履修登録の注意事項」で確認する。
（5）「時間割表」の開講年組の欄には、各科目の開講学年・指定クラス等の条件が記載されているので注意する。クラス指定のある科目は、各自該当するクラスで履修登録を行う（他のクラスでの履修は認めない）。
（6）Web履修登録の指定の日時までに登録する科目を決め、Web履修登録を行うこと。

3 履修登録の流れ

指定の期間内に、学外のPC、タブレット、スマートフォンからWebにより履修登録および確認を行う。
操作方法については「Web履修登録操作マニュアル」を参照すること。
日程の詳細は、時間割表で確認する。



（1）「一次登録・追加登録の結果を確認」では、①抽選科目の当落結果　②クラス分け科目の担当者と教室も確認する。
（2）追加登録で抽選科目が落選しても、別の科目を登録する期間はない。
（3）各行事後にはCampusSquareの「履修（履修登録・登録状況照会）」で各自の登録状況を確認し、印刷したものを保管（登録画面を画像データで保存する場合は、必ず学籍番号や氏名を見えるように保存）しておく。
（4）履修の意志がない科目は「追加登録」期間あるいは「履修取消」期間に必ず取り消す。
（5）「追加登録」期間あるいは「履修取消」期間に訂正を行わなかった場合、いかなる理由があっても履修登録に関する変更・訂正は一切受付けられないので注意する。
（6）履修登録結果に疑問のある場合は、速やかに教務事務室・教学事務室に問い合わせる。必要があれば履修登録時の「登録画面」を印刷したもの、および「履修（履修登録・登録状況照会）」を印刷して持参する。

テキスト購入

取扱書店、購入方法、テキスト名、価格、販売期間等詳細についてはCampusSquareのリンクにある「テキスト一覧」で確認し、各自で購入する。テキストに関する情報は随時更新されるため、必ずCampusSquareを確認すること。なお、『シラバス』に載っているテキストは予定であり、変更になることもある。「テキスト一覧」にないテキストについては、授業担当者に確認する。

テキストは、原則として最初の授業に持参する。ただし、受取方法が宅配の場合は、最初の授業に間に合わないことがあるが、その点については授業担当者に連絡済みである。また、**抽選科目の追加登録などで履修登録が確定していない場合は、履修登録確定後にテキストを購入する。**

4 履修登録上の注意事項

（1）履修登録は前期・後期それぞれ行う。ただし、通年科目は前期に登録する。
後期に通年科目を登録・取り消しをすることはできない。
（2）**抽選科目**
・抽選科目とは、「時間割表」の抽選定員の欄に記載がある科目である。
・履修希望者が定員を上回った場合は、抽選により履修者を決定する。
・抽選科目は、履修したい科目を慎重に選んで登録する。
・**抽選科目の当落結果は、確認日以降にCampusSquareの「履修（履修登録・登録状況照会）」で確認する。**
登録した科目が記載されていれば当選、記載されていなければ落選である。

・**抽選科目は空席がある科目に限り追加登録することができる。**各科目の空席状況はCampusSquareのリンク「履修登録の注意事項」で発表する。

（3）**指定クラス**

同じ科目が複数の時限で開講されている場合、学科・学年・クラスが指定されていれば「時間割表」の学科・学年・クラスの指示に従って登録し、指定されていなければ、そのうち1時限を選択して登録する。

前年度までの必修科目を再履修する際、再履修者用クラスが指定されている場合がある。「時間割表」の開講年組欄に「再履修者専用」の表示がある科目はその曜日時限で履修する。

（4）**履修できない科目**

▷ 同学年の他クラスの科目
▷ 上級年次対象の科目
▷ 他学科・他専攻の科目（他学部・他学科開放科目を除く）
▷ 同一科目
▷ 同一曜日時限科目
▷ 既に単位を修得した科目

（5）上級年次の学生は、下級年次対象科目を履修することができる。

（6）**集中授業**は、日程が1日でも重なると複数の科目を履修登録することができない。

4年生への注意事項

4年生は、原則として後期の集中授業で開講される科目を履修することはできない（当該学期の授業終了日までに授業が終了するものは除く）。

卒業不認定のため、その年度の9月卒業を予定している学生は、前期の集中授業で開講される科目についても履修することができない（当該学期の授業終了日までに授業が終了するものは除く）。

ただし、通常授業で卒業要件を満たすことが困難であるため、あるいは資格取得のために履修が必要な場合は、事前に教務事務室・教学事務室に申し出る。この場合、該当する科目については、成績評価質問票の提出や追試験・再試験を受験することができないため注意する。

（7）前提科目の単位を修得していないと履修できない科目があるので、「カリキュラム表」や「履修上の注意」をよく読み注意する。

（8）**キャンパス間の移動**

所属キャンパス以外で開講される科目を受講する場合は、移動の時間を見込んで無理のない履修計画を立てる。

授業日に限り連絡バスが運行されるので、両キャンパス間の移動に利用することができる。利用に関することは、『GUIDEPOST』の通学のページを参照する。

（9）他学部・他学科・他専攻の開放科目は一部の科目を除き一次登録から登録できる。

（10）**一次登録の確定時点で、開講最少履修者数に満たない授業科目は、閉講することがある。**

開講最少履修者数（目安）は各カリキュラム表に記載のとおり。

（11）病気等やむを得ない理由により、所定の期間に履修登録が不可能な場合は、必ず事前に教務事務室・教学事務室へ相談し、指示を受ける。

（12）CampusSquareのお知らせや各種掲示等の確認を怠ったことによる不利益は各自の責任とする。

5 履修登録単位数の上限

各学科等における半期に履修登録できる単位数は下表のとおり上限が設けられている。この単位数を超えて履修登録することはできない。

■2025年度入学者

学部・学科・専攻			履修登録の上限単位数							
			1年次		2年次		3年次		4年次	
			前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
文学部	国文学科		24	24	24	24	25	24	24	24
教育学部	教育学科		24	24	24	24	24	25	24	24
人間情報学部	人間情報学科	感性工学専攻	24	24	24	24	24	24	24	24
		データサイエンス専攻	24	24	24	24	24	24	24	24
心理学部	心理学科		24	24	24	24	24	24	24	24
創造表現学部	創造表現学科	創作表現専攻	24	24	24	24	24	25	24	24
		メディアプロデュース専攻	24	24	24	24	24	25	24	24
建築学部	建築学科	建築・まちづくり専攻	24	24	24	24	25	24	24	24
		住居・インテリアデザイン専攻	24	24	24	24	25	24	24	24
健康医療科学部	医療貢献学科	言語聴覚学専攻	25	24	24	25	25	24	25	24
		視覚科学専攻	24	25	24	25	24	25	24	25
		理学療法学専攻	25	24	25	24	24	24	24	24
		臨床検査学専攻	24	24	24	24	24	24	24	24
	スポーツ・健康医科学科	スポーツ・健康科学専攻	24	24	24	24	24	24	24	24
		救急救命学専攻	25	24	24	24	24	24	24	24
食健康科学部	健康栄養学科		25	24	24	24	24	24	24	24
	食創造科学科		24	24	24	24	24	24	24	24
福祉貢献学部	福祉貢献学科	社会福祉専攻	24	24	24	24	24	24	24	24
		子ども福祉専攻	24	24	24	24	24	24	24	24
交流文化学部	交流文化学科	ランゲージ専攻	25	24	24	25	24	24	24	24
		国際交流・観光専攻	25	24	24	25	24	24	24	24
ビジネス学部	ビジネス学科		24	24	24	24	24	24	24	24
グローバル・コミュニケーション学部	グローバル・コミュニケーション学科		24	24	24	24	24	24	24	24

（注１）以下の科目は**上限単位数から除外**する。

①卒業要件に算入されない科目　②愛知学長懇話会単位互換科目　③放送大学単位互換科目

④教育学科専門教育科目「海外セミナーⅠ」「海外セミナーⅡ」

⑤人間情報学科専門教育科目「海外フィールドスタディ」

⑥救急救命学専攻専門教育科目「救急救命特別実習（海外）」

⑦交流文化学科専門教育科目「英語海外研修」「中国語海外研修」「フィールドスタディ言語１（アメリカ）」「フィールドスタディ言語２（中国）」「フィールドスタディ言語３（韓国）」「フィールドスタディ交流１（歴史と文化）」「フィールドスタディ交流２（教育と開発）」「フィールドスタディ観光２（観光産業）」「フィールドスタディ観光８（観光政策）」

⑧ビジネス学科専門教育科目「OverseasICP（アジア・欧米）」

⑨国際交流センター開設科目「英語海外セミナーⅠ［M］」「英語海外セミナーⅡ」「英語海外セミナーⅢ」「中国語海外セミナーⅠ」「韓国・朝鮮語海外セミナーⅠ」「海外アクティブラーニング研修」「日本語非母語話者のためのアカデミック・ライティングⅠ・Ⅱ」

⑩キャリアセンター開設科目「インターンシップ・就業実践」「海外インターンシップ・就業実践」

⑪（教育学科以外の学生）教育学科専門教育科目「教育原理」「教育制度」「教育心理学」「発達心理学」「特別支援と児童生徒理解」「総合的な学習の時間の指導法」「教育とICT活用」「教育相談Ⅰ・Ⅱ」

（注２）成績優秀者（一次登録・追加登録の時点において最新の学期のGPAが2.5ポイント以上ある学生）については、半期につき４単位までの上限緩和が認められる。なお、直近の学期を休学していた場合は、上限緩和は認められない。
（注３）復学者の上限単位数は、復学年次ではなく、在学期間を考慮して設定する。
（注４）在学年数４年を超えた者は、所属学部（学科・専攻）を問わず上限単位数を設定しない。
（注５）卒業延期制度許可者は、原則として半期10単位の範囲内で授業科目を履修することができる。
（注６）通年科目はその単位数を２分割し、それぞれ半期科目に準ずるものとして換算する。
詳細については、教務事務室・教学事務室に確認する。

この制度は、授業の予習・復習等に充てる時間を確保し、十分な学修効果をあげられるよう、無理のない履修計画を立てるために設けるものである。

大学の教育課程は単位制を基本としており、科目ごとに単位が設定されている。１単位を修得するためには、教室等で授業を受講する時間と、**授業時間外において予習・復習・課題解決等を行う自主学修時間とを合計して、45時間の学修を要する。**本学においては、原則として15時間（45分間をもって１時間と換算する）の授業時間をもって１単位と計算する。したがって、１回90分の講義・演習等の授業は半期で通例２単位となる。

この考え方によれば、半期に履修可能な授業科目数は10科目（20単位）程度となるが、本学では、各学部・学科等の教育課程編成方針、授業方法および教育効果等の特性を考慮して定めている。

6 履修中止

履修中の科目について、取消期間を過ぎてから、病気等やむを得ない理由により学期の途中で履修を継続することが困難となった場合、以下のとおり履修中止を申請することができる。

1．申請できる事由

事　由	添付書類
Ⅰ 傷病により長期入院、長期加療が必要となった場合※	診断書（コピー不可）
Ⅱ 次の①～⑨の科目について、履修登録時に開講（実習）日が未定または開講（実習）日が変更されたため、予め履修登録した授業科目の開講日と重複した場合	
① 海外研修科目	海外研修募集要項等、日程が確認できるもの
② インターンシップ科目（単位認定科目に限る）	インターンシップ実施要項等、日程が確認できるもの
③ 集中授業科目	－
④ 学外実習 （心理学部・健康医療科学部・食健康科学部・福祉貢献学部）	－
⑤ 教育実習	実習の日程の確認できる書類
⑥ 介護等体験	実習の日程の確認できる書類
⑦ 図書館実習	実習の日程の確認できる書類
⑧ 博物館実習	実習の日程の確認できる書類
⑨ 学校教育体験	－
Ⅲ 図書館実習先・インターンシップ受け入れ先・学校体験先の確保が困難な場合	－
Ⅳ 学部長・研究科長等が特に履修中止の事由に値すると認めた場合	－

※　集中授業の履修について

①　傷病により加療が必要となった場合は、開講形態と診断書により判断する。

②　家族の忌引や危篤により欠席しなければならない場合、開講形態と当該者の火葬・埋葬許可書等又は診断書により判断する。

2．申請手続きおよび提出期間

①　履修を中止したい事由が発生した場合、速やかに履修中止申請書に必要な書類を添付し、教務事務室・教学事務室へ提出する。提出期間は当該学期の履修登録期間終了後から授業終了日（集中授業は各授業科目の終了日）までとする。

②　申請手続きは原則として学生本人が行う。ただし、Ⅰの事由の場合に限り、代理人の申請も認める。
やむを得ない事情により提出期間内に提出できない場合は、あらかじめ教務事務室・教学事務室まで相談する。

所属学部の学部長の承認を得て履修中止が認められた場合、当該科目は成績評価対象外（GPA算出対象外）となり、次学期以降再度履修登録することができる。

試験・成績評価

AICHI SHUKUTOKU UNIVERSITY

1 試験の実施

定期試験は、各学期15回の授業の後、学年暦に定められた定期試験期間に実施する。また、定期試験期間における不測の事態（気象警報や公共交通機関の運行停止などによる全学的な休校措置）が発生した場合は、定期試験予備日に実施する。

試験の開始時間は、原則として通常の授業開始時間とする。試験時間は通常60分だが、科目によっては60分を超えて実施される場合がある。

授業担当者の判断により、課題を課し、そのレポートをもって試験に代えることがある。なお、授業の中で実施される試験については、授業担当者の指示に従うこと。

2 受験資格

授業担当者が実授業時数の３分の１を超えて欠席したと認めた場合は、受験資格を喪失する（「愛知淑徳大学履修及び試験規程」第12条参照）。

3 受験上の注意

学生証が無ければ、受験できない。紛失等により再発行が必要な場合は、学生事務室・教学事務室にて再発行の申請手続きを行うこと。申請から引渡しまで１週間程度を要するため、試験日に間に合うように、必ず学生証の有無を確認しておくこと。

（１）試験当日は、交通機関の混雑、遅延等により遅刻することのないよう、早めに登校する。

（２）定期試験は、指定された日時および教室で受験する。通常教室と異なる場合があるので定期試験時間割を確認する。
試験時間割は、定期試験期間の２週間前よりCampusSquareで発表する。**日時・場所を間違えたことを理由に追試験を受験することはできない。**

（３）試験室では所持品はすべて鞄などに入れ、通路側でない足もとに置く。机の中には入れない。

（４）座席に指定がある場合は、指定された席に着席する。座席の指定が無い場合は、監督者の指示に従う。

（５）受験の際は、学生証を机上の通路側に置き、監督者の確認を受けなければならない。

（６）携帯電話やウェアラブル端末（時計機能のあるものも含む）の使用を禁止する。

（７）試験開始後20分以上遅刻した者は、試験室に入室できない。また、試験開始後30分以内は退室できない。

（８）受験した学生は、必ず答案を提出しなければならない。

（９）不正行為はもとより、文房具の貸借など紛らわしい行為を一切してはならない。**不正行為を行った者とその援助者は、当該科目を失格とし、「学生の懲戒処分等に関する規程」による懲戒処分を行う。**

4 追試験

追試験は、定期試験を病気その他正当と認められる事由で欠席した者に対して行われる試験である。追試験の受験を希望する者は指定された申込期間中に申請が必要である。詳細は時間割表で確認する。

（注）追試験を欠席した者に対する再度の追試験は行わない（「愛知淑徳大学履修及び試験規程」第14条参照）。

5 レポート提出上の注意

（1）提出期限は厳守しなければならない。

（2）レポートは、原則として授業担当者に提出する。指定のあった場合は、下記の場所に設置されているレポートボックスに提出する。レポートは各自コピーをとるなどし、手元に控を保管しておくこと。レポートボックスは原則として締切日の1週間前に設置されるので、開室時間内に該当のボックスに提出（下表参照）すること。

レポートの入れ間違いに注意する（レポートボックスを間違えない。違うレポートボックスに入れた場合は、提出したことにならない）。

（3）レポートのタイトル・内容・締切等については、授業担当者に確認する。

（4）レポートに表紙をつけるよう授業担当者から指示があった場合は、所定の表紙をつけ、必ずホチキス留めをしてレポートボックスに提出すること。

表紙は、レポートボックス設置場所に用意されている。

キャンパス	レポートボックス設置場所	開室時間〔月～金〕	問合せ先
長久手キャンパス	3号棟1階 レポートボックス室	授業日：9：00～18：30 授業日以外：9：00～17：00	教務事務室
星が丘キャンパス	1号館2階 印刷室2	授業日：9：00～18：30 授業日以外：9：00～17：00	教学事務室

剽窃（ひょうせつ）・盗用について

レポートを作成する際に、書籍、ウェブサイトなどで入手した他人の資料や見解をあたかも自分のものであるかのように装ったものは、適切なレポートでないだけではなく、剽窃と呼ばれる犯罪行為にあたる。このような不正行為を行った場合は、当該科目を失格とし、「学生の懲戒処分等に関する規程」により懲戒等の処分の対象となる。

また、他人にレポートを代筆させる行為や他人のレポートを代筆する行為はいずれも不正行為とみなし、懲戒等の処分の対象となる。

ChatGPT等（生成系AI）の利用について

近年、ChatGPT等をはじめとする生成系人工知能（AI）技術は目覚ましい発展をとげ、社会に大きな影響を与えはじめています。その活用には大きなメリットがあると同時に、教育においては慎重な判断が必要と考えられます。安易な生成系AIの利用は、剽窃などの不正行為につながる可能性を生じさせます。本学では、現時点における学生の利用について、以下の通りとします。

レポートや論文、課題への取り組みにおいて、生成系AIを利用して作成することを原則として禁止する。ただし、授業担当者の指示により使用する場合、その使用範囲については授業担当教員の指示に従うこと。

6 再試験

再試験は4年生を対象とし、卒業年次の履修科目（当該学期のみ）に限り、前後期**各4単位**の範囲で不合格（成績評価F）科目について受験することができる。**成績評価「失」「欠」「否」は再試験の対象とならない**。再試験の成績評価は、C（合格）またはF（不合格）とする。

なお、集中授業等で再試験受験願提出期間までに成績評価が出ない科目も、再試験の対象にならない。

再試験の受験を希望する者は、指定された申込期間中に申請が必要である。詳細は時間割表で確認する。

（注） 再試験を欠席した者に対する追試験は行わない。再試験の結果、不合格となった者に対する再度の再試験は行わない（「愛知淑徳大学履修及び試験規程」第15条参照）。

7 成績評価

成績は、授業担当者が定期試験・レポート・小テスト・平常の学修状況・実技実習等の評価方法等により、学修目標に対する到達結果をもって評価する。各科目の具体的な成績評価基準については、『シラバス』を参照する。

成績評価	評価点 (Grade Point)	単位	基準	説明
A+	4	認定	90%以上	到達目標に対して特に優秀な結果を残したと授業担当者が判断したもの
A	3		80%～89%	到達目標に対して優秀な結果を残したと授業担当者が判断したもの
B	2		70%～79%	到達目標をほぼ充足する結果を残したと授業担当者が判断したもの
C	1		60%～69%	到達目標に対して必要最低限については充足できたと授業担当者が判断したもの
合	－		－	合/否により成績が評価される授業において到達目標を達成したと授業担当者が判断したもの
認	－		－	到達目標を達成したと授業担当者が判断したもの（読み替えによる認定のみ）
F	0	不認定	59%以下	到達目標に到達できていないと授業担当者が判断したもの
失	0		－	失格：受験資格喪失
欠	0		－	欠席：定期試験欠席・定期試験に代わる課題の不提出
否	－		－	合/否により成績が評価される授業において到達目標を達成していないと授業担当者が判断したもの
W	－	成績評価対象外	－	履修中止：学部長の承認により、履修の取消しが行われたもの

（注） 休学、退学、除籍、長期の停学に伴い、学期途中で履修の継続が不可能となった場合は、当該科目の単位を認定しない（履修情報を削除する）。

なお、各学部の成績評価基準については、本学ホームページを参照する。

8 GPA制度

成績評価の明確化および学生の学修意欲の向上を目的として、2006年度よりGPA（Grade Point Average）制度を導入している。GPAとは各成績評価に対して定められたポイントをもとに算出された、１単位当たりの成績の平均値のことである。

GPAは成績通知書および成績証明書に記載し、成績通知書には通算GPAに加え、各学期のGPAを記載する。GPAはこの他、学生一人ひとりに対し適切な学修指導を行うための資料や各種選考資料として利用する。

１．GPA算出方法

履修した各科目の成績を表す評価点（Grade Point）に、単位数を掛けたものを総合計し、該当科目の総単位数で割ることにより算出する。

$$GPA = \frac{〔(履修登録した科目の単位数) \times (その科目の評価点)〕の総和}{(履修登録した科目の単位数)の総和}$$

２．GPA算出対象外の科目（2025年度以降入学者）

・成績評価が「認」「合」「否」「W」の科目
・卒業要件に算入しない科目

9 成績発表

（1）成績はCampusSquareの「試験・成績」の「履修成績照会」から「画面に表示する」または「PDF出力」を選択して確認する。「PDF出力」を選択すると成績通知書を出力することができる（成績通知書の出力期限は、前期：成績発表日～12月31日、後期：成績発表日～6月30日）。ただし、正式な書類を希望する場合は、証明書発行機で成績証明書を購入する。

成績発表日時は、時間割表を確認する。成績発表日時点で未評価の科目については、成績が確定次第、CampusSquareの全学掲示板で通知される。また、保証人についても、別途学生と同時期に成績を通知する。再試験受験願・成績評価質問票は、所定の期間内に教務事務室・教学事務室の窓口に提出する。

（2）通年科目の成績は、後期に発表される。

10 成績評価に関する質問

成績評価に関して質問等がある場合は、所定の期間内に「成績評価質問票」を教務事務室・教学事務室に提出する。受付日時は、時間割表を確認する。

（1）「成績評価質問票」には、授業の出席、提出物、小テスト等の状況をできるだけ詳細に記入するとともに、質問内容を明確に記入する。

（2）成績評価に関する陳情は禁止されている。評価を上げてほしい等の要望になっている場合、提出は認められない。

（3）成績は学修目標の到達結果をもって評価される。F＝出席状況（欠席）による評価ではない。

（4）「成績評価質問票」は、教務事務室・教学事務室を経由して授業担当者に渡される。授業担当者からの回答が届き次第、CampusSquareにより連絡するので、学生証を呈示し教務事務室・教学事務室で受取る。

なお、授業担当者からの回答に質問等がある場合は、教務事務室・教学事務室に申し出ることができる。この場合の質問等については、学部教務委員会等が授業担当者からヒアリングをしたうえ回答する。

11 授業担当者に対する陳情等の禁止

成績評価に関して質問等がある場合は、必ず、前述の「成績評価に関する質問」に従って「成績評価質問票」を提出すること。本学では、成績発表後に、成績評価に関する質問を、学生が授業担当者に対して、直接、メールや電話等で行うことを禁止している。また、授業期間中、成績発表後などその時期に関わらず、学生が授業担当者に対して、陳情を行うことを禁止している。授業担当者は、学生からの以下のような陳情には、一切対応しない。禁止行為となっている陳情を繰り返し行う学生に対しては、学部教務委員会等による指導を行う。

<table>
<tr><th></th><th>具　体　例</th><th>授業期間中</th><th>成績発表後</th></tr>
<tr><td rowspan="2">質　問</td><td>・授業を〇回欠席したが、受験資格はあるか。
・小テストを受けなかったが、大丈夫か。</td><td>授業担当者に直接質問する。</td><td></td></tr>
<tr><td>・授業に全回出席したのに評価が「失」なのはなぜか。
・レポートを提出した（試験を受けた）のに評価が「欠」なのはなぜか。
・出席回数もレポートの完成度も友人とほぼ同じだと思うが、成績が異なるのはなぜか。</td><td></td><td>期間内に提出された「成績評価質問票」による質問のみ受け付ける。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">陳　情</td><td rowspan="2">・この授業の単位がないと卒業できない。
・就職先が決まっているので、この授業の単位が欲しい。
・追加でレポート課題を出してもらえれば提出するので、単位をください。</td><td colspan="2">時期を問わず陳情には一切対応しない</td></tr>
<tr><td>×</td><td>×</td></tr>
</table>

＜適切ではない質問の例＞

・授業に全回出席したのに評価が「F」なのはなぜか。

・レポートを期限内に提出したのに評価が「F」なのはなぜか。

【解説】

成績は学修目標に対する到達結果をもって評価される。特に以下の点に注意すること。

・授業に出席することによって「出席点」が得られることはない。

・レポートを期限内に提出したからといって、必ず単位が認定される訳ではない。

成績評価に関する質問をする際には、以上の点を踏まえ、自分が一定の評価に値する内容のレポート等を提出していたかを確認する。今後の学習に生かすために自分に何が足らなかったかを知りたい場合は、その旨を具体的に成績評価質問票に記入する。

12 卒業認定者の発表

卒業認定者は、3月中旬（9月卒業の場合は9月中旬）にCampusSquareで発表する。

学修機会を拡大する制度

AICHI SHUKUTOKU UNIVERSITY

以下の５つの制度は、本学に学ぶ意欲的で優秀な学生の学修機会の拡大と一層の学修意欲の向上をねらいとして設けられたプログラムである。

各制度の詳細は、別冊子またはCampusSquareを参照する。

①　複数専攻制度（副専攻プログラム）

所属する学部・学科（専攻）のカリキュラムを履修しながら、学部・学科（専攻）の枠を越えて異分野の科目を体系的・重点的に学ぶことができる制度である。単なる他学部履修とは異なり、所属する学部・学科（専攻）以外の学部・学科（専攻）から提供される体系的な副専攻プログラムを履修し、所定の単位を修得した学生に、副専攻の修了を証明するものである。

（別冊子『複数専攻制度（副専攻プログラム）と複数学位取得制度のご案内』参照）

②　複数学位取得制度

副専攻プログラムおよび他学部・他学科開放科目の履修実績を基盤として、所属学部を卒業した後に、副専攻プログラムを修了した学部・学科（専攻）の４年次に編入学し、最短５年で２つの学位を取得することを目指す制度である。

（別冊子『複数専攻制度（副専攻プログラム）と複数学位取得制度のご案内』参照）

③　学部・大学院５年修了プログラム

学部・研究科間の相互履修を促進し、より専門性の高い学修と学位を望む学生に大学院進学の機会を与えるために設けられたプログラムで、飛び入学により早期に大学院へ進学する方法、または、学部４年次に研究科開放科目を履修し卒業後直ちに大学院に進学して１年間で修了する方法により、学部入学後５年間で学部を卒業し（飛び入学の場合は中途退学）、大学院博士前期（修士）課程の修了を目指すプログラムである。

（別冊子『学部・大学院の連携』参照）

④　海外の大学（協定校）との複数学位取得制度

多様化する社会的ニーズに応えるため、海外の大学（協定校）と連携することでさらなる専門教育の充実を図るとともに、国際的視野を養うために設けられたプログラムである。愛知淑徳大学と海外の大学（協定校）の双方に学籍を持ち、原則として２年間を愛知淑徳大学で学んだ後、残りの２年間を留学先の大学（協定校）で学び、合計４年間（最短）で２つの学位を取得することを目指す制度である。

（別冊子『海外留学ハンドブック』参照）

⑤　星が丘キャンパスモデル

星が丘キャンパスに設置されている３学部（交流文化学部、ビジネス学部、グローバル・コミュニケーション学部）の学生が、学部を越えて専門科目やゼミを履修することで興味のある分野についての視野を広げ、専門領域をさらに深く学修するために設けられた制度が「星が丘キャンパスモデル」である。以下の３つの制度から構成されている。

（１）グローバル学部間　専門教育科目読替制度

３学部の専門教育科目のうち、学部の専門色が強い科目を除き、「コミュニケーション」「日本事情」「国際事情」「語学スキル」に分類して、星が丘キャンパス所属の学生のみに開放する。これらの科目の単位を修得することで、他学部の科目であっても所属学部の専門教育科目（選択科目）の単位として認定する制度である。対象科目についてはCampusSquareの「履修登録の注意事項」を必ず確認する。

（２）グローバル学部間　ゼミ・アクティブ履修制度

他学部の「ゼミナール科目（Seminar、ゼミナール、演習、卒業プロジェクト）」を履修し、教員ごとに設定された前提科目４単位の修得、卒業研究（論文やリサーチペーパー等）に取り組み、所属学部の副査による「卒業研究認定」を受けることで、所属学部のゼミナール科目を履修した場合と同等に卒業に必要な単位が認定される制度である。なお、学部・専攻・専修によっては、ゼミナール科目に関連の深い科目の単位修得の義務づけや「卒業研究認定」の要件が設定されている。前提科目や制度の詳細については、７月に行うガイダンス（遠隔含む）にて説明を行う。

（ⅰ）ビジネス学部グローバルビジネス専修のゼミを履修する交流文化学部、グローバル・コミュニケーション学部の学生は、前提科目４単位、「ゼミナールⅠ～Ⅵ」に加え、「Bilingual Internship Domestic/Overseas（２単位）」の履修が求められる。

（ⅱ）グローバル・コミュニケーション学部のSeminarを履修する交流文化学部、ビジネス学部の学生は、前提科目４単位、「Seminar 1～11」に加え、「Writing Lab I/II」（前期・後期、各２単位、計４単位）を履修し、英語での卒業論文の執筆が求められる。

（ⅲ）他学部のゼミを履修するグローバル・コミュニケーション学部の学生は、交流文化学部に提出する卒業研究論文、ビジネス学部ビジネスイノベーション専修、ビジネスアカウンティング専修の卒業論文、または、グローバルビジネス専修に提出するリサーチペーパーを、グローバル・コミュニケーション学部の必修科目「Writing Lab I/II」（前期・後期、各２単位、計４単位）において英訳し、グローバル・コミュニケーション学部のアドバイザーに提出が求められる。

（ⅳ）ビジネス学部の学生がグローバル・コミュニケーション学部のゼミを履修する場合、卒業要件表は以下に変更となる。

ビジネスイノベーション専修	「シゴト学　情報スキル　ASICP」	20単位以上
ビジネスアカウンティング専修	「シゴト学　情報スキル　ASAAP」	20単位以上
グローバルビジネス専修	「ASBBE」	43単位以上

（３）スキルアッププログラム

交流文化学部・グローバル・コミュニケーション学部の学生は、ビジネス学部の企業や組織に対して企画や提案を行うアクティブラーニング系科目、「イノベーション＆チャレンジプログラム」および関連する科目（マーケティングや経営戦略）の履修を通して、チームでの問題解決能力を養う。また、ビジネス学部・グローバル・コミュニケーション学部の学生は、交流文化学部の「観光に関する体験系科目」の履修を通して、実践的な行動力を高める。スキルアッププログラムは、こうした目標を掲げた制度である。詳細については２月に行うガイダンス（遠隔含む）にて説明を行う。

学外修得単位の認定

AICHI SHUKUTOKU UNIVERSITY

本学では、入学前もしくは入学後の他大学等において修得した単位（既修得単位）を、本学での履修により修得した単位として認定する制度がある。単位認定を受けようとする科目が、入学前に修得したものか、在学中に修得したものかによって手続きが異なるので注意する。

（1）入学前の既修得単位の認定（大学学則第34条）

① 入学前における既修得単位が、次のいずれかに該当する場合、単位認定を受けることができる。

- 他大学等に籍を置き修得した単位
- 科目等履修生として修得した単位

② 単位認定を希望する場合は、指定する提出期間中に次の書類を提出する。

提　出　書　類	提　出　先	提　出　期　間
「単位認定申請書」※1 当該科目の成績証明書 当該科目のシラバス（授業概要等）	教務事務室・教学事務室	入学年度の前期授業開始日から1週間 ただし、土・日曜日は除く

※1　「単位認定申請書」は教務事務室・教学事務室窓口で受取る。

③ 認定単位数の上限……**60単位以内** ⓐ

④ 科目別単位認定の条件

- 読み替え可能な科目は、所属する学部・学科の専門教育科目等として認定される。
- 上記以外の科目は、読み替え不可能な科目を含め本学の全学共通履修科目として包括的に認定される。

⑤ 認定単位の確認

単位の認定は、教務委員会、教授会の議を経て行われる。ただし教授会で審査の結果、認定されない場合もある。認定の可否については、CampusSquareの「試験・成績」の「履修成績照会」から各自で確認する。

（2）入学後の他大学等での修得単位の認定（大学学則第33条）

① 単位認定を希望する場合は、指定する提出期間中に次の書類を提出する。

提　出　書　類	提　出　先	提　出　期　間
「単位認定申請書」※1 当該科目の成績証明書 当該科目のシラバス（授業概要等）	教務事務室・教学事務室	前期および後期の授業開始日から1週間 ただし、土・日曜日は除く

※1　「単位認定申請書」は教務事務室・教学事務室窓口で受取る。

② 認定単位数の上限……**60単位以内** ⓑ

③ 科目別単位認定の条件

- 読み替え可能な科目は、所属する学部・学科の専門教育科目等として認定される。
- 上記以外の科目は、読み替え不可能な科目を含め本学の全学共通履修科目として包括的に認定される。
- 留学生派遣規程に基づく海外留学による単位認定は、別途内規による。
- 休学期間中に他大学等で修得した単位の認定を希望することも可能である。ただし、休学前に指導教員と十分相談し、指導を受けること。特に、留学の場合、その教育機関の種類、授業内容、授業時間数等で認定されない場合もある。

④ 単位認定の確認

単位の認定は、教務委員会、教授会の議を経て行われる。ただし、教授会で審査の結果、認定されない場合もある。認定の可否については、CampusSquareの「試験・成績」の「履修成績照会」から各自で確認する。

上記ⓐとⓑの合計が60単位を超えない範囲で認定する（大学学則第34条）。

全学共通履修科目カリキュラム表

AICHI SHUKUTOKU UNIVERSITY

ディプロマ・ポリシー（人材養成像）

大学の理念である「違いを共に生きる」を理解・修得し、専門教育への学修の基盤となる幅広い教養を修得するとともに、地域、国および国際社会に貢献し得る人材としての基礎的な能力を身につける。

全学共通履修科目の基本方針

大学の理念である「違いを共に生きる」を理解・修得し、専門教育への学修の基盤となる幅広い教養を修得するとともに、地域、国および国際社会に貢献し得る人材としての基礎的な能力を身につけるために、学部の専門性にとらわれない本学の理念と基本的な学修姿勢を学ぶ基幹科目や知識を実生活に活かすためのアクティブラーニング科目、外国語のスキル科目、資格取得にかかわる資格教育科目を設置し、講義や演習、実技など多様な授業形態により、学生の主体的な学修を促進することを目指す。

全学共通履修科目開設の趣旨と開設科目

学部・学科（専攻）の設置の趣旨・目的にそった専門的な知識・技能を学ぶと共に、総合的・学際的な学問、基礎的な教養や技術、志望や能力に応じた科目を全学部の学生を対象に開設し、学生の多様なニーズや学修意欲に応えるために、次の６領域科目を開設する。

（１）違いを共に生きる科目、（２）AI・データサイエンス科目、（３）アクティブラーニング科目（国際交流センター開設科目、コミュニティ・コラボレーションセンター開設科目、キャリアセンター開設科目、ダイバーシティ共生センター開設科目、学修・教育支援センター開設科目）、（４）言語活用科目（英語、初めての外国語）、（５）資格教育科目（教職、学芸員、司書、コンピュータ資格、会計）

なお、考え方や生き方、価値観が違う人々が同時に暮らす現代社会において、違いを認め合う精神の重要さを改めて学び、多様な価値観が共存する社会でゆるぎない自分の姿を見出すための「違いを共に生きる・ライフデザイン」（違いを共に生きる科目）、そして、AI・デジタル社会で活躍するための「AI・データサイエンス入門［M］」（AI・データサイエンス科目）は本学の基幹科目とし、全学部生必修科目としている。

全学共通履修科目は原則として、両キャンパス（長久手・星が丘）でそれぞれ開講しているので、所属キャンパスにて履修すること。

1　違いを共に生きる科目

基幹科目「違いを共に生きる・ライフデザイン」は、１年次全学必修科目である。愛知淑徳大学の理念「違いを共に生きる」とは何かを、一人一人が自分事として見つめ、考えることを通して、愛知淑徳大学生としてのアイデンティティを持ち、４年間の大学生活と学修を最大限充実したものにできるようにする。

また、現代社会には、国籍、言葉、文化、性別、年齢、障がいの有無など、多種多様な違いが存在する。実社会でこれらの違いと密接に関わりのある６つの分野（「公共哲学」「多文化共生」「地域づくり」「子育て支援」「労働教育」「防災」）を取り上げ、各分野の専門家を招聘し講義を聴く。その上で、今を生きる当事者として各自がそれぞれの課題について考え、アクティブ・ラーニング（参加型学修）によって自らの価値観や考えを他者と交換し合いながら、新たな視点や気づきを得ることで、生涯にわたるライフデザインの形成につなげていく。

本講義での学びを通して、本学理念「違いを共に生きる」の理解を深めながら、10年先20年先の将来を見据え、自ら積極的に人生を送るための人間的基盤を築くことが目的である。

履修上の注意

○所属するキャンパスにて履修する。

○「探究・違いを共に生きるⅠ」と「探究・違いを共に生きるⅡ」の履修順は不問とし、同時履修は可。

○「違いを共に生きる・ライフデザイン」は、必修科目である。１年次（前期）に各学科指定の曜日時限で履修する。

○「違いを共に生きる・ライフデザイン」の単位を修得していない２～４年生は、前期に、各自の所属学科（専攻）別に指定されたクラスで履修する。

※万一、前期に単位が修得できなかった場合には、３・４年生に限り、後期に開講しているクラスの履修を可能とする。

違いを共に生きる科目（2025年度入学者対象）

科目群	ナンバリング	DP番号	科目番号	科　目	単位	履修年次	開講学期	開講最少履修者数	備　考
基幹科目	1110	DP0	101145	違いを共に生きる・ライフデザイン	2	1	前期	1	全学部必修 成績は「合」「否」により評価 ３・４年の未修得者用に後期コマあり
違いを共に生きる	2110	DP0	101150	探究・違いを共に生きるⅠ	2	1	後期	8	「違いを共に生きる・ライフデザイン」の単位修得者のみ履修可
	2110	DP0	101151	探究・違いを共に生きるⅡ	2	1	後期	5	

●文学部の学生は、違いを共に生きる科目、AI・データサイエンス科目の中から６単位以上修得する。
●教育学部の学生は、違いを共に生きる科目、AI・データサイエンス科目の中から６単位以上修得する。
●人間情報学部は、違いを共に生きる科目、AI・データサイエンス科目の中から６単位以上修得する。
●心理学部は、違いを共に生きる科目、AI・データサイエンス科目の中から６単位以上修得する。
●創造表現学部は、違いを共に生きる科目、AI・データサイエンス科目の中から６単位以上修得する。
●建築学部は、違いを共に生きる科目、AI・データサイエンス科目の中から４単位以上修得する。
●健康医療科学部 言語聴覚学専攻および視覚科学専攻は、違いを共に生きる科目、AI・データサイエンス科目の中から６単位以上修得する。
なお、「探究・違いを共に生きるⅠ・Ⅱ」は卒業に必要な単位数に算入しない。
●健康医療科学部 理学療法学専攻および臨床検査学専攻は、違いを共に生きる科目、AI・データサイエンス科目の中から４単位以上修得する。
なお、「探究・違いを共に生きるⅠ・Ⅱ」は卒業に必要な単位数に算入しない。
●健康医療科学部 スポーツ・健康科学専攻は、違いを共に生きる科目、AI・データサイエンス科目の中から６単位以上修得する。
●健康医療科学部 救急救命学専攻は、違いを共に生きる科目、AI・データサイエンス科目の中から４単位以上修得する。
●食健康科学部は、違いを共に生きる科目、AI・データサイエンス科目の中から６単位以上修得する。
●福祉貢献学部は、違いを共に生きる科目、AI・データサイエンス科目の中から８単位以上修得する。
●交流文化学部は、違いを共に生きる科目、AI・データサイエンス科目の中から６単位以上修得する。
●ビジネス学部は、違いを共に生きる科目、AI・データサイエンス科目の中から６単位以上修得する。
●グローバル・コミュニケーション学部は、違いを共に生きる科目、AI・データサイエンス科目の中から６単位以上修得する。

2 AI・データサイエンス科目

（1）カリキュラム・ポリシー

愛知淑徳大学は「違いを共に生きる」という大学理念のもと、情報化社会の急速な進展に伴う社会のニーズに応えるべく、大学の教育・研究体制の持続的な充実発展に力を注いでいる。近年の人工知能（AI）及びデータサイエンス技術の発展は目覚ましく、社会におけるAI・データサイエンス技術の利活用が世界規模で急速に進んでいる。そうしたAI・デジタル社会で活躍できる人材を養成するため、AI・データサイエンス科目では、コンピュータの基礎からAI・データサイエンス技術の応用までを段階的に学修できるカリキュラムを編成する。

AI・データサイエンス科目のカリキュラム構成

レベル	概要	科目名	必修・選択の別
コンピュータ基礎	基本的なソフトウェアの操作方法、ならびにデータの基本的な処理方法と可視化方法等のコンピュータに関わる基本的な知識と技術を身に付ける。	コンピュータリテラシーⅠ コンピュータリテラシーⅡ	各学部の卒業要件によって定められている。
AI・データサイエンス基礎	AI・データサイエンス技術の基礎知識や社会における重要性、利活用の現状、社会的問題等のAI・データサイエンスの基礎的素養を身に付ける。	AI･データサイエンス入門［M］	必修
AI・データサイエンス応用	AI・データサイエンスのアルゴリズムをコンピュータに実装するための基礎的なスキルと各所属学部の学びに応用するための実践的なスキルを修得する。	AI・データサイエンス基礎演習 AI・データサイエンス実践演習	選択

（2）サポート体制

コンピュータに関する基礎的な能力の向上、ならびにIT・情報管理に関する資格取得を支援するため、学習上の不安や疑問点、学習方法、履修モデル等について個別に相談できる「学習クリニック」を設けている。開催日程等の詳細はAI・データサイエンス教育センター（長久手：８号棟３階、星が丘：３号館５・６階）のHPや掲示等で案内する。

学習クリニック	対象者	全学生
	相談方法等	事前申込みは不要。 両キャンパスでの受講可。 積極的な利用を推奨。

基幹科目「AI・データサイエンス入門［M］」の初回授業について

必修科目である「AI･データサイエンス入門［M］」は、全授業回を遠隔授業（オンデマンド）にて実施します。

授業スケジュールや初回授業の受講方法など、詳細については右の二次元コードから確認してください。

履修上の注意

○所属するキャンパスにて履修する。

○科目により履修条件があるので、カリキュラム表の備考欄を確認する。

○**「コンピュータリテラシーⅠ・Ⅱ」**は、時間割表の「開講年組」欄の指定に従って履修する。

○**「コンピュータリテラシーⅠ・Ⅱ」**を履修したことがない２～４年生は「通常授業」（１年生対象クラス）を履修する。

※クラスについては学科指定されているが、学科を問わず履修できる。ただし、１年生が優先されるため、抽選となる場合がある。

○**「コンピュータリテラシーⅠ・Ⅱ」**の再履修者（以前に履修したが、成績評価がF・失格・欠席のため単位を修得できなかった学生）は「前期集中授業」（再履修者専用）を履修する。

※長久手キャンパスのみで開講されるため星が丘キャンパスの再履修者は長久手キャンパスで受講する。

※学科・専攻の必修科目・選択必修科目および資格科目と重複する場合には、当該学生についてのみ通常授業で履修することを認める場合がある。

愛知淑徳大学AI・デジタル教育プログラム

愛知淑徳大学AI・デジタル教育プログラムは、コンピュータの基礎からAI・データサイエンスの知識・技能までを包括的に身に付けた人材を養成することを目的とした教育プログラムである。本プログラムは、「リテラシーレベル」と「応用基礎レベル」の２種類のレベルから構成されており、各レベルで指定された科目の単位を修得することにより、本プログラムの各レベルを修了したことが認定される。

※本プログラムの修了要件科目を履修するために本プログラム独自の特別な手続きを行う必要はない。通常の履修登録により科目を履修すること。

※本プログラムの各レベルの修了認定は、AI・データサイエンス教育センターで行う。各プログラムを修了したことを証明する認定証を取得する方法は、AI・データサイエンス教育センター（長久手：８号棟３階、星が丘：３号館５・６階）のHPや掲示等で案内する。

愛知淑徳大学AI・デジタル教育プログラムの種類と認定に必要な科目

プログラム名	概要	修了要件科目 ※修了認定のために単位修得が必要な科目
リテラシーレベル	データと社会の関係性、データを分析し可視化する基礎的能力、データやAIを利活用する際の倫理的・法的・社会的な留意点等を学び、AI・デジタル社会の基礎的な素養を修得することを目指す。	コンピュータリテラシーⅡ AI・データサイエンス入門［M］
応用基礎レベル	プログラムのアルゴリズムやデータ表現等に関するコンピュータの基礎知識、ならびにAI・データサイエンスの基礎知識を土台として、さらにAI・データサイエンスの実践的な活用法を学び、各学部の学びにAI・データサイエンスの知識と技能を活かせる能力を修得することを目指す。	ITパスポート対策講座Ⅰ AI・データサイエンス入門［M］ AI・データサイエンス基礎演習 AI・データサイエンス実践演習

（注意）「ITパスポート対策講座Ⅰ」は、原則卒業要件単位に算入されないので注意すること（各学部の「卒業に必要な単位」で確認すること）。

※愛知淑徳大学AI・デジタル教育プログラムについては下記のホームページも参照のこと。

〈AI・データサイエンス教育センターホームページ〉
https://www.aasa.ac.jp/institution/aic/

AI・データサイエンス科目（2025年度入学者対象）

科目群	ナンバリング	DP番号	科目番号	科　目	単位	履修年次	開講学期	開講最少履修者数	備　考
基幹科目	1120	DP0	104020	AI・データサイエンス入門［M］	2	1	前期･後期	1	全学部必修
AI・データサイエンス応用	2120	DP0	104022	AI・データサイエンス基礎演習	2	2	前期･後期	5	「AI・データサイエンス入門［M］」を履修した学生のみ履修可。ただし「失格」の場合は不可。
	3120	DP0	104023	AI・データサイエンス実践演習	2	2	前期･後期	5	「AI・データサイエンス基礎演習」を履修した学生のみ履修可。ただし「失格」の場合は不可。
コンピュータ基礎	1120	DP0	104121	コンピュータリテラシーⅠ	2	1	前期	5	
	1120	DP0	104122	コンピュータリテラシーⅡ	2	1	後期	5	再履修者用に前期コマあり

●文学部の学生は、違いを共に生きる科目、AI・データサイエンス科目の中から6単位以上修得する。「コンピュータリテラシーⅠ」は必修科目である。
●教育学部の学生は、違いを共に生きる科目、AI・データサイエンス科目の中から6単位以上修得する。（「コンピュータリテラシーⅠ」「コンピュータリテラシーⅡ」の中から2単位以上含む）
●人間情報学部は、違いを共に生きる科目、AI・データサイエンス科目の中から6単位以上修得する。「コンピュータリテラシーⅠ」は必修科目である。
●心理学部は、違いを共に生きる科目、AI・データサイエンス科目の中から6単位以上修得する。（「コンピュータリテラシーⅠ」「コンピュータリテラシーⅡ」の中から2単位以上含む）
●創造表現学部は、違いを共に生きる科目、AI・データサイエンス科目の中から6単位以上修得する。「コンピュータリテラシーⅠ」は必修科目である。
●建築学部は、違いを共に生きる科目、AI・データサイエンス科目の中から4単位以上修得する。
●健康医療科学部 言語聴覚学専攻および視覚科学専攻は、違いを共に生きる科目、AI・データサイエンス科目の中から6単位以上修得する。
「コンピュータリテラシーⅠ」は必修科目である。
●健康医療科学部 理学療法学専攻および臨床検査学専攻は、違いを共に生きる科目、AI・データサイエンス科目の中から4単位以上修得する。
●健康医療科学部 スポーツ・健康科学専攻は、違いを共に生きる科目、AI・データサイエンス科目の中から6単位以上修得する。「コンピュータリテラシーⅠ」は必修科目である。
●健康医療科学部 救急救命学専攻は、違いを共に生きる科目、AI・データサイエンス科目の中から4単位以上修得する。
●食健康科学部は、違いを共に生きる科目、AI・データサイエンス科目の中から6単位以上修得する。（「AI・データサイエンス入門［M］」を除くAI・データサイエンス科目の中から2単位以上含む）
●福祉貢献学部は、違いを共に生きる科目、AI・データサイエンス科目の中から8単位以上修得する。（「AI・データサイエンス入門［M］」を除くAI・データサイエンス科目の中から4単位以上含む）
●交流文化学部は、違いを共に生きる科目、AI・データサイエンス科目の中から6単位以上修得する。「コンピュータリテラシーⅠ」は必修科目である。
●ビジネス学部は、違いを共に生きる科目、AI・データサイエンス科目の中から6単位以上修得する。（「コンピュータリテラシーⅠ」「コンピュータリテラシーⅡ」の中から2単位以上含む）
●グローバル・コミュニケーション学部は、違いを共に生きる科目、AI・データサイエンス科目の中から6単位以上修得する。
「コンピュータリテラシーⅠ」は必修科目である。

3　アクティブラーニング科目

■国際交流センター開設科目

国際交流センターでは、学生の外国語コミュニケーション能力と異文化コミュニケーション能力の向上を目的とする様々な授業を開設している。

現地の学生との交流やホームステイなどを通して、それぞれの国や地域の文化や生活、歴史などを学び、異文化理解を深めることを目的とするのが「海外セミナー科目」（英語圏、中国語圏、韓国語圏）である。海外のNPO・NGOや各種ボランティア団体、学校、企業などでインターンシップをおこなうのが「海外アクティブラーニング研修」である。この科目は、実践的な経験を通して、異文化コミュニケーション能力と情報発信能力、問題解決能力などの向上を目的とするものであり、学生の将来のキャリアを形成する上でも絶好の機会となるプログラムである。

なお、世界に進出する企業の第一線で活躍している人をゲストスピーカーとして迎える「Globalization and Society」と、日本の伝統芸能や伝統文化に携わる人をゲストスピーカーとして招く「Traditional Arts in Japan」の２科目は、自らの社会や文化を理解し、発信力へとつながる知識を得ることを目的として開講している。

また、英語圏へ交換留学をする場合に必要なTOEFL iBTのスコアアップを目的とした「English for Study Abroad Ⅰ」「English for Study Abroad Ⅱ」の２科目を開講している。

日本語を第一言語としない学生対象に開講されているのは、「日本語非母語話者のためのアカデミックライティングⅠ・Ⅱ」「N1対策講座Ⅰ・Ⅱ」「入門日本語A・B」の６科目である。このうち、「日本語非母語話者のためのアカデミックライティングⅠ・Ⅱ」は実用的な文章作成練習や演習を通して、大学で学ぶために必要な書く力を、「N1対策講座Ⅰ・Ⅱ」は日本語能力試験（JLPT）N1取得のための力をつけることを目的として開講している。また、日本語初学者向けに、「入門日本語A・B」を開講している。

履修上の注意

○原則として、所属するキャンパスにて履修する。
○科目により履修条件があるので、カリキュラム表の備考欄およびシラバスを確認する。
○海外プログラム科目の履修希望者は、後日CSの指示に従って、説明会に参加し、別途申込をする。履修を認められた者の履修登録は教務事務室・教学事務室が行うので各自での登録は不要である。原則、取消不可とする。

■コミュニティ・コラボレーションセンター開設科目

コミュニティ・コラボレーションセンター（CCC）は、「地域に根ざし、世界に開く」という姿勢で、学生の実践力を育む「教育」と、学生の自主活動を支える「支援」に取り組んでいる。学生のさまざまなコミュニティと連携を強め、地域社会と大学の活性化を図ること、そして、これから社会へ羽ばたく学生たちの視野を広げ、人間力や社会に貢献できる人材になるための力、生きる力を育むことを目指している。

CCCでは、地域と連携して取り組む社会貢献活動に、学生が段階的にチャレンジできるようCCC開設科目として、ボランティアの基礎知識や様々な事例を学ぶことで社会的課題の発見と解決力を育む「知識系科目」、仲間と一緒に活動を起こす際に必要となる手法や考え方を学ぶ「スキル系科目」、社会が抱える問題の解決に向けて実際にアクションを起こすプロジェクト型の「実践系科目」を開設している。多様な科目構成で実際の活動や将来に役立つ知識やスキルの修得をめざす。

履修上の注意

○原則として、所属するキャンパスにて履修する。
○科目により履修条件があるので、カリキュラム表の備考欄およびシラバスを確認する。
○ビジネス学部の学生は「企画立案の基礎」「ファシリテーター養成講座」を履修できない。ビジネス学部の専門科目である「ビジネスプランニング入門」「ファシリテーター入門」を履修する。
○科目によってはキャンパスごとに開講学期が限定されている場合もあるので、時間割で確認する。

■キャリアセンター開設科目

キャリアセンターでは、学生が各自の生き方や働き方を考えるとともに、大学で学んだことを社会でどのように活用するかを考えることを目的として、さまざまな「キャリア教育」に関する科目を開設している。キャリアセンターが開設するキャリア教育科目の中には、過去・現在の自分と、職業・仕事について理解し、キャリアを形成するうえで必要となる基本的事項について学ぶ「キャリアの形成」や、国内でのインターンシップ等の事前研修として行う「インターンシップ概論」、国内の企業や団体でインターンシップ等を行う「インターンシップ・就業実践」、海外でインターンシップ等を行う「海外インターンシップ・就業実践」などがある。さらに、就職活動時に必要となる数学的思考力を鍛えるための「キャリアに役立つ数学力」や、社会人として必要な知識や技能を習得する「ビジネスの世界」、「新社会人の基礎」などの授業も開講している。本学では、こうした「キャリア教育」に関する科目や各学科・専攻等が開講するキャリアデザイン科目を、就職に関する各種セミナーやガイダンス、経験豊かなキャリアアドバイザーが行う個別面談などの「キャリア支援」と有機的に組み合わせることによって、入学から卒業までの4年間を通じた段階的かつ体系的な教育・支援体制を構築している。

履修上の注意

○所属するキャンパスにて履修する。
○科目により履修条件があるので、カリキュラム表の備考欄およびシラバスを確認する。

■ダイバーシティ共生センター開設科目

ダイバーシティ共生センターでは、価値観、年齢、性別、病気や障がいの有無、育った環境、国籍、文化、宗教などの多様性（ダイバーシティ）を理解し、在学中のみならず卒業後の人生においても、本学理念「違いを共に生きる」を大切にし、ダイバーシティ共生の実現に貢献していくことのできる人材の育成を目指している。

基幹科目である「違いを共に生きる」科目を基盤とし、さらにダイバーシティの理解およびダイバーシティ共生の実現を目指すための基礎科目として「大学生のためのダイバーシティ入門」、「日常生活とダイバーシティ」、「ダイバーシティ関係行政論［M］」などの科目を開講している。また、「ダイバーシティ研究法演習」などの演習科目も開講し、体系的にダイバーシティについての学びを深めることができる。

本センターが開設する科目に加え、各学部で開講されているダイバーシティに関する科目を、ダイバーシティ共生プログラムとして体系化し、所定の要件を満たすことで、本学においてダイバーシティについて学んだことを証明する、ダイバーシティ共生プログラムの修了証と履修証明書を、本センター独自に発行している。

履修上の注意

○所属するキャンパスにて履修する。
○科目により履修条件があるので、カリキュラム表の備考欄およびシラバスを確認する。
○科目によってはキャンパスごとに開講学期が限定されている場合もあるので、時間割で確認する。

■学修・教育支援センター開設科目

本科目群は、大学における学修や大学生としてふさわしい社会生活の営みに必要な日本語運用スキルを総合的に養成する目的で開講されている。本科目では、基礎から着実に日本語力を高めていくことができるよう、レベル１（基礎）からレベル３（発展）までの体系的・段階的なカリキュラムが整えられている。

なお、本科目群の特徴は小規模のクラス編成による実践演習の充実にある。理論と実践との相乗効果によって、短期間で高度な日本語運用スキルの定着が可能である。

日本語表現科目の３つのレベルと科目構成

レベル	概要	科目名	必修・選択の別
基礎	大学における学修に円滑に移行するために必要な日本語の「読む・書く・話す・聞く」の基礎的技術を総合的に学ぶ。特に、大学の学修に欠かせない論理的かつ他者意識を伴った文章を書く力を身につける。	「日本語表現１」	言語聴覚学専攻、理学療法学専攻は選択 それ以外は必修
応用	「日本語表現１」の学修を踏まえ、大学における学修に不可欠な日本語の「読む・書く・話す・聞く」技術を総合的に身につけるため、レポートの書き方とプレゼンテーションの方法の基礎を学ぶ。	「日本語表現２」	文学部、創造表現学部、交流文化学部、グローバル・コミュニケーション学部は必修 それ以外は選択
発展	「日本語表現１」「日本語表現２」の学修を踏まえ、より発展的な学修や、大学生にふさわしい社会生活の営み、さらに卒業後の進路の実現に不可欠な日本語の「読む・書く・話す・聞く」技術を実践的に学ぶ。	「日本語表現３」	選択

履修上の注意

○所属するキャンパスにて履修する。

○本科目は、「基礎」→「応用」→「発展」の順に段階を踏んで履修することを原則とする。

○「日本語表現１」および「日本語表現２」（必修学部）は、時間割表の「開講年組」欄の指定に従って履修する。

○「日本語表現２」を選択科目とする学部のクラスは、受講希望者が定員数を超えた場合、抽選で履修者を決定する場合がある。

○「日本語表現１」（必修学部）および「日本語表現２」（必修学部）の単位を指定の開講期に修得できなかった者（以下「未修得者」という）は、原則として単位未修得者専用クラス（以下「未修得クラス」という）で履修する。ただし、時間割の都合上、未修得クラスでの受講が困難な場合に限り、所属学科（専攻）別に指定された曜日時限の範囲内で履修する。

○「日本語表現３」は、受講希望者が定員数を超えた場合、抽選で履修者を決定する場合がある。なお、抽選は、「日本語表現２」の単位を修得している者を優先する。

○「日本語表現３」は、担当教員によってシラバスの内容が異なるため、担当教員ごとのシラバスを確認したのちに、履修する授業を選択すること。

アクティブラーニング科目（2025年度入学者対象）

科目群	ナンバリング	DP番号	科目番号	科　目	単位	履修年次	開講学期	開講最少履修者数	備　考
国際交流センター	1211	DP0	110014	英語海外セミナーⅠ［M］	2	1･2	前期	5	履修希望者は、後日掲示の指示に従って、説明会に参加し、別途申込をする。 履修を認められた者の履修登録は教務事務室が行うので各自で登録は不要。原則、取消不可。
	1211	DP0	110002	英語海外セミナーⅡ	2	1･2	前期	5	
	1211	DP0	110003	英語海外セミナーⅢ	2	1･2	後期	5	
	1213	DP0	110015	中国語海外セミナーⅠ	2	1･2	後期	10	
	1213	DP0	110016	韓国・朝鮮語海外セミナーⅠ	2	1･2	前期	10	
	1210	DP0	110017	海外アクティブラーニング入門	2	1･2	後期	10	
	2211	DP0	110018	海外アクティブラーニング研修	2	1･2	後期	10	「海外アクティブラーニング入門」の単位を修得済み または同時履修中の学生のみ履修可。 履修希望者は、後日掲示の指示に従って、説明会に参加し、別途申込をする。 履修を認められた者の履修登録は教務事務室が行うので各自で登録は不要。原則、取消不可。
	1212	DP0	110019	Globalization and Society	1	1	後期	10	1/4期科目（前半）
	1212	DP0	110010	Traditional Arts in Japan	1	1	後期	10	1/4期科目（後半）
	2212	DP0	110020	English for Study Abroad Ⅰ	2	1･2	前期	5	
	2212	DP0	110021	English for Study Abroad Ⅱ	2	1･2	後期	5	
	1210	DP0	110055	入門日本語A	4	1	前期･後期	5	日本語初学者のみ履修可 週２回の授業
	1210	DP0	110056	入門日本語B	4	1	前期･後期	5	
	2210	DP0	110053	日本語非母語話者のためのアカデミック・ライティングⅠ	2	1	前期･後期	5	日本語を第一言語としない者のみ履修可
	2210	DP0	110054	日本語非母語話者のためのアカデミック・ライティングⅡ	2	1	前期･後期	5	
	2210	DP0	110057	N1対策講座Ⅰ	2	1	前期	1	N1取得者は履修不可 日本語を第一言語としない者のみ履修可
	2210	DP0	110058	N1対策講座Ⅱ	2	1	後期	1	
コミュニティ・コラボレーションセンター	1220	DP0	110201	CCCスタートアップ講座	2	1	前期･後期	10	
	1220	DP0	110202	ボランティア	2	1･2	前期･後期	10	
	1220	DP0	110203	障がい者支援ボランティア	2	1･2	後期	10	
	1220	DP0	110204	企画立案の基礎	2	1	前期･後期	5	ビジネス学部生は履修不可
	1220	DP0	110209	まちづくりと地域活動	2	1	後期	10	
	2220	DP0	110206	ファシリテーター養成講座	2	2	前期･後期	5	ビジネス学部生は履修不可
	2220	DP0	110207	CCCキズナプロジェクトA	2	2	前期	5	
	2220	DP0	110208	CCCキズナプロジェクトB	2	2	後期	5	
キャリアセンター	1230	DP0	110409	キャリアの形成	2	1	前期･後期	10	
	1230	DP0	110401	キャリアに役立つ数学力（基礎）	2	1･2	前期･後期	10	
	2230	DP0	110402	キャリアに役立つ数学力（実践）	2	1･2	前期･後期	10	
	2230	DP0	110403	インターンシップ概論	2	2･3	前期･後期	10	「キャリアの形成」を履修済み または同時履修することが望ましい。
	3230	DP0	110410	インターンシップ・就業実践	2	2･3	前期･後期	5	「インターンシップ・就業実践」は、「インターンシップ概論」の単位を修得済み または同時履修中の学生のみ履修可。 履修希望者は、後日掲示の指示に従って、説明会に参加し、別途申込をする。 履修登録の手続きはキャリアセンターが行うため、各自での履修登録は不要。 成績は「合」「否」により評価。
	3232	DP0	110411	海外インターンシップ・就業実践	2	2･3	前期･後期	5	
	3230	DP0	110407	ビジネスの世界	1	3	前期	10	1/4期科目
	3230	DP0	110408	新社会人の基礎	1	4	後期	10	1/4期科目

アクティブラーニング科目（2025年度入学者対象）

科目群	ナンバリング	DP番号	科目番号	科　目	単位	履修年次	開講学期	開講最少履修者数	備　考
ダイバーシティ共生センター	1240	DP0	110601	日常生活とダイバーシティ	2	1	前期･後期	10	
	1240	DP0	110602	大学生のためのダイバーシティ入門	2	1	前期･後期	10	
	1240	DP0	110603	ダイバーシティ研究法概論	2	1	前期･後期	10	
	2240	DP0	110604	ダイバーシティ研究法演習	2	1	後期	5	「ダイバーシティ研究法概論」の単位を修得済み または同時履修することが望ましい。
	1240	DP0	110605	ダイバーシティ関係行政論［M］	2	1	前期･後期	10	
	2240	DP0	110606	ダイバーシティ表現演習Ⅰ	2	1	前期	5	「ダイバーシティ表現演習Ⅰ」と「ダイバーシティ表現演習Ⅱ」は同時履修となる。 再履修者で片方のみ単位を修得した学生は、もう片方の単独の履修可。
	2240	DP0	110607	ダイバーシティ表現演習Ⅱ	2	1	前期	5	
	1240	DP0	110608	セクシュアリティとメディア	2	1	前期･後期	10	
	1240	DP0	110609	思想としてのフェミニズム	2	1	前期･後期	10	
学修・教育支援センター	1250	DP0	108003	日本語表現１	2	1	前期	1（必修学部） 5（選択学部）	必修学部の未修得者用に後期コマあり
	2250	DP0	108004	日本語表現２	2	1	後期	1（必修学部） 5（選択学部）	必修学部の未修得者用に前期コマあり
	3250	DP0	108005	日本語表現３	2	2･3	前期･後期	5	「日本語表現１」の単位修得者のみ履修可。 なお、これに加え「日本語表現２」の単位を修得していることが望ましい。

●文学部は、アクティブラーニング科目の中から２単位以上修得する。
　なお、「日本語表現１」「日本語表現２」の科目を履修した場合には、専門教育科目の単位に算入する。「日本語表現１」「日本語表現２」は必修科目である。
●教育学部は、アクティブラーニング科目の中から４単位以上修得する。「日本語表現１」は必修科目である。
●人間情報学部は、アクティブラーニング科目の中から４単位以上修得する。「日本語表現１」は必修科目である。
●心理学部は、アクティブラーニング科目の中から４単位以上修得する。「日本語表現１」は必修科目である。
●創造表現学部は、アクティブラーニング科目の中から４単位以上修得する。「日本語表現１」「日本語表現２」は必修科目である。
●建築学部は、アクティブラーニング科目の中から４単位以上修得する。「日本語表現１」は必修科目である。
●健康医療科学部 言語聴覚学専攻および理学療法学専攻は、アクティブラーニング科目の中から４単位以上修得する。
　なお、「入門日本語A・B」「日本語非母語話者のためのアカデミック・ライティングⅠ・Ⅱ」「N1対策講座Ⅰ・Ⅱ」は卒業に必要な単位数に算入しない。
●健康医療科学部 視覚科学専攻および臨床検査学専攻は、アクティブラーニング科目の中から４単位以上修得する。「日本語表現１」は必修科目である。
　なお、「入門日本語A・B」「日本語非母語話者のためのアカデミック・ライティングⅠ・Ⅱ」「N1対策講座Ⅰ・Ⅱ」は卒業に必要な単位数に算入しない。
●健康医療科学部 スポーツ・健康医科学科は、アクティブラーニング科目の中から４単位以上修得する。「日本語表現１」は必修科目である。
●食健康科学部は、アクティブラーニング科目の中から４単位以上修得する。「日本語表現１」は必修科目である。
●福祉貢献学部は、アクティブラーニング科目の中から４単位以上修得する。「日本語表現１」は必修科目である。
●交流文化学部は、アクティブラーニング科目の中から４単位以上修得する。「日本語表現１」「日本語表現２」は必修科目である。
●ビジネス学部は、アクティブラーニング科目の中から４単位以上修得する。「日本語表現１」は必修科目である。
●グローバル・コミュニケーション学部は、アクティブラーニング科目の中から４単位以上修得する。「日本語表現１」「日本語表現２」は必修科目である。
　なお、「Globalization and Society」「Traditional Arts in Japan」を履修した場合には、専門教育科目の単位に算入する。

4 言語活用科目［英語］

社会の急速な国際化・情報化に伴い、世界の共通語としての英語の役割は不動のものとなり、その運用能力の育成が急がれている。本学では早くから英語コミュニケーション能力の育成を全学の英語教育の共通目標とし、学生は、年２回の学内TOEIC IP テストを無料（受験料大学負担）で受験する機会が与えられ、各自の英語運用能力を客観的に把握することができるようになっている。

また、2013年度より、一から英語の基礎を学び直す必要のある新入生を対象とした「Introduction to English」を開講した。再度しっかりと土台を固めてから、基礎力養成、そしてさらに対話力養成の科目群へとステップアップしてほしい。

履修上の注意

○所属するキャンパスにて履修する。

○備考欄に記載されている履修条件としてのTOEICスコアは、最新のスコアではなく、登録時における今までのベストスコアである。学内TOEIC IP テストの結果は受験ごとに更新されるが、学外で受験したTOEIC公開テストの結果は、自己申告となる。特に、ベストスコアが変更になった場合は、スコアを国際交流センターに提出すること（提出方法・時期については別途掲示するので指示に従うこと）。提出がない場合は、学内TOEIC IP テストのベストスコアが、登録時の各自のスコアとなるので、注意すること。

○履修できる科目は、TOEICテストのスコアや単位を修得した科目の種類により異なるので、各科目の履修条件をカリキュラム表にて確認すること。ただし、TOEICテストのスコアによる履修条件が優先される。例えば、「Basic English 1」の単位を修得していても、登録時においてTOEICスコアが400点以上ある者が、「English 1」または「English 2」を履修することはできない。

○各学期の１次登録期間の前に各自のTOEICベストスコアを学内からCampusSquareの「学生カルテ」で必ず確認する。

○テキストは授業担当者ごとに異なるので、CampusSquareの「履修登録・登録状況照会」で受講クラス（授業担当者・教室）を確認してから購入する。

○抽選科目のため、受講希望者が定員数を超えた場合は、抽選にて履修者が決定される。当落の結果は、CampusSquareの「履修登録・登録状況照会」で確認する。

○１次登録で定員に達しなかった科目のみ追加登録を認める。空席状況はCampusSquareのリンク「履修登録の注意事項」で発表する。追加登録希望者が空席数を超えた場合は、抽選にて追加登録の当落が決定される。追加登録の当落の結果は追加登録確認期間以降、CampusSquareの「履修登録・登録状況照会」で各自結果を確認する。

「Introduction to English」について

○卒業に必要な単位に算入されないので注意すること。また、履修登録の上限単位数から除外する。

○時間割表で同じ時間割コードに複数の教員名が記載されている場合は、履修登録すると、受講クラスが自動的に決定される。登録した科目のクラス分けの結果（授業担当者・教室）は、CampusSquareの「履修登録・登録状況照会」で確認する。

言語活用科目［英語］（2025年度入学者対象）

科目群	ナンバリング	DP番号	科目番号	科　目	単位	履修年次	開講学期	開講最少履修者数	備　考
基礎力養成	1312	DP0	102331	Basic English 1	2	1	前期・後期	5	※TOEICスコア245～295点の取得者を対象とする。または、「Introduction to English」の単位を修得している学生も履修対象者とする。
	1312	DP0	102332	Basic English 2	2	1	前期・後期	5	
	1312	DP0	102333	English 1(Listening)	2	1-4	前期・後期	5	※TOEICスコア300～395点の取得者を対象とする。または、「Basic English 1」、「Basic English 2」のどちらかの単位を修得している学生も履修対象者とする。
	1312	DP0	102334	English 2(Reading)	2	1-4	前期・後期	5	
	1312	DP0	102335	English 3(TOEIC 1)	2	1-4	前期・後期	5	※TOEICスコア400点以上の取得者を対象とする。または、「English 1」、「English 2」のどちらかの単位を修得している学生も履修対象者とする。
	1311	DP0	102336	English 4(Speaking 1)	2	1-4	前期・後期	5	
	1312	DP0	102337	English 5(TOEIC 2)	2	1-4	前期・後期	5	
	1311	DP0	102338	English 6(Speaking 2)	2	1-4	前期・後期	5	
対話力養成	2312	DP0	102357	TOEIC Training Ⅰa(Listening & Reading)	2	1-4	前期	5	※TOEICスコア500点以上の取得者を対象とする。または、「English 3」と「English 5」の２科目の単位を修得している学生も履修対象者とする。
	2312	DP0	102358	TOEIC Training Ⅰb(Listening & Reading)	2	1-4	後期	5	
	2312	DP0	102359	TOEIC Training Ⅰc(Listening & Reading)	2	1-4	前期	5	※TOEICスコア600点以上の取得者を対象とする。または、「TOEIC Training Ⅰa」、「TOEIC Training Ⅰb」のどちらかの単位を修得している学生も履修対象者とする。
	2312	DP0	102360	TOEIC Training Ⅰd(Listening & Reading)	2	1-4	後期	5	
	2311	DP0	102361	TOEIC Training Ⅱa(Speaking & Writing)	2	1-4	前期	5	※TOEICスコア500点以上の取得者を対象とする。または、「English 3」と「English 5」の２科目の単位を修得している学生も履修対象者とする。
	2311	DP0	102362	TOEIC Training Ⅱb(Speaking & Writing)	2	1-4	後期	5	
	3311	DP0	102369	Advanced English A	2	1-4	前期	5	※TOEICスコア600点以上の取得者を対象とする。または、「English 4」と「English 6」の２科目の単位を修得している学生も履修対象者とする。
	3311	DP0	102370	Advanced English B	2	1-4	後期	5	

●卒業に必要な単位に算入されない科目

科目群	ナンバリング	DP番号	科目番号	科　目	単位	履修年次	開講学期	開講最少履修者数	備　考
入門	1312	DP0	102400	Introduction to English	2	1	前期・後期	1	※TOEICスコア240点以下の取得者を対象とする。 成績は「合」「否」により評価

●文学部は、言語活用科目［英語、初めての外国語］の中から４単位以上修得する。
●教育学部は、言語活用科目［英語、初めての外国語］の中から４単位以上修得する。
●人間情報学部は、言語活用科目［英語］の中から４単位以上修得する。
●心理学部は、言語活用科目［英語］の中から４単位以上修得する。
●創造表現学部は、言語活用科目［英語、初めての外国語］の中から４単位以上修得する。
●建築学部は、言語活用科目［英語、初めての外国語］の中から４単位以上修得する。
●健康医療科学部 言語聴覚学専攻は、言語活用科目［英語、初めての外国語］の中から４単位以上修得する。
●健康医療科学部 視覚科学専攻および理学療法学専攻および臨床検査学専攻は、言語活用科目［英語］の中から４単位以上修得する。
●健康医療科学部 スポーツ・健康医科学科は、言語活用科目［英語、初めての外国語］の中から４単位以上修得する。
●食健康科学部 健康栄養学科は、言語活用科目［英語］の中から４単位以上修得する。
●食健康科学部 食創造科学科は、言語活用科目［英語、初めての外国語］の中から４単位以上修得する。
●福祉貢献学部は、言語活用科目［英語、初めての外国語］の中から４単位以上修得する。
●交流文化学部は、言語活用科目［英語、初めての外国語］の中から４単位以上修得する。
●ビジネス学部は、言語活用科目［英語、初めての外国語］の中から４単位以上修得する。
●グローバル・コミュニケーション学部は、言語活用科目［英語、初めての外国語］の中から４単位以上修得する。（言語活用科目［初めての外国語］の中から２単位以上含む）

5 言語活用科目［初めての外国語］

全学共通履修科目の言語活用科目のうち、英語は特別プログラムを編成しているが、その他の外国語に関しても、入門・基礎レベルの知識を修得し、より多くの外国語への関心を高めることを目的として開設している。

履修上の注意

○所属するキャンパスにて履修する。

言語活用科目［初めての外国語］（2025年度入学者対象）

科目群	ナンバリング	DP番号	科目番号	科　目	単位	履修年次	開講学期	開講最少履修者数	備　考
国際交流センター	1323	DP0	106001	初めての外国語１（ドイツ語）	2	1	前期･後期	5	ドイツ語を第一言語とする者は履修不可
	1323	DP0	106002	初めての外国語２（フランス語）	2	1	前期･後期	5	フランス語を第一言語とする者は履修不可
	1323	DP0	106003	初めての外国語３（ロシア語）	2	1	前期･後期	5	ロシア語を第一言語とする者は履修不可
	1323	DP0	106004	初めての外国語４（スペイン語）	2	1	前期･後期	5	スペイン語を第一言語とする者は履修不可
	1323	DP0	106005	初めての外国語５（イタリア語）	2	1	前期･後期	5	イタリア語を第一言語とする者は履修不可
	1323	DP0	106006	初めての外国語６（ポルトガル語）	2	1	前期･後期	5	ポルトガル語を第一言語とする者は履修不可
	1323	DP0	106007	初めての外国語７（中国語）	2	1	前期･後期	5	中国語を第一言語とする者は履修不可
	1323	DP0	106008	初めての外国語８（韓国・朝鮮語）	2	1	前期･後期	5	韓国・朝鮮語を第一言語とする者は履修不可
	1320	DP0	106009	日本語Ⅰ	2	1	前期	1	日本語を第一言語とする者は履修不可
	1320	DP0	106010	日本語Ⅱ	2	1	後期	1	日本語を第一言語とする者は履修不可

●文学部は、言語活用科目［英語、初めての外国語］の中から４単位以上修得する。
●教育学部は、言語活用科目［英語、初めての外国語］の中から４単位以上修得する。
●創造表現学部は、言語活用科目［英語、初めての外国語］の中から４単位以上修得する。
●建築学部は、言語活用科目［英語、初めての外国語］の中から４単位以上修得する。
●健康医療科学部 言語聴覚学専攻は、言語活用科目［英語、初めての外国語］の中から４単位以上修得する。
なお、「日本語Ⅰ・Ⅱ」は卒業に必要な単位数に算入しない。
●健康医療科学部 視覚科学専攻および理学療法学専攻および臨床検査学専攻は、「日本語Ⅰ・Ⅱ」は卒業に必要な単位数に算入しない。
●健康医療科学部 スポーツ・健康医科学科は、言語活用科目［英語、初めての外国語］の中から４単位以上修得する。
●食健康科学部 食創造科学科は、言語活用科目［英語、初めての外国語］の中から４単位以上修得する。
●福祉貢献学部は、言語活用科目［英語、初めての外国語］の中から４単位以上修得する。
●交流文化学部は、言語活用科目［英語、初めての外国語］の中から４単位以上修得する。
●ビジネス学部は、言語活用科目［英語、初めての外国語］の中から４単位以上修得する。
●グローバル・コミュニケーション学部は、言語活用科目［英語、初めての外国語］の中から４単位以上修得する。（言語活用科目［初めての外国語］の中から２単位以上含む）

6 教職課程科目

教職課程科目は、小学校、中学校、高等学校および栄養教諭の教員免許状取得・学校インターンシップ・教員採用試験対策を目的とした科目である。

教育職員免許状（教員免許状）取得・教職課程科目履修のためには、『教員免許状取得の手引き 教職課程便覧』を熟読し、自分に該当する必要な対面または遠隔によるガイダンスすべてに必ず出席する。遠隔のガイダンスの場合は資料を確認する。

1．履修上の注意

（1）修得した単位は、卒業に必要な単位に算入されない。ただし、教育学科以外の学生が教員免許取得のために「教育原理」「教育制度」など教育学科専門教育科目の単位を修得した場合に限り、他学部他学科開放科目として一定の範囲で卒業に必要な単位（学部認定科目）に算入する。

（2）教職課程科目を履修する場合、対面または遠隔の教職課程科目ガイダンスに出席し、教職課程登録をおこなう。登録方法はガイダンス資料を確認する。

（3）教員免許取得に必要な科目のうち一部の科目は教育学科専門教育科目として開講されるが、教職課程未登録者の履修登録は認めない。また、教員免許の取得を取りやめる場合は、教職・司書・学芸員教育センター（長久手キャンパス）または教学事務室（星が丘キャンパス）に申し出て、教職課程登録の取り下げを行う。

（4）教職課程を有しない学科等は他学科免履修者のみ教職課程科目を履修できる。子ども福祉専攻の学生は「日本国憲法」「スポーツ科学」「健康と運動」の履修は可能だが、それら以外の科目の履修は他学科免履修者のみ認められる。他学科免履修者になるためには副専攻プログラム選考試験に合格しなければならない。

（5）原則として、所属キャンパスで履修する。

（6）子ども福祉専攻専門教育科目で同じまたは類似した名称の科目があるが、これらを履修しても小学校、中学校、高等学校および栄養教諭の教員免許状取得のための単位に算入できないため、注意する（一部、単位を流用することができる科目があるが、詳細は、7月に対面または遠隔で開催される他学科免許状取得ガイダンスで説明）。

（7）教育実習を次年度に実施予定の学生および4年生で、履修すべき科目の曜日時限が重複した場合は、履修登録期間中に教職・司書・学芸員教育センター（長久手キャンパス）または教学事務室（星が丘キャンパス）で相談する。

（8）「教科教育法」は取得する免許状の種類・教科に応じて履修し、単位を修得する。取得する免許状の教科に対応したものでない「教科教育法」を履修する場合、取得する免許状の単位としては認められない。

例：国語の免許状を取得する場合、「英語科教育法」を履修しても、国語の免許状取得のための単位としては認められない。

（9）「教育実習指導」は、教育実習（中・高）の事前指導として位置づけられた必修科目である。次年度に教育実習（中・高）を実施予定の学生は、必ず履修する。

（10）「教育実習指導」「教職実践演習（小・中・高）」「教職実践演習（栄養教諭）」は、取得希望の免許状の種類により、履修する科目を正しく把握し、各自所定の開講年次に必ず履修登録する。

（11）「教育実習Ⅰ」「教育実習Ⅱ」「教育実習（栄養教諭）」「介護等体験」「教職プレパレーション」は事前の教育実習および介護等体験の履修願登録の内容に基づき教務事務室が履修登録を行う。学生自身による履修登録は不要であるが、正しく登録されているかを履修登録期間中に必ず確認する。

（12）「教職プレパレーション」「教職教養Ⅰ」「教職教養Ⅱ」は、教員免許状取得に必要な単位には算入できない。

（13）抽選科目は、受講希望者が定員数を超えた場合、抽選にて履修者を決定する。

（14）以下の①～③に該当する学生は、履修1次登録日に教職・司書・学芸員教育センターに申し出る（申し出方法の詳細は履修登録の注意事項で確認する）。

①教員免許状取得を目指す全学部3・4年生のうち、「日本国憲法」の単位を修得できていない学生

②教員免許状取得を目指す全学部3・4年生のうち、「スポーツ科学」、「健康と運動」のどちらの単位も修得できていない学生

③保育士資格の取得を目指す3・4年生のうち、「スポーツ科学」の単位を修得できていない学生

(15)「スポーツ科学」および「健康と運動」の実施スポーツ種目については、「シラバス」を参照し、種目に適した服装・シューズを各自で準備する。詳細については担当教員の指示に従う。

(16) 屋外種目については、雨天時やコンディションの悪い時は屋内体育施設、教室で授業を行うので、掲示（体育館１階：掲示板）を確認する（長久手キャンパスのみ）。

２．履修条件について

以下の科目については、履修条件があるため注意する。

（１）「日本国憲法」、「スポーツ科学」、「健康と運動」は以下の履修条件がある（教育学科・子ども福祉専攻は除く）。

科目番号	科目名	履修条件
023001	日本国憲法	（１・２年生） 「教職入門」「教育原理」「教育制度」のいずれかの単位を修得済または履修中であること。 （３・４年生） 「教職入門」「教育原理」「教育制度」「道徳指導法」「特別活動指導法」のうち、３科目の単位を修得済または履修中であること。
023003	スポーツ科学	
023004	健康と運動	

（２）「教育実習Ⅰ」「教育実習Ⅱ」は、「教育実習指導」の単位を修得した学生のみ履修を認める。

（３）「教職実践演習(小･中･高)」「教職実践演習(栄養教諭)」を履修するためには次の条件を満たさなければならない。

①教育実習（小・中・高・栄養）を履修中または単位修得済みであること。

②指定した期間に「教職履修カルテ」を提出し、教員との面談を行っていること。

なお、「教職実践演習（小･中･高)」「教職実践演習（栄養教諭)」の単位が認定される学生は、「教育実習（小)」「教育実習Ⅰ」「教育実習Ⅱ」または「教育実習（栄養教諭)」の単位が認定された学生であることを原則とする。

（４）「教職インターンシップⅠ」「教職インターンシップⅡ」は、事前（履修前年度３月頃）のガイダンスに出席し、教員との面談において許可を得た学生のみ、履修をすることができる。履修を認められた者は追加登録期間に各自指定されたクラスで履修登録する。

（５）教科教育法および教育実習に関連する科目は、科目の性質上、以下の履修条件がある。

①以下の科目については、「教職入門」「教育原理」「教育制度」「道徳指導法」「特別活動指導法」のうち、３科目を単位修得済もしくは履修中に限り履修登録を認める。

科目番号	科目名	科目番号	科目名
023239	国語科教育法Ⅰ	023263	保健体育科教育法Ⅲ
023240	国語科教育法Ⅱ	023264	保健体育科教育法Ⅳ
023241	国語科教育法Ⅲ	023245	商業科教育法Ⅰ
023260	国語科教育法Ⅳ	023246	商業科教育法Ⅱ
023258	地歴・社会科教育法Ⅰ	023250	情報科教育法Ⅰ
023259	地歴・社会科教育法Ⅱ	023251	情報科教育法Ⅱ
023230	公民・社会科教育法Ⅰ	023242	英語科教育法Ⅰ
023231	公民・社会科教育法Ⅱ	023249	英語科教育法Ⅱ
023283	数学科教育法Ⅰ	023243	英語科教育法Ⅲ
023284	数学科教育法Ⅱ	023244	英語科教育法Ⅳ
023285	数学科教育法Ⅲ	023238	教育実習指導
023286	数学科教育法Ⅳ	023269	教職教養Ⅰ
023261	保健体育科教育法Ⅰ	023270	教職教養Ⅱ
023262	保健体育科教育法Ⅱ	127014	教育とICT活用（教育学科を除く）

②以下の科目については、「教育実習」「介護等体験」の履修願の登録、または科目履修に係るガイダンスに出席して科目履修を認められた学生のみ履修登録を認める。

科目番号	科目名	科目番号	科目名
023271	教職プレパレーション	023266	介護等体験
023222	教育実習Ⅰ	023293	教職実践演習（小・中・高）
023226	教育実習Ⅱ	023276	教職実践演習（栄養教諭）
023275	教育実習（栄養教諭）		

教職課程科目（2025年度入学者対象）

科目群	科目番号	科　目	必修単位	選択単位	履修年次	開講学期	開講最少履修者数	取得要件	備　考
健康と社会	023001	日本国憲法	2		1	前期･後期	1	幼小中高栄一種免必修	教育学科・子ども福祉専攻以外は以下の履修条件がある。 １・２年生は「教職入門」「教育原理」「教育制度」のいずれかの単位を修得または履修中であること。 ３・４年生は「教職入門」「教育原理」「教育制度」「道徳指導法」「特別活動指導法」のうち、３科目の単位を修得または履修中であること。
	023003	スポーツ科学		2	1	前期	1	幼小中高栄一種免選択必修	
	023004	健康と運動		2	1	後期	1		
教育の基礎的理解に関する科目等	127008	教育原理	2		1	前期	1	小中高栄一種免必修	教育学科専門教育科目 教育学科以外は教職課程登録者のみ（教職課程を有しない学科等および子ども福祉専攻は他学科免履修者のみ）履修可
	023287	教職入門	2		1	前期	1		
	127010	教育制度	2		1	後期	1		教育学科専門教育科目 教育学科以外は教職課程登録者のみ（教職課程を有しない学科等および子ども福祉専攻は他学科免履修者のみ）履修可
	127011	教育心理学	2		2	前期	1		
	127128	発達心理学		2	3･4	前期	1	小中高栄一種免選択	
	127009	特別支援と児童生徒理解	2		3	前期･後期	1	小中高栄一種免必修	
	023288	教育課程	2		2	後期	1		
	023289	道徳指導法		2	1	後期	1	小中栄一種免必修	小一種・中一種免・栄一種免のみ「教育の基礎的理解に関する科目等」の単位として算入できる
	127013	総合的な学習の時間の指導法	2		3	前期･後期	1	小中高栄一種免必修	教育学科専門教育科目 教育学科以外は教職課程登録者のみ（教職課程を有しない学科等および子ども福祉専攻は他学科免履修者のみ）履修可
	023290	特別活動指導法	2		1	前期･後期	1		
	023291	教育方法	2		2	前期･後期	1		
	127014	教育とICT活用	2		3	前期･後期	1	小中高一種免必修	教育学科専門教育科目 教育学科以外は教職課程登録者（教職課程を有しない学科および子ども福祉専攻は他学科免履修者）で、「教職入門」「教育原理」「教育制度」「道徳指導法」「特別活動指導法」のうち、３科目の単位を修得または履修中の学生のみ履修可
	023292	生徒・進路指導	2		2	前期･後期	1	小中高一種免必修	
	023274	生徒指導	2		2	前期	1	栄一種免必修	
	127012	教育相談Ⅰ	2		2	後期	1	小中高栄一種免必修	教育学科専門教育科目 教育学科以外は教職課程登録者のみ（教職課程を有しない学科等および子ども福祉専攻は他学科免履修者のみ）履修可
	127130	教育相談Ⅱ		2	3･4	前期･後期	1	小中高栄一種免選択	
	023238	教育実習指導	2		3	後期	1	中高一種免必修	「教職入門」「教育原理」「教育制度」「道徳指導法」「特別活動指導法」のうち、３科目の単位を修得または履修中の学生のみ履修可 ただし、原則として教育実習実施の前年度に履修する
	023222	教育実習Ⅰ		4	4	通年	1	中一種免必修 高一種免選択必修	別途申込みにより中高の教育実習履修願登録をし、「教育実習指導」の単位を修得した者のみ履修可 履修を認められた者の履修登録は教務事務室が行うので各自で登録は不要
	023226	教育実習Ⅱ		2	4	通年	1	高一種免選択必修	
	023275	教育実習（栄養教諭）	2		4	通年	1	栄一種免必修	別途申込みにより栄養の教育実習履修願登録をした者のみ履修可 履修を認められた者の履修登録は教務事務室が行うので各自で登録は不要
	023293	教職実践演習（小・中・高）	2		4	後期	1	小中高一種免必修	「教育実習（小）」、「教育実習Ⅰ」または「教育実習Ⅱ」を履修中もしくは単位修得済みで、教職履修カルテを提出し、教員との面談を行った学生のみ履修可
	023276	教職実践演習（栄養教諭）	2		4	後期	1	栄一種免必修	「教育実習（栄養教諭）」を履修中または単位修得済みで、教職履修カルテを提出し、教員との面談を行った学生のみ履修可

教職課程科目（2025年度入学者対象）

科目群	科目番号	科　目	必修単位	選択単位	履修年次	開講学期	開講最少履修者数	取得要件	備　考
教科及び教科の指導法に関する科目	023239	国語科教育法Ⅰ		2	2	後期	1	中高一種免(国語)必修	「教職入門」「教育原理」「教育制度」「道徳指導法」「特別活動指導法」のうち、3科目の単位を修得または履修中の学生のみ履修可
	023240	国語科教育法Ⅱ		2	3	前期	1	中一種免(国語)必修 高一種免(国語)選択	
	023241	国語科教育法Ⅲ		2	3	後期	1	中高一種免(国語)必修	
	023260	国語科教育法Ⅳ		2	3	後期	1	中一種免(国語)必修 高一種免(国語)選択	
	023258	地歴・社会科教育法Ⅰ		2	3	前期	1	中一種免(社会)必修 高一種免(地理歴史)必修	
	023259	地歴・社会科教育法Ⅱ		2	3	後期	1	中一種免(社会)必修 高一種免(地理歴史)必修	
	023230	公民・社会科教育法Ⅰ		2	3	前期	1	中一種免(社会)必修	
	023231	公民・社会科教育法Ⅱ		2	3	後期	1	中一種免(社会)必修	
	023283	数学科教育法Ⅰ		2	2	前期	1	中高一種免(数学)必修	
	023284	数学科教育法Ⅱ		2	2	後期	1	中一種免(数学)必修 高一種免(数学)選択	
	023285	数学科教育法Ⅲ		2	3	前期	1	中一種免(数学)必修 高一種免(数学)選択	
	023286	数学科教育法Ⅳ		2	3	後期	1	中高一種免(数学)必修	
	023261	保健体育科教育法Ⅰ		2	2	前期	1	中高一種免(保健体育)必修	
	023262	保健体育科教育法Ⅱ		2	2	後期	1	中一種免(保健体育)必修 高一種免(保健体育)選択	
	023263	保健体育科教育法Ⅲ		2	3	前期	1	中一種免(保健体育)必修 高一種免(保健体育)選択	
	023264	保健体育科教育法Ⅳ		2	3	後期	1	中高一種免(保健体育)必修	
	023245	商業科教育法Ⅰ		2	3	前期	1	高一種免(商業)必修	
	023246	商業科教育法Ⅱ		2	3	後期	1	高一種免(商業)必修	
	023250	情報科教育法Ⅰ		2	3	前期	1	高一種免(情報)必修	「教職入門」「教育原理」「教育制度」「道徳指導法」「特別活動指導法」のうち、3科目の単位を修得または履修中の学生のみ履修可 「情報科教育法Ⅱ」は「情報科教育法Ⅰ」を履修していることが望ましい
	023251	情報科教育法Ⅱ		2	3	後期	1	高一種免(情報)必修	
	023242	英語科教育法Ⅰ		2	2	前期	1	中高一種免(英語)必修	「教職入門」「教育原理」「教育制度」「道徳指導法」「特別活動指導法」のうち、3科目の単位を修得または履修中の学生のみ履修可 「英語科教育法Ⅰ」は1/4期科目2時限連続（前半）
	023249	英語科教育法Ⅱ		2	2	後期	1	中一種免(英語)必修 高一種免(英語)選択	
	023243	英語科教育法Ⅲ		2	3	前期	1	中一種免(英語)必修 高一種免(英語)選択	
	023244	英語科教育法Ⅳ		2	3	後期	1	中高一種免(英語)必修	
大学が独自に設定する科目	023294	教職インターンシップⅠ		4	2-4	通年	1	小中高一種免選択	成績は「合」「否」により評価
	023295	教職インターンシップⅡ		4	3･4	通年	1		「教職インターンシップⅠ」の単位修得者のみ履修可 成績は「合」「否」により評価
	023296	情報モラル教育		2	2･3	前期･後期	1		
	023289	道徳指導法		2	1	後期	1	高一種免選択	高一種免のみ「大学が独自に設定する科目」の単位として算入できる
介護等体験	023266	介護等体験		0	3	通年	1	中一種免必修	教育学科以外の中一種免取得希望者で別途申込みにより介護等体験履修願登録をした者のみ履修可 履修を認められた者の履修登録は教務事務室が行うので各自で登録は不要 成績は「合」「否」により評価

教職課程科目（2025年度入学者対象）

科目群	科目番号	科　目	必修単位	選択単位	履修年次	開講学期	開講最少履修者数	取得要件	備　考
教職教養	023269	教職教養Ⅰ		2	2	後期	3		「教職入門」「教育原理」「教育制度」「道徳指導法」「特別活動指導法」のうち、3科目の単位を修得または履修中の学生のみ履修可 成績は「合」「否」により評価 中学・高等学校教員採用試験受験者対象科目 （詳細は教職課程便覧等で確認すること）
	023270	教職教養Ⅱ		2	4	前期	3		
	023271	教職プレパレーション	1		4	前期	1		別途申込みにより中高・栄養の教育実習実施が認められた者のみ履修可 履修を認められた者の履修登録は教務事務室が行うので各自で登録は不要 「教育実習Ⅰ」「教育実習Ⅱ」または「教育実習（栄養教諭）」と同時に履修すること 1/4期科目 成績は「合」「否」により評価

7 学芸員課程科目

学芸員資格取得のための科目

学芸員の資格は、博物館法並びに同法施行規則によって、学士の学位を有するとともに所定の科目および単位を修得した者に授与される。

学芸員資格取得・学芸員課程科目履修のためには、「司書・学芸員課程便覧 資格取得の手引き」も参照の上、ガイダンス資料を必ず確認する。

（学則第39条）

博物館法施行規則 第１条の科目	単位	本学で開設している授業科目および単位数	
		必修科目	単位
博物館概論	2	博物館概論	2
博物館経営論	2	博物館経営論	2
博物館資料論	2	博物館資料論	2
博物館実習	3	博物館実習	3
生涯学習概論	2	生涯学習概論	2
博物館資料保存論	2	博物館資料保存論	2
博物館展示論	2	博物館展示論	2
博物館教育論	2	博物館教育論	2
博物館情報・メディア論	2	博物館情報・メディア論	2

計19単位

履修上の注意

1. 修得した単位は、卒業に必要な単位に算入されない。
2. 学芸員課程科目を履修する場合、履修開始年度には学芸員課程の登録を行う。課程登録方法等、履修に関する情報はCampusSquareに掲載される学芸員課程ガイダンス資料を確認する。なお、課程未登録者の履修登録は認めない。
3. 学芸員資格の取得を取りやめる場合は、科目履修登録手続きとは別に、教職・司書・学芸員教育センター（長久手キャンパス）または教学事務室（星が丘キャンパス）に申し出て、学芸員課程登録の取り下げを行う。
4. 連絡事項等については、CampusSquareで確認する。
5. 科目により履修条件があるため、カリキュラム表の備考欄を確認する。
6. 「博物館資料論」は、定員があることに留意する。学芸員資格の取得を目指す者で、追加登録でも抽選にはずれた場合は、直ちに教職・司書・学芸員教育センター（長久手キャンパス）・教学事務室（星が丘キャンパス）に申し出る。なお、２年次までに履修しておくべき学芸員課程科目のすべてを履修（「失格」の場合は履修不可）または同時履修していない者は、「博物館資料論」の履修を認めない。
7. 「博物館実習」を履修するには、３年次の11～12月頃に行われる「博物館実習ガイダンス」に必ず出席する。ガイダンスに無断で欠席した者は、「博物館実習」の履修を認めない。
8. 「博物館実習」は、原則として「博物館資料論」と同一担当者で、同一曜日・時限の講義を履修する。また、やむを得ない理由で変更を希望する者は、担当教員と教職・司書・学芸員教育センター（長久手キャンパス）・教学事務室（星が丘キャンパス）に申し出る。なお、３年次までに履修しておくべき学芸員課程科目のすべてを履修できていない者、または同時履修していない者は、「博物館実習」の履修を認めない（「失格」の場合は履修不可）。
9. 「博物館実習」は、大学での講義、実習（前期）に加えて、各博物館での実習、見学や研修（通年）を実施するため、別途、実習費を徴収する。「博物館実習」を履修登録後に、学芸員資格の取得を取りやめる場合は、ただちに学芸員課程登録の取り下げを行う。登録の取り下げを行わない場合、博物館実習費が徴収されるため注意する。詳細は、「博物館実習ガイダンス」において説明する。
10. 学芸員課程科目は、長久手・星が丘の両キャンパスにおいて開講されているが、原則として所属するキャンパスにて履修する。
11. 大学院生については、履修について別途説明があるため、履修予定の年度開始前に教職・司書・学芸員教育センター（長久手キャンパス）・教学事務室（星が丘キャンパス）に申し出る。
12. 学芸員課程科目以外の科目との時間割重複により履修できない科目が生じた場合でも、学芸員課程科目の時間割変更は行わない。履修計画について疑問がある場合は、教職・司書・学芸員教育センターに相談する。

学芸員資格を取得するにあたり、以下のことに注力する。

① 学士の学位を有することが必要であるため、履修登録時は自身の卒業要件を必ず確認する。
② ４年次の「博物館実習」では、土曜日に年６回程度、県内の美術館や博物館の施設見学や展覧会を鑑賞する。また、夏季休暇中に各博物館に依頼した館務実習や、海外・県外研修を実施するため、いずれか１つに必ず参加する。
③ 学芸員としての資質を培うため、所定の科目以外に、専門とすべき科目をつとめて履修しておく。

学芸員課程科目（2025年度入学者対象）

科目群	科目番号	科　目	単位	履修年次	開講学期	開講最少履修者数	取得要件	備　考
	025120	博物館概論	2	1	前期	1	全科目必修	
	025121	博物館経営論	2	1	後期	1		「博物館概論」の単位を修得した学生のみ履修可
	025122	博物館資料論	2	3	後期	1		２年次までに履修しておくべき学芸員課程科目すべてを履修した、あるいは履修中の学生のみ履修可（ただし「失格」の場合は履修不可）
	025123	博物館実習	3	4	通年	1		通年科目 「博物館資料論」と同一担当者で同一曜日・時限の講義を履修する ３年次までに履修しておくべき学芸員課程科目すべてを履修済み、または同時履修の学生のみ履修可（ただし「失格」の場合は履修不可）
	025070	生涯学習概論	2	3	前期･後期	1		
	025124	博物館資料保存論	2	3	前期･後期	1		「博物館経営論」の単位を修得または同時履修の学生のみ履修可
	025125	博物館展示論	2	2	前期	1		「博物館概論」の単位を修得または同時履修の学生のみ履修可
	025126	博物館情報・メディア論	2	2	前期･後期	1		「博物館概論」の単位を修得または同時履修の学生のみ履修可
	025127	博物館教育論	2	2	後期	1		「博物館概論」の単位を修得した学生のみ履修可

8 司書課程科目

司書資格取得のための科目

司書の資格は、図書館法並びに同法施行規則によって、学士の学位を有するとともに所定の科目および単位を修得した者に授与される。

司書資格取得・司書課程科目履修のためには、「司書・学芸員課程便覧 資格取得の手引き」も参照の上、ガイダンス資料を必ず確認する。

科目区分	図書館法施行規則 第１条の科目	本学で開設している授業科目及び単位数			備考
		科目名	必修単位	選択単位	
甲群全科目必修	生涯学習概論	生涯学習概論 ［注１］	2		
	図書館概論	図書館概論	2		
	図書館制度・経営論	図書館制度・経営論	2		
	図書館情報技術論	図書館情報技術論	2		
	図書館サービス概論	図書館サービス概論	2		
	情報サービス論	情報サービス概論	2		
	児童サービス論	児童サービス論	2		
	情報サービス演習	情報サービス演習Ⅰ	2		
		情報サービス演習Ⅱ	2		
	図書館情報資源概論	図書館情報資源概論	2		
	情報資源組織論	情報資源組織論	2		
	情報資源組織演習	情報資源組織演習Ⅰ	2		
		情報資源組織演習Ⅱ	2		
乙群二科目選択必修	図書・図書館史	図書・図書館史		2	
	図書館実習	図書館実習		2	
	図書館サービス特論	図書館サービス特論		2	
	図書館情報資源特論	図書館情報資源特論		2	
	図書館基礎特論	開講せず			
	図書館施設論	開講せず			
	図書館総合演習	開講せず			

［注１］ 学芸員課程科目

履修上の注意

1．修得した単位は、卒業に必要な単位に算入されない。

2．司書課程科目を履修する場合、全単位修得まで毎年度必ずCampusSquareに掲載される司書課程履修者ガイダンス資料を確認する。

3．履修開始年度時には、司書課程の登録を行う。登録方法の詳細は司書課程履修者ガイダンス資料を確認する。なお、課程未登録者の履修登録は認めない。
また、司書資格の取得を取りやめる場合は、科目履修登録手続きとは別に、教職・司書・学芸員教育センター（長久手キャンパス）または教学事務室（星が丘キャンパス）に申し出て、司書課程登録の取り下げを行う。登録の取り下げを行わない場合、オンライン検索実習費が徴収されるため注意する。

4．効果的な演習科目運営のために、別途オンライン検索実習費を徴収する。詳細は、司書課程履修者ガイダンス資料を確認する。

5．連絡事項等については、CampusSquareで確認する。
6．科目により履修条件が異なるため、カリキュラム表の備考欄を確認する。
7．「図書館実習」（３・４年生対象）の履修を希望する学生は、「図書館実習履修前ガイダンス」に必ず出席する（履修登録期間中の登録不可、ガイダンスでの指示に従う）。なお、希望者が定員を超過する場合は選抜を行う。「図書館実習」を履修登録した学生からは、後日実習費を徴収する。
8．「生涯学習概論」と「図書館概論」は、長久手・星が丘の両キャンパスにおいて開講されているが、原則として所属キャンパスにて履修する。なお、「生涯学習概論」の時間割は『時間割表』の「全学共通履修科目（司書）」には掲載されていないため、「全学共通履修科目（学芸員）」の欄を確認する。
9．２年生以上の在学生で新規に履修を希望する者および大学院生については、履修について別途説明があるため、履修予定の年度開始前に教職・司書・学芸員教育センター（長久手キャンパス）・教学事務室（星が丘キャンパス）に申し出る。
10. 司書課程科目以外の科目との時間割重複により履修できない科目が生じた場合でも、司書課程科目の時間割変更は行わない。履修計画について質問等がある場合は、教職・司書・学芸員教育センターに相談する。

司書課程科目（2025年度入学者対象）

科目群	科目番号	科　目	必修単位	選択単位	履修年次	開講学期	開講最少履修者数	取得要件	備　考
甲群	025070	生涯学習概論	2		3･4	前期･後期	1	全科目必修	学芸員課程科目 時間割表の学芸員課程科目のページを見て履修登録する。
	026015	図書館概論	2		1	前期	1		
	026018	図書館制度・経営論	2		2･3	前期	1		
	026019	図書館情報技術論	2		2･3	後期	1		
	026016	図書館サービス概論	2		1	後期	1		
	026020	情報サービス概論	2		2	前期	1		「図書館概論」を履修した学生のみ履修可（ただし「失格」の場合は履修不可）
	026021	児童サービス論	2		2･3	後期	1		
	026029	情報サービス演習Ⅰ	2		2	前期･後期	1		「情報サービス概論」を履修した学生のみ履修可（ただし「失格」の場合は履修不可）
	026030	情報サービス演習Ⅱ	2		3	前期･後期	1		「情報サービス演習Ⅰ」を履修した学生のみ履修可（ただし「失格」の場合は履修不可）
	026017	図書館情報資源概論	2		1	後期	1		
	026023	情報資源組織論	2		2	前期	1		「図書館概論」「図書館情報資源概論」を履修した学生のみ履修可（ただし「失格」の場合は履修不可）
	026031	情報資源組織演習Ⅰ	2		2	前期	1		「情報資源組織論」を履修したあるいは履修中の学生のみ履修可
	026032	情報資源組織演習Ⅱ	2		2	後期	1		「情報資源組織論」を履修した学生のみ履修可
乙群	026025	図書・図書館史		2	3･4	前期	1	二科目選択必修	
	026026	図書館実習		2	3･4	通年	15		「生涯学習概論」以外の甲群の全科目を履修したあるいは履修中の学生のみ履修可（ただし「失格」の場合は履修不可） 履修希望者は図書館実習履修前ガイダンスに出席すること（履修登録期間中の登録不可）
	026027	図書館サービス特論		2	3･4	後期	1		「情報サービス演習Ⅰ・Ⅱ」および「情報資源組織演習Ⅰ・Ⅱ」を履修したあるいは履修中の学生のみ履修可（ただし「失格」の場合は履修不可）
	026028	図書館情報資源特論		2	3･4	後期	1		

9 コンピュータ資格科目

（1）カリキュラム・ポリシー

ITおよび情報管理に関する基礎知識は、現代の情報化社会において必要不可欠であり、そのような知識を身に付けていることを客観的に証明する手段として関連する国家試験や国家検定が利用されている。コンピュータ資格科目では、ITおよび情報管理に関する国家試験・国家検定の合格を支援するためのカリキュラムを編成する。「ITパスポート試験」および「情報セキュリティマネジメント試験」対策については、手厚く丁寧な支援を行うため、学修内容をⅠとⅡに分けて実施する。

コンピュータ資格科目のカリキュラム構成

試験・検定名称	試験・検定概要	科目名
ITパスポート試験	ITを利活用するすべての社会人、これから社会人となる学生が備えておくべきITに関する基礎的な知識が証明できる国家試験。	ITパスポート対策講座Ⅰ ITパスポート対策講座Ⅱ
情報セキュリティマネジメント試験	情報セキュリティマネジメントの計画・運用・評価・改善を通して組織の情報セキュリティ確保に貢献し、脅威から継続的に組織を守るための基本的なスキルを認定する国家試験。	情報セキュリティマネジメント試験対策講座Ⅰ 情報セキュリティマネジメント試験対策講座Ⅱ
ウェブデザイン技能検定（3級）	関連国際標準規格等に基づきウェブデザインに関する知識・技能、実務能力等を問う国家検定。	ウェブデザイン技能検定対策講座

（2）サポート体制

コンピュータに関する基礎的な能力の向上、ならびにIT・情報管理に関する資格取得を支援するため、学習上の不安や疑問点、学習方法、履修モデル等について個別に相談できる「学習クリニック」を設けている。開催日程等の詳細はAI・データサイエンス教育センター（長久手：8号棟3階、星が丘：3号館5・6階）のHPや掲示等で案内する。

学習クリニック	対象者	全学生
	相談方法等	事前申込みは不要。 両キャンパスでの受講可。 積極的な利用を推奨。

（3）ITおよび情報管理に関する資格試験の検定料補助と成績ランクアップ

本学では、ITおよび情報管理に関する資格をできるだけ多くの学生が取得することを推進している。所定の国家試験・国家検定に合格した際には、検定試験料を大学が全額補助する。また、指定する科目の成績評価が「B」「C」「F」であった場合には、「A」にランクアップされる。詳細は、AI・データサイエンス教育センター（長久手：8号棟3階、星が丘：3号館6階）で案内する。

※下記のホームページも参照のこと。

〈AI・データサイエンス教育センターホームページ〉
https://www.aasa.ac.jp/institution/aic/

履修上の注意

○修得した単位は、**卒業に必要な単位に算入されない**。

○所属するキャンパスにて履修する。

○「情報セキュリティマネジメント試験対策講座Ⅰ・Ⅱ」は履修条件があるので、カリキュラム表を確認する。

○成績評価ランクアップが行われた際に、同一科目を再履修している場合、再履修中の科目は登録取り消しとなる。

コンピュータ資格科目（2025年度入学者対象）

●卒業に必要な単位に算入されない科目

科目群	科目番号	科　目	単位	履修年次	開講学期	開講最少履修者数	備　考
資格支援	104129	ITパスポート対策講座Ⅰ	2	1	前期･後期	5	
	104130	ITパスポート対策講座Ⅱ	2	1	前期･後期	5	
	104135	情報セキュリティマネジメント試験対策講座Ⅰ	2	2	前期･後期	5	ITパスポート資格取得者レベル
	104136	情報セキュリティマネジメント試験対策講座Ⅱ	2	2	前期･後期	5	
	104134	ウェブデザイン技能検定対策講座	2	2	前期･後期	5	

●ビジネス学部は、「ITパスポート対策講座Ⅰ・Ⅱ」「情報セキュリティマネジメント試験対策講座Ⅰ・Ⅱ」を履修した場合には、専門教育科目の単位に算入する。

10 会計教育科目

簿記・会計は、ビジネスを語る上で欠かすことのできないコミュニケーション・ツールであり、その技能は業種・職種を問わずあらゆるビジネスシーンで必要とされている。このため、簿記・会計における基礎から応用までの知識と技術の取得を目指し、積極的な支援を行うことで、簿記検定試験（日本商工会議所主催）の合格をサポートしていく。

日商簿記検定の等級レベルに応じ、初級簿記（３級程度)、中級簿記（２級程度)、上級簿記（１級程度）の３講座が開講され、各自の実力にあわせて履修することができる。

履修者は、大学が指定する検定試験日の試験を、各級につき１回に限り無料で受験することができる。さらに、合格した際には、検定試験に先立って履修していた該当級の科目の成績評価が「B」「C」「F」であった場合は、「A」の成績評価にランクアップされる（ただし、**個人申込者・再履修者は対象外**)。なお、学部・大学院の最終年次の学生については、簿記検定試験の合格発表が卒業・修了直前になる場合、成績のランクアップは行わない。

１．履修上の注意

○科目により履修条件があるので、**カリキュラム表の「備考」欄を確認する。**

○「初級簿記」（３．履修スケジュール①・②）は前後期とも両キャンパスで開講されるので、所属するキャンパスにて履修する。２月検定を目標とする「初級簿記」（３．履修スケジュール③）については、長久手キャンパスでのみ開講されるので、所属するキャンパスに関わらず長久手キャンパスで開講される授業を履修する。また、「中級簿記」「上級簿記」「初級簿記演習」「中級簿記演習」は、星が丘キャンパスでのみ開講されるので、所属するキャンパスに関わらず星が丘キャンパスで開講される授業を履修する。

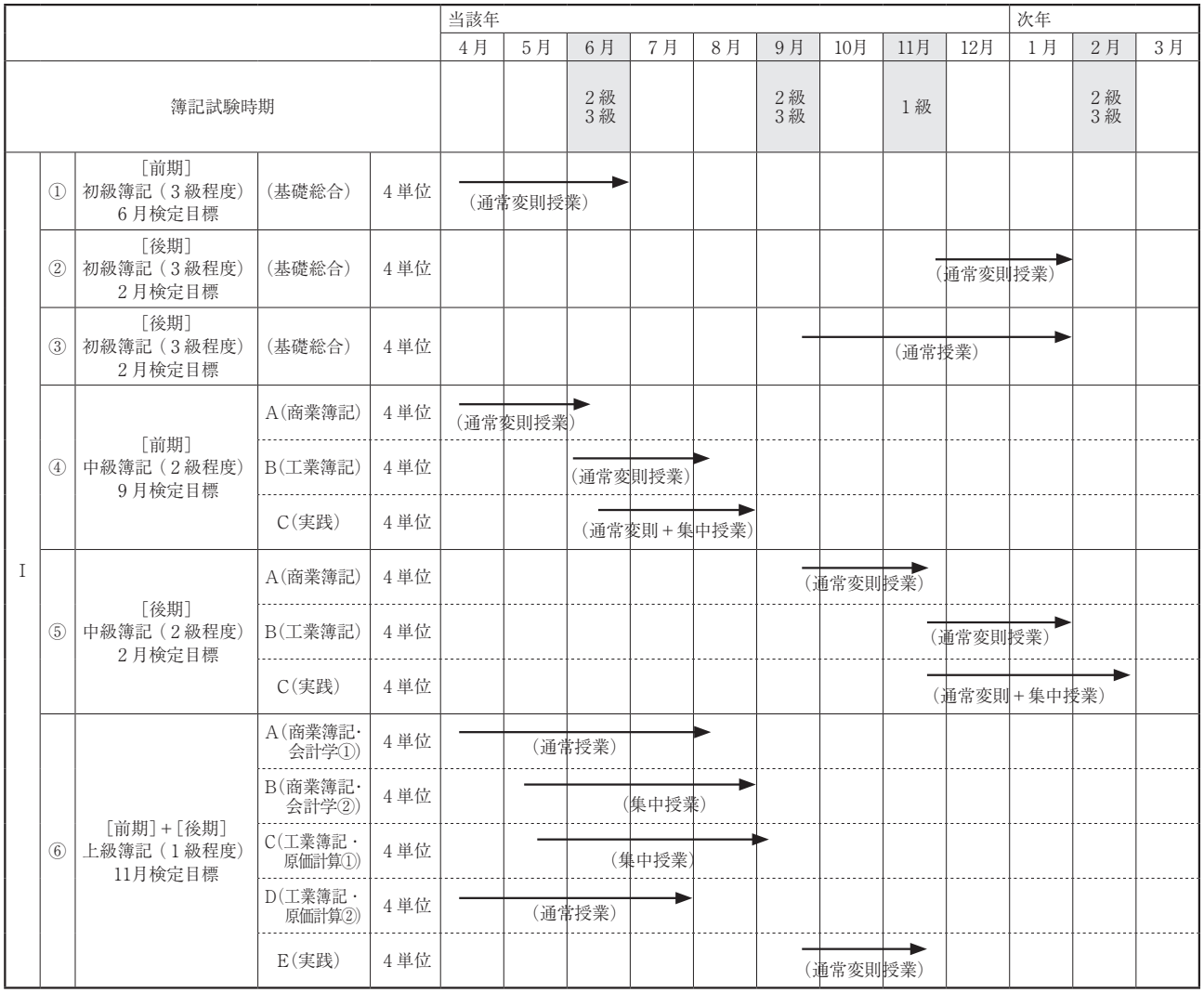
○両キャンパスをまたがって、連続する時間帯の科目を履修することはできない（例：長久手キャンパスで4限目を履修している場合、星が丘キャンパスで５・６限に開講される科目を履修することはできない)。

２．再受験者への支援

日商簿記検定試験３級もしくは２級の再チャレンジを目指す学生のために、通常科目とは別に演習科目（「初級簿記演習」「中級簿記演習A」「中級簿記演習B」）を設け、検定試験合格に向けてのさらなる支援を行う。これらの科目の履修者に対しても、受験料の免除と成績評価のランクアップを同様に行う。**（各ガイダンスに必ず出席する。）**

3．履修スケジュール

各級とも、目標とする検定試験に向けた履修スケジュールを組み、効率的かつ集中的な授業を展開している。開講科目の年間スケジュールについては、以下のとおり。



●「①・②・③初級簿記（３級程度）」

「初級簿記」は1科目のみの開設であり、学生は当該科目を履修し、直後に行われる検定試験（①は6月、②・③は２月）をそれぞれ受験する。

●「④・⑤中級簿記（2級程度）」

「中級簿記」は④のA～Cもしくは⑤のA～Cの３科目セットとして扱う。④のセットを履修した学生は９月に行われる検定試験を受験し、⑤のセットを履修した学生は2月に行われる検定試験を受験する。

前期に履修した「中級簿記A」「中級簿記B」「中級簿記C」の成績評価が「F」だった学生が、後期の「中級簿記A」「中級簿記B」「中級簿記C」を再履修中に９月の検定試験に合格した場合、前期に履修した科目の成績評価を「A」にランクアップし、後期に履修中の科目の登録は取り消される。

●「⑥上級簿記（１級程度）」

「上級簿記」はA～Eの５科目セットとして扱い、4月から11月にかけて開講される。学生は、前期通常授業のAおよびDから履修を開始し、前期集中授業のBおよびCを経て、後期変則授業のEで履修を完了することとし、11月に行われる検定試験を受験する。

					当該年									次年		
					4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
簿記試験時期							2級 3級			2級 3級		1級			2級 3級	
Ⅱ	⑦	［前期］ 初級簿記演習　9月検定試験目標		2単位					（集中授業）							
	⑧	［前期］［後期］ 中級簿記演習 6月・2月検定目標	A（商業簿記）	2単位	（通常変則授業）								（通常変則授業）			
			B（工業簿記）	2単位	（通常変則授業）								（通常変則授業）			

●「⑦初級簿記演習」

「初級簿記演習」は「初級簿記」の単位認定試験を受験済み（失格・欠席を除く）で、簿記検定試験の再受験を希望する学生が履修できる。履修した学生は直後に行われる9月の検定試験を受験する。

●「⑧中級簿記演習」

「中級簿記演習」はA・Bの2科目セットとして扱い、前後期開講される。「中級簿記A」または「中級簿記B」の単位を修得済みで、簿記検定試験の再受験を希望する学生が履修できる。履修した学生は6月・2月に行われる検定試験を受験する。

■目標とする検定試験時期（大学が受験料を負担する試験）

	履修科目	受験級	目標の検定試験
Ⅰ	①初級簿記（3級程度）	3級	当該年の6月
	②初級簿記（3級程度）		次年の2月
	③初級簿記（3級程度）		次年の2月
	④中級簿記（2級程度）A・Bいずれかの履修者	2級	当該年の9月
	⑤中級簿記（2級程度）A・Bいずれかの履修者		次年の2月
	⑥上級簿記（1級程度）A～Dいずれかの履修者	1級	当該年の11月（統一試験）
Ⅱ	⑦初級簿記演習	3級	当該年の9月
	⑧中級簿記演習A・Bいずれかの履修者	2級	当該年の6月または次年の2月

＜備考＞

・大学が受験料を負担するのは、Ⅰ、Ⅱそれぞれにつき、各級ごとに大学が指定した上記検定試験（2級については、初めて「中級簿記」（A・B・Cセットで初めて履修する者を対象とする）を履修した時の目標とする検定試験）の受験1回限りとする。その際、大学窓口を通して受験申し込みを行うことが条件である。成績評価のランクアップは、この場合に限り対象とする。

・目標とする検定試験に受験することを前提とするため、受験の延期は認めない。

・なお、目標とする6月、9月、2月の検定試験は学外でネット試験を実施する予定である。

・大学窓口を通して受験申し込みを行わなかった検定試験はランクアップの対象としない。

※　ランクアップ・受験料負担の詳細については、会計教育部門ホームページ（https://www.aasa.ac.jp/institution/kaikei/）を確認する。

会計教育科目（2025年度入学者対象）

科目群	ナンバリング	DP番号	科目番号	科　目	単位	履修年次	開講学期	開講最少履修者数	卒業要件もしくは取得要件	備　考
資格取得支援	1430		113001	初級簿記（３級程度） ＊基礎総合	4	1	前期･後期	1		２時限連続の授業を週２回の1/4期科目（前期・後期） ２時限連続の授業を週１回の1/2期科目（後期のみ）
	2430		113002	中級簿記（２級程度）A ＊商業簿記	4	1･2	前期･後期	1		日商簿記検定３級レベルの力を有する者を対象とする ２時限連続の授業を週２回の1/4期科目 中級簿記A～Cまで１セットとして履修することが望ましい。
	2430		113003	中級簿記（２級程度）B ＊工業簿記	4	1･2	前期･後期	1		
	2430		113004	中級簿記（２級程度）C ＊実践（試験直前対策）	4	1･2	前期･後期	1		中級簿記AまたはBの履修者を対象とする 中級簿記A～Cまで１セットとして履修することが望ましい。
	3430		113005	上級簿記（１級程度）A ＊商業簿記・会計学①	4	1･2	前期	1		日商簿記検定２級レベルの力を有する者を対象とする 上級簿記A・Dは２時限連続の授業を週２回の1/2期科目 上級簿記A～Eまで１セットとして履修することが望ましい。
	3430		113006	上級簿記（１級程度）B ＊商業簿記・会計学②	4	1･2	前期	1		
	3430		113007	上級簿記（１級程度）C ＊工業簿記・原価計算①	4	1･2	前期	1		
	3430		113008	上級簿記（１級程度）D ＊工業簿記・原価計算②	4	1･2	前期	1		
	3430		113009	上級簿記（１級程度）E ＊実践（試験直前対策）	4	1･2	後期	1		上級簿記A～Dの４科目の中から１科目以上を履修した学生を対象とする ２時限連続の授業を週２回の1/4期科目 上級簿記A～Eまで１セットとして履修することが望ましい。
再受験支援	1430		113010	初級簿記演習	2	1･2	前期	1		初級簿記の単位を修得または単位認定試験を受験した学生（失格・欠席を除く）で、簿記検定試験の再受験を希望する学生のみ履修可 履修希望者は、後日掲示の指示に従って説明会に参加し、別途申込をする。 履修を認められた者の履修登録は教学事務室が行うので各自で登録は不要。原則、取消不可。
	2430		113011	中級簿記演習A ＊商業簿記	2	1･2	前期･後期	1		中級簿記AまたはBの単位を修得した学生で、簿記検定試験の再受験を希望する学生のみ履修可 ２時限連続の1/4期科目 ・前期開講履修希望者は通常の履修登録の方法で履修登録する。 ・後期開講履修希望者は、後日掲示の指示に従って説明会に参加し、別途申込をする。 ・履修を認められた者の履修登録は教学事務室が行うので各自で登録は不要。原則、取消不可。 ・中級簿記演習A・Bを１セットとして履修することが望ましい。
	2430		113012	中級簿記演習B ＊工業簿記	2	1･2	前期･後期	1		

●ビジネス学部の学生が「初級簿記」（星が丘キャンパス開講授業に限る）「中級簿記A」「中級簿記B」「中級簿記C」を履修した場合には、ビジネス学部専門教育科目の単位に算入する。

開放科目・単位互換科目

AICHI SHUKUTOKU UNIVERSITY

1 他学部・他学科開放科目

他学部・他学科開放科目とは、所属学部・学科（専攻）以外の専門教育科目で、受講することができる科目のことであり、学部・学科（専攻）の枠を超えて、多様な学修意欲に応える制度である。他学部・他学科開放科目として修得した単位は、一定の範囲で卒業に必要な単位（学部認定科目）に算入する（大学学則第32条）。

履修上の注意

○ 『時間割表』で開講年組の欄に指定があり、通常の履修登録の方法では、エラーとなり登録できない場合は、教務事務室・教学事務室にて別途申し出の上、登録手続きを行う。なお、この方法で登録した場合は、各自で取り消しできないので、やむを得ず取り消しを希望する場合は、教務事務室・教学事務室に申し出る。

○ 受講希望者が多い場合は、開設している学科・専攻の学生の履修を優先する。履修を希望しても認められないことがあるため、履修登録の結果は各自必ずCampusSquareの「履修（履修登録・登録状況照会）」で確認する。

○ 追加登録は一次登録の結果、空席がある科目に限り登録を認める。空席状況はCampusSquareのリンク「履修登録の注意事項」で発表する。

○ 異なるキャンパスの科目を履修する際は、キャンパス間の移動に要する時間を考慮する。

「他学部・他学科開放科目一覧」は毎年３月下旬にCampusSquareに掲載される。

2 研究科開放科目

研究科開放科目とは、本学の研究科が開放科目として指定した科目で、３年次終了時の全修得単位数が110単位以上の４年次の学生が大学院科目等履修生として履修することができる。

履修上の注意

○ 大学院の授業科目の概要は、CampusSquareの「シラバス」より参照する。

○ 履修登録の結果は、各自必ずCampusSquareの「履修（履修登録・登録状況照会）」で確認する。

○ 異なるキャンパスの科目を履修する際は、キャンパス間の移動に要する時間を考慮して登録する。

○ 修得した単位は、卒業要件単位には含まれない。ただし、科目を開設している研究科に入学した場合は、入学後、所定の手続きにより当該研究科の単位として認定することができる。単位認定に関する詳細は、大学院履修要覧を参照する。

「研究科開放科目一覧」は毎年３月下旬にCampusSquareに掲載される。

3 愛知学長懇話会単位互換科目

愛知県内の国公私立大学相互の単位互換協定に基づき、各大学が一部の科目を他大学の学生に無料で開講(ただし、選考あり)し、履修することを認めている。修得した単位は学生の所属する大学の定めに従って、所属する大学の単位として認定する。

(1)手続きは下記のとおり。

① 申込方法
開講大学名・開講科目名など、詳しくは愛知学長懇話会ホームページで確認する。
受講する場合は所定の期日までに教務事務室・教学事務室に申し出る。期日等はCampusSquare、掲示で発表する。
不明な点は、教務事務室・教学事務室に問い合わせる。
なお、本学で卒業要件単位を満たすことを前提として申し込む。
本学の授業を優先する。従って、他大学での受講は余暇時間を利用する。
途中で開講科目の受講を放棄することのないように、交通経路・ダイヤ・生活スケジュール等を十分に検討したうえで申し込む。
申込は全学年可能であるが、1年生は後期開講科目、4年生は前期開講科目のみ申し込み可とする。ただし、9月卒業を予定している4年生は前期開講科目の申し込みは不可。
また、過去に同一の開講大学で受講した同一科目を、再度、受講することはできないので注意すること。

② 履修方法
開講する大学の定めたとおりとする。

③ 単位認定試験
開講する大学の定めたとおりとする。

④ 学費
受講料は無料とする。ただし、交通費・教科書代金・教材費等の受講に関わる諸費用はすべて個人が負担する。

⑤ 問い合わせ
受講に関する問い合わせは、必ず、教務事務室・教学事務室に相談する。学生本人が、直接、開講大学あるいは愛知学長懇話会事務局へ問い合わせない。

(2)開講大学で修得した単位は、学部認定科目として卒業に必要な単位に算入する。ただし、教職課程科目・学芸員課程科目・司書課程科目・コンピュータ資格科目・会計教育科目に該当する科目については、修得しても卒業に必要な単位に算入しない。また、開講大学の開設科目の単位修得の可否によって、卒業に支障をきたすことのないように注意する。

(3)修得単位数の上限は、在籍中に10単位とする。

(4)成績評価は、開講大学の成績評価(原則として素点評価)に基づき、本学の成績評価に読み替え、単位を認定する。単位数は、1科目につき半期2単位として認定する。ただし、開講大学で半期1単位として認定する場合は1単位とする。また、通年で4単位履修した場合は4単位とする。

4 放送大学単位互換科目

本学と放送大学との単位互換協定に基づき、本学の学生が特別聴講学生として放送大学の授業を履修することを認め、修得した単位を本学の単位として認定する。

（1）手続きは下記のとおり。

① 申込方法
単位互換科目は、放送大学で開講している全科目が対象である。開講科目・授業内容など詳しくは学生募集要項で確認する(教務事務室・教学事務室にて配付)。
受講を希望する場合は、所定の期日までに教務事務室・教学事務室に申し出る。
前期履修申込は前年度の12月頃、後期履修申込は６月頃になるが、詳しくはCampusSquare、掲示で発表する。
不明な点は、教務事務室・教学事務室に問い合わせる。
途中で開講科目の受講を放棄することのないように、十分に検討したうえで申し込む。
申込は全学年可能であるが、1年生は後期開講科目、4年生は前期開講科目のみ申し込み可とする。
ただし、9月卒業を予定している4年生は前期開講科目の申し込みは不可。
既に放送大学で単位を修得した科目は、再び登録することはできない。

② 履修方法
「放送授業」「オンライン授業」によって実施される。詳細は、教務事務室・教学事務室に問い合わせること。
通信指導は、決められた課題についてレポートを提出し、授業担当者の通信添削を受ける。

③ 単位認定試験
単位認定試験は、各学期末に実施され、試験の結果60点以上の者が合格となり、単位が認定される。

④ 学費
授業料は、履修する科目数に応じて決まり、学期が始まる前に納入する。

⑤ 問い合わせ
放送大学単位互換科目に関する問い合わせは、必ず、教務事務室・教学事務室に相談する。学生本人が、直接、放送大学事務局へ問い合わせない。

（2）放送大学で修得した単位は、学部認定科目として卒業に必要な単位に算入する(上限10単位)。ただし、教職課程科目・学芸員課程科目・司書課程科目・コンピュータ資格科目・会計教育科目に該当する科目については、修得しても卒業に必要な単位に算入しない。また、放送大学の開設科目の単位修得の可否によって、卒業に支障をきたすことのないように注意する。

（3）成績評価は、放送大学の成績評価に基づき、本学の成績評価に読み替え、単位を認定する。単位数は、１科目につき半期２単位とする。

（4）通信指導が不合格（未提出）の場合、または単位認定試験が不合格だった場合は、次学期において必ず再度受験等を行わなければならない（授業料の再納付は不要)。ただし、オンライン授業科目（一部を除く）は、単位認定試験の対象ではないため、再試験は行わない。該当する学生は、速やかに教務事務室・教学事務室へ申し出る。

カリキュラムと卒業要件

文学部カリキュラムと卒業要件

AICHI SHUKUTOKU UNIVERSITY

1 ディプロマ・ポリシー（人材養成像）

文学部　国文学科

学位授与方針

文学部国文学科は、〈言葉の力〉を不断に練磨することにより、〈創造的思考力〉とその基盤をなす知的・文化的遺産に関する深い知識を身につけて、社会の発展に寄与できる優れた人材を育成することを教育目的とし、以下の能力を修得した学生に学士の学位を授与する。

（1）文学・文化・歴史をはじめとする人類の知的営みを尊重し、自ら主体的に探究し活用する精神を不断に持ち続けることができる。**（関心・意欲・態度）**

（2）〈創造的思考力〉すなわち「物事の本質を認識する力」、「問題を分析し情報を整理する力」、「課題を発見し解決策を導き出す力」、「論証を通して自分の考えを伝える力」を発揮できる。**（思考・判断・技能）**

（3）日本の知的・文化的遺産を正しく継承し、世界に開かれ繋がりあう現代社会に対して深く多面的に洞察することができる。**（知識・理解）**

（4）〈言葉の力〉を不断に練磨することができる。**（表現・態度）**

求める能力

文学部国文学科では、日本の古典文学、近・現代文学、国語学及び中国文学に関する基礎的かつ専門的な教育研究を行う。これにより、読解力を深化させて総合的な認識力・判断力・批判力を身につけるとともに、情報収集・整理・批判能力を体得させ、知性と感性を磨いて豊かな人間性を涵養し、もって社会に貢献できる有為の人材を育成することを目指し、以下の能力の修得を求める。

（1）国文学に関して幅広い知識を習得し、我が国の文化、歴史および伝統に対する理解と関心を深めることができる。**（知識・理解）**

（2）文学作品または言語現象の中から新たな問題を発見し、自ら調べ考えることによって解答を導き出すことができる。**（関心・意欲）**

（3）自らの考えを論理的かつ効果的に、文章で表現することができる。**（思考・判断）**

（4）ディスカッションやプレゼンテーションに見られる、口頭でのコミュニケーション力を発揮できる。**（技能・表現・態度）**

（5）キャリアに必要な素養を身につけ、また国文学の知識と魅力とを教示する力を備えることができる。

年次ごとの教育目標

（1）１年次は、〈基礎科目〉等を通じて、国文学の基礎的な知識・技能を習得する。

（2）２年次は、国文学の各時代・分野を幅広く学びながら各自の興味・関心を深めるとともに、選択した科目のレポート等の課題に取り組みながら自らの考えを論理的文章にまとめる鍛練を積む。

（3）３年次は、各ゼミを通じて、専門分野の研究方法に習熟する。加えて、発表・討議を繰り返しながらコミュニケーション能力を高め、レポート等についての添削指導を受けながら文章表現力を向上させる。

（4）４年次は、大学における学修の総決算として、学術的価値を有する卒業論文を完成させる。その過程で、社会人に必須の創造的思考力を身につけるとともに、20,000字以上に及んで論理一貫した文章を構成する力を獲得する。

（5）卒業論文の評価項目・指標（基準）は以下の通り。

評価項目	評価基準	評　価
知識・理解	文学・語学に関する知識・知見の豊かさと文化、歴史、伝統に対する理解度	A＋・A・B・C・F
関心・意欲	文学作品・言語現象に関する課題発見能力と調査・分析力および課題解決能力	A＋・A・B・C・F
思考・判断	自らの考えを論理的かつ効果的に展開し、文章で表現することができる力	A＋・A・B・C・F
技能・表現	ディスカッション・プレゼンテーションなどの口頭でのコミュニケーション能力	A＋・A・B・C・F
学術的価値	創造的思考力と論理的文章力に支えられた学術的価値をもつ論文としての完成度	A＋・A・B・C・F

2　カリキュラム・ポリシー（ディプロマ・ポリシーに整合し、それを保証するカリキュラムの体系性を記したもの）

文学部国文学科は、表現力と読解力を錬磨することにより、現代社会に対する洞察力と創造的思考力を身につけ、社会に貢献できる優れた人材を育成する。本学科の求める４つの能力の修得のために、以下のような方針でカリキュラムを編成する。

古典文学／近・現代文学／国語学／中国文学の各領域を、段階・目的別に〈基礎科目〉〈基幹科目〉〈基本科目〉〈展開科目〉〈実践科目〉〈中核科目〉〈国文学教養科目〉へと分類し、体系的な学修ができるように教育課程を編成することで、**「国文学に関して幅広い知識を習得し、我が国の文化、歴史および伝統に対する理解と関心を深めることができる（知識・理解）」**能力を身につけられるようにする。

この目標を実現するために、必修科目として「演習Ⅰ」（３年次）、「演習Ⅱ」（４年次）、「文献講読演習」（４年次）および「卒業論文」（４年次）からなる〈中核科目〉群を開講する（ただし、「卒業論文」を除いて選択必修科目）。これは各自の興味と関心に応じて自由に科目を選択し学修することで、**「文学作品または言語現象の中から新たな問題を発見し、自ら調べ考えることによって解答を導き出すことができる（関心・意欲）」**能力を主体的に伸ばしていく機会を多く設けるためである。

さらに、**「自らの考えを論理的かつ効果的に、文章で表現することができる（思考・判断）」**能力と**「ディスカッションやプレゼンテーションに見られる、口頭でのコミュニケーション力を発揮できる（技能・表現・態度）」**能力を会得するためには、土台となる文章表現や論理的思考に関わる基礎的な力をまずは固めておく必要がある。導入教育の一環として、〈基礎科目〉群を開講し、「日本語表現１　２」を１年次の必修としてアクティブ・ラーニングなどの手法を用いながら、適切な方法によって自ら発信する力を涵養する。

そして国文学の深い理解に欠かせない歴史や国内外の言語文化の知識を身につけ、専門性と広い視野とをあわせ持つ人材を育成するため、〈国文学教養科目〉群を開講する。

これら**４つの能力**については、必修科目である「演習Ⅰ」、「演習Ⅱ」および「文献講読演習」における少人数教育を通じてさらなる習熟をはかり、その成果を卒業論文として結実させることとする。

なお、本学科の求める**４つの能力**はあらゆる「社会に貢献できる有為の人材」にとって欠かすことのできないものであるが、その能力をより生かすことのできる道のひとつに、教育職員という職業がある。その志望者のために、国語科教育について豊かな経験を有する教員が担当する〈実践科目〉群を開講する。教育職員以外の進路については、３年次必修科目「キャリアプランニング」で自らが活躍できる場を意識させる機会を設ける。

3 アドミッション・ポリシー

文学部　国文学科

①学生に期待すること

文学作品を深く鑑賞する感性と、自らの考えを適切な表現によって文章化し得る能力を高め、社会の発展に寄与する人材となることを期待する。

②学生募集に際して重視すること

書物と主体的に向かい合う姿勢や、自身の意見を論理的な文章によって書き表す能力を有すること。また、その前提となる基本的な文章読解力や語彙力が身に付いていることを重視する。

③入学前学習として推奨すること

図書館などを大いに活用し、書物の世界に慣れ親しむこと。また、読後に要点や感想などを書き出してまとめ、思考力と文章力を養うことも推奨する。

4 卒業に必要な単位（卒業要件単位数）

本学の文学部を卒業するためには、4年以上在学（休学期間は含まない）し、**124単位**以上修得しなければならない（「愛知淑徳大学学則第47条」）。その内訳は次の表のとおりである。

■2025年度入学者

授業科目の種類			国文学科
専門教育科目			87単位以上 （必修17単位、選択必修12単位を含む）
全学共通履修科目	基幹科目	違いを共に生きる科目	6単位以上 （「違いを共に生きる・ライフデザイン」「AI・データサイエンス入門［M］」「コンピュータリテラシーⅠ」必修6単位を含む。）
		AI・データサイエンス科目	
	アクティブラーニング科目	国際交流センター開設科目	2単位以上 （日本語表現1．2は専門教育科目の必修科目として設定）
		CCC開設科目	
		キャリアセンター開設科目	
		ダイバーシティ共生センター開設科目	
		学修・教育支援センター開設科目	
	スキル科目	言語活用科目（英語）	4単位以上
		言語活用科目（初めての外国語）	
学部認定科目		他学部・他学科開放科目	0単位以上
		愛知学長懇話会単位互換科目（上限10単位）	
		放送大学単位互換科目（上限10単位）	
合　計			124単位以上

※　専門教育科目の卒業要件単位の詳細はカリキュラム表を参照する。

なお、以下の表にある科目は、**卒業に必要な単位に算入されない**ため、注意する。

①言語活用科目（英語） 「Introduction to English」	②教職課程科目	③学芸員課程科目
④司書課程科目	⑤コンピュータ資格科目	⑥会計教育科目
⑦研究科開放科目	⑧文学部国文学科専門教育科目 「学びなおし古文」「学びなおし漢文」	⑨建築学部建築学科専門教育科目 「基礎数学」
⑩食健康科学部専門教育科目 「基礎化学」「基礎生物学」		

5 履修上の注意（国文学科）

① 卒業に必要な単位数について

卒業に必要な単位数（卒業要件単位数）は、124単位である。内訳については、該当ページを熟読する。

② 学修成果判定テストについて

卒業年次の卒業論文提出後、１月下旬ごろに学修成果判定テストを行う。不合格者には再試験を課す。

③ 履修年次について

a　各科目は履修年次が指定されているので、カリキュラム表で確認する。

b　上級年次開講の科目は履修することができないが、下級年次開講の科目は履修することができる。したがって、不合格の場合は同一科目を再度履修することができる。

c　一部の科目は履修年次とともに履修クラスが指定されている。入学時に決められた自分のクラスを確認し、必ず指定された曜日・時限で履修すること。下級年次開講の科目を受講する場合は、クラス指定による制限を受けない。

④ 「国文学特殊講義6a」「国文学史（1）b」の履修について

これら２科目は、それぞれ以下のとおり創造表現学部創作表現専攻の「現代短歌」「日本文学史a」との合併授業となる。

	国文学科の科目名	創作表現専攻の科目名
1	国文学特殊講義6a（2027年度～）	現代短歌
2	国文学史（1）b	日本文学史a

このことに伴い、国文学科の学生は、創作表現専攻の開放科目のうち、「現代短歌」「日本文学史a」は履修できないので注意すること。

1 年 生

① 「大学の学び入門－文学と共に生きる－a」「日本語表現１」「違いを共に生きる・ライフデザイン」「コンピュータリテラシーⅠ」は１年次前期の必修科目なので、１年次前期に必ず履修する。

② 新入生ガイダンスで実施する「古文・漢文チェックテスト」の結果に基づく履修指導を受けた者は、「学びなおし古文」「学びなおし漢文」を１年次前期に必ず履修する。

③ 「大学の学び入門－文学と共に生きる－b」「日本語表現２」「AI・データサイエンス入門［M］」は１年次後期の必修科目なので、１年次後期に必ず履修する。

④ アクティブラーニング科目の卒業要件単位数（２単位以上）、スキル科目（英語、初めての外国語）の卒業要件単位数（４単位以上）は、１・２年次において修得することが望ましい。

⑤ 必修科目の他は、原則として国文学科専門科目を優先して履修する。１年次から２年次までは専門教育科目の中から時代や分野を問わず、幅広く履修することが望ましい。

2 年 生

① 「国文学概論a・b」は、2025年度入学者より２年次の必修科目となるので、必ず履修する。

② 必修科目の他は、原則として国文学科専門科目を優先して履修する。とりわけ基本科目（「カリキュラム表（国文学科専門科目）」を参照）は、２年次後期に３年次ゼミを選択する際の重要な判断材料になりうる。

3・4 年 生

① 「キャリアプランニング－国文学科での学びと社会で生きること－」は３年次前期の必修科目なので、３年次前期に必ず履修する。

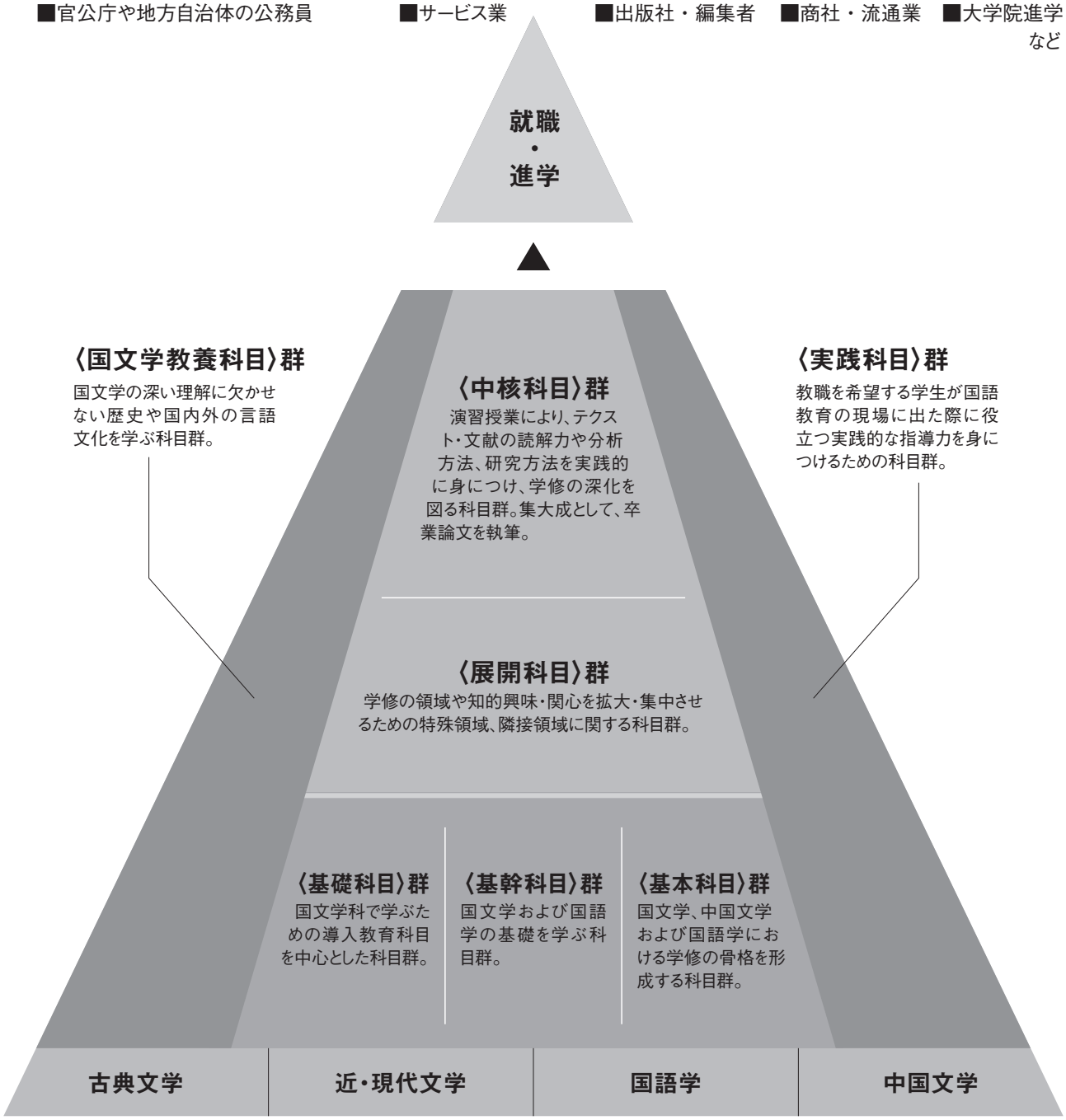
② 「演習Ⅰa・b」（３年次：前期２単位・後期２単位）および「演習Ⅱa・b」「文献講読演習a・b」（いずれも４年次：前期２単位・後期２単位）は選択必修科目である。ただし「演習Ⅱa・b」と「文献講読演習a・b」は同一の教員のものを選択しなければならない。演習は、学生相互および学生と教員とが質疑討論を交わしながら、知識と研究方法を修得して学修を深めるための授業形態であり、教育課程の中核をなすものである。

③ 「演習Ⅰa・b」「演習Ⅱa・b」の履修科目決定方法については、それぞれ前年次の後期にガイダンスを行う。

④ 「卒業論文」（４単位・必修）は「演習Ⅰa・b」「演習Ⅱa・b」「文献講読演習a・b」を履修した学生が４年次の指定された期間に提出し、提出後、口述試験（卒業認定試験に充当）に合格した場合に限り、４単位の修得を認める。指導は、学生の志望する作家・作品テーマ等に応じて、「文献講読演習」の担当教員が分担して行う。指導教員の決定方法については、３年次後期にガイダンスを行う。

⑤ ゼミは、原則として変更できないが、特段の事情があり、履修に支障をきたさない場合に限り、変更を認める場合がある。変更を希望する場合は、教務委員に申し出る。

■中学校・高等学校・小学校等の教員　■一般事務職　■マスコミ関連企業　■金融・保険業　■メーカー
■官公庁や地方自治体の公務員　■サービス業　■出版社・編集者　■商社・流通業　■大学院進学
など



6 カリキュラム表（国文学科 専門教育科目）

科目群	ナンバリング	DP番号	科目番号	科　目	必修単位	選択単位	履修年次	開講学期	開講最少履修者数（目安）	卒業要件	備　考
基礎科目	1100	DP3	108003	日本語表現１	2		1	前期	1		時間割表のアクティブラーニング科目のページを見て、クラスにしたがって履修登録する。
	1100	DP3, DP4	108004	日本語表現２	2		1	後期	1		
	1110	DP1, DP3, DP4	033049	大学の学び入門－文学と共に生きる－a	2		1	前期	1		
	1110	DP1, DP3, DP4	033050	大学の学び入門－文学と共に生きる－b	2		1	後期	1		
	1110	DP1	033002	古典基礎		2	1	後期	10		
	1110	DP1	033004	漢文基礎		2	1	後期	10		
	1110	DP1	033051	くずし字読解a		2	1	前期	10		
	1110	DP1	033052	くずし字読解b		2	1	後期	10		
	1120	DP1, DP5	030981	国文学と情報技術		2	1	後期	5		
基幹科目	2130	DP1	030391	国文学概論a	2		2	前期	1		
	2130	DP1	030392	国文学概論b	2		2	後期	1		
	2130	DP1	030021	国文学史（1)a		2	3	前期	10		
	2130	DP1	030022	国文学史（1)b		2	3	後期	10		創作表現専攻との合併授業。詳細は履修要覧P.61「履修上の注意」を参照すること。
	2130	DP1	030031	国文学史（2)a		2	2	前期･後期	10		時間割掲載のクラス指定と開講期にしたがって履修する。
	2130	DP1	030032	国文学史（2)b		2	2	前期･後期	10		
	2130	DP1	030501	国語概説（音声言語及び文章表現を含む)a		2	1	前期	10		
	2130	DP1	030502	国語概説（音声言語及び文章表現を含む)b		2	1	後期	10		
	2130	DP3	030131	文章表現a		2	3	前期	10		
	2130	DP3	030132	文章表現b		2	3	後期	10		
基本科目	2210	DP1, DP2	030281	国文学講義（1）上代a		2	2	前期	10		
	2210	DP1, DP2	030282	国文学講義（1）上代b		2	2	後期	10		
	2220	DP1, DP2	030291	国文学講義（2）中古a		2	2	前期	10		
	2220	DP1, DP2	030292	国文学講義（2）中古b		2	2	後期	10		
	2230	DP1, DP2	030301	国文学講義（3）中世a		2	1	前期	10		
	2230	DP1, DP2	030302	国文学講義（3）中世b		2	1	後期	10		
	2240	DP1, DP2	030311	国文学講義（4）近世a		2	2	前期	10		
	2240	DP1, DP2	030312	国文学講義（4）近世b		2	2	後期	10		
	2310	DP1, DP2	030323	国文学講義（5）近代Ⅰa		2	1	前期	10		
	2310	DP1, DP2	030324	国文学講義（5）近代Ⅰb		2	1	後期	10		
	2320	DP1, DP2	030982	国文学講義（6）近代Ⅱa		2	1	前期	10		

科目群	ナンバリング	DP番号	科目番号	科　目	必修単位	選択単位	履修年次	開講学期	開講最少履修者数（目安）	卒業要件	備　考
基本科目	2320	DP1, DP2	030983	国文学講義（6）近代Ⅱb		2	1	後期	10		
	2330	DP1, DP2	030984	国文学講義（7）現代a		2	2	前期	10		
	2330	DP1, DP2	030985	国文学講義（7）現代b		2	2	後期	10		
	2400	DP1, DP2	030951	国語学講義a		2	2	前期･後期	10		時間割掲載のクラス指定と開講期にしたがって履修する。
	2400	DP1, DP2	030952	国語学講義b		2	2	前期･後期	10		
	2500	DP1, DP2	030721	中国文学講義a		2	2	前期	10		
	2500	DP1, DP2	030722	中国文学講義b		2	2	後期	10		
展開科目	2140	DP1, DP2	033053	和歌文学a		2	2	前期	10		
	2140	DP1, DP2	033054	和歌文学b		2	2	後期	10		
	2140	DP1, DP2	033055	批評理論		2	2	前期･後期	10		時間割掲載のクラス指定と開講期にしたがって履修する。
	2140	DP1, DP2	033056	言語学a		2	2	前期	10		
	2140	DP1, DP2	033057	言語学b		2	2	後期	10		
	2140	DP1, DP5	030711	書道（書写を中心とする）a		2	3	前期	5		
	2140	DP1, DP5	030712	書道（書写を中心とする）b		2	3	後期	5		
	2140	DP5	030988	キャリアプランニング －国文学科での学びと社会で生きること－	1		3	前期	1		成績は「合」「否」により評価 1/4期科目
	2140	DP1, DP2	033058	国文学特殊講義1a		2	3･4	前期	10		
	2140	DP1, DP2	033059	国文学特殊講義1b		2	3･4	後期	10		
	2140	DP1, DP2	033060	国文学特殊講義2a		2	3･4	前期	10		
	2140	DP1, DP2	033061	国文学特殊講義2b		2	3･4	後期	10		
	2140	DP1, DP2	033062	国文学特殊講義3a		2	3･4	前期	10		
	2140	DP1, DP2	033063	国文学特殊講義3b		2	3･4	後期	10		
	2140	DP1, DP2	033064	国文学特殊講義4a		2	3･4	前期	10		
	2140	DP1, DP2	033065	国文学特殊講義4b		2	3･4	後期	10		
	2140	DP1, DP2	033066	国文学特殊講義5a		2	3･4	前期	10		
	2140	DP1, DP2	033067	国文学特殊講義5b		2	3･4	後期	10		
	2140	DP1, DP2	033068	国文学特殊講義6a		2	3･4	前期	10		創作表現専攻との合併授業。詳細は履修要覧P.61「履修上の注意」を参照すること。
	2140	DP1, DP2	033069	国文学特殊講義6b		2	3･4	後期	10		

科目群	ナンバリング	DP番号	科目番号	科　目	必修単位	選択単位	履修年次	開講学期	開講最少履修者数（目安）	卒業要件	備　考
展開科目	2140	DP1, DP2	033070	国文学特殊講義7a		2	3･4	前期	10		
	2140	DP1, DP2	033071	国文学特殊講義7b		2	3･4	後期	10		
	2140	DP1, DP2	033072	国文学特殊講義8a		2	3･4	前期	10		
	2140	DP1, DP2	033073	国文学特殊講義8b		2	3･4	後期	10		
	2140	DP1, DP2	033074	国文学特殊講義9a		2	3･4	前期	10		
	2140	DP1, DP2	033075	国文学特殊講義9b		2	3･4	後期	10		
	2140	DP1, DP2	033076	国文学特殊講義10a		2	3･4	前期	10		
	2140	DP1, DP2	033077	国文学特殊講義10b		2	3･4	後期	10		
	2140	DP1, DP2	033078	国文学特殊講義11a		2	3･4	前期	10		
	2140	DP1, DP2	033079	国文学特殊講義11b		2	3･4	後期	10		
	2140	DP1, DP2	033080	国文学特殊講義12a		2	3･4	前期	10		
	2140	DP1, DP2	033081	国文学特殊講義12b		2	3･4	後期	10		
	2140	DP1, DP2	033082	国文学特殊講義13a		2	3･4	前期	10		
	2140	DP1, DP2	033083	国文学特殊講義13b		2	3･4	後期	10		
	2140	DP1, DP2	033084	国文学特殊講義14a		2	3･4	前期	10		
	2140	DP1, DP2	033085	国文学特殊講義14b		2	3･4	後期	10		
	2140	DP1, DP2	033086	国文学特殊講義15a		2	3･4	前期	10		
	2140	DP1, DP2	033087	国文学特殊講義15b		2	3･4	後期	10		
	2140	DP1, DP2	033088	国語学特殊講義1a		2	3･4	前期	10		
	2140	DP1, DP2	033089	国語学特殊講義1b		2	3･4	後期	10		
	2140	DP1, DP2	033090	国語学特殊講義2a		2	3･4	前期	10		
	2140	DP1, DP2	033091	国語学特殊講義2b		2	3･4	後期	10		
	2140	DP1, DP2	033092	中国文学特殊講義1a		2	3･4	前期	10		
	2140	DP1, DP2	033093	中国文学特殊講義1b		2	3･4	後期	10		
	2140	DP1, DP2	033094	中国文学特殊講義2a		2	3･4	前期	10		
	2140	DP1, DP2	033095	中国文学特殊講義2b		2	3･4	後期	10		

科目群	ナンバリング	DP番号	科目番号	科　目	必修単位	選択単位	履修年次	開講学期	開講最少履修者数（目安）	卒業要件	備　考
実践科目	2150	DP5	030989	実践国語教育演習Aa		2	2	前期	5		
	2150	DP5	030991	実践国語教育演習Ab		2	2	後期	5		
	2150	DP5	030992	実践国語教育演習Ba		2	3	前期	5		
	2150	DP5	030993	実践国語教育演習Bb		2	3	後期	5		
	2150	DP5	030994	実践国語表現a		2	3	前期	5		
	2150	DP5	030995	実践国語表現b		2	3	後期	5		
	2150	DP5	030996	実践国語文法		2	2	前期	5		
	2150	DP5	030997	実践古文読解		2	4	後期	5		
	2150	DP5	030998	実践漢文読解		2	4	前期	5		
	2150	DP5	030999	実践現代文読解		2	3	後期	5		
中核科目	3210	DP2, DP3, DP4	030741	国文学演習Ⅰ（1）上代a		2	3	前期	1	4単位（a＋b）必修	事前に決定されている科目を履修する。
	3210	DP2, DP3, DP4	030742	国文学演習Ⅰ（1）上代b		2	3	後期	1		
	3220	DP2, DP3, DP4	030751	国文学演習Ⅰ（2）中古a		2	3	前期	1		
	3220	DP2, DP3, DP4	030752	国文学演習Ⅰ（2）中古b		2	3	後期	1		
	3230	DP2, DP3, DP4	030761	国文学演習Ⅰ（3）中世a		2	3	前期	1		
	3230	DP2, DP3, DP4	030762	国文学演習Ⅰ（3）中世b		2	3	後期	1		
	3240	DP2, DP3, DP4	030771	国文学演習Ⅰ（4）近世a		2	3	前期	1		
	3240	DP2, DP3, DP4	030772	国文学演習Ⅰ（4）近世b		2	3	後期	1		
	3310	DP2, DP3, DP4	030781	国文学演習Ⅰ（5）近・現代Ⅰa		2	3	前期	1		
	3310	DP2, DP3, DP4	030782	国文学演習Ⅰ（5）近・現代Ⅰb		2	3	後期	1		
	3320	DP2, DP3, DP4	031041	国文学演習Ⅰ（6）近・現代Ⅱa		2	3	前期	1		
	3320	DP2, DP3, DP4	031042	国文学演習Ⅰ（6）近・現代Ⅱb		2	3	後期	1		
	3330	DP2, DP3, DP4	031201	国文学演習Ⅰ（7）近・現代Ⅲa		2	3	前期	1		
	3330	DP2, DP3, DP4	031202	国文学演習Ⅰ（7）近・現代Ⅲb		2	3	後期	1		
	3340	DP2, DP3, DP4	032991	国文学演習Ⅰ（8）近・現代Ⅳa		2	3	前期	1		
	3340	DP2, DP3, DP4	032992	国文学演習Ⅰ（8）近・現代Ⅳb		2	3	後期	1		

科目群	ナンバリング	DP番号	科目番号	科　目	必修単位	選択単位	履修年次	開講学期	開講最少履修者数（目安）	卒業要件	備　考
中核科目	3400	DP2, DP3, DP4	030801	国語学演習Ⅰ（1）a		2	3	前期	1	4単位（a＋b）必修	事前に決定されている科目を履修する。
	3400	DP2, DP3, DP4	030802	国語学演習Ⅰ（1）b		2	3	後期	1		
	3400	DP2, DP3, DP4	030101	国語学演習Ⅰ（2）a		2	3	前期	1		
	3400	DP2, DP3, DP4	030102	国語学演習Ⅰ（2）b		2	3	後期	1		
	3500	DP2, DP3, DP4	030821	中国文学演習Ⅰa		2	3	前期	1		
	3500	DP2, DP3, DP4	030822	中国文学演習Ⅰb		2	3	後期	1		
	3210	DP2, DP3, DP4	030831	国文学演習Ⅱ（1）上代a		2	4	前期	1	4単位（a＋b）必修	事前に決定されている科目を履修する。
	3210	DP2, DP3, DP4	030832	国文学演習Ⅱ（1）上代b		2	4	後期	1		
	3220	DP2, DP3, DP4	030841	国文学演習Ⅱ（2）中古a		2	4	前期	1		
	3220	DP2, DP3, DP4	030842	国文学演習Ⅱ（2）中古b		2	4	後期	1		
	3230	DP2, DP3, DP4	030851	国文学演習Ⅱ（3）中世a		2	4	前期	1		
	3230	DP2, DP3, DP4	030852	国文学演習Ⅱ（3）中世b		2	4	後期	1		
	3240	DP2, DP3, DP4	030861	国文学演習Ⅱ（4）近世a		2	4	前期	1		
	3240	DP2, DP3, DP4	030862	国文学演習Ⅱ（4）近世b		2	4	後期	1		
	3310	DP2, DP3, DP4	030871	国文学演習Ⅱ（5）近・現代Ⅰa		2	4	前期	1		
	3310	DP2, DP3, DP4	030872	国文学演習Ⅱ（5）近・現代Ⅰb		2	4	後期	1		
	3320	DP2, DP3, DP4	030881	国文学演習Ⅱ（6）近・現代Ⅱa		2	4	前期	1		
	3320	DP2, DP3, DP4	030882	国文学演習Ⅱ（6）近・現代Ⅱb		2	4	後期	1		
	3330	DP2, DP3, DP4	031135	国文学演習Ⅱ（7）近・現代Ⅲa		2	4	前期	1		
	3330	DP2, DP3, DP4	031136	国文学演習Ⅱ（7）近・現代Ⅲb		2	4	後期	1		

科目群	ナンバリング	DP番号	科目番号	科　目	必修単位	選択単位	履修年次	開講学期	開講最少履修者数（目安）	卒業要件	備　考
中核科目	3340	DP2, DP3, DP4	032982	国文学演習Ⅱ（8）近・現代Ⅳa		2	4	前期	1	4単位（a+b）必修	事前に決定されている科目を履修する。
	3340	DP2, DP3, DP4	032983	国文学演習Ⅱ（8）近・現代Ⅳb		2	4	後期	1		
	3400	DP2, DP3, DP4	030891	国語学演習Ⅱ（1）a		2	4	前期	1		
	3400	DP2, DP3, DP4	030892	国語学演習Ⅱ（1）b		2	4	後期	1		
	3400	DP2, DP3, DP4	030893	国語学演習Ⅱ（2）a		2	4	前期	1		
	3400	DP2, DP3, DP4	030894	国語学演習Ⅱ（2）b		2	4	後期	1		
	3500	DP2, DP3, DP4	030911	中国文学演習Ⅱa		2	4	前期	1		
	3500	DP2, DP3, DP4	030912	中国文学演習Ⅱb		2	4	後期	1		
	3210	DP2, DP3, DP4	031311	国文学文献講読演習（1）a		2	4	前期	1	4単位（a+b）必修	事前に決定されている科目を履修する。
	3210	DP2, DP3, DP4	031312	国文学文献講読演習（1）b		2	4	後期	1		
	3220	DP2, DP3, DP4	031321	国文学文献講読演習（2）a		2	4	前期	1		
	3220	DP2, DP3, DP4	031322	国文学文献講読演習（2）b		2	4	後期	1		
	3230	DP2, DP3, DP4	031331	国文学文献講読演習（3）a		2	4	前期	1		
	3230	DP2, DP3, DP4	031332	国文学文献講読演習（3）b		2	4	後期	1		
	3240	DP2, DP3, DP4	031341	国文学文献講読演習（4）a		2	4	前期	1		
	3240	DP2, DP3, DP4	031342	国文学文献講読演習（4）b		2	4	後期	1		
	3310	DP2, DP3, DP4	031351	国文学文献講読演習（5）a		2	4	前期	1		
	3310	DP2, DP3, DP4	031352	国文学文献講読演習（5）b		2	4	後期	1		
	3320	DP2, DP3, DP4	031361	国文学文献講読演習（6）a		2	4	前期	1		
	3320	DP2, DP3, DP4	031362	国文学文献講読演習（6）b		2	4	後期	1		

科目群	ナンバリング	DP番号	科目番号	科　目	必修単位	選択単位	履修年次	開講学期	開講最少履修者数（目安）	卒業要件	備　考
中核科目	3330	DP2, DP3, DP4	031371	国文学文献講読演習（7）a		2	4	前期	1	4単位（a＋b）必修	事前に決定されている科目を履修する。
	3330	DP2, DP3, DP4	031372	国文学文献講読演習（7）b		2	4	後期	1		
	3340	DP2, DP3, DP4	032984	国文学文献講読演習（8）a		2	4	前期	1		
	3340	DP2, DP3, DP4	032985	国文学文献講読演習（8）b		2	4	後期	1		
	3400	DP2, DP3, DP4	031381	国語学文献講読演習（1）a		2	4	前期	1		
	3400	DP2, DP3, DP4	031382	国語学文献講読演習（1）b		2	4	後期	1		
	3400	DP2, DP3, DP4	031383	国語学文献講読演習（2）a		2	4	前期	1		
	3400	DP2, DP3, DP4	031384	国語学文献講読演習（2）b		2	4	後期	1		
	3500	DP2, DP3, DP4	031391	中国文学文献講読演習a		2	4	前期	1		
	3500	DP2, DP3, DP4	031392	中国文学文献講読演習b		2	4	後期	1		
	3160	DP2, DP3	030250	卒業論文	4		4	通年	1		通年科目。
国文学教養科目	1140	DP1	033096	比較文学		2	1-4	後期	10		
	1140	DP1	033097	日本の歴史		2	1-4	前期・後期	10		
	1140	DP1	033098	文化人類学・神話学		2	1-4	前期・後期	10		
	1143	DP1, DP4	033099	現代中国語（中級程度）		2	1-4	前期・後期	10		
	1140	DP1	033100	児童文学		2	1-4	前期	10		

●卒業に必要な単位に算入されない科目

科目群	ナンバリング	DP番号	科目番号	科　目	必修単位	選択単位	履修年次	開講学期	開講最少履修者数（目安）	卒業要件	備　考
基礎科目	1110	DP1	033101	学びなおし古文		2	1	前期・後期	1		「古文・漢文チェックテスト」の結果に基づき履修指導を受けた者は1年前期に必ず履修する。 成績は「合」「否」により評価
	1110	DP1	033102	学びなおし漢文		2	1	前期・後期	1		

教育学部カリキュラムと卒業要件

AICHI SHUKUTOKU UNIVERSITY

1 ディプロマ・ポリシー（人材養成像）

教育学部

教育学部は、教育を多面的に捉える視点と専門的知識を身に付け、子どもの発達可能性を深く探究する意欲と、子どもを取り巻く社会環境や多様性への対応について、よりよい方向を導き出すために主体的に考え、特別な配慮や支援を必要とする子どもも含めて、様々な子どもに対して適切な指導と支援を行う、総合的な実践力を身に付ける人材を育成することを教育の目的とする。

教育学科

教育学科は、小学校、中学校・高等学校（英語）、特別支援学校の教員養成を主とし、確かな専門知識と優れた実践力を身に付け、社会や教育界の発展に寄与したいと考える意欲的な人材を育成することを教育目的とし、以下の能力を修得した学生に学士の学位を授与する。

（1）教育を多面的に捉える視点と専門的知識を身に付けている。**（知識・理解）**
（2）子どもの発達可能性を深く探究する意欲がある。**（関心・意欲）**
（3）子どもを取り巻く社会環境や多様性への対応について、よりよい方向を導き出すために主体的に考えることができる。**（思考・判断）**
（4）特別な配慮や支援を必要とする子どもも含めて、様々な子どもに対して、適切な指導と支援を行う、総合的な実践力を身に付けている。**（態度・技能・表現）**

2 カリキュラム・ポリシー（ディプロマ・ポリシーに整合し、それを保証するカリキュラムの体系性を記したもの）

教育学部では、学生自らが主体的に自己の特性を活かしながら進路決定し、教育の本質である人間性について広い視野から考えられる確かな専門的知識と時代や環境の変化に対応できる優れた実践的能力を身に付ける人材を育成することを目的とした教育プログラムを実現するために、4年間で小学校、中学校・高等学校（英語）及び特別支援学校の4つの教諭一種免許状の取得が可能なカリキュラムとし、学校教育コース、英語教育コース、特別支援教育コースの3コースを設ける。2年次からコースの所属となるが、どのコースに所属しても他のコースの科目を自由に選択し学修することができる枠に囚われない連携が可能な、いわゆる「ゆるやかなコース制」も特色といえる。

小学校教諭免許状の取得に必要な科目は、1年次から全員が共通で学び、中学校・高等学校（英語）、特別支援学校の免許状の取得に必要な科目は2年次から学ぶ（一部1年次から行う）。

1年次は、全員が「基礎科目」、「教育の基礎的理解に関する科目」、「小学校教員養成科目」、「中学校・高等学校（英語）教員養成科目」、「特別支援学校教員養成科目」を共通に履修する。これらを履修することにより、「教育を多面的に捉える視点と専門的知識（知識・理解）」を身に付けることができる。「基礎科目」、「教育の基礎的理解に関する科目」はとりわけ1年次に多く設定されており、ここで教育を多面的に捉える視点と専門的知識の確固たる土台を固めることができる。

2年次からは、一人一人の学生に応じた履修設計に基づき学生の希望ごとに学校教育コース、英語教育コース、特別支援教育コースの3つに分かれ、各々の目指す進路に応じて「小学校教員養成科目」、「中学校・高等学校（英語）教員養成科目」、「特別支援学校教員養成科目」の教員免許状取得に関連する科目を履修して「教育を多面的に捉える視点と専門的知識（知識・理解）」を深めつつ、「子どもの発達に関する科目」の学修を通して「子どもの発達可能性

を深く探究する意欲（関心・意欲)」を涵養し、また「司書教諭資格関連科目」、「多様性関連科目」での探究を本格化させて「子どもを取り巻く社会環境や多様性への対応について、よりよい方向を導き出すために主体的に考える（思考・判断)」力を身に付ける。さらに、各コースが指定している科目を履修し、教養と専門性を深めるようにする。

３年次から希望のゼミに所属し、各自の研究テーマに基づいて体系的に学修を行い、４年次に卒業研究としてまとめ、学修成果の集大成とする。「発展科目」は「教育を多面的に捉える視点と専門的知識（知識・理解)」を完成させる総仕上げ的な位置付けの科目群であり、また英語教育コースの「英語学発展科目」、「英米文学発展科目」で学んだことは「子どもを取り巻く社会環境や多様性への対応について、よりよい方向を導き出すために主体的に考える（思考・判断)」力を一層高めることができる。主なカリキュラム編成は以下のⅠ～Ⅲの構成となる。

Ⅰ．３コースが共通で行う科目：【カテゴリーⅠ】

〈基礎科目〉
〈教育の基礎的理解に関する科目〉
〈発展科目〉

Ⅱ．教員免許取得に必要な科目：【カテゴリーⅡ】

小学校教員免許取得に関する科目：〈小学校教員養成科目〉
中学校・高等学校の英語教員免許取得に関する科目：〈中学校・高等学校（英語）教員養成科目〉
特別支援学校教員免許取得に関する科目：〈特別支援学校教員養成科目〉

Ⅲ．各コースの専門性を高める科目：【カテゴリーⅢ】

〈司書教諭資格関連科目〉
〈多様性関連科目〉
〈英語学発展科目〉
〈英米文学発展科目〉
〈子どもの発達に関する科目〉

3 アドミッション・ポリシー

教育学部では、教員としての専門的知識、総合力、実践力を身に付け、社会や教育界の発展に寄与したいと考えている意欲的な学生の入学を求める。

①学生に期待すること

小学校又は特別支援学校の教員、中学校・高等学校教員（英語）として活躍するために、必要な専門的な知識と技能の習得に積極的に取り組むことが求められる。また、教育が直面する諸問題に対応する力を備え、豊かな人間性と確かな実践力を身に付けた教員を目指して努力することを期待する。

②学生募集に際して重視すること

将来、小学校教員又は特別支援学校教員、中学校・高等学校教員（英語）として、学校教育に携わりたいという強い意欲があり、教育に対する情熱と責任感を有することを重視する。また、自ら進んで他者と協働して課題に取り組むコミュニケーション能力を備えていることも必要である。

③入学前学習として奨励すること

教師として幅広い分野での基本的な学力が必要となるため、高等学校までに学習する教科・科目の基礎的知識と技能を着実に習得しておくことが不可欠である。また、教育問題や教育活動に関心を向けることも重要である。

4 卒業に必要な単位（卒業要件単位数）

本学の教育学部を卒業するためには、4年以上在学（休学期間は含まない）し、124単位以上修得しなければならない（「愛知淑徳大学学則第47条」）。その内訳は次の表のとおりである。

■2025年度入学者

授業科目の種類			教育学科
専門教育科目		学校教育コース	70単位以上 （「学校教育と情報リテラシー」「スポーツ指導法」「外国人児童生徒教育概論Ⅰ」「発達心理学」の8単位を含む必修35単位、選択必修34単位を含む）
		英語教育コース	70単位以上 （「UK Culture &Society」「USA Culture &Society」「JPN Culture &Society」「Global Issues」の8単位を含む必修35単位、選択必修34単位を含む）
		特別支援教育コース	70単位以上 （「障害者の理解」「発達障害者の教育課程及び指導法」「発達障害者の心理・生理・病理」「アダプテッド・スポーツ」の8単位を含む必修35単位、選択必修34単位を含む）
全学共通履修科目	基幹科目	違いを共に生きる科目	6単位以上 （「違いを共に生きる・ライフデザイン」「AI・データサイエンス入門［M］」必修4単位および「コンピュータリテラシーⅠ」「コンピュータリテラシーⅡ」の中から2単位以上を含む）
		AI・データサイエンス科目	
	アクティブラーニング科目	国際交流センター開設科目	4単位以上 （「日本語表現1」必修2単位を含む）
		CCC開設科目	
		キャリアセンター開設科目	
		ダイバーシティ共生センター開設科目	
		学修・教育支援センター開設科目	
	スキル科目	言語活用科目（英語）	4単位以上
		言語活用科目（初めての外国語）	
学部認定科目		他学部・他学科開放科目	0単位以上
		愛知学長懇話会単位互換科目（上限10単位）	
		放送大学単位互換科目（上限10単位）	
合　計			124単位以上

※専門教育科目の卒業要件単位の詳細はカリキュラム表を参照する。

なお、以下の表にある科目は、**卒業に必要な単位に算入されない**ため、注意する。

①言語活用科目（英語） 「Introduction to English」	②教職課程科目	③学芸員課程科目
④司書課程科目	⑤コンピュータ資格科目	⑥会計教育科目
⑦研究科開放科目	⑧文学部国文学科専門教育科目 「学びなおし古文」「学びなおし漢文」	⑨建築学部建築学科専門教育科目 「基礎数学」
⑩食健康科学部専門教育科目 「基礎化学」「基礎生物学」		

5 履修上の注意

（1）卒業に必要な単位数は124単位である。大学（全学）、学部（教育学部）、コースとそれぞれ必修科目があり、学部での選択必修科目もある。内訳については、カリキュラム表および「卒業に必要な単位数」を熟読する。
（2）必修科目、クラス指定がある科目も、履修登録しなければならない。
（3）基幹科目「違いを共に生きる・ライフデザイン」「コンピュータリテラシーⅠ」（または「コンピュータリテラシーⅡ」）、アクティブラーニング科目「日本語表現１」はいずれも１年次において修得することが望ましい。また、基幹科目「AI・データサイエンス入門［M］」は１～２年次までに履修することが望ましい。この他、アクティブラーニング科目２単位以上、スキル科目４単位以上を４年次修了までに履修すること。
（4）教員免許状取得のためには、教職課程科目の「日本国憲法」と「スポーツ科学」または「健康と運動」の単位を修得する必要がある。
（5）教員免許状取得のためには、卒業に必要な科目の他に、教職・司書・学芸員教育センター開講の教職課程科目の単位修得が必要である。詳細は教職課程便覧を参照すること。
（6）教育実習実施の可否については、教職課程委員会において審議の上、決定する。また、一定の成績に満たない場合、教育実習を行うことが出来ない場合がある。
（7）小学校における教育実習は、２年次終了時までに「教育実習（小）」「介護実践演習」以外の小学校教員免許状取得に必要な科目を履修しなければならない。
（8）特別支援学校における教育実習は、３年次終了時までに「教育実習（特）」以外の特別支援学校教員免許状取得に必要な科目を履修しなければならない。
（9）中学校・高等学校における教育実習は、教職・司書・学芸員教育センターで開講している教職課程科目「教育実習（中・高）」の履修の条件を満たすことが必要である。
（10）自分の学年以外の科目でも下級年次開講の科目は履修が可能である。上級年次対象の科目は履修できない。
（11）専門演習は同じ教員が３・４年次に担当する。ゼミを担当する先生の専門分野等を２年次後期に確認し、３年次に所属するゼミを決める。
（12）ゼミ（専門演習）は原則として変更できないが、特段の事情があり、履修に支障をきたさない場合に限り、変更することができる。変更を希望する場合は、教務委員に申し出る。
（13）各コースには各２単位４科目の計８単位の必修科目（卒業要件単位）があるので注意する。なお、コースについては３年次に確定させる。３年次に確定したコースの必修科目を履修し卒業までに４科目８単位を取得することが卒業要件単位になる。

1 年 生

（1）必修科目：学籍クラス指定に従って登録する。（「First Year Seminar」はガイダンスで行われるクラス分けの結果に従って登録する。）

〔前期〕「First Year Seminar」「学校教育体験」「教育原理」「English Collaboration Ⅰ」
「違いを共に生きる・ライフデザイン（基幹科目）」「日本語表現1(アクティブラーニング科目)」
「コンピュータリテラシーⅠ（基幹科目)※1」「AI・データサイエンス入門［M］(基幹科目)」
〔後期〕「特別支援教育論」「教育心理学」「English Collaboration Ⅱ」「コンピュータリテラシーⅡ（基幹科目)※１」
※１：「コンピュータリテラシーⅠ」「コンピュータリテラシーⅡ」はどちらかの単位修得が卒業要件単位である。

（2）選択必修科目：１年次から履修登録できる選択必修科目である。４年次修了までに所定の単位数修得が必要である。

○小学校教員養成科目（20単位以上）
〔前期〕「初等国語」「初等算数」「初等生活」
〔後期〕「初等英語」「初等理科」「初等体育」「初等図画工作」「国語科教育法Ⅰ」「算数科教育法Ⅰ」「生活科教育法Ⅰ」
○中学校・高等学校（英語）教員養成科目（６単位以上）
〔前期〕「English Pronunciation Practice I」「英語学概論」「英文学概論」
〔後期〕「English Grammar I」

○多様性関連・英語学発展・英米文学発展科目（２単位以上）
〔後期〕「ポルトガル語Ⅰ」
（３）選択科目
〔前期〕「TOEIC for English teachers」「読書と豊かな人間性」
〔後期〕「TOEIC for English teachers」「学校経営と学校図書館」「教育制度」

２年生

（１）必修科目
コース別の必修科目：コースを登録して履修する。２年次から履修登録できるコースの必修科目である。４年次修了までに所定の単位数を修得することが必要である。
◇学校教育コース
〔前期〕「学校教育と情報リテラシー」「発達心理学」「スポーツ指導法」
◇英語教育コース
〔前期〕「UK Culture & Society」
〔後期〕「USA Culture & Society」
◇特別支援教育コース
〔前期〕「障害者の理解」
（２）選択必修科目：２年次から履修登録できる選択必修科目である。４年次修了までに所定単位数の修得が必要である。
○小学校教員養成科目（20単位以上）
〔前期〕「初等社会」「初等家庭」「理科教育法Ⅰ」「体育科教育法Ⅰ」「英語科教育法Ⅰ（小・中）」「初等音楽」「国語科教育法Ⅱ」「算数科教育法Ⅱ」「生活科教育法Ⅱ」
〔後期〕「社会科教育法Ⅰ」「音楽科教育法Ⅰ」「図画工作科教育法Ⅰ」「家庭科教育法Ⅰ」「理科教育法Ⅱ」「体育科教育法Ⅱ」「英語科教育法Ⅱ（小・中）」
○中学校・高等学校（英語）教員養成科目（６単位以上）
〔前期〕「Practicum in English Linguistics I」「英語圏文学I」「英語圏文学Ⅱ」「異文化コミュニケーション」
〔後期〕「Practicum in English Linguistics Ⅱ」「Practicum in English Linguistics Ⅲ」
○特別支援学校教員養成科目（４単位以上）
〔前期〕「障害者の理解※１」「肢体不自由者の指導」「視覚障害者の指導」「聴覚障害者の指導」
〔後期〕「知的障害者の指導」
○多様性関連・英語学発展・英米文学発展科目（２単位以上）
〔前期〕「ポルトガル語Ⅱ」「UK Culture & Society※１」「海外セミナーⅠ」「洋楽で教える音声中心の英語」「Topics in International Culture and Society」「異文化理解としてのキリスト教」「翻訳と異文化理解」「クラシック英語圏文学」「Film Studies Ⅰ」「Film Studies Ⅲ」「文学史Ⅰ」「スポーツ指導法※１」
〔後期〕「比較教育論」「USA Culture & Society※１」「海外セミナーⅡ」「Media English」「英語教育における語形成理論」「Active Literature」「Film StudiesⅡ」「Film Studies Ⅳ」「文学史Ⅱ」
○子どもの発達に関する科目（２単位以上）
〔前期〕「学校保健」「発達心理学※１」
〔後期〕「幼児教育論」「キャリア発達論」
（３）選択科目
〔前期〕「学校教育と情報リテラシー※１」「教育相談Ⅰ」「History of English」「Language & Culture」「English Pronunciation Practice Ⅱ」
〔後期〕「学校図書館メディアの構成」「English Grammar Ⅱ」「Corpus Linguistics」「英語圏文学Ⅲ」「英語圏文学Ⅳ」
※１：コースの必修科目でもあるので、そのコースの学生が単位修得しても卒業要件単位の選択必修科目とならない。

3 年 生

（1）必修科目

〔前期〕「専門演習Ⅰa」「特別支援と児童生徒理解」

〔後期〕「専門演習Ⅰb」「職業としての教育」

コース別の必修科目：3年次から履修登録できるコースの必修科目である。3年次にコースを変更した場合は、コース別の必修科目も変更となるため注意する。なお、コースの変更は、所定の手続きが必要である。4年次終了までにコースの必修科目を修得する。

◇学校教育コース

〔前期〕「外国人児童生徒教育概論Ⅰ」

◇英語教育コース

〔前期〕「JPN Culture & Society」

〔後期〕「Global Issues」

◇特別支援教育コース

〔前期〕「発達障害者の心理・生理・病理」

〔後期〕「発達障害者の教育課程及び指導法」「アダプテッド・スポーツ」

（2）選択必修科目

○小学校教員養成科目（20単位以上）

〔前期〕「社会科教育法Ⅱ」「音楽科教育法Ⅱ」「図画工作科教育法Ⅱ」「家庭科教育法Ⅱ」

○特別支援学校教員養成科目（4単位以上）

〔前期〕「知的障害者の心理・生理・病理」「肢体不自由者の心理・生理・病理」「病弱者の心理・生理・病理」
「発達障害者の指導」

〔後期〕「重複障害者の指導」「知的障害者の教育課程及び指導法」「病弱者の教育課程及び指導法」
「肢体不自由者の教育課程及び指導法」

○多様性関連・英語学発展・英米文学発展科目（2単位以上）

〔前期〕「外国人児童生徒教育概論Ⅰ※1」「児童福祉論」「教育文化史」「JPN Culture & Society※1」

〔後期〕「国際理解教育論」「アダプテッド・スポーツ※1」「Global Issues※1」「外国人児童生徒教育概論Ⅱ」

○子どもの発達に関する科目（2単位以上）

〔前期〕「教育相談Ⅱ」「Language Acquisition」

〔後期〕「生涯発達支援論」「Language Acquisition」

（3）選択科目

〔通年〕「介護実践演習」「教育実習（小）」

〔前期〕「中高英語教育実践演習Ⅰ」「英語科教育法Ⅲ（中・高）」「発達障害者の心理・生理・病理※1」
「学習指導と学校図書館」

〔後期〕「総合的な学習の時間の指導法」「教育とICT活用」「中高英語教育実践演習Ⅱ」「英語科教育法Ⅳ（中・高）」
「発達障害者の教育課程及び指導法※1」「情報メディアの活用」

※1：コースの必修科目でもあるので、そのコースの学生が単位修得しても卒業要件単位の選択必修科目とならない。

4 年 生

（1）必修科目

〔通年〕「卒業研究」

卒業論文は指定された期日（12月中旬）に提出する。

〔前期〕「専門演習Ⅱa」

〔後期〕「専門演習Ⅱb」

（2）選択必修科目

多様性関連・英語学発展・英米文学発展科目（2単位以上）

〔通年〕「総合表現」

（3）選択科目

〔通年〕「教育実習（特）」

〔前期〕「中高英語教育実践演習Ⅲ」

〔後期〕「中高英語教育実践演習Ⅳ」

6 教員免許状取得のための科目

教員免許状取得のためには、教育学部開講の教育学部専門科目である必修科目・選択必修科目・選択科目・コース別必修科目にある教員免許状取得に必要な科目の他に、教職・司書・学芸員教育センター開講の教職課程科目の単位修得が必要であるので履修登録する場合には注意する。詳細は教職課程便覧を参照すること。

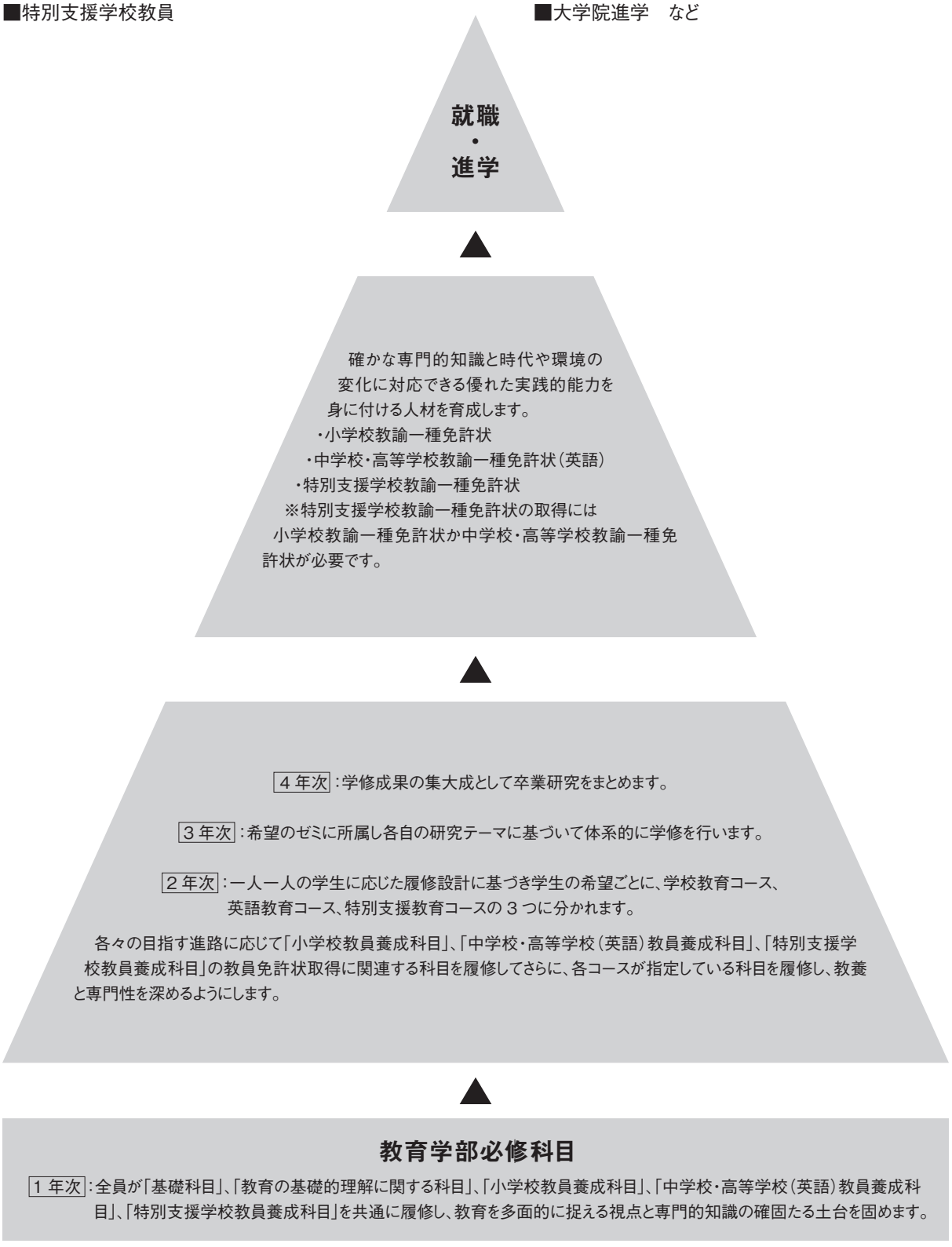
7 コース登録について

教育学部では2年次より各々の目指す進路に応じて学校教育コース、英語教育コース、特別支援教育コースの3つのコースのうち、いずれか1つに登録しなくてはならない。コースの登録手続きや選抜方法等については、ガイダンスが行われる予定である。詳細はCampusSquareで案内するので必ず確認する。

また、コースの変更は2年次後期末の1回のみ受け付ける。詳細はCampusSquareで案内するので必ず確認する。この時以外の変更は原則として認めない。

■小学校教員　■中学校・高等学校教員
■特別支援学校教員

■官公庁や地方自治体の公務員　■教育産業
■大学院進学　など



8 カリキュラム表（教育学部 専門教育科目）

科目群	ナンバリング	DP番号	科目番号	科目	必修単位	選択単位	履修年次	開講学期	開講最少履修者数（目安）	卒業要件	備考
基礎科目	1110	DP1, DP2	127001	First Year Seminar	1		1	前期	1		1/4期科目 成績は「合」「否」により評価 ガイダンスの指示に従い履修登録する。
	1110	DP1, DP2	127002	学校教育体験	1		1	前期	1		学外実習 成績は「合」「否」により評価
	1110	DP1, DP3, DP4	127003	特別支援教育論	2		1	後期	1		
	1111	DP1, DP3	127004	English Collaboration Ⅰ	2		1	前期	1		
	1111	DP1, DP3	127005	English Collaboration Ⅱ	2		1	後期	1		
	1112	DP1, DP3	127006	TOEIC for English teachers		2	1	前期･後期	5		
	2110	DP1, DP3	127007	職業としての教育	1		3	後期	1		1/4期科目 成績は「合」「否」により評価
教育の基礎的理解に関する科目	1120	DP1, DP2	127008	教育原理	2		1	前期	1		
	2120	DP2, DP3, DP4	127009	特別支援と児童生徒理解	2		3	前期	1		
	1120	DP1, DP2	127010	教育制度		2	1	後期	1		
	1120	DP1, DP2	127011	教育心理学	2		1	後期	1		
	1120	DP2, DP3, DP4	127012	教育相談Ⅰ		2	2	前期	1		
	2120	DP1, DP3, DP4	127013	総合的な学習の時間の指導法		2	3	後期	1		
	2120	DP1, DP3, DP4	127014	教育とICT活用		2	3	後期	1		
発展科目	3130	DP1, DP2, DP3, DP4	127015	専門演習Ⅰa	2		3	前期	1		
	3130	DP1, DP2, DP3, DP4	127016	専門演習Ⅰb	2		3	後期	1		
	3130	DP1, DP2, DP3, DP4	127017	専門演習Ⅱa	2		4	前期	1		
	3130	DP1, DP2, DP3, DP4	127018	専門演習Ⅱb	2		4	後期	1		
	3130	DP1, DP2, DP3, DP4	127019	卒業研究	4		4	通年	1		

科目群	ナンバリング	DP番号	科目番号	科　目	必修単位	選択単位	履修年次	開講学期	開講最少履修者数（目安）	卒業要件	備　考
小学校教員養成科目	1210	DP1, DP2, DP4	127020	初等国語		2	1	前期	1	20単位以上選択必修	
	1210	DP1, DP2, DP4	127021	初等生活		2	1	前期	1		
	1210	DP1, DP2, DP4	127022	初等体育		2	1	後期	1		
	1210	DP1, DP3, DP4	127023	初等社会		2	2	前期	1		
	1210	DP1, DP2, DP4	127024	初等図画工作		2	1	後期	1		
	2210	DP1, DP2, DP4	127025	初等家庭		2	2	前期	1		
	1210	DP1, DP2, DP4	127026	初等算数		2	1	前期	1		
	1210	DP1, DP2, DP4	127027	初等理科		2	1	後期	1		
	1210	DP1, DP3, DP4	127028	初等英語		2	1	後期	1		
	2210	DP1, DP2, DP4	127029	初等音楽		2	2	前期	1		
	1210	DP1, DP2, DP4	127030	国語科教育法Ⅰ		2	1	後期	1		
	1210	DP1, DP2, DP4	127031	算数科教育法Ⅰ		2	1	後期	1		
	1210	DP1, DP2, DP4	127032	生活科教育法Ⅰ		2	1	後期	1		
	2210	DP1, DP2, DP4	127033	理科教育法Ⅰ		2	2	前期	1		
	2210	DP1, DP2, DP4	127034	体育科教育法Ⅰ		2	2	前期	1		
	2210	DP1, DP3, DP4	127035	英語科教育法Ⅰ（小・中）		2	2	前期	1		
	2210	DP1, DP3, DP4	127036	社会科教育法Ⅰ		2	2	後期	1		
	2210	DP1, DP2, DP4	127037	音楽科教育法Ⅰ		2	2	後期	1		
	2210	DP1, DP2, DP4	127038	図画工作科教育法Ⅰ		2	2	後期	1		
	2210	DP1, DP2, DP4	127039	家庭科教育法Ⅰ		2	2	後期	1		

科目群	ナンバリング	DP番号	科目番号	科　目	必修単位	選択単位	履修年次	開講学期	開講最少履修者数（目安）	卒業要件	備　考
小学校教員養成科目	2210	DP1, DP2, DP4	127040	国語科教育法Ⅱ		2	2	前期	1		
	2210	DP1, DP2, DP4	127041	算数科教育法Ⅱ		2	2	前期	1		
	2210	DP1, DP2, DP4	127042	生活科教育法Ⅱ		2	2	前期	1		
	2210	DP1, DP2, DP4	127043	理科教育法Ⅱ		2	2	後期	1		
	2210	DP1, DP2, DP4	127044	体育科教育法Ⅱ		2	2	後期	1		
	2210	DP1, DP3, DP4	127045	英語科教育法Ⅱ（小・中）		2	2	後期	1		
	2210	DP1, DP3, DP4	127046	社会科教育法Ⅱ		2	3	前期	1		
	2210	DP1, DP2, DP4	127047	音楽科教育法Ⅱ		2	3	前期	1		
	2210	DP1, DP2, DP4	127048	図画工作科教育法Ⅱ		2	3	前期	1		
	2210	DP1, DP2, DP4	127049	家庭科教育法Ⅱ		2	3	前期	1		
	2210	DP1, DP2, DP3, DP4	127050	介護実践演習		1	3	通年	1		教育免許状取得希望者は介護等体験が必要となるため、必ず単位を修得する。 なお、身体障害者手帳を有する者（障害の程度１級～６級）など小学校及び中学校の教諭の普通免許状授与に係る教育職員免許法の特例等に関する法律施行規則第三条に定められる「介護等の体験を免除する者」については、現場における介護等体験（介護実践）が免除されるので、履修登録する前に教職・司書・学芸員教育センターに申出ること。 成績は「合」「否」により評価
	3210	DP1, DP2, DP3, DP4	127051	教育実習（小）		5	3	通年	1		教育実習実施の条件を満たしていない場合は履修不可。
中学校・高等学校（英語）教員養成科目	1222	DP1, DP3, DP4	127052	英語学概論		1	1	前期	1	6単位以上選択必修（注1）	1/4期科目
	2222	DP1, DP3, DP4	127053	Practicum in English Linguistics Ⅰ		2	2	前期	1		
	2222	DP1, DP3, DP4	127054	Practicum in English Linguistics Ⅱ		2	2	後期	1		
	2222	DP1, DP3, DP4	127055	Practicum in English Linguistics Ⅲ		2	2	後期	1		

科目群	ナンバリング	DP番号	科目番号	科　目	必修単位	選択単位	履修年次	開講学期	開講最少履修者数（目安）	卒業要件	備　考
中学校・高等学校（英語）教員養成科目	2222	DP1, DP3, DP4	127056	History of English		2	2	前期	1		
	2222	DP1, DP3, DP4	127057	Corpus Linguistics		2	2	後期	1		
	2222	DP1, DP3, DP4	127058	Language & Culture		2	2	前期	1		
	1222	DP1, DP3, DP4	127059	English Grammar Ⅰ		2	1	後期	1		
	2222	DP1, DP3, DP4	127060	English Grammar Ⅱ		2	2	後期	1		
	1222	DP1, DP3, DP4	127061	English Pronunciation Practice Ⅰ		2	1	前期	1		
	2222	DP1, DP3, DP4	127062	English Pronunciation Practice Ⅱ		2	2	前期	1		
	1222	DP1, DP3, DP4	127063	英文学概論		1	1	前期	1		1/4期科目
	2222	DP1, DP3, DP4	127064	英語圏文学Ⅰ		2	2	前期	1		
	2222	DP1, DP3, DP4	127065	英語圏文学Ⅱ		2	2	前期	1		
	2222	DP1, DP3, DP4	127066	英語圏文学Ⅲ		2	2	後期	1		
	2222	DP1, DP3, DP4	127067	英語圏文学Ⅳ		2	2	後期	1		
	3222	DP1, DP3, DP4	127068	中高英語教育実践演習Ⅰ		2	3	前期	1		
	3222	DP1, DP3, DP4	127069	中高英語教育実践演習Ⅱ		2	3	後期	1		
	3222	DP1, DP3, DP4	127070	中高英語教育実践演習Ⅲ		2	4	前期	1		
	3222	DP1, DP3, DP4	127071	中高英語教育実践演習Ⅳ		2	4	後期	1		
	2222	DP1, DP3, DP4	127072	異文化コミュニケーション		2	2	前期	1		
	3222	DP1, DP3, DP4	127073	英語科教育法Ⅲ（中・高）		2	3	前期	1		
	3222	DP1, DP3, DP4	127074	英語科教育法Ⅳ（中・高）		2	3	後期	1		

科目群	ナンバリング	DP番号	科目番号	科　目	必修単位	選択単位	履修年次	開講学期	開講最少履修者数（目安）	卒業要件	備　考
特別支援学校教員養成科目	1230	DP1, DP2, DP4	127075	障害者の理解		2	2	前期	1	4単位以上選択必修	特別支援教育コース必修科目
	1230	DP1, DP2, DP4	127076	肢体不自由者の指導		2	2	前期	1		
	1230	DP1, DP2, DP4	127077	知的障害者の指導		2	2	後期	1		
	2230	DP1, DP2, DP4	127078	知的障害者の心理・生理・病理		2	3	前期	1		
	2230	DP1, DP2, DP4	127079	重複障害者の指導		2	3	後期	1		
	2230	DP1, DP2, DP4	127080	知的障害者の教育課程及び指導法		2	3	後期	1		
	1230	DP1, DP2, DP4	127081	視覚障害者の指導		1	2	前期	1		1/4期科目
	1230	DP1, DP2, DP4	127082	聴覚障害者の指導		1	2	前期	1		
	2230	DP1, DP2, DP4	127083	病弱者の心理・生理・病理		2	3	前期	1		
	2230	DP1, DP2, DP4	127084	肢体不自由者の心理・生理・病理		2	3	前期	1		
	2230	DP1, DP2, DP4	127085	発達障害者の指導		2	3	前期	1		
	2230	DP1, DP2, DP4	127086	病弱者の教育課程及び指導法		2	3	後期	1		
	2230	DP1, DP2, DP4	127087	肢体不自由者の教育課程及び指導法		2	3	後期	1		
	2230	DP1, DP2, DP4	127088	発達障害者の教育課程及び指導法		2	3	後期	1		特別支援教育コース必修科目
	2230	DP1, DP2, DP4	127089	発達障害者の心理・生理・病理		2	3	前期	1		特別支援教育コース必修科目
	3230	DP1, DP2, DP3, DP4	127090	教育実習（特）		3	4	通年	1		教育実習実施の条件を満たしていない場合は履修不可。
司書教諭資格関連科目	1310	DP1, DP3	127091	読書と豊かな人間性		2	1	前期	1		
	1310	DP1, DP3	127092	学校経営と学校図書館		2	1	後期	1		
	1310	DP1, DP3, DP4	127093	学校教育と情報リテラシー		2	2	前期	5		学校教育コース必修科目
	2310	DP1, DP3	127094	学校図書館メディアの構成		2	2	後期	1		
	2310	DP1, DP3	127095	学習指導と学校図書館		2	3	前期	1		
	2310	DP1, DP3	127096	情報メディアの活用		2	3	後期	1		

科目群	ナンバリング	DP番号	科目番号	科　目	必修単位	選択単位	履修年次	開講学期	開講最少履修者数（目安）	卒業要件	備　考
多様性関連科目	1323	DP1, DP3, DP4	127097	ポルトガル語Ⅰ		2	1	後期	10	2単位以上選択必修	
	2323	DP1, DP3, DP4	127098	ポルトガル語Ⅱ		2	2	前期	10		
	2320	DP2, DP3, DP4	127099	児童福祉論		2	3	前期	10		
	2320	DP2, DP3, DP4	127100	スポーツ指導法		2	2	前期	10		学校教育コース必修科目
	2320	DP2, DP3, DP4	127101	アダプテッド・スポーツ		2	3	後期	10		特別支援教育コース必修科目
	3320	DP1, DP2, DP3	127102	総合表現		4	4	通年	5		成績は「合」「否」により評価
	2320	DP1, DP3, DP4	127103	比較教育論		2	2	後期	10		
	2320	DP1, DP3, DP4	127104	外国人児童生徒教育概論Ⅰ		2	3	前期	10		学校教育コース必修科目
	2320	DP1, DP3, DP4	127105	外国人児童生徒教育概論Ⅱ		2	3	後期	10		
	2320	DP1, DP3, DP4	127106	教育文化史		2	3	前期	10		
	2320	DP1, DP3, DP4	127107	国際理解教育論		2	3	後期	10		
	2321	DP1, DP3, DP4	127108	海外セミナーⅠ		2	2	前期	5		
	2321	DP1, DP3, DP4	127109	海外セミナーⅡ		2	2	後期	5		
	2321	DP1, DP3, DP4	127110	UK Culture & Society		2	2	前期	5		英語教育コース必修科目
	2321	DP1, DP3, DP4	127111	USA Culture & Society		2	2	後期	5		英語教育コース必修科目
	3321	DP1, DP3, DP4	127112	JPN Culture & Society		2	3	前期	5		英語教育コース必修科目
	3321	DP1, DP3, DP4	127113	Global Issues		2	3	後期	5		英語教育コース必修科目
英語学発展科目	2332	DP1, DP3, DP4	127114	洋楽で教える音声中心の英語		2	2	前期	5		
	2332	DP1, DP3, DP4	127115	Media English		2	2	後期	5		
	2332	DP1, DP3, DP4	127116	英語教育における語形成理論		2	2	後期	5		

科目群	ナンバリング	DP番号	科目番号	科　目	必修単位	選択単位	履修年次	開講学期	開講最少履修者数（目安）	卒業要件	備　考
英米文学発展科目	2342	DP1, DP3, DP4	127117	クラシック英語圏文学		2	2	前期	5		
	2342	DP1, DP3, DP4	127118	Film Studies Ⅰ		2	2	前期	10		
	2342	DP1, DP3, DP4	127119	Film Studies Ⅱ		2	2	後期	10		
	2342	DP1, DP3, DP4	127120	Film Studies Ⅲ		2	2	前期	5		
	2342	DP1, DP3, DP4	127121	Film Studies Ⅳ		2	2	後期	5		
	2342	DP1, DP3, DP4	127122	文学史Ⅰ		2	2	前期	10		
	2342	DP1, DP3, DP4	127123	文学史Ⅱ		2	2	後期	10		
	2342	DP1, DP3, DP4	127124	Active Literature		2	2	後期	5		
	2341	DP1, DP3, DP4	127125	Topics in International Culture and Society		2	2	前期	5		
	2342	DP1, DP3, DP4	127126	異文化理解としてのキリスト教		2	2	前期	5		
	2342	DP1, DP3, DP4	127127	翻訳と異文化理解		2	2	前期	5		
子どもの発達に関する科目	1350	DP1, DP2, DP3	127128	発達心理学		2	2	前期	1	2単位以上選択必修	学校教育コース必修科目
	2350	DP2, DP3, DP4	127129	学校保健		2	2	前期	1		
	2350	DP2, DP3, DP4	127130	教育相談Ⅱ		2	3	前期	1		
	2350	DP1, DP2, DP3	127131	幼児教育論		2	2	後期	10		
	2350	DP1, DP2, DP3	127132	生涯発達支援論		2	3	後期	10		
	2350	DP1, DP2, DP3	127133	キャリア発達論		2	2	後期	10		
	3350	DP2, DP3, DP4	127134	Language Acquisition		2	3	前期･後期	1		

（注１）中学校・高等学校（英語）教員養成科目のうち「History of English」、「Corpus Linguistics」、「Language & Culture」、「English Grammar Ⅱ」、「English Pronunciation Practice Ⅱ」、「英語圏文学Ⅲ」、「英語圏文学Ⅳ」、「中高英語教育実践演習Ⅰ」、「中高英語教育実践演習Ⅱ」、「中高英語教育実践演習Ⅲ」「中高英語教育実践演習Ⅳ」、「英語科教育法Ⅲ（中・高）」及び「英語科教育法Ⅳ（中・高）」を除く10科目から６単位以上を修得すること。

人間情報学部カリキュラムと卒業要件

AICHI SHUKUTOKU UNIVERSITY

1 ディプロマ・ポリシー（人材養成像）

人間情報学部人間情報学科では、「人」中心の発想から情報技術を捉えることで、人々が暮らしやすいAI（人工知能）時代の情報化社会の形成と発展に貢献できる力を身につけた人材を養成することを目標としている。感性工学専攻、およびデータサイエンス専攻では、以下にあげるような能力を修得した学生に学位を授与する。

感性工学専攻

感性工学専攻では、これからの持続可能な社会においてSTEAM人材として貢献し活躍することを目標として、以下の知識や技能の修得を求める。

（1）人間の感性とユニバーサルデザインの観点より、ユーザの多様性に配慮し効果的に情報サービス・製品・空間等をデザインできる能力を身につけている。（技能・表現）

（2）AI・IoT・ビッグデータ・ロボット等の技術を活用できる知識やスキルを身につけ、これからの持続可能な社会に貢献し活躍できる。（知識・関心・意欲）

（3）デジタル社会における人々の快適な情報環境の提供や効率的な業務推進のためのアプリやシステム構築を実践し、情報セキュリティや情報の評価・活用などデジタル情報の適切な利用を支援する能力を身につけている。（思考・判断・技能）

データサイエンス専攻

データサイエンス専攻では、今後ますます多様化・複雑化する情報化社会においてデータ分析のスペシャリストとして活躍できることを目標として、以下の知識や技能の修得を求める。

（1）人の知覚、感情、行動、運動、性格等の「人」の理解に加えて、モノやサービスを評価するための、心理的・生理的な測定技術と統計に基づくデータ分析能力を身につけている。（技能・表現・関心）

（2）データ分析に機械学習を含むAI（人工知能）を活用することで、高い応用性を持ったデータ戦略を立案して実行することができる。（知識・思考・態度）

（3）データ分析の知識と技術を人の行動予測やマーケティング、エンターテイメント、スポーツ、流通、情報通信、健康、福祉等の多岐に渡る分野に応用することで、多様化・複雑化する情報化社会に貢献できる。（技能・態度・意欲）

2 カリキュラム・ポリシー(ディプロマ・ポリシーに整合し、それを保証するカリキュラムの体系性を記したもの)

人間情報学部人間情報学科では、それぞれの専攻の人材養成目標にあわせたカリキュラム・ポリシーを以下の通り定める。

感性工学専攻

感性工学専攻では、これからの持続可能な社会においてSTEAM人材として貢献し活躍することを目標として、人間の感性やユニバーサルデザインの観点から効果的に情報分野での新たな価値を創出できる能力を身につけた人材を育成するために、以下のような方針でカリキュラムを編成する。

1年次から2年次では、基礎的な知識と技能の修得のために、数学的スキルや情報管理に関する基礎科目について演習形式の講義を中心に配置する。また、高校までに学んだ知識をさらに高度化して主体的な学修を進めるために、ユーザに配慮したデザインや次世代システムの構築についての知識や技能を学修する科目群を編成する。3年次からは各専用のソフトウェアや基本的な数値解析手法やアルゴリズムについて学びながら、デザイン技術とプログラミング技術を身につけ、演習系科目を中心に3Dモデリング、映像コンテンツ、ロボット製作、センサー工学、IoT・インタラクティブアート、感性プロトタイピングなどの技術修得へとステップアップできる科目群を編成する。またこれらの科目群により、AIスキルを活用した画像処理や言語処理などについても学び、社会課題解決におけるAIの応用可能性を検討できる力を修得する。これらをふまえて卒業プロジェクトを開始し、ユーザの多様性や社会貢献を視野に入れた研究テーマを設定する。4年次では、これまでの学修をとおして培った論理的思考、得られたデータの適切な分析をふまえて、卒業研究を科学論文として完成させる。研究発表会にて効果的でわかりやすいプレゼンテーションをおこない、質問に対して的確な回答ができるようにし、インタラクティブなコミュニケーション力を向上させる。

データサイエンス専攻

データサイエンス専攻では、多様化・複雑化する情報化社会において、データ分析のスペシャリストとして活躍できる人材を養成することを目標として、「人」の理解、心理的・生理的な測定技術、統計に基づくデータ分析能力、ならびにデータ分析におけるAI活用と多分野への応用能力を養うために、以下のような方針でカリキュラムを編成する。

心理的・生理的な測定技術や統計的分析能力、AI(人工知能) 活用を含むプログラミング能力を養うために、必修科目として「実験法・分析法」、ならびに「プログラミング・データ活用」に関する科目群を編成する。これらの科目群は全て演習形式とし、自ら実験計画やデータ分析目標を立て、それらを実施するという主体的・体験的な学びを取り入れる。また、人の知覚や感情、行動、運動、性格等についての学修を深めるための「心理科学」に関する科目群、スポーツを含む人の生理・生体についての学修を深めるための「生体情報処理」に関する科目群、マーケティング等の実践的なデータ分析の活用能力を養うための「ビジネスデータ活用」に関する科目群を編成する。さらに、統計分析等の基盤となる数学についての学修を深める「数理科学」に関する科目群、ならびに専攻の学びを将来のキャリアに繋げるための「キャリア形成」に関する科目群を編成する。以上の7科目群では、系統ごとに1年次から段階的な学修ができるように各学年に科目を配置し、3年次から始まる卒業プロジェクトを円滑に進めることができるように体系化する。論理的思考力とデータドリブン型の実証能力により問題解決に取り組める能力を2年間の卒業プロジェクトで向上させ、4年間の学修の集大成として卒業論文を完成させる。4年次に実施する成果発表会におけるプレゼンテーションと卒業論文の完成度に基づいて卒業プロジェクトの評価を行う。

3 アドミッション・ポリシー

人間情報学科 感性工学専攻

1.学生に期待すること

情報デザイン制作と情報システム制作において、人の感性に関する知識とAI(人工知能) 技術を活用することにより、AI時代の情報化社会においてSTEAM人材※として活躍する意欲を持つことを期待する。

※STEAM人材とは、科学的でありつつも、創造的な発想で技術開発や問題解決のできる人材を指す。

2.学生募集に際して重視すること

・人の感性やユニバーサルデザインの視点から効果的な情報サービス、製品、空間をデザインしたり、人にやさしく豊かなデジタルライフを提案・創造したりすることに関心を持っていること。

・AIやIoT、ビッグデータ、ロボット制御の技術を応用してアプリを開発したり、情報システムを構築したりすることに関心を持っていること。

・これらの内容について記載された文章や図表を理解できる論理的・数理的な思考力と基礎学力を身に付けていること。

3.入学前学習として推奨すること

・感性やユニバーサルデザイン、AI、IoT、ビッグデータ、ロボット等のキーワードを含む記事、ならびにそれらが情報サービス、製品、空間のデザインやアプリ・情報システムに活用されている事例について記載された記事に日頃から目を通すこと。

・これらの記事の論旨を要約できる力や主張の根拠の妥当性を的確に指摘できる力、ならびに記事内に記された図表が示す意味を読み取る力の向上に努めること。

人間情報学科 データサイエンス専攻

1.学生に期待すること

統計学に基づく伝統的なデータ分析法から機械学習等のAI（人工知能）を駆使した最新のデータ分析法までを修得することで、AI時代の情報化社会において、データ分析のスペシャリストとして活躍する意欲を持つことを期待する。

2.学生募集に際して重視すること

・データ分析により、人の知覚や感情、行動、運動、性格等の“人”を理解することに関心を持っていること。

・データ分析の知識と技術をマーケティングやエンターテイメント、スポーツ、流通、情報通信、健康、福祉等の多岐に渡る分野に応用することに関心を持っていること。

・これらの内容について記載された図表や文章を読み解く論理的･数理的な思考力と基礎学力を身に付けていること。

3.入学前学習として推奨すること

・新聞、雑誌、WEBページなどに記載された図表を含む記事や広告等に日頃から目を通すこと。

・記事や広告等に記載された図表の示す意味や図表を表示する効果、図表とその説明文章との関係性を読み解く力、ならびに読み取った内容を要約して文章化できる力の向上に努めること。

4 卒業に必要な単位（卒業要件単位数）

本学の人間情報学部を卒業するためには、4年以上在学（休学期間は含まない）し、**124単位**以上を修得しなければならない（愛知淑徳大学学則第47条）。その内訳は次の表のとおりである。

感性工学専攻

■2025年度入学者

授業科目の種類			卒業要件単位 人間情報学科 感性工学専攻
専門教育科目※2	専攻科目		76単位以上 （必修※1 26単位、選択必修16単位を含む）
全学共通履修科目	基幹科目	違いを共に生きる科目	6単位以上 （「違いを共に生きる・ライフデザイン」 「AI・データサイエンス入門［M］」 「コンピュータリテラシーⅠ」 必修6単位を含む。）
		AI・データサイエンス科目	
	アクティブラーニング科目	国際交流センター開設科目	4単位以上 （「日本語表現1」必修2単位を含む。）
		CCC開設科目	
		キャリアセンター開設科目	
		ダイバーシティ共生センター開設科目	
		学修・教育支援センター開設科目	
	スキル科目	言語活用科目（英語）	4単位以上 （必ず言語活用科目（英語）4単位を含む。）
		言語活用科目（初めての外国語）	
学部認定科目		他学部・他学科開放科目	0単位以上
		愛知学長懇話会単位互換科目（上限10単位）	
		放送大学単位互換科目（上限10単位）	
合計			124単位以上

※1 必修科目：卒業までに必ず単位を修得しなければならない科目。

※2 専門教育科目の卒業要件単位の詳細はカリキュラム表を参照する。

なお、以下の表にある科目は、**卒業に必要な単位に算入されない**ため、注意する。

①言語活用科目（英語） 「Introduction to English」	②教職課程科目	③学芸員課程科目
④司書課程科目	⑤コンピュータ資格科目	⑥会計教育科目
⑦研究科開放科目	⑧文学部国文学科専門教育科目 「学びなおし古文」「学びなおし漢文」	⑨建築学部建築学科専門教育科目 「基礎数学」
⑩食健康科学部専門教育科目 「基礎化学」「基礎生物学」		

データサイエンス専攻

■2025年度入学者

授業科目の種類			卒業要件単位 人間情報学科 データサイエンス専攻
専門教育科目※2	専攻科目		88単位以上 （必修※1 48単位、選択必修14単位を含む）
全学共通履修科目	基幹科目	違いを共に生きる科目	6単位以上 （「違いを共に生きる・ライフデザイン」 「AI・データサイエンス入門［M］」 「コンピュータリテラシーⅠ」 必修6単位を含む。）
		AI・データサイエンス科目	
	アクティブラーニング科目	国際交流センター開設科目	4単位以上 （「日本語表現1」必修2単位を含む。）
		CCC開設科目	
		キャリアセンター開設科目	
		ダイバーシティ共生センター開設科目	
		学修・教育支援センター開設科目	
	スキル科目	言語活用科目（英語）	4単位以上 （必ず言語活用科目（英語）4単位を含む。）
		言語活用科目（初めての外国語）	
学部認定科目	他学部・他学科開放科目		0単位以上
	愛知学長懇話会単位互換科目（上限10単位）		
	放送大学単位互換科目（上限10単位）		
合計			124単位以上

※1 必修科目：卒業までに必ず単位を修得しなければならない科目。

※2 専門教育科目の卒業要件単位の詳細はカリキュラム表を参照する。

なお、以下の表にある科目は、**卒業に必要な単位に算入されない**ため、注意する。

①言語活用科目（英語） 「Introduction to English」	②教職課程科目	③学芸員課程科目
④司書課程科目	⑤コンピュータ資格科目	⑥会計教育科目
⑦研究科開放科目	⑧文学部国文学科専門教育科目 「学びなおし古文」「学びなおし漢文」	⑨建築学部建築学科専門教育科目 「基礎数学」
⑩食健康科学部専門教育科目 「基礎化学」「基礎生物学」		

5 履修上の注意（人間情報学科 感性工学専攻）

1．卒業に必要な単位数は、124単位である。内訳については「卒業に必要な単位（卒業要件単位数）」のページを熟読する。**なお、２年次終了時までに卒業要件に含まれる修得単位数が48単位未満の場合は、２年間に渡る必修科目「卒業プロジェクト」を３年次で履修できないため、その時点で４年間での卒業ができなくなるので注意する。**

2．以下に履修、および単位の修得が必要な前提科目を示す。

(a) 指定された前提科目を**履修した場合にのみ**履修することができる。
※前提科目の成績評価が「失格」の場合は履修不可

前提科目一覧（a）

科目名	前提科目
コンピュータネットワーク演習	ネットワーク論
AIプログラミング演習	プログラミング演習２(Python)
データ解析演習	コンピュータ計算入門
CG制作演習Ⅱ	CG制作演習Ⅰ
AIシステム開発演習１ AIシステム開発演習２	AIプログラミング演習
代数学Ⅱ	代数学Ⅰ
代数学Ⅲ	代数学Ⅱ
応用解析学	基礎解析学
ベクトル解析	代数学Ⅱ 応用解析学
幾何学Ⅱ	ベクトル解析 幾何学Ⅰ
統計学	確率論
応用統計学	確率論
情報数学Ⅱ	情報数学Ⅰ

(b) 指定された前提科目の**単位を修得した場合にのみ**履修することができる。
※前提科目の成績評価が「F」および「失格」･「欠席」の場合は履修不可

前提科目一覧（b）

科目名	前提科目
卒業プロジェクトⅡ	卒業プロジェクトⅠ
卒業プロジェクトⅢ	卒業プロジェクトⅡ
卒業プロジェクトⅣ	卒業プロジェクトⅢ
卒業論文・卒業制作	卒業プロジェクトⅡ

3．以下に科目の理解を深めるため、事前の履修が推奨されている科目を示す。

事前履修推奨科目一覧

科目名	推奨科目
代数学Ⅰ	代数学入門
基礎解析学 幾何学Ⅰ	代数学入門 幾何学入門 解析学入門
確率論	代数学入門 解析学入門 確率・統計入門
情報数学Ⅰ	解析学入門 確率・統計入門
応用統計学	統計学
プログラミング演習1（C） プログラミング演習2（Python） プログラミング演習3（Java）	プログラミング論
対人行動学演習	調査法演習 ユーザ評価演習
センサー工学演習	プログラミング演習1（C） プログラミング演習2（Python） プログラミング演習3（Java） のいずれか
ロボット製作演習	
数理科学入門Ⅰ（ベクトル・行列） 数理科学入門Ⅱ（微分・積分）	コンピュータ計算入門
モデリング・シミュレーション演習	プログラミング演習1（C） プログラミング演習2（Python） プログラミング演習3（Java） のいずれか 数理科学入門Ⅰ（ベクトル・行列） 数理科学入門Ⅱ（微分・積分）
感性プロトタイピング演習	CG制作演習Ⅰ
ビッグデータ演習 データマイニング演習	データ解析演習 データベース設計演習
IoT・インタラクティブアート制作演習	プログラミング演習1（C） プログラミング演習2（Python） プログラミング演習3（Java） のいずれか
VR制作演習	
調査法演習	心理統計学
ユーザ評価演習	

4．履修希望者多数の場合は、急遽抽選で履修制限を設けたり、追加登録が不可となる可能性がある。

5．3年前期から4年後期にかけて、「卒業プロジェクトⅠ～Ⅳ」および「卒業論文・卒業制作」を履修する。プロジェクトの選択は、2年後期に行う。

6．司書および学芸員の資格を取得するためには、所定の科目を修得する必要がある。司書資格取得に必要な科目および学芸員資格取得に必要な科目については、当該箇所を熟読する。

「司書資格」の取得を目指す者は、1年生の時に司書課程ガイダンスの資料を確認する。

「学芸員資格」の取得を目指す者は、1年生の時に学芸員課程ガイダンスの資料を確認する。

「教育職員免許状」の取得を目指す者は、1年生の時に教職課程ガイダンスの資料を確認する。

1年生

1．前期の必修科目は、「基礎ゼミ」「心理データサイエンス入門」「IoT・ロボティクス」である。これらの科目を必ず履修登録する。
2．後期の必修科目は、「AI（人工知能）概論」「情報処理論」「感性工学」である。これらの科目を必ず履修登録する。
3．下記の科目は、時間割の「開講年組」欄の指定にしたがって登録する。
「基礎ゼミ」「心理データサイエンス入門」「プログラミング論」「コンピュータ計算入門」
「情報処理論」「プログラミング演習２(Python)」「情報検索演習」「幾何学入門」「代数学入門」「解析学入門」
「確率・統計入門」
4．全学共通履修科目の必修科目を必ず履修する。特に「違いを共に生きる・ライフデザイン」「AI・データサイエンス入門［M］」「コンピュータリテラシーⅠ」「日本語表現１」は１年次での単位修得を強く推奨する。
5．基幹科目・アクティブラーニング科目・スキル科目の卒業に必要な単位数（14単位以上）は１、２年で取り終えるのが望ましい。
6．AIデータサイエンス科目の必修科目は、「AI･データサイエンス入門[M]」「コンピュータリテラシーⅠ」である。これに加え「コンピュータリテラシーⅡ」を履修することが望ましい。なお、両科目は、時間割の「開講年組」欄の指定にしたがって登録する。
7．２年次終了時までに卒業要件に含まれる修得単位数が48単位未満の場合は、その時点で、４年間での卒業ができなくなるので注意する。

2年生

1．卒業プロジェクトについて
・卒業プロジェクトは３年から４年にわたって、ⅠからⅣの順に同一教員の科目を履修しなければならない。途中で担当教員を変更することはできないが、学業の遂行に不利益があった場合はサブアドバイザーに相談すること。不利益が発生したと客観的な証拠に基づいて認められた場合には、すみやかに、プロジェクトの変更も含めた適切な対応をとる。
・プロジェクトの配属の方法については、２年次後期の説明会、CampusSquareで案内するので必ず確認する。
・感性工学専攻で培う専門知識を含む人間情報学の学びを深め、３年次から開講される卒業プロジェクトに備える。
2．２年次終了時までに卒業要件に含まれる修得単位数が48単位未満の場合は、２年間に渡る必修科目「卒業プロジェクト」を３年次で履修できないため、その時点で４年間での卒業ができなくなるので注意する。

3年生

1．３年生の必修科目は、「キャリアデザイン（人間情報）」（前期）、「卒業プロジェクトⅠ」（前期）、「卒業プロジェクトⅡ」（後期）である。これらの科目を必ず履修登録する。卒業プロジェクトは３年から４年にわたって、ⅠからⅣの順に同一教員の科目を履修しなければならない。途中で担当教員を変更することはできないが、学業の遂行に不利益があった場合はサブアドバイザーに相談すること。不利益が発生したと客観的な証拠に基づいて認められた場合には、すみやかに、プロジェクトの変更も含めた適切な対応をとる。

4年生

1．４年生の必修科目は、「卒業プロジェクトⅢ」（前期）、「卒業プロジェクトⅣ」（後期）、「卒業論文・卒業制作」（通年）である。これらの科目を必ず履修登録する。卒業プロジェクトは３年から４年にわたって、ⅠからⅣの順に同一教員の科目を履修しなければならない。途中で担当教員を変更することはできないが、学業の遂行に不利益があった場合はサブアドバイザーに相談すること。不利益が発生したと客観的な証拠に基づいて認められた場合には、すみやかに、プロジェクトの変更も含めた適切な対応をとる。なお、「卒業論文・卒業制作」（通年）は、「卒業プロジェクトⅢ」（前期）とは別の科目である。「卒業論文・卒業制作」（通年）は必ず前期に履修登録すること。
2．卒業論文・卒業制作説明書の執筆要綱については、在学生ガイダンス、および、各指導教員より案内するので必ず確認すること。

【カリキュラム表の見方】（例）

「必修単位/選択単位欄」･･･必修単位の欄に数字が記載してある科目は必修科目、選択単位の欄に数字が記載してある科目は選択科目である。記載してある数字は履修・修得した場合の単位数を表している。

「履修年次」･･･履修年次欄に記載されている数字は、この科目を履修できる学年を表している。上級年次の学生は、下の学年の対象科目は履修ができる。自分の学年より上の学年対象科目は、その学年になるまで履修ができない。

「卒業要件欄」･･･必修科目以外にも、卒業するために必要な単位数(選択必修)が記載されている。

科目群	ナンバリング	DP番号	科目番号	科　目	必修単位	選択単位	履修年次	開講学期	開講最少履修者数（目安）	卒業要件	備　考
専攻科目	1050	DP1	211021	情報処理論	2		1	後期	1	必修10単位を含む40単位以上選択必修	学科内合同開講 １年生は時間割掲載のクラス指定にしたがって登録する（非抽選）。 ２年生以上はクラス指定なし。ただし、履修希望者多数の場合は抽選とする。
	1010	DP1	215108	幾何学入門		2	1	前期･後期	10		学科内合同開講
	1010	DP1	215109	代数学入門		2	1	前期･後期	10		
	1050	DP1	211026	プログラミング論		2	1	前期	1		学科内合同開講 １年生は時間割掲載のクラス指定にしたがって登録する（非抽選）。 ２年生以上はクラス指定なし。ただし、履修希望者多数の場合は抽選とする。
	2010	DP1	215117	幾何学Ⅰ		2	2	前期･後期	1		学科内合同開講
	2010	DP1	215116	代数学Ⅲ		2	2	前期･後期	1		学科内合同開講 「代数学Ⅱ」を履修した学生のみ履修可。ただし「失格」の場合は不可。
	2010	DP1	215118	幾何学Ⅱ		2	2	前期･後期	1		学科内合同開講 「ベクトル解析」および「幾何学Ⅰ」を履修した学生み履修可。ただし「失格」の場合は不可。

「科目番号」･･･履修･修得した科目を特定する番号である。

「科目名」･･･実際に履修・修得する科目の名前である。

「開講最少履修者数（目安）欄」･･･この欄に記載されている人数よりも履修希望者が少ない場合、授業の開講を取りやめる(閉講)場合がある。

「備考欄」･･･クラス指定により自分が履修する時間割(曜日時限)が決められていたり、事前に履修しておく必要がある科目（前提科目）等が記載されている。その他にも、様々な注意事項が記載されているので、注意する。

●専門教育科目の授業内容は、CampusSquareの「シラバス」から確認する。

6 カリキュラム表（人間情報学科 感性工学専攻 専門教育科目）

科目群	ナンバリング	DP番号	科目番号	科目	必修単位	選択単位	履修年次	開講学期	開講最少履修者数（目安）	卒業要件	備考
専攻科目	1000	DP1	211031	基礎ゼミ	2		1	前期	1		1年生は時間割掲載のクラス指定にしたがって登録する。 2年生以上は自身のアドバイザーのクラスを登録する。具体的には在学生ガイダンスで指示する。 成績は「合」「否」により評価
	1030	DP1	212108	感性工学	2		1	後期	1		
	1050	DP1	211021	情報処理論	2		1	後期	1		学科内合同開講 1年生は時間割掲載のクラス指定にしたがって登録する（非抽選）。 2年生以上はクラス指定なし。ただし、履修希望者多数の場合は抽選とする。
	1060	DP1	215202	IoT・ロボティクス	2		1	前期	1		
	1060	DP1	215100	心理データサイエンス入門	2		1	前期	1		1年生は時間割掲載のクラス指定にしたがって登録する（非抽選）。 2年生以上はクラス指定なし。ただし、履修希望者多数の場合は抽選とする。
	1060	DP1	215002	AI（人工知能）概論	2		1	後期	1		学科内合同開講
	2000	DP1	211008	キャリアデザイン（人間情報）	2		3	前期	1		学科内合同開講 成績は「合」「否」により評価
	1010	DP1	215108	幾何学入門		2	1	前期・後期	10	14単位以上選択必修	学科内合同開講
	1010	DP1	215109	代数学入門		2	1	前期・後期	10		
	1010	DP1	215110	解析学入門		2	1	前期・後期	10		
	1010	DP1	215111	確率・統計入門		2	1	前期・後期	10		
	1010	DP1	215112	代数学Ⅰ		2	1	前期・後期	1		
	1010	DP1	215113	代数学Ⅱ		2	1	前期・後期	1		学科内合同開講 「代数学Ⅰ」を履修した学生のみ履修可。ただし「失格」の場合は不可。
	1010	DP1	215114	基礎解析学		2	1	前期・後期	1		学科内合同開講
	1010	DP1	215115	応用解析学		2	1	前期・後期	1		学科内合同開講 「基礎解析学」を履修した学生のみ履修可。ただし「失格」の場合は不可。
	1060	DP1	215124	データサイエンス基礎演習		2	1	後期	1		学科内合同開講
	2010	DP1	215103	数理科学入門Ⅰ（ベクトル・行列）		2	2	前期	1		
	2010	DP1	215104	数理科学入門Ⅱ（微分・積分）		2	2	後期	1		
	2010	DP1	215116	代数学Ⅲ		2	2	前期・後期	1		学科内合同開講 「代数学Ⅱ」を履修した学生のみ履修可。ただし「失格」の場合は不可。
	2010	DP1	215117	幾何学Ⅰ		2	2	前期・後期	1		学科内合同開講
	2010	DP1	215118	幾何学Ⅱ		2	2	前期・後期	1		学科内合同開講 「ベクトル解析」および「幾何学Ⅰ」を履修した学生み履修可。ただし「失格」の場合は不可。

科目群	ナンバリング	DP番号	科目番号	科　目	必修単位	選択単位	履修年次	開講学期	開講最少履修者数（目安）	卒業要件	備　考
専攻科目	2010	DP1	215119	ベクトル解析		2	2	前期・後期	1		学科内合同開講 「代数学Ⅱ」および「応用解析学」を履修した学生のみ履修可。ただし「失格」の場合は不可。
	2010	DP1	215120	確率論		2	2	前期・後期	1		学科内合同開講
	2010	DP1	215121	統計学		2	2	前期・後期	1		学科内合同開講 「確率論」を履修した学生のみ履修可。ただし「失格」の場合は不可。
	2010	DP1	215123	情報数学Ⅰ		2	2	前期・後期	1		学科内合同開講
	2050	DP1	215126	AIプログラミング演習		2	2	前期・後期	1		学科内合同開講 「プログラミング演習２(Python)」を履修した学生のみ履修可。ただし「失格」の場合は不可。
	3010	DP1	215122	応用統計学		2	3	前期・後期	1		学科内合同開講 「確率論」を履修した学生のみ履修可。ただし「失格」の場合は不可。
	3010	DP1	215125	情報数学Ⅱ		2	3	前期・後期	1		学科内合同開講 「情報数学Ⅰ」を履修した学生のみ履修可。ただし「失格」の場合は不可。
	1001	DP1	215106	Practical English		2	1	後期	5		学科内合同開講
	1030	DP1	211014	デザイン概論		2	1	後期	1		
	1030	DP1	215200	デザインと芸術の研究史		2	1	前期	10		
	1030	DP1	215201	心理統計学		2	1	前期・後期	10		
	1050	DP1	211005	情報検索演習		2	1	後期	1		学科内合同開講 １年生は時間割掲載のクラス指定にしたがって登録する（非抽選）。 ２年生以上はクラス指定なし。ただし、履修希望者多数の場合は抽選とする。
	1050	DP1	214006	コンピュータ計算入門		2	1	前期	5		学科内合同開講 １年生は時間割掲載のクラス指定にしたがって登録する（非抽選）。 ２年生以上はクラス指定なし。ただし、履修希望者多数の場合は抽選とする。
	1050	DP1	211023	情報セキュリティ論		2	1	前期	10		学科内合同開講
	1050	DP1	211022	ネットワーク論		2	1	前期・後期	1		
	1050	DP1	211026	プログラミング論		2	1	前期	1		学科内合同開講 １年生は時間割掲載のクラス指定にしたがって登録する（非抽選）。 ２年生以上はクラス指定なし。ただし、履修希望者多数の場合は抽選とする。
	1050	DP1	211027	プログラミング演習１(C)		2	1	前期・後期	1	2単位以上選択必修	学科内合同開講
	1050	DP1	215004	プログラミング演習２(Python)		2	1	前期・後期	5		
	1050	DP1	211029	プログラミング演習３(Java)		2	1	前期・後期	1		学科内合同開講

科目群	ナンバリング	DP番号	科目番号	科　目	必修単位	選択単位	履修年次	開講学期	開講最少履修者数（目安）	卒業要件	備　考
専攻科目	2002	DP1	215107	海外フィールドスタディ		2	2	前期	20		学科内合同開講 履修希望者多数の場合は抽選。希望者は、後日掲示の指示に従って説明会に参加し、履修条件を確認の上、別途申込をする。履修を認められた者の履修登録は教務事務室が行うので、各自で登録は不要。原則、取消不可。 成績は「合」「否」により評価
	2020	DP1	212109	人間工学		2	3	前期・後期	10		学科内合同開講
	2020	DP1	211018	調査法演習		2	2	前期・後期	5		学科内合同開講
	2020	DP1	215206	測定法演習		2	2	前期・後期	5		
	2020	DP1	215207	ユーザ評価演習		2	2	前期・後期	5		
	2020	DP1	215208	データ解析演習		2	2	前期・後期	5		「コンピュータ計算入門」を履修した学生のみ履修可。ただし「失格」の場合は不可。
	2020	DP1	211040	対人行動学演習		2	3	前期・後期	5		
	2030	DP1	212202	マルチメディアデザイン論		2	2	前期	1		学科内合同開講
	2030	DP1	212201	ヒューマンインタフェース		2	2	後期	10		
	2030	DP1	215203	ユニバーサルデザイン		2	2	後期	10		
	2030	DP1	214002	デザイン心理学		2	2	後期	10		
	2030	DP1	212106	色彩学		2	2	前期	10		
	2040	DP1	215204	VR制作演習		2	2	前期・後期	5		
	2040	DP1	215205	Webデザイン・プログラミング演習		2	2	前期・後期	5		
	2040	DP1	212210	CG制作演習Ⅰ		2	2	前期・後期	1		学科内合同開講
	2040	DP1	215127	サウンドデータ制作演習		2	2	前期・後期	5		
	2040	DP1	212205	プロダクトデザイン論		2	3	前期	10		
	2040	DP1	215213	映像コンテンツ制作演習		2	3	前期・後期	5		
	2050	DP1	212207	データベース論		2	2	前期	1		
	2050	DP1	215101	オープンデータ活用基礎		2	2	前期	1		学科内合同開講
	2050	DP1	212305	情報利用論		2	2	後期	1		
	2050	DP1	211030	コンピュータネットワーク演習		2	2	前期・後期	1		学科内合同開講 「ネットワーク論」を履修した学生のみ履修可。ただし「失格」の場合は不可。
	2050	DP1	215210	メタデータ		2	2	前期	1		学科内合同開講
	2050	DP1	215211	感性情報システム論		2	2	後期	10		
	2050	DP1	212208	システム設計・開発論		2	2	後期	1		学科内合同開講
	2050	DP1	212216	データベース設計演習		2	2	前期・後期	5		
	2060	DP1	215102	IT人材入門		2	2	前期	10		学科内合同開講
	2060	DP1	215212	子どもとAI		2	2	後期	10		
	3040	DP1	212218	モデリング・シミュレーション演習		2	3	後期	1		学科内合同開講
	3040	DP1	212211	CG制作演習Ⅱ		2	3	前期・後期	1		学科内合同開講 「CG制作演習Ⅰ」を履修した学生のみ履修可。ただし「失格」の場合は不可。
	3040	DP1	212214	ロボット製作演習		2	3	前期・後期	5		
	3040	DP1	215214	センサー工学演習		2	3	前期・後期	5		
	3040	DP1	215215	感性プロトタイピング演習		2	3	後期	5		
	3040	DP1	215216	IoT・インタラクティブアート制作演習		2	3	前期	5		

科目群	ナンバリング	DP番号	科目番号	科　目	必修単位	選択単位	履修年次	開講学期	開講最少履修者数（目安）	卒業要件	備　考
専攻科目	3050	DP1	212217	システム設計演習		2	3	前期	1		学科内合同開講
	3050	DP1	215217	画像処理		2	3	前期	5		
	3050	DP1	215218	自然言語処理		2	3	後期	5		
	3060	DP1	215219	AIシステム開発演習 1		2	3	前期･後期	5		「AIプログラミング演習」を履修した学生のみ履修可。ただし「失格」の場合は不可。
	3060	DP1	215220	AIシステム開発演習 2		2	3	前期･後期	5		
	3060	DP1	215221	ビジネスとAI		2	3	後期	5		
	3060	DP1	211002	情報関係法		2	3	前期	1		学科内合同開講
	3060	DP1	215222	学習とAI		2	3	後期	10		
	3070	DP1	213001	卒業プロジェクトⅠ	2		3	前期	1		履修時までに卒業要件に含まれる単位数を48単位以上修得済みの者に限り履修可。
	3070	DP1	213002	卒業プロジェクトⅡ	2		3	後期	1		「卒業プロジェクトⅠ」の単位修得者のみ履修可。
	3070	DP1	213003	卒業プロジェクトⅢ	2		4	前期	1		「卒業プロジェクトⅡ」の単位修得者のみ履修可。
	3070	DP1	213004	卒業プロジェクトⅣ	2		4	後期	1		「卒業プロジェクトⅢ」の単位修得者のみ履修可。
	3070	DP1	213005	卒業論文・卒業制作	4		4	通年	1		「卒業プロジェクトⅡ」の単位修得者のみ履修可。

7 履修上の注意（人間情報学科 データサイエンス専攻）

1．卒業に必要な単位数は、124単位である。内訳については「卒業に必要な単位（卒業要件単位数）」のページを熟読する。**なお、２年次終了時までに卒業要件に含まれる修得単位数が48単位未満の場合は、２年間に渡る必修科目「卒業プロジェクト」を３年次で履修できないため、その時点で４年間での卒業ができなくなるので注意する。**

2．以下に履修、および単位の修得が必要な前提科目を示す。

(a) 指定された前提科目を**履修した場合にのみ**履修することができる。
※前提科目の成績評価が「失格」の場合は履修不可

前提科目一覧（a）

科目名	前提科目
データサイエンス演習Ⅰ	データ分析演習Ⅰ
データ分析演習Ⅱ	
データ分析演習Ⅲ	
データサイエンス演習Ⅱ	データサイエンス演習Ⅰ
データ活用演習Ⅰ	DSプログラミング演習Ⅰ
データ活用演習Ⅱ	
コンピュータネットワーク演習	ネットワーク論
AIプログラミング演習	DSプログラミング演習Ⅰ
CG制作演習Ⅱ	CG制作演習Ⅰ
代数学Ⅱ	代数学Ⅰ
代数学Ⅲ	代数学Ⅱ
応用解析学	基礎解析学
ベクトル解析	代数学Ⅱ 応用解析学
幾何学Ⅱ	ベクトル解析 幾何学Ⅰ
統計学	確率論
応用統計学	確率論
情報数学Ⅱ	情報数学Ⅰ

(b) 指定された前提科目の**単位を修得した場合にのみ**履修することができる。
※前提科目の成績評価が「F」および「失格」･「欠席」の場合は履修不可

前提科目一覧（b）

科目名	前提科目
卒業プロジェクトⅡ	卒業プロジェクトⅠ
卒業プロジェクトⅢ	卒業プロジェクトⅡ
卒業プロジェクトⅣ	卒業プロジェクトⅢ
卒業論文・卒業制作	卒業プロジェクトⅡ

3．以下に科目の理解を深めるため、事前の履修が推奨されている科目を示す。

事前履修推奨科目一覧

科目名	推奨科目
代数学Ⅰ	代数学入門
基礎解析学 幾何学Ⅰ	代数学入門 幾何学入門 解析学入門
確率論	代数学入門 解析学入門 確率・統計入門
情報数学Ⅰ	解析学入門 確率・統計入門
応用統計学	統計学
データサイエンス演習Ⅰ	実験心理学
プログラミング演習１(C) プログラミング演習３(Java)	プログラミング論
数理科学入門Ⅰ(ベクトル・行列) 数理科学入門Ⅱ(微分・積分)	コンピュータ計算入門
モデリング・シミュレーション演習	DSプログラミング演習Ⅰ プログラミング演習１(C) プログラミング演習３(Java) のいずれか 数理科学入門Ⅰ(ベクトル・行列) 数理科学入門Ⅱ(微分・積分)

4．履修希望者多数の場合は、急遽抽選で履修制限を設けたり、追加登録が不可となる可能性がある。

5．３年前期から４年後期にかけて、「卒業プロジェクトⅠ～Ⅳ」および「卒業論文・卒業制作」を履修する。プロジェクトの選択は、２年後期に行う。

6．司書および学芸員の資格を取得するためには、所定の科目を修得する必要がある。司書資格取得に必要な科目および学芸員資格取得に必要な科目については、当該箇所を熟読する。
「司書資格」の取得を目指す者は、１年生の時に司書課程ガイダンスの資料を確認する。
「学芸員資格」の取得を目指す者は、１年生の時に学芸員課程ガイダンスの資料を確認する。
「教育職員免許状」の取得を目指す者は、１年生の時に教職課程ガイダンスの資料を確認する。

１年生

1．前期の必修科目は、「基礎ゼミ」「心理データサイエンス入門」「実験設計演習」「DSプログラミング演習Ⅰ」である。これらの科目を必ず履修登録する。

2．後期の必修科目は、「AI（人工知能）概論」「生理・運動計測演習」「データ分析演習Ⅰ」「DSプログラミング演習Ⅱ」「情報処理論」である。これらの科目を必ず履修登録する。

3．下記の科目は、時間割の「開講年組」欄の指定にしたがって登録する。
「基礎ゼミ」「心理データサイエンス入門」「実験設計演習」「DSプログラミング演習Ⅰ」「生理･運動計測演習」「データ分析演習Ⅰ」「DSプログラミング演習Ⅱ」「情報処理論」「幾何学入門」「代数学入門」「解析学入門」「確率・統計入門」

4．全学共通履修科目の必修科目を必ず履修する。特に「違いを共に生きる・ライフデザイン」「AI・データサイエンス入門［M］」「コンピュータリテラシーⅠ」「日本語表現１」は１年次での単位修得を強く推奨する。

5．基幹科目・アクティブラーニング科目・スキル科目の卒業に必要な単位数（14単位以上）は１、２年で取り終えるのが望ましい。

6．AIデータサイエンス科目の必修科目は、「AI･データサイエンス入門[M]」「コンピュータリテラシーⅠ」である。これに加え「コンピュータリテラシーⅡ」を履修することが望ましい。なお、両科目は、時間割の「開講年組」欄の指定にしたがって登録する。
7．２年次終了時までに卒業要件に含まれる修得単位数が48単位未満の場合は、その時点で、４年間での卒業ができなくなるので注意する。

２年生

1．前期の必修科目は、「データ分析演習Ⅱ」「データサイエンス演習Ⅰ」「データ活用演習Ⅰ」である。これらの科目を必ず履修登録する。
2．後期の必修科目は、「データ分析演習Ⅲ」「データサイエンス演習Ⅱ」「データ活用演習Ⅱ」である。これらの科目を必ず履修登録する。
3．「データサイエンス演習Ⅰ」「データサイエンス演習II」は２時限連続開講であることに注意する。
4．卒業プロジェクトについて
・卒業プロジェクトは３年から４年にわたって、ⅠからⅣの順に同一教員の科目を履修しなければならない。途中で担当教員を変更することはできないが、学業の遂行に不利益があった場合はサブアドバイザーに相談すること。不利益が発生したと客観的な証拠に基づいて認められた場合には、すみやかに、プロジェクトの変更も含めた適切な対応をとる。
・プロジェクトの配属の方法については、２年次後期の説明会、CampusSquareで案内するので必ず確認する。
・データサイエンス専攻で培う専門知識を含む人間情報学の学びを深め、３年次から開講される卒業プロジェクトに備える。
5．２年次終了時までに卒業要件に含まれる修得単位数が48単位未満の場合は、２年間に渡る必修科目「卒業プロジェクト」を３年次で履修できないため、その時点で４年間での卒業ができなくなるので注意する。

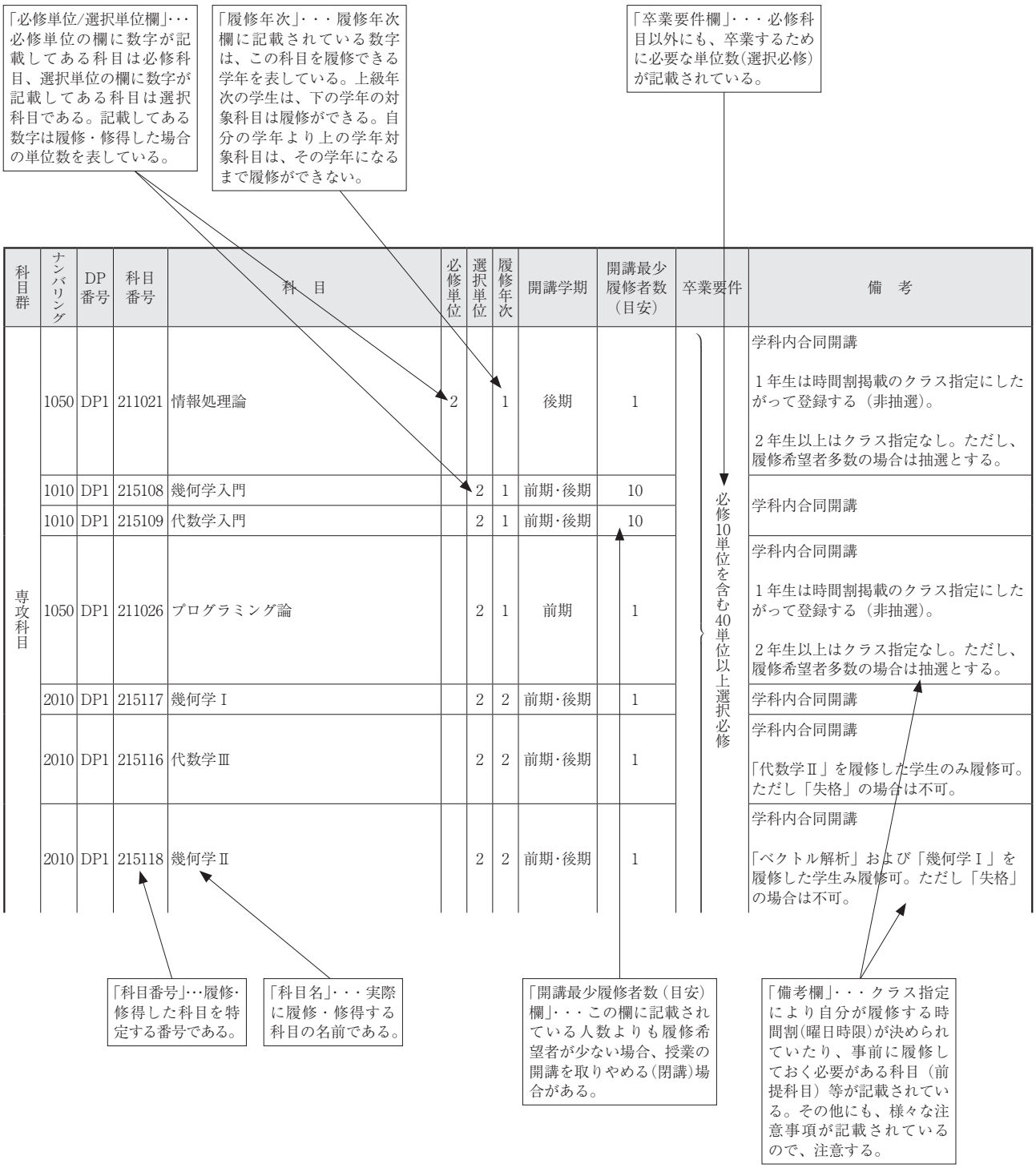
３年生

1．３年生の必修科目は、「キャリアデザイン（人間情報）」（前期）、「卒業プロジェクトⅠ」（前期）、「卒業プロジェクトⅡ」（後期）である。これらの科目を必ず履修登録する。卒業プロジェクトは３年から４年にわたって、ⅠからⅣの順に同一教員の科目を履修しなければならない。途中で担当教員を変更することはできないが、学業の遂行に不利益があった場合はサブアドバイザーに相談すること。不利益が発生したと客観的な証拠に基づいて認められた場合には、すみやかに、プロジェクトの変更も含めた適切な対応をとる。

４年生

1．４年生の必修科目は、「卒業プロジェクトⅢ」（前期）、「卒業プロジェクトⅣ」（後期）、「卒業論文・卒業制作」（通年）である。これらの科目を必ず履修登録する。卒業プロジェクトは３年から４年にわたって、ⅠからⅣの順に同一教員の科目を履修しなければならない。途中で担当教員を変更することはできないが、学業の遂行に不利益があった場合はサブアドバイザーに相談すること。不利益が発生したと客観的な証拠に基づいて認められた場合には、すみやかに、プロジェクトの変更も含めた適切な対応をとる。なお、「卒業論文・卒業制作」（通年）は、「卒業プロジェクトⅢ」（前期）とは別の科目である。「卒業論文・卒業制作」（通年）は必ず前期に履修登録すること。
2．卒業論文・卒業制作説明書の執筆要綱については、在学生ガイダンス、および、各指導教員より案内するので必ず確認すること。

【カリキュラム表の見方】（例）



科目群	ナンバリング	DP番号	科目番号	科　目	必修単位	選択単位	履修年次	開講学期	開講最少履修者数（目安）	卒業要件	備　考
専攻科目	1050	DP1	211021	情報処理論	2		1	後期	1		学科内合同開講 １年生は時間割掲載のクラス指定にしたがって登録する（非抽選）。 ２年生以上はクラス指定なし。ただし、履修希望者多数の場合は抽選とする。
	1010	DP1	215108	幾何学入門		2	1	前期･後期	10		学科内合同開講
	1010	DP1	215109	代数学入門		2	1	前期･後期	10		
	1050	DP1	211026	プログラミング論		2	1	前期	1		学科内合同開講 １年生は時間割掲載のクラス指定にしたがって登録する（非抽選）。 ２年生以上はクラス指定なし。ただし、履修希望者多数の場合は抽選とする。
	2010	DP1	215117	幾何学Ⅰ		2	2	前期･後期	1		学科内合同開講
	2010	DP1	215116	代数学Ⅲ		2	2	前期･後期	1		学科内合同開講 「代数学Ⅱ」を履修した学生のみ履修可。ただし「失格」の場合は不可。
	2010	DP1	215118	幾何学Ⅱ		2	2	前期･後期	1		学科内合同開講 「ベクトル解析」および「幾何学Ⅰ」を履修した学生み履修可。ただし「失格」の場合は不可。

●専門教育科目の授業内容は、CampusSquareの「シラバス」から確認する。

8 カリキュラム表(人間情報学科 データサイエンス専攻 専門教育科目)

科目群	ナンバリング	DP番号	科目番号	科目	必修単位	選択単位	履修年次	開講学期	開講最少履修者数(目安)	卒業要件	備考
専攻科目	1100	DP1	211031	基礎ゼミ	2		1	前期	1		1年生は時間割掲載のクラス指定にしたがって登録する。 2年生以上は自身のアドバイザーのクラスを登録する。具体的には在学生ガイダンスで指示する。 成績は「合」「否」により評価
	1120	DP1	215300	実験設計演習	2		1	前期	1		1年生は時間割掲載のクラス指定にしたがって登録する(非抽選)。 2年生以上はクラス指定なし。ただし、履修希望者多数の場合は抽選とする。
	1120	DP1	215306	データ分析演習Ⅰ	2		1	後期	1		1年生は時間割掲載のクラス指定にしたがって登録する(非抽選)。 2年生以上はクラス指定なし。ただし、履修希望者多数の場合は抽選とする。
	1120	DP1	215100	心理データサイエンス入門	2		1	前期	1		1年生は時間割掲載のクラス指定にしたがって登録する(非抽選)。 2年生以上はクラス指定なし。ただし、履修希望者多数の場合は抽選とする。
	1130	DP1	215002	AI(人工知能)概論	2		1	後期	1		学科内合同開講
	1130	DP1	211021	情報処理論	2		1	後期	1		学科内合同開講 1年生は時間割掲載のクラス指定にしたがって登録する(非抽選)。 2年生以上はクラス指定なし。ただし、履修希望者多数の場合は抽選とする。
	1130	DP1	215301	DSプログラミング演習Ⅰ	2		1	前期・後期	1		1年生は時間割掲載のクラス指定にしたがって登録する(非抽選)。 2年生以上はクラス指定なし。ただし、履修希望者多数の場合は抽選とする。 後期コマは、未修得者対象。
	1130	DP1	215302	DSプログラミング演習Ⅱ	2		1	後期	1		1年生は時間割掲載のクラス指定にしたがって登録する(非抽選)。 2年生以上はクラス指定なし。ただし、履修希望者多数の場合は抽選とする。
	1140	DP1	215304	生理・運動計測演習	2		1	後期	1		1年生は時間割掲載のクラス指定にしたがって登録する(非抽選)。 2年生以上はクラス指定なし。ただし、履修希望者多数の場合は抽選とする。
	2120	DP1	215307	データ分析演習Ⅱ	2		2	前期	1		「データ分析演習Ⅰ」を履修した学生のみ履修可。ただし「失格」の場合は不可。 2年生は時間割掲載のクラス指定にしたがって登録する(非抽選)。 3年生以上はクラス指定なし。ただし、履修希望者多数の場合は抽選とする。

科目群	ナンバリング	DP番号	科目番号	科　目	必修単位	選択単位	履修年次	開講学期	開講最少履修者数（目安）	卒業要件	備　考
専攻科目	2120	DP1	215308	データ分析演習Ⅲ	2		2	後期	1		「データ分析演習Ⅰ」を履修した学生のみ履修可。ただし「失格」の場合は不可。 ２年生は時間割掲載のクラス指定にしたがって登録する（非抽選）。 ３年生以上はクラス指定なし。ただし、履修希望者多数の場合は抽選とする。
	2120	DP1	215309	データサイエンス演習Ⅰ	4		2	前期	1		２時限連続授業 「データ分析演習Ⅰ」を履修した学生のみ履修可。ただし「失格」の場合は不可。
	2120	DP1	215310	データサイエンス演習Ⅱ	4		2	後期	1		２時限連続授業 「データサイエンス演習Ⅰ」を履修した学生のみ履修可。ただし「失格」の場合は不可。
	2130	DP1	215311	データ活用演習Ⅰ	2		2	前期	1		「DSプログラミング演習Ⅰ」を履修した学生のみ履修可。ただし「失格」の場合は不可。 ２年生は時間割掲載のクラス指定にしたがって登録する（非抽選）。 ３年生以上はクラス指定なし。ただし、履修希望者多数の場合は抽選とする。
	2130	DP1	215312	データ活用演習Ⅱ	2		2	後期	1		「DSプログラミング演習Ⅰ」を履修した学生のみ履修可。ただし「失格」の場合は不可。 ２年生は時間割掲載のクラス指定にしたがって登録する（非抽選）。 ３年生以上はクラス指定なし。ただし、履修希望者多数の場合は抽選とする。
	2100	DP1	211008	キャリアデザイン（人間情報）	2		3	前期	1		学科内合同開講 成績は「合」「否」により評価
	1110	DP1	215108	幾何学入門		2	1	前期・後期	10	14単位以上選択必修	学科内合同開講
	1110	DP1	215109	代数学入門		2	1	前期・後期	10		
	1110	DP1	215110	解析学入門		2	1	前期・後期	10		
	1110	DP1	215111	確率・統計入門		2	1	前期・後期	10		
	1110	DP1	215112	代数学Ⅰ		2	1	前期・後期	1		
	1110	DP1	215113	代数学Ⅱ		2	1	前期・後期	1		学科内合同開講 「代数学Ⅰ」を履修した学生のみ履修可。ただし「失格」の場合は不可。
	1110	DP1	215114	基礎解析学		2	1	前期・後期	1		学科内合同開講
	1110	DP1	215115	応用解析学		2	1	前期・後期	1		学科内合同開講 「基礎解析学」を履修した学生のみ履修可。ただし「失格」の場合は不可。
	1120	DP1	215124	データサイエンス基礎演習		2	1	後期	1		学科内合同開講
	2110	DP1	215103	数理科学入門Ⅰ（ベクトル・行列）		2	2	前期	1		
	2110	DP1	215104	数理科学入門Ⅱ（微分・積分）		2	2	後期	1		
	2110	DP1	215116	代数学Ⅲ		2	2	前期・後期	1		学科内合同開講 「代数学Ⅱ」を履修した学生のみ履修可。ただし「失格」の場合は不可。
	2110	DP1	215117	幾何学Ⅰ		2	2	前期・後期	1		学科内合同開講

科目群	ナンバリング	DP番号	科目番号	科　目	必修単位	選択単位	履修年次	開講学期	開講最少履修者数（目安）	卒業要件	備　考
専攻科目	2110	DP1	215118	幾何学Ⅱ		2	2	前期・後期	1		学科内合同開講 「ベクトル解析」および「幾何学Ⅰ」を履修した学生み履修可。ただし「失格」の場合は不可。
	2110	DP1	215119	ベクトル解析		2	2	前期・後期	1		学科内合同開講 「代数学Ⅱ」および「応用解析学」を履修した学生のみ履修可。ただし「失格」の場合は不可。
	2110	DP1	215120	確率論		2	2	前期・後期	1		学科内合同開講
	2110	DP1	215121	統計学		2	2	前期・後期	1		学科内合同開講 「確率論」を履修した学生のみ履修可。ただし「失格」の場合は不可。
	2110	DP1	215123	情報数学Ⅰ		2	2	前期・後期	1		学科内合同開講
	2130	DP1	215126	AIプログラミング演習		2	2	前期・後期	1		学科内合同開講 「DSプログラミング演習Ⅰ」を履修した学生のみ履修可。ただし「失格」の場合は不可。
	3110	DP1	215122	応用統計学		2	3	前期・後期	1		学科内合同開講 「確率論」を履修した学生のみ履修可。ただし「失格」の場合は不可。
	3110	DP1	215125	情報数学Ⅱ		2	3	前期・後期	1		学科内合同開講 「情報数学Ⅰ」を履修した学生のみ履修可。ただし「失格」の場合は不可。
	1101	DP1	215106	Practical English		2	1	後期	5		学科内合同開講
	1130	DP1	214006	コンピュータ計算入門		2	1	前期	5		
	1130	DP1	211023	情報セキュリティ論		2	1	前期	10		
	1130	DP1	211022	ネットワーク論		2	1	前期・後期	1		
	1130	DP1	211026	プログラミング論		2	1	前期	1		
	1130	DP1	211027	プログラミング演習１(C)		2	1	前期・後期	1		
	1130	DP1	211029	プログラミング演習３(Java)		2	1	前期・後期	1		
	1140	DP1	215303	認知科学		2	1	後期	10		
	1140	DP1	215016	知覚情報処理		2	1	後期	10		
	1150	DP1	211005	情報検索演習		2	1	後期	1		学科内合同開講
	1150	DP1	212305	情報利用論		2	1	後期	1		
	1160	DP1	214017	心理学史		2	1	前期	10		
	1160	DP1	211011	実験心理学		2	1	後期	10		
	1160	DP1	214016	発達心理学概論		2	1	前期・後期	10		
	1160	DP1	214004	心理学概論		2	1	前期	10		
	2100	DP1	215102	IT人材入門		2	2	前期	10		学科内合同開講
	2102	DP1	215107	海外フィールドスタディ		2	2	前期	20		学科内合同開講 履修希望者多数の場合は抽選。希望者は、後日掲示の指示に従って説明会に参加し、履修条件を確認の上、別途申込をする。履修を認められた者の履修登録は教務事務室が行うので、各自で登録は不要。原則、取消不可。 成績は「合」「否」により評価

科目群	ナンバリング	DP番号	科目番号	科　目	必修単位	選択単位	履修年次	開講学期	開講最少履修者数（目安）	卒業要件	備　考
専攻科目	2120	DP1	215127	サウンドデータ制作演習		2	2	前期･後期	5		学科内合同開講
	2130	DP1	212207	データベース論		2	2	前期	1		
	2130	DP1	215101	オープンデータ活用基礎		2	2	前期	1		
	2130	DP1	215210	メタデータ		2	2	前期	1		
	2130	DP1	211030	コンピュータネットワーク演習		2	2	前期･後期	1		学科内合同開講 「ネットワーク論」を履修した学生のみ履修可。ただし「失格」の場合は不可。
	2130	DP1	212202	マルチメディアデザイン論		2	2	前期	1		学科内合同開講
	2130	DP1	212210	CG制作演習Ⅰ		2	2	前期･後期	1		
	2130	DP1	212208	システム設計・開発論		2	2	後期	1		
	2140	DP1	212119	音響学		2	2	後期	10		
	2140	DP1	215316	視覚情報処理		2	2	前期	10		
	2140	DP1	215317	脳・生体情報処理		2	2	後期	10		
	2140	DP1	215318	スポーツ認知行動学		2	2	後期	10		
	2150	DP1	211018	調査法演習		2	2	前期･後期	5		学科内合同開講
	2150	DP1	211017	消費者行動論		2	2	前期	10		
	2150	DP1	215315	マーケティング論		2	2	前期	10		
	2160	DP1	215008	聴覚・言語心理学		2	2	後期	10		
	2160	DP1	215313	生理・比較心理学		2	2	前期	10		
	2160	DP1	215314	発達心理学		2	2	前期	10		
	2160	DP1	214020	教育心理学		2	2	後期	10		
	2160	DP1	214022	社会心理学		2	2	後期	10		
	3130	DP1	212211	CG制作演習Ⅱ		2	3	前期･後期	1		学科内合同開講 「CG制作演習Ⅰ」を履修した学生のみ履修可。ただし「失格」の場合は不可。
	3130	DP1	212217	システム設計演習		2	3	前期	1		学科内合同開講
	3130	DP1	212218	モデリング・シミュレーション演習		2	3	後期	1		
	3130	DP1	215319	データマイニング演習		2	3	前期	5		
	3130	DP1	215014	ビッグデータ演習		2	3	後期	5		
	3140	DP1	212109	人間工学		2	3	前期･後期	10		学科内合同開講
	3140	DP1	215322	音響データ分析演習		2	3	前期	5		
	3140	DP1	215323	生体データ処理演習		2	3	前期	5		
	3150	DP1	211002	情報関係法		2	3	前期	1		学科内合同開講
	3150	DP1	215320	ビジネスサイエンス		2	3	前期･後期	10		
	3150	DP1	215321	マーケティングデータ分析演習		2	3	後期	5		
	3170	DP1	213001	卒業プロジェクトⅠ	2		3	前期	1		履修時までに卒業要件に含まれる単位数を48単位以上修得済みの者に限り履修可。
	3170	DP1	213002	卒業プロジェクトⅡ	2		3	後期	1		「卒業プロジェクトⅠ」の単位修得者のみ履修可。
	3170	DP1	213003	卒業プロジェクトⅢ	2		4	前期	1		「卒業プロジェクトⅡ」の単位修得者のみ履修可。
	3170	DP1	213004	卒業プロジェクトⅣ	2		4	後期	1		「卒業プロジェクトⅢ」の単位修得者のみ履修可。
	3170	DP1	213005	卒業論文・卒業制作	4		4	通年	1		「卒業プロジェクトⅡ」の単位修得者のみ履修可。

心理学部カリキュラムと卒業要件

AICHI SHUKUTOKU UNIVERSITY

1 ディプロマ・ポリシー（人材養成像）

現代の心理学は実証主義に基づく経験科学であり、また、現実生活で生じる人と人、人と環境のダイナミックな相互作用現象を問題にする行動科学である。したがって、現象を机上のみで理解するのではなく、現象を捉える客観的なデータの収集、分析、考察という、段階的に積み上げていく科学的アプローチが必要とされる。心理学部ではこのような特徴をもつ現代心理学の学修を通じて、心の多様性と普遍性を理解し、他者を尊重するとともに、自己を正しく表出することができる人材、さらには人間関係の中で生じる諸問題に適切に対処することができる人材を育成することを目指している。この目標を達成するため、人間行動のさまざまな現象を現代心理学の主要な領域である「生理・認知」「社会」「発達」「臨床」の４つの領域から多角的な視点で総合的に究明するカリキュラムを編成し、以下のような知識・能力を身につけた者に学位を授与する。

・心の多様性と普遍性、人と人、人と環境の相互作用を理解する力
・科学的な根拠に基づいて実証的に分析し、論理的に思考する力
・幅広い人間行動や社会現象の中から問題点を発見し解決していく力
・ディスカッションやプレゼンテーションを含むコミュニケーション力

2 カリキュラム・ポリシー（ディプロマ・ポリシーに整合し、それを保証するカリキュラムの体系性を記したもの）

本学部が目指す『**４つの知識・能力を身につけた人材**』の養成を実現するために、以下のような方針でカリキュラムを編成する。

『**心の多様性、普遍性に気づき、人と社会がどのように相互作用するのかを理解する力**』を効果的に獲得できるよう、「心理学的な視点の広さ」と「科目間の有機的なつながり」を十分に考慮して１、２年次の科目を配し、各授業を計画する。また、それらの授業は専任教員が中心となって担当する。

「心理学」は、中等教育では学習されておらず、間違ったイメージを持っている可能性が高いことに鑑み、１年次には心理学の基礎知識を幅広く学べる科目を配置する。心理学への興味関心を維持、喚起するため、１年次から２年次にかけては、段階的に、より高度で新しい心理学の知識の修得を目標とした科目を、「生理・認知」「社会」「発達」「臨床」の領域でそれぞれ配置する。学生には、この４領域を偏りなく履修することを求める。

心の多様性、普遍性に気づき、理解するためには、以上のような１、２年次での幅広い視点からの段階的学修が必要不可欠である。この幅広い視点をさらに広げるため、専門領域に特化した心理学講義・演習科目を３年次以降に配し、自由な履修を求める。また、多様な視点を獲得させるべく、教養および心理学関連の講義科目を１年次から配置する。

『**科学的根拠に基づいて実証的に分析し、それに基づいて論理的に思考する力**』を学ぶため、知識を修得するための科目と同時に、１年次から実習、演習科目を必修とする。目には見えない心の働きを数量化、分類化することは、論理的に思考するために必要不可欠である。そのため、実際に他人からデータを採取する実習、演習科目を１年次から４年次まで、段階的に配置する。実習、演習科目で扱う題材は、基礎的知識を修得する科目で学んだことに依拠するものとし、また実習、演習科目で求められるスキルもそれまでの科目で修得したものとする。これらの実習、演習科目では、仮説の導出、データ収集・分析から結論を論理的に導く過程を学ぶだけでなく、グループでのディスカッションや、口頭、並びに研究レポートによる研究成果のプレゼンテーションを通じた、『**コミュニケーション力**』の向上も目指すものとする。

公認心理師資格取得を強く希望する学生には、１年次より講義科目並びに実習科目を段階的に履修するように求める。公認心理師につながる心理職の知識・技能を獲得するために、１、２年次より心理職の知識や関連領域の講義科

目を配置し、２年後期からは、心理的支援の知識に関する講義科目や心理的支援の技術に関する実習、演習科目を用意する。

３年次以降の２年間は、専門演習、いわゆるゼミを用意し、ゼミに所属することを全員に求める。これは、１、２年次で修得した基礎知識とスキルを基に、学生自らが見つけた問いを、学生自らが心理学的アプローチにより実証し、卒業研究として完遂することを求めるためである。これを修学の集大成とする。卒業研究完成にいたる過程は、『**幅広い人間行動や社会現象の中から問題点を発見し解決する力**』の向上につなげるものとする。学生が研究を実施するにあたり、その多様な関心に応えられるよう、専門が異なる多くの専任教授陣を用意し十分な指導をおこなう。

3　アドミッション・ポリシー

①学生に期待すること

心理学部では、人間に関わるさまざまな現象に関心を持ち、論理的かつ客観的に分析していく姿勢が求められる。また、人の心の問題について自分なりの考えを持っているだけでなく、異なる意見を持つ人たちと議論しながら考えをまとめていくことも必要となる。こうした学修活動に積極的に取り組むことが期待される。

②学生募集に際して重視すること

心理学部では、自らおこなう心理学の研究を卒業論文という形でまとめる。そのためには、図表などからデータを読み取り、それに基づいて客観的に考え、まとめる力が必要である。また、自分の考えを主張するだけでなく、多角的な視点をふまえた上で他者と議論するコミュニケーションの力も必要となる。さらに、本学心理学部で学ぶことができる内容についても、偏りなく把握しておくことが重要である。

③入学前学習として推奨すること

心理学は、文系・理系といった枠にとらわれない。文章理解力や数学的な分析力はもとより、人間の生物学的な特徴の理解も必要であるし、社会学的な視点も必要である。つまり、高校で学ぶ主要教科の基礎学力をバランスよく確実に身につけておく必要がある。そのため、受験のための教科以外についても、高校までの学習内容を復習しておくことが大切である。

4 卒業に必要な単位（卒業要件単位数）

本学の心理学部を卒業するためには、4年以上在学（休学期間は含まない）し、**124単位**以上修得しなければならない（「愛知淑徳大学学則第47条」）。その内訳は次の表のとおりである。

■2025年度入学者

授業科目の種類			卒業要件単位
専門教育科目　※			80単位以上 （必修33単位、選択必修20単位を含む）
全学共通履修科目	基幹科目	違いを共に生きる科目	6単位以上 （「違いを共に生きる・ライフデザイン」「AI・データサイエンス入門［M］」必修4単位、さらに「コンピュータリテラシーⅠ」「コンピュータリテラシーⅡ」の中から2単位以上を含む。）
		AI・データサイエンス科目	
	アクティブラーニング科目	国際交流センター開設科目	4単位以上 （「日本語表現1」必修2単位を含む。）
		CCC開設科目	
		キャリアセンター開設科目	
		ダイバーシティ共生センター開設科目	
		学修・教育支援センター開設科目	
	スキル科目	言語活用科目（英語）	4単位以上 （必ず言語活用科目（英語）4単位を含む。）
		言語活用科目（初めての外国語）	
学部認定科目		他学部・他学科開放科目	0単位以上
		愛知学長懇話会単位互換科目（上限10単位）	
		放送大学単位互換科目（上限10単位）	
合計			124単位以上

※　専門教育科目の卒業要件単位の詳細はカリキュラム表を参照する。

なお、以下の表にある科目は、**卒業に必要な単位に算入されない**ため、注意する。

①言語活用科目（英語） 「Introduction to English」	②教職課程科目	③学芸員課程科目
④司書課程科目	⑤コンピュータ資格科目	⑥会計教育科目
⑦研究科開放科目	⑧文学部国文学科専門教育科目 「学びなおし古文」「学びなおし漢文」	⑨建築学部建築学科専門教育科目 「基礎数学」
⑩食健康科学部専門教育科目 「基礎化学」「基礎生物学」		

5 履修上の注意

1．全体的注意

（1）心理学部では、専門教育科目については80単位以上を、全学共通履修科目については入学年度ごとに定められた単位をそれぞれ含めて、合計124単位以上を修得しなければならない。

（2）心理学部の専門教育科目は、基礎・スキル科目、専門講義科目、専門演習科目、教養・関連科目に分かれている。そのうちで２年次に開講される専門講義科目については、「生理・認知」「社会」「発達」「臨床」の４つの科目群から構成されており、それぞれの領域で２科目４単位以上を修得しなければならない。

（3）専門教育科目には、必修科目33単位と、選択必修科目20単位および選択科目がある。卒業に要する専門教育科目の総単位数（80単位）が満たされていても、科目群ごとの細かな選択必修の条件が満たされていなければ卒業が認定されない。したがって、カリキュラム表の備考欄に注意して履修すること。

● 全学年共通事項

（1）本学部の専門教育科目の履修年次に従って履修すること。ただし、在籍学年以前の必修科目は最優先で単位を修得する。他の科目（資格に関連した科目等）と時間割が競合した場合も、本学部の専門教育科目を優先した履修をおこなうこと。

（2）実習・演習科目および選択必修科目の一部科目については、受講人数の制限または振り分けをする場合がある。これについては年度始めのガイダンスおよびCampusSquare等で詳しい説明があるので注意すること。

（3）３・４年次の専門演習（ゼミ）と４年次の卒業論文は心理学部の必修科目であり、専任教員のいずれかのゼミに所属しなければならない。ゼミの選択にあたっては、２年次からガイダンスを開始する。１教員あたりの受入可能学生数が発表され、希望者がそれを上回った場合には選考をすることがある。ゼミの選択にあたっては、ゼミ担当教員の２年次開講の専門講義科目を履修していることが望ましいので、幅広い領域の専門講義科目を２年次に履修すること。

（4）専門演習Ⅰ・Ⅱに関しては、履修時までに卒業要件に含まれる単位を44単位以上修得済みの者に限り履修可能であるので、それまでに修得単位数を満たしておくよう注意すること。

2．各学年における履修上の注意

（1）１年生

① １年次は全学共通履修科目と学部必修科目の履修を中心に考えること。

② １年次の専門教育科目における必修科目は、次の７科目14単位である。

前期	後期
心理学概論Ⅰ 心理学概論Ⅱ 心理学統計法 心理学実験Ⅰa(クラス指定)	心理学研究法概論 心理学実験Ⅰb(クラス指定) 心理学実験Ⅱ（クラス指定）

③ 全学共通履修科目については，定められた卒業要件単位を１年次の間に履修することが望ましい。

④ 基幹科目は「違いを共に生きる・ライフデザイン」「AI・データサイエンス入門［M］」の２科目４単位、さらに「コンピュータリテラシーⅠ」「コンピュータリテラシーⅡ」から１科目２単位以上を含めて卒業要件単位数以上を履修すること。

⑤ アクティブラーニング科目は「日本語表現１」の１科目２単位を含めて卒業要件単位数以上を履修すること。

⑥ スキル科目は言語活用科目（英語）から２科目４単位を含めて履修すること。

⑦ １年次は、全学共通履修科目および心理学部開講の教養・関連科目を含めて、40単位前後修得することが望ましい。

⑧ ２年次開講の選択必修科目「心理学研究法演習」には５種類の科目があり、１年次の終了時までにその振り分けをおこなうので、CampusSquare等の連絡に注意すること。

（2）2年生

① 1年次必修科目の単位を修得できなかった者は、その科目を最優先して履修すること。

② 2年次の必修科目は、次の1科目2単位である。

前期もしくは後期
心理学論文講読（クラス指定）

③「心理学研究法演習」は、1年次終了時に決定された「調査演習」「観察演習」「実験演習(生理)」「実験演習(認知)」「実験演習(社会)」の5つのうちの1つを必ず履修しなければならない。

④ 前期に開講される「データ解析Ⅰ」は、クラス指定で開講するので、全員が履修すること。

⑤ 2年次から開講される専門講義科目は、できるだけ幅広い領域のものを履修することが望ましい。同時に、全体的注意で述べたように、3年次以降の専門演習（ゼミ）の選択の幅に影響を与えるので注意すること。専門講義科目は、4つの領域ごとに4単位以上選択必修となっている。

⑥ 2年次では、基礎・スキル科目、専門講義科目を中心に40単位前後修得することが望ましい。

⑦ 2年次終了時までに、3年次開講の「専門演習」の決定（ゼミ選択）をおこなう。専門演習Ⅰ・Ⅱに関しては、履修時までに卒業要件に含まれる単位を44単位以上修得済みの者に限り履修可能であるので、それまでに修得単位数を満たしておくよう注意すること。10月以降に数回のガイダンスと説明会等を開くので、CampusSquare等での連絡に注意すること。

（3）3年生

① 1・2年次の必修科目の単位を修得できなかった者は、その科目を最優先して履修すること。

② 3年次の必修科目は、次の3科目5単位である。

前期	後期
専門演習Ⅰ 心理学とキャリア（集中）	専門演習Ⅱ

③「専門演習」は3年から4年次にわたって、Ⅰ～Ⅳの順に同一教員のものを履修しなければならない。なお、所属するゼミは原則として変更することはできない※。また、ゼミ担当教員は所属ゼミ生のアドバイザーとなるが、その不在の時などに相談できるよう、他の教員が副アドバイザーとして指定される。

※所属ゼミを変更する必要が生じた場合は、アドバイザー（主、副いずれか）が学科に上申し、学科会議においてその可否を決定する。

④「心理的アセスメントⅡ」「データ解析Ⅱ」「データ解析Ⅲ」「心理学研究法総合演習Ⅰ・Ⅱ」は受講者数に制限があるので、希望者がそれを上回った場合は、調整もしくは選抜をおこなうことがある。CampusSquare等の連絡に注意すること。

⑤ 3年次はゼミおよびゼミの専門領域の専門講義科目を中心に、その他の専門講義科目、関連科目、全学共通履修科目を含めて30単位以上修得することが望ましい。

（4）4年生

① 最終年次であるので、指定された単位を修得しているか確認をして履修すること（特に、必修科目と選択必修科目）。

② 4年次の必修科目は、次の3科目12単位である。

前期	後期
専門演習Ⅲ	専門演習Ⅳ
卒業論文(専門演習Ⅲ･Ⅳの授業内で指導を受け､論文を提出することにより単位の認定を受ける)	

③ 4年次は上記必修科目を含め、専門講義科目、関連科目、全学共通履修科目から幅広く履修することが望ましい。

（5）編入生・転学部生

① 編入生の場合、既修得科目と本学部科目との読替は、最大60単位まで申請することができる。専門教育科目等については、科目同士の内容を照らし合わせた上での個別認定を原則とする。それ以外の科目は、専門教育科目等への読替が不可能な科目を含め本学の全学共通履修科目として包括認定される。

転学部生の場合、既修得科目と本学部科目との読替は、単位数の上限はない。専門教育科目については、科目同士の内容を照らし合わせた上での個別認定、専門教育科目以外の科目は、そのまま認定する。

② 履修登録単位数の上限設定があるため、卒業までに標準的な修業年数以上の年数を要する可能性がある。

③ 編入・転学年次配当の科目との時間割の競合に注意して、計画的に前年次の科目を履修すること。特に、必修科目、選択必修科目については最優先すること。

④ 2年次開講の選択必修科目「心理学研究法演習」の読替ができなかった場合には、履修調整をおこなうので、CampusSquare等の連絡に注意すること。

⑤ 全体的注意：全学年共通事項（3）にあるように、本学部では3年次から必修科目である「専門演習」（ゼミ）が開講される。ゼミは1教員あたりの受入可能学生数が決まっているので、希望するゼミを選択できるとは限らない。特に3年次編入生は、在学生が2年次終了時までに所属ゼミを決定しているため、選択できない（定員に空きがない）ゼミがある。履修調整をおこなうので、CampusSquare等の連絡に注意すること。

心理学科専門教育科目 標準履修年次

必要単位		1年	前	後	2年	前	後	3年	前	後	4年	前	後
必修	33	心理学概論Ⅰ	2		心理学論文講読 ＊1	2		心理学とキャリア	1		専門演習Ⅲ	4	
		心理学概論Ⅱ	2					専門演習Ⅰ	2		専門演習Ⅳ		4
		心理学研究法概論		2				専門演習Ⅱ		2	卒業論文 ＊4	4	
		心理学実験Ⅰa	2										
		心理学実験Ⅰb		2									
		心理学実験Ⅱ		2									
		心理学統計法	2										
選択必修1	4				心理学研究法 ＊2								
					調査演習		4						
					観察演習	4							
					実験演習（生理）	4							
					実験演習（認知）		4						
					実験演習（社会）		4						
選択必修2	4以上				精神生理学	2							
					脳と認知		2						
					意識と認知		2						
					日常行動の認知心理学	2							
選択必修3	4以上				対人コミュニケーションの社会心理学	2							
					社会的行動の心理学		2						
					ノンバーバル行動		2						
					ネットワークの社会心理学	2							
選択必修4	4以上				認知の生涯発達心理学		2						
					老年心理学	2							
					社会性の発達	2							
					青年期の発達と心理		2						
選択必修5	4以上				心理療法	2							
					子どもの心理臨床		2						
					地域支援と臨床心理学	2							
					医療の心理臨床		2						
選択		生理心理学概論		2	データ解析Ⅰ ＊3	2		データ解析Ⅱ	2		心理実習Ⅰ	1	
		認知心理学概論		2	心理的アセスメントⅠ		2	データ解析Ⅲ		2	心理実習Ⅱ		1
		社会心理学概論		2									
		発達心理学概論		2				心理学研究法総合演習Ⅰ	2				
		臨床心理学概論		2				心理学研究法総合演習Ⅱ	2				
								心理的アセスメントⅡ	2				
								心理演習		2			
		公認心理師の職責			人体の構造と機能及び疾病 関係行政論 心理学的支援法			精神疾患とその治療　比較心理学　環境の社会心理学 障害者・障害児心理学　知覚・認知心理学　学習・言語心理学 神経・生理心理学　感情・人格心理学　健康・医療心理学 社会・集団・家族心理学　産業・組織心理学　教育・学校心理学 司法・犯罪心理学　福祉心理学　発達障がいの心理臨床 外国語文献講読A・B　クリティカルシンキング			
		異文化コミュニケーション　社会学概論　哲学概論　倫理学概論　宗教学概論　法律学概論　国際法概論　経済学概論 メンタルヘルス　文化人類学概論　障がい者コミュニケーション											

＊1　指定された開講期で2単位を履修する。
＊2　心理学研究法演習は，事前に指定された1科目のみ履修する。
＊3　データ解析Ⅰは，選択単位であるが全員が履修する。
＊4　卒業論文は，時間割上は開講されず，専門演習Ⅲ・Ⅳの授業内で指導を受け，「卒業論文」を提出して単位の認定を受ける。

6 カリキュラム表（心理学部 専門教育科目）

科目群	ナンバリング	DP番号	科目番号	科目	必修単位	選択単位	履修年次	開講学期	開講最少履修者数（目安）	卒業要件	備考
基礎・スキル科目	1000	DP1, DP3	221001	心理学概論Ⅰ	2		1	前期	1		1/4期科目 2限連続（Ⅰを前半・Ⅱを後半）
	1000	DP1, DP3	221002	心理学概論Ⅱ	2		1	前期	1		
	1010	DP1, DP3	221030	生理心理学概論		2	1	後期	10		
	1010	DP1, DP3	221031	認知心理学概論		2	1	後期	10		
	1020	DP1, DP3	221032	社会心理学概論		2	1	後期	10		
	1030	DP1, DP3	221033	発達心理学概論		2	1	後期	1		
	1040	DP1, DP3	221034	臨床心理学概論		2	1	後期	1		
	1110	DP2, DP3, DP4	221008	心理学研究法概論	2		1	後期	1		
	1110	DP2, DP3, DP4	221035	心理学実験Ⅰa	2		1	前期	1		クラス指定
	1110	DP2, DP3, DP4	221036	心理学実験Ⅰb	2		1	後期	1		
	1100	DP2, DP3, DP4	221037	心理学実験Ⅱ	2		1	後期	1		クラス指定 成績は「合」「否」により評価
	2110	DP2, DP3, DP4	221012	心理学研究法調査演習		4	2	後期	5	4単位選択必修	2限連続 履修科目は事前に振り分け
	2110	DP2, DP3, DP4	221013	心理学研究法観察演習		4	2	前期	5		
	2110	DP2, DP3, DP4	221014	心理学研究法実験演習（生理）		4	2	前期	5		
	2110	DP2, DP3, DP4	221015	心理学研究法実験演習（認知）		4	2	後期	5		
	2110	DP2, DP3, DP4	221016	心理学研究法実験演習（社会）		4	2	後期	5		
	2110	DP2, DP3, DP4	221046	心理学研究法総合演習Ⅰ		2	3	前期	5		心理学研究法総合演習Ⅰと心理学研究法総合演習Ⅱは併せて履修すること
	2110	DP2, DP3, DP4	221047	心理学研究法総合演習Ⅱ		2	3	前期	5		
	1100	DP2, DP3, DP4	221039	心理学統計法	2		1	前期	1		
	2100	DP2, DP3, DP4	221018	データ解析Ⅰ		2	2	前期	5		クラス指定

科目群		ナンバリング	DP番号	科目番号	科　目	必修単位	選択単位	履修年次	開講学期	開講最少履修者数（目安）	卒業要件	備　考
基礎・スキル科目		2100	DP2, DP3, DP4	221019	データ解析Ⅱ		2	3	前期	5		
		2100	DP2, DP3, DP4	221020	データ解析Ⅲ		2	3	後期	5		
		2110	DP2, DP3, DP4	221040	心理的アセスメントⅠ		2	2	後期	1		
		2110	DP2, DP3, DP4	221041	心理的アセスメントⅡ		2	3	前期	1		1/4期科目 ２限連続（半期の前半・後半）
		2410	DP1, DP2, DP3, DP4	221042	心理演習		2	3	後期	1		公認心理師受験資格取得希望者のみ 履修を認められた学生のみ履修可
		3410	DP1, DP2, DP3, DP4	221043	心理実習Ⅰ		1	4	前期	1		学外実習 公認心理師受験資格取得希望者のみ 履修を認められた学生のみ履修可
		3410	DP1, DP2, DP3, DP4	221044	心理実習Ⅱ		1	4	後期	1		
		2110	DP2, DP3, DP4	221045	心理学論文講読	2		2	前期･後期	1		クラス指定
		2300	DP1, DP3	221027	心理学とキャリア	1		3	前期	1		1/4期科目 成績は「合」「否」により評価
		2110	DP2, DP3, DP4	221048	クリティカルシンキング		1	3･4	前期	5		1/4期科目 （半期の前半・後半）
		3110	DP2, DP3, DP4	221049	外国語文献講読A		2	3･4	前期	5		
		3110	DP2, DP3, DP4	221050	外国語文献講読B		2	3･4	後期	5		
専門講義科目	生理・認知	2010	DP1, DP3	222001	精神生理学		2	2	前期	10	4単位以上選択必修	
		2010	DP1, DP3	222002	脳と認知		2	2	後期	10		
		2010	DP1, DP3	222003	意識と認知		2	2	後期	10		
		2010	DP1, DP3	222005	日常行動の認知心理学		2	2	前期	10		
	社会	2020	DP1, DP3	222101	対人コミュニケーションの社会心理学		2	2	前期	10	4単位以上選択必修	
		2020	DP1, DP3	222102	社会的行動の心理学		2	2	後期	10		
		2020	DP1, DP3	222105	ネットワークの社会心理学		2	2	前期	10		
		2020	DP1, DP3	222004	ノンバーバル行動		2	2	後期	10		

科目群		ナンバリング	DP番号	科目番号	科　目	必修単位	選択単位	履修年次	開講学期	開講最少履修者数（目安）	卒業要件	備　考
専門講義科目	発達	2030	DP1, DP3	222201	認知の生涯発達心理学		2	2	後期	10	4単位以上選択必修	
		2030	DP1, DP3	222202	老年心理学		2	2	前期	10		
		2030	DP1, DP3	222203	社会性の発達		2	2	前期	10		
		2030	DP1, DP3	222205	青年期の発達と心理		2	2	後期	10		
	臨床	2040	DP1, DP3	222302	心理療法		2	2	前期	10	4単位以上選択必修	
		2040	DP1, DP3	222305	子どもの心理臨床		2	2	後期	10		
		2040	DP1, DP3	222306	地域支援と臨床心理学		2	2	前期	10		
		2040	DP1, DP3	222308	医療の心理臨床		2	2	後期	10		
		1400	DP1, DP2, DP3, DP4	222415	公認心理師の職責		2	1	後期	1		
		2400	DP1, DP2, DP3, DP4	222416	精神疾患とその治療		2	3	後期	1		
		2420	DP1, DP2, DP3, DP4	222417	人体の構造と機能及び疾病		2	2	前期	1		
		2420	DP1, DP2, DP3, DP4	222418	関係行政論		2	2	前期	1		
		2400	DP1, DP2, DP3, DP4	222419	心理学的支援法		2	2	後期	1		
		2330	DP1, DP3	222420	障害者・障害児心理学		2	3･4	後期	1		
		2310	DP1, DP3	222421	知覚・認知心理学		2	3･4	前期	1		
		2310	DP1, DP3	222422	学習・言語心理学		2	3･4	前期	1		
		2350	DP1, DP3	222404	比較心理学		2	3･4	前期	10		
		2310	DP1, DP3	222423	神経・生理心理学		2	3･4	前期	1		
		2330	DP1, DP3	222424	感情・人格心理学		2	3･4	後期	1		
		2340	DP1, DP3	222425	健康・医療心理学		2	3･4	後期	1		
		2320	DP1, DP3	222426	社会・集団・家族心理学		2	3･4	後期	1		
		2320	DP1, DP3	222410	産業・組織心理学		2	3･4	前期	1		
		2320	DP1, DP3	222414	環境の社会心理学		2	3･4	後期	10		
		2340	DP1, DP3	222307	発達障がいの心理臨床		2	3･4	後期	10		

科目群	ナンバリング	DP番号	科目番号	科　目	必修単位	選択単位	履修年次	開講学期	開講最少履修者数（目安）	卒業要件	備　考
専門講義科目	2330	DP1, DP3	222427	教育・学校心理学		2	3･4	後期	1		
	2350	DP1, DP3	222428	司法・犯罪心理学		2	3･4	後期	1		
	2340	DP1, DP3	222429	福祉心理学		2	3･4	前期	1		
専門演習科目	3200	DP1, DP2, DP3, DP4	223001	専門演習Ⅰ	2		3	前期	1		Ⅰ～Ⅳの順に同一担当者を履修 履修時までに卒業要件に含まれる単位を44単位以上修得済みの者に限り専門演習Ⅰ・Ⅱの履修が可能
	3200	DP1, DP2, DP3, DP4	223002	専門演習Ⅱ	2		3	後期	1		
	3200	DP1, DP2, DP3, DP4	223003	専門演習Ⅲ	4		4	前期	1		2限連続
	3200	DP1, DP2, DP3, DP4	223004	専門演習Ⅳ	4		4	後期	1		Ⅰ～Ⅳの順に同一担当者を履修
	3210	DP1, DP2, DP3, DP4	223005	卒業論文	4		4	通年	1		「専門演習Ⅰ・Ⅱ」を修得済であること 専門演習と同一担当者が指導
教養・関連科目	1500	DP1, DP3	224001	異文化コミュニケーション		2	1-4	後期	10		
	1500	DP1, DP3	224004	社会学概論		2	1-4	前期･後期	10		
	1500	DP1, DP3	224005	哲学概論		2	1-4	後期	10		
	1500	DP1, DP3	224006	倫理学概論		2	1-4	前期	10		
	1500	DP1, DP3	224007	宗教学概論		2	1-4	前期･後期	10		
	1500	DP1, DP3	224008	法律学概論		2	1-4	前期	10		
	1500	DP1, DP3	224009	国際法概論		2	1-4	後期	10		
	1500	DP1, DP3	224010	経済学概論		2	1-4	前期･後期	10		
	1500	DP1, DP3	224014	文化人類学概論		2	1-4	前期･後期	10		
	1500	DP1, DP3	224015	メンタルヘルス		2	1-4	前期･後期	10		
	1500	DP1, DP3	224017	障がい者コミュニケーション		2	1-4	後期	10		

7 公認心理師受験資格

（1）公認心理師について

公認心理師は、2015 年度に公布され、2017 年 9 月 15 日に施行された「公認心理師法」に基づく心理職の国家資格である。公認心理師法の第一条には「国民の心の健康の保持増進に寄与する」ための資格であることが記載され、第二条において以下のような職務の概要が示されている。

1. 心理に関する支援を要する者の心理状態を観察し、その結果を分析すること。
2. 心理に関する支援を要する者に対し、その心理に関する相談に応じ、助言、指導その他の援助を行うこと。
3. 心理に関する支援を要する者の関係者に対し、その心理に対する相談に応じ、助言、指導その他の援助を行うこと。
4. 心の健康に関する知識の普及を図るための教育及び情報の提供を行うこと。

（2）心理学部における公認心理師受験資格への対応について

公認心理師法に示された専門職を養成するために、公認心理師法施行規則第一条に、大学および大学院で履修すべき科目が指定されている。施行規則に規定された 25 科目すべてを履修したうえで卒業した後、大学院に進学して別に指定された科目を履修し修了するか、施行規則に規定された機関で所定の業務経験を積むことによって、国家試験の受験資格が得られる。

心理学部では、大学 4 年間で指定科目の履修ができるようにカリキュラムを用意しているが、一部科目については履修者数の制限があるなど、すべての学生が受験資格を得られるわけではない。以下に示す履修上の注意事項を熟読の上、学修計画を立てて履修すること。また、心理学部が実施する公認心理師に関するガイダンスには、すべて出席すること。

（3）心理学部におけるカリキュラム

公認心理師法施行規則で定める公認心理師試験受験資格を得るために必要な科目と、心理学部において開講する科目との対応は表 1 に示した通りである。大学での公認心理師試験受験資格を満たすためには、表 1 に示した心理学部での開講科目すべての単位を修得することが必要である。例えば、施行規則で指定された科目「心理的アセスメント」は、心理学部の「心理的アセスメントⅠ」及び「心理的アセスメントⅡ」の 2 科目の単位を修得した場合にのみ履修が認定される。

なお、表 1 の科目のうち心理学部の必修科目以外の科目については、表に示された標準の履修年次以外では、時間割の制約等により履修できない可能性があるので注意すること。

表1　公認心理師試験受験資格取得に必要な科目

公認心理師法施行規則で定める所定の科目	心理学部での開講科目	単位数	履修年次
公認心理師の職責	公認心理師の職責	2	1
心理学概論	心理学概論Ⅰ	2	1
	心理学概論Ⅱ	2	1
臨床心理学概論	臨床心理学概論	2	1
心理学研究法	心理学研究法概論	2	1
心理学統計法	心理学統計法	2	1
心理学実験	心理学実験Ⅰa	2	1
	心理学実験Ⅰb	2	1
	心理学実験Ⅱ	2	1
知覚・認知心理学	知覚・認知心理学	2	3・4
学習・言語心理学	学習・言語心理学	2	3・4
感情・人格心理学	感情・人格心理学	2	3・4
神経・生理心理学	神経・生理心理学	2	3・4
社会・集団・家族心理学	社会・集団・家族心理学	2	3・4
発達心理学	発達心理学概論	2	1
障害者・障害児心理学	障害者・障害児心理学	2	3・4
心理的アセスメント	心理的アセスメントⅠ	2	2
	心理的アセスメントⅡ	2	3
心理学的支援法	心理学的支援法	2	2
健康・医療心理学	健康・医療心理学	2	3・4
福祉心理学	福祉心理学	2	3・4
教育・学校心理学	教育・学校心理学	2	3・4
司法・犯罪心理学	司法・犯罪心理学	2	3・4
産業・組織心理学	産業・組織心理学	2	3・4
人体の構造と機能及び疾病	人体の構造と機能及び疾病	2	2
精神疾患とその治療	精神疾患とその治療	2	3
関係行政論	関係行政論	2	2
心理演習	心理演習	2	3
心理実習	心理実習Ⅰ	1	4
	心理実習Ⅱ	1	4

（4）演習・実習科目について

公認心理師法施行規則で定める所定の科目のうち、「心理演習」及び「心理実習」については、心理学部では表２の授業科目として開講される。

表２　公認心理師試験受験資格取得に必要な演習・実習科目

公認心理師法施行規則で定める所定の科目	心理学部での開講科目	単位数	時間数	履修年次	備考
心理演習	心理演習	2	30 時間	3	選考あり
心理実習	心理実習Ⅰ	1	80 時間	4	選考あり
	心理実習Ⅱ	1		4	

（ア）心理演習について

３年次に実施する。定員の上限を30名とする。希望者には選考を行うため、希望者が全員受講できるとは限らない。履修を希望するにあたっては、以下の①～③の条件すべてを満たしていることが必要である。

①　公認心理師資格取得の意思が明確であること。
②　表３に示した科目の単位を修得していること。
③　選考時点の「通算GPA」が2.0以上であること。

なお、選考方法等の詳細については、心理演習の履修登録までに数回のガイダンスを実施し、その中で提示するので、必ず出席すること。

（イ）心理実習Ⅰ・Ⅱについて

４年次に学外実習形式で実施する。前述の心理演習を一定の成績で単位修得した者に限り受講を認める。心理実習Ⅰ・Ⅱを合わせて計80時間以上の実習時間とし、以下の内容を含む。

①　所定の実習施設における利用者とのかかわり体験を主とする活動の時間
②　所定の実習施設における見学（利用者の様子、施設の機能、職員の心理専門職としての活動内容や多職種連携の様子など）
③　①、②の活動に先立つ事前指導やオリエンテーション
④　①、②の活動の後に行う事後指導

授業の実施にあたっては、定員の上限を30名として、心理実習Ⅰ・Ⅱそれぞれの科目を複数の教員が担当する。受講生はグループに分かれて、公認心理師施行規則等に指定されている５分野（保健医療、福祉、教育、司法・犯罪、産業・労働）のうち、医療機関を必須として２つ以上の分野で実習を行う。

心理実習Ⅰ・Ⅱの授業内容と受講上の留意点などは、履修要覧のほか、受講者に配布する「学外実習の手引き」（実習記録の書式を含む）において詳説する。

表３　演習・実習科目を履修するまでに単位を修得しなければならない科目

公認心理師法施行規則で定める所定の科目	心理学部での開講科目	履修年次	心理演習	心理実習Ⅰ・Ⅱ
公認心理師の職責	公認心理師の職責	1	●	●
心理学概論	心理学概論Ⅰ	1	●	●
	心理学概論Ⅱ	1	●	●
臨床心理学概論	臨床心理学概論	1	●	●
心理学研究法	心理学研究法概論	1	●	●
心理学統計法	心理学統計法	1	●	●
心理学実験	心理学実験Ⅰａ	1	●	●
	心理学実験Ⅰｂ	1	●	●
	心理学実験Ⅱ	1	●	●
発達心理学	発達心理学概論	1	●	●
心理学的支援法	心理学的支援法	2	●	●
人体の構造と機能及び疾病	人体の構造と機能及び疾病	2	●	●
関係行政論	関係行政論	2	●	●
心理的アセスメント	心理的アセスメントⅠ	2	●	●
	心理的アセスメントⅡ	3	——	●
精神疾患とその治療	精神疾患とその治療	3	——	●
心理演習	心理演習	3	——	●

8 認定心理士／認定心理士（心理調査）

（1）認定心理士について

認定心理士は、公益社団法人日本心理学会（以下、日本心理学会）が、心理学に関する標準的な基礎知識と基礎技術とを正規の課程において修得していることを認定する資格である。心理学関連の大学卒業者が日本心理学会に申請し、審査に合格すると資格が得られる。しかし、この資格はカウンセラーなどの心理専門職に就くことを保証するものではない。

（2）認定心理士資格取得に必要な科目

① 基礎科目（合計 12 単位以上、詳細は下表を参照）

領域	本学科での対応科目	資格認定単位数		備考
		基本主題	副次主題	
(a) 心理学概論	心理学概論Ⅰ	2		a 領域で 4 単位以上
	心理学概論Ⅱ	2		
(b) 心理学研究法	心理学統計法	2		
	心理学研究法概論	2		
	心理学実験Ⅱ	2		
	データ解析Ⅰ	2		
	データ解析Ⅱ	2		
	データ解析Ⅲ	2		c 領域で 4 単位以上
(c) 心理学実験実習	心理学実験Ⅰa	2		（基本主題を 4 単位以上含むこと）
	心理学実験Ⅰb	2		
	心理学研究法調査演習		2	b 領域および c 領域を併せて
	心理学研究法観察演習		2	8 単位以上
	心理学研究法実験演習（生理）		2	
	心理学研究法実験演習（認知）		2	
	心理学研究法実験演習（社会）		2	
	心理的アセスメントⅡ		1	
	心理演習		1	

※「認定心理士（心理調査）」を申請する者は、「心理学統計法」「心理学研究法概論」の単位を「認定心理士」の申請単位に含めることはできない。

② 選択科目（合計 16 単位以上、詳細は下表を参照）

領域	本学科での対応科目	資格認定単位数		備考
		基本主題	副次主題	
(d) 知覚心理学・学習心理学	認知心理学概論	2		d〜hの 5 領域のうち、3 領域以上で、それぞれが少なくとも 4 単位以上
	意識と認知	2		
	日常行動の認知心理学	2		
	脳と認知	2		
	知覚・認知心理学	2		
	学習・言語心理学	2		
(e) 生理心理学・比較心理学	生理心理学概論	2		
	精神生理学	2		
	比較心理学	2		
	神経・生理心理学	2		
(f) 教育心理学・発達心理学	発達心理学概論	2		
	認知の生涯発達心理学	2		
	老年心理学	2		
	社会性の発達	2		
	青年期の発達と心理	2		
	教育・学校心理学	2		
(g) 臨床心理学・人格心理学	臨床心理学概論	2		
	心理療法	2		
	子どもの心理臨床	2		
	地域支援と臨床心理学	2		
	医療の心理臨床	2		
	発達障がいの心理臨床	2		
	感情・人格心理学	2		
	健康・医療心理学	2		
	障害者・障害児心理学	2		
	福祉心理学	2		
	司法・犯罪心理学	2		
	心理学的支援法	2		
	精神疾患とその治療		1	
	心理的アセスメントⅠ	2		
(h) 社会心理学・産業心理学	社会心理学概論	2		
	対人コミュニケーションの社会心理学	2		
	社会的行動の心理学	2		
	ノンバーバル行動	2		
	ネットワークの社会心理学	2		
	社会・集団・家族心理学	2		
	産業・組織心理学	2		
	環境の社会心理学	2		

③　その他の科目

領域	本学科での対応科目	資格認定単位数		備考
		基本主題	副次主題	
(i) 心理学関連科目、卒業論文･卒業研究	心理学論文講読 卒業論文	2 4		

※「認定心理士（心理調査)」を申請する者は、「卒業論文」の単位を「認定心理士」の申請単位に含めることはできない。

④　認定心理士の取得要件単位数

①および②の条件を満たしたうえで、①～③の表にある科目から合計 36 単位以上修得すること。

（3）認定心理士（心理調査）について

認定心理士（心理調査）は、「心理調査に関連する専門科目を履修した認定心理士」である。具体的には、心理学の研究方法（実験、調査、観察、面接）を使って、自らが研究を計画してデータを取得し、そのデータを統計手法等により解析し、研究内容を文章並びに口頭でプレゼンテーションする、より高い技能を修得していることを認定する資格である。

（4）認定心理士（心理調査）資格取得に必要な科目

①　認定心理士資格取得に必要な科目について単位を修得し、認定条件を満たすこと。

②　心理調査関係科目

領域	本学科での対応科目	資格認定単位数	備考
1）心理調査概論 心理調査法	心理学研究法概論	2	2 単位以上
2）心理学統計	心理学統計法	2	2 単位以上
3）発展/展開研究（実習）	心理学研究法総合演習Ⅰ＊1 卒業論文＊2	2 4	6 単位以上

＊1　履修条件ならびに履修者数制限がある。

＊2　調査･実験･観察･面接･尺度構成･検査などの方法を用いて、自ら計画し、データの採取、処理、解析を行った研究であること。また単著であることも必要である。事前に指導教員に相談しておくことが望ましい。

③　①および②の両方の条件を満たすよう、単位を修得すること。なお、「心理学研究法概論」「心理学統計法」「卒業論文」の単位は②の申請単位とする必要があるため、①の申請単位には含めることができないので注意すること。

（5）認定心理士／認定心理士（心理調査）資格取得の手続きについて

資格取得条件を満たし、標記資格の認定を希望する者は、日本心理学会のホームページを参照して、各自で手続きを行う。なお、申請にあたっては以下のことについて注意すること。

①　「認定心理士（心理調査)」の資格取得条件を満たしている場合は、「認定心理士」のみの申請ではなく、同時に「認定心理士（心理調査)」の申請をすることを推奨する。

②　資格の要件（認定基準）は変更されることもあり、将来において卒業時の修得単位では資格が取得できなくなる可能性があるので、在学中もしくは卒業時に申請することを推奨する。

創造表現学部カリキュラムと卒業要件

AICHI SHUKUTOKU UNIVERSITY

1 ディプロマ・ポリシー（人材養成像）

創造表現学部では、それぞれの専攻の学修を通じて「表現力」「創造力」「コミュニケーション力」を高めることによって、豊かな自己表現ができ、実社会の諸問題にも適切な対処ができる人材の育成を目標にしている。この教育目標を達成するために、以下にあげるような能力を修得した学生に学位を授与する。

創作表現専攻

1 知的財産としての言語文化・表象文化に関する見識を持ち、その価値の継承・発信の社会的意義を理解することができる。（知識・関心・理解）
2 文化的叡智に幅広く触れることで総合的な判断力を養い、自己の考えを他者に的確に伝えることができる。（思考・判断）
3 文芸を中心とした創造的な表現活動に携わり得る知識と実践的な表現技術とを身につけることができている。（技能・表現）

メディアプロデュース専攻

1 PCやメディア機器を使用する映像処理を理解し、ビデオやパンフレットなどのメディアコンテンツの制作に関する基礎知識を身につけている。（技能・表現）
2 各種メディアの特徴を理解し、メディアを利用して豊かに表現、発想ができ、戦略的に企画・立案する能力を身につけている。（関心・態度）
3 現代社会の問題を読み解き、時代のニーズを的確に捉え、社会的視座を持って問題解決に臨むことができる。（知識・理解）

2 カリキュラム・ポリシー（ディプロマ・ポリシーに整合し、それを保証するカリキュラムの体系性を記したもの）

1 創造表現学部のカリキュラム・ポリシー

創造表現学部では、人間のあらゆる創造活動の中から言語表現、視覚的情報伝達に特化してそれぞれを柱とする専攻を設け、作品を「生み出す」行為を学術的に理論づけ、実践的に学べるようカリキュラムを編成する。また、創造性を涵養し、実社会で豊かに表現できる人材を育成するという目標を達成するために、各分野において「表現力」「創造力」「コミュニケーション力」を高められるよう具体的な課題解決を題材として学んでいくことを重視しており、それらは特に演習や実習の授業の中でアクティブに展開される。そのため、教員にも実務家や芸術家・作家を多く揃え、学生の創造活動を幅広く支援できるような授業体制をとる。

学修の進行にも配慮し、1年次には、創作の魅力に触れる機会を提供して学修意欲を高めるとともに、多様な表現方法の存在に目を向けられるような科目を用意する。2年次から3年次にかけては、基礎から応用へと移行するための科目を習熟度に従って段階的に展開し、4年次には卒業プロジェクトやゼミの演習を通じて学修の成果を作品や論考としてまとめることを主眼とする。さらに、学部共通科目や他専攻の授業を自らの興味・関心に沿って履修することもできるようにし、多角的・総合的な視野を養うことができるようなシステムを整える。各専攻のカリキュラム・ポリシーは次の通りである。

創作表現専攻

（1）１・２年次は、基礎科目の学修と基礎演習等によるアカデミックリテラシーの養成とを軸にして、文芸を中心とした創造的な表現活動に携わるための基礎的な知識および能力を身につける。

（2）３・４年次は、応用科目の学修と演習での協同学習とを軸に表現技術を磨き、卒業プロジェクトに学修成果を結実させる。

メディアプロデュース専攻

（1）講義科目を通じて、メディアプロデュースに関する専門知識を身につける。

（2）実習系の授業を通じて、コンテンツに関する企画・構想力、表現力などのスキルを身につける。

（3）ゼミや演習系の授業を通じて、現代社会や地域文化、メディア産業等に関する知識を生かす術を身につけ、コミュニケーション力を身につける。

２　学部共通科目の設置

創造表現のスキルを磨くことは重要な課題であるが、何を表現し発信すべきであるのか、その理念や発想こそが最も重要な部分である。本学部では、社会や文化に対する意識や分析能力の向上を教育の重点課題とし、次の三つの観点からバックグラウンドの充実を図っていけるように、各専攻の学修の基盤となる学部共通科目を設置する。

（1）芸術的素養を身につける

文学・文芸・美術・デザイン・音楽等、芸術作品を理解する力を高め、創作意欲に結びつけ、芸術的素養を磨いていく。

（2）科学的分析力を身につける

現状を把握し読み解く力、論理的思考力、具体的提案能力など基礎的な思考力を高め、創造活動の深化に結びつけていく。

（3）社会的視野を広げる

社会・民族・宗教・政治・文化・歴史の諸問題に対する理解力を高め、現代社会の状況を論理的に分析できる力を育み、創造活動の基盤を強化する。

３　カリキュラムの全体構成

授業科目は学部共通科目と各専攻の専門科目とに二分されるが、学生は、学部共通科目と各専攻の専門基礎科目との学修を足がかりにして、以後、学年進行にしたがって、応用科目・発展科目へと段階的に履修する。

授業科目の形態上の分類は、講義と演習、論文と制作、机上研究（デスクワーク）と体験的学修（フィールドワーク）といった組み合わせからなり、更に、学修の段階に応じて理論系・制作系の科目と演習（ゼミ）とを配置する。

（注）2020年度より一部文言を修正した。

3 アドミッション・ポリシー

創造表現学部では、それぞれの専攻の学修を通じて「表現力」「創造力」「コミュニケーション力」を高めることによって、豊かな自己表現ができ、実社会の諸問題にも適切な対処ができる人材の育成を目標にしている。この目標を達成するために、入学者には以下の点を期待する。

創造表現学科　創作表現専攻

①学生に期待すること

知的財産としての言語文化・表象文化についての興味関心と、それについて深く学ぼうとする意欲とを抱いて入学してほしい。

②学生募集に際して重視すること

本専攻のカリキュラムを理解し、文芸を中心とした創造的な表現活動に携わり得る知識と実践的な表現技術とを修めるのに必要な基礎力を有していること。

③入学前学習として推奨すること

高等学校までの学習範囲の知識･技能の修得。特に、国語の学習や読書を通して、文章を筋道立てて読み取る読解力と、自分の考えを正しく明確に表すことのできる表現力を磨いてほしい。

創造表現学科　メディアプロデュース専攻

①学生に期待すること

現代のメディア社会の課題に関心を持ち、マスメディアやソーシャルメディアの役割を知ること。そうした社会のなかで、デジタルメディアや映像、情報デザインなどを通した表現に取り組み、創造的な価値をもたらすクリエイティブな人を目指すこと。

②学生募集に際して重視すること

基礎的な読解力や作文能力、他者とコラボレーションできるコミュニケーション能力、ビジュアル、写真、映像などを用いた表現力を持つことが望ましい。あるいは、これらの能力の向上に前向きであること。

③入学前学習として推奨すること

・映像作品や、身の回りにあるデザインなどに興味を持ち、それらがどのように制作されているのか、自ら調べて情報収集する。
・社会や表現活動の動向を多角的に見る習慣を身につける。具体的には、関連分野の読書や報道番組の視聴、芸術作品の鑑賞や批評に触れること。

4 卒業に必要な単位（卒業要件単位数）

本学の創造表現学部を卒業するためには、４年以上在学（休学期間は含まない）し、**124単位**以上修得しなければならない（「愛知淑徳大学学則第47条」）。その内訳は創作表現専攻、メディアプロデュース専攻、および入学年度によって異なるので注意すること。

■創作表現専攻　2025年度入学者

<table>
<tr><th colspan="3">授業科目の種類</th><th colspan="2">卒業要件単位</th></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="3">専門教育科目</td><td>所属専攻科目</td><td>必修科目　22単位
選択科目　26単位以上</td><td rowspan="3">72単位以上</td></tr>
<tr><td>学部共通科目</td><td>８単位以上
（必修科目「キャリアプランニング」1単位を含む）</td></tr>
<tr><td>他専攻科目</td><td>０単位以上</td></tr>
<tr><td rowspan="10">全学共通履修科目</td><td rowspan="2">基幹科目</td><td>違いを共に生きる科目</td><td colspan="2" rowspan="2">６単位以上
（「違いを共に生きる･ライフデザイン」「AI･データサイエンス入門[M]」
「コンピュータリテラシーⅠ」必修６単位を含む。）</td></tr>
<tr><td>AI・データサイエンス科目</td></tr>
<tr><td rowspan="5">アクティブラーニング科目</td><td>国際交流センター開設科目</td><td colspan="2" rowspan="5">４単位以上
（「日本語表現１」「日本語表現２」必修４単位を含む。）</td></tr>
<tr><td>CCC開設科目</td></tr>
<tr><td>キャリアセンター開設科目</td></tr>
<tr><td>ダイバーシティ共生センター開設科目</td></tr>
<tr><td>学修・教育支援センター開設科目</td></tr>
<tr><td rowspan="2">スキル科目</td><td>言語活用科目（英語）</td><td colspan="2" rowspan="2">４単位以上</td></tr>
<tr><td>言語活用科目（初めての外国語）</td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="3">学部認定科目</td><td>他学部･他学科開放科目</td><td colspan="2" rowspan="3">０単位以上</td></tr>
<tr><td>愛知学長懇話会単位互換科目（上限10単位）</td></tr>
<tr><td>放送大学単位互換科目（上限10単位）</td></tr>
<tr><td colspan="3">合計</td><td colspan="2">124単位以上</td></tr>
</table>

なお、以下の表にある科目は、**卒業に必要な単位に算入されない**ため、注意する。

①言語活用科目（英語） 「Introduction to English」	②教職課程科目	③学芸員課程科目
④司書課程科目	⑤コンピュータ資格科目	⑥会計教育科目
⑦研究科開放科目	⑧文学部国文学科専門教育科目 「学びなおし古文」「学びなおし漢文」	⑨建築学部建築学科専門教育科目 「基礎数学」
⑩食健康科学部専門教育科目 「基礎化学」「基礎生物学」		

■メディアプロデュース専攻　2025年度入学者

<table>
<tr><th colspan="3">授業科目の種類</th><th colspan="2">卒業要件単位</th></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="3">専門教育科目</td><td>所属専攻科目</td><td>必修科目　20単位
選択科目　26単位以上</td><td rowspan="3">70単位以上</td></tr>
<tr><td>学部共通科目</td><td>必修科目「キャリアプランニング」1 単位</td></tr>
<tr><td>他専攻科目</td><td>0 単位以上</td></tr>
<tr><td rowspan="10">全学共通履修科目</td><td rowspan="2">基幹科目</td><td>違いを共に生きる科目</td><td colspan="2" rowspan="2">6 単位以上
（「違いを共に生きる･ライフデザイン」「AI･データサイエンス入門[M]」
「コンピュータリテラシーⅠ」必修 6 単位を含む。）</td></tr>
<tr><td>AI・データサイエンス科目</td></tr>
<tr><td rowspan="5">アクティブラーニング科目</td><td>国際交流センター開設科目</td><td colspan="2" rowspan="5">4 単位以上
（「日本語表現 1 」「日本語表現 2 」必修 4 単位を含む。）</td></tr>
<tr><td>CCC開設科目</td></tr>
<tr><td>キャリアセンター開設科目</td></tr>
<tr><td>ダイバーシティ共生センター開設科目</td></tr>
<tr><td>学修・教育支援センター開設科目</td></tr>
<tr><td rowspan="2">スキル科目</td><td>言語活用科目（英語）</td><td colspan="2" rowspan="2">4 単位以上</td></tr>
<tr><td>言語活用科目（初めての外国語）</td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="3">学部認定科目</td><td>他学部･他学科開放科目</td><td colspan="2" rowspan="3">0 単位以上</td></tr>
<tr><td>愛知学長懇話会単位互換科目（上限10単位）</td></tr>
<tr><td>放送大学単位互換科目（上限10単位）</td></tr>
<tr><td colspan="3">合計</td><td colspan="2">124単位以上</td></tr>
</table>

なお、以下の表にある科目は、**卒業に必要な単位に算入されない**ため、注意する。

①言語活用科目（英語） 「Introduction to English」	②教職課程科目	③学芸員課程科目
④司書課程科目	⑤コンピュータ資格科目	⑥会計教育科目
⑦研究科開放科目	⑧文学部国文学科専門教育科目 「学びなおし古文」「学びなおし漢文」	⑨建築学部建築学科専門教育科目 「基礎数学」
⑩食健康科学部専門教育科目 「基礎化学」「基礎生物学」		

5 履修上の注意

【学部共通】

（1）複数年次で履修可能な科目は、早い年次で履修することが望ましい。

（2）単位を修得済みの科目は、再度履修することはできない。

（3）一部科目には履修定員がある。履修希望者が定員を上回る場合は抽選により履修者が決定される。なお、履修定員を設けていない科目でも、履修者多数などにより急遽抽選で履修制限を設けたり、追加登録が不可となる場合がある。

【創作表現専攻】

（1）「現代短歌」「日本文学史a」の履修について

これら2科目は、それぞれ以下のとおり文学部国文学科の「国文学特殊講義 現代短歌a」「国文学史(1)b」との合併授業として開講される。これに伴い、国文学科開講の上記科目を開放科目として履修することはできない。

	創作表現専攻の科目名	国文学科の科目名	開始年度
1	現代短歌	国文学特殊講義 現代短歌a(～2026年度まで)、国文学特殊講義6a(2027年度から)	2021年度
2	日本文学史a	国文学史(1)b	2021年度

（2）卒業プロジェクト

・本科目は、4年次に履修する「演習（ゼミ）」と連繋する科目であり、卒業論文あるいは卒業制作に対して履修単位が与えられる。

・本科目は、専攻ごとにカリキュラムの中で扱いが異なるので、専攻の指示に従うこと。

提出日時：12月中の2日間（予定）

・日時・場所等の詳細はCampusSquareで知らせるので各自確認をすること。

（3）学部共通科目の履修について

学部共通科目は、（1）芸術的素養を身につける、（2）科学的分析力を身につける、（3）社会的視野を広げることを目的として設置されている（P.126）。以下の表に各科目の設置目的および専攻科目との関連を示した。履修計画の参考にすること。

なお、ここに示した「関連する専攻科目」はあくまで例であり、個々のジャンル・領域への興味関心の持ち方により様々に変化し得る。学修を深めていくなかで、めいめいが学部共通科目と専攻科目の間に自分なりの連係を見出していくことが望ましい。

科目	関連する専攻科目	該当する学部共通科目の設置目的		
		（1）	（2）	（3）
デザイントレーニングa(CG)	エディターシップc(本づくり・DTP)	○		
デザイントレーニングb(DTP)	エディターシップc(本づくり・DTP)	○		
キャリアプランニング				○
アートマネジメント	ステージデザイン	○		
知的財産権	(制作系の科目全般)			○
マーケティング	(制作系の科目全般)		○	○
社会調査法	ノンフィクション、演習Ⅰ～Ⅲ(5)		○	○
社会学概論	批評理論a、批評理論b、文化研究a、文化研究b、物語論		○	○
宗教学概論	演劇a(西洋)、演劇b(日本)、口承文芸			○
文化人類学	批評理論a、批評理論b、文化研究a、文化研究b、物語論		○	○
社会心理学	文化研究a、文化研究b		○	○
心理学	批評理論a、批評理論b		○	○
考現学	文化研究a、文化研究b		○	○
メディアリテラシー	(制作系の科目全般)			○
コミュニケーション論	エディターシップb(取材・インタビュー)		○	○
サブカルチャー論	マンガ・アニメ史、マンガ論、アニメ論	○		○
ジャーナリズム論	エディターシップa(企画・プレゼンテーション)、演習Ⅰ～Ⅲ(6)		○	○
出版文化論a	エディターシップa(企画・プレゼンテーション)、演習Ⅰ～Ⅲ(6)	○		○
出版文化論b	エディターシップa(企画・プレゼンテーション)、演習Ⅰ～Ⅲ(6)	○		○
写真論	マンガ・アニメ史、マンガ論、アニメ論、絵本・イラスト	○		
広告論	(制作系の科目全般)			○
映画論	映像表現論、文化研究b、演習Ⅰ～Ⅲ(10)	○	○	
イベントプランニング入門	ステージデザイン			○
広告表現入門	(制作系の科目全般)			○
広告表現応用	(制作系の科目全般)			○
近現代の美術a(西洋美術)	マンガ・アニメ史、マンガ論、アニメ論、パフォーミングアーツ、絵本・イラスト	○		
近現代の美術b(日本美術)	マンガ・アニメ史、マンガ論、アニメ論、パフォーミングアーツ、絵本・イラスト	○		
近現代の音楽	演劇a(西洋)、演劇b(日本)、パフォーミングアーツ、身体表現法a～d	○		
モダンデザイン文化史	文化研究a、文化研究b、パフォーミングアーツ	○		

【メディアプロデュース専攻】

（1）卒業プロジェクト

・本科目は、4年次に履修する「演習（ゼミ）」と連繋する科目であり、卒業論文あるいは卒業制作に対して履修単位が与えられる。

・本科目は、専攻ごとにカリキュラムの中で扱いが異なるので、専攻の指示に従うこと。

提出日時：12月中の2日間（予定）

・日時・場所等の詳細はCampusSquareで知らせるので各自確認をすること。

（2）学部共通科目の履修について

学部共通科目は、（1）芸術的要素を身につける、（2）科学的分析力を身につける、（3）社会的視野を広げることを目的として設置している（P.126）。各科目と設置目的との関係（下表）を参考に、専攻科目と関連する科目を履修することが望ましい。

科目	関連する専攻科目	該当する学部共通科目の設置目的		
		（1）	（2）	（3）
デザイントレーニングa(CG)		○		
デザイントレーニングb(DTP)		○		
キャリアプランニング	ビジネスモデル論			○
アートマネジメント	メディアプロジェクト、メディアアート論	○		
知的財産権	（制作系の科目全般）			○
マーケティング	ビジネスモデル論、コンテンツ産業論、メディアデータ分析		○	○
社会調査法	メディア社会調査法、メディアデータ分析、メディアコンテンツ分析		○	○
社会学概論	オーディエンス論、メディア論、メディア社会調査法		○	○
宗教学概論				○
文化人類学	メディア論、メディア社会調査法		○	○
社会心理学	メディアと心理学、オーディエンス論		○	○
心理学	メディアと心理学		○	○
考現学	インターネット社会論、メディア社会調査法、ゲーム文化研究		○	○
メディアリテラシー	メディア論、インターネット社会論、現代デザイン論			○
コミュニケーション論	インターネット社会論、メディアと心理学		○	○
サブカルチャー論	ポップカルチャー、ゲーム文化研究	○		○
ジャーナリズム論	メディア論、映像制作a/b		○	○
出版文化論a	プリントメディアⅠ、プリントメディアⅡ、デザイン史	○		○
出版文化論b	プリントメディアⅠ、プリントメディアⅡ、デザイン史	○		○
写真論	写真技術、メディアアート論	○		
広告論	コマーシャル、広告コミュニケーション論、イベントプロモーション			○
映画論	映像論、映画評論a、映画評論b	○	○	
イベントプランニング入門	コマーシャル、広告コミュニケーション論、イベントプロモーション			○
広告表現入門	コマーシャル、広告コミュニケーション論、イベントプロモーション			○
広告表現応用	コマーシャル、広告コミュニケーション論、イベントプロモーション			○
近現代の美術a(西洋美術)	現代アート論、メディアアート論	○		
近現代の美術b(日本美術)	現代アート論、メディアアート論	○		
近現代の音楽	ラジオ、現代アート論	○		
モダンデザイン文化史	現代デザイン論、デザイン史、コミュニケーションデザイン論	○		

6 カリキュラム表（創造表現学部）

学部共通科目

科目群		ナンバリング	DP番号	科目番号	科　目	必修単位	選択単位	履修年次	開講学期	開講最少履修者数（目安）	卒業要件	備　考
学部共通科目	基礎科目	1000	創作：DP1 メデプロ：DP1	271101	デザイントレーニングa(CG)		2	1	前期･後期	5		
		1000	創作：DP1 メデプロ：DP1	271102	デザイントレーニングb(DTP)		2	1	前期･後期	5		
		2020	創作：DP1 メデプロ：DP3	271103	キャリアプランニング	1		3	後期	1		1/4期科目 成績は「合」「否」により評価 3年生は原則とし履修登録の注意事項で確認し、指定クラスを登録すること 4年生はクラス指定なし
		1000	創作：DP1 メデプロ：DP3	271104	アートマネジメント		2	1･2	前期･後期	10		
		1000	創作：DP1 メデプロ：DP3	271105	知的財産権		2	1	前期･後期	10		
		1010	創作：DP1 メデプロ：DP3	271106	マーケティング		2	1･2	後期	10		
		1010	創作：DP1 メデプロ：DP3	271107	社会調査法		2	1･2	前期･後期	10		
		1010	創作：DP1 メデプロ：DP3	271108	社会学概論		2	1･2	前期･後期	10		
		1010	創作：DP1 メデプロ：DP3	271109	宗教学概論		2	1･2	後期	10		
		1010	創作：DP1 メデプロ：DP3	271110	文化人類学		2	1･2	前期･後期	10		
		1010	創作：DP1 メデプロ：DP3	271111	社会心理学		2	1･2	後期	10		
		1010	創作：DP1 メデプロ：DP3	271112	心理学		2	1･2	前期	10		
		1010	創作：DP1 メデプロ：DP3	271113	考現学		2	1･2	前期･後期	10		
		1000	創作：DP1 メデプロ：DP3	271114	メディアリテラシー		2	1･2	前期･後期	10		
		1000	創作：DP1 メデプロ：DP3	271115	コミュニケーション論		2	1･2	前期･後期	10		
		1000	創作：DP1 メデプロ：DP3	271116	サブカルチャー論		2	1･2	前期	10		
		1000	創作：DP1 メデプロ：DP3	271117	ジャーナリズム論		2	1･2	前期･後期	10		
		1000	創作：DP1 メデプロ：DP3	271118	出版文化論a		2	1･2	前期	10		
		1000	創作：DP1 メデプロ：DP3	271119	出版文化論b		2	1･2	後期	10		
		1000	創作：DP1 メデプロ：DP3	271120	写真論		2	1･2	前期･後期	10		
		1000	創作：DP1 メデプロ：DP3	271121	広告論		2	1･2	前期･後期	10		
		1000	創作：DP1 メデプロ：DP3	271122	映画論		2	1･2	前期	10		

学部共通科目

科目群		ナンバリング	DP番号	科目番号	科　目	必修単位	選択単位	履修年次	開講学期	開講最少履修者数（目安）	卒業要件	備　考
学部共通科目	基礎科目	2000	創作：DP1 メデプロ：DP3	271123	イベントプランニング入門		2	2･3	前期･後期	10		
		2000	創作：DP1 メデプロ：DP3	271124	広告表現入門		2	2･3	前期･後期	10		15週の授業のうち、7週は学外施設（名古屋市中区丸の内「三晃社ビル」）で開講する。 なお、初回授業は長久手キャンパスで開講し、2回目以降の授業についての説明を行う。履修希望者は初回授業に必ず出席すること。詳細は履修登録の注意事項およびシラバスを参照すること。
		3000	創作：DP1 メデプロ：DP3	271134	広告表現応用		2	3	前期	5		「広告表現入門」「イベントプランニング入門」「広告論」のいずれかの単位を修得済の学生のみ履修可
		1030	創作：DP1 メデプロ：DP3	271130	近現代の美術a(西洋美術)		2	1･2	前期･後期	10		
		1030	創作：DP1 メデプロ：DP3	271131	近現代の美術b(日本美術)		2	1･2	前期･後期	10		
		1030	創作：DP1 メデプロ：DP3	271132	近現代の音楽		2	1･2	前期･後期	10		
		1030	創作：DP1 メデプロ：DP3	271133	モダンデザイン文化史		2	1･2	前期･後期	10		

創作表現専攻科目

科目群		ナンバリング	DP番号	科目番号	科　目	必修単位	選択単位	履修年次	開講学期	開講最少履修者数（目安）	卒業要件	備　考
創作表現専攻 学部専門科目	創作表現専攻 基礎科目（A群）	1100	DP1, DP2	272101	日本文学史a		2	1･2	後期	10	7科目14単位以上	国文学科科目との合併授業。詳細は履修要覧P.130「履修上の注意」を参照する事。
		1100	DP1, DP2	272102	日本文学史b		2	1･2	前期	10		
		1100	DP1, DP2	272103	言語学a		2	1･2	前期	10		
		1100	DP1, DP2	272104	言語学b		2	1･2	後期	10		
		1100	DP1, DP2	272105	漢文学概説		2	1･2	前期	10		
		1100	DP1, DP2	272106	古典文学概説		2	1･2	後期	10		
		1100	DP1, DP2	272107	児童文化論		2	1･2	後期	10		
		1200	DP2, DP3	272108	言語表現史a（小説）		2	1･2	後期	10		
		1200	DP2, DP3	272109	言語表現史b（詩歌）		2	1･2	後期	10		
		1200	DP2, DP3	272110	言語表現入門a		2	1･2	前期･後期	10		
		1200	DP2, DP3	272111	言語表現入門b		2	1･2	前期･後期	10		
		1300	DP2	272112	批評理論入門		2	1･2	前期･後期	10		
		1400	DP3	272113	演劇a（西洋）		2	1･2	前期	10		
		1400	DP3	272114	演劇b（日本）		2	1･2	後期	10		
		1400	DP3	272115	口承文芸		2	1･2	前期	10		
		1500	DP3	272116	マンガ・アニメ史		2	1･2	前期･後期	10		
		1300	DP2	272117	基礎講読	2		1	前期･後期	1		クラスごとに開講。後期は再履修者に限る。 他専攻の学生は履修不可
		1600	DP2, DP3	272118	基礎演習Ⅰ	2		1	前期	1		クラスごとに開講 アドバイザーが授業担当 他専攻の学生は履修不可
	創作表現専攻 基礎科目（B群）	2220	DP2, DP3	272119	クリエイティブライティングa		2	2･3	前期	5	3科目6単位以上	抽選の場合は創作表現専攻の学生を優先
		2220	DP2, DP3	272120	クリエイティブライティングb		2	2･3	前期･後期	5		
		2220	DP2, DP3	272121	クリエイティブライティングc		2	2･3	後期	5		
		2220	DP2, DP3	272122	クリエイティブライティングd		2	2･3	前期･後期	5		
		2220	DP2, DP3	272167	クリエイティブライティングe		2	2･3	後期	5		
		2220	DP2, DP3	272184	クリエイティブライティングf		2	2･3	前期	5		
		2220	DP2, DP3	272123	エディターシップa （企画・プレゼンテーション）		2	2･3	前期	5		
		2220	DP2, DP3	272124	エディターシップb （取材・インタビュー）		2	2･3	後期	5		
		2220	DP2, DP3	272194	エディターシップc （本づくり・DTP）		2	2･3	前期･後期	5		

創作表現専攻科目

科目群		ナンバリング	DP番号	科目番号	科　目	必修単位	選択単位	履修年次	開講学期	開講最少履修者数（目安）	卒業要件	備　考
創作表現専攻　学部専門科目	創作表現専攻　基礎科目（B群）	1400	DP3	272191	身体表現法a		2	1·2	前期	5		
		1400	DP3	272192	身体表現法b		2	1·2	後期	5		隔年開講
		1400	DP3	272197	身体表現法c		2	1·2	前期	5		抽選の場合は創作表現専攻の学生を優先
		1400	DP3	272198	身体表現法d		2	1·2	後期	5		
		1500	DP3	272125	ドローイング基礎		2	1·2	前期·後期	5		
		1500	DP3	272169	マンガ表現		2	1·2	前期·後期	5		抽選の場合は創作表現専攻の学生を優先
		1500	DP3	272193	絵本・イラスト		2	1·2	後期	5		
		2600	DP2, DP3	272126	基礎演習Ⅱa	2		1	後期	1		
		2600	DP2, DP3	272127	基礎演習Ⅱb	2		2	前期	1		他専攻の学生は履修不可
	創作表現専攻　応用科目（A群）	2210	DP2, DP3	272128	文芸理論a		2	2·3	後期	10	2科目4単位以上	
		2210	DP2, DP3	272129	文芸理論b		2	2·3	前期·後期	10		
		2310	DP2	272130	批評理論a		2	2·3	前期	10		
		2310	DP2	272131	批評理論b		2	2·3	前期	10		
		2310	DP2	272132	文化研究a		2	2·3	前期·後期	10		
		2310	DP2	272133	文化研究b		2	2·3	後期	10		
	創作表現専攻　応用科目（B群）	2110	DP1, DP2	272134	現代小説a		2	2·3	後期	10	5科目10単位以上	
		2110	DP1, DP2	272135	現代小説b		2	2·3	後期	10		
		2110	DP1, DP2	272136	近代小説a		2	2·3	前期	10		
		2110	DP1, DP2	272137	近代小説b		2	2·3	前期	10		
		2110	DP1, DP2	272138	現代詩a		2	2·3	前期	10		
		2110	DP1, DP2	272139	現代詩b		2	2·3	後期	10		
		2110	DP1, DP2	272140	現代短歌		2	2·3	前期	10		国文学科科目との合併授業。詳細は履修要覧P.130「履修上の注意」を参照する事。
		2410	DP3	272141	戯曲a		2	2·3	前期·後期	10		
		2410	DP3	272170	戯曲b		2	2·3	前期·後期	5		抽選の場合は創作表現専攻の学生を優先
		2110	DP1, DP2	272142	児童文学		2	2·3	前期	10		
		2110	DP1, DP2	272143	古典文学a（散文）		2	2·3	前期	10		
		2110	DP1, DP2	272144	古典文学b（詩歌）		2	2·3	後期	10		
		2110	DP1, DP2	272145	漢文学		2	2·3	後期	10		
		2110	DP1, DP2	272195	エンターテインメント文芸a		2	2·3	後期	10		抽選の場合は創作表現専攻の学生を優先
		2110	DP1, DP2	272196	エンターテインメント文芸b		2	2·3	前期	10		
		2110	DP1, DP2	272147	ノンフィクション		2	1·2	前期	10		
		2420	DP3	272148	伝統芸能		2	2·3	後期	10		
		2430	DP3	272149	パフォーミングアーツ		2	2·3	前期	10		
		2430	DP3	272168	ステージデザイン		2	2·3	前期	5		抽選の場合は創作表現専攻の学生を優先

創作表現専攻科目

科目群		ナンバリング	DP番号	科目番号	科目	必修単位	選択単位	履修年次	開講学期	開講最少履修者数（目安）	卒業要件	備考
創作表現専攻 学部専門科目	創作表現専攻 応用科目（B群）	2210	DP2, DP3	272150	物語論		2	2·3	後期	10		
		2210	DP2, DP3	272274	映像表現論		2	2·3	後期	10		抽選の場合は創作表現専攻の学生を優先
		2510	DP3	272151	マンガ論		2	2·3	前期·後期	10		
		2510	DP3	272152	アニメ論		2	2·3	前期·後期	10		
		2510	DP3	272153	コミックデザイン		2	2·3	前期·後期	5		「ドローイング基礎」を履修していることが望ましい 抽選の場合は創作表現専攻の学生を優先
	創作表現専攻 応用科目（C群）	2610	DP2, DP3	272154	講読演習a		2	3·4	前期	5	0単位以上	抽選の場合は創作表現専攻の学生を優先
		2610	DP2, DP3	272155	講読演習b		2	3·4	後期	5		
		2610	DP2, DP3	272156	講読演習c		2	3·4	後期	5		
		2610	DP2, DP3	272157	講読演習d		2	3·4	前期	5		
		2610	DP2, DP3	272158	講読演習e		2	3·4	後期	5		
		2610	DP2, DP3	272159	講読演習f		2	3·4	前期	5		
		2610	DP2, DP3	272160	講読演習g		2	3·4	前期	5		
		2610	DP2, DP3	272171	演習Ⅰ（1）	2		2	後期	1	1科目2単位以上	＊1 他専攻の学生は履修不可
		2610	DP2, DP3	272172	演習Ⅰ（2）	2		2	後期	1		
		2610	DP2, DP3	272173	演習Ⅰ（3）	2		2	後期	1		
		2610	DP2, DP3	272174	演習Ⅰ（4）	2		2	後期	1		
		2610	DP2, DP3	272175	演習Ⅰ（5）	2		2	後期	1		
		2610	DP2, DP3	272176	演習Ⅰ（6）	2		2	後期	1		
		2610	DP2, DP3	272177	演習Ⅰ（7）	2		2	後期	1		
		2610	DP2, DP3	272178	演習Ⅰ（8）	2		2	後期	1		
		2610	DP2, DP3	272179	演習Ⅰ（9）	2		2	後期	1		
		2610	DP2, DP3	272180	演習Ⅰ（10）	2		2	後期	1		
		2610	DP2, DP3	272181	演習Ⅰ（11）	2		2	後期	1		
		2610	DP2, DP3	272182	演習Ⅰ（12）	2		2	後期	1		
		2610	DP2, DP3	272183	演習Ⅰ（13）	2		2	後期	1		
		3610	DP2, DP3	272201	演習Ⅱa（1）	2		3	前期	1	1科目2単位以上	＊1 他専攻の学生は履修不可
		3610	DP2, DP3	272202	演習Ⅱa（2）	2		3	前期	1		
		3610	DP2, DP3	272203	演習Ⅱa（3）	2		3	前期	1		

創作表現専攻科目

科目群		ナンバリング	DP番号	科目番号	科目	必修単位	選択単位	履修年次	開講学期	開講最少履修者数（目安）	卒業要件	備考
創作表現専攻 学部専門科目	創作表現専攻 応用科目（C群）	3610	DP2, DP3	272204	演習Ⅱa(4)	2		3	前期	1		
		3610	DP2, DP3	272205	演習Ⅱa(5)	2		3	前期	1		
		3610	DP2, DP3	272206	演習Ⅱa(6)	2		3	前期	1		
		3610	DP2, DP3	272207	演習Ⅱa(7)	2		3	前期	1		
		3610	DP2, DP3	272208	演習Ⅱa(8)	2		3	前期	1		
		3610	DP2, DP3	272209	演習Ⅱa(9)	2		3	前期	1		＊1 他専攻の学生は履修不可
		3610	DP2, DP3	272210	演習Ⅱa(10)	2		3	前期	1		
		3610	DP2, DP3	272211	演習Ⅱa(11)	2		3	前期	1		
		3610	DP2, DP3	272212	演習Ⅱa(12)	2		3	前期	1		
		3610	DP2, DP3	272213	演習Ⅱa(13)	2		3	前期	1		
		3610	DP2, DP3	272221	演習Ⅱb(1)	2		3	後期	1	1科目2単位以上	
		3610	DP2, DP3	272222	演習Ⅱb(2)	2		3	後期	1		
		3610	DP2, DP3	272223	演習Ⅱb(3)	2		3	後期	1		
		3610	DP2, DP3	272224	演習Ⅱb(4)	2		3	後期	1		
		3610	DP2, DP3	272225	演習Ⅱb(5)	2		3	後期	1		
		3610	DP2, DP3	272226	演習Ⅱb(6)	2		3	後期	1		
		3610	DP2, DP3	272227	演習Ⅱb(7)	2		3	後期	1		＊1 他専攻の学生は履修不可
		3610	DP2, DP3	272228	演習Ⅱb(8)	2		3	後期	1		
		3610	DP2, DP3	272229	演習Ⅱb(9)	2		3	後期	1		
		3610	DP2, DP3	272230	演習Ⅱb(10)	2		3	後期	1		
		3610	DP2, DP3	272231	演習Ⅱb(11)	2		3	後期	1		
		3610	DP2, DP3	272232	演習Ⅱb(12)	2		3	後期	1		
		3610	DP2, DP3	272233	演習Ⅱb(13)	2		3	後期	1		
		3610	DP2, DP3	272241	演習Ⅲa(1)	2		4	前期	1	1科目2単位以上	
		3610	DP2, DP3	272242	演習Ⅲa(2)	2		4	前期	1		
		3610	DP2, DP3	272243	演習Ⅲa(3)	2		4	前期	1		＊1 他専攻の学生は履修不可
		3610	DP2, DP3	272244	演習Ⅲa(4)	2		4	前期	1		
		3610	DP2, DP3	272245	演習Ⅲa(5)	2		4	前期	1		

創作表現専攻科目

科目群		ナンバリング	DP番号	科目番号	科　目	必修単位	選択単位	履修年次	開講学期	開講最少履修者数（目安）	卒業要件	備　考
創作表現専攻　学部専門科目	創作表現専攻　応用科目（C群）	3610	DP2, DP3	272246	演習Ⅲa(6)	2		4	前期	1		
		3610	DP2, DP3	272247	演習Ⅲa(7)	2		4	前期	1		
		3610	DP2, DP3	272248	演習Ⅲa(8)	2		4	前期	1		
		3610	DP2, DP3	272249	演習Ⅲa(9)	2		4	前期	1		
		3610	DP2, DP3	272250	演習Ⅲa(10)	2		4	前期	1		
		3610	DP2, DP3	272251	演習Ⅲa(11)	2		4	前期	1		
		3610	DP2, DP3	272252	演習Ⅲa(12)	2		4	前期	1		
		3610	DP2, DP3	272253	演習Ⅲa(13)	2		4	前期	1		＊1 他専攻の学生は履修不可
		3610	DP2, DP3	272261	演習Ⅲb(1)	2		4	後期	1		
		3610	DP2, DP3	272262	演習Ⅲb(2)	2		4	後期	1		
		3610	DP2, DP3	272263	演習Ⅲb(3)	2		4	後期	1		
		3610	DP2, DP3	272264	演習Ⅲb(4)	2		4	後期	1		
		3610	DP2, DP3	272265	演習Ⅲb(5)	2		4	後期	1		
		3610	DP2, DP3	272266	演習Ⅲb(6)	2		4	後期	1		
		3610	DP2, DP3	272267	演習Ⅲb(7)	2		4	後期	1		
		3610	DP2, DP3	272268	演習Ⅲb(8)	2		4	後期	1		
		3610	DP2, DP3	272269	演習Ⅲb(9)	2		4	後期	1		
		3610	DP2, DP3	272270	演習Ⅲb(10)	2		4	後期	1		
		3610	DP2, DP3	272271	演習Ⅲb(11)	2		4	後期	1		
		3610	DP2, DP3	272272	演習Ⅲb(12)	2		4	後期	1		
		3610	DP2, DP3	272273	演習Ⅲb(13)	2		4	後期	1	1科目2単位以上	＊1 他専攻の学生は履修不可
	創作表現専攻　発展科目	3620	DP2, DP3	272166	卒業プロジェクト	4		4	通年	1	1科目4単位	「演習Ⅲ」と併せて必ず履修すること ＊1 他専攻の学生は履修不可

＊1　ゼミの登録

創作表現専攻では２年次後期から所属専攻の「演習（ゼミ）」を履修する。履修科目決定方法については、２年前期にガイダンスを行い、事前に決定されている科目を履修登録するものとする。ゼミは原則として４年後期まで同一担当者のもとで履修する。ただしやむを得ない事由があると専攻が認めた場合はその限りではないので、ゼミ変更希望の学生は専攻主任または教務委員まで相談に来ること。

メディアプロデュース専攻科目

科目群		ナンバリング	DP番号	科目番号	科　目	必修単位	選択単位	履修年次	開講学期	開講最少履修者数（目安）	卒業要件	備　考
メディアプロデュース専攻　学部専門科目	必修科目	1100	DP1, DP2	273155	アカデミックスキルズ	2		1	前期	1	9科目20単位	他専攻の学生は履修不可
		1110	DP1	273156	造形基礎	2		1	前期・後期	1		1年生は指定クラスを履修すること
		1110	DP3	273157	文献講読	2		1	前期・後期	1		他専攻の学生は履修不可
		2800	DP2, DP3	273151	研究法概説	2		2	前期	1		他専攻の学生は履修不可
		3810	DP1, DP2, DP3	273140	演習Ⅰa	2		3	前期	1		
		3810	DP1, DP2, DP3	273141	演習Ⅰb	2		3	後期	1		＊1 他専攻の学生は履修不可
		3810	DP1, DP2, DP3	273142	演習Ⅱa	2		4	前期	1		
		3810	DP1, DP2, DP3	273143	演習Ⅱb	2		4	後期	1		
		3910	DP1, DP2, DP3	273144	卒業プロジェクト	4		4	通年	1		卒業論文・卒業制作を提出予定の学生は「演習Ⅱa・b」と併せて履修すること ＊1 他専攻の学生は履修不可
	メディアプロデュース専攻　基礎科目	1220	DP1	273159	映像制作基礎		2	1	前期・後期	5	5科目10単位以上	1年生は原則とし、指定クラスを登録すること（非抽選） 2年生以上はクラス指定はないが、定員を超えた場合抽選となる。 他専攻の学生は履修不可
		1420	DP1	273165	デジタルコンテンツ基礎		2	1･2	前期・後期	5		
		1420	DP1	273164	写真技術		2	1･2	前期・後期	5		他専攻の学生は履修不可
		1200	DP2	273158	映像論		2	1･2	前期・後期	10		
		1300	DP2	273160	コミュニケーションデザイン論		2	1･2	前期	10		
		1300	DP2	273161	デザイン史		2	1･2	後期	10		
		1400	DP2	273162	シナリオ		2	1･2	前期・後期	10		
		1420	DP2	273163	アナウンス・ナレーション		2	1･2	前期・後期	5		他専攻の学生は履修不可
		1420	DP2	273166	ラジオ		2	1･2	前期・後期	5		
		1500	DP3	273168	メディア論		2	1･2	前期	10		
		1500	DP3	273167	オーディエンス論		2	1･2	後期	10		
		1620	DP3	273169	メディアデータ分析		2	1･2	前期・後期	5		他専攻の学生は履修不可
		1700	DP3	273170	ビジネスモデル論		2	1･2	前期	10		
	メディアプロデュース専攻　応用科目（A群）	2220	DP1	273201	スタジオ基礎		2	2･3	前期・後期	5	5科目10単位以上	
		2220	DP1	273202	撮影技術		2	2･3	前期・後期	5		
		2220	DP1	273203	映像制作		2	2･3	前期・後期	5		「映像制作基礎」を修得済の学生のみ履修可 他専攻の学生は履修不可
		2220	DP1	273204	映像表現a		2	2･3	前期・後期	5		
		2220	DP1	273205	映像表現b		2	2･3	前期・後期	5		
		2220	DP2	273175	スタジオ番組		2	2･3	前期・後期	5		
		2220	DP2	273152	ライブ番組		2	2･4	前期	5		
		3220	DP2	273197	テレビドラマ		2	3･4	前期・後期	5		他専攻の学生は履修不可
		3220	DP2	273198	ドキュメンタリー		2	3･4	前期・後期	5		「映像制作基礎」を修得済の学生のみ履修可 他専攻の学生は履修不可

メディアプロデュース専攻科目

科目群		ナンバリング	DP番号	科目番号	科　目	必修単位	選択単位	履修年次	開講学期	開講最少履修者数（目安）	卒業要件	備　考
メディアプロデュース専攻 学部専門科目	メディアプロデュース専攻 応用科目（A群）	2200	DP2	273171	映画評論a		2	2-4	前期・後期	10	5科目10単位以上	抽選の場合はメディプロ専攻の学生を優先
		2200	DP2	273172	映画評論b		2	2-4	後期	10		
		2300	DP2	273176	現代デザイン論		2	2･3	後期	10		
		2320	DP1	273153	グラフィックデザイン技術		2	2･3	前期・後期	5		「デジタルコンテンツ基礎」を修得済の学生のみ履修可 他専攻の学生は履修不可
		3320	DP1	273206	グラフィックデザイン応用		2	2･3	前期・後期	5		「グラフィックデザイン技術」を修得済の学生のみ履修可 他専攻の学生は履修不可
		2320	DP1	273177	プリントメディアⅠ		2	2-4	前期・後期	5		他専攻の学生は履修不可
		2320	DP1	273178	プリントメディアⅡ		2	2-4	前期・後期	5		「プリントメディアⅠ」を修得済の学生のみ履修可 他専攻の学生は履修不可
		2320	DP1	273179	モーション・グラフィックス		2	2-4	前期・後期	5		他専攻の学生は履修不可
		2400	DP2	273180	ヴィジュアルメディア		2	2･3	前期	10		
		2400	DP2	273181	現代アート論		2	2･3	後期	10		
		2400	DP3	273182	メディアアート論		2	2･3	前期	10		
		2420	DP1	273183	ウェブデザインⅠ		2	2-4	前期・後期	5		他専攻の学生は履修不可
		2420	DP1	273154	ウェブデザインⅡ		2	2-4	前期・後期	5		「ウェブデザインⅠ」を修得済の学生のみ履修可 他専攻の学生は履修不可
		2420	DP2	273184	コマーシャル		2	2･3	前期・後期	5		他専攻の学生は履修不可
		2420	DP1	273185	サウンド技術		2	2-4	前期・後期	5		
		2420	DP1	273186	プログラミングⅠ		2	2-4	前期・後期	5		
		2420	DP1	273187	プログラミングⅡ		2	2-4	前期・後期	5		「プログラミングⅠ」を修得済の学生のみ履修可 他専攻の学生は履修不可
		2810	DP2	273207	ポートフォリオ		2	2･3	後期	5		
	メディアプロデュース専攻 応用科目（B群）	2500	DP3	273188	インターネット社会論		2	2･3	後期	10	3科目6単位以上	
		2500	DP3	273189	ポップカルチャー		2	2･3	前期	10		
		2520	DP3	273190	ゲーム文化研究		2	2･3	前期・後期	5		他専攻の学生は履修不可
		2420	DP2	273208	ゲームデザイン		2	2･3	前期・後期	5		
		2520	DP3	273191	メディア社会調査法		2	2･3	前期・後期	5		
		2600	DP2	273192	メディアと心理学		2	2･3	後期	10		
		2700	DP3	273193	広告コミュニケーション論		2	2-4	前期・後期	10		抽選の場合はメディプロ専攻の学生を優先
		2900	DP2	273195	メディアプロジェクト		2	2･3	前期・後期	10		
		2720	DP3	273194	イベントプロモーション		2	2･3	前期	5		他専攻の学生は履修不可
		3520	DP3	273199	メディアコンテンツ分析		2	3･4	前期	5		
		3700	DP3	273200	コンテンツ産業論		2	3･4	前期	10		抽選の場合はメディプロ専攻の学生を優先

＊1　ゼミの登録
メディアプロデュース専攻では3年次前期から所属専攻の「演習（ゼミ）」を履修する。
ゼミは原則として4年後期まで同一担当者のもとで履修する。ただしやむを得ない事由があると専攻が認めた場合はその限りではないので、ゼミ変更希望の学生は専攻主任または教務委員まで相談に来ること。

建築学部カリキュラムと卒業要件

AICHI SHUKUTOKU UNIVERSITY

1 ディプロマ・ポリシー（人材養成像）

建築学部は、建築の計画・設計、歴史、材料、構造、環境・設備、まちづくり、インテリアデザインなど建築学とそれに関連する複数分野の専門的学修を行い、それらを通じて「コミュニケーション力」、「表現力」、「創造力」を高めることにより、建築、インテリア、都市計画、まちづくりなどにおける実社会の諸問題の解決や、より豊かで質の高い生活の創生に貢献する人材の育成を目標としている。この教育目標は、本学の理念である「違いを共に生きる」を建築・まちづくり、住居・インテリアの分野で実践するものであり、これを達成するために以下に掲げるような能力を修得した学生に学位を授与する。

（1）周辺環境、文化的背景、機能や経済性などの多様な条件を読み解き、建築・まちづくり、住居・インテリアデザインに関わる各種課題を解決するために必要な思考力・判断力を有する。（思考・理解・判断）

（2）諸条件を満たすアイデアやコンセプトを発案する創造力、それらを具体化する計画能力及び的確に伝えるプレゼンテーション能力、共同作業に必要なコミュニケーション能力を有する。（創造・表現・態度）

（3）建築に関わる計画・設計、歴史、材料、構造、環境などの充分な基礎知識を背景とした建築の専門的知識と技術とを身に付け、一級建築士などの資格取得を目指すことができるとともに、建築・まちづくり、住居・インテリアデザインの専門家として社会貢献できる能力を有する。（知識・技能・専門）

2 カリキュラム・ポリシー（ディプロマ・ポリシーに整合し、それを保証するカリキュラムの体系性を記したもの）

1 建築学部のカリキュラム・ポリシー

建築学部では、建築の設計・施工などに携わることを目標とする［建築］科目群、既存の建築と周囲環境とを保存しつつ歴史・文化・伝統を継承し、再生することを目標とする［まちづくり］科目群、住居、インテリア、家具など、多様な人々が生活する空間を目的に応じて機能的にしつつ生理的・心理的に心地良くするための考え方・方法を学ぶ［住居］科目群、［インテリアデザイン］科目群があり、これらの科目群を学術的に理論付け、実践的に学修できるようにカリキュラム編成をする。４つの科目群は初年次より縦断的に配置されていると同時に互いに重なり合っており、科目群を横断的に履修することでそれぞれの目標に対して幅広い視野・知見を得ることができる。講義系科目は学部・学科で共通であるが、設計課題や実験・実習などの演習系科目では基本的に専攻ごとの履修体系を持つ。学修の進行にも配慮し、１年次には、建築・まちづくり、住居・インテリアデザインの魅力に触れる機会を提供して学修意欲を高めるとともに、多様な表現方法の存在に目を向けられるような科目を用意する。２年次から３年次にかけては、基礎から応用へと移行するための科目を習熟度に従って段階的に展開し、４年次には卒業プロジェクトやゼミ（教員ごとの少人数演習）を通じて学修の成果を作品や研究論文としてまとめることを主たる目標とする。

建築学部の授業科目は、専門基礎科目と専門応用科目、専門発展科目とに区分される。学生は、専門基礎科目の学修を基礎として、以後、学年進行に従って、専門応用科目、専門発展科目へと段階的に履修する。授業科目の形態上の分類は、講義と演習、実験・実習から構成され、それぞれの分野についてこれらの授業科目を組み合わせて学修を深めていく。本学部のカリキュラム・ポリシーは次の通りである。

（1）講義科目を通じて、建築・まちづくり、住居・インテリアデザインの専門知識を基礎から応用まで身に付ける。

（2）豊富な実習系の授業を通じて、アイデアを求められた成果物に具現化するまでの能力を身に付ける。

（3）実験系の授業を通じて、建築に関わる様々な物理現象や技術を実際に体験し実感をともなった知識を身に付ける。

（4）ゼミや演習系の授業を通じて、具体的な問題の解決を前提とした共同作業を行い、ディスカッションとコミュニケーション、プレゼンテーションなどの実社会で役に立つ能力を身に付ける。

（5）一級・二級建築士、建築施工管理技士、インテリアプランナー・コーディネーターなどの資格取得に必要な指定科目を学修することによって、それぞれの専門分野で役に立つ知識・能力を身に付ける。

3 アドミッション・ポリシー

建築学部は、建築とその内部空間、建築群を含む都市と地域、周囲環境との関わり方を考え、国や地域の歴史や文化、風土・気候などの多様な観点から将来目指すべき持続可能な建築・都市の未来像を構想する。建築・まちづくり、住居・インテリアデザインを学術的・実践的に学ぶことは、様々な学問領域を横断的・縦断的に学び応用することでもあることから、従来の思考の枠組みや自身の無意識の限界を自ら越えようという意欲と熱意を持つ学生の入学を期待する。

建築学部建築学科　建築・まちづくり専攻

①学生に期待すること

・建築・まちづくりに限らず、様々なモノやコトに対する好奇心と興味・関心を持つこと。
・知らないことや知っているつもりのことを、自身の頭と身体を使って理解しようと心掛けること。
・建築やまちづくりを学ぶことを通して自然・環境・工学・芸術・歴史・文化・風土などのつながりを意識し、部分と全体とを同時に見る広い視野を持てるように心掛けること。

②学生募集に際して重視すること

・建築や環境・都市の機能や文化など有形無形のモノやコトを創造することに深い関心と高い情熱を持っていること。
・建築空間を目的に応じて機能的にしつつ生理的・心理的に心地良くすることに深い関心と高い情熱を持っていること。
・既存の建築と周囲の都市・環境に新たな機能と価値を加え、歴史・文化・伝統を継承し再生・発展させることに深い関心と高い情熱を持っていること。

③入学前学習として推奨すること

・建築やまちづくりなどにとらわれず、幅広い分野の書籍・文献などをたくさん読み多様な世界に触れること。
・年代や場所にとらわれず様々な地域の町並みや建築を訪れ、それらの全体や細部・内部、周囲環境を見るとともに五感で建築空間の環境を感じ取ること。
・建築学は文系・理系などの学問分野の枠にとらわれず、様々な分野の学問を学び多様な視点を持つことが求められる。このことを踏まえて、国語や数学における文章理解力や数理的分析力のみならず、環境や歴史、地域・社会への関心など、高校で学ぶ教科・科目の基礎的学力をバランスよく習得すること。

建築学部建築学科　住居・インテリアデザイン専攻

①学生に期待すること

・住居・インテリアデザインに限らず、様々なモノやコトに対する好奇心と興味・関心を持つこと。
・知らないことや知っているつもりのことを、自身の頭と身体を使って理解しようと心掛けること。
・住居・インテリアデザインを学ぶことを通して自然・環境・芸術・歴史・文化・風土などのつながりを意識し、部分と全体とを同時に見る広い視野を持てるように心掛けること。

②学生募集に際して重視すること

・住居の形態や住まい方、空間内部の機能や視覚的デザインなど有形無形のモノやコトを創造することに深い関心と高い情熱を持っていること。
・住居空間を目的や住まい方に応じて機能的にしつつ視覚的・心理的に心地良くすることに深い関心と高い情熱を持っていること。
・既存建築の内部空間に新たな機能と価値を加え、歴史・文化・伝統を継承しつつ再生・発展させることに深い関心と高い情熱を持っていること。

③入学前学習として推奨すること

・住居やインテリアデザインなどにとらわれず、幅広い分野の書籍・文献などをたくさん読み多様な世界に触れること。
・様々な地域の町並みや建築を訪れ、それらの全体や細部・内部、周囲環境を見るとともに五感で建築空間の環境を感じ取ること。
・建築学は文系・理系などの学問分野の枠にとらわれず、様々な分野の学問を学び多様な視点を持つことが求められる。このことを踏まえて、国語や数学における文章理解力や数理的分析力のみならず、環境や歴史地域・社会への関心など、高校で学ぶ教科・科目の基礎的学力をバランスよく習得すること。

4 卒業に必要な単位（卒業要件単位数）

本学の建築学部を卒業するためには、4年以上在学（休学期間は含まない）し、**124単位**以上修得しなければならない（「愛知淑徳大学学則第47条」）。その内訳は建築・まちづくり専攻、住居・インテリアデザイン専攻で異なるので注意すること。

■建築・まちづくり専攻 2025年度入学者

授業科目の種類			卒業要件単位
専門教育科目	専門基礎科目 ※1	共通基礎科目	70単位以上 （必修15単位、選択必修35単位を含む）
		建築・まちづくり系科目	
		住居・インテリアデザイン系科目	
	専門応用科目 ※2	共通応用科目	
		建築系科目	
		まちづくり系科目	
		住居系科目	
		インテリアデザイン系科目	
	専門発展科目	建築系科目	
		まちづくり系科目	
		住居系科目	
		インテリアデザイン系科目	
		研究科目	
全学共通履修科目	基幹科目	違いを共に生きる科目	4単位以上 （「違いを共に生きる・ライフデザイン」 「AI･データサイエンス入門［M］」必修4単位を含む）
		AI・データサイエンス科目	
	アクティブラーニング科目	国際交流センター開設科目	4単位以上 （「日本語表現1」必修2単位を含む）
		CCC開設科目	
		キャリアセンター開設科目	
		ダイバーシティ共生センター開設科目	
		学修・教育支援センター開設科目	
	スキル科目	言語活用科目（英語）	4単位以上
		言語活用科目（初めての外国語）	
学部認定科目		他学部・他学科開放科目	0単位以上
		愛知学長懇話会単位互換科目（上限10単位）	
		放送大学単位互換科目（上限10単位）	
合　計			124単位以上

※1　選択科目において、専門基礎科目のうち共通基礎科目から6単位以上、建築・まちづくり系科目から5単位以上を選択必修。
※2　選択科目において、専門応用科目のうち共通応用科目、建築系科目及びまちづくり系科目から24単位以上を選択必修。

なお、以下の表にある科目は、**卒業に必要な単位に算入されない**ため、注意する。

①言語活用科目（英語） 「Introduction to English」	②教職課程科目	③学芸員課程科目
④司書課程科目	⑤コンピュータ資格科目	⑥会計教育科目
⑦研究科開放科目	⑧文学部国文学科専門教育科目 「学びなおし古文」「学びなおし漢文」	⑨建築学部建築学科専門教育科目 「基礎数学」
⑩食健康科学部専門教育科目 「基礎化学」「基礎生物学」		

■住居・インテリアデザイン専攻 2025年度入学者

授業科目の種類			卒業要件単位
専門教育科目	専門基礎科目 ※1	共通基礎科目	70単位以上 （必修15単位、選択必修21単位を含む）
		建築・まちづくり系科目	
		住居・インテリアデザイン系科目	
	専門応用科目 ※2	共通応用科目	
		建築系科目	
		まちづくり系科目	
		住居系科目	
		インテリアデザイン系科目	
	専門発展科目	建築系科目	
		まちづくり系科目	
		住居系科目	
		インテリアデザイン系科目	
		研究科目	
全学共通履修科目	基幹科目	違いを共に生きる科目	4単位以上 （「違いを共に生きる・ライフデザイン」 「AI･データサイエンス入門［M］」必修4単位を含む）
		AI・データサイエンス科目	
	アクティブラーニング科目	国際交流センター開設科目	4単位以上 （「日本語表現1」必修2単位を含む）
		CCC開設科目	
		キャリアセンター開設科目	
		ダイバーシティ共生センター開設科目	
		学修・教育支援センター開設科目	
	スキル科目	言語活用科目（英語）	4単位以上
		言語活用科目（初めての外国語）	
学部認定科目		他学部・他学科開放科目	0単位以上
		愛知学長懇話会単位互換科目（上限10単位）	
		放送大学単位互換科目（上限10単位）	
合　計			124単位以上

※1　選択科目において、専門基礎科目のうち共通基礎科目から6単位以上、住居・インテリアデザイン系科目から5単位以上を選択必修。
※2　選択科目において、専門応用科目のうち共通応用科目、住居系科目及びインテリアデザイン系科目から10単位以上を選択必修。

なお、以下の表にある科目は、**卒業に必要な単位に算入されない**ため、注意する。

①言語活用科目（英語） 「Introduction to English」	②教職課程科目	③学芸員課程科目
④司書課程科目	⑤コンピュータ資格科目	⑥会計教育科目
⑦研究科開放科目	⑧文学部国文学科専門教育科目 「学びなおし古文」「学びなおし漢文」	⑨建築学部建築学科専門教育科目 「基礎数学」
⑩食健康科学部専門教育科目 「基礎化学」「基礎生物学」		

5 履修上の注意

（1）卒業プロジェクト

・本科目は、4年次に履修する「演習（ゼミ）」と連繋する科目であり、卒業論文あるいは卒業制作・卒業設計に対して履修単位が与えられる。

・提出日時と提出場所に関しては、CampusSquareで連絡されるので必ず確認すること。

履修モデルについて

専門科目の選択科目は、専攻にかかわらず自由に選択ができるが、所属専攻の特性や自らの興味、将来の進路を踏まえて選択することが望ましい。専攻の特性に応じた履修モデルを下記に示すので参考にすること。また、建築士受験資格に必要な科目については各自でP.157を確認すること。

	授業科目の名称	配当年次	単位数		建築・まちづくり専攻	住居・インテリアデザイン専攻
			必修	選択		
共通基礎	建築学概論	1前	2		◎	◎
	建築のための数学 ※1	1前		2	○	○
	基礎数学 ※1※2	1前		(2)		
	人間生活工学	1後		2	○	○
	知的財産権	1後		2	○	○
	キャリアプランニング	3前	1		◎	◎
設計	基礎製図	1前		2	○	○
	グラフィックデザイン演習	1前		2	○	○
	ドローイング演習	1前		2	○	○
	インテリアデザイン基礎演習	1前		2		○
	ベーシックデザイン演習	1後		2	○	○
	CAD基礎	1後		2	○	○
	インテリアデザイン演習	1後		2		○
	CAD応用Ⅰ	2前		2	○	○
	建築設計Ⅰ	2前		3	○	
	住居・インテリア設計Ⅰ	2前		3		○
	CAD応用Ⅱ	2後		2	○	○
	建築設計Ⅱ	2後		3	○	
	住居・インテリア設計Ⅱ	2後		3		○
	プロダクトデザイン演習	2後		2		
	建築設計Ⅲ	3前		3	○	
	住居・インテリア設計Ⅲ	3前		3		○
	デザインワークショップ	3前		3		○
	建築設計Ⅳ	3後		3	○	
	住居・インテリア設計Ⅳ	3後		3		○
	建築設計Ⅴ	4前		2	○	
計画	建築史A(西洋)	1前・後		2	○	○
	住居史	1前・後		2	○	○
	都市形成史	1前・後		2	○	○
	まちづくり概論	1前・後		2	○	
	アーバンリサーチ	1前・後		2	○	○
	近現代デザイン史	1前・後		2	○	○
	インテリアデザイン論A(住宅)	1前・後		2		○
	建築計画Ⅰ	1後		2	○	○
	住まいと生活	1後		2	○	○

	授業科目の名称	配当年次	単位数		建築・まちづくり専攻	住居・インテリアデザイン専攻
			必修	選択		
計画	建築史B(日本・東洋)	2前・後		2	○	○
	建築史C(近代日本)	2前・後		2	○	○
	建築法規	2前・後		2	○	○
	都市景観論	2前・後		2	○	○
	都市計画論	2前・後		2	○	
	建築計画Ⅱ	2前		2	○	○
	ランドスケープデザイン	2前		2	○	
	保存再生計画	2前		2	○	○
	現代インテリア学概論	2前		2		○
	商業スペースデザイン	2後		2	○	○
	まちづくりデザイン（企画・マネジメント）	2後		2	○	
	ハウジング論	3前・後		2	○	○
	まちづくり演習B(地域課題)	3前・後		2	○	
	建築と経済	3前		2	○	○
	まちづくり演習A(地域活性化)	3前		2	○	
	建築・町並み保存論	3前		2	○	○
	インテリアデザイン論B（リノベーション）	3前		2		○
	建築生産システム	3後		2	○	○
	建築行動学	3後		2	○	○
	ファシリティマネジメント論	3後		2	○	○
	都市観察演習	3後		2	○	
	建築・町並み保存演習	3後		2	○	○
構造	目で見る構造力学演習	1後		2	○	
	建築構造力学Ⅰ ※3	1後・(2前)		2	○	○
	建築構造力学Ⅱ	2前・後		2	○	○
	建築構法	2前		2	○	○
	建築材料	2前		2	○	○
	構造デザイン	2後		2	○	○
	木質構造設計法	2後		2	○	○
	建築材料実験	2後		2	○	○
	建築基礎構造	3前		2	○	○
	建築構造実験	3前		2	○	○
	コンクリート構造設計法	3前		2	○	
	鉄骨構造設計法	3後		2	○	
	都市防災学	3後		2	○	

	授業科目の名称	配当年次	単位数		建築・まちづくり専攻	住居・インテリアデザイン専攻
			必修	選択		
環境	建築環境学実験	1前･後		2	○	○
	建築環境学A(熱・空気)	2前		2	○	○
	環境と心理	2前		2		○
	建築環境学B(光・色彩・音)	2後		2	○	○
	住環境計画概論	2後		2	○	○
	福祉住環境論	2後		2		○
	照明・色彩デザイン計画	3前		2		○
	建築設備	3後		2	○	○
	建築のパッシブデザインと性能評価	3後		2	○	○
特別研究	総合演習Ⅰa	3前	2		◎	◎
	総合演習Ⅰb	3後	2		◎	◎
	総合演習Ⅱa	4前	2		◎	◎
	総合演習Ⅱb	4後	2		◎	◎
	卒業プロジェクト	4通	4		◎	◎

◎：必修科目

○：専攻別履修モデル科目（一例であり、推奨するものではありません）

※1 ［建築のための数学］は高校数学の基礎知識を持っていることを前提とした科目である。数学が不得意な人は［基礎数学］を履修すること。
いずれも、建築士指定科目を履修するための前提科目のため、建築士受験資格の取得を目指す人はいずれかを履修する必要がある。

※2 「基礎数学」は合否判定による2単位科目であるが、卒業に必要な単位には算入されないため注意すること。

※3 「建築構造力学Ⅰ」は前期で開講されるクラスは2年生以上を対象としているため、1年生は後期のクラスを履修すること。

6 カリキュラム表（建築学部 専門教育科目）

科目群		ナンバリング	DP番号	科目番号	科目	必修単位	選択単位	履修年次	開講学期	開講最少履修者数（目安）	卒業要件 建築・まちづくり専攻	卒業要件 住居・インテリアデザイン専攻	備考
専門基礎科目	共通基礎科目	1100	DP1	274200	建築学概論	2		1	前期	1	必修3単位を除き6単位以上	必修3単位を除き6単位以上	
		1130	DP1	274201	近現代デザイン史		2	1	前期・後期	10			
		1100	DP1	274202	人間生活工学		2	1	前期	10			
		1130	DP1	274203	建築史A（西洋）		2	1	前期・後期	10			
		1130	DP1	274204	建築史B（日本・東洋）		2	2	前期・後期	10			
		1130	DP1	274205	建築史C（近代日本）		2	2	前期・後期	10			
		1100	DP3	274206	基礎製図		2	1	前期	5			2限つづき授業 専攻別のコマ指定 2年生以上はクラス指定なし
		1100	DP2, DP3	274207	ベーシックデザイン演習		2	1	後期	5			2限つづき授業 専攻別のコマ指定 2年生以上はクラス指定なし
		1100	DP2, DP3	274208	グラフィックデザイン演習		2	1	前期	5			
		1100	DP2, DP3	274209	CAD基礎		2	1	後期	5			1年生は専攻別のクラス指定（非抽選） 2年生以上はクラス指定はないが、定員を超えた場合抽選となる。
		1100	DP3	274210	ドローイング演習		2	1	前期・後期	5			
		1100	DP3	274211	建築のための数学		2	1	前期	10			
		1110	DP1, DP3	274212	知的財産権		2	1	後期	10			
		1120	DP3	274213	キャリアプランニング	1		3	前期	1			1/4期科目 成績は「合」「否」により評価
	建築・まちづくり系科目	1200	DP2	274214	建築計画Ⅰ		2	1	後期	10	5単位以上		抽選の場合は建築・まちづくり専攻の学生を優先
		1230	DP2	274215	建築設計Ⅰ		3	2	前期	5			3限つづき授業 建築・まちづくり専攻のみ履修可
		1200	DP2	274216	都市形成史		2	1	前期・後期	10			抽選の場合は建築・まちづくり専攻の学生を優先
		1200	DP3	274217	目で見る構造力学演習		2	1	後期	5			2限つづき隔週授業 2専攻混同のクラス指定 2年生以上はクラス指定なし
		1200	DP3	274218	建築環境学実験		2	1	前期・後期	5			2限つづき隔週授業 クラス指定 1年生は原則として履修登録の掲示にて指定クラスを確認すること。 2年生以上はクラス指定なし

科目群		ナンバリング	DP番号	科目番号	科目	必修単位	選択単位	履修年次	開講学期	開講最少履修者数（目安）	卒業要件		備考
											建築・まちづくり専攻	住居・インテリアデザイン専攻	
専門基礎科目	住居・インテリアデザイン系科目	1320	DP1, DP3	274219	住まいと生活		2	1	前期	10		5単位以上	抽選の場合は住居・インテリアデザイン専攻の学生を優先
		1300	DP3	274220	住居・インテリア設計Ⅰ		3	2	前期	5			3限つづき授業 住居・インテリアデザイン専攻のみ履修可
		1320	DP1, DP3	274221	住居史		2	1	前期・後期	10			1年生は専攻別クラス指定 前期：インテリア 後期：まちづくり 2年生以上はクラス指定なし
		1320	DP1, DP3	274222	福祉住環境論		2	2	後期	10			抽選の場合は住居・インテリアデザイン専攻の学生を優先
専門応用科目	共通応用科目	2400	DP3	274223	CAD応用Ⅰ		2	2	前期	5	24単位以上	※（注1）	専攻別のクラス指定 定員を越えた場合は「CAD基礎」の成績順に抽選を実施 3年生以上はクラス指定なし
		2400	DP3	274224	CAD応用Ⅱ		2	2	後期	5			専攻別のクラス指定 定員を越えた場合は「CAD応用Ⅰ」の成績順に抽選を実施 3年生以上はクラス指定なし
	建築系科目	2500	DP3	274225	建築計画Ⅱ		2	2	前期	10			
		2510	DP3	274226	建築設計Ⅱ		3	2	後期	5			3限つづき授業 建築・まちづくり専攻のみ履修可
		2510	DP3	274227	建築設計Ⅲ		3	3	前期	5			3限つづき授業 建築・まちづくり専攻のみ履修可
		2500	DP1, DP3	274228	建築法規		2	2	前期・後期	1			
		2520	DP3	274229	建築構造力学Ⅰ		2	1・2	前期・後期	1			1年生のみ「基礎数学」を合格、若しくは「建築のための数学」を履修済みであること。 1年生は後期に開講されるコマ（専攻別）、2年生以上は前期に開講されるコマを履修すること。
		2520	DP3	274230	建築構造力学Ⅱ		2	2	前期・後期	1			前期のみ専攻別のクラス指定 3年生以上はクラス指定なし 「建築構造力学Ⅰ」を修得済みであること。
		2520	DP3	274231	構造デザイン		2	2	後期	10			
		2520	DP3	274232	建築基礎構造		2	3	前期	10			
		2520	DP3	274233	木質構造設計法		2	2	後期	10			「建築構造力学Ⅰ」を修得済みであることが望ましい。

科目群		ナンバリング	DP番号	科目番号	科　目	必修単位	選択単位	履修年次	開講学期	開講最少履修者数（目安）	卒業要件		備　考
											建築・まちづくり専攻	住居・インテリアデザイン専攻	
専門応用科目	建築系科目	2520	DP3	274234	建築構造実験		2	3	前期	5	24単位以上		2限つづき隔週開講 2専攻混同のクラス指定 上級生はクラス指定なし 「建築構造力学Ⅰ」を修得済みであることが望ましい。
		2530	DP3	274235	建築構法		2	2	前期	10			
		2500	DP3	274236	建築生産システム		2	3	後期	1			
		2530	DP3	274237	建築材料		2	2	前期	1			後期に「建築材料実験」を履修することが望ましい。
		2530	DP3	274238	建築材料実験		2	2	後期	1			3限つづき授業 （原則として10日間の授業） 前期に「建築材料」を履修すること。
		2540	DP1, DP3	274239	環境と心理		2	2	前期	10			
		2540	DP3	274240	建築環境学A（熱・空気）		2	2	前期	10			「基礎数学」を合格、もしくは「建築のための数学」を修得済みであることが望ましい。
		2540	DP3	274241	建築環境学B（光・色彩・音）		2	2	後期	10			「基礎数学」を合格、もしくは「建築のための数学」を修得済みであることが望ましい。 前期に「建築環境学A（熱・空気）」を履修していることが望ましい。
		2540	DP3	274242	建築設備		2	3	後期	1			
	まちづくり系科目	2610	DP1, DP2	274243	まちづくり概論		2	1	前期・後期	10			
		2600	DP2, DP3	274244	都市景観論		2	2	前期・後期	10			
		2610	DP1, DP2, DP3	274245	都市計画論		2	2	前期・後期	10			
		2610	DP2	274246	ランドスケープデザイン		2	2	前期	10			
		2620	DP2	274247	アーバンリサーチ		2	1	前期・後期	10			
		2600	DP2	274248	都市観察演習		2	3	後期	5			
		2600	DP2, DP3	274249	保存再生計画		2	2	前期	10			
		2600	DP2, DP3	274250	建築・町並み保存論		2	3	前期	10			
		2600	DP2, DP3	274251	建築・町並み保存演習		2	3	後期	5			2限つづき授業
		2610	DP2	274252	まちづくりデザイン（企画・マネジメント）		2	2	後期	10			
	住居系科目	2710	DP2, DP3	274253	住居・インテリア設計Ⅱ		3	2	後期	5		※（注1）	3限つづき授業 住居・インテリアデザイン専攻のみ履修可
		2710	DP2, DP3	274254	住居・インテリア設計Ⅲ		3	3	前期	5		※（注1）	3限つづき授業 住居・インテリアデザイン専攻のみ履修可

科目群		ナンバリング	DP番号	科目番号	科目	必修単位	選択単位	履修年次	開講学期	開講最少履修者数（目安）	卒業要件		備考
											建築・まちづくり専攻	住居・インテリアデザイン専攻	
専門応用科目	住居系科目	2700	DP1, DP3	274255	建築行動学		2	3	後期	10		※（注1）	
		2700	DP1, DP3	274256	ハウジング論		2	3	前期・後期	10			
		2740	DP1, DP3	274257	住環境計画概論		2	2	後期	10			
	インテリアデザイン系科目	2810	DP1	274258	現代インテリア学概論		2	2	前期	10		※（注1）	
		2800	DP2, DP3	274259	照明・色彩デザイン計画		2	3	前期	10			
		2810	DP1, DP3	274260	インテリアデザイン論A（住宅）		2	1	前期・後期	10			2専攻混同のクラス指定 2年生以上はクラス指定なし
		2820	DP1, DP3	274261	インテリアデザイン論B（リノベーション）		2	3	前期	10			
		2820	DP2, DP3	274262	インテリアデザイン基礎演習		2	1	前期	5			
		2820	DP2, DP3	274263	インテリアデザイン演習		2	1	後期	5			2専攻混同のクラス指定 2年生以上はクラス指定なし
		2810	DP2, DP3	274264	プロダクトデザイン演習		2	2	後期	5			3限つづき授業
		2820	DP1, DP2	274265	デザインワークショップ		3	3	前期	5			講義とワークショップを組み合わせる3コマ分の授業
専門発展科目	建築系科目	3510	DP1, DP3	274266	建築設計Ⅳ		3	3	後期	5			3限つづき授業 建築・まちづくり専攻のみ履修可
		3510	DP1, DP3	274267	建築設計Ⅴ		2	4	前期	5			2限つづき授業 建築・まちづくり専攻のみ履修可
		3520	DP3	274268	コンクリート構造設計法		2	3	前期	10			「建築構造力学Ⅰ」を修得済みであること。
		3520	DP3	274269	鉄骨構造設計法		2	3	後期	10			「建築構造力学Ⅰ」を修得済みであること。
		3500	DP3	274270	都市防災学		2	3	後期	10			
		3500	DP1, DP3	274271	建築と経済		2	3	前期	10			
		3500	DP1, DP3	274272	ファシリティマネジメント論		2	3	後期	10			
		3540	DP1, DP3	274273	建築のパッシブデザインと性能評価		2	3	後期	10			
	まちづくり系科目	3610	DP2, DP3	274274	まちづくり演習A（地域活性化）		2	3	前期	5			
		3620	DP2, DP3	274275	まちづくり演習B（地域課題）		2	3	前期・後期	5			
	住居系科目	3710	DP2, DP3	274276	住居・インテリア設計Ⅳ		3	3	後期	5			3限つづき授業 住居・インテリアデザイン専攻のみ履修可
	インテリアデザイン系科目	3820	DP1, DP3	274277	商業スペースデザイン		2	2	後期	10			

科目群		ナンバリング	DP番号	科目番号	科　目	必修単位	選択単位	履修年次	開講学期	開講最少履修者数（目安）	卒業要件		備　考
											建築・まちづくり専攻	住居・インテリアデザイン専攻	
専門発展科目	研究科目	3900	DP1, DP2, DP3	274278	総合演習Ⅰa	2		3	前期	1			
		3900	DP1, DP2, DP3	274279	総合演習Ⅰb	2		3	後期	1			
		3900	DP1, DP2, DP3	274280	総合演習Ⅱa	2		4	前期	1			
		3900	DP1, DP2, DP3	274281	総合演習Ⅱb	2		4	後期	1			
		3910	DP1, DP2, DP3	274282	卒業プロジェクト	4		4	通年	1			

（注１）　※の中から10単位以上

●卒業に必要な単位に算入されない科目

科目群		ナンバリング	DP番号	科目番号	科　目	必修単位	選択単位	履修年次	開講学期	開講最少履修者数（目安）	卒業要件		備　考
											建築・まちづくり専攻	住居・インテリアデザイン専攻	
専門基礎科目	共通基礎科目	1100	DP3	274283	基礎数学		2	1	前期	10			成績は「合」「否」により評価

7 建築学部で取得できる資格

建築学部の科目は、建築・まちづくりおよび、住居・インテリアデザイン業務に携わろうとする意欲をもつ学生のために設けられており、以下の１から３の資格取得を目指すことができる。

1　一級・二級建築士および、木造建築士
2　商業施設士補
3　インテリアプランナー

１と２の資格は、課程認定を受けており、必要な単位を取得することで受験資格や認定資格の取得が可能となる。３は、本学部を卒業することで試験合格後に実務経験０年で登録できる資格を有する。建築学部で取得できる資格については、資格取得ガイダンスおよび新入生ガイダンス等で案内をする。

1　一級建築士、二級建築士、木造建築士の受験資格

「建築士」は国家資格であり、設計事務所・住宅産業・建設業等において、建築物の設計・監理や工事管理・法令に基づく申請をおこなうために必要とされる建築士法に定められた免許である。

卒業後、上記受験資格を希望するものは、建築学部建築学科に所属し、卒業に必要な所定の単位を修得するとともに、本学が登録している科目（以下、登録科目）の中から必要な単位を修得する必要がある。修得する科目と単位数に対応して、受験できる資格と試験合格後に資格登録が可能となる実務経験年数が異なるため、P.157の表を参照して履修を進めること。所定の要件単位を満たして卒業した者が、当該資格試験を受験する際は、大学が発行する証明書が必要となる。証明書の発行については、４年次後期に案内があるので、各自で確認すること。

2　商業施設士補の登録資格

「商業施設士」とは、商業施設の企画、設計、監理、施工、運営などに対して専門家として公正に職能を発揮できる専門家のことで、公益社団法人商業施設技術団体連合会が認定する資格である。本学で在学中に商業施設士補を取得すると、商業施設士試験の学科試験が免除される。

在学中、もしくは卒業後に商業施設士補の認定資格を希望するものは、商業施設技術団体連合会が実施する講習（有料）を受講する必要がある。この講習は、必要な単位を修得したもの（もしくは習得見込みの者※）に限り受講することができる。必要な単位や申し込み方法等については、資格取得ガイダンスおよび新入生ガイダンス等で確認すること。

※履修見込みの者とは、受講申し込み時点で履修中の者を指す。

3　インテリアプランナー登録資格

「インテリアプランナー」とは、インテリアプランニングにおける企画・設計・工事監理を行うインテリアに関する知識と技術に習熟した専門家のことである。公益財団法人建築技術教育普及センターが行う試験に合格すると、インテリアプランナーとして登録ができる。受験は誰でも可能であるが本学の建築学部建築学科を卒業することで、試験合格後に実務経験０年でインテリアプランナーとして登録できる資格を有する。

その他

建築施工管理技術検定（一級、二級）

建設工事に従事する者の技術力の向上を図るために国土交通省が行なう技術検定のことで、「施工管理技士」を目指すことができる。一級、二級共に第一次検定と第二次検定があり、第一次検定は在学中から受検できるが、二次検定の受検には実務経験が必要となる。

「インテリアコーディネーター」、「福祉住環境コーディネーター」、「CAD利用技術者試験」

上記は民間団体が認定する資格であり、いずれも在学中から受検が可能である。詳しくは、各自で調べること。

建築士試験受験資格取得に要する必修単位

一級建築士、二級建築士・木造建築士試験の受験資格取得に要する必修単位は、下表の通りである。

分類	登録科目	対象学年	単位数	必要単位数	
				一級建築士	二級・木造建築士
①建築設計製図	建築設計Ⅰ	2	3	7単位以上	3単位以上
	住居・インテリア設計Ⅰ	2	3		
	建築設計Ⅱ	2	3		
	住居・インテリア設計Ⅱ	2	3		
	建築設計Ⅲ	3	3		
	住居・インテリア設計Ⅲ	3	3		
	建築設計Ⅳ	3	3		
	住居・インテリア設計Ⅳ	3	3		
	建築設計Ⅴ	4	2		
②建築計画	建築史A(西洋)	1	2	7単位以上	2単位以上
	建築計画Ⅰ	1	2		
	住まいと生活	1	2		
	住居史	1	2		
	インテリアデザイン論A(住宅)	1	2		
	建築史B(日本・東洋)	2	2		
	建築史C(近代日本)	2	2		
	福祉住環境論	2	2		
	建築計画Ⅱ	2	2		
	住環境計画概論	2	2		
	商業スペースデザイン	2	2		
	ハウジング論	3	2		
	インテリアデザイン論B(リノベーション)	3	2		
③建築環境工学	建築環境学A(熱・空気)	2	2	2単位以上	
	建築環境学B(光・色彩・音)	2	2		
④建築設備	建築設備	3	2	2単位以上	
	建築のパッシブデザインと性能評価	3	2		
⑤構造力学	建築構造力学Ⅰ ※	1～2	2	4単位以上	3単位以上
	建築構造力学Ⅱ	2	2		
⑥建築一般構造	木質構造設計法	2	2	3単位以上	
	建築基礎構造	3	2		
	コンクリート構造設計法	3	2		
	鉄骨構造設計法	3	2		
⑦建築材料	建築材料	2	2	2単位以上	
	建築材料実験	2	2		
⑧建築生産	建築構法	2	2	2単位以上	1単位以上
	建築生産システム	3	2		
⑨建築法規	建築法規	2	2	1単位以上	1単位以上
①～⑨の単位数				**30単位以上**	**10単位以上**
⑩複合・関連科目	基礎製図	1	2	適宜	適宜
	ベーシックデザイン演習	1	2		
	CAD基礎	1	2		
	ドローイング演習	1	2		
	都市形成史	1	2		
	目で見る構造力学演習	1	2		
	建築環境学実験	1	2		
	まちづくり概論	1	2		
	アーバンリサーチ	1	2		
	インテリアデザイン基礎演習	1	2		
	インテリアデザイン演習	1	2		
	CAD応用Ⅰ	2	2		
	CAD応用Ⅱ	2	2		
	構造デザイン	2	2		
	環境と心理	2	2		
	都市景観論	2	2		
	都市計画論	2	2		
	ランドスケープデザイン	2	2		
	保存再生計画	2	2		
	まちづくりデザイン（企画・マネジメント）	2	2		
	現代インテリア学概論	2	2		
	プロダクトデザイン演習	2	2		
	建築構造実験	3	2		
	建築・町並み保存論	3	2		
	建築・町並み保存演習	3	2		
	建築行動学	3	2		
	照明・色彩デザイン計画	3	2		
	都市防災学	3	2		
	建築と経済	3	2		
	ファシリティマネジメント論	3	2		
	まちづくり演習A(地域活性化)	3	2		
	まちづくり演習B(地域課題)	3	2		
①～⑨の必修単位数を満たし、かつ、①～⑩の合計修得単位数				**60単位以上**	**50単位以上**	**40単位以上**	**40単位以上**	**30単位以上**	**20単位以上**
卒業後に必要な実務経験年数				**2年**	**3年**	**4年**	**0年**	**1年**	**2年**

※前期で開講されるクラスは2年生以上を対象としているため、1年生は後期のクラスを履修すること。

健康医療科学部カリキュラムと卒業要件

AICHI SHUKUTOKU UNIVERSITY

1 ディプロマ・ポリシー（人材養成像）

健康医療科学部は高齢者や障がいのある人をはじめ、すべての人の生活の質を向上することに貢献し得る人材、さらに良い人間関係を築くための対人技術および他者への理解と尊重を有する人材の育成を目標にしている（態度）。

この教育目標を達成するために、以下の能力を習得した学生に学位を授与する。

医療貢献学科（言語聴覚学専攻）

① 言語聴覚士の国家資格を目指し、障がい児・者支援のための専門家として必要な知識と技能を有する者（知識・技能）

② 職能の範囲にとどまらず、豊かなコミュニケーション能力を有し、必要に応じて問題点を発見し、新しい検査・評価・訓練・指導・支援の技法の開発および評価を行い得る知識と技能を有する者（意欲・判断力・開発力・コミュニケーションスキル）

③ 科学的な根拠にもとづいて実証的に分析し、論理的に思考する能力を有する者（科学的思考力）

医療貢献学科（視覚科学専攻）

① 視能訓練士の国家資格を目指し、障がい児・者支援のための専門家として必要な知識と技能を有する者（知識・技能）

② 職能の範囲にとどまらず、必要に応じて問題点を発見し、新しい検査・評価・訓練・指導・支援の技法の開発および評価を行い得る知識と技能を有する者（意欲・判断力・開発力）

③ 科学的な根拠にもとづいて実証的に分析し、論理的に思考する能力を有する者（科学的思考力）

医療貢献学科（理学療法学専攻）

① 理学療法士の国家資格取得を目指し、障がい児・者支援のための専門家、とりわけ、小児理学療法の専門家として必要な知識と技能を有する者（知識・技能）

② 理学療法士として、多職種の視点も加味して問題点を発見し理学療法を行い得る知識と技能を有すると同時に、新しい検査や練習・支援技法の開発に意欲を有する者（意欲・判断力・開発力）

③ 科学的な根拠にもとづいて実証的に分析し、論理的思考能力を有する者（科学的思考力）

医療貢献学科（臨床検査学専攻）

① 臨床検査技師の国家資格取得を目指し、高い倫理観を持った臨床検査の専門家として必要な知識と技能を有する者（知識・技能・臨床力）

② チーム医療実践のための基本的能力を有し、職能の範囲にとどまらず、問題点を発見し解決するための知識と技能を有する者（意欲・判断力・コミュニケーションスキル）

③ 臨床検査に関する問題を自ら発見し、問題解決に向け科学的な根拠にもとづいて論理的に思考し実証的に分析する能力を有し、科学技術の進歩を理解し新たな検査の開発および評価をおこない得る知識と技能を有する者（科学的思考力・開発力）

スポーツ・健康医科学科（スポーツ・健康科学専攻）

① スポーツ・運動科学および健康科学に関する幅広い知識を有し、その知識を背景に、生涯にわたる健康の維持・増進に携わる専門家として認められる者（知識・技能）

② 修得した知識をもとに生涯健康に関する諸問題に対し、自ら考え、解決策を見出し、それをもとに行動できる者（意欲・判断力・創造力・行動力）

③　スポーツ、運動および健康に関する問題に対し、科学的な根拠にもとづいて実証的に分析し、論理的に思考する能力を有する者（科学的思考力）

スポーツ・健康医科学科（救急救命学専攻）

①　救急救命士の国家資格を目指し、健康と救急救命を中心とした医学に関する基礎的な知識を有し、その知識を背景として人命を守り、社会に貢献できる者（知識・技能）

②　救急救命士として必要とされる総合的な観察力、知識にもとづいた判断力、およびコミュニケーション能力を有し、それをもとにチームワークとリーダーシップのある行動ができる者（観察力・判断力・コミュニケーションスキル・行動力）

③　救急救命士として求められる科学的根拠にもとづいた論理的な思考力を有する者（科学的思考力）

2　カリキュラム・ポリシー(ディプロマ・ポリシーに整合し、それを保証するカリキュラムの体系性を記したもの)

健康医療科学部

健康医療科学部は２学科（言語聴覚学専攻、視覚科学専攻、理学療法学専攻および臨床検査学専攻を含む医療貢献学科、スポーツ・健康科学専攻および救急救命学専攻を含むスポーツ・健康医科学科）で構成され、カリキュラムは、「高齢者や障がいのある人をはじめ、すべての人の生活の質を向上することに貢献し得る人材、さらに良い人間関係を築くための対人技術および他者への理解と尊重を有する人材」を育成するために不可欠な基礎的知識とスキルを身につける目的で設定された「学部共通基礎科目」と、それぞれの学科・専攻のディプロマ・ポリシーにもとづいて編成された学科・専攻ごとの「学科共通基礎科目」、および専門的な科目によって構成する。

医療貢献学科

言語聴覚学専攻

本専攻では「３つの人材養成像」を実現するために、以下の方針でカリキュラムを編成する。「言語聴覚士の国家資格を目指し、障がい児・者支援のための専門家として必要な知識と技能を有する者（知識・技能）」となるために、言語聴覚学に関する知識と技能を学ぶための科目を１年次から４年次にかけて段階的に必修科目で配置する。１年次では、学部共通基礎科目と学科共通基礎科目において主に基礎医学、臨床医学、心理学、言語学に関する科目を配置し、言語聴覚学に関連する基礎内容について学ぶ。２年次には、言語聴覚に関する高度な内容を修得するため、コミュニケーション障害に関する専門中心科目を多く配置すると同時に、見学実習により言語聴覚士の役割と業務への理解を深める。さらに３年次には検査・評価・リハビリテーション手技の演習や実習前演習を実施する。これら学内で学んだ知識・技能をもとに、学外での評価・総合実習を行うことで、言語聴覚士に求められる知識と技能の水準を理解し、実践能力の獲得を目指す。４年次では学内外で学んだことについての理解をさらに深めるための演習科目を配置し、言語聴覚士に必要な知識と技能の総仕上げを行う。

「職能の範囲にとどまらず、豊かなコミュニケーション能力を有し、必要に応じて問題点を発見し、新しい検査・評価・訓練・指導・支援の技法の開発および評価を行い得る知識と技能を有する者（意欲・判断力・開発力・コミュニケーションスキル）」となるためには、実験や統計、心理に関する知識と幅広い対象者と接する機会が必要不可欠である。そのため、１年次から測定方法やデータ解析に関する科目、人を理解するための科目を必修とする。並行して高齢者施設・保育施設における体験実習をとおして幅広い対象者とのコミュニケーションについて学修する。２年次に配置されたコミュニケーション障害に関する科目から障がいの多様性を理解するとともに、３年次では、人を対象にした測定を行う演習科目を配置し、言語聴覚に関する高度な心理測定法やアセスメント法についてデータ収集の方法と分析の実際について理解を深める。

「科学的な根拠にもとづいて実証的に分析し、論理的に思考する能力を有する者（科学的思考力）」となるためには、実験・統計に関して修得した知識をもとにして、研究を実践するためのスキルを学ぶ必要があり、そのための演習科目を段階的に必修で配置する。１年次では、研究プレゼンテーション、グループディスカッションによって基本的なスキルを身につける。３年次前期からの２年間は、研究ゼミに所属することを全員に求める。学生は、科学研究に必要な方法論について学び、関心のある言語聴覚学の諸問題について問いを自ら見つけ、実証することが求められる。その成果は４年次に提出する卒業論文としてまとめられ、これを修学の集大成とする。

視覚科学専攻

本専攻では「３つの人材養成像」を実現するために、以下の方針でカリキュラムを編成する。

「視能訓練士の国家資格を目指し、障がい児・者支援のための専門家として必要な知識と技能を有する者（知識・技能）」となるために、視覚科学に関する知識と技能を学ぶための科目を１年次から４年次にかけて段階的に必修科目で配置する。１年次では、学部共通基礎科目と学科共通基礎科目において主に基礎医学に関する科目を配置し、人体の生理・解剖など基本的な内容について学ぶ。２年次には、視覚に関する高度な内容を修得するため、専門中心科目において視能矯正と視覚心理に関する専門科目を配置する。３年次からは検査や訓練の実際について理解を深め

るための実習科目を配置する。学内で学んだ知識・技能をもとに、学外の臨床現場で実施する臨地実習を行うことで、高度な実践能力の獲得を目指す。４年次では学内外で学んだことについての理解をさらに深めるための演習科目を配置し、視覚科学の知識と技能の総仕上げを行う。

「職能の範囲にとどまらず、必要に応じて問題点を発見し、新しい検査・評価・訓練・指導・支援の技法の開発および評価を行い得る知識と技能を有する者（意欲・判断力・開発力）」となるためには、実験や統計に関する知識が必要不可欠である。そのため、１年次から測定方法やデータ解析に関する科目を必修とする。これらの科目で学んだ知識をもとに、２年次では人を対象にした測定を行う演習科目を配置し、データ収集の方法と分析の実際について理解を深める。さらに視覚に関する高度な実験的方法について学ぶための演習科目を３年次に配置し、自由な履修を求める。

「科学的な根拠にもとづいて実証的に分析し、論理的に思考する能力を有する者（科学的思考力）」となるためには、実験・統計に関して修得した知識をもとにして、研究を実践するためのスキルを学ぶ必要があり、そのための演習科目を段階的に必修で配置する。１年次では、実験レポートや研究プレゼンテーション、グループディスカッションによって基本的なスキルを、２年次で科学研究に必要な方法論について学ぶ。３年次から２年間は、研究ゼミに所属することを全員に求める。学生は、関心のある視覚科学の諸問題について問いを自ら見つけ、実証することが求められる。その成果は４年次に提出する卒業論文としてまとめられ、これを修学の集大成とする。

理学療法学専攻

本専攻では「３つの人材養成像」を実現するために、以下の方針でカリキュラムを編成する。

「理学療法士の国家資格取得を目指し、障がい児・者支援のための専門家として必要な知識と技能を有する者（知識・技能）」となるために、理学療法学に関する知識と技能を学ぶための科目を１年次から４年次にかけて段階的に必修科目で配置する。１年次には、「学部共通基礎科目」と「学科共通基礎科目」の中で主に基礎医学、臨床医学に関する科目を配置し、人体に関連する基礎内容について学ぶ。２年次には、全世代に対応できる理学療法士を育成するために、理学療法に関する専門的な科目を配置する。さらに、本専攻が目指す養成人材の特性を明確化するために、小児理学療法に関する専門科目を多く配置する。３年次には２年次に学習した内容の理解を深めるために実習科目を配置し、高度な実践能力の獲得を目指す。４年次では学外臨床実習を行うことで、学内外で学んだことについての理解をさらに深め、理学療法学の知識と技能の総仕上げを行う。

「理学療法士として、多職種の視点も加味して問題点を発見し理学療法を行い得る知識と技能を有すると同時に、新しい検査や練習・支援技法の開発に意欲を有する者（意欲・判断力・開発力）」となるために、専門科目として検査・測定、訓練、指導に関する科目を配置し、対象者と接する機会を設定する。１年次から測定方法やデータ解析を学ぶと同時に、人を理解するための科目を必修とする。これらの知識をもとに、２年次では小児、高齢者理学療法に関する知識を習得し幅広い対象者の検査・測定、訓練・指導技法について学修する。３年次では、実習科目を配置し、理学療法の実践的な検査・評価、訓練・指導技法の実際について理解を深め、実践力を高める。４年次には臨床実習を配置し、理学療法に求められる知識と技能の水準を理解することに加え、多職種連携の実際について学び理学療法士の役割を統合的に理解する。

「科学的な根拠にもとづいて実証的に分析し、論理的に思考する能力を有する者（科学的思考力）」となるために、専門科目として実験・統計に関する科目、研究手法に関する科目に加え、演習科目を段階的に配置する。１年次は、レポートやプレゼンテーション、グループディスカッションによって科学的な根拠を探索するための手法や議論に必要な情報を共有する技術を身につける。２年次には科学研究を遂行するための研究倫理と方法論について学び、課題解決に必要な論理的思考力を養成する。３年次および４年次は、各研究室に所属し、個々の目的意識に基づいて理論、研究、実践の各側面から議論を深め統合する力を身に着ける。学生は、理学療法学に関する諸問題を広い視点で調査し、設定した課題を論理的思考過程を経て実証（検証）する。その成果は４年次に発表し、審査教員の批評を踏まえて提出する卒業論文としてまとめ、これを修学の集大成とする。

臨床検査学専攻

本専攻では「３つの人材養成像」を実現するために、以下の方針でカリキュラムを編成する。

「臨床検査技師の国家資格取得を目指し、高い倫理観を持った臨床検査の専門家として必要な知識と技能を有する者（知識・技能・臨床力）」となるために、臨床検査学に関する知識と技能を学ぶための科目を１年次から４年次にかけて段階的に必修科目で配置する。１年次には、「学部共通基礎科目」と「学科共通基礎科目」の中で主に臨床検査学の基礎科目を配置し、人体に関連する基礎内容について学ぶ。２年次には、全世代に対応できる臨床検査技師を育成するために、臨床検査に関する専門的な科目を配置する。３年次には２年次に学習した内容の理解を深めるために実習科目を配置し、学外臨床実習を行うことで、高度な実践能力の獲得を目指す。４年次では学内外で学んだことについての理解をさらに深め、臨床力を高めるために臨床検査学の知識と技能の総仕上げを行う。

「チーム医療実践のための基本的能力を有し、職能の範囲にとどまらず、問題点を発見し解決するための知識と技能を有する者（意欲・判断力・コミュニケーションスキル）」となるためには、臨床検査学のみならず医学・医療全般に関する知識、そして人間や社会に対する理解に基づいたコミュニケーションスキルが必要不可欠である。そのため、１年次から基礎医学や統計学に関する科目、人や社会を理解するための科目を必修とする。これらの科目で学んだ知識をもとに、２年次では臨床検査学に関する科目に加えて、本学独自の先制医療検査学や地域医療検査学によって幅広い医療職と協働する検査・測定・支援の技法について学修する。３年次では、実習科目および学外臨床実習を配置し、臨床検査の実践的な技法について理解を深める。

「臨床検査に関する問題を自ら発見し、問題解決に向け科学的な根拠にもとづいて論理的に思考し実証的に分析する能力を有し、科学技術の進歩を踏まえた新たな検査の開発および評価を行い得る知識と技能を有する者（科学的思考力・開発力）」となるためには、情報を理解・分析する能力や実験・統計に関して修得した知識をもとにして、研究を実践するためのスキルを学ぶ必要があり、そのための演習科目を段階的に必修で配置する。１年次では、レポートやプレゼンテーション、グループディスカッションによって科学研究に必要な基本的なスキルを身につける。２年次で科学研究に必要な基礎的な方法論について学ぶ。３年次からの２年間は、研究ゼミに所属することを全員に求める。学生は、科学研究に必要な方法論について学び、関心のある臨床検査学の諸問題について問いを自ら見つけ、実証することが求められる。その成果は４年次に提出する卒業論文としてまとめられ、これを修学の集大成とする。

スポーツ・健康医科学科

スポーツ・健康科学専攻

本専攻では「３つの人材養成像」を実現するために、以下の方針でカリキュラムを編成する。

「スポーツ・運動科学および健康科学に関する幅広い知識を有し、その知識を背景に、生涯にわたる健康の維持・増進に携わる専門家として認められる者（知識・技能）」になるために、学科共通基礎科目に３つの科目群「基礎科目」「応用科目」「研究科目」を構成し、これらの科目を１年次から４年次にかけて段階的に配置する。「基礎科目」は、基礎的な分野に属する科目群であり、１・２年次を中心に配置する。「基礎科目」はスポーツ科学、体育学、医学、メンタルヘルス、栄養学の各分野の基礎科目であり、これらの分野の必修科目を履修することによって、学校教育および健康教育・ヘルスプロモーションに関する入門的な内容を幅広く修めることができる。「応用科目」は入門的な内容を修めた学生を対象としたより専門性の高い内容を学修する科目群であり、２・３年次を中心に配置する。「応用科目」では、身体のメカニズムと健康のあり方、スポーツ・運動の知識とその技術や指導法を、またメンタルヘルスや栄養学を学ぶことによって、多角的に健康を維持・増進する方法を理解することを目標としている。さらに、「研究科目」である健康科学研究Ⅰ～Ⅳにおいてスポーツ・運動科学および健康科学の知識と技能の総仕上げを行う。

「修得した知識をもとに生涯健康に関する諸問題に対し、自ら考え、解決策を見出し、それをもとに行動できる者（意欲・判断力・創造力・行動力）」になるためには、研究法や統計学に関する知識が必要不可欠である。そのため、２年次からは調査法や各分野における演習科目を配置し、各分野における測定の方法やデータの分析に関する理解を深める。さらに、３年次には研究手法や実践的な統計法を学ぶ科目を必修科目として配置し、研究を実践するための能力を高めている。

「スポーツ、運動および健康に関する問題に対し、科学的な根拠にもとづいて実証的に分析し、論理的に思考する

能力を有する者（科学的思考力）」になるためには、健康科学に関する知識をもとにした研究を実践する能力が必要である。そのための演習科目を段階的に配置し、１年次はレポートやプレゼンテーション、グループディスカッションの基本的なスキルを学び、２年次では研究の方法論を学ぶ。３年次から２年間、学生は研究ゼミに所属し、関心のあるスポーツ・運動科学および健康科学の諸問題について問いを自ら見つけ、仮説を生成し、実証することが求められる。その成果は４年次に提出する卒業論文としてまとめられ、本専攻での学修を結実させていくとともに、卒業後の進路を見据えた専門知識・技能の定着を図る。

救急救命学専攻

本専攻では「３つの人材養成像」を実現するために、以下の方針でカリキュラムを編成する。

「救急救命士の国家資格を目指し、健康と救急救命を中心とした医学に関する基礎的な知識を有し、その知識を背景として人命を守り、社会に貢献できる者（知識・技能）」を育成するために、健康科学および救急救命学に関する知識と技能を学ぶ科目を１年次から４年次にかけて段階的に必修科目として配置する。１年次では主に基礎医学に関する科目を配置し、人体の解剖・生理など基本的な内容を学ぶ。２年次には救急救命に関する高度な知識を修得するために内科・外科学に関する専門科目を配置する。３年次にはより専門性の高い知識と技能を修得するために消防署や病院での臨地実習を配置し、救急車同乗実習・病院実習において組織的な活動と高度な実践力の獲得を目指す。４年次には学内外で学んだことについての理解をさらに深めるための演習科目および実習科目を配置し、救急救命および救急現場において必要となる知識、技能の総仕上げを行う。

「救急救命士として必要とされる総合的な観察力、知識にもとづいた判断力、およびコミュニケーション能力を有し、それをもとにチームワークとリーダーシップのある行動ができる者（観察力・判断力・コミュニケーションスキル・行動力）」になるために、救急救命士として必要な実践力を修得するための学内実習を各学年に配置する。１年次、２年次は救急現場での基礎的な技術や特定行為（医師の具体的指示を得て行う救急救命処置）の理論と手技を修得する。３年次、４年次には個人のスキルを活かすとともに、チームで協働する実践力を体系的に修得する。

「救急救命士として求められる科学的根拠にもとづいた論理的な思考力を有する者（科学的思考力）」となるためには、救急救命に関する知識をもとにした研究を実践する能力が必要である。そのための演習科目を段階的に配置し、１年次はレポートやプレゼンテーション、グループディスカッションの基本的なスキルを学び、２年次では研究に必要な方法論を学ぶ。３年次から２年間、研究ゼミに所属し、関心のある救急救命の問題を自ら発見し、問題解決に向け、科学的根拠にもとづいて実証的に分析し、論理的に思考する能力を身につける。その成果は４年次に提出する卒業論文としてまとめられ、本専攻での学修を結実させていくとともに、卒業後の進路を見据えた専門知識・技能の定着を図る。

3 アドミッション・ポリシー

健康医療科学部

本学部は、言語聴覚学・言語聴覚障害学、視覚科学・視能学、理学療法学・リハビリテーション療法学、臨床検査学・臨床病態学、救急医療・救急救命学の専門家としての医療人の養成、心身の健康に関する広範な知識をもった教員を含めた生涯健康社会のリーダーの育成、医療や健康科学の現場で活躍する人材の養成を目指している。

上記の目標を達成するために、入学者には次の４点を期待する。

① 医療を含め、健康維持や健康回復に関する高い関心を有し、将来、こうした分野の専門家として社会貢献する強い意思を有していること。

② 病気や障がいのある人、高齢者などに対して、「違いを共に生きる」の理念に基づき、尊敬と人権尊重の精神を有し、日常的な生活においても、こうした精神を実践できるような人間性を有していること。

③ 新しい知識や技能の習得に積極的で勉強熱心であり、科学的思考力、論理的思考力、実践的行動力を習得しているか、それらを新たに習得することに積極的であること。

④ 人間関係において、適切な自尊感情を有するとともに、他者を尊重し、良好な関係を築くことのできるコミュニケーション能力を習得していること。あるいは、それらを新たに向上させることに積極的であること。

医療貢献学科　言語聴覚学専攻

① 学生に期待すること

言語聴覚士の国家資格をめざす強い意思を持ち、専門領域を学ぶ意欲と情熱を持つことを期待する。

② 学生募集に際して重視すること

自己表現力、読解力、作文能力、論理的思考力を身に付けていることと、豊かなコミュニケーション能力を身に付けていることが重要と考える。

③ 入学前学習として推奨すること

以下のことを通して言語聴覚士の職務内容などについて情報を得、自らの関心について自覚することが望まれる。

・オープンキャンパス参加、言語聴覚士の職場見学、ボランティア活動

・書籍やマスメディアを用いた言語聴覚学に関する情報収集

医療貢献学科　視覚科学専攻

① 学生に期待すること

視覚の研究を通して科学的思考と問題解決の方法論を習得するとともに、医療にふれる中で健康への安心と人への温かくかつ真面目な姿勢を養い、社会の現場において自己実現をするとともに信頼される人材となることを期待する。

② 学生募集に際して重視すること

本専攻では医療職である視能訓練士の資格取得も目的の一つである。医療職に求められる健康科学への関心と、コミュニケーション能力を重視する。

③ 入学前学習として推奨すること

日本語能力を含む基礎学力の充実と、広い分野の読書を推奨する。また、ボランティア活動の経験も推奨する。

医療貢献学科　理学療法学専攻

① 学生に期待すること

理学療法士の国家資格取得に向けて、専門領域の知識・技能を学ぶ意欲を持ち、医療や福祉に関する幅広い知見と高い倫理観を有する人材となることを期待する。

② 学生募集に際して重視すること

医療職に求められる高い倫理観と健康科学への関心と、読解力、作文能力、論理的思考力、コミュニケーション能力を重視する。

③ 入学前学習として推奨すること

日本語能力を含む基礎学力の充実と、種々のメディアを活用したグローバルな情報収集能力とボランティア活動を通じた行動力の養成を推奨する。

医療貢献学科　臨床検査学専攻

① 学生に期待すること

臨床検査技師の国家資格取得に向けて、専門領域の知識・技能を学ぶ意欲を持ち、保健・医療・福祉に関する幅広い知見をもとに他者と協働し、医療や医学研究・教育を通して社会へ貢献する人材となろうとする意欲を持つことを期待する。

② 学生募集に際して重視すること

保健・医療・福祉を中心とした人間や社会への関心と、読解力、作文能力、論理的思考力、コミュニケーション能力、積極性、自主性を重視する。

③ 入学前学習として推奨すること

日本語能力を含む基礎学力の充実と、広い分野の読書やボランティア活動などを通して人間や社会に対する理解を深める活動を推奨する。

スポーツ・健康医科学科　スポーツ・健康科学専攻

① 学生に期待すること

本専攻は、体と心の健康に関する広範な知識を持った生涯健康社会のリーダーの育成を目指している。健康や運動に関する知識だけでなく、社会の動きにも興味を持ち積極的に学ぶ姿勢を持つことを期待する。

② 学生募集に際して重視すること

心身の健康に関して学ぶ姿勢、社会情勢についての広い関心を持っていること、さらに、自らの健康だけではなく社会に資するために、他者への配慮を心がけることや円滑なコミュニケーションをはかることも重要だと考える。

③ 入学前学習として推奨すること

教科書的な知識だけでなく、書籍やマスメディアからも広く健康・スポーツ・社会に関して学んでおくことが望まれる。

スポーツ・健康医科学科　救急救命学専攻

① 学生に期待すること

本専攻は、救急救命の専門知識および実践力を身につけ、医療と地域社会の課題解決に貢献できる質の高い救急救命士を育成することを目指している。救急医療に関する知識だけでなく、国内外の社会情勢等にも積極的に興味を持ち、見聞を広め学ぶ姿勢を持つことを期待する。

② 学生募集に際して重視すること

生命を守り、社会に貢献したいという強い信念を持っていること。さらに、救急救命士の資格を取得し、消防、自衛隊、海上保安庁、警察等の地方・国家公務員、医療機関等で活躍したいという強い意欲があることも重要であると考える。

③ 入学前学習として推奨すること

救急救命士として求められる知識や技術を身につけるために、基礎的な学力を有するための事前学習が望まれる。また、メディアや書籍を通して社会や健康に関して広く学んでおくことが推奨される。

4 卒業に必要な単位（卒業要件単位数）

本学の健康医療科学部を卒業するためには、4年以上在学（休学期間は含まない）し、医療貢献学科・言語聴覚学専攻は140単位以上、視覚科学専攻は140単位以上、理学療法学専攻は143単位以上、臨床検査学専攻は131単位以上、スポーツ・健康医科学科・スポーツ・健康科学専攻は125単位以上、スポーツ・健康医科学科・救急救命学専攻は129単位以上修得しなければならない。その内訳は次の表のとおりである。

言語聴覚学専攻

■2025年度入学者

授業科目の種類			卒業要件単位 医療貢献学科 言語聴覚学専攻
専門教育科目（注１）		学部共通基礎科目	5単位以上（必修5単位を含む）
		学科共通基礎科目	22単位以上（必修22単位を含む）
		専門基礎科目	18単位（必修）
		専門中心科目	69単位以上（必修69単位を含む）
		発展科目	12単位（必修）
全学共通履修科目	基幹科目	違いを共に生きる科目（注２）	6単位以上 （「違いを共に生きる・ライフデザイン」 「AI・データサイエンス入門[M]」 「コンピュータリテラシーⅠ」の 合計必修6単位を含む）
		AI・データサイエンス科目	
	アクティブラーニング科目	国際交流センター開設科目（注３）	4単位以上
		CCC開設科目	
		キャリアセンター開設科目	
		ダイバーシティ共生センター開設科目	
		学修・教育支援センター開設科目	
	スキル科目	言語活用科目（英語）	4単位以上
		言語活用科目（初めての外国語）（注４）	
学部認定科目	他学部・他学科開放科目		0単位以上
	愛知学長懇話会単位互換科目（上限10単位）		
	放送大学単位互換科目（上限10単位）		
合　　計			140単位以上

（注１）専門教育科目の卒業要件単位の詳細はカリキュラム表を参照する。
（注２）基幹科目の「探究・違いを共に生きるⅠ」、「探究・違いを共に生きるⅡ」は、卒業に必要な単位数に算入しない。
（注３）アクティブラーニング科目の「入門日本語A」、「入門日本語B」、「日本語非母語話者のためのアカデミック・ライティングⅠ」、「日本語非母語話者のためのアカデミック・ライティングⅡ」、「N1対策講座Ⅰ」、「N1対策講座Ⅱ」は、卒業に必要な単位数に算入しない。
（注４）スキル科目の「日本語Ⅰ」、「日本語Ⅱ」は、卒業に必要な単位数に算入しない。

なお、以下の表にある科目は、**卒業に必要な単位に算入されない**ため、注意する。

①言語活用科目（英語） 「Introduction to English」	②教職課程科目	③学芸員課程科目
④司書課程科目	⑤コンピュータ資格科目	⑥会計教育科目
⑦研究科開放科目	⑧文学部国文学科専門教育科目 「学びなおし古文」「学びなおし漢文」	⑨建築学部建築学科専門教育科目 「基礎数学」
⑩食健康科学部専門教育科目 「基礎化学」「基礎生物学」		

視覚科学専攻

■2025年度入学者

授業科目の種類			卒業要件単位 医療貢献学科 視覚科学専攻
専門教育科目（注１）		学部共通基礎科目	5 単位以上（必修 5 単位を含む）
		学科共通基礎科目	13単位以上（必修13単位を含む）
		専門基礎科目	6 単位以上（必修 6 単位を含む）
		専門中心科目	69単位以上 （必修65単位、選択必修 4 単位を含む）
		発展科目	12単位（必修）
全学共通履修科目	基幹科目	違いを共に生きる科目（注２）	6 単位以上 （「違いを共に生きる・ライフデザイン」 「AI・データサイエンス入門［M］」 「コンピュータリテラシーⅠ」の 合計必修 6 単位を含む）
		AI・データサイエンス科目	
	アクティブ ラーニング科目	国際交流センター開設科目（注３）	4 単位以上 （「日本語表現１」必修 2 単位を含む）
		CCC開設科目	
		キャリアセンター開設科目	
		ダイバーシティ共生センター開設科目	
		学修・教育支援センター開設科目	
	スキル科目	言語活用科目（英語）	4 単位以上 （必ず言語活用科目（英語）4 単位を含む）
		言語活用科目（初めての外国語）（注４）	
学部認定科目	他学部･他学科開放科目		0 単位以上
	愛知学長懇話会単位互換科目（上限10単位）		
	放送大学単位互換科目（上限10単位）		
合　　計			140単位以上

（注１）専門教育科目の卒業要件単位の詳細はカリキュラム表を参照する。
（注２）基幹科目の「探究・違いを共に生きるⅠ」、「探究・違いを共に生きるⅡ」は、卒業に必要な単位数に算入しない。
（注３）アクティブラーニング科目の「入門日本語A」、「入門日本語B」、「日本語非母語話者のためのアカデミック・ライティングⅠ」、「日本語非母語話者のためのアカデミック・ライティングⅡ」、「N1対策講座Ⅰ」、「N1対策講座Ⅱ」は、卒業に必要な単位数に算入しない。
（注４）スキル科目の「日本語Ⅰ」、「日本語Ⅱ」は、卒業に必要な単位数に算入しない。

なお、以下の表にある科目は、**卒業に必要な単位に算入されない**ため、注意する。

①言語活用科目（英語） 「Introduction to English」	②教職課程科目	③学芸員課程科目
④司書課程科目	⑤コンピュータ資格科目	⑥会計教育科目
⑦研究科開放科目	⑧文学部国文学科専門教育科目 「学びなおし古文」「学びなおし漢文」	⑨建築学部建築学科専門教育科目 「基礎数学」
⑩食健康科学部専門教育科目 「基礎化学」「基礎生物学」		

理学療法学専攻

■2025年度入学者

授業科目の種類			卒業要件単位 医療貢献学科 理学療法学専攻
専門教育科目（注１）		学部共通基礎科目	5 単位以上（必修 5 単位を含む）
		学科共通基礎科目	14単位以上（必修14単位を含む）
		専門基礎科目	25単位（必修）
		専門中心科目	75単位（必修）
		発展科目	12単位（必修）
全学共通履修科目	基幹科目	違いを共に生きる科目（注２）	4 単位以上 （「違いを共に生きる・ライフデザイン」 「AI・データサイエンス入門［M］」の 合計必修 4 単位を含む）
		AI・データサイエンス科目	
	アクティブ ラーニング科目	国際交流センター開設科目（注３）	4 単位以上
		CCC開設科目	
		キャリアセンター開設科目	
		ダイバーシティ共生センター開設科目	
		学修・教育支援センター開設科目	
	スキル科目	言語活用科目（英語）	4 単位以上 （必ず言語活用科目（英語）4 単位を含む）
		言語活用科目（初めての外国語）（注４）	
学部認定科目	他学部･他学科開放科目		0 単位以上
	愛知学長懇話会単位互換科目（上限10単位）		
	放送大学単位互換科目（上限10単位）		
合　　計			143単位以上

（注１）専門教育科目の卒業要件単位の詳細はカリキュラム表を参照する。
（注２）基幹科目の「探究・違いを共に生きるⅠ」、「探究・違いを共に生きるⅡ」は、卒業に必要な単位数に算入しない。
（注３）アクティブラーニング科目の「入門日本語A」、「入門日本語B」、「日本語非母語話者のためのアカデミック・ライティングⅠ」、「日本語非母語話者のためのアカデミック・ライティングⅡ」、「N1対策講座Ⅰ」、「N1対策講座Ⅱ」は、卒業に必要な単位数に算入しない。
（注４）スキル科目の「日本語Ⅰ」、「日本語Ⅱ」は、卒業に必要な単位数に算入しない。

なお、以下の表にある科目は、**卒業に必要な単位に算入されない**ため、注意する。

①言語活用科目（英語） 「Introduction to English」	②教職課程科目	③学芸員課程科目
④司書課程科目	⑤コンピュータ資格科目	⑥会計教育科目
⑦研究科開放科目	⑧文学部国文学科専門教育科目 「学びなおし古文」「学びなおし漢文」	⑨建築学部建築学科専門教育科目 「基礎数学」
⑩食健康科学部専門教育科目 「基礎化学」「基礎生物学」		

臨床検査学専攻

■2025年度入学者

授業科目の種類			卒業要件単位 医療貢献学科 臨床検査学専攻
専門教育科目（注１）		学部共通基礎科目	5 単位以上（必修 5 単位を含む）
		学科共通基礎科目	12単位以上 （必修10単位、選択必修 2 単位を含む）
		専門基礎科目	16単位以上 （必修14単位、選択必修 2 単位を含む）
		専門中心科目	74単位（必修）
		発展科目	12単位（必修）
全学共通履修科目	基幹科目	違いを共に生きる科目（注２）	4 単位以上 （「違いを共に生きる・ライフデザイン」 「AI・データサイエンス入門［M］」 の合計必修 4 単位を含む）
		AI・データサイエンス科目	
	アクティブ ラーニング科目	国際交流センター開設科目（注３）	4 単位以上 （「日本語表現１」必修 2 単位を含む）
		CCC開設科目	
		キャリアセンター開設科目	
		ダイバーシティ共生センター開設科目	
		学修・教育支援センター開設科目	
	スキル科目	言語活用科目（英語）	4 単位以上 （必ず言語活用科目（英語）4 単位を含む）
		言語活用科目（初めての外国語）（注４）	
学部認定科目	他学部･他学科開放科目		0 単位以上
	愛知学長懇話会単位互換科目（上限10単位）		
	放送大学単位互換科目（上限10単位）		
合　　計			131単位以上

（注１）専門教育科目の卒業要件単位の詳細はカリキュラム表を参照する。
（注２）基幹科目の「探究・違いを共に生きるⅠ」、「探究・違いを共に生きるⅡ」は、卒業に必要な単位数に算入しない。
（注３）アクティブラーニング科目の「入門日本語A」、「入門日本語B」、「日本語非母語話者のためのアカデミック・ライティングⅠ」、「日本語非母語話者のためのアカデミック・ライティングⅡ」、「N1対策講座Ⅰ」、「N1対策講座Ⅱ」は、卒業に必要な単位数に算入しない。
（注４）スキル科目の「日本語Ⅰ」、「日本語Ⅱ」は、卒業に必要な単位数に算入しない。

なお、以下の表にある科目は、**卒業に必要な単位に算入されない**ため、注意する。

①言語活用科目（英語） 「Introduction to English」	②教職課程科目	③学芸員課程科目
④司書課程科目	⑤コンピュータ資格科目	⑥会計教育科目
⑦研究科開放科目	⑧文学部国文学科専門教育科目 「学びなおし古文」「学びなおし漢文」	⑨建築学部建築学科専門教育科目 「基礎数学」
⑩食健康科学部専門教育科目 「基礎化学」「基礎生物学」		

スポーツ・健康科学専攻

■2025年度入学者

<table>
<tr><td colspan="3" rowspan="3">授業科目の種類</td><td colspan="3">卒業要件単位</td></tr>
<tr><td colspan="3">スポーツ・健康医科学科</td></tr>
<tr><td colspan="3">スポーツ・健康科学専攻</td></tr>
<tr><td rowspan="6">専門教育科目
（注１）</td><td colspan="2">学部共通基礎科目</td><td colspan="2">必修７単位</td><td rowspan="6">88単位以上
（学部共通基礎科目、
学科共通基礎科目、
専門中心科目を含む）</td></tr>
<tr><td rowspan="3">学科共通基礎科目</td><td>基礎</td><td>18単位以上（必修16単位を含む）</td></tr>
<tr><td>応用</td><td>０単位以上</td></tr>
<tr><td>研究</td><td>３単位以上（必修３単位を含む）</td></tr>
<tr><td rowspan="3">専門中心科目</td><td>基礎</td><td>12単位以上（必修２単位を含む）</td></tr>
<tr><td>応用</td><td>24単位以上</td></tr>
<tr><td>研究</td><td>必修12単位</td></tr>
<tr><td rowspan="10">全学共通履修科目</td><td rowspan="2">基幹科目</td><td>違いを共に生きる科目</td><td colspan="3" rowspan="2">６単位以上
（「違いを共に生きる・ライフデザイン」
「AI・データサイエンス入門［M］」
「コンピュータリテラシーⅠ」必修６単位を含む。）</td></tr>
<tr><td>AI・データサイエンス科目</td></tr>
<tr><td rowspan="5">アクティブラーニング科目</td><td>国際交流センター開設科目</td><td colspan="3" rowspan="5">４単位以上
（「日本語表現１」必修２単位を含む。）</td></tr>
<tr><td>CCC開設科目</td></tr>
<tr><td>キャリアセンター開設科目</td></tr>
<tr><td>ダイバーシティ共生センター開設科目</td></tr>
<tr><td>学修・教育支援センター開設科目</td></tr>
<tr><td rowspan="2">スキル科目</td><td>言語活用科目（英語）</td><td colspan="3" rowspan="2">４単位以上</td></tr>
<tr><td>言語活用科目（初めての外国語）</td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="3">学部認定科目</td><td>他学部・他学科開放科目</td><td colspan="3" rowspan="3">０単位以上</td></tr>
<tr><td>愛知学長懇話会単位互換科目（上限10単位）</td></tr>
<tr><td>放送大学単位互換科目（上限10単位）</td></tr>
<tr><td colspan="3">合　　計</td><td colspan="3">125単位以上</td></tr>
</table>

（注１）専門教育科目の卒業要件単位の詳細はカリキュラム表を参照する。

なお、以下の表にある科目は、**卒業に必要な単位に算入されない**ため、注意する。

①言語活用科目（英語） 「Introduction to English」	②教職課程科目	③学芸員課程科目
④司書課程科目	⑤コンピュータ資格科目	⑥会計教育科目
⑦研究科開放科目	⑧文学部国文学科専門教育科目 「学びなおし古文」「学びなおし漢文」	⑨建築学部建築学科専門教育科目 「基礎数学」
⑩食健康科学部専門教育科目 「基礎化学」「基礎生物学」		

救急救命学専攻

■2025年度入学者

<table>
<tr><td colspan="3" rowspan="3">授業科目の種類</td><td colspan="3">卒業要件単位</td></tr>
<tr><td colspan="3">スポーツ・健康医科学科</td></tr>
<tr><td colspan="3">救急救命学専攻</td></tr>
<tr><td rowspan="10">専門教育科目
（注１）</td><td colspan="2">学部共通基礎科目</td><td colspan="2">必修７単位</td><td rowspan="10">111単位以上
（学部共通基礎科目、
学科共通基礎科目、
専門中心科目を含む）</td></tr>
<tr><td rowspan="3">学科共通基礎科目</td><td>基礎</td><td>14単位以上（必修14単位を含む）</td></tr>
<tr><td>応用</td><td>０単位以上</td></tr>
<tr><td>研究</td><td>３単位以上（必修３単位を含む）</td></tr>
<tr><td rowspan="5">専門中心科目</td><td>基礎医学領域</td><td>必修９単位</td></tr>
<tr><td>救急医学領域</td><td>必修60単位</td></tr>
<tr><td>救急関連科目</td><td>１単位以上（必修１単位を含む）</td></tr>
<tr><td>救急演習科目</td><td>必修５単位</td></tr>
<tr><td>研究</td><td>必修12単位</td></tr>
<tr><td rowspan="8">全学共通履修科目</td><td rowspan="2">基幹科目</td><td>違いを共に生きる科目</td><td colspan="3" rowspan="2">４単位以上
（「違いを共に生きる・ライフデザイン」
「AI・データサイエンス入門［M］」の
合計必修４単位を含む）</td></tr>
<tr><td>AI・データサイエンス科目</td></tr>
<tr><td rowspan="5">アクティブ
ラーニング科目</td><td>国際交流センター開設科目</td><td colspan="3" rowspan="5">４単位以上
（「日本語表現１」必修２単位を含む）</td></tr>
<tr><td>CCC開設科目</td></tr>
<tr><td>キャリアセンター開設科目</td></tr>
<tr><td>ダイバーシティ共生センター開設科目</td></tr>
<tr><td>学修・教育支援センター開設科目</td></tr>
<tr><td rowspan="2">スキル科目</td><td>言語活用科目（英語）</td><td colspan="3" rowspan="2">４単位以上</td></tr>
<tr><td>言語活用科目（初めての外国語）</td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="3">学部認定科目</td><td>他学部・他学科開放科目</td><td colspan="3" rowspan="3">０単位以上</td></tr>
<tr><td>愛知学長懇話会単位互換科目（上限10単位）</td></tr>
<tr><td>放送大学単位互換科目（上限10単位）</td></tr>
<tr><td colspan="3">合　　計</td><td colspan="3">129単位以上</td></tr>
</table>

（注１）専門教育科目の卒業要件単位の詳細はカリキュラム表を参照する。

なお、以下の表にある科目は、**卒業に必要な単位に算入されない**ため、注意する。

①言語活用科目（英語） 「Introduction to English」	②教職課程科目	③学芸員課程科目
④司書課程科目	⑤コンピュータ資格科目	⑥会計教育科目
⑦研究科開放科目	⑧文学部国文学科専門教育科目 「学びなおし古文」「学びなおし漢文」	⑨建築学部建築学科専門教育科目 「基礎数学」
⑩食健康科学部専門教育科目 「基礎化学」「基礎生物学」		

5 履修上の注意（医療貢献学科 言語聴覚学専攻）

【全体的な注意】

① 授業科目の履修については、「履修要覧」「シラバス」および「時間割表」を参照すること。
② 必修科目は指定された学年で必ず履修すること。
③ 時間割において、同一の時間帯に複数の科目が開講されていて、そこに必修科目が含まれている場合は、必修科目を最優先して履修すること。
④ 学部、学科、専攻の専門教育科目（学部共通基礎科目、学科共通基礎科目、専門基礎科目、専門中心科目、発展科目）は、カリキュラム表に従って履修すること。所属する学部、学科、専攻の専門教育科目と他学部、他学科、他専攻の開放科目の時間割が重複した場合は、所属する学部、学科、専攻の専門教育科目を優先して履修すること。
⑤ 全学共通履修科目は、できるだけ早い学年で履修し、卒業要件単位を確保するよう努めるのが望ましい。ただし、学年配当、履修クラスは指定に従うこと。

言語聴覚士国家試験受験資格に関わる指定となっているので、必ず定められた単位を満たすこと。言語活用科目は、「英語」を履修しておくことが望ましい。「コンピュータリテラシーⅡ」は卒業論文を作成する上での基礎的知識・技能に関わるので履修すること。

⑥ 本専攻では、国家試験受験資格取得のために履修計画が極めて厳しく設定されている。したがって、いずれの科目も再履修しなければならないような事態に陥ることのないよう、出席、課題提出、試験対策には万全を期し、単位修得に真剣に取り組むことを期待する。なお、本専攻においては、「神経系の構造・機能・病態」を除くすべての専門基礎科目、専門中心科目および発展科目において３回を超えて欠席のあった場合を「失格」とする。また、学外実習においては、一切の遅刻、欠席を認めない。

【学部共通基礎科目】

学科・専攻の枠を超えて、本学の基本理念を理解し、学際的分野である健康医療科学の基礎となる学部の共通科目である。

① 「統計の基礎」は卒業論文を作成するうえでの基礎的知識・技能に関わるので履修すること。

【学科共通基礎科目】

医療従事者にとって必要な基礎知識を習得するための科目群である。

学科共通基礎科目は以下の科目群によって構成されている。

①「基礎」：専門課程における学習に必要な基礎的知識・技能を学習する。
②「心理学」：医療従事者において必要な心理学の諸領域について学習する。
③「医科学」：臨床場面で必要となる一般医学の諸分野について学習する。
④「社会福祉」：医療従事者にとって必要な社会福祉の基礎知識について学習する。

言語聴覚士としての基本的知識･技能に関わるので、選択科目のうち「感染予防概論」は履修しておくことが望ましい。

【専門基礎科目】

言語聴覚学、言語聴覚障害学の専門職者として必要となる各分野の基礎的な知識・技能を習得するための科目群である。

専門基礎科目は以下の科目区分によって構成されている。

①「コミュニケーション」：人間のコミュニケーションにおける基礎的な知識を習得するための科目
②「医学」：コミュニケーション障害に関わる医学に関する専門科目
③「栄養」：リハビリテーションにおける栄養学に関して基礎的知識を習得するための科目

【専門中心科目】

言語聴覚学、言語聴覚障害学の専門職者として必要となる各分野の専門的な知識・技能を習得するための科目群である。

専門中心科目は以下の科目区分によって構成されている。

①「コミュニケーション障害」: コミュニケーション障害に関する専門科目

②「演習」: 言語聴覚士として必要な技能面・臨床面について演習的に学ぶ専門科目

③「実習」: 学外での臨床実習

言語聴覚士としての応用技能に関わるので、選択科目のうち「音声・音響情報分析学演習」「生体情報分析学演習」は履修しておくことが望ましい。

【発展科目】

独自のテーマに基づいて卒業論文を展開することで、科学的な根拠に基づいて実証的に分析する能力を習得することを目的とした科目である。ゼミナールおよび卒業論文がそれにあたる。

【言語聴覚士資格の取得】

医療貢献学科言語聴覚学専攻のカリキュラムでは、「言語聴覚士」の受験資格を取得するための科目が基本となっている。

（1）言語聴覚士国家試験受験資格を得るまでの大まかな流れは以下の通りである。

1 年 次

・実習報告会・症例報告会への参加（前期・後期）
・卒業論文発表会への参加（後期）

2 年 次

・学外実習Ⅰ（見学実習）実習前ガイダンスの実施（前期）
・実習報告会・症例報告会への参加（前期・後期）
・学外実習先決定のための面接指導（後期）
・卒業論文発表会への参加（後期）

3 年 次

・学外実習Ⅱ・Ⅲの実習先決定（前期）
・学外実習Ⅱ・Ⅲの実習前ガイダンスの実施（前期）
・学外実習指導者会議の実施、実習先のスーパーバイザーとの面談（前期）
・症例報告会への参加（前期）
・実習報告会での発表（後期）
・卒業論文発表会への参加（後期）
・実習前臨床技能試験の実施（後期）

4 年 次

・症例報告会での発表（前期）
・実習後臨床技能試験の実施（前期）
・国家試験の模擬試験の実施（前期・後期）
・卒業論文発表会での発表（後期）
・卒業論文の提出（後期）
・国家試験の受験（２月）

（2）「学外実習Ⅰ」について

本科目は、言語聴覚士国家試験の受験資格を得る上での必須科目である。3年後期からの学外実習ⅡおよびⅢに先立ち、学外実習施設において見学実習を行う。言語聴覚士の役割と業務について学ぶとともに、施設が地域において果たす役割や言語聴覚障害がある人の抱える問題とその背景について学ぶ。この科目を履修するにあたって要件となる科目はないが、学外施設で実習するうえでは基本的礼節を身につける等の社会人としての振る舞いや職業倫理の習得が求められる。

（3）「臨床実習前演習」「基礎的臨床技能演習」について

本科目は3年前期に履修する。複数の領域に渡って言語聴覚臨床の基礎を学ぶ。他のコミュニケーション障害に関する科目と同様に、「学外実習Ⅱ・Ⅲ」を登録するためには、本科目の単位を修得としている必要がある。本科目の履修条件や評価の詳細については、履修登録時に専攻ガイダンスや本科目の初回授業で説明するので、必ず出席すること。

（4）「学外実習Ⅱ・Ⅲ」について

本科目は、学外実習Ⅰと同様に言語聴覚士国家試験の受験資格を得る上での必須科目である。これらの実習へ参加するためには、言語聴覚臨床に関わる知識・技能を身につけておかなければならない。本科目を履修するためには、以下の「学外実習Ⅱ・Ⅲの履修に関する規定」に示したきまりがあるので、よく注意すること。

「学外実習Ⅱ・Ⅲの履修に関する規定」

① 通常は学外実習Ⅱを3年後期、学外実習Ⅲを4年前期に履修する。
② 履修の可否は学期開始時点の修得状況によって判断する。
③ 3年生前期開始時点において、2年後期までに開講されている表1のうち、未修得科目が2つ未満である場合、3年後期に学外実習Ⅱを履修することができる。
④ 上記③を満たさなかった場合、3年生後期開始時点において、3年前期までに開講されている表1のうち、未修得科目が2つ未満である場合、4年前期に学外実習Ⅱを履修することができる。
⑤ 4年生前期開始時点以降は、3年後期までに開講されている表1のうち、未修得科目が2つ未満である場合、学外実習Ⅱ、学外実習Ⅲを履修することができる。

表1に「学外実習Ⅱ・Ⅲ」の履修条件の対象となる必修科目について示した。

また本科目を修得するためには、実習の成績に加え、実習ガイダンス、実習報告会、症例報告会、実習指導者会議、実習先決定のための面接等、専攻で定められたすべての行事への参加が必要である。**特別の理由がなく、これらの行事に無断で欠席した場合は、「学外実習Ⅱ・Ⅲ」の修得ができなくなるので注意が必要である。欠席の事由として認められるものは、「追試験」（1）に準ずる。また、欠席事由を証明するための書類も必要である。**

表Ⅰ【学外実習Ⅱ・Ⅲの履修条件の対象となる必修科目】

●から2科目以上単位未修得の科目がある場合は、学外実習Ⅱ・Ⅲを履修することはできない。
3年次後期の学外実習Ⅱ履修の条件：3年次前期開始時点の修得状況で判定する。
4年次前期の学外実習Ⅲ履修の条件：4年次前期開始時点の修得状況で判定する。

科目番号	科目	学年	開講期		3年次前期開始時点	3年次後期開始時点	4年次前期開始時点
専門中心科目							
242370	言語聴覚障害学総論	1	前期		●	●	●
242319	失語症Ⅰ	2	前期		●	●	●
242322	高次脳機能障害Ⅰ	2	前期		●	●	●
242324	言語発達障害Ⅰ	2	前期		●	●	●
242328	音声障害	2	前期		●	●	●
242371	摂食嚥下障害Ⅰ	2	前期		●	●	●
242361	小児発声発語障害Ⅰ	2	前期		●	●	●
242363	成人発声発語障害Ⅰ	2	前期		●	●	●
242334	聴覚障害Ⅰ	2	前期		●	●	●
242320	失語症Ⅱ	2		後期	●	●	●
242323	高次脳機能障害Ⅱ	2		後期	●	●	●
242325	言語発達障害Ⅱ	2		後期	●	●	●
242327	吃音	2		後期	●	●	●
242372	摂食嚥下障害Ⅱ	2		後期	●	●	●
242362	小児発声発語障害Ⅱ	2		後期	●	●	●
242364	成人発声発語障害Ⅱ	2		後期	●	●	●
242335	聴覚障害Ⅱ	2		後期	●	●	●
242378	学外実習Ⅰ	2		後期	●	●	●
242321	失語症Ⅲ	3	前期		3年次前期開講	●	●
242326	言語発達障害Ⅲ	3	前期		3年次前期開講	●	●
242336	聴覚障害Ⅲ	3	前期		3年次前期開講	●	●
242375	臨床実習前演習	3	前期		3年次前期開講	●	●
242376	基礎的臨床技能演習	3	前期		3年次前期開講	●	●
242377	応用的臨床技能演習	3		後期	3年次後期開講	3年次後期開講	●

（5）「学外実習Ⅳ」について

本科目は他の学外実習と同様に、言語聴覚士国家試験の受験資格を得る上での必須科目である。学外実習Ⅲと同じ4年前期に履修する。本科目は、学内において学外実習の評価・振り返り等を行うものである。「学外実習Ⅲ」の前後に臨床技能試験を行い、習得状況を評価する。また、「学外実習Ⅰ」「学外実習Ⅱ」「学外実習Ⅲ」の振り返り、および総括を行う。

6 カリキュラム表（医療貢献学科 言語聴覚学専攻 専門教育科目）

科目群		ナンバリング	DP番号	科目番号	科　目	必修単位	選択単位	履修年次	開講学期	開講最少履修者数（目安）	卒業要件	備　考
学部共通基礎科目		1010	DP1, DP2, DP3	241101	健康医療科学基礎演習	2		1	前期	1	5単位以上（必修5単位を含む）	
		1010	DP3	241005	統計の基礎		2	2	前期	10		言語聴覚と視覚科学の合同開講
		2010	DP3	241006	健康科学統計演習	2		2	後期	1		
		2000	DP2	241102	キャリアデザイン	1		3	前期	1		1/4期科目 成績は「合」「否」により評価
学科共通基礎科目	基礎	2100	DP3	241516	公衆衛生学		2	2	後期	1	22単位以上（必修22単位を含む）	言語聴覚と視覚科学の合同開講
		1110	DP2	241517	チーム医療概論		1	2	後期	1		学科内（4専攻）合同開講 1/4期科目
		2140	DP1	241518	社会福祉・社会保障制度 （多職種連携・地域包括ケア等を含む）	2		1	前期	1		学科内（4専攻）合同開講
	心理学	1120	DP1	241503	認知・学習心理学	2		1	前期	1		学科内（4専攻）合同開講
		1120	DP1	241504	臨床心理学	2		1	後期	1		言語聴覚と視覚科学の合同開講
		1120	DP1	241505	生涯発達心理学	2		1	前期	1		言語聴覚と理学療法の合同開講
	医科学	1100	DP1	241519	医学総論・病理学	2		1	前期	1		
		1100	DP1	241520	解剖学・生理学概論	2		1	前期	1		言語聴覚、視覚科学、理学療法の合同開講
		1110	DP1	241521	内科学・精神医学・小児科学概論	2		1	後期	1		学科内（4専攻）合同開講
		1100	DP1	241522	薬理概論	1		1	前期	1		言語聴覚と視覚科学の合同開講 1/4期科目
		1110	DP1	241523	神経内科の基礎	2		2	前期	1		学科内（4専攻）合同開講 視覚科学・臨床検査学専攻の学生は抽選
		1110	DP1	241524	リハビリテーション医学	2		1	前期	1		学科内（4専攻）合同開講 視覚科学・臨床検査学専攻の学生は抽選
		2110	DP1	241525	脳波学・画像診断学概論	2		2	後期	10		言語聴覚と理学療法の合同開講
		1110	DP1	241526	救急応急処置の基礎	1		1	後期	1		1/4期科目
		1110	DP1	241527	感染予防概論		1	1	前期	10		言語聴覚と視覚科学の合同開講 1/4期科目
	社会福祉	1140	DP1	241514	関係法規・リハビリテーション概論		2	1	後期	1		学科内（4専攻）合同開講
専門基礎科目	コミュニケーション	1130	DP1	242301	言語学	2		1	後期	1	18単位（必修）	
		2130	DP1	242367	音響学	2		1	後期	1		
		2130	DP1	242368	聴覚心理学	1		1	後期	1		1/4期科目
		2130	DP1	242303	音声学・音韻論	2		1	前期	1		
		1130	DP1	242305	言語発達学	2		1	後期	1		
	医学	2110	DP1	242312	耳鼻咽喉科学	2		1	後期	1		
		2110	DP1	242313	形成外科学	1		1	後期	1		1/4期科目
		2110	DP1	242314	臨床歯科医学・口腔外科学	1		1	後期	1		1/4期科目（注1）
		2100	DP1	241511	神経系の構造・機能・病態	2		1	後期	1		言語聴覚と視覚科学の合同開講
		2110	DP1	242315	聴覚系・発声発語系の構造・機能・病態	2		2	前期	1		
	栄養	1140	DP1	242369	リハビリテーション栄養	1		3	後期	1		1/4期科目

（注1）この科目は後期の前半または後半で行う。日程は別途掲示参照。

科目群		ナンバリング	DP番号	科目番号	科　目	必修単位	選択単位	履修年次	開講学期	開講最少履修者数（目安）	卒業要件	備　考
専門中心科目	コミュニケーション障害	1200	DP1, DP2, DP3	242370	言語聴覚障害学総論	1		1	前期	1	69単位以上（必修69単位を含む）	
		1230	DP2	242319	失語症Ⅰ	2		2	前期	1		
		2230	DP2	242320	失語症Ⅱ	2		2	後期	1		
		3230	DP2	242321	失語症Ⅲ	2		3	前期	1		
		1230	DP2	242322	高次脳機能障害Ⅰ	2		2	前期	1		
		2230	DP2	242323	高次脳機能障害Ⅱ	2		2	後期	1		
		1210	DP2	242324	言語発達障害Ⅰ	2		2	前期	1		
		2210	DP2	242325	言語発達障害Ⅱ	2		2	後期	1		
		3210	DP2	242326	言語発達障害Ⅲ	2		3	前期	1		
		2250	DP2	242327	吃音	2		2	後期	1		
		2250	DP2	242328	音声障害	2		2	前期	1		
		1240	DP2	242371	摂食嚥下障害Ⅰ	2		2	前期	1		
		2240	DP2	242372	摂食嚥下障害Ⅱ	2		2	後期	1		
		1250	DP2	242361	小児発声発語障害Ⅰ	2		2	前期	1		
		2250	DP2	242362	小児発声発語障害Ⅱ	2		2	後期	1		
		1250	DP2	242363	成人発声発語障害Ⅰ	2		2	前期	1		
		2250	DP2	242364	成人発声発語障害Ⅱ	2		2	後期	1		
		1220	DP2	242334	聴覚障害Ⅰ	2		2	前期	1		
		2220	DP2	242335	聴覚障害Ⅱ	2		2	後期	1		
		3220	DP2	242336	聴覚障害Ⅲ	2		3	前期	1		
		3200	DP1	242365	地域言語聴覚療法学	2		4	前期	10		
		3200	DP1	242366	言語聴覚療法管理学	2		4	前期	10		
	演習	2120	DP1	242337	心理測定法演習	2		3	後期	1		
		3130	DP1	242373	音響・音声情報分析学演習		2	3	後期	5		
		3130	DP1	242374	生体情報分析学演習		2	3	後期	5		
		2300	DP1, DP2	242375	臨床実習前演習	1		3	前期	1		1/4期科目
		2300	DP1, DP2	242376	基礎的臨床技能演習	2		3	前期	1		2時限連続
		3300	DP1, DP2	242377	応用的臨床技能演習	2		3	後期	1		2時限連続
		3610	DP1	242344	言語聴覚学総合演習Ⅰ	2		4	前期	1		
		3610	DP1	242345	言語聴覚学総合演習Ⅱ	2		4	後期	1		
	実習	3310	DP1, DP2	242378	学外実習Ⅰ	2		2	前期・後期	1		成績は「合」「否」により評価 前期コマは正規の履修年次・期間で単位が修得できなかった者が対象 学外実習Ⅰ、学外実習Ⅱ、学外実習Ⅲの同時履修は不可
		3310	DP1, DP2	242379	学外実習Ⅱ	4		3	前期・後期	1		成績は「合」「否」により評価 前期コマは正規の履修年次・期間で単位が修得できなかった者が対象 学外実習Ⅰ、学外実習Ⅱ、学外実習Ⅲの同時履修は不可
		3310	DP1, DP2	242380	学外実習Ⅲ	8		4	前期・後期	1		成績は「合」「否」により評価 後期コマは正規の履修年次・期間で単位が修得できなかった者が対象 学外実習Ⅰ、学外実習Ⅱ、学外実習Ⅲの同時履修は不可
		3310	DP1, DP2	242381	学外実習Ⅳ	1		4	前期・後期	1		後期コマは正規の履修年次・期間で単位が修得できなかった者が対象

科目群		ナンバリング	DP番号	科目番号	科　目	必修単位	選択単位	履修年次	開講学期	開講最少履修者数（目安）	卒業要件	備　考
発展科目	研究	3010	DP3	242353	言語聴覚学研究Ⅰ	2		3	前期	1	12単位（必修）	
		3010	DP3	242354	言語聴覚学研究Ⅱ	2		3	後期	1		
		3010	DP3	242355	言語聴覚学研究Ⅲ	2		4	前期	1		
		3010	DP3	242356	言語聴覚学研究Ⅳ	2		4	後期	1		
		3010	DP3	242352	卒業論文	4		4	後期	1		

7 履修上の注意（医療貢献学科 視覚科学専攻）

【全般的な注意】

① 授業科目の履修については、「履修要覧」「シラバス」および「時間割表」を参照すること。
② 必修科目は指定された学年で必ず履修すること。
③ 時間割において、同一の時間帯に複数の科目が開講されていて、そこに必修科目が含まれている場合は、必修科目を最優先して履修すること。
④ 学部、学科、専攻の専門教育科目（学部共通基礎科目、学科共通基礎科目、専門基礎科目、専門中心科目、発展科目）は、カリキュラム表に従って履修すること。所属する学部、学科、専攻の専門教育科目と他学部、他学科、他専攻の開放科目の時間割が重複した場合は、所属する学部、学科、専攻の専門教育科目を優先して履修すること。
⑤ 全学共通履修科目は、できるだけ早い学年で履修し、卒業要件単位を確保するよう努めるのが望ましい。ただし、学年配当、履修クラスは指定に従うこと。
　言語活用科目は「英語」が必修である。
⑥ 本専攻では、国家試験受験資格取得のために履修計画が極めて厳しく設定されている。したがって、いずれの科目も再履修しなければならないような事態に陥ることのないよう、出席、課題提出、試験対策には万全を期し、単位修得に真剣に取り組むことを期待する。なお、視覚科学専攻においては、専門科目の演習、学内実習において３回を超えて欠席のあった場合を「不合格（Fまたは否）」とする。
　また、学外実習において一切の遅刻・欠席を認めない。

【履修すべき科目について】

本専攻では、本学の基本理念を総合的に理解し、学際的分野である健康医療科学の基礎となる多方面にわたる知識と理解を習得し、将来、医療スタッフの一員として、視能訓練の専門職として学習しておくべき科目を設置している。これらの科目には必修科目だけでなく選択科目であっても視能訓練士として基本的知識・技能に関わる重要な科目があり、視能訓練士国家試験受験にも関わるので必ず履修すること。

（学部共通基礎科目）
　「統計の基礎」
（学科共通基礎科目）
　「認知・学習心理学」「臨床心理学」「内科学・精神医学・小児科学概論」「脳波学・画像診断学概論」「感染予防概論」
（専門基礎科目）
　「実験計測演習」「心理実験法演習２」
（専門中心科目）
　「視覚の基礎」「視覚心理学１」「視覚心理学２」「視覚心理学３」「頭頸部機構学」「ロービジョン医学演習」

【視能訓練士資格の取得】

医療貢献学科視覚科学専攻のカリキュラムでは、「視能訓練士」の受験資格を取得するためのカリキュラムを基本としている。視能訓練士の資格を得るには、視覚科学専攻において、視能訓練士国家試験を受験するために必要である厚生労働大臣の指定する視能訓練に関する科目の単位を履修し、その後視能訓練士国家試験に合格しなければならない。履修上の注意にしたがって履修すること。

視能訓練士国家試験受験資格取得までの流れ
　本学は視能訓練士の指定学校養成所である。そのため、指定の卒業要件単位を満たせば受験資格が得られる。受験のため４年次に以下の手続きを行っていく。
　① 視能訓練士受験手続を行い、出願手続きを行う

② 単位未修得の資格科目の履修

③ ４年次２月　視能訓練士国家試験の受験

なお、視能訓練士国家試験の出題科目は、以下の通りである。国家試験に合格するには、出題範囲に関連する授業科目を漏れなく受講し、広く知識を習得しておくことが求められる。

基礎医学大要、基礎視能矯正学、視能検査学、視能障害学および視能訓練学

【学内・学外実習について】

（１） 実習の概要

「生理光学演習」（１単位）、「視能矯正学演習」（２単位）、「視能矯正学実習１」（２単位）、「視能矯正学実習２」（１単位）、「視能矯正学実習３」（２単位）は学内での実習であり、その後学外で行う「臨地実習１」（７単位）、「臨地実習２」（７単位）のための実習である。学外実習では、学内での講義や演習実習で学んだ知識や技能が医療施設での実習に必要な水準まで達していることが求められる。実習は全て必修科目である。

合計14単位の臨地実習のうち、11単位は病院等の医療施設で行うことが義務づけられている（実習１単位は45時間で算出）。視覚科学専攻では病院等の医療施設で行う実習は合計で540時間以上（約４ヶ月）実施する。

視覚科学専攻は卒業要件単位数が多いため、**「臨地実習１」**は３年次の８月と９月の２ヶ月間、**「臨地実習２」**は２月と３月の２ヶ月間に行う予定にしている。原則として４箇所の施設で各約１ヶ月間、臨床現場における視能訓練士としての職務のあり方や技能の実際を学ぶ。

実習では社会人の卵として扱われるため、遅刻・無断欠席は許されない。それらの個人の行為は各実習施設に迷惑をかけるだけでなく、他の学生や今後の実習の受け入れにも影響するため、相当の覚悟で臨むことが求められる。事前のオリエンテーション（ガイダンス）や希望実習機関についての面接を行うので、掲示に注意すること。

実習のために必要となる費用等については別途連絡する。なお、実習機関によっては、実習生と患者および実習機関職員の相互の院内感染予防の観点から過去の感染症の感染状況やワクチン接種歴の調査、抗体価の確認、検査の結果などを求められることがある。学外実習に向けて追加のワクチン接種等が必要となった場合の接種費用や検査費用に加えて、実習機関までの交通費および宿泊費、実習を行うにあたって各実習機関から求められた白衣などの用具の購入費用についても自己負担となる。

（２） 実習の履修条件について

定められた科目の単位が未修得の場合、「視能矯正学実習１」、「視能矯正学実習２」、「視能矯正学実習３」、「臨地実習１」と「臨地実習２」を履修することはできない。GPAが基準に達していない場合は履修を認めないことがある。

a)「視能矯正学実習１」「視能矯正学実習２」の履修までに単位修得が必要な科目：「生理光学演習」「視能矯正学演習」

b)「視能矯正学実習３」の履修までに単位修得が必要な科目：「生理光学演習」

c)「臨地実習１」の履修までに単位修得が必要な科目：「視能矯正学実習１」「視能矯正学実習２」

d)「臨地実習２」の履修までに単位修得が必要な科目：「視能矯正学実習３」

e)「臨地実習１」と「臨地実習２」の履修で求められる２年次後期までの専門教育科目の通算GPA：2.0以上

（３）「臨地実習１」と「臨地実習２」の履修登録について

「臨地実習１」は３年後期、「臨地実習２」は４年前期に履修登録すること

（４） 実習の内容

学外臨地実習評価の項目評価は、各実習機関の指導視能訓練士の所見に基づいて専任教員が行う。学外臨地実習評価の項目は以下の通りである。

① 実習に対して熱意があり、積極的に責任を持って取り組める。
② 基本的な知識があり実習内容を理解し、それを応用する力がある。
③ 検査を適切に実施し、検査結果を正しく評価することができる。
④ 記録・報告書が適切に作成できる。
⑤ 指導者をはじめとする、他の医療従事者や周囲に対して、社会人として適切な対応ができる。
⑥ 実習生として患者に対し、適切な行動がとれる。
⑦ 実習生として相応しい清潔な身だしなみ、態度である。

【視覚科学研究１～４について】

① 講義や演習で学んだ知識を基にそれぞれの独自の問題意識に基づく研究を展開して卒業論文を作成するためのゼミナールである。
② 全員、特定の教員のゼミに所属する。ゼミ選択は２年後期に実施するので掲示に注意すること。
③ 研究の継続性、２年間の一貫した研究指導を行うことが望ましいという観点から、原則として所属の変更は認められないが、特段に考慮すべき事情により、やむを得ず所属ゼミの変更が必要となった場合は、学生本人の申告に基づいて、専攻において申告者と相談の上、時期に関わらず所属ゼミの変更を認める場合がある。所属しているゼミについて、問題を感じていたり、ゼミでの研究の継続が困難な状況に置かれた場合は、一人で悩まずに、教務担当の教員、あるいは専攻主任、これらの教員に相談が難しい場合は、専攻の他の教員に相談すること。

8 カリキュラム表（医療貢献学科 視覚科学専攻 専門教育科目）

科目群		ナンバリング	DP番号	科目番号	科　目	必修単位	選択単位	履修年次	開講学期	開講最少履修者数（目安）	卒業要件	備　考
学部共通基礎科目		1100	DP1, DP2, DP3	241101	健康医療科学基礎演習	2		1	前期	1	5単位以上（必修5単位含む）	
		1200	DP2, DP3	241005	統計の基礎		2	1	前期	10		言語聴覚と視覚科学の合同開講
		1200	DP2, DP3	241006	健康科学統計演習	2		1	後期	1		
		2010	DP1	241102	キャリアデザイン	1		3	前期	1		1/4期科目 成績は「合」「否」により評価
学科共通基礎科目	基礎	2020	DP1	241516	公衆衛生学	2		3	後期	1	13単位以上（必修13単位含む）	言語聴覚と視覚科学の合同開講
		2030	DP1, DP2	241517	チーム医療概論		1	2	後期	1		学科内（4専攻）合同開講 1/4期科目
		2000	DP1	241518	社会福祉・社会保障制度（多職種連携・地域包括ケア等を含む）	2		2	前期	1		学科内（4専攻）合同開講
	心理学	1000	DP1	241503	認知・学習心理学		2	1	前期	1		学科内（4専攻）合同開講
		1000	DP1	241504	臨床心理学		2	2	後期	1		言語聴覚と視覚科学の合同開講
		1000	DP1	241505	生涯発達心理学	2		1	前期	1		視覚科学と臨床検査の合同開講
	医科学	1020	DP1	241519	医学総論・病理学	2		1	前期	1		
		1020	DP1	241520	解剖学・生理学概論	2		1	前期	1		言語聴覚、視覚科学、理学療法の合同開講
		1030	DP1	241521	内科学・精神医学・小児科学概論		2	1	後期	1		学科内（4専攻）合同開講
		2020	DP1	241522	薬理概論		1	2	前期	1		言語聴覚と視覚科学の合同開講 1/4期科目
		2030	DP1	241523	神経内科の基礎		2	2	前期	1		学科内（4専攻）合同開講 視覚科学・臨床検査学専攻の学生は抽選
		2030	DP1	241524	リハビリテーション医学		2	3	前期	1		学科内（4専攻）合同開講 視覚科学・臨床検査学専攻の学生は抽選
		1020	DP1	241525	脳波学・画像診断学概論		2	1	後期	10		視覚科学と臨床検査の合同開講
		1030	DP1	241526	救急応急処置の基礎	1		1	後期	1		1/4期科目
		1020	DP1	241527	感染予防概論		1	2	前期	10		言語聴覚と視覚科学の合同開講 1/4期科目
	社会福祉	2000	DP1	241514	関係法規・リハビリテーション概論	2		2	後期	1		学科内（4専攻）合同開講
専門基礎科目	基礎	1020	DP1	241511	神経系の構造・機能・病態	2		1	後期	1	6単位以上（必修6単位含む）	言語聴覚と視覚科学の合同開講
		1200	DP3	243401	実験心理学	2		1	後期	1		
		1200	DP3	243402	実験計測演習		2	1	後期	5		
		2210	DP3	243403	心理実験法演習 1	2		2	前期	1		2時限連続
		2210	DP3	243404	心理実験法演習 2		2	2	後期	5		2時限連続
		3210	DP3	243405	視覚研究法演習		2	3	後期	5		

科目群		ナンバリング	DP番号	科目番号	科目	必修単位	選択単位	履修年次	開講学期	開講最少履修者数（目安）	卒業要件		備考
専門中心科目	視覚	1100	DP1	243452	視覚の基礎		1	1	前期	10		69単位以上（必修65単位＋指定選択4単位以上含む）	
		1100	DP1	243453	視覚生理学	1		1	前期	1			
		1100	DP1, DP2	243454	視覚生理学演習	1		1	前期	1			
		1120	DP1	243409	色彩心理学	2		2	後期	1			
		1130	DP1	243455	生理光学	1		1	後期	1			
		2170	DP1, DP2	243411	生理光学演習	1		2	前期・後期	1			
		2120	DP1	243412	視覚心理学 1		2	2	前期	10	指定選択4単位以上		
		2120	DP1	243413	視覚心理学 2		2	2	前期	10			
		2120	DP1	243414	視覚心理学 3		2	2	前期	10			
	医学	1100	DP1	243456	頭頸部機構学		1	1	後期	10			
		2110	DP1	243416	神経眼科学	2		2	前期	1			
		2110	DP1	243417	眼科薬理学	2		2	後期	1			
		3110	DP1	243418	神経眼科学演習	2		4	前期	1			
		2110	DP1	243419	眼疾病学	2		3	前期	1			
		3160	DP1, DP2	243420	ロービジョン医学演習		2	4	前期	5			
	視能矯正	1100	DP1, DP2	243457	視覚科学概論	1		1	前期	1			2時限連続
		2170	DP1, DP2	243458	視能矯正学演習	2		2	後期	1			
		2140	DP1	243423	視能矯正学	2		3	前期	1			
		3150	DP2	243424	視覚科学演習 1	2		4	後期	1			
		3150	DP2	243425	視覚科学演習 2	2		4	後期	1			
		1130	DP1	243459	視能検査学 1	1		1	後期	1			
		2130	DP1	243427	視能検査学 2	2		2	前期	1			
		2130	DP1	243428	視能検査学演習 1	2		2	前期	1			
		2130	DP1	243429	視能検査学演習 2	2		2	後期	1			
		2140	DP1	243430	視能検査学演習 3	2		3	後期	1			
		1130	DP1	243460	視能障害学 1	1		1	後期	1			
		2160	DP1, DP2	243432	視能障害学 2	2		2	前期	1			
		2160	DP1, DP2	243433	視能障害学 3	2		2	後期	1			2時限連続
		1130	DP1	243461	視能訓練学 1	1		1	後期	1			
		2130	DP1	243435	視能訓練学 2	2		2	後期	1			
		2130	DP1	243436	視能訓練学 3	2		2	後期	1			
		2140	DP1, DP2	243437	視能訓練学 4	2		3	後期	1			
		3150	DP1, DP2	243438	視能訓練学演習	2		4	前期	1			
	実習	2180	DP1, DP2	243439	視能矯正学実習 1	2		3	前期	1			2時限連続
		2180	DP1, DP2	243440	視能矯正学実習 2	1		3	前期	1			
		2180	DP1, DP2	243441	視能矯正学実習 3	2		3	後期	1			2時限連続
		3190	DP1, DP2	243450	臨地実習 1	7		3	通年	1			学外実習
		3190	DP1, DP2	243451	臨地実習 2	7		4	前期	1			学外実習

科目群		ナンバリング	DP番号	科目番号	科　目	必修単位	選択単位	履修年次	開講学期	開講最少履修者数（目安）	卒業要件	備　考
発展科目	研究	2220	DP2, DP3	243444	視覚科学研究 1	2		3	前期	1	12単位（必修）	
		2220	DP2, DP3	243445	視覚科学研究 2	2		3	後期	1		
		3220	DP2, DP3	243446	視覚科学研究 3	2		4	前期	1		
		3220	DP2, DP3	243447	視覚科学研究 4	2		4	後期	1		
		3300	DP2, DP3	243448	卒業論文	4		4	後期	1		

9 履修上の注意（医療貢献学科 理学療法学専攻）

【全般的な注意】

① 授業科目の履修については、「履修要覧」「シラバス」および「時間割表」を参照すること。
② 必修科目は指定された学年で必ず履修すること。
③ 時間割において、同一の時間帯に複数の科目が開講されていて、そこに必修科目が含まれている場合は、必修科目を最優先して履修すること。
④ 学部、学科、専攻の専門教育科目（学部共通基礎科目、学科共通基礎科目、専門基礎科目、専門中心科目、発展科目）は、カリキュラム表に従って履修すること。所属する学部、学科、専攻の専門教育科目と他学部、他学科、他専攻の開放科目の時間割が重複した場合は、所属する学部、学科、専攻の専門教育科目を優先して履修すること。
⑤ 全学共通履修科目は、できるだけ早い学年で履修し、卒業要件単位を確保するよう努めるのが望ましい。ただし、学年配当、履修クラスは指定に従うこと。
⑥ 本専攻では、国家試験受験資格取得のために履修計画が極めて厳しく設定されている。したがって、いずれの科目も再履修しなければならないような事態に陥ることのないよう、出席、課題提出、試験対策には万全を期し、単位修得に真剣に取り組むことを期待する。なお、本専攻の専門基礎科目、専門中心科目、発展科目において、15回開講科目は４回、８回開講科目は２回を超えて欠席のあった場合に「不合格（F)」とする（臨床実習科目は、原則として無断での遅刻・欠席は認められない。臨床実習科目は、実習日数の５分の１を超えて欠席のあった場合に「不合格（F)」とする。)。

【履修すべき科目について】

本専攻は、多職種と連携し小児理学療法分野から成人・高齢者理学療法分野までの全ての世代に対応できる実践力を身につけた人材となるために学習しておくべき科目を設置している。必修科目はもちろん、以下の選択科目においても基本的知識・技能に関わる重要な科目であるため履修することが望ましい。

『選択科目』

（学部共通基礎科目）

「統計の基礎」

【理学療法士資格の取得について】

医療貢献学科理学療法学専攻では、「理学療法士」の国家試験受験資格を取得するためのカリキュラムを設けており、卒業要件を満たすことによって受験資格が得られる。国家試験の合格に向けて、授業の内容はもちろん、出題範囲に関連する知識を十分に修得しておくことが求められる。そのため、１年次から日々の学習を積み重ねることが望ましい。

【臨床実習科目について】

臨床での教育は理学療法士という専門職を目指す学生にとって貴重な経験であり、その場は対象者の方々の協力と先輩である専門職の方々のご厚意によって提供されていることを認識し、外部からはその施設の一員と見られることを意識して行動することが求められる。各実習の実施時期は履修登録ガイダンス等で知らせる。また、各実習の前に行われる実習オリエンテーションは臨床実習の時間数に含まれるため、原則として欠席は認めない。

臨床実習科目の履修必要条件は以下の通りである。

①「見学実習」、「コミュニケーション実習」
・履修条件なし
②「地域臨床実習」の履修条件
・見学実習とコミュニケーション実習の単位を修得していること。
③「評価実習」の履修条件
・２年後期までの専門教育科目のうち必修科目の単位を修得していること。
④「総合臨床実習Ⅰ」の履修条件
・地域臨床実習の単位を修得していること。
・評価実習の単位を修得していること。
・３年前期までの専門教育科目のうち必修科目の単位を修得していること。
⑤「総合臨床実習Ⅱ」の履修条件
・評価実習の単位を修得していること。
・３年後期までの専門教育科目のうち必修科目の単位を修得していること。

【理学療法学研究Ⅰ からⅣについて】

① 卒業論文を執筆するための卒業研究指導を受ける科目である。
② 全員、特定の教員の研究室に所属する。研究室の選択は２年後期に実施するため連絡・掲示に注意すること。
③ 卒業論文作成に関わる理学療法学研究については、研究の継続性や２年間の一貫した研究指導を行うことが望ましいとの観点から、原則として所属の変更は認められないが、特段に考慮すべき事情により、やむを得ず所属研究室の変更が必要となった場合は、学生本人の申告に基づいて、専攻において申告者と相談の上、時期に関わらず所属研究室の変更を認める場合がある。所属している研究室での研究の継続が困難な状況に置かれた場合は、一人で悩まずに、教務担当の教員、あるいは専攻主任、これらの教員に相談が難しい場合は、学科・専攻の他の教員に相談すること。

10 カリキュラム表（医療貢献学科 理学療法学専攻 専門教育科目）

科目群		ナンバリング	DP番号	科目番号	科　目	必修単位	選択単位	履修年次	開講学期	開講最少履修者数（目安）	卒業要件	備　考
学部共通基礎科目		1000	DP1, DP2, DP3	241101	健康医療科学基礎演習	2		1	前期	1	5単位以上（必修5単位含む）	
		1000	DP3	241005	統計の基礎		2	2	前期	10		
		1010	DP3	241006	健康科学統計演習	2		2	後期	1		
		2000	DP2	241102	キャリアデザイン	1		3	前期	1		1/4期科目 成績は「合」「否」により評価
学科共通基礎科目	基礎	1100	DP1	241516	公衆衛生学	2		1	後期	1	14単位以上（必修14単位含む）	
		1120	DP2	241517	チーム医療概論		1	2	後期	1		学科内（4専攻）合同開講 1/4期科目
		1120	DP1, DP2	241518	社会福祉・社会保障制度 （多職種連携・地域包括ケア等を含む）	2		1	前期	1		学科内（4専攻）合同開講
	心理学	1110	DP1	241503	認知・学習心理学		2	1	前期	1		学科内（4専攻）合同開講
		1110	DP1	241504	臨床心理学	2		2	後期	1		
		1110	DP1	241505	生涯発達心理学		2	1	前期	1		言語聴覚と理学療法の合同開講
	医科学	1110	DP1	241519	医学総論・病理学	2		1	前期	1		
		1100	DP1	241520	解剖学・生理学概論		2	1	前期	1		言語聴覚、視覚科学、理学療法の合同開講
		1110	DP1	241521	内科学・精神医学・小児科学概論		2	1	後期	1		学科内（4専攻）合同開講
		1110	DP1	241522	薬理概論	1		2	前期	1		1/4期科目
		1110	DP1	241523	神経内科の基礎	2		2	前期	1		学科内（4専攻）合同開講 視覚科学・臨床検査学専攻の学生は抽選
		1120	DP1, DP2	241524	リハビリテーション医学	2		1	前期	1		学科内（4専攻）合同開講 視覚科学・臨床検査学専攻の学生は抽選
		1120	DP1	241525	脳波学・画像診断学概論		2	2	後期	10		言語聴覚と理学療法の合同開講
		1110	DP1	241526	救急応急処置の基礎	1		1	前期	1		1/4期科目
		1110	DP1	241527	感染予防概論		1	1	前期	1		理学療法と臨床検査の合同開講 1/4期科目
	社会福祉	1120	DP1, DP2	241514	関係法規・リハビリテーション概論		2	1	後期	1		学科内（4専攻）合同開講
専門基礎科目	人体の構造と機能及び心身の発達	1100	DP1	249001	解剖学1	1		1	前期	1	25単位（必修）	
		1100	DP1	249002	生理学1	1		1	前期	1		
		1100	DP1	249003	生理学2	1		1	前期	1		
		1100	DP1	249004	人間発達学	1		1	前期	1		
		1100	DP1	249005	運動学1	1		1	後期	1		
		1100	DP1	249006	解剖学2	1		1	後期	1		
		1100	DP1	249007	解剖学実習1	1		1	後期	1		
		1100	DP1	249008	生理学実習	1		1	後期	1		
		1100	DP1	249009	感染管理学	1		1	後期	1		
		1100	DP1	249010	解剖学実習2	1		2	前期	1		
		2100	DP1	249011	基礎医学セミナー	2		4	後期	1		

科目群		ナンバリング	DP番号	科目番号	科　目	必修単位	選択単位	履修年次	開講学期	開講最少履修者数（目安）	卒業要件	備　考
専門基礎科目	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	1110	DP1	249012	栄養学（生化学含む）	1		1	前期	1		
		1110	DP1	249013	発達障害学	1		1	後期	1		
		1110	DP1	249014	内科学	1		1	後期	1		
		1110	DP1	249015	精神医学	1		1	後期	1		
		1110	DP1	249016	老年学	1		1	後期	1		
		1110	DP1	249017	整形外科学	1		2	前期	1		
		1110	DP1	249018	小児科学	1		2	前期	1		
		1110	DP1	249019	臨床検査診断学	1		2	前期	1		1/4期科目
		1110	DP1	249020	画像診断学	1		2	前期	1		
		1110	DP1	249021	小児整形外科学	1		2	前期	1		1/4期科目
		2110	DP1, DP2	249022	健康スポーツ科学	1		4	後期	1		1/4期科目
		2110	DP1, DP2	249023	リハビリテーション医療工学	1		4	後期	1		1/4期科目
	保健医療福祉とリハビリテーションの理念	2120	DP1	249024	小児保健福祉論	1		4	後期	1		1/4期科目
専門中心科目	基礎理学療法学	1200	DP1, DP2	249025	理学療法概論	2		1	後期	1	75単位（必修）	
		1200	DP1	249026	運動学２	2		1	後期	1		
		1200	DP1	249027	運動学実習	1		2	前期	1		
	理学療法管理学	1210	DP1	249028	理学療法教育と倫理	2		2	後期	1		
		2210	DP1	249029	理学療法管理学概論	2		3	後期	1		
	理学療法評価学	1220	DP1, DP2, DP3	249030	理学療法評価学	2		1	後期	1		
		2220	DP1, DP2, DP3	249031	理学療法評価学実習	1		2	前期	1		
		2220	DP1, DP2, DP3	249032	理学療法評価学演習	1		2	後期	1		1/4期科目
		2220	DP1, DP2, DP3	249033	生体情報分析学	1		2	後期	1		1/4期科目
		3220	DP1, DP2, DP3	249034	基礎的臨床技能演習	1		3	前期	1		1/4期科目
		3220	DP1, DP2, DP3	249035	応用的臨床技能演習	1		3	前期	1		1/4期科目
		3220	DP1, DP2, DP3	249036	運動分析学	2		3	後期	1		
	理学療法治療学	1240	DP1, DP2	249037	理学療法治療学	2		2	前期	1		
		1240	DP1, DP2	249038	日常生活活動学	2		2	前期	1		
		1240	DP1, DP2	249039	物理療法学	2		2	前期	1		
		2240	DP1, DP2	249040	物理療法学実習	1		2	前期	1		

科目群		ナンバリング	DP番号	科目番号	科　目	必修単位	選択単位	履修年次	開講学期	開講最少履修者数（目安）	卒業要件	備　考
専門中心科目	理学療法治療学	1240	DP1, DP2	249041	義肢装具学	2		2	後期	1		
		2240	DP1, DP2	249042	小児理学療法学	2		2	後期	1		
		2240	DP1, DP2	249043	運動器障害理学療法学	2		2	後期	1		
		2240	DP1, DP2, DP3	249044	内部障害理学療法学	2		2	後期	1		
		2240	DP1, DP2	249045	日常生活活動学実習	1		2	後期	1		
		3240	DP1, DP2	249046	運動器障害理学療法学実習	1		2	後期	1		
		2240	DP1, DP2	249047	発達障害理学療法学	2		3	前期	1		
		2240	DP1, DP2	249048	神経筋障害理学療法学	2		3	前期	1		
		3240	DP1, DP2	249049	義肢装具学実習	1		3	前期	1		
		3240	DP1, DP2	249050	小児理学療法学実習	1		3	前期	1		
		3240	DP1, DP2, DP3	249051	内部障害理学療法学実習	1		3	前期	1		
		3240	DP1, DP2	249052	発達障害理学療法学実習	1		3	後期	1		
		3240	DP1, DP2	249053	神経筋障害理学療法学実習	1		3	後期	1		
		3240	DP2, DP3	249054	理学療法治療学演習	2		3	後期	1		
		3240	DP1, DP2	249055	理学療法学セミナー	2		4	後期	1		
	地域理学療法学	1230	DP1, DP2	249056	地域理学療法学	2		2	前期	1		
		2230	DP1, DP2	249057	地域理学療法学実習	1		2	後期	1		
		2230	DP1, DP2	249058	日常生活環境学	2		2	後期	1		
	臨床実習	1250	DP2	249059	見学実習	1		1	通年	1		
		1250	DP2	249060	コミュニケーション実習	1		1	通年	1		
		2250	DP2	249061	地域臨床実習	1		3	前期	1		
		3250	DP2, DP3	249062	評価実習	3		3	前期	1		
		3250	DP2, DP3	249063	総合臨床実習Ⅰ	7		4	前期	1		
		3250	DP2, DP3	249064	総合臨床実習Ⅱ	9		4	前期	1		
発展科目	研究	1260	DP2, DP3	249065	理学療法学研究Ⅰ	2		3	前期	1	12単位（必修）	
		2260	DP2, DP3	249066	理学療法学研究Ⅱ	2		3	後期	1		
		3260	DP2, DP3	249067	理学療法学研究Ⅲ	2		4	前期	1		
		3260	DP2, DP3	249068	理学療法学研究Ⅳ	2		4	後期	1		
		3260	DP2, DP3	249069	卒業論文	4		4	通年	1		

11 履修上の注意（医療貢献学科 臨床検査学専攻）

【全般的な注意】

① 授業科目の履修について、「履修要覧」「シラバス」および「時間割表」を参照すること。
② 必修科目は指定された学年で履修すること。
③ 時間割において、同一の時間帯に複数の科目が開講されていて、そこに必修科目が含まれている場合は、必修科目を優先して履修すること。
④ 学部、学科、専攻の専門教育科目（学部共通基礎科目、学科共通基礎科目、専門基礎科目、専門中心科目、発展科目）は、カリキュラム表に従って履修すること。所属する学部、学科、専攻の専門教育科目と他学部、他学科、他専攻の開放科目の時間割が重複した場合は、所属する学部、学科、専攻の専門教育科目を優先して履修すること。
⑤ 全学共通履修科目は、できるだけ早い学年で履修し、卒業要件単位を確保するよう努めるのが望ましい。ただし、配当学年、履修クラスは指定に従うこと。
⑥ 本専攻では「専門基礎科目」および「専門中心科目」における遅刻、欠席について別に定める。

【履修する科目について】

本専攻では、本学の基本理念を総合的に理解し、学際的分野である健康医療科学の基礎となる多方面にわたる知識と理解を習得し、将来、医療スタッフの一員として、また臨床検査に関わっていく中で学修しておくべき科目を設置している。これらの科目には必修科目だけでなく選択科目であっても臨床検査技師として基本的知識・技能に関わる重要な科目があり、臨床検査技師国家試験受験にも関わるので履修することが望ましい。

［学科共通基礎科目］
薬理概論
［専門基礎科目］
栄養学

【履修および単位認定に関する規程】

本専攻では、臨床検査技師国家試験受験資格取得のため、履修計画が厳しく設定されている。従って、いずれの科目も再履修しなければならないような事態に陥ることのないよう、出席、課題提出、試験対策には万全を期し、単位修得に真剣に取り組むことが求められる。このような理由から、本専攻では、臨床検査技師国家試験に係る「専門基礎科目」および「専門中心科目」については、履修、単位認定に関して以下の規程を定める。

① 「専門基礎科目」および「専門中心科目」のうち、実習科目については原則欠席を認めない。
② 「専門基礎科目」および「専門中心科目」のうち、筆記試験にて成績が基準に至らない学生に対しては、担当教員による補習再試験がおこなわれることがある。補習再試験に合格した場合に単位認定（C判定）される。

【総合臨床実習に関する規程】

総合臨床実習は３年次に履修し、実践活動の場での課題発見、解決を通して、専門的知識および技術の機会を図り、臨床検査技師としての知識および技術を修得することを目的としている。履修にあたっては、学内での講義、演習、実験・実習で学んだ知識や技能などが、一定の水準まで達していることが必要である。従って、以下に定める基準を満たしていない場合は、原則として総合臨床実習を履修することができない。

【総合臨床実習 履修条件の対象となる必修科目】

3年前期までに開講されている科目（別表）で、単位未修得の科目がある場合は、総合臨床実習前演習および総合臨床実習を履修することはできない。

別表

授業科目	区分	配当年次
臨床検査学概論	専門基礎	1前
血液学	専門基礎	1前
生化学	専門基礎	1前
生理学	専門基礎	1後
解剖学（解剖組織学）	専門基礎	1後
生化学実習	専門基礎	1後
解剖学実習（解剖組織学実習）	専門基礎	1後
病理検査学Ⅰ	専門中心	1後
生理機能検査学Ⅰ	専門中心	1後
免疫検査学	専門中心	1後
公衆衛生学実習	専門基礎	2前
医用工学	専門基礎	2前
情報科学	専門基礎	2前
病理検査学Ⅱ	専門中心	2前
血液検査学Ⅰ	専門中心	2前
臨床化学検査学(放射性同位元素検査学を含む)	専門中心	2前
一般検査学（医動物学を含む）	専門中心	2前
免疫検査学演習	専門中心	2前
微生物検査学Ⅰ	専門中心	2前
生理機能検査学Ⅱ	専門中心	2前
臨床病態学Ⅰ	専門中心	2前
医療関係法規	専門中心	2前
検査機器管理学	専門中心	2前

授業科目	区分	配当年次
医用工学実習	専門基礎	2後
情報科学実習	専門基礎	2後
血液検査学Ⅱ	専門中心	2後
病理検査学実習	専門中心	2後
遺伝子・染色体検査学	専門中心	2後
微生物検査学Ⅱ	専門中心	2後
輸血・移植検査学	専門中心	2後
生理機能検査学Ⅲ(画像検査学を含む)	専門中心	2後
臨床病態学Ⅱ	専門中心	2後
検査管理総論(検査精度管理を含む)	専門中心	2後
一般検査学実習(医動物学実習を含む)	専門中心	2後
臨床化学検査学実習	専門中心	2後
血液検査学実習	専門中心	3前
遺伝子・染色体検査学実習	専門中心	3前
輸血・移植検査学実習	専門中心	3前
微生物検査学実習	専門中心	3前
生理機能検査学実習Ⅰ	専門中心	3前
生理機能検査学実習Ⅱ(画像検査学実習を含む)	専門中心	3前
臨床病態学Ⅲ	専門中心	3前
医療安全管理学	専門中心	3前

【臨床検査技師国家試験の受験資格】

臨床検査技師とは、臨床検査技師等に関する法律 第一章に規定されている国家資格であり、「厚生労働大臣の免許を受けて、臨床検査技師の名称を用いて、医師又は歯科医師の指示の下に、人体から排出され、又は採取された検体の検査として厚生労働省令で定めるもの（以下「検体検査」という。）及び厚生労働省令で定める生理学的検査を行うことを業とする者をいう。」とされている。

臨床検査技師国家試験の受験資格は、臨床検査技師学校養成所指定規則 別表第一に定められた単位数を修得し、本学の卒業要件を満たした場合に与えられる。

12 カリキュラム表（医療貢献学科 臨床検査学専攻 専門教育科目）

科目群		ナンバリング	DP番号	科目番号	科　目	必修単位	選択単位	履修年次	開講学期	開講最少履修者数（目安）	卒業要件	備　考
学部共通基礎科目		1010	DP2	241101	健康医療科学基礎演習	2		1	前期	1	5単位以上（必修5単位を含む）	
		1100	DP2	241005	統計の基礎	2		1	後期	1		
		2110	DP2	241006	健康科学統計演習		2	2	前期	10		
		2500	DP2	241102	キャリアデザイン	1		3	前期	1		1/4期科目 成績は「合」「否」により評価
学科共通基礎科目	基礎	1100	DP2	241516	公衆衛生学	2		1	後期	1	12単位以上（必修10単位、選択必修2単位（注1）含む）	
		2310	DP2	241517	チーム医療概論	1		2	後期	1		学科内（4専攻）合同開講 1/4期科目
		1100	DP2	241518	社会福祉・社会保障制度 （多職種連携・地域包括ケア等を含む）	2		3	前期	1		学科内（4専攻）合同開講
	心理学	1000	DP2	241503	認知・学習心理学		2	1	前期	1		学科内（4専攻）合同開講
		2110	DP2	241504	臨床心理学		2	3	前期	10		
		1000	DP2	241505	生涯発達心理学		2	1	前期	1		視覚科学と臨床検査の合同開講
	医科学	1210	DP1	241519	医学総論・病理学	2		1	前期	1		
		1210	DP1	241520	解剖学・生理学概論	2		1	前期	1		
		1000	DP2	241521	内科学・精神医学・小児科学概論		2	1	後期	1		学科内（4専攻）合同開講
		1200	DP2	241522	薬理概論		1	3	前期	10		1/4期科目
		1000	DP2	241523	神経内科の基礎		2	2	前期	1		学科内（4専攻）合同開講 視覚科学・臨床検査学専攻の学生は抽選
		1000	DP2	241524	リハビリテーション医学		2	1	前期	1		学科内（4専攻）合同開講 視覚科学・臨床検査学専攻の学生は抽選
		1000	DP2	241525	脳波学・画像診断学概論		2	1	後期	10		視覚科学と臨床検査の合同開講
		1210	DP2	241526	救急応急処置の基礎		1	1	前期	10		1/4期科目
		1210	DP1	241527	感染予防概論	1		1	前期	1		理学療法と臨床検査の合同開講 1/4期科目
	社会福祉	1000	DP2	241514	関係法規・リハビリテーション概論		2	1	後期	1		学科内（4専攻）合同開講
専門基礎科目	生命科学	1100	DP2	240001	生命倫理学	1		1	前期	1	16単位以上（必修14単位、選択必修2単位（注2）含む）	1/4期科目
		1000	DP2	240002	基礎科学（基礎物理学、化学、生物学）		2	1	前期	10		
		1300	DP1	240003	臨床検査学概論	1		1	前期	1		1/4期科目
		2000	DP2	240004	公衆衛生学実習	1		2	前期	1		
		2210	DP2	240005	栄養学		1	3	後期	10		
		2100	DP2	240006	マネジメント論		1	3	後期	10		
		2210	DP2	240007	医療英語		2	4	前期	10		
	人体機能学	1210	DP1	240008	血液学	1		1	前期	1		1/4期科目
		1210	DP1	240009	生化学	2		1	前期	1		
		2210	DP1	240010	生理学	1		1	後期	1		1/4期科目
		2210	DP1	240011	解剖学（解剖組織学）	1		1	後期	1		1/4期科目
		2220	DP1	240012	生化学実習	1		1	後期	1		
		2220	DP1	240013	解剖学実習（解剖組織学実習）	1		1	後期	1		
	医用情報工学	2110	DP2	240014	医用工学	1		2	前期	1		
		2110	DP2	240015	情報科学	1		2	前期	1		
		2120	DP2	240016	医用工学実習	1		2	後期	1		
		2120	DP2	240017	情報科学実習	1		2	後期	1		

（注1）「臨床心理学」、「薬理概論」、「救急応急処置の基礎」から2単位選択必修
（注2）「基礎科学（基礎物理学、化学、生物学）」、「栄養学」、「マネジメント論」、「医療英語」から2単位選択必修

科目群		ナンバリング	DP番号	科目番号	科目	必修単位	選択単位	履修年次	開講学期	開講最少履修者数（目安）	卒業要件	備考
専門中心科目	形態検査学	2310	DP1	240018	病理検査学Ⅰ	2		1	後期	1	74単位（必修）	
		2310	DP1	240019	病理検査学Ⅱ	2		2	前期	1		
		2310	DP1	240020	血液検査学Ⅰ	1		2	前期	1		
		2310	DP1	240021	血液検査学Ⅱ	2		2	後期	1		
		2320	DP1	240022	病理検査学実習	1		2	後期	1		
		2320	DP1	240023	血液検査学実習	1		3	前期	1		
	分析化学検査学	2310	DP1	240024	臨床化学検査学（放射性同位元素検査学を含む）	2		2	前期	1		
		2310	DP1	240025	一般検査学（医動物学を含む）	2		2	前期	1		
		2320	DP1	240026	一般検査学実習（医動物学実習を含む）	1		2	後期	1		
		2320	DP1	240027	臨床化学検査学実習	1		2	後期	1		
		2310	DP1	240028	遺伝子・染色体検査学	2		2	後期	1		
		2320	DP1	240029	遺伝子・染色体検査学実習	1		3	前期	1		
	病因・生体防御検査学	2310	DP1	240030	免疫検査学	2		1	後期	1		
		2320	DP1	240031	免疫検査学演習	1		2	前期	1		
		2310	DP1	240032	微生物検査学Ⅰ	2		2	前期	1		
		2310	DP1	240033	微生物検査学Ⅱ	2		2	後期	1		
		2310	DP1	240034	輸血・移植検査学	2		2	後期	1		
		2320	DP1	240035	輸血・移植検査学実習	2		3	前期	1		
		2320	DP1	240036	微生物検査学実習	2		3	前期	1		
	生理検査学	2310	DP1	240037	生理機能検査学Ⅰ	2		1	後期	1		
		2310	DP1	240038	生理機能検査学Ⅱ	2		2	前期	1		
		2310	DP1	240039	生理機能検査学Ⅲ（画像検査学を含む）	2		2	後期	1		
		2320	DP1	240040	生理機能検査学実習Ⅰ	2		3	前期	1		
		2320	DP1	240041	生理機能検査学実習Ⅱ（画像検査学実習を含む）	2		3	前期	1		
	病態学	2300	DP1, DP2	240042	臨床病態学Ⅰ	2		2	前期	1		
		2310	DP1, DP2	240043	臨床病態学Ⅱ	2		2	後期	1		
		2320	DP1, DP2	240044	臨床病態学Ⅲ	2		3	前期	1		
		2340	DP1, DP2	240045	総合病態検査学	1		3	後期	1		
	臨床検査管理学	2310	DP1	240046	医療関係法規	1		2	前期	1		
		2310	DP1	240047	検査機器管理学	1		2	前期	1		
		2310	DP1	240048	検査管理総論（検査精度管理を含む）	2		2	後期	1		
		2320	DP1	240049	医療安全管理学	2		3	前期	1		
		2320	DP1	240050	検査情報管理学	2		3	後期	1		
	臨床検査応用科目	4320	DP1, DP3	240051	生殖補助医療学演習	2		2	後期	1		
		4320	DP1, DP3	240052	地域医療検査学	1		3	前期	1		
		4320	DP1, DP3	240053	先制医療検査学	1		3	前期	1		
	総合臨床検査学	3330	DP1	240054	総合臨床実習前演習	1		3	後期	1		
		3330	DP1	240055	総合臨床実習	11		3	後期	1		
		3330	DP1	240056	総合臨床検査学	2		4	後期	1		
発展科目	研究	3400	DP3	240057	臨床検査学研究Ⅰ	2		3	前期	1	12単位（必修）	
		3400	DP3	240058	臨床検査学研究Ⅱ	2		3	後期	1		
		3400	DP3	240059	臨床検査学研究Ⅲ	2		4	前期	1		
		3400	DP3	240060	臨床検査学研究Ⅳ	2		4	後期	1		
		3400	DP3	240061	卒業論文	4		4	通年	1		

13 履修上の注意（スポーツ・健康医科学科 スポーツ・健康科学専攻）

【全般的な注意】

① 授業科目の履修については、「履修要覧」「シラバス」および「時間割表」を参照すること。
② 必修科目は指定された学年で必ず履修すること。
③ 時間割において、同一の時間帯に複数の科目が開講されていて、そこに必修科目が含まれている場合は、必修科目を最優先して履修すること。
④ 学部、学科、専攻の専門科目（学部共通基礎科目、学科共通基礎科目、専門中心科目）は、カリキュラム表に従って履修すること。所属する学部、学科の専門科目と他学部、他学科、他専攻の開放科目の時間割が重複した場合は、所属する学部、学科、専攻の専門科目を優先して履修すること。
⑤ 全学共通履修科目は、できるだけ早い学年で履修し、卒業要件単位を確保するよう努めるのが望ましい。ただし、学年配当、履修クラスは指定に従うこと。

【専門教育科目・資格取得について】

（1）専門教育科目は、カリキュラム表に示したとおり、「学部共通基礎科目」、「学科共通基礎科目」、「専門中心科目」の3つによって構成される。「学科共通基礎科目」、「専門中心科目」の科目群には、「基礎」、「応用」、「研究」があり、この科目群は、3、4年次の健康科学研究のために、必要不可欠な科目を段階的に設置したものである。
（2） 3、4年次に配当される「健康科学研究Ⅰ～Ⅳ」、「卒業論文」を必修とし、2年後期に健康科学研究のゼミナールへの所属を決定する。特別配慮すべき事由のない限りゼミナールの所属変更を認めない。
（3）スポーツ・健康科学専攻において取得可能な諸資格の詳細については、ガイダンスおよびCampusSquareの連絡を必ず確認すること。
（4）教員免許状（保健体育）の取得を希望する学生は、「教員免許状取得の手引き　教職課程便覧」を確認し、教職・司書・学芸員教育センターの連絡（CampusSquare）を確認すること。

【体育実技科目の履修必要条件について】

下表の体育実技科目を履修する場合は、「基礎身体運動」（1単位）の単位を修得することを条件とし、履修中（同時履修）は認めない。なお、「健康医療科学」の副専攻プログラムを履修している他学部所属学生も前述の科目を履修すること。

科目番号	科目名
244232	体育実技A　水泳
244233	体育実技B　陸上競技
244234	体育実技C　体づくり・器械運動
244235	体育実技D　体操・ダンス
244236	体育実技E　武道1(剣道)
244237	体育実技F　武道2(柔道)

【スポーツ実技科目の履修必要条件について】

下表のスポーツ実技科目を履修する場合は、次の３科目（５単位）、「基礎身体運動」（１単位）、「運動解剖学」（２単位）、「バイオメカニクス」（２単位）の単位を修得していることを条件とし、履修中（同時履修）は認めない。なお、「健康医療科学」の副専攻プログラムを履修している他学部所属学生も前述の３科目を履修すること。

科目番号	科目名
244238	スポーツ実技G　バレーボール
244239	スポーツ実技H　バスケットボール
244240	スポーツ実技I　ハンドボール
244241	スポーツ実技J　サッカー
244242	スポーツ実技K　ラグビー
244243	スポーツ実技L　ソフトボール
244244	スポーツ実技M　テニス
244245	スポーツ実技N　卓球
244246	スポーツ実技O　バドミントン

【野外実習科目の履修必要条件について】

下表の野外実習科目を履修する場合は、「野外教育概論」（２単位）の単位を修得したことを条件とし、履修中（同時履修）は認めない。なお、「健康医療科学」の副専攻プログラムを履修している他学部所属学生も前述の科目を履修すること。

科目番号	科目名
244249	野外実習１（キャンプ）
244248	野外実習２（スキー）

【専門中心科目における演習および実習系科目の履修必要条件について】

- 「レクリエーションスポーツ」（１単位）、「レクリエーション基礎演習」（２単位）または「レクリエーション支援演習」（２単位）を履修する場合は、「レクリエーション概論」（２単位）の単位を修得したことを条件とする。
- 「スポーツトレーニング演習Ⅰ」（２単位）または「スポーツコンディショニング演習」（２単位）を履修する場合は、「スポーツトレーニング論」（２単位）の単位を修得したことを条件とする。
- 「健康運動指導演習Ⅱ」（２単位）を履修する場合は、「健康運動指導演習Ⅰ」（２単位）の単位を修得したことを条件とする。
- 「体力測定・評価演習」（２単位）を履修する場合は、「体力測定・評価」（２単位）の単位を修得したことを条件とする。
- 「身体運動測定法演習」（２単位）を履修する場合は、次の２科目（４単位）、「スポーツ生理学」（２単位）と「バイオメカニクス」（２単位）の単位を修得したことを条件とする。
- 「健康産業施設現場演習」（２単位）を履修する場合は、次の２科目（４単位）、「体力測定・評価」（２単位）と「スポーツトレーニング論」（２単位）の単位を修得したことを条件とする。
- 「スポーツ栄養学実習」（２単位）を履修する場合は、「スポーツ栄養学」（２単位）の単位を修得したことを条件とする。

なお、上記科目はすべて同時履修を認めない。

【健康科学研究Ⅰ～Ⅳについて】

卒業論文作成に関わるゼミについては、研究の継続性、２年間の一貫した研究指導を行うことが望ましいとの観点から、原則として所属の変更は認められないが、特段に考慮すべき事情により、やむを得ず所属ゼミの変更が必要となった場合は、学生本人の申告に基づいて、専攻において申告者と相談の上、時期に関わらず所属ゼミの変更を認める場合がある。所属しているゼミについて、問題を感じていたり、ゼミでの研究の継続が困難な状況に置かれた場合は、一人で悩まずに、教務担当の教員、あるいは専攻主任、これらの教員に相談が難しい場合は、専攻の他の教員に相談すること。

【中学校および高等学校教諭一種（保健体育）免許状の取得について】

所定の科目の単位を修得して卒業し、教育委員会へ教員免許状の授与申請を行うことで取得できる（教職課程便覧を参照）。ただし、免許状取得を希望する学生は、教育実習等関わる下表の科目を必ず履修すること。

科目番号	科目名
244132	保健体育教育概論
244274	保健体育実践演習Ⅰ
244275	保健体育実践演習Ⅱ
244280	保健体育教職演習Ⅰ
244281	保健体育教職演習Ⅱ
244282	保健体育教職演習Ⅲ

【教職課程履修者の体育・スポーツ実技科目および野外実習履修時の注意事項】

教職課程を履修している３・４年生で下表の体育・スポーツ実技科目および野外実習の履修を希望する者は、履修１次登録を行ったのち、専用フォームから該当科目の履修希望を提出すること。履修１次登録において履修希望者が定員を超過して抽選となった場合、優先されることがある。なお、申し出をしても履修を確約するものではない。

また、下表中のAおよびBグループに該当する科目の履修を希望する場合、専用フォームへの提出は、各グループの中からそれぞれ１科目に限る。

専用フォームのURLや提出期間等は、CampusSquare等で連絡される「履修登録の注意事項」を確認すること。

科目番号	科目名	グループ
244232	体育実技A　水泳	－
244233	体育実技B　陸上競技	－
244234	体育実技C　体つくり・器械運動	－
244235	体育実技D　体操・ダンス	－
244236	体育実技E　武道１（剣道）	－
244237	体育実技F　武道２（柔道）	－
244238	スポーツ実技G　バレーボール	－
244239	スポーツ実技H　バスケットボール	－
244240	スポーツ実技I　ハンドボール	A
244241	スポーツ実技J　サッカー	A
244242	スポーツ実技K　ラグビー	A
244243	スポーツ実技L　ソフトボール	B
244244	スポーツ実技M　テニス	B
244245	スポーツ実技N　卓球	B
244246	スポーツ実技O　バドミントン	B
244249	野外実習１（キャンプ）	－
244248	野外実習２（スキー）	－

14 カリキュラム表（スポーツ・健康医科学科 スポーツ・健康科学専攻 専門教育科目）

科目群		ナンバリング	DP番号	科目番号	科目	必修単位	選択単位	履修年次	開講学期	開講最少履修者数（目安）	卒業要件		備考
学部共通基礎科目		1000	DP2, DP3	241101	健康医療科学基礎演習	2		1	前期	1	7単位（必修）	88単位以上（必修を含む）	
		1400	DP2, DP3	241005	統計の基礎	2		1	前期	1			学科内合同開講
		1400	DP2, DP3	241006	健康科学統計演習	2		1	後期	1			
		2500	DP2	241102	キャリアデザイン	1		3	前期	1			1/4期科目 成績は「合」「否」により評価
学科共通基礎科目	基礎	1320	DP1, DP2	246101	健康医学総論	2		1	前期	1	18単位以上（必修を含む）		学科内合同開講
		1300	DP1, DP2	246102	生涯スポーツ論	2		1	前期	1			
		1350	DP1, DP2	244123	健康栄養学	2		1	前期	1			
		1310	DP1, DP2	244133	解剖学	2		1	前期	1			
		1310	DP1, DP2	244110	生理学		2	1	後期	1			
		1340	DP1, DP2	246103	心理学基礎論	2		1	後期	1			
		1240	DP1, DP2	244119	スポーツ生理学	2		1	後期	1			
		1210	DP1, DP2	244279	野外教育概論		2	1	後期	10			学科内合同開講 教員免許状取得希望者は必ず履修すること
		1200	DP1, DP2	244130	基礎身体運動		1	1	後期	10			学科内合同開講 1クラス35名で各教員の指導を受ける
		1500	DP2	246104	公共政策演習Ⅰ		1	2	前期	10			学科内合同開講 1/4期科目
		1230	DP1, DP2	244118	スポーツ心理学		2	2	前期	10			学科内合同開講
		1100	DP1, DP2	244117	体育学概論（原理・学史・文化史含む）		2	2	前期	10			
		1330	DP1, DP2	244134	公衆衛生学（衛生学含む）	2		2	後期	1			
		2500	DP2	246105	公共政策演習Ⅱ		1	3	後期	10			学科内合同開講 1/4期科目
		1220	DP1, DP2	244218	スポーツ社会学	2		2	後期	1			学科内合同開講
		1100	DP1, DP2	244132	保健体育教育概論		2	2	前期	10			学科内合同開講 教員免許状取得希望者のみ履修可 教員免許状取得希望者は必ず履修すること
	応用	2200	DP1, DP2	244232	体育実技A　水泳		1	2	前期・後期	10	0単位以上		学科内合同開講 「基礎身体運動」の単位を修得している場合のみ履修可
		2200	DP1, DP2	244233	体育実技B　陸上競技		1	2	前期	10			
		2200	DP1, DP2	244234	体育実技C　体づくり・器械運動		1	2	前期	10			

科目群		ナンバリング	DP番号	科目番号	科　目	必修単位	選択単位	履修年次	開講学期	開講最少履修者数（目安）	卒業要件	備　考
学科共通基礎科目	応用	2200	DP1, DP2	244235	体育実技D　体操・ダンス		1	2	後期	10		学科内合同開講 「基礎身体運動」の単位を修得している場合のみ履修可
		2200	DP1, DP2	244236	体育実技E　武道１（剣道）		1	2	前期	10		
		2200	DP1, DP2	244237	体育実技F　武道２（柔道）		1	2	後期	10		
		2200	DP1, DP2	244238	スポーツ実技G　バレーボール		1	2	前期･後期	10		学科内合同開講 「基礎身体運動」、「運動解剖学」および「バイオメカニクス」の単位を修得している場合のみ履修可
		2200	DP1, DP2	244239	スポーツ実技H　バスケットボール		1	2	後期	10		
		2200	DP1, DP2	244240	スポーツ実技I　ハンドボール		1	3	前期	10		
		2200	DP1, DP2	244241	スポーツ実技J　サッカー		1	3	後期	10		
		2200	DP1, DP2	244242	スポーツ実技K　ラグビー		1	3	前期	10		
		2200	DP1, DP2	244243	スポーツ実技L　ソフトボール		1	3	前期	10		
		2200	DP1, DP2	244244	スポーツ実技M　テニス		1	3	前期	10		
		2200	DP1, DP2	244245	スポーツ実技N　卓球		1	3	後期	10		
		2200	DP1, DP2	244246	スポーツ実技O　バドミントン		1	3	後期	10		
		2210	DP1, DP2	244249	野外実習１（キャンプ）		1	2	前期	15		学科内合同開講 「野外教育概論」の単位を修得している場合のみ履修可
		2210	DP1, DP2	244248	野外実習２（スキー）		1	2	後期	15		
		2100	DP1, DP2	244219	運動方法学		2	2	後期	10		学科内合同開講
		2220	DP1, DP2	244217	スポーツ経営管理学		2	3	前期	10		
		2100	DP1, DP2	244229	学校保健 （小児保健、精神保健、学校安全）		2	2	後期	10		
	研究	1400	DP2, DP3	244131	調査法演習		2	2	前期	10	3単位以上（必修を含む）	学科内合同開講
		2400	DP1, DP2	244271	研究手法	1		3	前期	1		学科内合同開講 1/4期科目 成績は「合」「否」により評価
		2400	DP2, DP3	244272	実践統計学	2		3	後期	1		学科内合同開講
専門中心科目	基礎	1300	DP1, DP2	244135	レクリエーション概論		2	1	前期	10	12単位以上（必修を含む）	
		1320	DP1, DP2	244105	生涯健康医学		2	1	後期	10		
		1350	DP1, DP2	244250	ライフステージと栄養		2	1	後期	10		
		1340	DP1, DP2	244138	臨床心理学		2	2	後期	10		
		1300	DP1, DP2	244128	レクリエーショナルスポーツ		1	1	後期	10		「レクリエーション概論（244135）」の単位を修得している場合のみ履修可
		1240	DP1, DP2	244129	運動解剖学	2		1	後期	1		
		1340	DP1, DP2	244136	生涯発達心理学		2	2	前期	10		

科目群		ナンバリング	DP番号	科目番号	科　目	必修単位	選択単位	履修年次	開講学期	開講最少履修者数（目安）	卒業要件	備　考
専門中心科目	基礎	1240	DP1, DP2	244221	バイオメカニクス		2	2	前期	10		
		1240	DP1, DP2	244115	体力測定・評価		2	2	前期	10		
		1340	DP1, DP2	244107	ストレスマネジメント		2	3	後期	10		
		1300	DP1, DP2	244120	障がい者スポーツ論		2	3	後期	10		
	応用	2320	DP1, DP2	247101	内科学各論 1		2	2	前期	10	24単位以上	
		2350	DP1, DP2	244220	スポーツ栄養学		2	2	前期	10		
		2230	DP1, DP2	244222	スポーツトレーニング論		2	2	前期	10		
		2320	DP1, DP2	247102	内科学各論 2		2	2	後期	10		
		2320	DP1, DP2	247103	整形外科学		2	2	後期	10		
		2320	DP1, DP2	244216	救急・応急処置演習		2	2	後期	10		
		2350	DP1, DP2	244287	スポーツ栄養学実習		2	2	後期	10		「スポーツ栄養学」の単位を修得している場合のみ履修可
		2340	DP1, DP2	244267	学校のメンタルヘルス		2	2	後期	10		
		2300	DP1, DP2	244231	レクリエーション基礎演習		2	2	後期	10		「レクリエーション概論(244135)」の単位を修得している場合のみ履修可
		2240	DP1, DP2	244213	体力測定・評価演習		2	2	後期	5		「体力測定・評価」の単位を修得している場合のみ履修可
		2240	DP1, DP2	244273	身体運動測定法演習		2	2	後期	5		「スポーツ生理学」・「バイオメカニクス」の単位を修得している場合のみ履修可
		2230	DP1, DP2	244226	スポーツコンディショニング演習		2	2	前期・後期	10		「スポーツトレーニング論」の単位を修得している場合のみ履修可
		2320	DP1, DP2	244214	健康スポーツ医学		2	3	前期	10		
		2320	DP1, DP2	247104	運動療法		2	3	後期	10		
		2350	DP1, DP2	244259	栄養科学演習		2	3	前期	5		
		2340	DP1, DP2	244256	心理査定理論		2	3	前期	10		
		2300	DP1, DP2	244230	レクリエーション支援演習		2	3	前期	10		「レクリエーション概論(244135)」の単位を修得している場合のみ履修可
		2300	DP1, DP2	244269	エアロビクス		1	3	前期	10		
		2300	DP1, DP2	244270	アクアビクス		1	3	前期	10		
		2300	DP1, DP2	244285	健康運動指導演習 I		2	3	前期	5		
		2300	DP1, DP2	244294	健康産業施設現場演習		2	3	前期	1		「体力測定・評価」・「スポーツトレーニング論」の単位を修得している場合にのみ履修可 健康運動指導士認定試験を受験予定の者のみ履修可
		2230	DP1, DP2	247105	スポーツトレーニング演習 I		2	3	前期・後期	10		「スポーツトレーニング論」の単位を修得している場合のみ履修可

科目群		ナンバリング	DP番号	科目番号	科　目	必修単位	選択単位	履修年次	開講学期	開講最少履修者数（目安）	卒業要件	備　考
専門中心科目	応用	2230	DP1, DP2	244224	スポーツ指導方法論		2	3	前期	10		
		2100	DP1, DP2	244280	保健体育教職演習Ⅰ		2	2	後期	5		教員免許状取得希望者のみ履修可 教員免許状取得希望者は必ず履修すること
		1330	DP1, DP2	247106	健康マネジメント学		2	3	後期	10		
		2320	DP1, DP2	247107	ケア学		2	3	後期	10		
		2350	DP1, DP2	244276	食事療法学		2	3	後期	10		
		2300	DP1, DP2	244286	健康運動指導演習Ⅱ		2	3	後期	5		「健康運動指導演習Ⅰ」の単位を修得している場合のみ履修可
		2220	DP1, DP2	244227	スポーツ情報論		2	3	後期	10		
		2100	DP1, DP2	244281	保健体育教職演習Ⅱ		2	3	前期	5		教員免許状取得希望者のみ履修可 教員免許状取得希望者は必ず履修すること
		2100	DP1, DP2	244274	保健体育実践演習Ⅰ		2	3	後期	5		教員免許状取得希望者のみ履修可 教員免許状取得希望者は必ず履修すること
		2230	DP1, DP2	247109	スポーツトレーニング演習Ⅱ		2	4	前期	5		「スポーツトレーニング演習Ⅰ」の単位を修得している場合のみ履修可
		2100	DP1, DP2	244289	教員採用試験対策講座Ⅰ		2	4	前期	5		教員免許状取得希望者のみ履修可
		2100	DP1, DP2	244290	教員採用試験対策講座Ⅱ		2	4	前期	5		1/4期科目 ２時限連続授業 教員免許状取得希望者のみ履修可
		2100	DP1, DP2	244275	保健体育実践演習Ⅱ		2	4	前期	5		1/4期科目 ２時限連続授業 教員免許状取得希望者のみ履修可 教員免許状取得希望者は必ず履修すること 成績は「合」「否」により評価
		2100	DP1, DP2	244282	保健体育教職演習Ⅲ		2	3	後期	5		教員免許状取得希望者のみ履修可 教員免許状取得希望者は必ず履修すること
	研究	3400	DP2, DP3	244301	健康科学研究Ⅰ	2		3	前期	1	12単位（必修）	
		3400	DP2, DP3	244302	健康科学研究Ⅱ	2		3	後期	1		「健康科学研究Ⅰ」の単位を修得している場合のみ履修可
		3400	DP2, DP3	244303	健康科学研究Ⅲ	2		4	前期	1		「健康科学研究Ⅱ」の単位を修得している場合のみ履修可
		3400	DP2, DP3	244304	健康科学研究Ⅳ	2		4	後期	1		「健康科学研究Ⅲ」の単位を修得している場合のみ履修可
		3400	DP2, DP3	244305	卒業論文	4		4	後期	1		「健康科学研究Ⅲ」の単位を修得している場合のみ履修可

15 履修上の注意（スポーツ・健康医科学科 救急救命学専攻）

【全般的な注意】

① 授業科目の履修については、「履修要覧」「シラバス」および「時間割表」を参照すること。
② 必修科目は指定された学年で必ず履修すること。
③ 時間割において、同一の時間帯に複数の科目が開講されていて、そこに必修科目が含まれている場合は、必修科目を最優先して履修すること。
④ 学部、学科、専攻の専門科目（学部共通基礎科目、学科共通基礎科目、専門中心科目）は、カリキュラム表に従って履修すること。所属する学部、学科の専門科目と他学部、他学科、他専攻の開放科目の時間割が重複した場合は、所属する学部、学科、専攻の専門科目を優先して履修すること。
⑤ 全学共通履修科目は、できるだけ早い学年で履修し、卒業要件単位を確保するよう努めるのが望ましい。ただし、学年配当、履修クラスは指定に従うこと。

【救急救命士免許の取得】

救急救命士免許は厚生労働省が行う救急救命士国家試験に合格することで取得できる。そのため、救急救命学専攻のカリキュラムは、「救急救命士国家試験受験資格」を取得するために必要な、厚生労働大臣が指定する科目を中心としたカリキュラム構成となっている。国家試験受験資格を取得するために必要な科目を適切に履修するために、履修登録は十分に注意して行うこと。

【救急救命士国家試験受験資格取得までの流れ】

本学での厚生労働大臣の指定する科目の単位を修得し、指定の卒業要件単位を満たすことで受験資格が得られる。
受験のため４年次に以下の手続きを行う。
① 救急救命士国家試験受験の出願手続きを行う。
② ４年次３月（通常第２土曜日）に救急救命士国家試験を受験する。

【学内実習および学外実習の概要】

学内実習は「救急救命実習Ⅰ～Ⅳ」、「水難救助実習（プール）」がある。
「救急救命実習Ⅰ」は１年次、「救急救命実習Ⅱ」は２年次、「救急救命実習Ⅲ」は３年次、「救急救命実習Ⅳ」は４年次の科目となっており、それぞれ通年授業かつ３時限連続の授業である。「水難救助実習（プール）」は１年生前期集中授業で、学内施設（プール）を使用して行う。
学外実習（臨地実習）は「救急救命関連実習」、「病院実習」、「救急車同乗実習」がある。「救急救命関連実習」は１年次の通年集中授業、「病院実習」、「救急車同乗実習」は３年次の通年集中授業である。
卒業要件外の選択科目では「救急救命特別実習（海外）」が２年次の通年集中授業として配当されている。
学外実習は実際の医療現場で学ぶため、学修状況や態度等が医療現場へ悪影響をおよぼす可能性があると判断された学生は、履修を中止させる場合がある。なお、全実習に関して必要となる費用については別途提示する。
実習は全て必修科目（「救急救命特別実習（海外）」除く）であるので、技術の習得だけでは無く、各種の処置や観察行為におけるエビデンス（科学的根拠）を十分に理解しておかなければならない。

【学内実習および学外実習における注意】

実習の進行に関する詳細事項、実習中の服装、身だしなみ、携行品等に関しては、別途「実習の手引き」を配布するため、熟読して実習に臨むこと。

【実習等の履修必修条件について】

履修必修条件は下記のとおりである。

（1）救急救命学専門科目のうち、基礎医学領域および救急医学領域の１・２年生配当科目の実習系科目を除く12科目と「解剖学」、「生理学」、「公衆衛生学（衛生学を含む）」の計15科目のうち、13科目以上の科目の単位を修得していなければ、「救急救命実習Ⅲ」、「病院実習」、「救急車同乗実習」および３年生配当の救急救命学専門科目のうち、基礎医学領域および救急医学領域を履修できない。

（2）「救急救命実習Ⅰ」の単位を修得していなければ、「救急救命実習Ⅱ」および２年生配当の救急救命学専門科目のうち、基礎医学領域および救急医学領域を履修できない。

（3）「救急救命実習Ⅱ」の単位を修得していなければ、「救急救命実習Ⅲ」、「病院実習」、「救急車同乗実習」および３年生配当の救急救命学専門科目のうち、基礎医学領域および救急医学領域を履修できない。

（4）「救急救命実習Ⅲ」、「病院実習」、「救急車同乗実習」の全ての単位を修得していなければ、「救急救命実習Ⅳ」および４年生配当の救急救命学専門科目のうち、基礎医学領域および救急医学領域を履修できない。

【専門教育科目・資格取得について】

（1）授業科目はカリキュラム表に示したとおり、「学部共通基礎科目」、「学科共通基礎科目」、「専門中心科目」の３つの科目群によって構成される。「学科共通基礎科目」の科目群には、「基礎」、「応用」、「研究」があり、「専門中心科目」の科目群には、「基礎医学領域（基礎）」、「救急医学領域（応用）」、「研究」がある。この科目群は、国家試験受験資格に係る必修科目であると共に、３・４年次の救急救命学研究のために、必要不可欠な科目を段階的に設置したものである。

（2）３・４年次配当科目の「救急救命学研究I～IV」は必修でありゼミナール形式にて学修する。また、学修した内容をもとに卒業論文を執筆する。所属するゼミナールは２年次後期にガイダンスを行った上で決定する。

（3）教員免許状（保健体育）の取得を希望する学生は、「教員免許状取得の手引き　教職課程便覧」を確認し、教職・司書・学芸員教育センターの連絡（CampusSquare）を確認すること。※

※　在学４年間で救急救命士国家試験受験資格と並行しての取得は極めて困難である。

【体育実技科目の履修必要条件について】

下表の体育実技科目を履修する場合は、「基礎身体運動」（１単位）の単位を修得することを条件とし、履修中（同時履修）は認めない。なお、「健康医療科学」の副専攻プログラムを履修している他学部所属学生も前述の科目を履修すること。

科目番号	科目名
244232	体育実技A　水泳
244233	体育実技B　陸上競技
244234	体育実技C　体づくり・器械運動
244235	体育実技D　体操・ダンス
244236	体育実技E　武道１（剣道）
244237	体育実技F　武道２（柔道）

【スポーツ実技科目の履修必要条件について】

下表のスポーツ実技科目を履修する場合は、次の３科目（５単位)、「基礎身体運動」（１単位)、「スポーツ生理学」（２単位)、「体育学概論（原理・学史・文化史含む)」（２単位）の単位を修得していることを条件とし、履修中（同時履修）は認めない。

科目番号	科目名
244238	スポーツ実技G　バレーボール
244239	スポーツ実技H　バスケットボール
244240	スポーツ実技I　ハンドボール
244241	スポーツ実技J　サッカー
244242	スポーツ実技K　ラグビー
244243	スポーツ実技L　ソフトボール
244244	スポーツ実技M　テニス
244245	スポーツ実技N　卓球
244246	スポーツ実技O　バドミントン

【野外実習科目の履修必要条件について】

下表の野外実習科目を履修する場合は、「野外教育概論」（２単位）の単位を修得したことを条件とし、履修中（同時履修）は認めない。なお、「健康医療科学」の副専攻プログラムを履修している他学部所属学生も前述の科目を履修すること。

科目番号	科目名
244249	野外実習1(キャンプ)
244248	野外実習2(スキー)

【救急救命学研究Ⅰ～Ⅳについて】

卒業論文作成に関わるゼミナールについては、２年間の一貫した研究指導を行うため、原則として所属の変更は認められない。特段に考慮すべき事情により、やむを得ず所属ゼミの変更が必要となった場合は、専攻において協議し、時期に関わらず所属ゼミの変更を行う場合がある。所属しているゼミにおいて、解決し難い問題が発生し研究の継続が困難な状況に置かれた場合は、一人で悩まずに、専攻の他の教員に相談すること。

16 カリキュラム表（スポーツ・健康医科学科 救急救命学専攻 専門教育科目）

科目群		ナンバリング	DP番号	科目番号	科目	必修単位	選択単位	履修年次	開講学期	開講最少履修者数（目安）	卒業要件		備考
学部共通基礎科目		1020	DP3	241101	健康医療科学基礎演習	2		1	前期	1	7単位（必修）	111単位以上（必修を含む）	
		1000	DP3	241005	統計の基礎	2		1	前期	1			学科内合同開講
		1020	DP3	241006	健康科学統計演習	2		1	後期	1			
		2000	DP2	241102	キャリアデザイン	1		3	前期	1			1/4期科目 成績は「合」「否」により評価
学科共通基礎科目	基礎	1100	DP1, DP2	246101	健康医学総論	2		1	前期	1	14単位以上（必修を含む）		
		1100	DP2	246102	生涯スポーツ論	2		1	前期	1			学科内合同開講
		1100	DP1	244123	健康栄養学	2		1	前期	1			
		1100	DP1, DP2	244133	解剖学	2		1	前期	1			
		1100	DP1, DP2	244110	生理学	2		1	後期	1			
		1100	DP1	246103	心理学基礎論	2		1	後期	1			
		1100	DP2	244119	スポーツ生理学		2	1	後期	1			
		1100	DP2	244279	野外教育概論		2	1	後期	10			学科内合同開講 教員免許状取得希望者は必ず履修すること
		1120	DP2	244130	基礎身体運動		1	1	後期	10			学科内合同開講 １クラス35名で各教員の指導を受ける
		1120	DP3	246104	公共政策演習Ⅰ		1	2	前期	10			学科内合同開講 1/4期科目
		1100	DP2	244118	スポーツ心理学		2	2	前期	10			学科内合同開講
		1100	DP2	244117	体育学概論 （原理・学史・文化史含む）		2	2	前期	10			
		1100	DP1, DP2	244134	公衆衛生学（衛生学含む）	2		1	後期	1			
		2120	DP3	246105	公共政策演習Ⅱ		1	3	後期	10			学科内合同開講 1/4期科目
		1100	DP2	244218	スポーツ社会学		2	2	後期	1			学科内合同開講
		1120	DP2	244132	保健体育教育概論		2	2	前期	10			学科内合同開講 教員免許状取得希望者のみ履修可 教員免許状取得希望者は必ず履修すること
	応用	2110	DP2	244232	体育実技A　水泳		1	2	前期･後期	10	0単位以上		学科内合同開講 「基礎身体運動」の単位を修得している場合のみ履修可
		2110	DP2	244233	体育実技B　陸上競技		1	2	前期	10			
		2110	DP2	244234	体育実技C　体づくり・器械運動		1	2	前期	10			
		2110	DP2	244235	体育実技D　体操・ダンス		1	2	後期	10			
		2110	DP2	244236	体育実技E　武道１(剣道)		1	2	前期	10			
		2110	DP2	244237	体育実技F　武道２(柔道)		1	2	後期	10			
		2110	DP2	244238	スポーツ実技G　バレーボール		1	2	前期･後期	10			学科内合同開講 「基礎身体運動」、「スポーツ生理学」、「体育学概論（原理・学史・文化史含む）」の単位を修得している場合のみ履修可
		2110	DP2	244239	スポーツ実技H　バスケットボール		1	2	後期	10			
		2110	DP2	244240	スポーツ実技I　ハンドボール		1	3	前期	10			
		2110	DP2	244241	スポーツ実技J　サッカー		1	3	後期	10			
		2110	DP2	244242	スポーツ実技K　ラグビー		1	3	前期	10			
		2110	DP2	244243	スポーツ実技L　ソフトボール		1	3	前期	10			

科目群		ナンバリング	DP番号	科目番号	科　目	必修単位	選択単位	履修年次	開講学期	開講最少履修者数（目安）	卒業要件	備　考
学科共通基礎科目	応用	2110	DP2	244244	スポーツ実技M　テニス		1	3	前期	10		学科内合同開講 「基礎身体運動」、「スポーツ生理学」、「体育学概論（原理・学史・文化史含む）」の単位を修得している場合のみ履修可
		2110	DP2	244245	スポーツ実技N　卓球		1	3	後期	10		
		2110	DP2	244246	スポーツ実技O　バドミントン		1	3	後期	10		
		2110	DP2	244249	野外実習１（キャンプ）		1	2	前期	15		学科内合同開講 「野外教育概論」の単位を修得している場合のみ履修可
		2110	DP2	244248	野外実習２（スキー）		1	2	後期	15		
		2100	DP2	244219	運動方法学		2	2	後期	10		学科内合同開講
		2100	DP2	244217	スポーツ経営管理学		2	3	前期	10		
		2100	DP1	244229	学校保健 （小児保健、精神保健、学校安全）		2	2	後期	10		
	研究	1120	DP3	244131	調査法演習		2	2	前期	10	3単位以上（必修を含む）	学科内合同開講
		2100	DP3	244271	研究手法	1		3	前期	1		学科内合同開講 1/4期科目 成績は「合」「否」により評価
		2120	DP3	244272	実践統計学	2		3	後期	1		学科内合同開講
専門中心科目	基礎医学領域	1200	DP1, DP2	248101	病理学	1		1	前期	1	9単位（必修）	1/4期科目
		1200	DP1, DP2	248102	人体の構造と機能（人体の構造と諸器官の役割・働き）	2		1	後期	1		
		1200	DP1, DP2	248103	生物・微生物学	2		2	後期	1		
		2200	DP1, DP2	248104	医療制度・救急関連法律概論	2		2	前期	1		
		3200	DP1, DP2	248105	救急処置概論Ⅱ（薬物と検査）	2		3	前期	1		
	救急医学領域	1200	DP1, DP2	248106	救急救命学総論	2		1	前期	1	60単位（必修）	
		1210	DP1, DP2	248142	救急救命関連実習	1		1	通年	1		学外実習 成績は「合」「否」により評価
		1210	DP1, DP2	248108	救急救命実習Ⅰ	4		1	通年	1		３時限連続授業
		2200	DP1, DP2	248109	救急疾病Ⅰ（呼吸器、循環器、代謝・内分泌、栄養系）	2		2	前期	1		
		1200	DP1, DP2	248110	救急病態生理学Ⅰ	2		2	前期	1		
		2200	DP1, DP2	248111	救急外傷学Ⅰ（外傷総論、頭部・体幹部外傷）	2		2	前期	1		
		2200	DP1, DP2	248112	救急疾病Ⅱ（神経系、消化系、血液・免疫系、感染症）	2		2	後期	1		
		2200	DP1, DP2	248113	救急病態生理学Ⅱ	2		2	後期	1		
		3200	DP1, DP2	248114	救急外傷学Ⅱ（運動器、熱傷）	2		2	後期	1		
		2200	DP1, DP2	248115	救急処置概論Ⅰ（傷病者観察）	2		2	後期	1		
		2210	DP1, DP2	248116	救急救命実習Ⅱ	4		2	通年	1		３時限連続授業 「救急救命実習Ⅰ」の単位を修得している場合のみ履修可
		3200	DP1, DP2	248117	救急症候学Ⅰ（神経系、呼吸系、代謝・内分泌系、栄養系）	2		3	前期	1		
		3200	DP1, DP2	248118	救急症候学Ⅱ（循環系、筋骨格系、感染系）	2		3	前期	1		
		3200	DP1, DP2	248119	救急症候学Ⅲ（消化系、泌尿・生殖系、皮膚系）	2		3	前期	1		

科目群		ナンバリング	DP番号	科目番号	科　目	必修単位	選択単位	履修年次	開講学期	開講最少履修者数（目安）	卒業要件	備　考
専門中心科目	救急医学領域	3200	DP1, DP2	248120	精神医学	1		3	後期	1		1/4期科目
		3200	DP1, DP2	248121	急性中毒・環境障害	2		3	後期	1		
		3200	DP1, DP2	248122	救急外傷医学	2		3	後期	1		
		3220	DP1, DP2, DP3	248123	臨床病態学Ⅰ（臨床推論）	2		3	後期	1		
		2210	DP1, DP2	248124	救急救命実習Ⅲ	4		3	通年	1		3時限連続授業 「救急救命実習Ⅱ」の単位を修得している場合のみ履修可
		3210	DP1, DP2	248125	病院実習	5		3	通年	1		「救急救命実習Ⅱ」の単位を修得している場合のみ履修可
		3210	DP1, DP2	248126	救急車同乗実習	2		3	通年	1		
		3200	DP1, DP2	248127	小児科学	1		4	前期	1		1/4期科目
		3200	DP1, DP2	248128	産婦人科学	1		4	前期	1		
		3200	DP1, DP2	248129	救急症候学Ⅳ（総合）	2		4	後期	1		
		3220	DP1, DP2, DP3	248130	臨床病態学Ⅱ（臨床推論）	2		4	前期	1		
		3220	DP1, DP2	248131	病院内救急医学（ER・ICU）	1		4	後期	1		1/4期科目
		3210	DP1, DP2, DP3	248132	救急救命実習Ⅳ	4		4	通年	1		3時限連続授業 「救急救命実習Ⅲ」・「病院実習」・「救急車同乗実習」の単位を修得している場合のみ履修可
	救急関連科目	1210	DP1, DP2	248133	水難救助実習（プール）	1		1	前期	1	1単位以上（必修を含む）	成績は「合」「否」により評価
		2210	DP1, DP2	248134	救急救命特別実習（海外）		1	2	通年	6		
	救急演習科目	3220	DP1	248135	救急救命学特論Ⅰ	2		3	後期	1	5単位（必修）	
		3220	DP1	248136	救急救命学特論Ⅱ	2		4	後期	1		
		2020	DP2	241009	対人技術演習	1		3	前期	1		1/4期科目
	研究	2220	DP3	248137	救急救命学研究Ⅰ	2		3	前期	1	12単位（必修）	
		2220	DP3	248138	救急救命学研究Ⅱ	2		3	後期	1		
		3220	DP3	248139	救急救命学研究Ⅲ	2		4	前期	1		
		3220	DP3	248140	救急救命学研究Ⅳ	2		4	後期	1		
		3220	DP3	248141	卒業論文	4		4	通年	1		

食健康科学部カリキュラムと卒業要件

AICHI SHUKUTOKU UNIVERSITY

1 ディプロマ・ポリシー（人材養成像）

食健康科学部は、人の健康の保持、増進における食や栄養の関わりについての知識を修得し、「食」と「栄養」の専門家として、実社会の食品、健康に関する諸問題に論理的かつ科学的根拠に基づき対処ができ、すべての人々の生活の質を向上させることに貢献できる人材の育成を目標にしている。この教育目標を達成するために、以下の能力を習得した学生に学位を授与する。

健康栄養学科

① 管理栄養士として必要な幅広い教養と、専門的かつ科学的知識、高度な実践能力を有し、人々の健康の保持・増進、生活の質の向上を通して健康長寿社会に貢献していく高い志を有する者（知識・技能）。

② 強い使命感と判断力、豊かなコミュニケーション能力を有し、各ライフステージおよび人々の状況に対応した適切な栄養管理を、他職種と協調しながら遂行できる者（意欲・判断力・コミュニケーションスキル）。

③ 「健康」と「栄養」、「食」に関する問題を自ら発見し、問題解決に向け、科学的根拠に基づいて実証的に分析し、論理的に思考する能力を有する者（創造的・科学的思考力）。

食創造科学科

① 食創造科学領域における専門知識を深め、食と健康分野において必要な総合力を培い、豊かな食生活と健康社会に貢献するために必要な知識と技能を有する者（知識・技能）。

② 修得した知識をもとに食に関する諸問題に対し、自ら考え、解決策を見いだし、創造性や先見性を有した食創造力を持って食産業に貢献できる「食」の専門家として行動できる者（判断・関心・行動）。

③ 食に関する問題に対し、科学的根拠に基づいて実証的に分析し、他者と協調・協働して新たな食品の創造・創生の提案ができる能力を有する者（創造的・科学的思考力）。

2 カリキュラム・ポリシー(ディプロマ・ポリシーに整合し、それを保証するカリキュラムの体系性を記したもの)

食健康科学部

食健康科学部は２学科（健康栄養学科、食創造科学科）で構成され、カリキュラムは「食健康科学分野で「食」と「栄養」の専門家として社会貢献する人材、さらにすべての人の生活の質を向上させることに貢献し得る人材」を育成するために不可欠な基礎的知識とスキルを身につける目的で設定された「学部基礎科目」と、それぞれの学科のディプロマ・ポリシーにもとづいて編成された学科ごとの「専門教育科目」によって構成する。

健康栄養学科

本学科は、管理栄養士養成課程であるため、法令に適合した専門基礎分野および専門分野からなる科目編成を基本としている。教育内容は、管理栄養士として必要な幅広い教養と、専門的かつ科学的知識、高度な実践能力を有し、人々の健康の保持・増進、生活の質の向上を通して健康長寿社会に貢献していく知識・技能を有する人材養成を達成するために、必要な科目を体系的に編成する。

教育内容としては、１年次を中心に、「専門基礎科目」と「学科基礎科目」を導入し、管理栄養士の社会的役割について理解を深めながら、学びに対する動機付けと将来に向けた目標設定を促すための科目（「管理栄養士概論」、「早期体験学習」）を配置する。２年次・３年次は、主として管理栄養士として必要な高度な専門知識を身につけるための「専門中心科目」を配置する。このうち３年次の臨地実習とその事前・事後学修のための科目、在宅を含む対象者への適切な栄養管理が実践できるための知識と技術を修得するための科目（「対人技術演習」、「栄養総合演習Ⅰ」）などを配置して、強い使命感と判断力、豊かなコミュニケーション能力を有し、各ライフステージおよび人々の状況に対応した適切な栄養管理を、他職種と協調しながら遂行できる人材養成を図る。３年次・４年次では、これまでの学びの集大成として、積み上げてきた各分野における知識と技能を融合させながら、少数で構成されるゼミナールによる卒業研究指導科目、および各専任教員の専門領域に関する演習科目などの「専門中心科目」や「学科発展科目」を配置して「健康」と「栄養」、「食」に関する問題を自ら発見し、問題解決に向け、科学的根拠にもとづいて実証的に分析し、論理的に思考する能力を有する人材養成を図る。

これらの教育内容を効果的に学修できるように、「専門基礎科目」、「専門中心科目」および「学科発展科目」などの学修方法は、講義に加え、実験・実習・演習も組み入れながら、基礎的な知識と実践的な技能の修得を図る。

学修の成果は、学期ごとの定期的な成績評価と、３年次の臨地実習評価、４年次の総合演習および卒業研究に対する評価によって確認し、最終的にディプロマ・ポリシーの到達状況を判断する。

食創造科学科

食創造科学科では、豊かな食生活と健康社会に貢献し、創造性や先見性を有した食創造力により食健康科学分野で貢献できる人材を育成するため、幅広い教養と科学的かつ多角的な視点を有し、積極的に地域社会へ関わる姿勢を身につけるため、食創造科学の６領域である食品学領域、調理学領域、健康学領域、栄養学領域、食文化領域、食創生領域のそれぞれの「専門基礎科目」を経て、「専門中心科目」へと体系的に学修する。

教育内容としては、１年次は学びに対する動機付けと将来に向けた目標設定を促すための科目を配置する。食創造力を培うための食創造科学６領域である「専門基礎科目」を配置し、各領域の主となる科目を必修とし、各領域の実験・実習科目を選択必修とする。実験・実習科目はそれぞれに対応する講義科目の単位取得後に履修することを条件とする。また、食創造科学６領域の「専門中心科目」により実践的な食創造力を養成する専門科目を配置する。２年次は食健康科学分野での食創造科学の役割を各領域の専門分野の概論から学修する「学科基礎科目」を配置する。そして、食科学コース、食・健康創造コースの履修モデルや各種資格取得のための学修モデルを理解し、選択科目である各領域の「専門中心科目」を修得する。また、１年次後期と２年次前期では、少数で構成されるゼミナールにより食創造科学各分野の学修段階で修得した知識と技能を実践するため、文献講読や専門基礎オリジナル研究を遂行し、食創造力とコミュニケーション力を高める「食創造科学基礎演習」、「専門基礎演習Ⅰ」を配置する。さらに２年次後期に「専門基礎演習Ⅱ」で食創造科学の各分野のゼミナールを選択し、３年次から卒業研究を遂行するための基礎研究能力を

培う「食創造科学研究Ⅰ～Ⅳ」を配置する。また、3年次は食産業や健康産業で活躍できるキャリアスキルを身に着けさせる必修科目を配置する。3年次・4年次はこれまでの学びの集大成として、積み上げてきた各分野における知識と技能を融合させながら、少数で構成されるゼミナールによる卒業研究指導科目、および各専任教員の専門領域に関する演習科目などを配置して食健康科学分野に関する問題を自ら発見し、問題解決に向け、科学的根拠にもとづいて実証的に分析し、論理的に思考する能力を有する人材養成を図る。

これらの教育内容を効果的に学修できるように、「専門基礎科目」、「専門中心科目」および「学科発展科目」の学修方法は、講義に加え、実験・実習・演習も組み入れながら、基礎的な知識と実践的な技能の修得を図る。学修の成果は、学期ごとの定期的な成績評価と、4年次の卒業研究に対する評価によって確認し、最終的にディプロマ・ポリシーの到達状況を判断する。

3 アドミッション・ポリシー

食健康科学部

本学部は、食健康科学の知識を有し、「食」と「栄養」の専門家として食品分野や健康分野の現場で活躍する人材の養成を目指している。この目標を達成するために、入学者には次の3点を期待する。

① 学生に期待すること

健康維持や疾病予防における食と栄養の係わりに関して高い関心を有し、将来、「食」と「栄養」の専門家として社会に貢献する強い意志を有していること。

② 学生募集に際して重視すること

「食」と「栄養」に関する新しい知識や技能の修得に積極的で向学心が高く、科学的思考力、論理的思考力を修得することに積極的であること。

③ 入学前学習として推奨すること

人間関係において、他者を尊重し、良好な関係を築くことのできるコミュニケーション能力を有していること、あるいは、それらを修得し、向上させることに積極的であること。

健康栄養学科

① 学生に期待すること

「栄養」、「食」の科学に関する学修・研究を通して科学的思考と問題解決の方法論を修得すると共に、管理栄養士の現場にふれる中で保健・医療・福祉への関心と豊かな人間性を養い、社会の現場において自己実現できる人材となることを期待する。

② 学生募集に際して重視すること

保健・医療・福祉に関して高い関心と真摯に学ぶ姿勢、社会情勢や当該分野に関連する様々な事象に対して向学心を持っていること、さらに、自らの健康だけでなく、社会に資するために他者への配慮を心掛けることや円滑なコミュニケーション能力を持っていることも重要である。

③ 入学前学習として推奨すること

高等学校で学ぶ生物、化学の基礎的な知識を身に付けておくことに加え、「健康」、「栄養」、「食」に関する分野の図書や雑誌、新聞記事などを読んでおくこと。

食創造科学科

① 学生に期待すること

食健康科学に関する学修・研究を通して科学的思考と問題解決の方法論を修得すると共に、創造性や先見性を有した食創造力を持って食産業、健康産業に貢献する人材となることを期待する。

② 学生募集に際して重視すること

「食」と「栄養」に関する専門知識と創造性に関して高い関心と真摯に学ぶ姿勢を有し、「食」や「健康」に関連する様々な事象に対して向学心を持っていること、さらに、社会に資するために他者への配慮を心掛けることや円滑なコミュニケーション能力を持っていることも重要である。

③ 入学前学習として推奨すること

高校卒業レベルの基礎的な知識だけでなく、図書や、雑誌、新聞記事などのマスメディアから、「食」、「栄養」、「健康」に関する分野の知識を意欲的に吸収し、自ら考える習慣を身に付けていることが望まれる。

4 卒業に必要な単位（卒業要件単位数）

本学の食健康科学部を卒業するためには、4年以上在学（休学期間は含まない）し、健康栄養学科および食創造科学科とも124単位以上を修得しなければならない。その内訳は次の表のとおりである。

健康栄養学科

■ 2025年度入学者

授業科目の種類			卒業要件単位 健康栄養学科
専門教育科目（注１）		学部基礎科目	必修７単位
		学科基礎科目	必修５単位
		専門基礎科目	必修38単位
		専門中心科目	44単位以上 （必修43単位、選択必修１単位を含む）
		学科発展科目	必修16単位
		資格取得科目	０単位以上
		教職科目	０単位以上
全学共通履修科目	基幹科目	違いを共に生きる科目	６単位以上 （「違いを共に生きる・ライフデザイン」「AI・データサイエンス入門［M］」の合計必修４単位およびAI・データサイエンス科目（「AI・データサイエンス入門［M］」を除く）の中から２単位以上を含む）
		AI・データサイエンス科目	
	アクティブラーニング科目	国際交流センター開設科目	４単位以上 （「日本語表現１」必修２単位を含む）
		CCC開設科目	
		キャリアセンター開設科目	
		ダイバーシティ共生センター開設科目	
		学修・教育支援センター開設科目	
	スキル科目	言語活用科目（英語）	４単位以上 （必ず言語活用科目（英語）４単位を含む）
		言語活用科目（初めての外国語）	
学部認定科目	他学部･他学科開放科目		０単位以上
	愛知学長懇話会単位互換科目（上限10単位）		
	放送大学単位互換科目（上限10単位）		
合　　計			124単位以上

（注１）専門教育科目の卒業要件単位の詳細はカリキュラム表を参照する。

なお、以下の表にある科目は、**卒業に必要な単位に算入されない**ため、注意する。

①言語活用科目（英語） 「Introduction to English」	②教職課程科目	③学芸員課程科目
④司書課程科目	⑤コンピュータ資格科目	⑥会計教育科目
⑦研究科開放科目	⑧文学部国文学科専門教育科目 「学びなおし古文」「学びなおし漢文」	⑨建築学部建築学科専門教育科目 「基礎数学」
⑩食健康科学部専門教育科目 「基礎化学」「基礎生物学」		

食創造科学科

■ 2025年度入学者

<table>
<tr><td colspan="3" rowspan="2">授業科目の種類</td><td colspan="2">卒業要件単位</td></tr>
<tr><td colspan="2">食創造科学科</td></tr>
<tr><td rowspan="5">専門教育科目（注１）</td><td colspan="2">学部基礎科目</td><td>必修７単位</td><td rowspan="5">90単位以上</td></tr>
<tr><td colspan="2">学科基礎科目</td><td>必修３単位</td></tr>
<tr><td colspan="2">専門基礎科目</td><td rowspan="2">64単位以上
（必修20単位、選択必修 実験科目から１単位、実習科目から１単位含む）
（注２）</td></tr>
<tr><td colspan="2">専門中心科目</td></tr>
<tr><td colspan="2">学科発展科目</td><td>必修16単位</td></tr>
<tr><td rowspan="8">全学共通履修科目</td><td rowspan="2">基幹科目</td><td>違いを共に生きる科目</td><td rowspan="2">６単位以上
（「違いを共に生きる・ライフデザイン」「AI・データサイエンス入門［M］」の合計必修４単位およびAI・データサイエンス科目（「AI・データサイエンス入門［M］」を除く）の中から２単位以上を含む）</td><td rowspan="2"></td></tr>
<tr><td>AI・データサイエンス科目</td></tr>
<tr><td rowspan="5">アクティブラーニング科目</td><td>国際交流センター開設科目</td><td rowspan="5">４単位以上
（「日本語表現１」必修２単位を含む）</td><td rowspan="5"></td></tr>
<tr><td>CCC開設科目</td></tr>
<tr><td>キャリアセンター開設科目</td></tr>
<tr><td>ダイバーシティ共生センター開設科目</td></tr>
<tr><td>学修・教育支援センター開設科目</td></tr>
<tr><td rowspan="2">スキル科目</td><td>言語活用科目（英語）</td><td rowspan="2">４単位以上</td><td rowspan="2"></td></tr>
<tr><td>言語活用科目（初めての外国語）</td></tr>
<tr><td rowspan="3">学部認定科目</td><td colspan="2">他学部･他学科開放科目</td><td rowspan="3">０単位以上</td><td rowspan="3"></td></tr>
<tr><td colspan="2">愛知学長懇話会単位互換科目（上限10単位）</td></tr>
<tr><td colspan="2">放送大学単位互換科目（上限10単位）</td></tr>
<tr><td colspan="3">合　　計</td><td colspan="2">124単位以上</td></tr>
</table>

（注１）専門教育科目の卒業要件単位の詳細はカリキュラム表を参照する。
（注２）実験科目・実習科目の詳細はカリキュラム表欄外の脚注を参照する。

なお、以下の表にある科目は、**卒業に必要な単位に算入されない**ため、注意する。

①言語活用科目（英語） 「Introduction to English」	②教職課程科目	③学芸員課程科目
④司書課程科目	⑤コンピュータ資格科目	⑥会計教育科目
⑦研究科開放科目	⑧文学部国文学科専門教育科目 「学びなおし古文」「学びなおし漢文」	⑨建築学部建築学科専門教育科目 「基礎数学」
⑩食健康科学部専門教育科目 「基礎化学」「基礎生物学」		

5 履修上の注意（健康栄養学科）

【全般的な注意】

1. 卒業に必要な単位数について

・卒業に必要な単位数（卒業要件単位数）は124単位である。内訳については、該当ページを熟読し、履修計画を立てること。

2. 必修科目について

・必修科目は指定された履修年次で履修すること。
・時間割において、同一の時間帯に複数の科目が開講されていて、そこに必修科目が含まれている場合は、必修科目を優先して履修すること。
・全学共通履修科目は、できるだけ早い学年で履修し、卒業要件単位を確保するよう努めるのが望ましい。ただし、配当学年、履修クラスは指定に従うこと。
・学科の専門教育科目（学部基礎科目、学科基礎科目、専門基礎科目、専門中心科目など）は、カリキュラム表に従って履修すること。所属する学科の専門教育科目と他学部・他学科の開放科目が重複した場合は、所属する学科の専門教育科目を優先して履修すること。

3. 履修年次について

・各科目は履修年次が指定されているので、カリキュラム表で確認すること。
・上級年次開講の科目は履修することができないが、下級年次開講の科目は履修することができる。
・履修して不合格となった科目は、次期に再度履修することができる。

4. 抽選科目について

・受講希望者が定員を超えた場合は、抽選にて履修者が決定される。
・抽選の結果はCampusSquareの「履修登録・登録状況照会」で確認すること。

5. 卒業研究ゼミナールについて

・３年前期から４年後期にかけて「健康栄養学研究Ⅰ～Ⅳ」は学科に所属する学生全員が必ず履修すること。ゼミナールの選択は２年後期に行う。

【履修すべき科目について】

1. 学部基礎科目

学部基礎科目は、食健康科学部を構成する各分野の専門教育において、各分野の専門的な学修の基盤となる知識・技能として、共通に修得すべき内容を含む科目群である。食健康科学部の学生は全員必修科目であるため、当該学年で開講されている科目は、すべて履修すること。

2. 学科基礎科目

学科基礎科目は、本学科の教育理念や専門教育への導入、管理栄養士の社会的役割などについての理解を深めるための科目群である。全科目必修科目であるため、当該学年で開講されている科目は、すべて履修すること。

3. 専門基礎科目

専門基礎科目は、管理栄養士として必要な専門的知識、技術を修得するための基盤となる科目群であり、「社会・環境と健康」、「人体の構造と機能及び疾病の成り立ち」、「食べ物と健康」で構成されている。すべて管理栄養士国家試験の出題範囲であり、また、全科目必修科目であるため、当該学年で開講されている科目は、すべて履修すること。

4. 専門中心科目

専門中心科目は、高度な専門知識と技術を修得するための科目群であり、「基礎栄養学」、「応用栄養学」、「栄養教育論」、「臨床栄養学」、「公衆栄養学」、「給食経営管理論」、「総合演習」、「臨地実習」の各分野の科目によって構成されている。専門中心科目は、栄養評価・判定に基づいた企画、実施、評価の総合的なマネジメントなど、管理栄養士として必要な高度な実践能力を養うための重要な科目群である。全科目必修科目であるため、当該学年で開講されている科目は、すべて履修すること。

5. 学科発展科目

学科発展科目は、これまでの学びの集大成として、各専門分野を横断した事例学修など、総合的な学びと、少数ゼミナール方式による卒業研究と論文執筆などに関する科目で構成されている。全科目必修科目であるため、当該学年で開講されている科目は、すべて履修すること。

6. 資格取得科目

資格取得科目は、食品衛生監視員および食品衛生管理者の任用資格、健康運動実践指導者の受験資格取得のために必要な知識を身に付けるための科目である。

7. 教職科目

栄養教諭一種免許状取得のための免許法施行規則に定められた「栄養に係る教育に関する科目」である。

【単位について】

本学科では、講義および講義中心の演習については、15時間の授業をもって１単位とし、実技または討論・発表などが中心の演習については、30時間の授業をもって１単位とする。

また、実験および実習については、45時間の授業をもって１単位とする。

【履修および単位認定に関する規程】

本学科では、管理栄養士国家試験受験資格取得のため、履修計画が厳しく設定されている。従って、いずれの科目も再履修しなければならないような事態に陥ることのないよう、出席、課題提出、試験対策には万全を期し、単位修得に真剣に取り組むことが求められる。

このような理由から、本学科では、管理栄養士国家試験に係る「専門基礎科目」および「専門中心科目」については、履修、単位認定に関して以下の規程を定める。

1) 学生は、開講される授業回数すべてに出席することが求められるが、やむを得ず欠席する場合、その回数は、原則として15回開講される科目は３回、８回開講される科目は１回を限度とする。この回数を超えた者は「不合格（Fまたは否）」とする。
2) 学外実習で欠席した場合、専任教員が担当する科目については、授業以外の空き時間に補講をおこなう。また、非常勤および本学本学科以外の教員が担当する科目については、該当授業に関するレポート課題を提示し、添削指導もしくは口頭試問などをおこなう。なお、成績評価の時点で、補講もしくはレポート課題による指導が完了していない学生は「不合格（Fまたは否）」とする。
3) 遅刻は授業開始15分後までとし、15分を超過した場合は欠席とする。遅刻は２回で１回の欠席とする。また、学外実習においては一切の遅刻・欠席は認めない。
4) 授業中の私語、居眠り、他授業の勉強など、積極的に授業に参加しない態度が見られた学生に対し途中退出を求めることができ、欠席扱いとする。
5) 「専門基礎科目」および「専門中心科目」のうち、筆記試験にて成績が基準に至らない学生に対しては、担当教員による補習再試験がおこなわれることがある。補習再試験に合格した場合に単位認定（C判定）される。

【臨地実習に関する規程】

臨地実習は、実践活動の場での課題発見、解決を通して、栄養評価、判定に基づく適切なマネジメントを行うために必要とされる専門的知識および技術の機会を図り、管理栄養士として具備すべき知識および技術を修得することを目的としている。臨地実習は通常３年次に履修する。

臨地実習の履修には、学内での講義、演習、実験・実習で学んだ知識や技能などが、臨地実習に必要な水準まで達していることが必要である。従って、以下に定める基準を満たしていない場合は、原則として「臨地実習Ⅰ（給食経営管理論）」～「臨地実習Ⅴ（公衆栄養学）」を履修することができない。

１）それぞれの臨地実習科目について、下表に示す履修要件科目の単位を修得していること
２）専門基礎科目のうち、26単位以上修得していること
３）専門中心科目のうち、23単位以上修得していること
４）２年後期終了時点で、通算GPAが2.0以上であること
５）平素の出席状況および学習態度が良好で、臨地実習に臨む学生として相応しい行動がとれること

臨地実習履修要件科目一覧

<table>
<tr><th>臨地実習科目</th><th colspan="2">履修要件科目</th></tr>
<tr><td>臨地実習Ⅰ（給食経営管理論）</td><td rowspan="5">管理栄養士概論
早期体験学習
給食経営管理論
給食経営管理演習
給食経営管理実習
栄養教育論Ⅰ
栄養教育論Ⅱ
栄養カウンセリング論
臨床栄養学
栄養アセスメント論</td><td rowspan="4"></td></tr>
<tr><td>臨地実習Ⅱ（臨床栄養学）</td></tr>
<tr><td>臨地実習Ⅲ（臨床栄養学）</td></tr>
<tr><td>臨地実習Ⅳ（臨床栄養学）*</td></tr>
<tr><td>臨地実習Ⅴ（公衆栄養学）*</td><td>公衆栄養学
食事調査法演習</td></tr>
</table>

＊選択必修科目

【管理栄養士国家試験の受験資格および栄養士資格の取得について】

1. 管理栄養士

管理栄養士とは、栄養士法第１条２項に規定されている国家資格であり、「厚生労働大臣の免許を受けて、管理栄養士の名称を用いて、傷病者に対する療養のため必要な栄養の指導、個人の身体の状況、栄養状態等に応じた高度の専門的知識及び技術を要する健康の保持増進のための栄養の指導並びに特定多数人に対して継続的に食事を供給する施設における利用者の身体の状況、栄養状態、利用の状況等に応じた特別の配慮を必要とする給食管理及びこれらの施設に対する栄養改善上必要な指導等を行うことを業とする者をいう」とされている。

管理栄養士国家試験の受験資格は、管理栄養士学校指定規則別表第１に定められた単位数を修得し、本学の卒業要件を満たした場合に与えられる。

2. 栄養士

栄養士は、管理栄養士と同様に国家資格であり、栄養士法第１条第１項に「栄養士とは都道府県知事の免許を受けて、栄養士の名称を用いて栄養の指導に従事することを業とする者をいう」と規定されている。資格取得にあたっては、栄養士法施行規則別表第１に定められた単位数を修得し、本学の卒業要件を満たした場合、居住地の都道府県知事より免許が与えられる。

管理栄養士受験資格に必要な授業科目

2025年度入学者

区分		授業科目	管理栄養士学校指定規則 別表第一（第二条第一号関係）に定められている単位数		単位数	
			講義又は演習	実験又は実習	講義又は演習（単位数）	実験又は実習（単位数）
専門基礎分野	社会・環境と健康	公衆衛生学Ⅰ	6	10	講義（2）	
		公衆衛生学Ⅱ			講義（2）	
		社会福祉概論			講義（2）	
	人体の構造と機能及び疾病の成り立ち	微生物学	14		講義（2）	
		解剖生理学Ⅰ			講義（2）	
		解剖生理学Ⅱ			講義（2）	
		解剖生理学実験Ⅰ				実験（1）
		解剖生理学実験Ⅱ				実験（1）
		生化学Ⅰ			講義（2）	
		生化学Ⅱ			講義（2）	
		生化学実験Ⅰ				実験（1）
		生化学実験Ⅱ				実験（1）
		病理学総論			講義（2）	
		病理学各論			講義（2）	
	食べ物と健康	食品学Ⅰ	8		講義（2）	
		食品学Ⅱ			講義（2）	
		食品学実験Ⅰ				実験（1）
		食品学実験Ⅱ				実験（1）
		食品衛生学			講義（2）	
		食品衛生学実験				実験（1）
		調理学			講義（2）	
		調理学実験				実験（1）
		調理学実習Ⅰ				実習（1）
		調理学実習Ⅱ				実習（1）
	小　計　①		28	10	28	10

区分		授業科目	管理栄養士学校指定規則 別表第一（第二条第一号関係）に 定められている単位数		単位数	
			講義又は演習	実験又は実習	講義又は演習 （単位数）	実験又は実習 （単位数）
専門分野	基礎栄養学	基礎栄養学	2	8	講義（2）	
		栄養学実習				実習（1）
	応用栄養学	応用栄養学	6		講義（2）	
		母子栄養学			講義（2）	
		中高年栄養学			講義（2）	
		応用栄養学実習				実習（1）
	栄養教育論	栄養教育論Ⅰ	6		講義（2）	
		栄養教育論Ⅱ			講義（2）	
		栄養教育論実習Ⅰ				実習（1）
		栄養教育論実習Ⅱ				実習（1）
		栄養カウンセリング論			講義（2）	
	臨床栄養学	臨床栄養学	8		講義（2）	
		栄養アセスメント論			講義（2）	
		臨床栄養管理論			講義（2）	
		医療・福祉・介護と栄養ケア			講義（2）	
		臨床栄養学実習				実習（1）
		在宅栄養管理実習				実習（1）
	公衆栄養学	公衆栄養学	4		講義（2）	
		食事調査法演習			演習（2）	
		公衆栄養学実習				実習（1）
	給食経営管理論	給食経営管理論	4		講義（2）	
		給食経営管理演習			演習（2）	
		給食経営管理実習				実習（1）
	総合演習	栄養総合演習Ⅰ	2		演習（1）	
		栄養総合演習Ⅱ			演習（1）	
	臨地実習	臨地実習Ⅰ （給食経営管理論）		4		実習（1）
		臨地実習Ⅱ （臨床栄養学）				実習（1）
		臨地実習Ⅲ （臨床栄養学）				実習（1）
		臨地実習Ⅳ （臨床栄養学）				実習（1）※
		臨地実習Ⅴ （公衆栄養学）				実習（1）※
	小　計　②		32	12	32	12
合　計（小　計　①　＋　小　計　②）			60	22	60	22

※選択必修

栄養士免許証授与の所要資格に必要な授業科目

2025年度入学者

区分	授業科目	栄養士法施行規則 別表第一（第九条関係）に 定められている単位数		単位数	
		講義又は演習	実験又は実習	講義又は演習 （単位数）	実験又は実習 （単位数）
社会生活と健康	公衆衛生学Ⅰ	4	4	講義（2）	
	公衆衛生学Ⅱ			講義（2）	
	社会福祉概論			講義（2）	
人体の構造と機能	微生物学	8		講義（2）	
	解剖生理学Ⅰ			講義（2）	
	解剖生理学実験Ⅰ				実験（1）
	生化学Ⅰ			講義（2）	
	生化学実験Ⅰ				実験（1）
	病理学総論			講義（2）	
食品と衛生	食品学Ⅰ	6		講義（2）	
	食品学Ⅱ			講義（2）	
	食品学実験Ⅰ				実験（1）
	食品衛生学			講義（2）	
	食品衛生学実験				実験（1）
小　計　①		18	4	20	4
栄養と健康	基礎栄養学	8	10	講義（2）	
	栄養学実習				実習（1）
	応用栄養学			講義（2）	
	応用栄養学実習				実習（1）
	臨床栄養学			講義（2）	
	栄養アセスメント論			講義（2）	
	臨床栄養学実習				実習（1）
	在宅栄養管理実習				実習（1）
栄養の指導	栄養教育論Ⅰ	6		講義（2）	
	栄養教育論Ⅱ			講義（2）	
	栄養教育論実習Ⅰ				実習（1）
	栄養教育論実習Ⅱ				実習（1）
	公衆栄養学			講義（2）	
	公衆栄養学実習				実習（1）
給食の運営	給食経営管理演習	4		演習（2）	
	給食経営管理実習				実習（1）
	臨地実習Ⅰ（給食経営管理論）				実習（1）
	調理学			講義（2）	
	調理学実習Ⅰ				実習（1）
小　計　②		18	10	18	10
合計　（　小計　①　＋　小計　②　）		36	14	38	14

【その他の資格取得について】

1. 栄養教諭

栄養教諭は、学校教育法で、「児童の栄養に関する指導及び管理をつかさどる」と規定されており、主な職務は、成長期にある児童・生徒の食に関する指導や、給食管理など食育の中心的な役割を果たしながら健やかな成長を支援することである。

所定の科目を履修することにより、栄養教諭一種免許が取得できる。履修方法の詳細は、「教員免許状取得の手引き　教職課程便覧」を参照すること。

2. 食品衛生監視員

食品衛生監視員は、全国の主要な海・空港の検疫所において、輸入食品の安全監視および指導（輸入食品監視業務)、輸入食品などに係る微生物検査と理化学検査(検査業務)、検疫感染症の国内への侵入防止（検疫衛生業務）の業務に従事する国家公務員と、地方自治体の保健所に勤務し、食品の検査や食中毒の調査、食品製造業や飲食店の監視・指導をおこなう地方公務員に分けられる。いずれも公務員試験に合格し、当該施設に任用された際に生かすことができる資格（任用資格）である。

3. 食品衛生管理者

食品衛生管理者は、食品衛生法第48条の製造又は加工の過程において特に衛生上の考慮を必要とする食品又は添加物（粉乳類、食肉製品、食用油脂、食品添加物など）の製造又は加工をおこなう事業所は、専任の食品衛生管理者を置かなければならないという規定に基づき配置される。当該事業所に就職して、食品衛生管理者として任用された際に生かすことができる資格（任用資格）である。

食品衛生監視員・食品衛生管理者資格取得のために単位を修得しなければならない科目

科目番号	科　　目	学年	学　期	備　　考
291065	化学概論	1	前期	
291066	食品加工学	2	前期	
291067	食品加工学実習	2	後期	

4. 健康運動実践指導者

健康運動実践指導者は、基礎的な医学、運動生理学の知識、健康づくりのための運動指導の知識・技能などを持ち、健康づくりを目的として作成された運動プログラムに基づいて実践指導をおこなうことができる者をいう。当初は、厚生労働省の認定事業として推進されてきたが、現在では、公益財団法人健康・体力づくり事業財団に認定業務が移管されている。本学科必修科目に加え、以下の所定の科目を履修することによって、毎年11月から実施される認定試験の受験資格が取得できる。本学では3年次での受験が可能である。

健康運動実践指導者認定試験の受験資格取得のために単位を修得しなければならない科目

科目番号	科　　目	学年	学　期	備　　考
291070	スポーツ実技Ⅰ	1	前期	定員40名（超過した場合は抽選）
291071	スポーツ実技Ⅱ	1	後期	
291068	運動生理学	2	後期	
291069	健康スポーツ科学演習	2	後期	定員40名（超過した場合は抽選）
291072	スポーツ実技Ⅲ	2	前期	
291073	スポーツ実技Ⅳ	2	前期	
291074	健康医科学演習	2	前期	

6 カリキュラム表（健康栄養学科 専門教育科目）

科目群		ナンバリング	DP番号	科目番号	科　目	必修単位	選択単位	履修年次	開講学期	開講最少履修者数（目安）	卒業要件	備　考
学部基礎科目		1030	DP1	290001	食健康科学基礎演習	2		1	前期	1	7単位（必修）	
		1000	DP1	290002	食健康科学概論	1		1	前期	1		1/4期科目
		2030	DP1	290003	統計学演習	2		3	後期	1		
		2030	DP2	290004	対人技術演習	1		3	前期	1		1/4期科目
		2000	DP2	290005	キャリアデザイン	1		3	前期	1		1/4期科目 成績は「合」「否」により評価
学科基礎科目		1000	DP2	291001	管理栄養士概論	1		1	前期	1	5単位（必修）	1/4期科目
		1030	DP2	291002	早期体験学習	2		1	後期	1		
		2000	DP1	291003	実践統計学	2		3	前期	1		
専門基礎科目	社会・環境と健康	2100	DP1	291004	公衆衛生学Ⅰ	2		3	前期	1	38単位（必修）	（健）（食）
		2100	DP1	291005	公衆衛生学Ⅱ	2		3	後期	1		（食）
		2100	DP1	291006	社会福祉概論	2		4	前期	1		
	人体の構造と機能及び疾病の成り立ち	2100	DP1	291007	微生物学	2		1	前期	1		（食）
		2100	DP1	291008	解剖生理学Ⅰ	2		1	前期	1		（健）（食）
		2100	DP1	291009	解剖生理学Ⅱ	2		1	後期	1		（食）
		2110	DP1	291010	解剖生理学実験Ⅰ	1		2	前期	1		3時限続き隔週開講 （食）
		2110	DP1	291011	解剖生理学実験Ⅱ	1		2	後期	1		3時限続き隔週開講 （食）
		2100	DP1	291012	生化学Ⅰ	2		1	前期	1		（食）
		2100	DP1	291013	生化学Ⅱ	2		1	後期	1		（食）
		2110	DP1	291014	生化学実験Ⅰ	1		1	後期	1		3時限続き隔週開講 （食）
		2110	DP1	291015	生化学実験Ⅱ	1		2	前期	1		3時限続き隔週開講 （食）
		2100	DP1	291016	病理学総論	2		2	後期	1		（食）
		2100	DP1	291017	病理学各論	2		3	前期	1		（食）
	食べ物と健康	2100	DP1	291018	食品学Ⅰ	2		1	前期	1		（食）
		2100	DP1	291019	食品学Ⅱ	2		1	後期	1		（食）
		2110	DP1	291020	食品学実験Ⅰ	1		1	後期	1		3時限続き隔週開講 （食）
		2110	DP1	291021	食品学実験Ⅱ	1		2	前期	1		3時限続き隔週開講 （食）
		2100	DP1	291022	食品衛生学	2		2	前期	1		（食）
		2110	DP1	291023	食品衛生学実験	1		2	後期	1		3時限続き隔週開講 （食）
		2100	DP1	291024	調理学	2		1	前期	1		
		2110	DP1	291025	調理学実験	1		2	前期	1		3時限続き隔週開講
		2120	DP1	291026	調理学実習Ⅰ	1		1	前期	1		3時限続き隔週開講
		2120	DP1	291027	調理学実習Ⅱ	1		1	後期	1		3時限続き隔週開講

科目群		ナンバリング	DP番号	科目番号	科　目	必修単位	選択単位	履修年次	開講学期	開講最少履修者数（目安）	卒業要件	備　考
専門中心科目	基礎栄養学	2200	DP1	291028	基礎栄養学	2		1	後期	1	44単位以上（必修を含む　ただし、臨地実習Ⅳ（臨床栄養学）および臨地実習Ⅴ（公衆栄養学）より1単位以上）	（健）（食）
		2220	DP1	291029	栄養学実習	1		1	後期	1		3時限続き隔週開講 （食）
	応用栄養学	2200	DP2	291030	応用栄養学	2		2	前期	1		（健）（食）
		2200	DP2	291031	母子栄養学	2		2	後期	1		
		2200	DP2	291032	中高年栄養学	2		2	後期	1		
		2220	DP2	291033	応用栄養学実習	1		3	前期	1		3時限続き隔週開講 （食）
	栄養教育論	2200	DP2	291034	栄養教育論Ⅰ	2		2	前期	1		
		2200	DP2	291035	栄養教育論Ⅱ	2		2	後期	1		
		2220	DP2	291036	栄養教育論実習Ⅰ	1		3	前期	1		3時限続き隔週開講
		3220	DP2	291037	栄養教育論実習Ⅱ	1		3	後期	1		3時限続き隔週開講
		2200	DP2	291038	栄養カウンセリング論	2		2	後期	1		（健）
	臨床栄養学	2200	DP2	291039	臨床栄養学	2		2	前期	1		
		2200	DP2	291040	栄養アセスメント論	2		2	後期	1		
		2200	DP2	291041	臨床栄養管理論	2		3	前期	1		
		3200	DP2	291042	医療・福祉・介護と栄養ケア	2		3	後期	1		
		2220	DP2	291043	臨床栄養学実習	1		3	前期	1		3時限続き隔週開講
		3220	DP2	291044	在宅栄養管理実習	1		4	後期	1		3時限続き隔週開講
	公衆栄養学	2200	DP2	291045	公衆栄養学	2		2	前期	1		（健）
		2230	DP2	291046	食事調査法演習	2		2	後期	1		
		3220	DP2	291047	公衆栄養学実習	1		4	前期	1		3時限続き隔週開講
	給食経営管理論	2200	DP2	291048	給食経営管理論	2		1	後期	1		
		2230	DP2	291049	給食経営管理演習	2		2	前期	1		
		3220	DP2	291050	給食経営管理実習	1		2	後期	1		3時限続き隔週開講
	総合演習	3230	DP2	291051	栄養総合演習Ⅰ	1		3	通年	1		
		3230	DP2	291052	栄養総合演習Ⅱ	1		4	通年	1		
	臨地実習	3220	DP2	291053	臨地実習Ⅰ（給食経営管理論）	1		3	通年	1		学外実習 時間割表の開講年組にしたがって登録する
		3220	DP2	291054	臨地実習Ⅱ（臨床栄養学）	1		3	通年	1		学外実習 時間割表の開講年組にしたがって登録する
		3220	DP2	291055	臨地実習Ⅲ（臨床栄養学）	1		3	通年	1		学外実習 時間割表の開講年組にしたがって登録する
		3220	DP2	291056	臨地実習Ⅳ（臨床栄養学）		1	3	通年	1		学外実習 時間割表の開講年組にしたがって登録する
		3220	DP2	291057	臨地実習Ⅴ（公衆栄養学）		1	3	通年	1		学外実習 時間割表の開講年組にしたがって登録する
学科発展科目		3330	DP3	291058	健康栄養学研究Ⅰ	2		3	前期	1	16単位（必修）	
		3330	DP3	291059	健康栄養学研究Ⅱ	2		3	後期	1		
		3330	DP3	291060	健康栄養学研究Ⅲ	2		4	前期	1		
		3330	DP3	291061	健康栄養学研究Ⅳ	2		4	後期	1		
		3330	DP3	291062	卒業論文	4		4	通年	1		
		3300	DP2	291063	管理栄養士特論Ⅰ	2		4	前期	1		
		3300	DP2	291064	管理栄養士特論Ⅱ	2		4	後期	1		

科目群	ナンバリング	DP番号	科目番号	科　目	必修単位	選択単位	履修年次	開講学期	開講最少履修者数（目安）	卒業要件	備　考
資格取得科目	1400	DP1	291065	化学概論		2	1	前期	10	0単位以上	（食）
	2400	DP1	291066	食品加工学		2	2	前期	10		（食）
	2410	DP1	291067	食品加工学実習		1	2	後期	5		3時限続き隔週開講 （食）
	2400	DP1	291068	運動生理学		2	2	後期	10		（健）
	2430	DP1	291069	健康スポーツ科学演習		1	2	後期	5		（健）
	1420	DP1	291070	スポーツ実技Ⅰ		1	1	前期	5		（健）
	1420	DP1	291071	スポーツ実技Ⅱ		1	1	後期	5		（健）
	1420	DP1	291072	スポーツ実技Ⅲ		1	2	前期	5		（健）
	1420	DP1	291073	スポーツ実技Ⅳ		1	2	前期	5		（健）
	2430	DP1	291074	健康医科学演習		1	2	前期	5		（健）
教職科目	2400	DP1	291075	学校栄養教育論		2	3	前期	1	0単位以上	（教）
	2400	DP1	291076	学校栄養指導法		2	3	後期	1		（教）

（食）食品衛生監視員・食品衛生管理者（任用資格）取得必修科目
（健）健康運動実践指導者受験資格取得必修科目
（教）栄養教諭免許取得必修科目

●卒業に必要な単位に算入されない科目

科目群	ナンバリング	DP番号	科目番号	科　目	必修単位	選択単位	履修年次	開講学期	開講最少履修者数（目安）	卒業要件	備　考
学部基礎科目	1000	DP1	290006	基礎化学		2	1	前期	1		成績は「合」「否」により評価
	1000	DP1	290007	基礎生物学		2	1	前期	1		成績は「合」「否」により評価

7 履修上の注意（食創造科学科）

【全体的な注意事項】

1. 卒業に必要な単位数について

・卒業に必要な単位数（卒業要件単位数）は124単位である。内訳については、該当ページを熟読し、履修計画を立てること。

2. 必修科目について

・必修科目は指定された履修年次で履修すること。
・時間割において、同一の時間帯に複数の科目が開講されていて、そこに必修科目が含まれている場合は、必修科目を優先して履修すること。
・全学共通履修科目は、できるだけ早い学年で履修し、卒業要件単位を確保するよう努めるのが望ましい。ただし、配当学年、履修クラスは指定に従うこと。

3. 履修年次について

・各科目は履修年次が指定されているので、カリキュラム表で確認すること。
・上級年次開講の科目は履修することができないが、下級年次開講の科目は履修することができる。
・履修して不合格となった科目は、次期に再度履修することができる。

4. 抽選科目について

・受講希望者が定員を超えた場合は、抽選にて履修者が決定される。
・抽選の結果はCampusSquareの「履修登録・登録状況照会」で確認すること。

5. 卒業研究ゼミナールについて

・２年後期から４年後期にかけて配当される「専門基礎演習Ⅱ」および「食創造科学研究Ⅰ～Ⅳ」は、卒業研究のためのゼミナールである。学科に所属する学生全員が必ず履修すること。ゼミナールの選択は２年前期に行う。

【履修すべき科目について】

1. 学部基礎科目

学部基礎科目は、食健康科学部を構成する２学科（健康栄養学科、食創造科学科）の専門教育において、食健康科学部の教育目標を達成し、各分野の専門的な学修の基盤となる知識・技能として共通して修得すべき内容を修得する科目群である。以下の５科目は指定された履修年次に必ず履修すること。

「食健康科学基礎演習」、「食健康科学概論」、「統計学演習」、「キャリアデザイン」、「対人技術演習」。

「基礎化学」、「基礎生物学」の２科目は大学教育を受けるにあたって不足している基礎学力を補うための学習支援科目である。卒業要件には含まれないので注意すること。

2. 学科基礎科目

学科基礎科目は、本学科の教育理念や専門教育への導入、学びに対する動機付けと将来に向けた目標設定を促すための科目群である。食創造科学の専門教育への導入のための「食創造科学概論」、自己の職業的人生の方向性を導くため食創造科学と食産業との係わりを学修する「食産業キャリア演習」の２科目によって構成される。指定された履修年次に必ず履修すること。

3. 専門基礎科目

専門基礎科目は、食創造科学６領域である「食品学領域」、「調理学領域」、「健康学領域」、「栄養学領域」、「食文化領域」、「食創生領域」の専門的知識、技術を修得するための基盤となる科目群である。「食品加工学」、「食品学Ⅰ」、「食品衛生学」、「基礎調理科学」、「生体の化学」、「健康の科学」、「健康栄養学」、「ライフステージ栄養学」、「食文化論」、「社会と健康」の10科目は各領域の導入のための必修科目であるため、指定された履修年次に必ず履修すること。

実験４科目（「食品学実験」、「食品衛生学実験」、「食品分析学実験」、「調理科学実験」）と実習４科目（「食品加工学実習」、「調理学実習Ⅰ（和食と伝統料理）」、「調理学実習Ⅱ（世界の郷土料理）」、「食空間・コーディネート実習」）は選択必修科目である。実験科目および実習科目のそれぞれから１単位以上を必ず履修すること。

4. 専門中心科目

専門中心科目は、専門基礎科目と同じく「食品学領域」、「調理学領域」、「健康学領域」、「栄養学領域」、「食文化領域」および「食創生領域」の各６領域に対応した科目によって構成され、実践的な食創造力を養成する専門科目を配置する。

5. 学科発展科目

食創造科学分野の課題を見つけ、その解決に向けて思考・判断するスキルを養いながら研究を展開し、卒業論文を執筆する科目で構成されている。少数ゼミナール方式での講義に加え、実験・実習・演習も組み入れながら、基礎的な知識と実践的な技能の修得を図る。

１年次後期の「食創造科学基礎演習」、２年次前期の「専門基礎演習Ⅰ」の２科目の終了後、学科生全員が特定の教員のゼミを選択し、所属ゼミナールを決定する。２年次後期の「専門基礎演習Ⅱ」より学生自ら選択した食創造科学の各分野のゼミナールにおいて、卒業研究を遂行するための基礎研究能力を培う。２年半の一貫した研究活動を行い、卒業論文を執筆する事が望ましい。

具体的な授業科目の名称、単位数、配当年次、卒業要件は以下の通りである【表１】。全科目必修科目であるため、指定された履修年次に必ず履修すること。

表１　食創造科学科「学科発展科目」一覧

科目番号	授業科目名	単位数	開講時期	
292064	食創造科学基礎演習	1	1後	16単位
292065	専門基礎演習Ⅰ	1	2前	
292066	専門基礎演習Ⅱ	2	2後	
292067	食創造科学研究Ⅰ	2	3前	
292068	食創造科学研究Ⅱ	2	3後	
292069	食創造科学研究Ⅲ	2	4前	
292070	食創造科学研究Ⅳ	2	4後	
292071	卒業論文	4	4通	

【実験・実習科目における履修登録の前提条件について】

実験・実習科目の基礎となる授業科目（講義）の単位修得または科目履修を当該実験・実習科目履修の前提条件とし、講義の内容を実験・実習を通じて、より深めることができるように設定している。

表２　実験・実習科目における履修登録の前提条件　一覧

区分	授業科目名	単位数	開講時期	履修登録の前提条件について	卒業要件
実験科目	食品学実験	1	1後	「食物の科学」単位修得	1単位以上
	食品衛生学実験	1	2前	「食品衛生学」単位修得	
	食品分析学実験	1	2前	「食品分析学」単位修得	
	調理科学実験	1	1後	「応用調理科学」単位修得または科目履修中	
実習科目	食品加工学実習	1	1後	「食品加工学」単位修得	1単位以上
	調理学実習Ⅰ（和食と伝統料理）	1	1後	「基礎調理科学」単位修得	
	調理学実習Ⅱ（世界の郷土料理）	1	2前	「基礎調理科学」単位修得	
	食空間・コーディネート実習	1	2後	「食空間・コーディネート論」単位修得	

【演習科目における事前履修推奨科目について】

以下の科目の理解を深めるため、事前の履修が推奨されている科目を示す。

表３　演習科目における事前履修推奨科目　一覧

授業科目名	単位数	開講時期	事前履修推奨科目
食品の官能検査・識別演習	2	3前	「応用調理科学」単位修得
食卓美学演習	2	4前	「食空間・コーディネート論」単位修得
栄養情報活用演習（栄養疫学演習）	2	2後	「公衆栄養学」、「ライフステージ栄養学」単位修得
食文化演習	2	2後	「食文化論」単位修得
地域食開発演習	2	3後	「地域食論」「食マーケティング論」単位修得
テーブルマナー演習	2	3後	「食空間・コーディネート論」単位修得

【資格取得について】

1. 食品衛生監視員

食品衛生監視員は、全国の主要な海・空港の検疫所において、輸入食品の安全監視および指導（輸入食品監視業務）、輸入食品などに係る微生物検査と理化学検査（検査業務）、検疫感染症の国内への侵入防止（検疫衛生業務）の業務に従事する国家公務員と、地方自治体の保健所に勤務し、食品の検査や食中毒の調査、食品製造業や飲食店の監視・指導をおこなう地方公務員に分けられる。いずれも公務員試験に合格し、当該施設に任用された際に生かすことができる資格（任用資格）である。

2. 食品衛生管理者

食品衛生管理者は、食品衛生法第48条の製造又は加工の過程において特に衛生上の考慮を必要とする食品又は添加物（粉乳類、食肉製品、食用油脂、食品添加物など）の製造又は加工をおこなう事業所は、専任の食品衛生管理者を置かなければならないという規定に基づき配置される。当該事業所に就職して、食品衛生管理者として任用された際に生かすことができる資格（任用資格）である。

表４　「食品衛生監視員」および「食品衛生管理者」資格取得のために単位修得しなければならない科目

科目番号	授業科目名	単位数	配当年次	
292003	食物の科学	2	1 前	28単位
292004	化学概論	2	1 前	
292007	食品分析学	2	1 後	
292008	食品学実験	1	1 後	
292009	食品加工学実習	1	1 後	
292011	食品衛生学実験	1	2 前	
292012	食品分析学実験	1	2 前	
292019	人体の構造と機能（解剖生理学）	2	1 前	
292021	生化学	2	2 前	
292022	微生物学	2	2 前	
292024	栄養化学	2	1 後	
292032	食品機能学	2	2 後	
292034	食品バイオテクノロジー学	2	3 前	
292037	食品製造学Ⅰ	2	3 後	
292048	栄養情報活用演習（栄養疫学演習）	2	2 後	
292056	公衆衛生学	2	2 前	

この科目以外に専門基礎科目の必修科目６科目の単位修得も資格取得条件に含まれる。カリキュラム表の備考欄を確認すること。

【コース（履修モデル）について】

「食科学コース」は、必要科目の単位を修得することにより任用資格である「食品衛生監視員」および「食品衛生管理者」を取得できる履修モデルを示す。その他、食関係の資格試験の出題範囲の学修が可能である。

「食・健康創造コース」は、「食品衛生監視員」および「食品衛生管理者」を取得しないコースで食関係の資格取得に向けて資格試験の出題範囲を学修する履修モデルを示す。詳細は別途学科の提示する資料を確認すること。

8 カリキュラム表（食創造科学科 専門教育科目）

科目群		ナンバリング	DP番号	科目番号	科　目	必修単位	選択単位	履修年次	開講学期	開講最少履修者数（目安）	卒業要件	備　考
学部基礎科目		1030	DP1, DP2, DP3	290001	食健康科学基礎演習	2		1	前期	1	7単位（必修）	
		1000	DP1, DP2, DP3	290002	食健康科学概論	1		1	前期	1		1/4期科目
		2030	DP1, DP2, DP3	290003	統計学演習	2		1	後期	1		
		2030	DP1, DP2, DP3	290004	対人技術演習	1		3	前期	1		1/4期科目
		2000	DP1, DP2, DP3	290005	キャリアデザイン	1		3	前期	1		1/4期科目 成績は「合」「否」により評価
学科基礎科目		1000	DP1, DP2, DP3	292001	食創造科学概論	2		2	前期	1	3単位（必修）	
		2030	DP1, DP2, DP3	292002	食産業キャリア演習	1		3	後期	1		1/4期科目
専門基礎科目	食品学領域	1100	DP1, DP2, DP3	292003	食物の科学		2	1	前期	10	80単位以上（必修36単位、選択必修2単位（注1）（注2）含む）	（食）
		1100	DP1, DP2, DP3	292004	化学概論		2	1	前期	10		（食）
		1100	DP1, DP2, DP3	292005	食品加工学	2		1	前期	1		（食）
		1100	DP1, DP2, DP3	292006	食品学Ⅰ	2		1	後期	1		（食）
		1100	DP1, DP2, DP3	292007	食品分析学		2	1	後期	10		（食）
		1110	DP1, DP2, DP3	292008	食品学実験		1	1	後期	5		2時限連続授業 （食） 「食物の科学（292003）」の単位を修得した学生のみ履修可
		1120	DP1, DP2, DP3	292009	食品加工学実習		1	1	後期	5		2時限連続授業 （食） 「食品加工学（292005）」の単位を修得した学生のみ履修可
		1100	DP1, DP2, DP3	292010	食品衛生学	2		1	後期	1		（食）
		1110	DP1, DP2, DP3	292011	食品衛生学実験		1	2	前期	5		2時限連続授業 （食） 「食品衛生学（292010）」の単位を修得した学生のみ履修可
		1110	DP1, DP2, DP3	292012	食品分析学実験		1	2	前期	5		2時限連続授業 （食） 「食品分析学（292007）」の単位を修得した学生のみ履修可

（注1）実験科目：「食品学実験」、「食品衛生学実験」、「食品分析学実験」、「調理科学実験」から1単位以上を選択必修とする。
（注2）実習科目：「食品加工学実習」、「調理学実習Ⅰ（和食と伝統料理）」、「調理学実習Ⅱ（世界の郷土料理）」、「食空間・コーディネート実習」から1単位以上を選択必修とする。

科目群		ナンバリング	DP番号	科目番号	科　目	必修単位	選択単位	履修年次	開講学期	開講最少履修者数（目安）	卒業要件	備　考
専門基礎科目	調理学領域	1200	DP1, DP2, DP3	292013	基礎調理科学	2		1	前期	1		
		1220	DP1, DP2, DP3	292014	調理学実習Ⅰ（和食と伝統料理）		1	1	後期	5		2時限連続授業 「基礎調理科学（292013）」の単位を修得した学生のみ履修可
		1200	DP1, DP2, DP3	292015	応用調理科学		2	1	後期	10		
		1210	DP1, DP2, DP3	292016	調理科学実験		1	1	後期	5		2時限連続授業 「応用調理科学（292015）」の単位を修得済みまたは同時履修の学生のみ履修可
		1220	DP1, DP2, DP3	292017	調理学実習Ⅱ（世界の郷土料理）		1	2	前期	5		2時限連続授業 「基礎調理科学（292013）」の単位を修得した学生のみ履修可
	健康学領域	1300	DP1, DP2, DP3	292018	生体の化学	2		1	前期	1		（食）
		1300	DP1, DP2, DP3	292019	人体の構造と機能（解剖生理学）		2	1	前期	10		（食）
		1300	DP1, DP2, DP3	292020	健康の科学	2		1	後期	1		
		1300	DP1, DP2, DP3	292021	生化学		2	2	前期	10		（食）
		1300	DP1, DP2, DP3	292022	微生物学		2	2	前期	10		（食）
	栄養学領域	1400	DP1, DP2, DP3	292023	健康栄養学	2		1	後期	1		（食）
		1400	DP1, DP2, DP3	292024	栄養化学		2	1	後期	10		（食）
		1400	DP1, DP2, DP3	292025	ライフステージ栄養学	2		2	前期	1		（食）
	食文化領域	1500	DP1, DP2, DP3	292026	食文化論	2		2	前期	1		
		1500	DP1, DP2, DP3	292027	食空間・コーディネート論		2	2	前期	10		
		1520	DP1, DP2, DP3	292028	食空間・コーディネート実習		1	2	後期	5		2時限連続授業 「食空間・コーディネート論（292027）」の単位を修得した学生のみ履修可
	食創生領域	1600	DP1, DP2, DP3	292029	社会と健康	2		1	後期	1		
		1600	DP1, DP2, DP3	292030	衛生管理学（食品衛生と食品製造）		2	2	前期	10		

（注１）実験科目：「食品学実験」、「食品衛生学実験」、「食品分析学実験」、「調理科学実験」から１単位以上を選択必修とする。
（注２）実習科目：「食品加工学実習」、「調理学実習Ⅰ（和食と伝統料理）」、「調理学実習Ⅱ（世界の郷土料理）」、「食空間・コーディネート実習」から１単位以上を選択必修とする。

科目群		ナンバリング	DP番号	科目番号	科　目	必修単位	選択単位	履修年次	開講学期	開講最少履修者数（目安）	卒業要件	備　考
専門中心科目	食品学領域	2100	DP1, DP2, DP3	292031	食品学Ⅱ		2	2	後期	10		
		2100	DP1, DP2, DP3	292032	食品機能学		2	2	後期	10		（食）
		2100	DP1, DP2, DP3	292033	発酵食品学		2	3	前期	10		
		2100	DP1, DP2, DP3	292034	食品バイオテクノロジー学		2	3	前期	10		（食）
		2130	DP1, DP2, DP3	292035	食品の官能検査・識別演習		2	3	前期	5		
		2100	DP1, DP2, DP3	292036	食品学Ⅲ		2	3	後期	10		
		2100	DP1, DP2, DP3	292037	食品製造学Ⅰ		2	3	後期	10		（食）
		2100	DP1, DP2, DP3	292038	食品製造学Ⅱ		2	4	前期	10		
	調理学領域	2230	DP1, DP2, DP3	292039	食卓美学演習		2	4	前期	5		
	健康学領域	2300	DP1, DP2, DP3	292040	健康政策学		2	2	後期	10		
		2300	DP1, DP2, DP3	292041	運動と栄養		2	2	後期	10		
		2300	DP1, DP2, DP3	292042	医療総論		2	3	前期	10		
		2300	DP1, DP2, DP3	292043	薬理概論		2	3	前期	10		
		2300	DP1, DP2, DP3	292044	健康マネジメント論		2	3	後期	10		
		2300	DP1, DP2, DP3	292045	医食同源論		2	3	後期	10		
	栄養学領域	2400	DP1, DP2, DP3	292046	公衆栄養学		2	2	前期	10		
		2400	DP1, DP2, DP3	292047	臨床栄養学		2	2	後期	10		
		2430	DP1, DP2, DP3	292048	栄養情報活用演習（栄養疫学演習）		2	2	後期	5		（食）

科目群		ナンバリング	DP番号	科目番号	科　目	必修単位	選択単位	履修年次	開講学期	開講最少履修者数（目安）	卒業要件	備　考
専門中心科目	食文化領域	2500	DP1, DP2, DP3	292049	現代食生活論		2	2	前期	10		
		2530	DP1, DP2, DP3	292050	食文化演習		2	2	後期	5		
		2500	DP1, DP2, DP3	292051	民俗食生活学		2	2	後期	10		
		2500	DP1, DP2, DP3	292052	東洋食生活論		2	2	後期	10		
		2500	DP1, DP2, DP3	292053	フードスペシャリスト論		2	3	前期	10		
		2500	DP1, DP2, DP3	292054	フードコーディネート論		2	3	前期	10		
	食創生領域	2600	DP1, DP2, DP3	292055	食品流通・消費学		2	2	前期	10		
		2600	DP1, DP2, DP3	292056	公衆衛生学		2	2	前期	10		（食）
		2600	DP1, DP2, DP3	292057	食品表示・法規論		2	2	後期	10		
		2600	DP1, DP2, DP3	292058	食マーケティング論		2	3	前期	10		
		2600	DP1, DP2, DP3	292059	地域食論		2	3	前期	10		
		2600	DP1, DP2, DP3	292060	知的財産管理論		2	3	前期	10		
		2600	DP1, DP2, DP3	292061	商品開発論		2	3	後期	10		
		2630	DP1, DP2, DP3	292062	地域食開発演習		2	3	後期	5		
		2630	DP1, DP2, DP3	292063	テーブルマナー演習		2	3	後期	5		

科目群	ナンバリング	DP番号	科目番号	科　目	必修単位	選択単位	履修年次	開講学期	開講最少履修者数（目安）	卒業要件	備　考
学科発展科目	3730	DP1, DP2, DP3	292064	食創造科学基礎演習	1		1	後期	1		1/4期科目
	3730	DP1, DP2, DP3	292065	専門基礎演習Ⅰ	1		2	前期	1		1/4期科目
	3730	DP1, DP2, DP3	292066	専門基礎演習Ⅱ	2		2	後期	1		
	3730	DP1, DP2, DP3	292067	食創造科学研究Ⅰ	2		3	前期	1		
	3730	DP1, DP2, DP3	292068	食創造科学研究Ⅱ	2		3	後期	1		
	3730	DP1, DP2, DP3	292069	食創造科学研究Ⅲ	2		4	前期	1		
	3730	DP1, DP2, DP3	292070	食創造科学研究Ⅳ	2		4	後期	1		
	3730	DP1, DP2, DP3	292071	卒業論文	4		4	通年	1		

（食）食品衛生監視員・食品衛生管理者（任用資格）取得必修単位

●卒業に必要な単位に算入されない科目

科目群	ナンバリング	DP番号	科目番号	科　目	必修単位	選択単位	履修年次	開講学期	開講最少履修者数（目安）	卒業要件	備　考
学部基礎科目	1000	DP1	290006	基礎化学		2	1	前期	1		成績は「合」「否」により評価
	1000	DP1	290007	基礎生物学		2	1	前期	1		成績は「合」「否」により評価

福祉貢献学部カリキュラムと卒業要件

AICHI SHUKUTOKU UNIVERSITY

1 ディプロマ・ポリシー（人材養成像）

愛知淑徳大学福祉貢献学部では、福祉に関する社会のしくみと対象の理解に必要な基礎知識を修得したうえで、対象者の求めと必要を理解し、総合的に判断・実践できる人材の育成を目標にしている。この教育目標を達成するために、以下にあげるような能力を習得した学生に学位を授与する。

① 知識・理解

人を多面的に理解し、人と社会環境の視点から問題・課題を理解することができる。

② 関心・意欲・態度

乳幼児期から高齢期までの人々の尊厳を重視してかかわることができる。

③ 思考・判断

対象者の求めと必要を理解し、総合的に判断することができる。

④ 技能・表現

体験と実習をとおして学びを深め、専門職としての基礎的実践力を身につけている。

2 カリキュラム・ポリシー（ディプロマ・ポリシーに整合し、それを保証するカリキュラムの体系性を記したもの）

福祉貢献学部では、乳幼児期から高齢期までの各ライフステージにおいて、すべての人が一人の人間として尊重され、その人らしく豊かな人生を送ることができる社会を希求する福祉マインドを養うことを目的としている。そして、超少子高齢社会で活躍する福祉マインドをもった高度な専門性を備えた福祉専門職、ならびに広く社会の様々な分野で活躍し、共生社会の実現に貢献する人材を育成するという二つの目的を達成するため以下のような方針でカリキュラムを編成する。

福祉貢献学部独自のカリキュラムでは、１・２年次学部基礎科目において「福祉マインドを培う」「福祉に関する社会のしくみと対象の理解」に必要な基礎知識を修得するとともに、１年次から４年次まで「対象者の求めと必要」を理解し、「総合的に判断・実践できる力」を身につけるため各専攻が設定した科目群において、それぞれの段階で、福祉・教育に関する知識と研究方法を学修することができる。

以下、福祉貢献学部各専攻の独自のカリキュラムの設置の教育的狙いについて概要を示す。

① 社会福祉専攻

社会福祉専攻では、社会福祉、精神保健福祉、福祉関連の３つの科目群を置き、社会福祉士、精神保健福祉士等の国家資格を目指し、専門職としての実践を通して社会に貢献する人材、および教育や福祉に関する専門的知識・実践力・マインドを習得し、福祉社会の成熟に貢献できる人材の育成のためのカリキュラムを編成する。資格取得に向けて、社会福祉学および関連する学問の知識を学修するとともに援助技術・実践力を体系的に積み上げることができるようにするだけでなく、人々の生活に向き合い、地域社会に貢献する人間力を身につけることも視野に置いている。

１年次　社会福祉の本質・目的、社会のしくみを理解し、対象者に関する基礎理論を学ぶ科目を配置する。

２・３年次　社会福祉援助の基礎的技術を習得し、対象者の求めと必要に応じた総合的判断をすることができる科目と実習を配置する。

４年次　ゼミをとおして、専門的な学びを深め、卒業研究/卒業論文に取り組む。

② 子ども福祉専攻

子ども福祉専攻では、子ども家庭福祉、保育・幼児教育、子ども福祉関連の３つの科目群を置き、保育士資格や幼稚園教諭免許状の取得を目指し、幼児教育の専門家として中心的な役割を担い得る人材、および幼児教育の範囲にとどまらず社会福祉の知識をも利用して、社会が必要とすることに積極的にかかわれる人材の育成を目指す。さらに卒業研究および資格・免許の取得に向けて取り組む中で、子ども福祉および関連領域の学問の知識を学修するとともに保育・幼児教育の技術・実践力を体系的に積み上げることができるようにする。

１年次　保育・幼児教育の本質・目的を理解し、子どもの発達に関する基礎理論を学ぶ科目を配置する。

２・３年次　保育の基礎的技術、内容、方法を身につけ、子どもが主体の環境を構成するための科目と実習を配置する。

４年次　ゼミをとおして、専門的な学びを深め、卒業研究/卒業論文に取り組む。

3　アドミッション・ポリシー

福祉貢献学部は、福祉マインドを培い、福祉的な思考と実践力を身につけ、社会福祉、及び子ども福祉分野で活躍したいと希望する学生を求める。

●福祉貢献学科　社会福祉専攻

①学生に期待すること

社会福祉の仕事に関心を持ち、人間や社会について広い視野に立って学ぶとともに、福祉現場での実習や地域活動に主体的に取り組み、実践力を育てることを期待する。

②学生募集に際して重視すること

様々な人々と関わり援助することに前向きに取り組む姿勢や肯定的な人間関係を育む能力を有すること。また、大学での学びの基盤となる高校等での学習習慣と基礎学力が養われていることを重視する。

③入学前学習として奨励すること

社会福祉の専門職は、人の生活に直面しなければならない。メディア等を通じて生活問題や社会福祉の動向に関心を持ち、考える習慣を身につける。また、様々な活動に参加し、主体的な行動力と安定した社会性を培う。

●福祉貢献学科　子ども福祉専攻

①学生に期待すること

保育士や幼稚園教諭の仕事に関心を持ち、必要な専門的知識や技術の習得に取り組むこと。人間形成に関わる仕事の重要性を自覚し、個性豊かな保育者をめざして努力することを期待する。

②学生募集に際して重視すること

子どもの成長を援助することに前向きに取り組む姿勢や、肯定的な人間関係を育む能力を有すること。また、大学での学びの基盤となる高校等での学習習慣と基礎学力が養われていることを重視する。

③入学前学習として奨励すること

保育士や幼稚園教諭など子どもの育ちや子育てを支援する専門職には、寛容な人間性と多様な能力が要求される。様々な活動に参加し、主体的な行動力と安定した社会性を培うこと。また、子どもや家庭を取り巻く社会の動向にも目を向ける。

4 卒業に必要な単位（卒業要件単位数）

本学の福祉貢献学部を卒業するためには、4年以上在学（休学期間は含まない）し、**124単位**以上修得しなければならない（「愛知淑徳大学学則第47条」）。その内訳は次の表のとおりである。

■2025年度入学者

<table>
<tr><th colspan="3" rowspan="2">授業科目の種類</th><th colspan="2">卒業に必要な単位数</th></tr>
<tr><th>社会福祉専攻</th><th>子ども福祉専攻</th></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="3">専門教育科目※</td><td>学部共通科目</td><td>14単位以上（必修10単位を含む）</td><td>14単位以上（必修8単位を含む）</td></tr>
<tr><td>社会福祉・精神保健福祉科目</td><td>68単位以上(必修28単位、選択必修2単位以上を含む)</td><td></td></tr>
<tr><td>子ども家庭福祉科目</td><td></td><td>68単位以上(必修32単位、選択必修2単位以上を含む)</td></tr>
<tr><td rowspan="11">全学共通履修科目</td><td rowspan="2">基幹科目</td><td>違いを共に生きる科目</td><td rowspan="2">8単位以上
（「違いを共に生きる･ライフデザイン」「AI･データサイエンス入門[M]」必修4単位およびAI･データサイエンス科目（「AI･データサイエンス入門[M]」を除く）の中から4単位以上を含む）</td><td rowspan="2">8単位以上
（「違いを共に生きる･ライフデザイン」「AI･データサイエンス入門[M]」必修4単位およびAI･データサイエンス科目（「AI･データサイエンス入門[M]」を除く）の中から4単位以上を含む）</td></tr>
<tr><td>AI・データサイエンス科目</td></tr>
<tr><td rowspan="5">アクティブラーニング科目</td><td>国際交流センター開設科目</td><td rowspan="5">4単位以上
（「日本語表現1」必修2単位を含む）</td><td rowspan="5">4単位以上
（「日本語表現1」必修2単位を含む）</td></tr>
<tr><td>CCC開設科目</td></tr>
<tr><td>キャリアセンター開設科目</td></tr>
<tr><td>ダイバーシティ共生センター開設科目</td></tr>
<tr><td>学修・教育支援センター開設科目</td></tr>
<tr><td rowspan="2">スキル科目</td><td>言語活用科目（英語）</td><td rowspan="2">4単位以上</td><td rowspan="2">4単位以上</td></tr>
<tr><td>言語活用科目（初めての外国語）</td></tr>
<tr><td rowspan="3">学部認定科目</td><td colspan="2">他学部・他学科開放科目</td><td rowspan="3">0単位以上</td><td rowspan="3">0単位以上</td></tr>
<tr><td colspan="2">愛知学長懇話会単位互換科目（上限10単位）</td></tr>
<tr><td colspan="2">放送大学単位互換科目（上限10単位）</td></tr>
<tr><td colspan="3">合　計</td><td>124単位以上</td><td>124単位以上</td></tr>
</table>

※　専門教育科目の卒業要件単位の詳細はカリキュラム表を参照する。

なお、以下の表にある科目は、**卒業に必要な単位に算入されない**ため、注意する。

①言語活用科目（英語） 「Introduction to English」	②教職課程科目	③学芸員課程科目
④司書課程科目	⑤コンピュータ資格科目	⑥会計教育科目
⑦研究科開放科目	⑧文学部国文学科専門教育科目 「学びなおし古文」「学びなおし漢文」	⑨建築学部建築学科専門教育科目 「基礎数学」
⑩食健康科学部専門教育科目 「基礎化学」「基礎生物学」		

5 履修上の注意

福祉貢献学部は、様々な資格を取得して卒業することを前提にカリキュラムが組まれている。また、本学部で取得できる資格は、卒業が資格取得の前提条件になる。本学部の履修上の注意は（1）卒業する上での注意（学部共通）および（2）資格取得上の注意をよく読むこと。

（1）卒業する上での注意（学部共通）

1．授業科目の履修については「履修要覧」「シラバス」および「時間割表」を参照すること。
2．入学年次により履修登録の上限が異なるため注意すること（「履修登録　5．履修登録単位数の上限」を参照）。4年間で卒業要件単位（「福祉貢献学部カリキュラムと卒業要件　4．卒業に必要な単位（卒業要件単位数）」を参照）を修得できるよう、計画的な履修を行うこと。1年次、2年次に可能な限り多く単位を修得することが望ましい。
3．必修科目は指定された学年で必ず履修し、単位を修得すること。定められた必修科目を定められた学年で修得しないと、卒業延期の可能性が増すので注意すること。
4．福祉貢献学部の科目は全学に共通する科目群（全学共通履修科目）、学部が設置した科目群（専門教育科目）、学部が認定する科目群（学部認定科目）の3つからなっている。以下枠内参照。
5．本学部を卒業するためには、上のすべての要件を満たし、合計124単位以上を修得すること。
6．資格を取得せず卒業をする学生は、学習目的を明確にし、履修計画を立てなければならない。そのため、各担当アドバイザーに十分相談・指導を受けること。
7．福祉貢献学部の科目には、一年を通した評価が必要な科目がある。この場合、前期科目の成績が後期に評価される。

（ア）全学共通履修科目は、基幹科目、アクティブラーニング科目、スキル科目に分けられる。
A　基幹科目の中の違いを共に生きる科目「違いを共に生きる・ライフデザイン」「AI・データサイエンス入門[M]」必修4単位およびAI･データサイエンス科目4単位以上を含んで、8単位以上修得すること（1年次、2年次での履修が望ましい）。
B　アクティブラーニング科目の中から「日本語表現1」必修2単位を含んで、4単位以上修得すること。
C　スキル科目の中の、言語活用科目から4単位以上修得すること（1年次、2年次での履修が望ましい）。
（イ）本学部における専門教育科目は、社会福祉専攻が学部共通科目と社会福祉・精神保健福祉科目、子ども福祉専攻が学部共通科目と子ども家庭福祉科目から構成されている。

a【社会福祉専攻】

（a）学部共通科目

学部共通科目の中から、必修科目である「基礎ゼミ」、「社会福祉調査の基礎」、「現代の精神保健の課題と支援Ⅰ」、「児童・家庭福祉」、「キャリアデザイン（福祉貢献）」の5科目（10単位）を含む14単位以上を修得すること。

（b）社会福祉・精神保健福祉科目

社会福祉・精神保健福祉科目の中から、必修科目である「社会福祉の原理と政策Ⅰ」、「ソーシャルワークの基盤と専門職」、「精神保健福祉の原理Ⅰ」、「ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ」、「ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ」、「高齢者福祉」、「障害者福祉」、「地域福祉と包括的支援体制Ⅰ」、「社会保障Ⅰ」、「ソーシャルワーク演習」、「福祉貢献基礎Ⅰ」、「福祉貢献基礎Ⅱ」、「福祉貢献研究Ⅰ」、「福祉貢献研究Ⅱ」の14科目（28単位）及び「卒業研究（2単位）」もしくは「卒業論文（4単位）」のいずれかを含む68単位以上を修得すること。

b【子ども福祉専攻】

（a）学部共通科目

学部共通科目の中から、必修科目である「基礎ゼミ」、「発達心理学」、「児童・家庭福祉」、「キャリアデザイン（福祉貢献）」の４科目（８単位）を含む14単位以上を修得すること。

（b）子ども家庭福祉科目

子ども家庭福祉科目の中から、必修科目である「社会福祉概論」、「社会的養護Ⅰ」、「子どもの保健」、「子どもの食と栄養」、「教育原理」、「保育原理Ⅰ」、「保育内容総論Ⅰ」、「子どもと健康」、「子どもと人間関係」、「保育内容 環境Ⅰ」、「保育内容 言葉Ⅰ」、「保育内容 表現Ⅰ」、「乳児保育論」、「障害児福祉」、「実習入門」、「福祉貢献基礎Ⅰ」、「福祉貢献基礎Ⅱ」、「福祉貢献研究Ⅰ」、「福祉貢献研究Ⅱ」の19科目（32単位）及び「卒業研究（２単位）」もしくは「卒業論文（４単位）」のいずれかを含む68単位以上を修得すること。

（２）資格取得上の注意

ア．卒業必要要件を満たした上で、各種の資格取得に必要な単位を履修しなければならない。そのため、１年次、２年次にできる限り資格取得に必要な必修科目と修得可能な科目を履修すること。

イ．科目の必修、選択の区別は、「卒業に必要な要件」という基準に基づいて分類されている。資格取得のためには「福祉貢献学部で取得できる資格」を熟読し、希望する資格の指定科目を履修すること。

（３）「福祉貢献研究Ⅰ・Ⅱ」、及び「卒業研究」「卒業論文」について

ア．「福祉貢献研究Ⅰ・Ⅱ」では卒業研究のプロセス、「卒業研究」「卒業論文」では提出された成果物を評価する。

イ．「卒業研究」「卒業論文」において人間を対象にした実証研究を行う場合、指導教員による研究倫理審査を行う。該当者は研究実施前に倫理審査申請書を提出すること（詳細は「福祉貢献研究Ⅰ」の初回授業時に指示する）。

ウ．「卒業研究」「卒業論文」は、ゼミごとに統一された書式に則り、作成を行う。詳細は授業内で説明するため、各自指示に従い、卒業研究レポート、卒業論文を作成すること。

エ．「卒業研究」「卒業論文」の提出期限、提出方法は、学部で定めることとする。詳細は、年度当初の教務ガイダンスで説明する。

オ．「卒業研究」「卒業論文」の報告会をゼミごとに実施する。日程、場所等については、指導教員の指示に従うこと。

カ．「卒業論文」の審査方法については、シラバス及び年度当初の教務ガイダンスで説明する。

6 カリキュラム表（福祉貢献学部 専門教育科目）

社会福祉専攻

科目群		ナンバリング	DP番号	科目番号	科目	必修単位	選択単位	履修年次	開講学期	開講最少履修者数（目安）	卒業要件	備考
学部共通科目	人間理解	1000	DP2	252001	基礎ゼミ	2		1	前期	1	14単位以上（必修10単位を含む）	
		1000	DP2	251002	人間と倫理		2	1	後期	1		学部内合同開講
		1000	DP1	251108	医学概論		2	1	前期	1		○● 学部内合同開講
		1000	DP1	251009	発達心理学		2	3	前期	1		
		1000	DP1	251109	心理学と心理的支援		2	1	後期	1		○●
	人間・社会と福祉の基礎	1010	DP1	251110	社会学と社会システム		2	1	後期	1		○● 学部内合同開講
		2010	DP3	251111	社会福祉調査の基礎	2		3	前期	1		○● 学部内合同開講
		1010	DP1	251112	現代の精神保健の課題と支援Ⅰ	2		1	前期	1		● 学部内合同開講
		1010	DP1	251114	児童・家庭福祉	2		1	前期	1		○ 学部内合同開講
	キャリア形成	1020	DP2	252002	キャリアデザイン（福祉貢献）	2		2	後期	1		成績は「合」「否」により評価
社会福祉・精神保健福祉科目	人間・社会と福祉	1100	DP1	252201	社会福祉の原理と政策Ⅰ	2		2	後期	1	68単位以上（必修28単位、選択必修2単位以上を含む）	○●
		1100	DP1	252202	社会福祉の原理と政策Ⅱ		2	3	後期	1		○●
		1100	DP1	252203	精神医学と精神医療Ⅰ		2	2	後期	1		●
		2100	DP3	252204	精神医学と精神医療Ⅱ		2	3	前期	1		●
		2100	DP1	252205	現代の精神保健の課題と支援Ⅱ		2	2	後期	1		● 学部内合同開講
		2100	DP3	252106	福祉貢献特論Ⅰ		2	4	前期	1		成績は「合」「否」により評価 履修要件あり（詳細は年度当初ガイダンスにて説明あり）
		2100	DP3	252107	福祉貢献特論Ⅱ		2	4	後期	1		成績は「合」「否」により評価 履修要件あり
		2130	DP4	252108	介護技術		2	2	前期・後期	1		
	社会福祉・精神保健福祉理論	1110	DP1	253101	ソーシャルワークの基盤と専門職	2		1	前期	1		○●
		1110	DP1	253102	ソーシャルワークの基盤と専門職（専門）		2	1	後期	1		○
		1110	DP1	252206	精神保健福祉の原理Ⅰ	2		1	後期	1		●
		2110	DP3	252207	精神保健福祉の原理Ⅱ		2	4	後期	1		●
		2110	DP3	253103	ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ	2		2	前期	1		○●
		2110	DP3	253104	ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ	2		2	後期	1		○●
		3110	DP3	253105	ソーシャルワークの理論と方法（専門）Ⅰ		2	3	前期	1		○
		3110	DP3	253106	ソーシャルワークの理論と方法（専門）Ⅱ		2	3	後期	1		○

○…社会福祉士国家試験受験資格指定科目　●…精神保健福祉士国家試験受験資格指定科目

社会福祉専攻

科目群		ナンバリング	DP番号	科目番号	科　目	必修単位	選択単位	履修年次	開講学期	開講最少履修者数（目安）	卒業要件	備　考
社会福祉・精神保健福祉科目	社会福祉・精神保健福祉各論	1120	DP1	252236	高齢者福祉	2		1	後期	1		○ 学部内合同開講
		2120	DP3	252237	高齢者福祉（専門）		2	2	前期	10		
		1120	DP1	252238	障害者福祉	2		1	後期	1		○● 学部内合同開講
		2120	DP3	252239	障害者福祉（専門）		2	1	後期	10		
		2120	DP3	252240	児童・家庭福祉（専門）		2	1	後期	1		学部内合同開講
		1120	DP1	252213	地域福祉と包括的支援体制Ⅰ	2		2	前期	1		○●
		2120	DP3	252214	地域福祉と包括的支援体制Ⅱ		2	2	後期	1		○●
		1120	DP1	252215	社会保障Ⅰ	2		2	前期	1		○●
		2120	DP1	252216	社会保障Ⅱ		2	2	後期	1		○●
		2120	DP1	252217	貧困に対する支援		2	2	前期	1		○
		2120	DP1	253107	保健医療と福祉		2	2	前期	1		○ 「ソーシャルワーク実習Ⅲ」「ソーシャルワーク実習Ⅳ」において、医療機関での実習を希望する学生は、必ず実習前までに履修しておくこと。
		2120	DP1	253108	権利擁護を支える法制度		2	2	前期	1		○●
		2120	DP3	253109	刑事司法と福祉		2	3	後期	1		○●
		2120	DP1	253070	福祉サービスの組織と経営		2	2	後期	1		○ 学部内合同開講
		2120	DP1	255064	社会的養護Ⅰ		2	2	前期	1		学部内合同開講 「ソーシャルワーク実習Ⅰ」「ソーシャルワーク実習Ⅱ」において、児童養護施設、児童心理治療施設で実習予定の学生のみ履修可。
		2120	DP3	255065	社会的養護Ⅱ		1	2	後期	1		
		2120	DP3	252120	障害児福祉		2	2	後期	1		
		2120	DP3	252218	ソーシャルワークの理論と方法（精神専門）Ⅰ		2	2	後期	1		●
		2120	DP3	252219	ソーシャルワークの理論と方法（精神専門）Ⅱ		2	3	前期	1		●
		3120	DP3	252220	精神障害リハビリテーション論		2	3	後期	1		●
		2120	DP3	252221	精神保健福祉制度論		2	3	前期	1		●
	社会福祉・精神保健福祉演習	2130	DP4	252222	ソーシャルワーク演習	2		1	後期	1		○●
		2130	DP4	252223	ソーシャルワーク演習（専門）Ⅰ		2	2	前期	1		○ 「ソーシャルワーク演習」の単位を修得した学生のみ履修可。
		2130	DP4	252224	ソーシャルワーク演習（専門）Ⅱ		2	2	後期	1		○ 「ソーシャルワーク演習（専門）Ⅰ」の単位を修得した学生のみ履修可。
		3130	DP4	252225	ソーシャルワーク演習（専門）Ⅲ		2	3	前期	1		○ 「ソーシャルワーク演習（専門）Ⅱ」の単位を修得した学生のみ履修可。 ただし「ソーシャルワーク実習Ⅰ・Ⅱ」を履修しない年度は履修不可。

○…社会福祉士国家試験受験資格指定科目　●…精神保健福祉士国家試験受験資格指定科目

社会福祉専攻

科目群		ナンバリング	DP番号	科目番号	科　目	必修単位	選択単位	履修年次	開講学期	開講最少履修者数（目安）	卒業要件	備　考
社会福祉・精神保健福祉科目	社会福祉・精神保健福祉演習	3130	DP4	252226	ソーシャルワーク演習（専門）Ⅳ		2	3	後期	1		○ 「ソーシャルワーク演習（専門）Ⅲ」の単位を修得した学生のみ履修可。 ただし「ソーシャルワーク実習Ⅰ・Ⅱ」を履修しない年度は履修不可。
		3130	DP4	253071	精神保健福祉援助演習（専門）Ⅰ		2	2	後期	1		● 「精神保健福祉援助実習Ⅰ・Ⅱ」の先行履修科目を修得できていない学生は履修不可。
		3130	DP4	253072	精神保健福祉援助演習（専門）Ⅱ		2	3	後期	1		● 「精神保健福祉援助演習（専門）Ⅰ」の単位を修得した学生のみ履修可。
		3130	DP4	252227	精神保健福祉援助演習（専門）Ⅲ		2	4	後期	1		● 「精神保健福祉援助演習（専門）Ⅰ・Ⅱ」の単位を修得した学生のみ履修可。
	社会福祉・精神保健福祉実習	2140	DP4	252229	ソーシャルワーク実習指導Ⅰ		2	2	後期	1		○ 履修については、履修要覧の福祉貢献学部で取得できる資格のページをよく確認すること。 この科目の履修登録は教務事務室が行うので、各自登録は不要。 不明点があれば、教務委員に問い合わせること。
		3140	DP4	252230	ソーシャルワーク実習指導Ⅱ		2	3	前期	1		○ 履修については、履修要覧の福祉貢献学部で取得できる資格のページをよく確認すること。
		3140	DP4	252231	ソーシャルワーク実習指導Ⅲ		2	3	後期	1		
		3140	DP4	252241	ソーシャルワーク実習指導Ⅳ		2	3	前期・後期	1		○ 「ソーシャルワーク実習Ⅲ・Ⅳ」を医療機関で行う学生および精神保健福祉援助実習を予定している学生と、その他の学生で、履修できる時期およびクラスが異なる。専攻の指示に従って登録すること。 履修については、履修要覧の福祉貢献学部で取得できる資格のページをよく確認すること。
		3140	DP4	252242	ソーシャルワーク実習指導Ⅴ		2	3･4	通年	1		○ この科目は、3・4年次開講だが、「ソーシャルワーク実習Ⅲ・Ⅳ」を医療機関で行う学生および精神保健福祉援助実習を予定している学生と、その他の学生で、履修できるクラスおよび年次が異なる。専攻の指示に従って登録すること。 履修については、履修要覧の福祉貢献学部で取得できる資格のページをよく確認すること。
		3140	DP4	252243	ソーシャルワーク実習Ⅰ		2	3	前期	1		○ 学外実習 履修については、履修要覧の福祉貢献学部で取得できる資格のページをよく確認すること。
		3140	DP4	252244	ソーシャルワーク実習Ⅱ		2	3	後期	1		

○…社会福祉士国家試験受験資格指定科目　●…精神保健福祉士国家試験受験資格指定科目

社会福祉専攻

科目群		ナンバリング	DP番号	科目番号	科　目	必修単位	選択単位	履修年次	開講学期	開講最少履修者数（目安）	卒業要件	備　考
社会福祉・精神保健福祉科目	社会福祉・精神保健福祉実習	3140	DP4	252245	ソーシャルワーク実習Ⅲ		1	3･4	前期	1		○ 学外実習 この科目は、３・４年次開講だが、「ソーシャルワーク実習Ⅲ・Ⅳ」を医療機関で行う学生および精神保健福祉援助実習を予定している学生と、その他の学生で、履修できるクラスおよび年次が異なる（医療機関および精神保健実習予定者は３年前期。その他の学生は４年前期に履修）。専攻の指示に従って登録すること。 履修については、履修要覧の福祉貢献学部で取得できる資格のページをよく確認すること。
		3140	DP4	252246	ソーシャルワーク実習Ⅳ		1	3･4	後期	1		○ 学外実習 この科目は、３・４年次開講だが、「ソーシャルワーク実習Ⅲ・Ⅳ」を医療機関で行う学生および精神保健福祉援助実習を予定している学生と、その他の学生で、履修できるクラスおよび年次が異なる（医療機関および精神保健実習予定者は３年後期。その他の学生は４年後期に履修）。専攻の指示に従って登録すること。 履修については、履修要覧の福祉貢献学部で取得できる資格のページをよく確認すること。
		3140	DP4	253073	精神保健福祉援助実習指導Ⅰ		2	3	前期	1		● 履修については、履修要覧の福祉貢献学部で取得できる資格のページをよく確認すること。
		3140	DP4	253074	精神保健福祉援助実習指導Ⅱ		2	3	後期	1		
		3140	DP4	253075	精神保健福祉援助実習指導Ⅲ		2	4	前期	1		
		3140	DP4	253076	精神保健福祉援助実習Ⅰ		2	3	後期	1		● 学外実習 履修については、履修要覧の福祉貢献学部で取得できる資格のページをよく確認すること。
		3140	DP4	253077	精神保健福祉援助実習Ⅱ		2	4	前期	1		
	卒業研究	2150	DP4	253059	福祉貢献基礎Ⅰ	2		3	前期	1		学部内合同開講 「基礎ゼミ」の単位を修得した学生のみ履修可。 「福祉貢献基礎Ⅰ・Ⅱ」は同一ゼミでの履修となるが、特別な事情によりゼミ変更を希望する場合は、各専攻の教務委員に申し出ること。
		2150	DP4	253060	福祉貢献基礎Ⅱ	2		3	後期	1		
		3150	DP1, DP2, DP3, DP4	253061	福祉貢献研究Ⅰ	2		4	前期	1		学部内合同開講 原則「福祉貢献基礎Ⅰ・Ⅱ」の単位を修得した学生のみ履修可。 「福祉貢献研究Ⅰ・Ⅱ」は同一ゼミでの履修となるが、特別な事情によりゼミ変更を希望する場合は、各専攻の教務委員に申し出ること。
		3150	DP1, DP2, DP3, DP4	253062	福祉貢献研究Ⅱ	2		4	後期	1		

○…社会福祉士国家試験受験資格指定科目　●…精神保健福祉士国家試験受験資格指定科目

社会福祉専攻

科目群		ナンバリング	DP番号	科目番号	科　目	必修単位	選択単位	履修年次	開講学期	開講最少履修者数（目安）	卒業要件	備　考
社会福祉・精神保健福祉科目	卒業研究	3150	DP1, DP2, DP3, DP4	253066	卒業研究		2	4	後期	1	2単位以上必修	学部内合同開講 卒業研究、卒業論文のいずれかひとつを履修しなければならない（選択必修科目）。 大学院進学を検討している学生は、卒業論文を選択すること。
		3150	DP1, DP2, DP3, DP4	253063	卒業論文		4	4	後期	1		
	福祉環境	1210	DP1	252147	保育学概論		2	1	前期	10		
		2210	DP4	252148	保育学演習		2	2	後期	5		
		2210	DP3	254110	子ども福祉の動向Ⅰ		2	3	前期	10		学部内合同開講 成績は「合」「否」により評価
		2210	DP3	254111	子ども福祉の動向Ⅱ		2	3	後期	10		学部内合同開講 成績は「合」「否」により評価
		2210	DP1	252149	災害時活動支援論		2	2	前期	10		
		2210	DP4	252150	災害時活動支援演習		2	2	前期	5		「災害時活動支援論」を履修していることが望ましい。
		2210	DP1	252151	現代時事問題論		2	3	前期	10		
		3210	DP4	252152	クリティカル・シンキング演習		2	3	後期	5		
		2210	DP1	253044	社会心理学		2	2	前期	10		
		2210	DP1	253045	コミュニティ心理学		2	3	後期	10		
		2210	DP1	253055	福祉環境論		2	3	後期	10		
		2210	DP1	253057	社会福祉発達史		2	2	前期	10		
		2210	DP1	253058	国際福祉論		2	2	前期	10		
		2210	DP1	253049	マイノリティと現代社会		2	2	後期	10		

子ども福祉専攻

科目群		ナンバリング	DP番号	科目番号	科　目	必修単位	選択単位	履修年次	開講学期	開講最少履修者数（目安）	卒業要件	備　考
学部共通	人間理解	1000	DP2	254001	基礎ゼミ	2		1	前期	1	14単位以上（必修8単位を含む）	
		1000	DP2	251002	人間と倫理		2	1	後期	1		学部内合同開講
		1000	DP1	251108	医学概論		2	1	前期	1		学部内合同開講
		1000	DP1	251009	発達心理学	2		1	前期	1		
		1000	DP1	251109	心理学と心理的支援		2	3	後期	1		
	人間・社会と福祉の基礎	1010	DP1	251110	社会学と社会システム		2	1	後期	1		学部内合同開講
		2010	DP3	251111	社会福祉調査の基礎		2	3	前期	1		学部内合同開講
		1010	DP1	251112	現代の精神保健の課題と支援Ⅰ		2	2	前期	1		学部内合同開講
		1010	DP1	251114	児童・家庭福祉	2		1	前期	1		学部内合同開講
	キャリア形成	1020	DP2	252002	キャリアデザイン（福祉貢献）	2		3	前期	1		成績は「合」「否」により評価
子ども家庭福祉科目	子ども家庭福祉理論	1100	DP1	254101	社会福祉概論	2		2	前期	1	68単位以上（必修32単位、選択必修2単位以上を含む）	
	子ども家庭福祉各論	3110	DP3	255062	子ども家庭支援論		2	2	後期	1		
		2110	DP2	255063	子育て支援		2	3	前期	1		
		2110	DP1	255064	社会的養護Ⅰ	2		2	前期	1		学部内合同開講
		2110	DP2	255065	社会的養護Ⅱ		1	2	後期	1		学部内合同開講
		2110	DP2	255066	障害児福祉	2		3	後期	1		
	子ども理解	1200	DP1	254128	教育心理学		2	1	後期	1		
		2200	DP3	255067	子ども家庭支援の心理学		2	3	後期	1		
		1200	DP1	254107	幼児理解の理論と方法		2	2	前期	1		
		3200	DP3	255037	教育相談		2	4	後期	1		
		2200	DP1	255068	子どもの保健	2		2	前期	1		
		2220	DP4	255069	子どもの健康と安全		1	2	後期	1		クラス指定
		2200	DP4	254108	子どもの食と栄養	2		1	後期	1		クラス指定
	教育・保育の理論	1210	DP1	255031	教職入門		2	2	前期	1		
		1210	DP1	254014	教育原理	2		1	後期	1		
		1210	DP1	254003	保育原理Ⅰ	2		1	前期	1		
		2210	DP1	254004	保育原理Ⅱ		2	1	後期	1		
		2210	DP1	255032	教育制度論		2	3	前期	1		
		2210	DP1	255035	教育方法論		2	3	前期	1		
		2210	DP1	255075	子どもとデジタルメディア		1	3	前期	1		
		2210	DP1	254109	教育課程論		2	3	前期	1		
		2210	DP3	254010	保育者論		2	3	後期	1		
		3210	DP3	255054	教職実践演習（幼）		2	4	後期	1		クラス指定
		2210	DP3	254110	子ども福祉の動向Ⅰ		2	3	前期	10		学部内合同開講 成績は「合」「否」により評価
		2210	DP3	254111	子ども福祉の動向Ⅱ		2	3	後期	10		学部内合同開講 成績は「合」「否」により評価
		2210	DP1	254129	スポーツと文化		2	3	前期	1		
	保育・幼児教育の内容	1220	DP2	254125	保育内容総論Ⅰ	2		1	前期	1		
		1220	DP2	254126	保育内容総論Ⅱ		2	1	後期	1		
		1220	DP2	255013	保育内容指導法		2	2	前期	1		
		1220	DP3	255070	子どもと健康	1		2	前期	1		

子ども福祉専攻

科目群		ナンバリング	DP番号	科目番号	科目	必修単位	選択単位	履修年次	開講学期	開講最少履修者数（目安）	卒業要件	備考
子ども家庭福祉科目	保育・幼児教育の内容	1220	DP4	255071	保育内容　健康		2	2	後期	1		クラス指定
		1220	DP3	255072	子どもと人間関係	1		2	前期	1		クラス指定
		1220	DP4	255073	保育内容　人間関係		2	2	後期	1		
		1220	DP3	255005	保育内容　環境Ⅰ	1		2	前期	1		クラス指定
		1220	DP4	255006	保育内容　環境Ⅱ		2	2	後期	1		
		1220	DP3	255007	保育内容　言葉Ⅰ	1		2	前期	1		クラス指定
		1220	DP4	255008	保育内容　言葉Ⅱ		2	2	後期	1		
		1220	DP3	254112	保育内容　表現Ⅰ	1		2	前期	1		クラス指定
		1220	DP4	254113	保育内容　表現Ⅱ		2	2	後期	1		クラス指定
		2220	DP2	254114	乳児保育論	2		2	前期	1		クラス指定
		2220	DP4	254115	乳児保育演習		2	2	後期	1		クラス指定
		2220	DP3	255074	特別の支援を必要とする子どもの保育		2	2	前期	1		
		2220	DP3	255023	子どもと体育		2	4	前期	1		
		2220	DP3	255022	子どもと言葉		2	3	後期	1		クラス指定
		2220	DP3	255024	子どもと生活		2	3	後期	1		
		2220	DP3	255020	子どもと音楽		2	3	前期	1		クラス指定
		2220	DP3	255021	子どもと造形		2	3	前期	1		クラス指定
		2220	DP3	254116	子どもと数・図形		2	4	前期	1		
	保育基礎技能	1230	DP4	255014	音楽基礎技能Ⅰ		1	1	前期	1		クラス指定
		1230	DP4	255015	音楽基礎技能Ⅱ		1	1	後期	1		クラス指定
		2230	DP4	254117	音楽基礎技能Ⅲ		1	3	後期	1		
		2230	DP4	254118	音楽基礎技能Ⅳ		1	4	前期	1		
		1230	DP4	254119	造形基礎技能Ⅰ		1	1	前期・後期	1		クラス指定 「造形基礎技能Ⅱ」を同時履修すること。
		1230	DP4	254120	造形基礎技能Ⅱ		1	1	前期・後期	1		クラス指定 「造形基礎技能Ⅰ」を同時履修すること。
		1230	DP4	254121	体育基礎技能Ⅰ		1	1	前期	1		クラス指定
		1230	DP4	254122	体育基礎技能Ⅱ		1	1	後期	1		クラス指定
	実習	1240	DP4	254123	実習入門	1		1	後期	1		
		2240	DP4	254127	教育実習指導Ⅰ		2	2	前期	1		成績は「合」「否」により評価
		2240	DP4	255060	教育実習Ⅰ		2	2	後期	1		学外実習 履修については、履修要覧の福祉貢献学部で取得できる資格のページをよく確認すること。
		2240	DP4	255058	保育実習指導Ⅰ		2	3	前期	1		成績は「合」「否」により評価
		2240	DP4	255042	保育実習Ⅰ（保育所）		2	3	前期	1		学外実習 履修については、履修要覧の福祉貢献学部で取得できる資格のページをよく確認すること。
		2240	DP4	255056	保育実習指導Ⅱ		2	3	後期	1		成績は「合」「否」により評価
		2240	DP4	255043	保育実習Ⅱ（保育所以外）		2	3	後期	1		学外実習 履修については、履修要覧の福祉貢献学部で取得できる資格のページをよく確認すること。

子ども福祉専攻

科目群		ナンバリング	DP番号	科目番号	科　目	必修単位	選択単位	履修年次	開講学期	開講最少履修者数（目安）	卒業要件	備　考
子ども家庭福祉科目	実習	3240	DP4	255048	教育実習Ⅱ		2	4	前期	1		学外実習 履修については、履修要覧の福祉貢献学部で取得できる資格のページをよく確認すること。 原則「教育実習Ⅰ」「教育実習指導Ⅰ」の単位を未修得の場合は履修不可。
		3240	DP4	255057	保育実習指導Ⅲ		2	4	前期	1		成績は「合」「否」により評価
		3240	DP4	255044	保育実習Ⅲ		2	4	後期	1		学外実習 履修については、履修要覧の福祉貢献学部で取得できる資格のページをよく確認すること。 原則「保育実習Ⅰ・Ⅱ」「保育実習指導Ⅰ・Ⅱ」の単位を未修得の場合は履修不可。
		3240	DP4	255059	保育実習指導Ⅳ		2	4	前期	1		成績は「合」「否」により評価
		3240	DP4	255045	保育実習Ⅳ		2	4	後期	1		学外実習 履修については、履修要覧の福祉貢献学部で取得できる資格のページをよく確認すること。 原則「保育実習Ⅰ・Ⅱ」「保育実習指導Ⅰ・Ⅱ」の単位を未修得の場合は履修不可。
	卒論・研究	2250	DP4	253059	福祉貢献基礎Ⅰ	2		3	前期	1		学部内合同開講 「基礎ゼミ」の単位を修得した学生のみ履修可。 「福祉貢献基礎Ⅰ・Ⅱ」は同一ゼミでの履修となるが、特別な事情によりゼミ変更を希望する場合は、各専攻の教務委員に申し出ること。
		2250	DP4	253060	福祉貢献基礎Ⅱ	2		3	後期	1		学部内合同開講 「基礎ゼミ」および「福祉貢献基礎Ⅰ」の単位を修得した学生のみ履修可。 「福祉貢献基礎Ⅰ・Ⅱ」は同一ゼミでの履修となるが、特別な事情によりゼミ変更を希望する場合は、各専攻の教務委員に申し出ること。
		3250	DP1, DP2, DP3, DP4	253061	福祉貢献研究Ⅰ	2		4	前期	1		学部内合同開講 原則「福祉貢献基礎Ⅰ・Ⅱ」の単位を修得した学生のみ履修可。 「福祉貢献研究Ⅰ・Ⅱ」は同一ゼミでの履修となるが、特別な事情によりゼミ変更を希望する場合は、各専攻の教務委員に申し出ること。
		3250	DP1, DP2, DP3, DP4	253062	福祉貢献研究Ⅱ	2		4	後期	1		
		3250	DP1, DP2, DP3, DP4	253066	卒業研究		2	4	後期	1	2単位以上必修	学部内合同開講 卒業研究、卒業論文のいずれかひとつを履修しなければならない（選択必修科目）。 大学院進学を検討している学生は、卒業論文を選択すること。
		3250	DP1, DP2, DP3, DP4	253063	卒業論文		4	4	後期	1		

子ども福祉専攻

科目群		ナンバリング	DP番号	科目番号	科　目	必修単位	選択単位	履修年次	開講学期	開講最少履修者数（目安）	卒業要件	備　考
子ども家庭福祉科目	コミュニティ・アクティブ・ラーニング	3300	DP4	254124	コミュニティ・アクティブ・ラーニング		2	3	前期	8		３年次に当該科目の履修を希望する場合は２年次前期までの成績、４年次の場合は３年次前期までの成績がGPA2.3以上あること。この条件をクリアしている学生のうち、当該科目を履修希望する学生は前年度の後期に行う説明会に必ず出席すること。履修希望者が12名を超えた場合は、履修希望学年の前年度後期に専攻内で選抜を行う。
	社会福祉	1310	DP1	252236	高齢者福祉		2	1	後期	1		学部内合同開講
		1310	DP1	252238	障害者福祉		2	1	後期	1		学部内合同開講
		2310	DP1	252240	児童・家庭福祉（専門）		2	1	後期	1		学部内合同開講
		2310	DP1	252205	現代の精神保健の課題と支援Ⅱ		2	2	後期	1		学部内合同開講
		2310	DP3	253070	福祉サービスの組織と経営		2	3	後期	1		学部内合同開講
	児童文化	1320	DP2	255019	絵本論		2	3	前期	1		
		3320	DP4	255076	絵本演習		2	3	後期	1		
		2320	DP2	255018	児童文学		2	4	前期	1		

福祉貢献学部で取得できる資格

AICHI SHUKUTOKU UNIVERSITY

1 社会福祉専攻

（1）社会福祉士

ア　受験資格の取得

社会福祉専攻では、「社会福祉士」の受験資格を取得するためのカリキュラムを用意している。社会福祉士となるには、本学部において、社会福祉士国家試験受験資格を取得することを目的に開講されている科目（下記のとおり）を修得し、その後、社会福祉士国家試験に合格しなければならない。

厚生労働省令で定める社会福祉士に関する科目および福祉貢献学部でそれに該当する科目との対応表は、以下のとおりである。社会福祉士国家試験受験のためには、全科目履修すること。

厚生労働省令で定める所定の科目	福祉貢献学部開講科目
医学概論	医学概論
心理学と心理的支援	心理学と心理的支援
社会学と社会システム	社会学と社会システム
社会福祉の原理と政策	社会福祉の原理と政策Ⅰ
	社会福祉の原理と政策Ⅱ
社会福祉調査の基礎	社会福祉調査の基礎
ソーシャルワークの基盤と専門職	ソーシャルワークの基盤と専門職
ソーシャルワークの基盤と専門職（専門）	ソーシャルワークの基盤と専門職(専門)
ソーシャルワークの理論と方法	ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ
	ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ
ソーシャルワークの理論と方法（専門）	ソーシャルワークの理論と方法(専門)Ⅰ
	ソーシャルワークの理論と方法(専門)Ⅱ
地域福祉と包括的支援体制	地域福祉と包括的支援体制Ⅰ
	地域福祉と包括的支援体制Ⅱ
福祉サービスの組織と経営	福祉サービスの組織と経営
社会保障	社会保障Ⅰ
	社会保障Ⅱ
高齢者福祉	高齢者福祉
障害者福祉	障害者福祉
児童・家庭福祉	児童・家庭福祉
貧困に対する支援	貧困に対する支援
保健医療と福祉	保健医療と福祉
権利擁護を支える法制度	権利擁護を支える法制度
刑事司法と福祉	刑事司法と福祉
ソーシャルワーク演習	ソーシャルワーク演習
ソーシャルワーク演習（専門）	ソーシャルワーク演習(専門)Ⅰ
	ソーシャルワーク演習(専門)Ⅱ
	ソーシャルワーク演習(専門)Ⅲ
	ソーシャルワーク演習(専門)Ⅳ
ソーシャルワーク実習指導	ソーシャルワーク実習指導Ⅰ
	ソーシャルワーク実習指導Ⅱ
	ソーシャルワーク実習指導Ⅲ
	ソーシャルワーク実習指導Ⅳ
	ソーシャルワーク実習指導Ⅴ
ソーシャルワーク実習	ソーシャルワーク実習Ⅰ
	ソーシャルワーク実習Ⅱ
	ソーシャルワーク実習Ⅲ
	ソーシャルワーク実習Ⅳ

イ　実習先行履修科目

●　社会福祉士国家試験受験資格取得の場合

実習系科目の先行履修科目等

社会福祉士国家試験受験資格を取得するには、実習系科目では以下の単位を修得する必要がある。
1．ソーシャルワーク実習Ⅰ・Ⅱ（24日間実習；以下、基盤実習）、およびソーシャルワーク実習指導Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ
2．ソーシャルワーク実習Ⅲ・Ⅳ（10日間実習【医療分野のみ14日間】；以下、発展実習）、およびソーシャルワーク実習指導Ⅳ・Ⅴ
＊上記１・２のそれぞれの科目履修には、先行履修科目等の要件があるので注意すること。

1．基盤実習の「ソーシャルワーク実習Ⅰ・Ⅱ」、「ソーシャルワーク実習指導Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」を履修するためには、
①２年次前期終了までに、福祉貢献学部で開講されている以下枠内の科目（実習先行履修科目）の単位を修得済みであること。
②２年次前期終了時点の通算GPAが2.0以上であること。
＊２年次前期終了時点の通算GPAが2.0未満の者で、４年次に履修を希望する者は、２年次後期と３年次前期のGPAの平均が2.0以上であることを条件に、３年次後期から「ソーシャルワーク実習指導Ⅰ」以降の実習系科目を履修できる。
③２年次前期終了までに、１年次の卒業必修科目（「違いを共に生きる・ライフデザイン」、「日本語表現１」、「基礎ゼミ」、「AI・データサイエンス入門［M］」）の単位を修得済みであること。

＜実習先行履修科目＞
医学概論、心理学と心理的支援、社会学と社会システム、ソーシャルワークの基盤と専門職、ソーシャルワークの基盤と専門職（専門）、地域福祉と包括的支援体制Ⅰ、高齢者福祉、障害者福祉、児童・家庭福祉、ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ、社会保障Ⅰ、ソーシャルワーク演習、ソーシャルワーク演習（専門）Ⅰ、現代の精神保健の課題と支援Ⅰ、精神保健福祉の原理Ⅰ、保健医療と福祉

＊上記①～③の要件を満たしていない場合は、「ソーシャルワーク実習指導Ⅰ」以降の実習系科目は履修できない。
＊先行履修科目以外であっても、２年次までに配当されている指定科目を修得できていないと３年次の実習に困難が生じる場合が多いため、先行履修科目以外の指定科目についても配当年次に修得するよう努めること。
＊原則１年次で「ソーシャルワーク演習」、２年次で「ソーシャルワーク演習（専門）Ⅰ・Ⅱ」の単位を順番に修得した学生が、３年次の「ソーシャルワーク演習（専門）Ⅲ・Ⅳ」を履修することができる。なお、「ソーシャルワーク演習（専門）Ⅲ・Ⅳ」は、「ソーシャルワーク実習Ⅰ・Ⅱ」、「ソーシャルワーク実習指導Ⅱ・Ⅲ」と同じ年度で履修すること。
＊「ソーシャルワーク実習Ⅰ・Ⅱ」（基盤実習）を履修するうえでの注意点
児童分野（児童養護施設）での実習を希望する学生は「児童・家庭福祉（専門）」、高齢分野での実習を希望する学生は「高齢者福祉（専門）」、障害者および障害児分野での実習を希望する学生は「障害者福祉（専門）」を履修済みであることが望ましい（障害児分野での実習を希望する学生は、可能な限り「障害児福祉」も履修しておくこと）。
高齢分野および障害者分野での実習を希望する学生は「介護技術」も履修することが望ましい。

２．発展実習の「ソーシャルワーク実習Ⅲ・Ⅳ」、「ソーシャルワーク実習指導Ⅳ・Ⅴ」を履修するためには

①２年次後期終了までに、福祉貢献学部で開講されている以下枠内の科目（実習先行履修科目）の単位を修得済みであること。

②「ソーシャルワーク実習Ⅲ・Ⅳ」（発展実習）の開始前までに、「ソーシャルワーク実習Ⅰ・Ⅱ」（基盤実習）の終了を確認できること。

＜実習先行履修科目＞
ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ、社会保障Ⅱ、ソーシャルワーク演習（専門）Ⅱ、
福祉サービスの組織と経営、地域福祉と包括的支援体制Ⅱ

＊「ソーシャルワーク実習Ⅲ・Ⅳ」（発展実習）を履修するうえでの注意点

・24日間実習である「ソーシャルワーク実習Ⅰ・Ⅱ」（基盤実習）の単位を修得できなかった場合は、「ソーシャルワーク実習Ⅲ・Ⅳ」（発展実習）の単位修得はできない。

・医療分野での実習は、保健医療機関でのソーシャルワークに関心を持ち、実習に明確な意思がある者に限る。

上記１、２ともに以上を要件とするが、詳細について、別途必要な事項は、実習オリエンテーションで説明する。

（2）精神保健福祉士

ア　受験資格の取得

社会福祉専攻では、「精神保健福祉士」の受験資格を取得するためのカリキュラムを用意している。精神保健福祉士となるには、本学部が精神保健福祉士の国家試験受験資格を取得することを目的に開講されている科目（下記のとおり）を修得し、その後、精神保健福祉士国家試験に合格しなければならない。精神保健福祉士国家試験受験のためには、全科目履修すること。

厚生労働省令で定める所定の科目	福祉貢献学部開講科目
医学概論	医学概論
心理学と心理的支援	心理学と心理的支援
社会学と社会システム	社会学と社会システム
社会福祉の原理と政策	社会福祉の原理と政策Ⅰ
	社会福祉の原理と政策Ⅱ
地域福祉と包括的支援体制	地域福祉と包括的支援体制Ⅰ
	地域福祉と包括的支援体制Ⅱ
社会保障	社会保障Ⅰ
	社会保障Ⅱ
障害者福祉	障害者福祉
権利擁護を支える法制度	権利擁護を支える法制度
刑事司法と福祉	刑事司法と福祉
社会福祉調査の基礎	社会福祉調査の基礎
精神医学と精神医療	精神医学と精神医療Ⅰ
	精神医学と精神医療Ⅱ
現代の精神保健の課題と支援	現代の精神保健の課題と支援Ⅰ
	現代の精神保健の課題と支援Ⅱ
ソーシャルワークの基盤と専門職	ソーシャルワークの基盤と専門職
精神保健福祉の原理	精神保健福祉の原理Ⅰ
	精神保健福祉の原理Ⅱ
ソーシャルワークの理論と方法	ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ
	ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ
ソーシャルワークの理論と方法（専門）	ソーシャルワークの理論と方法(精神専門)Ⅰ
	ソーシャルワークの理論と方法(精神専門)Ⅱ
精神障害リハビリテーション論	精神障害リハビリテーション論
精神保健福祉制度論	精神保健福祉制度論
ソーシャルワーク演習	ソーシャルワーク演習
ソーシャルワーク演習（専門）	精神保健福祉援助演習(専門)Ⅰ
	精神保健福祉援助演習(専門)Ⅱ
	精神保健福祉援助演習(専門)Ⅲ
ソーシャルワーク実習指導	精神保健福祉援助実習指導Ⅰ
	精神保健福祉援助実習指導Ⅱ
	精神保健福祉援助実習指導Ⅲ
ソーシャルワーク実習	精神保健福祉援助実習Ⅰ
	精神保健福祉援助実習Ⅱ

イ　実習先行履修科目

●　精神保健福祉士国家試験受験資格取得の場合

精神保健福祉援助実習Ⅰ・Ⅱの先行履修科目

精神保健福祉士国家試験受験資格を取得するための「精神保健福祉援助実習Ⅰ・Ⅱ」「精神保健福祉援助実習指導Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」を履修するには、2年次前期終了時点において、以下①～②の要件を満たす必要がある。

①「ソーシャルワーク実習Ⅰ・Ⅱ」を履修するための条件を満たしていること。
②「権利擁護を支える法制度」の単位を修得済みであること。
なお、2年次後期終了時点までに「ソーシャルワーク実習Ⅲ・Ⅳ」を履修するための条件を満たしていること。

ただし、先行履修科目以外で2年次までに配当されている指定科目を2年次終了時に修得できていないと3年次の実習に困難を生じる場合が多いので、先行履修科目以外の指定科目を修得できていない場合は、精神保健福祉援助実習担当教員に相談すること。

注１．社会福祉士・精神保健福祉士国家試験受験資格取得までの流れ

社会福祉士・精神保健福祉士の両方の国家試験受験資格取得を希望する学生は、まず、社会福祉士の国家試験受験資格取得に要する科目･単位を修得した後、精神保健福祉士の国家試験受験資格に必要な単位取得を目指すことになる。そのため、２～４年次における社会福祉士の国家試験受験資格取得のために設定された実習の流れにも従わなければならない。実習および実習関連科目の履修に関しては十分注意すること。

<table>
<tr><th colspan="2" rowspan="2">年次</th><th colspan="2">社会福祉士</th><th rowspan="2">精神保健福祉士</th></tr>
<tr><th>右記以外の希望者</th><th>医療分野実習希望者
精神保健福祉士実習希望者</th></tr>
<tr><td>1</td><td>通年</td><td colspan="3">・１年次に開講される国家試験受験資格に必要な科目を履修</td></tr>
<tr><td rowspan="3">2</td><td>通年</td><td colspan="3">・２年次に開講される国家試験受験資格に必要な科目を履修</td></tr>
<tr><td>前期</td><td colspan="2">・ソーシャルワーク実習Ⅰ・Ⅱ（基盤実習）の履修に向けた実習ガイダンス、実習オリエンテーションへの出席（掲示を確認し、必ず出席すること）</td><td>・左記の社会福祉士のプロセスを修めること
・精神保健福祉援助演習（専門）Ⅰの履修のための希望調査・面談
・実習報告会への参加</td></tr>
<tr><td>後期</td><td colspan="2">【基盤実習】
◎ソーシャルワーク実習指導Ⅰ（基盤実習）の履修
・ソーシャルワーク実習Ⅰ・Ⅱ（基盤実習）履修のための希望調査、面接を通して実習先を決定
・実習登録申請書（基盤実習）の提出
・ソーシャルワーク実習Ⅰ・Ⅱ（基盤実習）の事前学習および準備を各教員の指導を受けながら開始
・上級生の基盤実習報告会への参加
【発展実習】
・ソーシャルワーク実習Ⅲ・Ⅳ（発展実習）の履修に向けた実習ガイダンス、実習オリエンテーションへの出席（掲示を確認し、必ず出席すること）
・ソーシャルワーク実習Ⅲ・Ⅳ（発展実習）履修のための希望調査、面接を通して実習先を決定
・実習登録申請書（発展実習）を提出</td><td>・精神保健福祉援助実習Ⅰ履修のための希望調査、面接
・実習の事前学習を教員の指導を受けながら開始</td></tr>
<tr><td rowspan="3">3</td><td>通年</td><td colspan="3">・３年次に開講される国家試験受験資格に必要な科目を履修／単位未修得の資格科目の履修</td></tr>
<tr><td>前期</td><td>◎ソーシャルワーク実習Ⅰ（基盤実習）の履修
◎ソーシャルワーク実習指導Ⅱ（基盤実習）の履修</td><td>◎ソーシャルワーク実習Ⅰ（基盤実習）の履修
◎ソーシャルワーク実習Ⅲ（発展実習）の履修
◎ソーシャルワーク実習指導Ⅱ（基盤実習）の履修
◎ソーシャルワーク実習指導Ⅳ（発展実習）の履修
◎ソーシャルワーク実習指導Ⅴ（発展実習）の履修
※基盤実習を進めながら、発展実習の事前学習および準備を各教員の指導のもと同時進行で行う</td><td>◎精神保健福祉援助実習指導Ⅰの履修
・希望調査、面接をとおして、実習先を決定
・精神保健福祉援助実習 実習登録申請書の提出
・実習報告会への出席</td></tr>
<tr><td>後期</td><td>◎ソーシャルワーク実習Ⅱ（基盤実習）の履修
◎ソーシャルワーク実習指導Ⅲ（基盤実習）の履修
◎ソーシャルワーク実習指導Ⅳ（発展実習）の履修
※基盤実習を進めながら、発展実習の事前学習および準備を各教員の指導のもと同時進行で行う
・基盤実習報告会への出席</td><td>◎ソーシャルワーク実習Ⅱ（基盤実習）の履修
◎ソーシャルワーク実習指導Ⅲ（基盤実習）の履修
◎ソーシャルワーク実習Ⅳ（発展実習）の履修
・基盤実習報告会への出席</td><td>◎精神保健福祉援助実習Ⅰの履修
◎精神保健福祉援助実習指導Ⅱの履修</td></tr>
<tr><td rowspan="3">4</td><td>通年</td><td colspan="3">・国家試験受験手続（CSおよびTeamsでの指示をよく確認すること）
・発展実習報告会への出席
・単位未修得の資格科目の履修</td></tr>
<tr><td>前期</td><td>◎ソーシャルワーク実習Ⅲの履修
◎ソーシャルワーク実習指導Ⅴ（発展実習）の履修</td><td></td><td>◎精神保健福祉援助実習Ⅱの履修
◎精神保健福祉援助実習指導Ⅲの履修
・実習報告会への出席</td></tr>
<tr><td>後期</td><td>◎ソーシャルワーク実習Ⅳの履修
・国家試験の受験</td><td>・国家試験の受験</td><td>・国家試験の受験</td></tr>
</table>

※◎は履修すべき科目名を示す。

注２．社会福祉士・精神保健福祉士国家試験受験資格取得のための実習に関する注意点

＊両受験資格取得のための実習・実習指導の履修については、「イ.実習先行履修科目」のページに記載されている条件をよく確認すること。

＜実習について＞

＊社会福祉士は240時間、精神保健福祉士は210時間の実習が課せられている。また、現場の実習指導では、社会福祉士、精神保健福祉士の資格をもつ指導者で、かつ社会福祉士・精神保健福祉士実習指導者講習会を修了した指導者から実習指導を受けることが義務づけられている。

＊社会福祉士実習は、２施設での実習が義務づけられている。本学では、原則３年次の「ソーシャルワーク実習Ⅰ・Ⅱ」（基盤実習）で24日間180時間以上、３年次もしくは４年次の「ソーシャルワーク実習Ⅲ･Ⅳ」（発展実習）で10日間（医療分野のみ14日間）60時間以上の実習（「ソーシャルワーク実習Ⅰ・Ⅱ」とは別種別の実習先で実施）を課している。ソーシャルワーク実習Ⅲ・Ⅳの履修時期については、実習ガイダンスおよび実習オリエンテーション等で説明する。

＊精神保健福祉士の実習は、３年次「精神保健福祉援助実習Ⅰ」では12日間90時間以上、４年次「精神保健福祉援助実習Ⅱ」では16日間120時間以上の実習を行うことが義務づけられている。

＊実習に必要な費用などは、実習ガイダンス、実習オリエンテーション等で説明する。

＊実習については、「履修要覧」をよく読むこと。また、実習内容等に関することは、２年次に開催予定の実習オリエンテーションで配付される「実習のてびき」をよく読むこと。

＜実習指導について＞

＊「ソーシャルワーク実習指導Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ」、「精神保健福祉援助実習指導Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」は、各授業回数の５分の１を超えて欠席した場合、単位が修得できない。

＊「ソーシャルワーク実習指導Ⅱ・Ⅲ」は「ソーシャルワーク実習Ⅰ・Ⅱ」（基盤実習）と連動、「ソーシャルワーク実習指導Ⅴ」は「ソーシャルワーク実習Ⅲ・Ⅳ」（発展実習）と連動、「精神保健福祉援助実習指導Ⅱ」は「精神保健福祉援助実習Ⅰ」と連動、「精神保健福祉援助実習指導Ⅲ」は「精神保健福祉援助実習Ⅱ」とそれぞれ連動している。組み合わせの内一つでも単位を修得できないと連動する科目がすべて修得できないので注意すること。また、これらの単位を修得できなかった場合は、原則、修得できなかった科目の再履修は認めない。

＜実習評価＞

＊実習および実習指導の評価については、シラバスに記載されている通りである。

＊「ソーシャルワーク実習指導Ⅱ・Ⅲ」は「ソーシャルワーク実習Ⅰ・Ⅱ」（基盤実習）の単位と、「ソーシャルワーク実習指導Ⅴ」は「ソーシャルワーク実習Ⅲ・Ⅳ」（発展実習）の単位と、「精神保健福祉援助実習指導Ⅱ」は「精神保健福祉援助実習Ⅰ」の単位と、「精神保健福祉援助実習指導Ⅲ」は「精神保健福祉援助実習Ⅱ」の単位と、それぞれ連動している。組み合わせの内一つでも単位を修得できないと連動する科目がすべて修得できないので注意すること。また、これらの単位を修得できなかった場合は、原則、科目の再履修は認めない。ただし、やむを得ない事情により単位を修得できなかった場合には、社会福祉専攻実習担当者会議にて協議の結果、再履修を認めることもある。

＜履修登録＞

＊社会福祉士受験資格取得に必要な実習系科目は、「ソーシャルワーク実習指導Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ」および「ソーシャルワーク実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」であり、**すべての単位を修得しなければならない**（開講時期は、実習分野等により違うので注意）。**毎年、登録漏れが見受けられるため、注意すること**（例：３年次前期に24日間実習を終えた場合であっても、３年次後期に「ソーシャルワーク実習指導Ⅲ」および「ソーシャルワーク実習Ⅱ」を必ず履修登録しなければならない）。

2 子ども福祉専攻

（1）保育士

● 保育士国家資格の取得

子ども福祉専攻では保育士資格を取得するためのカリキュラムを用意している。

保育士資格を取得するためには、本専攻において、下記の表に従い児童福祉法施行規則に定められた科目の単位を修得しなければならない。

A

科目群	告示による教科目（厚生労働省の定める科目）			本学開講科目（注）			修得すべき単位数
	系列	教科目	単位数	科目名	単位数 必修	単位数 選択	
A群	教養科目	外国語、体育以外の科目	6以上	違いを共に生きる・ライフデザイン	2		8以上（必修を含む）
				日本国憲法		2	
				AI・データサイエンス入門［M］	2		
				日本語表現1	2		
				コンピュータリテラシーⅠ		2	
				コンピュータリテラシーⅡ		2	
		外国語	2以上	Basic English1		2	2以上
				Basic English2		2	
				English1（Listening）		2	
				English2（Reading）		2	
				English3（TOEIC 1）		2	
				English4（Speaking 1）		2	
				English5（TOEIC 2）		2	
				English6（Speaking 2）		2	
		体育	1	スポーツと文化	2		2
			1	スポーツ科学	2		2
	合計		10単位以上	合計			14単位以上（必修を含む）

（注）全学共通履修科目のカリキュラム参照のこと（「スポーツと文化」を除く）。

保育士国家資格の取得には、「スポーツと文化」および「スポーツ科学」の単位修得が必要となる。

3・4年生で、「スポーツ科学」の単位を修得できていない学生は、履修一次登録の際、教職・司書・学芸員教育センターまで申し出ること。詳細は履修要覧の「全学共通履修科目カリキュラム表 教職課程科目」の「1．履修上の注意」を参照のこと。

B

科目群	告示別表第１による教科目（厚生労働省令の定める科目）			本学開講科目			修得すべき単位数
	系列	教科目	単位数	科目名	単位数 必修	単位数 選択	
B群	保育の本質・目的に関する科目	保育原理	2	保育原理Ⅰ ▼	2		2
		教育原理	2	教育原理 ▼	2		2
		子ども家庭福祉	2	児童・家庭福祉 ▼	2		2
		社会福祉	2	社会福祉概論 ▼	2		2
		子ども家庭支援論	2	子ども家庭支援論 ▼	2		2
		社会的養護Ⅰ	2	社会的養護Ⅰ ▼	2		2
		保育者論	2	保育者論 ▼	2		2
	保育の対象の理解に関する科目	保育の心理学	2	発達心理学 ▼	2		2
		子ども家庭支援の心理学	2	子ども家庭支援の心理学 ▼	2		2
		子どもの理解と援助	1	教育心理学 ◎	2		2
		子どもの保健	2	子どもの保健 ▼	2		2
		子どもの食と栄養	2	子どもの食と栄養 ◎	2		2
	保育の内容・方法に関する科目	保育の計画と評価	2	教育課程論 ▼	2		2
		保育内容総論	1	保育内容総論Ⅰ ◎	2		2
		保育内容演習	5	子どもと健康 ◎	1		5
				子どもと人間関係 ◎	1		
				保育内容 環境Ⅰ ◎	1		
				保育内容 言葉Ⅰ ◎	1		
				保育内容 表現Ⅰ ◎	1		
		保育内容の理解と方法	4	音楽基礎技能Ⅰ ◎	1		5
				造形基礎技能Ⅰ ◎	1		
				体育基礎技能Ⅰ ◎	1		
				子どもと言葉 ◎	2		
		乳児保育Ⅰ	2	乳児保育論 ▼	2		2
		乳児保育Ⅱ	1	乳児保育演習 ◎	2		2
		子どもの健康と安全	1	子どもの健康と安全 ◎	1		1
		障害児保育	2	障害児福祉 ◎	2		2
		社会的養護Ⅱ	1	社会的養護Ⅱ ◎	1		1
		子育て支援	1	子育て支援 ◎	2		2
	保育実習	保育実習Ⅰ	4	保育実習Ⅰ（保育所）（注） ※	2		4
				保育実習Ⅱ（保育所以外）（注） ※	2		
		保育実習指導Ⅰ	2	保育実習指導Ⅰ ◎	2		4
				保育実習指導Ⅱ ◎	2		
	総合演習	保育実践演習	2	福祉貢献研究Ⅰ ◎	2		2
	合計		51単位	合計			58単位（必修を含む）

（注）保育実習は、10日以上、計80時間を確保すること。

科目名の後ろにある「▼」は講義科目、「◎」は演習科目、「※」は実習科目を表している。

C

教科群	別表第２による教科目（厚生労働省令の定める科目）			本学開講科目			修得すべき単位数
	系列	教科目	単位数	科目名	単位数 必修	単位数 選択	
C群	保育の本質・目的に関する科目	各指定保育士養成施設において設定	15以上	保育原理Ⅱ ▼		2	15以上
				児童・家庭福祉（専門） ▼		2	
	保育の対象の理解に関する科目			幼児理解の理論と方法 ▼		2	
				特別の支援を必要とする子どもの保育 ◎		2	
				児童文学 ▼		2	
				絵本論 ▼		2	
	保育の内容・方法に関する科目			子どもと音楽 ▼		2	
				子どもと造形 ▼		2	
				子どもと体育 ▼		2	
				子どもと生活 ▼		2	
				子どもと数・図形 ▼		2	
				保育内容総論Ⅱ ◎		2	
				保育内容　健康 ◎		2	
				保育内容　人間関係 ◎		2	
				保育内容　環境Ⅱ ◎		2	
				保育内容　言葉Ⅱ ◎		2	
				保育内容　表現Ⅱ ◎		2	
				音楽基礎技能Ⅱ ◎		1	
				音楽基礎技能Ⅲ ◎		1	
				音楽基礎技能Ⅳ ◎		1	
				造形基礎技能Ⅱ ◎		1	
				体育基礎技能Ⅱ ◎		1	
	保育実習	保育実習Ⅱ又は保育実習Ⅲ	2	保育実習Ⅲ（注）※		2	2
				保育実習Ⅳ（注）※		2	
		保育実習指導Ⅱ又は保育実習指導Ⅲ	1	保育実習指導Ⅲ ◎		2	2
				保育実習指導Ⅳ ◎		2	
	合計		18単位以上	合計			19単位以上

注）保育実習は、10日以上、計80時間を確保すること。

科目名の後ろにある「▼」は講義科目、「◎」は演習科目、「※」は実習科目を表している。

【保育実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ】履修の要件

「保育実習Ⅰ」「保育実習Ⅱ」「保育実習Ⅲ」「保育実習Ⅳ」の履修者は、下記の要件を満たしているものとする。

1.「実習入門」「保育原理Ⅰ」「保育内容総論Ⅰ」の単位を修得済みであること。
2. 保育士資格を取得予定であれば「教育実習指導Ⅰ」の単位を修得済みであること。
3.「保育実習Ⅲ」「保育実習Ⅳ」の履修については「保育実習Ⅰ」「保育実習指導Ⅰ」及び「保育実習Ⅱ」「保育実習指導Ⅱ」の単位を修得済みであること。

＊「保育実習Ⅱ」の履修については、子ども福祉専攻実習担当者会議において検討する場合もある。

（2）幼稚園教諭一種免許状

● 幼稚園教諭一種免許状の取得

子ども福祉専攻では「幼稚園教諭一種免許状」を取得するためのカリキュラムを用意している。

幼稚園教諭一種免許状を取得するためには、卒業要件を満たした上で、本専攻において下記の表に従い教員免許法施行規則に定められた科目の単位を修得しなければならない。

	免許法施行規則に定める科目区分等		子ども福祉専攻開講科目	単位数 必修	単位数 選択	修得すべき単位数	
領域及び保育内容の指導法に関する科目	領域に関する専門的事項	健　康	子どもと体育		2	10単位以上（必修を含む）	51単位以上（必修を含む）
			子どもと健康	1			
			体育基礎技能Ⅰ		1		
			体育基礎技能Ⅱ		1		
		人間関係	子どもと人間関係	1			
		環　境	子どもと生活	2			
		言　葉	子どもと言葉	2			
			児童文学		2		
			絵本論		2		
		表　現	子どもと造形	2			
			造形基礎技能Ⅰ		1		
			造形基礎技能Ⅱ		1		
			子どもと音楽	2			
			音楽基礎技能Ⅰ		1		
			音楽基礎技能Ⅱ		1		
			音楽基礎技能Ⅲ		1		
			音楽基礎技能Ⅳ		1		
	保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）		保育内容指導法	2		13単位以上（必修を含む）	
			保育内容総論Ⅰ	2			
			保育内容総論Ⅱ	2			
			保育内容　健康	2			
			保育内容　人間関係	2			
			保育内容　環境Ⅰ	1			
			保育内容　環境Ⅱ		2		
			保育内容　言葉Ⅰ	1			
			保育内容　言葉Ⅱ		2		
			保育内容　表現Ⅰ	1			
			保育内容　表現Ⅱ		2		
教育の基礎的理解に関する科目等	教育の基礎的理解に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	教育原理	2		28単位以上（必修を含む）	
			保育原理Ⅰ		2		
			保育原理Ⅱ		2		
		教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）	教職入門	2			
			保育者論		2		
		教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）	教育制度論	2			
		幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程	教育心理学	2			
			発達心理学	2			
		特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解	特別の支援を必要とする子どもの保育	2			
		教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）	教育課程論	2			
	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）	教育方法論	2			
			子どもとデジタルメディア		1		
		幼児理解の理論および方法	幼児理解の理論と方法	2			
		教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法	教育相談	2			
	教育実践に関する科目	教育実習	教育実習指導Ⅰ	2			
			教育実習Ⅰ	2			
			教育実習Ⅱ	2			
		教職実践演習	教職実践演習（幼）	2			
その他の科目	日本国憲法		日本国憲法	2			
	体育		スポーツ科学		2	これら2科目より1科目選択必修	
			健康と運動		2		
	外国語コミュニケーション		Basic English 1		2	これら4科目より1科目選択必修	
			English 1(Listening)		2		
			English 4(Speaking 1)		2		
			English 6(Speaking 2)		2		
	数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作		コンピュータリテラシーⅠ		2	これら2科目より1科目選択必修	
			コンピュータリテラシーⅡ		2		

（注1）

【教育実習Ⅰ・Ⅱ】履修の要件

「教育実習Ⅰ・Ⅱ」履修者は、次の要件を満たしているものとする。

1.「実習入門」の単位を修得済みであること。
2. 原則、「教育実習Ⅱ」は「教育実習Ⅰ」「教育実習指導Ⅰ」の単位を修得できていない場合は履修できない。
3. 2年次後期「教育実習Ⅰ」を履修登録する時点で以下の枠内の科目の単位を修得済みであること。

○発達心理学　○教育心理学　○教職入門　○幼児理解の理論と方法 ○保育内容指導法　○保育内容総論Ⅰ　○保育内容総論Ⅱ　○保育内容　環境Ⅰ ○保育内容　言葉Ⅰ　○保育内容　表現Ⅰ

（3）社会福祉主事

社会福祉主事（任用資格）は、厚生労働大臣が定めた社会福祉に関する「指定科目」を修めて卒業した者に付与される。履修すべき「指定科目」については、新入生および在学生への教務ガイダンス等で説明があるためしっかり聞くこと。

交流文化学部カリキュラムと卒業要件

AICHI SHUKUTOKU UNIVERSITY

1 ディプロマ・ポリシー（人材養成像）

交流文化学部は、様々な文化背景を持つ人々との交流を通して、相互理解と尊重に基づきグローバル社会の発展に積極的に貢献する人材の育成を目標にしている。この教育目標を達成するために、以下の能力を修得した学生に学位を授与する。

（1） 多文化・異文化に関する基本的な知識を習得し、広い視野から社会をとらえ、理解することができる。（知識・理解）
（2） 多様な考え方・生き方を受け入れることができる。（態度）
（3） 獲得した知識・技能・態度などを活用して問題の解決を図ることや新しい社会・文化を生成することに貢献できる。（思考・判断）
（4） 日本語と特定の外国語を用いて、読み・書き・聞き・話すことができる。多様な文化的背景を持つ人々と効果的なコミュニケーションができる。（技能・表現）
（5） 継続的に、自律して学習・探求することができる。（関心・意欲）

2 カリキュラム・ポリシー（ディプロマ・ポリシーに整合し、それを保証するカリキュラムの体系性を記したもの）

〈2025年度入学者〉

本学部では、学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に基づき、さまざまな文化背景を持つ人々との交流を通して、相互理解と尊重に基づきグローバル社会の発展に積極的に貢献する人材を育成するために、以下のようにカリキュラムを編成し、実施する。

1．一人一人の学生の興味・関心・適性に応じて、多角的に学ぶことを可能にさせるとともに、専門性を備えた知識と実践的な能力を習得させるために、「ランゲージ」および「国際交流・観光」の２つの専攻を置く。ランゲージ専攻には４つの専攻プログラム*1、国際交流・観光専攻には４つの専攻プログラム*2を設ける。
学生は、１年次に広範囲にわたるカリキュラムの中からさまざまな学問領域の履修を進め、２年次に自らの専攻において専門分野としての専攻プログラムを決定する。

2．専門分野の知識・能力を着実に習得させるために、専門科目に中心科目、基盤科目、体験科目、プロジェクト科目の４つの科目群を設けるとともに、すべての学生に、基盤科目における１つ以上の外国語を履修すること、また体験科目の所定の単位数を修得することを義務付ける。
中心科目：専門分野の知識を習得させるために、基礎的な科目から発展的な科目へと段階的に講義科目を配置する。
基盤科目：国際社会で活用できる言語コミュニケーション能力を身に付けさせるために、英語・中国語・韓国語などの言語科目を体系的・段階的に配置する。
体験科目：実践的な能力を習得させるために、特定の事象や事例についてディスカッションや模擬実践活動などを通して学ぶケーススタディ科目、国内外の現場での学修を主眼に置いた語学研修やフィールドスタディ科目を設ける。
プロジェクト科目：本学部が目指す国際社会に貢献できる人材の育成を目指し、様々なタイプのプロジェクトの実施に必要な企画力や分析力を養成するために必修科目としてのプロジェクト科目を設置する。学生は１年次には基礎演習を履修し、文献検索・プレゼンテーション・論文作成など基礎的なアカデミックスキルを演習形式で習得し、２、３年次には交流文化演習を履修し、調査の実施や企画の立案と実行により専門領域に関する知見を深め、４年次には卒業プロジェクトを通して、修学の集大成である卒業研究論文の完成を目指す。

＊1　イングリッシュ・エクスパート、チャイニーズ・エクスパート、コリアン・エクスパート、日本語教育
＊2　エリアスタディーズ、グローバルスタディーズ、観光ホスピタリティ、観光デザイン

3 アドミッション・ポリシー

交流文化学科　ランゲージ専攻

①学生に期待すること

ランゲージ専攻では、しっかりとした日本語力を基礎にさまざまな言語や文化の知識そしてコミュニケーション能力の修得を通して、国際社会で活躍したいと考える学生の入学を期待している。

②学生募集に際して重視すること

次のことに関心を持ち、個性を伸ばし、自らを磨いていこうという意欲のある人を歓迎する。

（1）幅広い視野から異文化を理解する力を身につけたい人。

（2）文化の知識、多言語活用能力をはじめとする異文化コミュニケーション能力の向上を目指す人。

（3）外国語を使用したスピーチ、ライティング、演劇など自己表現、また言語を教育する力を身につけたい人。

③入学前学習として推奨すること

（1）世界の言語・文化への関心を持ち、自らの基礎的なコミュニケーション能力の向上に努める。

（2）言葉を使用して自らを表現する一方、他の人の自己表現から学ぶ態度を養う。

（3）自らの母語である日本語の知識とスキルを伸ばす。

（4）お互いを理解・尊重し合い、他人の喜びを共に喜び合える態度を養う。

交流文化学科　国際交流・観光専攻

①学生に期待すること

国際交流・観光専攻では、現代社会で起こるさまざまな事象を多方面からとらえ、かつ社会の発展に寄与するために実践力・行動力を身につけ、成長したいと考える学生の入学を期待している。

②学生募集に際して重視すること

次のことに関心を持ち、個性を伸ばし、自らを磨いていこうという意欲のある人を歓迎する。

（1）幅広い視野から文化・社会を理解する力を身につけたい人。

（2）フィールドワークなどの体験学習を通して社会に貢献する力を身につけたい人。

（3）ホスピタリティ精神を培い、学び取った知識・経験を社会に還元する意欲を持つ人。

③入学前学習として推奨すること

（1）広い視野から社会を眺めるため、地域や国を超えた人の交流や世の中の出来事にたえず関心を持ち、情報収集力をつける。

（2）言語・社会・文化への関心を持ち、自らの基礎的なコミュニケーション能力の向上に努める。

（3）ささいなことにも関心を持ち、実際に自らの目で物事を見つめる好奇心・探求心を養う。

（4）お互いを理解・尊重し合い、他人の喜びを共に喜び合える態度を養う。

4 卒業に必要な単位（卒業要件単位数）

本学の交流文化学部を卒業するためには、4年以上在学（休学期間は含まない）し、**124単位**以上を修得しなければならない（愛知淑徳大学学則第47条）。その内訳は次の表のとおりである。

■2025年度入学者

<table>
<tr><th colspan="5">授業科目の種類</th><th colspan="2">卒業要件単位
科目（　）内は単位数を表す</th></tr>
<tr><td rowspan="9">専門教育科目</td><td colspan="4">必修科目</td><td>5単位
「交流文化概論」（2）、
「基礎演習」（2）、
「キャリアデザイン」（1）</td><td rowspan="9">86単位以上</td></tr>
<tr><td colspan="4">選択必修科目</td><td>69単位以上</td></tr>
<tr><td rowspan="5"></td><td colspan="3">中心科目／基盤科目／体験科目</td><td>58単位以上</td></tr>
<tr><td colspan="3">演習・卒業プロジェクト／ゼミナール科目／Seminar</td><td>11単位以上</td></tr>
<tr><td rowspan="3"></td><td colspan="2">交流文化</td><td>12単位
「交流文化演習1a, 1b, 2a, 2b」（各2）、
「卒業プロジェクトa, b」（各2）</td></tr>
<tr><td rowspan="2">星が丘キャンパスモデル
（ゼミ・アクティブ履修制度）※</td><td>ビジネス</td><td>12単位</td></tr>
<tr><td>グロウコム</td><td>11単位</td></tr>
<tr><td colspan="4">選択科目</td><td rowspan="2">11単位以上</td></tr>
<tr><td rowspan="2">星が丘キャンパスモデル※</td><td colspan="2">専門科目読替制度</td></tr>
<tr><td colspan="2">スキルアッププログラム</td></tr>
<tr><td rowspan="8">全学共通履修科目</td><td rowspan="2">基幹科目</td><td colspan="3">違いを共に生きる科目</td><td rowspan="2">6単位以上
（「違いを共に生きる・ライフデザイン」
「AI・データサイエンス入門［M］」
「コンピュータリテラシーⅠ」
必修6単位を含む）</td></tr>
<tr><td colspan="3">AI・データサイエンス科目</td></tr>
<tr><td colspan="4">アクティブラーニング科目</td><td rowspan="6">4単位以上
（「日本語表現1」「日本語表現2」
必修4単位を含む）</td></tr>
<tr><td rowspan="5"></td><td colspan="3">国際交流センター開設科目</td></tr>
<tr><td colspan="3">CCC開設科目</td></tr>
<tr><td colspan="3">キャリアセンター開設科目</td></tr>
<tr><td colspan="3">ダイバーシティ共生センター開設科目</td></tr>
<tr><td colspan="3">学修・教育支援センター開設科目</td></tr>
<tr><td rowspan="2">スキル科目</td><td colspan="3">言語活用科目（英語）</td><td rowspan="2">4単位以上</td></tr>
<tr><td colspan="3">言語活用科目（初めての外国語）</td></tr>
<tr><td rowspan="4">学部認定科目</td><td colspan="4">他学部・他学科開放科目</td><td rowspan="4">0単位以上</td></tr>
<tr><td colspan="4">星が丘キャンパスモデル開放科目</td></tr>
<tr><td colspan="4">愛知学長懇話会単位互換科目（上限10単位）</td></tr>
<tr><td colspan="4">放送大学単位互換科目（上限10単位）</td></tr>
<tr><td colspan="5">合　　計</td><td>124単位以上</td></tr>
</table>

※「星が丘キャンパスモデル」参照

なお、以下の表にある科目は、**卒業に必要な単位に算入されない**ため、注意する。

①言語活用科目（英語） 「Introduction to English」	②教職課程科目	③学芸員課程科目
④司書課程科目	⑤コンピュータ資格科目	⑥会計教育科目
⑦研究科開放科目	⑧文学部国文学科専門教育科目 「学びなおし古文」「学びなおし漢文」	⑨建築学部建築学科専門教育科目 「基礎数学」
⑩食健康科学部専門教育科目 「基礎化学」「基礎生物学」		

詳細は、履修要覧の該当ページを確認する。

5 履修上の注意

●全般的な注意事項

【履修計画】

① 〔**カリキュラム表**〕にしたがって履修計画を立てる。
② 時間割において、1つの時間帯に複数の科目が開講されている場合、必修科目があればそれを優先して履修する。
③ 必修科目は、必ず、指定された学年で履修する。
※指定された学年で必修科目の単位を修得できなかった場合は、次のことに注意する。
・必修科目の再履修を最優先する（とくに3年次以上で（1･2年次履修指定の）必修科目を修得できていない学生は、早急にアドバイザーまたは教務委員に相談する）。
・基礎演習の再履修は時間割の重複等やむを得ない場合を除き、原則所属ゼミ（アドバイザー）の教員の基礎演習を履修する。
④ 学部の専門教育科目と学部以外の科目（例：資格教育科目など）の時間割が重複した場合は、学部の専門教育科目を優先して履修する。
⑤ 同一科目を重複して履修することはできない。たとえば、一つの科目が複数の曜日、時限で開講されている場合には、登録できるのはそのいずれか一つの時間に限られる。また履修の結果、単位を付与された科目を再履修することはできない。

【履修登録】

① 必修科目やクラス指定がある科目についても、履修登録を行う。クラス指定のある科目については、ガイダンスで配付される資料または掲示にしたがい履修登録を行う。
② 履修定員が設定されている科目については、履修希望者が定員を上回った場合、選抜や抽選により履修者が決定される。必ず、履修登録確認で登録結果を確認する。
③ 履修定員が設定されている科目については、1次登録の結果、履修定員に満たない（空席のある）場合にのみ、追加登録ができる。

【その他】

① 履修が認められた科目については、全15週すべての授業に出席することが望ましい。特に、第１週の授業は、担当教員から授業内容・使用テキスト・評価基準・試験・レポートなどについての説明があるので欠席しない。
② 教職課程など資格教育科目の履修については、各自で履修要覧を参照し、当該ガイダンスに必ず出席する。
③ 学内LANの講習会を受講し、学内LANの利用資格を得ておく。
④ 休学・復学または留学する場合は、事前にアドバイザー（原則所属ゼミの教員）に相談し、教学事務室で履修に関する手続きを確認する。

履修上の注意

1. 交流文化学部の科目概要

1.1 全体概要

交流文化学部開設の科目は**〔卒業要件単位数〕**の「専門教育科目」にあたる。このうち「必修科目」は本学部生が必ず履修しなければならない科目であり、「選択必修科目」は特定の科目群で必要単位数のみが設定され、学生はその単位数を満たすよう選択して履修できる科目である。そして「選択科目」にはその他の交流文化学部開設科目で履修したものが算入される。なお、「選択必修科目」の必要単位数は、各自が登録する専攻プログラムごとに設定されている。

＊履修計画においては、**〔カリキュラム表〕**とともに**〔各専攻プログラムに関する卒業要件〕**にしたがって計画を立てる。

1.2 科目構成

交流文化学部が設定する科目は主に中心科目、基盤科目、体験科目、およびプロジェクト科目で構成される。

1）中心科目

中心科目は、講義を中心とする科目で幅広く確実な専門的知識や技能を身につけるために設定される科目である。「日本語教育」「言語文化」「コミュニケーション」「地域文化」「国際社会」「観光産業」「観光文化」の７領域から構成されている。また、この７領域から入門科目が６科目設定されている。その中から３科目を履修することが必修となっている。１年次より積極的に履修する。

2）基盤科目

基盤科目は、主に言語習得を目的とする科目であり、交流文化学部では英語、中国語、韓国・朝鮮語のほか外国語入門としてロシア語、タイ語、ベトナム語、モンゴル語、インドネシア語も開設されており、多様な言語の習得が可能である。多元的文化の受容、理解および交流の促進においては、外国語運用能力は極めて重要である。交流文化学部の学生は、学部が設定するこれら基盤科目の積極的な履修に努めることが望ましい。

3）体験科目

体験科目は、より実践的な能力を養う科目であり、通常の授業期間内に学内で行われる「ケーススタディ」科目と、主に夏季および春季の休暇期間に集中授業として学外で行われる「フィールドスタディ」科目および「言語文化研修」科目がある。これらは本学部教育の特色の一つでもある。2019年度以降入学生用のカリキュラムからは体験科目（フィールドスタディ、ケーススタディ、言語文化研修）を履修することが卒業要件として要求されており（**〔各専攻プログラムに関する卒業要件〕**参照）、積極的な履修が望まれる。履修に際しては、**〔カリキュラム表〕**の備考欄を参照のうえ、掲示による指示に注意する。

4）プロジェクト科目

プロジェクト科目とは、少人数受講者を対象とした演習形式の科目であり、１年次の「基礎演習」および２年次以降の「交流文化演習」「卒業プロジェクト」を指す。

「基礎演習」は、大学での学習の方法を理解し、大学生の基礎を培うために開講される。所属クラスとは別に、20名程度のグループに分けて開講し、交流文化学部の専任教員が主に受け持つ。

「交流文化演習」「卒業プロジェクト」は、特定の教員について専門的な知識・方法を学ぶ授業科目であり、いわゆる「ゼミナール（ゼミ）」のことである。学生は２年次以降この「ゼミ」に所属し、卒業までに各自の興味関心をもとにした卒業研究論文を完成させる。

2. 段階的履修

各科目には履修年次が設定されており、基礎的な科目から応用あるいは発展的な科目へと段階的に履修していくことが意図されている。適正な授業理解度に基づいた学習のためにも、**〔カリキュラム表〕**の各科目のナンバリング*や**〔カリキュラムマップ〕（別表）**を参照し、段階的な履修計画を立てていく。また、授業がどの言語で行われているかをあらかじめ確認してから履修登録をする。

＊科目のナンバリング
各科目には４桁の番号が付けられている。各科目の分類と番号については〔カリキュラムマップ〕の凡例のとおりであり、１桁目の番号は授業レベル、２桁目は領域、３桁目は科目群、４桁目は使用言語を表している。履修に当たっては番号に注意して、基礎の科目つまり１桁目の番号の小さなものから順次履修をするように努める。

１）履修年次
カリキュラム表および時間割の履修年次欄の「１・２」や「２・３」という表示は、それぞれの授業が、「１年次と２年次」「２年次と３年次」向けに開講されていることを示している。自分の学年以外に向けて開講されている科目でも、下級年次対象の科目は履修できるが、上級年次対象の科目は履修できない（例：３年生は「１・２」の科目は履修できるが、１年次は「２・３」の科目は履修できない）。複数年次で履修可能な科目は（例：「２・３」と表示のあるもの）、できるだけ早い年次で履修することが望ましい。

２）カリキュラムマップ
交流文化学部のディプロマ・ポリシーを達成するため、様々な科目群が設定され、体系化されている。それを図化したものがカリキュラムマップである。カリキュラムマップでは、１年次から２年次、３年次、そして４年次へと、各科目群でどのように科目を修得していくべきかが示され、段階的な履修の積み上げ方がわかるようになっている。とくに語学（基盤科目）や日本語教育の科目については、段階的に修得できるよう設定されているので、必ずマップの下の方から履修を進めていく。

3. ゼミナール（交流文化演習・卒業プロジェクト）と専攻プログラム

3.1 全体概要

交流文化学部では、「ランゲージ」と「国際交流・観光」の２つの「専攻」と、さらにその下に８つの「専攻プログラム」を設定している。これは幅広い教養に裏打ちされた、各分野の高い専門的知識および技能を獲得するという本学部の教育目標を達成するためであり、本学部の最も重要な特色である。

それぞれの専攻の人材育成目標と専攻プログラムは以下のとおりである。

専攻名	人材育成目標	専攻プログラム名
ランゲージ	英語、中国語、韓国・朝鮮語について、それぞれの言語や文化についての知識を基盤に実践的な言語運用能力を備えたスペシャリストを養成する。また言語教育も視野に入れ、豊かな知識と高い対応能力を持つ日本語・英語の教師を育成する。	①イングリッシュ・エクスパート ②チャイニーズ・エクスパート ③コリアン・エクスパート ④日本語教育
国際交流・観光	広い視野と柔軟な姿勢を持ち、企画力、実践力、コミュニケーション力に長け、地域の発展に寄与し、グローバルな企業、国際協力団体などで活躍できる人材を育成する。	⑤エリアスタディーズ ⑥グローバルスタディーズ
	観光をビジネス、産業、社会そして文化などの視点から総合的に理解し、魅力あるホスピタリティ、活力に満ちた観光の創生に貢献できる人材を育成する。	⑦観光ホスピタリティ ⑧観光デザイン

本学部の学生は、１年次の学習で多様な学問的アプローチにふれた後、各自の専攻でゼミナール（通称「ゼミ」と呼ばれる演習科目）と専攻プログラムを選択・登録する。

ゼミは、２年次より開始され、一人の教員のもとに少人数の学生が３年間、ある特定のテーマについて学修・研究を進める場である。交流文化学部では、このゼミを通じて自らの興味関心に基づいた研究を集大成した卒業研究論文を必ず提出しなければならない。

各専攻プログラムには、専門教育科目の中からそれぞれ、58単位の選択必修科目を含む75単位（以上）の卒業要件が設定されており、卒業までに登録した専攻プログラムの卒業要件を満たさなければならない（〔**各専攻プログラムに関する卒業要件**〕参照）。

3.2 専攻、ゼミ、専攻プログラムについて

学生は入学直後から、大学で何を学び、自分は将来どのような道に進みたいかをよく考える必要がある。専門教育科目の「交流文化概論」（1年次前期必修科目）とともにさまざまな中心科目、基盤科目の履修を通じて、また「基礎演習」（1年次前期必修科目）における担当教員からの指導や面談を通じて、どのゼミ、専攻プログラムを選択するのか熟考する。

それぞれのゼミは「ランゲージ」「国際交流・観光」専攻の下に複数開講されており、学生は所属専攻の中から一つのゼミを選択・決定する。各学生は所属専攻の専攻プログラムの中から希望するもの一つを登録する。なお、専攻をまたいで専攻プログラムを登録することはできない。

3.3 ゼミと専攻プログラムの登録

交流文化学部におけるゼミおよび専攻プログラムの登録は、1年次後期に以下の手順で行う。なお、詳細は秋に行われるゼミ登録説明会で確認する。

1）ゼミの登録

秋に設定される申請期間に各自登録申請を行う。必ずしも第1希望のゼミへ配属されるわけではなく、選抜の結果第2、第3希望のゼミに配属が決定する場合もある。

2）専攻プログラムの登録

所属専攻の中から専攻プログラムを一つ選択し、設定される申請期間に各自登録を行う。なお、専攻プログラムに定員はなく、各自の登録により決定する。

3.4 ゼミと専攻プログラムの変更

1）ゼミの変更

ゼミは2年次から開始され、原則として同一教員のゼミ所属を2・3・4年次の3年間変更しないこととする。ただし学修を進めていく上で、やむを得ない事情で変更の必要が生じた場合には、ゼミ相談窓口（詳細はCampusSquare等で通知）に相談する。

2）専攻プログラムの変更

2年次および3年次で専攻プログラム変更の必要が生じた場合には、各年度2月末～3月上旬に受け付ける。詳細はCampusSquareで案内する。このとき以外の変更は原則として認めない。

3.5 ゼミ学修にもとづく卒業研究論文の完成・提出

交流文化学部の学生は、所属したゼミでの学修を通じて、卒業研究論文を完成させ、提出しなければならない。

卒業研究論文について

1）規定：【日本語の場合】20,000字以上　【英語の場合】4,500単語以上

2）提出：4年次　12月上旬（9月卒業予定者は6月下旬）

4. 各専攻プログラムに関する卒業要件

<table>
<tr><th colspan="2" rowspan="2"></th><th colspan="4">ランゲージ専攻</th><th colspan="4">国際交流・観光専攻</th></tr>
<tr><th>イングリッシュ・エクスパート</th><th>チャイニーズ・エクスパート</th><th>コリアン・エクスパート</th><th>日本語教育</th><th>エリアスタディーズ</th><th>グローバルスタディーズ</th><th>観光ホスピタリティ</th><th>観光デザイン</th></tr>
<tr><td rowspan="9">中心科目</td><td>日本語教育</td><td>4 ※2</td><td rowspan="2">6 ※6</td><td rowspan="3">8 ※10</td><td>12 ※13</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>言語文化</td><td>8 ※3</td><td>12 ※14</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>コミュニケーション</td><td rowspan="2">6 ※4</td><td rowspan="4">8 ※7</td><td></td><td></td><td></td><td rowspan="2">6</td><td rowspan="2">12</td></tr>
<tr><td>地域文化</td><td rowspan="3">8 ※11</td><td rowspan="2">12</td><td>24</td><td>12</td></tr>
<tr><td>国際社会</td><td rowspan="3">2</td><td>12 ※15</td><td>24 ※15</td><td>6</td><td>4</td></tr>
<tr><td>観光産業</td><td></td><td rowspan="2">2</td><td rowspan="2">2</td><td rowspan="2">26 ※16</td><td rowspan="2">22 ※16</td></tr>
<tr><td>観光文化</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="5">基盤科目</td><td>英語</td><td>36 ※5</td><td></td><td></td><td rowspan="5">18</td><td rowspan="5">14</td><td rowspan="5">14</td><td rowspan="5">12</td><td rowspan="5">12</td></tr>
<tr><td>中国語</td><td></td><td rowspan="3">36 ※8</td><td></td></tr>
<tr><td>海外研修</td><td></td><td rowspan="2">36</td></tr>
<tr><td>韓国・朝鮮語</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>その他外国語入門 ＊</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="8">体験科目</td><td>言語文化研修</td><td rowspan="3">2</td><td rowspan="3">8 ※9</td><td rowspan="3">6 ※12</td><td rowspan="3">4</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>フィールドスタディ言語</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>ケーススタディ言語</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>フィールドスタディ交流</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td rowspan="2">6</td><td rowspan="2">6</td><td rowspan="2">2</td><td rowspan="2">2</td></tr>
<tr><td>ケーススタディ交流</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>フィールドスタディ観光</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td rowspan="2">6</td><td rowspan="2">6</td></tr>
<tr><td>ケーススタディ観光</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">プロジェクト科目</td><td>交流文化概論　基礎演習</td><td>4</td><td>4</td><td>4</td><td>4</td><td>4</td><td>4</td><td>4</td><td>4</td></tr>
<tr><td>演習・卒業プロジェクト（ゼミ）※1</td><td>11単位以上</td><td>11単位以上</td><td>11単位以上</td><td>11単位以上</td><td>11単位以上</td><td>11単位以上</td><td>11単位以上</td><td>11単位以上</td></tr>
<tr><td colspan="2">キャリアデザイン科目</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td></tr>
<tr><td colspan="2">星が丘キャンパスモデル</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">特別実習科目</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">合計</td><td>75</td><td>75</td><td>75</td><td>75</td><td>75</td><td>75</td><td>75</td><td>75</td></tr>
</table>

入門科目について
「日本語教育入門」「言語学入門」「コミュニケーション論１（コミュニケーション論入門）」「交流文化１（国際交流入門）」「交流文化２（国際関係入門）」「観光産業１（観光学入門）」の中から６単位（３科目）必修

基盤科目について
＊　日本語を第一言語としない者のみ「N1対策講座Ⅰ」「N1対策講座Ⅱ」は履修可。

演習・卒業プロジェクト科目について
※1　星が丘モデルゼミ・アクティブ履修登録者は、ビジネス学部、グローバル・コミュニケーション学部のいずれかより履修する

各専攻プログラムの必修・選択必修科目
【イングリッシュ・エクスパート】
※2 「日本語学１」または「日本語学２」の中から２単位必修
※3 「言語文化１（英語学概論）」、「言語学入門」必修
※4 「コミュニケーション論１（コミュニケーション論入門）」必修
※5 「ELS1（Basic Writing）」、「ECS7（Presentation １）」必修
【チャイニーズ・エクスパート】
※6 「中国現代文学」必修
※7 「地域文化３（中国）」必修
※8 「CCS11（中国語プレゼンテーション）」必修
※9 「中国語海外研修」、「中国語国内研修」、「ケーススタディ言語５（中国語メディア制作研究）」、「ケーススタディ言語６（中国語観光案内実践）」、「ケーススタディ言語７（中国語文化翻訳）」、「フィールドスタディ言語２（中国）」から６単位必修
【コリアン・エクスパート】
※10 「韓国・朝鮮文学」必修
※11 「地域文化４（韓国・朝鮮）」必修
※12 「韓国・朝鮮語国内研修」、「フィールドスタディ言語３（韓国）」、「ケーススタディ言語８（韓国・朝鮮語と社会）」、「ケーススタディ言語９（韓国・朝鮮語文化翻訳）」、ケーススタディ言語10（韓国語観光案内実践）から６単位必修
【日本語教育】
※13 「日本語教育入門」、「日本語学１」、「日本語学２」、「日本語教材研究」、「日本語教授法１」、「日本語教授法２」必修
※14 「言語文化５（第２言語習得論）」、「言語文化６（言語と談話）」、「コミュニケーション論１（コミュニケーション論入門）」必修
【エリアスタディーズ/グローバルスタディーズ】
※15 「交流文化１（国際交流入門）」または「交流文化２（国際関係入門）」の中から２単位必修
【観光ホスピタリティ/観光デザイン】
※16 「観光産業１（観光学入門）」必修

5. 日本語教師資格課程

2016年度以降入学者を対象とした日本語教師の資格取得課程である。本課程は、「日本語教育人材の養成・研修の在り方について（報告）改定版」（平成31年３月４日、文化審議会国語分科会）における「日本語教師〔養成〕における教育内容」に対応する日本語教育に関する科目26単位以上を修得する課程である。資格認定に必要な単位を修得し、学士号を取得することによって、国の示した基準を満たしていることが明記された本学の日本語教師資格修了認定証を得ることができる。なお、この課程は交流文化学部の専門教育科目で構成されるが、他学部・他学科開放科目のため他学部の学生も資格取得が可能である。

履修上の注意

① 下の「日本語教育科目一覧表」を参照し、必要な単位28単位を修得する。

② 「言語と教育」領域の科目は、すべての科目の単位を修得する必要がある。履修年次をよく確認し、適切な順序で学修する。また、これらの科目は本学で履修しなければならない。

③ 「日本語教育実習」は以下の条件を満たした上で、後期に別途開催される説明会に原則２年次に出席し、所定の時期に実習の申請手続きをし、許可されたものが履修できる。

【日本語教育実習を履修する条件】

・原則として３年次前期までに「言語と教育」領域の「日本語教育実習」以外の科目の単位を全て修得していること。
・履修登録時の成績が累計GPA2.3以上であること。

④ 「社会・文化・地域」「言語と社会」「言語と心理」「言語」領域は、各領域で必要な単位数を満たすように、科目群から科目を選択して、修得する。

日本語教育科目一覧

領域	科目名	必修単位	選択単位	履修年次	科目番号
言語と教育	日本語教育入門	2		1	267002
	日本語教材研究	2		2	267005
	日本語教授法１	2		1	267201
	日本語教授法２	2		2	267202
	日本語教授法３	2		2・3	267245
	日本語教授法４	2		3	267246
	日本語教育実習（国内） 日本語教育実習（海外）	2		3・4	267225 267226
社会・文化・地域	交流文化３（国際理解教育）		4	1・2	267027
	交流文化８（エスニシティ論）			2・3	267033
	ケーススタディ交流８（国際交流）			2・3	267170
言語と社会	コミュニケーション論１（コミュニケーション論入門）		4	1	266028
	コミュニケーション論２（ことばとコミュニケーション）			2	267011
	言語文化６（言語と談話）			2・3	267186
	交流文化４（多文化共生）			2・3	267028
	ケーススタディ交流１（異文化トレーニング）			2・3	267160
言語と心理	言語文化４（言語の習得）		2	2・3	266017
	言語文化５（第２言語習得論）			2・3	267009
	コミュニケーション論４（インター・カルチャー）			3・4	267013
言語	日本語学１		4	1・2	267003
	日本語学２			1・2	267004
	ケーススタディ言語11（日本語学）			2・3	267156

注意事項：これらの科目は、履修登録単位数の上限単位数から除外されない。履修する場合は上限単位数に含まれることを念頭において、カリキュラム表をよく確認して履修計画を立てる。

6 カリキュラム表（交流文化学部 専門教育科目）

科目群		ナンバリング	DP番号	科目番号	科目	必修単位	選択単位	履修年次	開講学期	開講最少履修者数（目安）	卒業要件 ランゲージ専攻 イングリッシュ・エクスパート	チャイニーズ・エクスパート	コリアン・エクスパート	日本語教育	国際交流・観光専攻 エリアスタディーズ	グローバルスタディーズ	観光ホスピタリティ	観光デザイン	備考
中心科目	日本語教育	1110	DP1, DP2	267002	日本語教育入門		2	1		1	4単位以上（注2）	日本語教育・言語文化から6単位以上（注6）	日本語教育・言語文化・コミュニケーションから8単位以上（注10）	12単位以上（注13）	言語文化・コミュニケーションから12単位以上（注14）				「日本語教育入門」「言語学入門」「コミュニケーション論１（コミュニケーション論入門）」「交流文化１（国際交流入門）」「交流文化２（国際関係入門）」「観光産業１（観光学入門）」の中から６単位（３科目）必修
		1110	DP1, DP2	267003	日本語学１		2	1･2	前期	1									
		1110	DP1, DP2	267004	日本語学２		2	1･2	後期	1									
		2110	DP1, DP2	267005	日本語教材研究		2	2	前期･後期	1									
		2110	DP1, DP2	267201	日本語教授法１		2	1･2	前期･後期	1									１年次前期は履修不可
		2110	DP1, DP2	267202	日本語教授法２		2	2	前期･後期	1									「日本語教授法１」の単位を修得した学生のみ履修可
		2110	DP1, DP2	267245	日本語教授法３		2	2･3	前期･後期	1									「日本語教授法１」「日本語教授法２」の単位を修得した学生で選考を通った学生のみ履修可
		3110	DP1, DP2	267246	日本語教授法４		2	3	前期･後期	1									「日本語教授法１～３」の単位を修得または「日本語教授法３」を同時履修の学生で選考を通った学生のみ履修可
	言語文化	1120	DP1, DP2	267203	言語学入門		2	1	後期	1									「日本語教育入門」「言語学入門」「コミュニケーション論１（コミュニケーション論入門）」「交流文化１（国際交流入門）」「交流文化２（国際関係入門）」「観光産業１（観光学入門）」の中から６単位（３科目）必修
		1120	DP1, DP2	266014	言語文化１（英語学概論）		2	1	前期･後期	1									
		2120	DP1, DP2	266015	言語文化２（言語の形式）		2	2･3	前期	10									
		2120	DP1, DP2	266016	言語文化３（言語の意味）		2	2･3	後期	10									
		2120	DP1, DP2	266017	言語文化４（言語の習得）		2	2･3	前期･後期	10									
		2120	DP1, DP2	267009	言語文化５（第２言語習得論）		2	2･3	前期	1									
		2120	DP1, DP2	267186	言語文化６（言語と談話）		2	2･3	前期	1									

（注２）「日本語学１」または「日本語学２」の中から２単位必修
（注３）「言語文化１（英語学概論）」、「言語学入門」必修
（注６）「中国現代文学」必修
（注10）「韓国・朝鮮文学」必修
（注13）「日本語教育入門」、「日本語学１」、「日本語学２」、「日本語教材研究」、「日本語教授法１」、「日本語教授法２」必修
（注14）「言語文化５（第２言語習得論）」、「言語文化６（言語と談話）」、「コミュニケーション論１（コミュニケーション論入門）」必修

科目群		ナンバリング	DP番号	科目番号	科目	必修単位	選択単位	履修年次	開講学期	開講最少履修者数（目安）	卒業要件 ランゲージ専攻 イングリッシュ・エクスパート	ランゲージ専攻 チャイニーズ・エクスパート	ランゲージ専攻 コリアン・エクスパート	国際交流・観光専攻 日本語教育	国際交流・観光専攻 エリアスタディーズ	国際交流・観光専攻 グローバルスタディーズ	国際交流・観光専攻 観光ホスピタリティ	国際交流・観光専攻 観光デザイン	備考
中心科目	言語文化	2120	DP1, DP2	266021	英文学		2	2·3	前期	1	8単位以上（注3）	日本語教育・言語文化から6単位以上（注6）	日本語教育・言語文化・コミュニケーションから8単位以上（注10）	言語文化・コミュニケーションから12単位以上（注14）					
		2120	DP1, DP2	266022	英文学史		2	2·3	後期	10									
		2120	DP1, DP2	261211	中国現代文学		2	2·3	前期·後期	1									
		2120	DP1, DP2	261212	中国文学史		2	2·3	後期	10									
		2120	DP1, DP2	267010	韓国・朝鮮文学		2	2·3	後期	1									
	コミュニケーション	1200	DP1, DP2	266028	コミュニケーション論１（コミュニケーション論入門）		2	1	前期·後期	1	コミュニケーション・地域文化・国際社会から6単位以上（注4）					コミュニケーション・地域文化から6単位以上	コミュニケーション・地域文化から12単位以上	コミュニケーション・地域文化から12単位以上	「日本語教育入門」「言語学入門」「コミュニケーション論１（コミュニケーション論入門）」「交流文化１（国際交流入門）」「交流文化２（国際関係入門）」「観光産業１（観光学入門）」の中から６単位（３科目）必修
		2200	DP1, DP2	267011	コミュニケーション論２（ことばとコミュニケーション）		2	2	前期·後期	10									
		2200	DP1, DP2	267012	コミュニケーション論３（ノンバーバル）		2	2	前期	10									
		3200	DP1, DP2	267013	コミュニケーション論４（インター・カルチャー）		2	3·4	前期·後期	10									
		1200	DP1, DP2	267204	心理学		2	1	前期·後期	10									
	地域文化	1210	DP1, DP2	267014	地域文化１（日本）		2	1·2	前期	10				地域文化・国際社会から12単位以上	地域文化から24単位以上				
		1210	DP1, DP2	267015	地域文化２（東南アジア）		2	1·2	後期	10									
		1210	DP1, DP2	261503	地域文化３（中国）		2	1·2	前期·後期	1									
		1210	DP1, DP2	267016	地域文化４（韓国・朝鮮）		2	1·2	前期·後期	1									
		1210	DP1, DP2	267017	地域文化５（ロシア）		2	1·2	前期·後期	10									
		1210	DP1, DP2	267018	地域文化６（ヨーロッパ）		2	1·2	前期·後期	10									
		1210	DP1, DP2	266045	地域文化７（北米）		2	1·2	後期	1									
		2211	DP1, DP2	266046	地域文化８（オーストラリア）		2	2·3	後期	1									
		2210	DP1, DP2	267019	地域文化９（中東史）		2	2·3	前期	10									
		1210	DP1, DP2	267205	地域文化10（アフリカ）		2	1·2	後期	10									
		2210	DP1, DP2	267020	地域文化11（文化と宗教）		2	2·3	後期	10									
		1210	DP1, DP2	267021	地域文化12（文化と思想）		2	1·2	後期	10									

（注３）「言語文化１（英語学概論）」、「言語学入門」必修
（注４）「コミュニケーション論１（コミュニケーション論入門）」必修
（注６）「中国現代文学」必修
（注７）「地域文化３（中国）」必修
（注10）「韓国・朝鮮文学」必修
（注11）「地域文化４（韓国・朝鮮）」必修
（注14）「言語文化５（第２言語習得論）」、「言語文化６（言語と談話）」、「コミュニケーション論１（コミュニケーション論入門）」必修

科目群		ナンバリング	DP番号	科目番号	科目	必修単位	選択単位	履修年次	開講学期	開講最少履修者数（目安）	卒業要件 ランゲージ専攻 イングリッシュ・エクスパート	ランゲージ専攻 チャイニーズ・エクスパート	ランゲージ専攻 コリアン・エクスパート	ランゲージ専攻 日本語教育	国際交流・観光専攻 エリアスタディーズ	国際交流・観光専攻 グローバルスタディーズ	国際交流・観光専攻 観光ホスピタリティ	国際交流・観光専攻 観光デザイン	備考
中心科目	地域文化	1210	DP1, DP2	266048	歴史学１（日本史）		2	1･2	前期･後期	1	コミュニケーション・地域文化から6単位以上（注4）				地域文化から24単位以上	地域文化から12単位以上	コミュニケーション・地域文化から6単位以上	コミュニケーション・地域文化から12単位以上	
		1210	DP1, DP2	266049	歴史学２（世界史）		2	1･2	前期･後期	1									
		2210	DP1, DP2	267023	歴史学３（アジア史）		2	2･3	後期	10									
		2210	DP1, DP2	267024	歴史学４（欧米現代史）		2	2･3	後期	10									
		2210	DP1, DP2	267026	歴史学５（日本政治外交史）		2	2･3	後期	10									
	国際社会	1230	DP1, DP2	267206	交流文化１（国際交流入門）		2	1･2	後期	10	国際社会・観光産業・観光文化から2単位以上	コミュニケーション・地域文化・国際社会・観光産業・観光文化から8単位以上（注7）	地域文化・国際社会・観光産業・観光文化から8単位以上（注11）	地域文化・国際社会から12単位以上	国際社会から12単位以上（注15）	国際社会から24単位以上（注15）	国際社会から6単位以上	国際社会から4単位以上	「日本語教育入門」「言語学入門」「コミュニケーション論１（コミュニケーション論入門）」「交流文化１（国際交流入門）」「交流文化２（国際関係入門）」「観光産業１（観光学入門）」の中から６単位（３科目）必修
		1230	DP1, DP2	266070	交流文化２（国際関係入門）		2	1･2	前期･後期	10									「日本語教育入門」「言語学入門」「コミュニケーション論１（コミュニケーション論入門）」「交流文化１（国際交流入門）」「交流文化２（国際関係入門）」「観光産業１（観光学入門）」の中から６単位（３科目）必修
		1230	DP1, DP2	267027	交流文化３（国際理解教育）		2	1･2	前期	10									
		2230	DP1, DP2	267028	交流文化４（多文化共生）		2	2･3	後期	10									
		2230	DP1, DP2	267029	交流文化５（南北問題）		2	2･3	前期	10									
		2230	DP1, DP2	267030	交流文化６（国際機構）		2	2･3	後期	10									
		2230	DP1, DP2	267031	交流文化７（国際協力）		2	2･3	後期	10									
		2230	DP1, DP2	267033	交流文化８（エスニシティ論）		2	2･3	前期･後期	10									
		1230	DP1, DP2	267207	交流文化９（文化人類学）		2	1･2	前期	10									
		2230	DP1, DP2	267035	交流文化10（国際政治経済事情）		2	2･3	前期･後期	10									
		1220	DP1, DP2	266056	地域理解１（くらしと法律）		2	1･2	後期	10									
		1220	DP1, DP2	266057	地域理解２（政治のしくみ）		2	1･2	前期･後期	10									
		1220	DP1, DP2	266058	地域理解３（人と社会）		2	1･2	前期･後期	10									
		1220	DP1, DP2	267037	地域理解４（経済学）		2	1･2	前期･後期	10									
		2220	DP1, DP2	267038	地域理解５（NPO/NGO）		2	2･3	前期･後期	10									

（注４）「コミュニケーション論１（コミュニケーション論入門）」必修
（注７）「地域文化３（中国）」必修
（注11）「地域文化４（韓国・朝鮮）」必修
（注15）「交流文化１（国際交流入門）」または「交流文化２（国際関係入門）」の中から２単位必修

科目群		ナンバリング	DP番号	科目番号	科　目	必修単位	選択単位	履修年次	開講学期	開講最少履修者数（目安）	卒業要件 ランゲージ専攻 イングリッシュ・エクスパート	チャイニーズ・エクスパート	コリアン・エクスパート	日本語教育	国際交流・観光専攻 エリアスタディーズ	グローバルスタディーズ	観光ホスピタリティ	観光デザイン	備　考
中心科目	観光産業	1300	DP1, DP2	267208	観光産業１（観光学入門）		2	1	後期	1	国際社会・観光産業・観光文化から2単位以上	コミュニケーション・地域文化・国際社会・観光産業・観光文化から8単位以上（注7）	地域文化・国際社会・観光産業・観光文化から8単位以上（注11）		観光産業・観光文化から2単位以上	観光産業・観光文化から2単位以上	観光産業・観光文化から26単位以上（注16）	観光産業・観光文化から22単位以上（注16）	「日本語教育入門」「言語学入門」「コミュニケーション論１（コミュニケーション論入門）」「交流文化１（国際交流入門）」「交流文化２（国際関係入門）」「観光産業１（観光学入門）」の中から６単位（３科目）必修
		2300	DP1, DP2	267040	観光産業２（観光ビジネス論）		2	2･3	後期	10									
		2300	DP1, DP2	267041	観光産業３（ツーリズム論）		2	2･3	前期	10									
		2300	DP1, DP2	267042	観光産業４（観光産業論）		2	2･3	前期	10									
		2300	DP1, DP2	267043	観光産業５（観光政策論）		2	2･3	後期	10									
		2300	DP1, DP2	267044	観光産業６（観光マーケティング論）		2	2･3	後期	10									
		2300	DP1, DP2	267045	観光産業７（旅行業務論）		2	2･3	後期	10									
		2300	DP1, DP2	267046	観光産業８（リスクマネジメント論）		2	2･3	前期･後期	10									
		1300	DP1, DP2	267039	観光産業９（観光マネジメント論）		2	1･2	後期	10									
		1300	DP1, DP2	266098	地理学		2	1･2	前期･後期	1									
	観光文化	1310	DP1, DP2	266091	観光文化１（観光文化論）		2	1･2	前期･後期	10									
		1310	DP1, DP2	267047	観光文化２（観光交流論）		2	1･2	前期	10									
		2310	DP1, DP2	267048	観光文化３（観光社会学）		2	2･3	前期･後期	10									
		2310	DP1, DP2	267049	観光文化４（ホスピタリティ論）		2	2･3	前期･後期	10									
		2310	DP1, DP2	267050	観光文化５（コミュニティデザイン）		2	2･3	後期	10									
		2310	DP1, DP2	267051	観光文化６（観光まちづくり論）		2	2･3	後期	10									
		2310	DP1, DP2	266090	通訳ガイド入門		2	2･3	前期･後期	10									
		1310	DP1, DP2	266097	フィールドワーク論		2	1･2	後期	10									
		1310	DP1, DP2	267052	民俗学		2	1･2	前期･後期	10									
		2310	DP1, DP2	266099	地誌学		2	2･3	前期･後期	1									
		1310	DP1, DP2	267053	世界遺産論（初級）		2	1･2	前期･後期	10									
		2310	DP1, DP2	267054	世界遺産論（中級）		2	2･3	前期･後期	10									

（注７）「地域文化３（中国）」必修
（注11）「地域文化４（韓国・朝鮮）」必修
（注16）「観光産業１（観光学入門）」必修

科目群		ナンバリング	DP番号	科目番号	科目	必修単位	選択単位	履修年次	開講学期	開講最少履修者数（目安）	卒業要件 ランゲージ専攻 イングリッシュ・エクスパート	卒業要件 ランゲージ専攻 チャイニーズ・エクスパート	卒業要件 ランゲージ専攻 コリアン・エクスパート	卒業要件 国際交流・観光専攻 日本語教育	卒業要件 国際交流・観光専攻 エリアスタディーズ	卒業要件 国際交流・観光専攻 グローバルスタディーズ	卒業要件 国際交流・観光専攻 観光ホスピタリティ	卒業要件 国際交流・観光専攻 観光デザイン	備考
基盤科目	英語	1130	DP4	267055	EBS1（Basic Grammar 1）		2	1	前期	5	36単位以上（注5）			英語・中国語・海外研修・韓国・朝鮮語・その他外国語から18単位以上	英語・中国語・海外研修・韓国・朝鮮語・その他外国語から14単位以上	英語・中国語・海外研修・韓国・朝鮮語・その他外国語から14単位以上	英語・中国語・海外研修・韓国・朝鮮語・その他外国語から12単位以上	英語・中国語・海外研修・韓国・朝鮮語・その他外国語から12単位以上	
		1130	DP4	267056	EBS2（Basic Grammar 2）		2	1	後期	5									
		1130	DP4	267057	EBS3（Extensive Reading 1）		2	1	前期	5									
		1130	DP4	267058	EBS4（Extensive Reading 2）		2	1	後期	5									
		1130	DP4	267059	ELS1（Basic Writing）		2	1	前期・後期	1									
		1130	DP4	267060	ELS2（Pronunciation）		2	1·2	後期	5									
		2130	DP4	267061	ELS3（Current English 1）		2	2	前期	5									
		2130	DP4	267062	ELS4（Current English 2）		2	2	後期	5									
		2130	DP4	267063	ELS5（Creative Writing）		2	2	前期	5									
		2130	DP4	267064	ELS6（Speed Reading）		2	2	後期	5									
		3130	DP4	267066	ELS7（Business Writing）		2	3	後期	5									
		1131	DP4	267068	ECS1（Basic English Communication 1）		2	1	前期	1									
		1131	DP4	267069	ECS2（Basic English Communication 2）		2	1	後期	5									
		2131	DP4	267070	ECS3（Content Based Communication 1）		2	2	前期	5									
		2131	DP4	267071	ECS4（Content Based Communication 2）		2	2	後期	5									
		2131	DP4	267072	ECS5（Oral Interpretation）		2	2	前期	5									
		2131	DP4	267073	ECS6（Readers Theater）		2	2	後期	5									
		2131	DP4	267074	ECS7（Presentation 1）		2	2	前期	1									
		2131	DP4	267075	ECS8（Presentation 2）		2	2	後期	5									
		2131	DP4	267076	ECS9（Dramatic Expression 1）		2	2·3	前期	5									
		2131	DP4	267077	ECS10（Dramatic Expression 2）		2	2·3	後期	5									
		3130	DP4	267078	ECS11（Interpretation 1）		2	3	前期	5									
		3130	DP4	267079	ECS12（Interpretation 2）		2	3	後期	5									
		3130	DP4	267080	ECS13（Translation 1）		2	3	前期	5									
		3130	DP4	267081	ECS14（Translation 2）		2	3	後期	5									
		3130	DP4	267084	ECS15（Script Writing）		2	3	後期	5									
	中国語	1142	DP4	262201	CLS1（中国語入門①）		4	1	前期・後期	5		中国語・海外研修から36単位以上（注8）							週2回の授業
		1142	DP4	262202	CLS2（中国語入門②）		4	1	前期・後期	5									週2回の授業
		1142	DP4	262203	CLS3（中国語読解①）		2	1	前期・後期	5									
		1142	DP4	262204	CLS4（中国語読解②）		2	1	前期・後期	5									
		1142	DP4	262205	CLS5（中国語読解③）		2	1·2	前期・後期	5									
		2142	DP4	262206	CLS6（中国語読解④）		2	2	後期	5									
		1142	DP4	267085	CLS7（中国語作文）		2	1·2	前期・後期	5									
		3142	DP4	267087	CLS8（ビジネス中国語）		2	3	前期・後期	5									
		1142	DP4	262213	CCS1（中国語会話①）		2	1	前期・後期	5									
		1142	DP4	262214	CCS2（中国語会話②）		2	1	前期・後期	5									

（注5）「ELS1（Basic Writing）」および「ECS7（Presentation 1）」必修
（注8）「CCS11（中国語プレゼンテーション）」必修

科目群		ナンバリング	DP番号	科目番号	科　目	必修単位	選択単位	履修年次	開講学期	開講最少履修者数（目安）	卒業要件								備　考
											ランゲージ専攻			国際交流・観光専攻					
											イングリッシュ・エクスパート	チャイニーズ・エクスパート	コリアン・エクスパート	日本語教育	エリアスタディーズ	グローバルスタディーズ	観光ホスピタリティ	観光デザイン	
基盤科目	中国語	1142	DP4	267090	CCS3（実践的中国語①）		4	1･2	前期･後期	5		中国語・海外研修から36単位以上（注8）		英語・中国語・海外研修・韓国・朝鮮語・その他外国語から18単位以上	英語・中国語・海外研修・韓国・朝鮮語・その他外国語から14単位以上	英語・中国語・海外研修・韓国・朝鮮語・その他外国語から14単位以上	英語・中国語・海外研修・韓国・朝鮮語・その他外国語から12単位以上	英語・中国語・海外研修・韓国・朝鮮語・その他外国語から12単位以上	週２回の授業
		2142	DP4	267091	CCS4（実践的中国語②）		4	2	後期	5									週２回の授業
		1142	DP4	267092	CCS5（動画中国語①）		2	1･2	前期･後期	5									
		2142	DP4	267093	CCS6（動画中国語②）		2	2	後期	5									
		3142	DP4	267094	CCS7（実践的中国語③）		4	2･3	前期	5									週２回の授業
		3142	DP4	267095	CCS8（実践的中国語④）		4	3	後期	5									週２回の授業
		3142	DP4	267096	CCS9（動画中国語③）		2	2･3	前期	5									
		3142	DP4	267097	CCS10（動画中国語④）		2	3	後期	5									
		3142	DP4	267098	CCS11（中国語プレゼンテーション）		2	2･3	前期･後期	1									
		1142	DP4	267209	HSK２級対策講座		2	1･4	前期･後期	5									中国語学習歴が半年以上の学生対象。
		1142	DP4	267210	HSK３級対策講座		2	1･4	前期･後期	5									中国語学習歴が１年以上の学生対象。
		1142	DP4	267211	HSK４級対策講座		2	1･4	前期･後期	5									中国語学習歴が１年以上の学生対象。
		1142	DP4	267212	HSK４級実践トレーニング		2	1･4	前期･後期	5									中国語学習歴が１年以上の学生対象。
		1142	DP4	267213	HSK５級対策講座		2	1･4	前期･後期	5									中国語学習歴が１年以上の学生対象。
		1142	DP4	267214	HSK５級実践トレーニング		2	1･4	前期･後期	5									中国語学習歴が１年以上の学生対象。
	海外研修	2192	DP4	267237	長期海外セミナー中国語１（前期）		10	2	前期	5			海外研修・韓国・朝鮮語から36単位						（注17）
		2192	DP4	267238	長期海外セミナー中国語２（前期）		10	2	前期	5									
		1192	DP4	267239	長期海外セミナー中国語１（後期）		10	1	後期	5									（注18）
		1192	DP4	267240	長期海外セミナー中国語２（後期）		10	1	後期	5									

（注８）「CCS11（中国語プレゼンテーション）」必修

（注17）

・履修登録は「長期海外セミナー中国語１（前期）」、「長期海外セミナー中国語２（前期）」同時に履修する。

・最大半年の延長が可能。ただし、延長した場合は、同じレベルのクラスを再度履修することはできず、上（次）のクラスを履修しなければならない。

【履修条件】

長期海外セミナー中国語の履修については、以下の条件による。

・登録を希望する場合は、掲示の指示に従ってガイダンスに参加し、手続きを行う（各自での履修登録は不要）。

・GPA（通算）2.3以上。１年生の場合は面接試験の結果にゆだねる。

・「基礎演習」を履修中または修得済みの学生のみ履修可。

・演習などの必修科目や資格関連の科目は本学で履修をしなければならない。長期海外セミナーに参加することにより、単位修得不足で卒業不認定の可能性があることを留意して参加する。詳しくはガイダンスで確認する。

（注18）

・履修登録は「長期海外セミナー中国語１（後期）」、「長期海外セミナー中国語２（後期）」同時に履修する。

・最大半年の延長が可能。ただし、延長した場合は、同じレベルのクラスを再度履修することはできず、上（次）のクラスを履修しなければならない。

【履修条件】

長期海外セミナー中国語の履修については、以下の条件による。

・登録を希望する場合は、掲示の指示に従ってガイダンスに参加し、手続きを行う（各自での履修登録は不要）。

・GPA（通算）2.3以上。１年生の場合は面接試験の結果にゆだねる。

・「基礎演習」を履修中または修得済みの学生のみ履修可。

・演習などの必修科目や資格関連の科目は本学で履修をしなければならない。長期海外セミナーに参加することにより、単位修得不足で卒業不認定の可能性があることを留意して参加する。詳しくはガイダンスで確認する。

科目群		ナンバリング	DP番号	科目番号	科　目	必修単位	選択単位	履修年次	開講学期	開講最少履修者数（目安）	卒業要件									備　考
											ランゲージ専攻			国際交流・観光専攻						
											イングリッシュ・エクスパート	チャイニーズ・エクスパート	コリアン・エクスパート	日本語教育	エリアスタディーズ	グローバルスタディーズ	観光ホスピタリティ	観光デザイン		
基盤科目	海外研修	2193	DP4	267241	長期海外セミナー韓国・朝鮮語１（前期）		10	2	前期	5		中国語・海外研修から36単位以上（注８）	海外研修・韓国・朝鮮語から36単位	英語・中国語・海外研修・韓国・朝鮮語・その他外国語から18単位以上	英語・中国語・海外研修・韓国・朝鮮語・その他外国語から14単位以上	英語・中国語・海外研修・韓国・朝鮮語・その他外国語から14単位以上	英語・中国語・海外研修・韓国・朝鮮語・その他外国語から12単位以上	英語・中国語・海外研修・韓国・朝鮮語・その他外国語から12単位以上		（注19）
		2193	DP4	267242	長期海外セミナー韓国・朝鮮語２（前期）		10	2	前期	5										
		1193	DP4	267243	長期海外セミナー韓国・朝鮮語１（後期）		10	1	後期	5										（注20）
		1193	DP4	267244	長期海外セミナー韓国・朝鮮語２（後期）		10	1	後期	5										
	韓国語	1153	DP4	267101	KBS1（韓国・朝鮮語入門A）		4	1	前期・後期	5										週２回の授業 交流文化学部専門科目「長期海外セミナー韓国・朝鮮語」のいずれかを単位修得している学生は履修不可
		1153	DP4	267102	KBS2（韓国・朝鮮語入門B）		2	1	前期・後期	5										交流文化学部専門科目「長期海外セミナー韓国・朝鮮語」のいずれかを単位修得している学生は履修不可
		1153	DP4	267103	KBS3（映像と韓国語）		2	1	前期・後期	5										交流文化学部専門科目「長期海外セミナー韓国・朝鮮語」のいずれかを単位修得している学生は履修不可

（注８）「CCS11（中国語プレゼンテーション）」必修

（注19）

・履修登録は「長期海外セミナー韓国・朝鮮語１（前期）」、「長期海外セミナー韓国・朝鮮語２（前期）」同時に履修する。

・最大半年の延長が可能。ただし、延長した場合は、梨花女子大学では同じレベルのクラスを再度履修することはできず、上（次）のクラスを履修しなければならない。

【履修条件】

長期海外セミナー韓国・朝鮮語の履修については、以下の条件による。

・登録を希望する場合は、掲示の指示に従ってガイダンスに参加し、手続きを行う（各自での履修登録は不要）。

・GPA（通算）2.3以上。１年生の場合は面接試験の結果にゆだねる。

・「基礎演習」を履修中または修得済みの学生のみ履修可。

・演習などの必修科目や資格関連の科目は本学で履修をしなければならない。長期海外セミナーに参加することにより、単位修得不足で卒業不認定の可能性があることを留意して参加すること。詳しくはガイダンスで確認こと。

・「長期海外セミナー韓国・朝鮮語」のいずれかを単位修得した場合、「KBS1（韓国・朝鮮語入門A）」「KBS2（韓国・朝鮮語入門B）」「KBS3（映像と韓国語）」を履修することはできない。

（注20）

・履修登録は「長期海外セミナー韓国・朝鮮語１（後期）」、「長期海外セミナー韓国・朝鮮語２（後期）」同時に履修する。

・最大半年の延長が可能。ただし、延長した場合は、梨花女子大学では同じレベルのクラスを再度履修することはできず、上（次）のクラスを履修しなければならない。

【履修条件】

長期海外セミナー韓国・朝鮮語の履修については、以下の条件による。

・登録を希望する場合は、掲示の指示に従ってガイダンスに参加し、手続きを行う（各自での履修登録は不要）。

・GPA（通算）2.3以上。１年生の場合は面接試験の結果にゆだねる。

・「基礎演習」を履修中または修得済みの学生のみ履修可。

・演習などの必修科目や資格関連の科目は本学で履修をしなければならない。長期海外セミナーに参加することにより、単位修得不足で卒業不認定の可能性があることを留意して参加すること。詳しくはガイダンスで確認こと。

・「長期海外セミナー韓国・朝鮮語」のいずれかを単位修得した場合、「KBS1（韓国・朝鮮語入門A）」「KBS2（韓国・朝鮮語入門B）」「KBS3（映像と韓国語）」を履修することはできない。

科目群		ナンバリング	DP番号	科目番号	科目	必修単位	選択単位	履修年次	開講学期	開講最少履修者数（目安）	卒業要件								備考
											ランゲージ専攻			国際交流・観光専攻					
											イングリッシュ・エクスパート	チャイニーズ・エクスパート	コリアン・エクスパート	日本語教育	エリアスタディーズ	グローバルスタディーズ	観光ホスピタリティ	観光デザイン	
基盤科目	韓国語	1153	DP4	267104	KLS1（韓国・朝鮮語読解①）		2	1	前期・後期	5			海外研修・韓国・朝鮮語から36単位	英語・中国語・海外研修・韓国・朝鮮語・その他外国語から18単位以上	英語・中国語・海外研修・韓国・朝鮮語・その他外国語から14単位以上	英語・中国語・海外研修・韓国・朝鮮語・その他外国語から14単位以上	英語・中国語・海外研修・韓国・朝鮮語・その他外国語から12単位以上	英語・中国語・海外研修・韓国・朝鮮語・その他外国語から12単位以上	
		1153	DP4	267105	KLS2（韓国・朝鮮語読解②）		2	1･2	前期・後期	5									
		1153	DP4	267106	KLS3（韓国・朝鮮語読解③）		2	1･2	前期・後期	5									
		2153	DP4	267107	KLS4（韓国・朝鮮語作文①）		2	2	前期	5									
		2153	DP4	267108	KLS5（韓国・朝鮮語作文②）		2	2	後期	5									
		2153	DP4	267109	KLS6（韓国・朝鮮語翻訳①）		2	2･3	前期	5									
		2153	DP4	267110	KLS7（韓国・朝鮮語翻訳②）		2	2･3	後期	5									
		3153	DP4	267111	KLS8（韓国・朝鮮語作文③）		2	3	前期	5									
		3153	DP4	267112	KLS9（韓国・朝鮮語作文④）		2	3	後期	5									
		3153	DP4	267113	KLS10（韓国・朝鮮語通訳①）		2	3･4	前期	5									
		3153	DP4	267114	KLS11（韓国・朝鮮語通訳②）		2	3･4	後期	5									
		1153	DP4	267115	KCS1（韓国・朝鮮語会話①）		2	1	前期・後期	5									
		1153	DP4	267116	KCS2（韓国・朝鮮語会話②）		2	1･2	前期・後期	5									
		1153	DP4	267117	KCS3（韓国・朝鮮語会話③）		2	1･2	前期・後期	5									
		2153	DP4	267118	KCS4（韓国・朝鮮語聴解①）		2	2	前期	5									
		2153	DP4	267119	KCS5（韓国・朝鮮語聴解②）		2	2	後期	5									
		2153	DP4	267120	KCS6（韓国･朝鮮語プレゼンテーション①）		2	2･3	前期	5									
		2153	DP4	267121	KCS7（韓国･朝鮮語プレゼンテーション②）		2	2･3	後期	5									
		3153	DP4	267122	KCS8（韓国・朝鮮語聴解③）		2	3	前期	5									
		3153	DP4	267123	KCS9（韓国・朝鮮語聴解④）		2	3	後期	5									
		3153	DP4	267124	KCS10（韓国･朝鮮語ディスカッション①）		2	3･4	前期	5									
		3153	DP4	267125	KCS11（韓国･朝鮮語ディスカッション②）		2	3･4	後期	5									
		1153	DP4	267215	TOPIK Ⅰ対策１（読解）		2	1	前期・後期	5									
		1153	DP4	267216	TOPIK Ⅰ対策２（聞取り）		2	1･2	前期・後期	5									
		2153	DP4	267126	TOPIKⅡ対策１（読解）		2	1･2	前期・後期	5									
		2153	DP4	267127	TOPIKⅡ対策２（聞取り）		2	2	前期・後期	5									
		2153	DP4	267217	TOPIKⅡ対策３（作文）		2	2	前期・後期	5									
	その他外国語	1160	DP4	267218	ロシア語A		2	1･2	前期・後期	5									
		1160	DP4	267219	ロシア語B		2	1･2	前期・後期	5									
		1160	DP4	267137	タイ語A		2	1･2	前期・後期	5									
		1160	DP4	267220	タイ語B		2	1･2	前期・後期	5									
		1160	DP4	267138	ベトナム語A		2	1･2	前期・後期	5									
		1160	DP4	267221	ベトナム語B		2	1･2	前期・後期	5									
		1160	DP4	267139	モンゴル語A		2	1･2	前期・後期	5									
		1160	DP4	267222	モンゴル語B		2	1･2	前期・後期	5									
		1160	DP4	267223	インドネシア語A		2	1･2	前期・後期	5									
		1160	DP4	267224	インドネシア語B		2	1･2	前期・後期	5									
		1110	DP4	110057	N1対策講座Ⅰ		2	1	前期	5									N1取得者は履修不可 日本語を第一言語としない者のみ履修可
		1110	DP4	110058	N1対策講座Ⅱ		2	1	後期	5									N1取得者は履修不可 日本語を第一言語としない者のみ履修可

科目群		ナンバリング	DP番号	科目番号	科目	必修単位	選択単位	履修年次	開講学期	開講最少履修者数（目安）	卒業要件 ランゲージ専攻 イングリッシュ・エクスパート	ランゲージ専攻 チャイニーズ・エクスパート	ランゲージ専攻 コリアン・エクスパート	国際交流・観光専攻 日本語教育	国際交流・観光専攻 エリアスタディーズ	国際交流・観光専攻 グローバルスタディーズ	国際交流・観光専攻 観光ホスピタリティ	国際交流・観光専攻 観光デザイン	備考
体験科目	言語文化研修	1181	DP3, DP5	263101	英語海外研修		4	1·2	後期	10	言語文化研修・フィールドスタディ言語・ケーススタディ言語から2単位以上	言語文化研修・フィールドスタディ言語・ケーススタディ言語から8単位以上（注9）	言語文化研修・フィールドスタディ言語・ケーススタディ言語から6単位以上（注12）	言語文化研修・フィールドスタディ言語・ケーススタディ言語から4単位以上					履修を認められた者の履修登録は教学事務室が行うので各自での登録は不要 原則取消不可
		1182	DP3, DP5	263102	中国語海外研修		4	1·2	前期	10									履修を認められた者の履修登録は教学事務室が行うので各自での登録は不要 原則取消不可
		1181	DP3, DP5	267140	英語国内研修		2	1·2	後期	10									・隔年開講：偶数の年 ・「基礎演習」を履修中または修得済みの学生のみ履修可
		2182	DP3, DP5	267141	中国語国内研修		2	2·3	前期·後期	5									・「基礎演習」を履修中または修得済みの学生のみ履修可 ・「CLS1（中国語入門①）」または「CCS1（中国語会話①）」を履修中または修得済みの学生のみ履修可
		2183	DP3, DP5	267142	韓国・朝鮮語国内研修		2	2	後期	5									
		3190	DP3, DP5	267225	日本語教育実習（国内）		2	3·4	前期·後期	1									事前説明会に参加 「日本語教授法４」の単位を修得または同時履修した学生で選考を通った学生のみ履修可
		3190	DP3, DP5	267226	日本語教育実習（海外）		2	3·4	後期	1									事前説明会に参加 「日本語教授法４」の単位を修得または同時履修した学生で選考を通った学生のみ履修可
	フィールドスタディ言語	1190	DP3, DP5	267144	フィールドスタディ言語１（アメリカ）		2	1·2	後期	10									履修を認められた者の履修登録は教学事務室が行うので各自での登録は不要 原則取消不可
		1190	DP3, DP5	267145	フィールドスタディ言語２（中国）		2	1·2	後期	10									履修を認められた者の履修登録は教学事務室が行うので各自での登録は不要 原則取消不可
		1190	DP3, DP5	267146	フィールドスタディ言語３（韓国）		2	1·2	前期	10									履修を認められた者の履修登録は教学事務室が行うので各自での登録は不要 原則取消不可
	ケーススタディ言語	2170	DP3, DP5	267147	ケーススタディ言語１（コーパス言語学）		2	2·3	前期·後期	5									
		2170	DP3, DP5	267148	ケーススタディ言語２（字幕翻訳）		2	2·3	前期·後期	5									
		2170	DP3, DP5	267149	ケーススタディ言語３（英語学）		2	2·3	後期	5									
		2170	DP3, DP5	267065	ケーススタディ言語４（Life Writing）		2	2·3	前期·後期	5									

（注９）「中国語海外研修」、「中国語国内研修」、「ケーススタディ言語５（中国語メディア制作研究）」、「ケーススタディ言語６（中国語観光案内実践）」、「ケーススタディ言語７（中国語文化翻訳）」、「フィールドスタディ言語２（中国）」から６単位必修

（注12）「韓国・朝鮮語国内研修」、「フィールドスタディ言語３（韓国）」、「ケーススタディ言語８（韓国・朝鮮語と社会）」、「ケーススタディ言語９（韓国・朝鮮語文化翻訳）」、ケーススタディ言語10（韓国語観光案内実践）から６単位必修

科目群		ナンバリング	DP番号	科目番号	科　目	必修単位	選択単位	履修年次	開講学期	開講最少履修者数（目安）	卒業要件 ランゲージ専攻 イングリッシュ・エクスパート	ランゲージ専攻 チャイニーズ・エクスパート	ランゲージ専攻 コリアン・エクスパート	ランゲージ専攻 日本語教育	国際交流・観光専攻 エリアスタディーズ	国際交流・観光専攻 グローバルスタディーズ	国際交流・観光専攻 観光ホスピタリティ	国際交流・観光専攻 観光デザイン	備　考
体験科目	ケーススタディ言語	2172	DP3, DP5	267151	ケーススタディ言語５（中国語メディア制作研究）		2	2･3	前期･後期	5	言語文化研修・フィールドスタディ言語・ケーススタディ言語から2単位以上	言語文化研修・フィールドスタディ言語・ケーススタディ言語から6単位以上（注9）	言語文化研修・フィールドスタディ言語・ケーススタディ言語から6単位以上（注12）	言語文化研修・フィールドスタディ言語・ケーススタディ言語から4単位以上					
		2172	DP3, DP5	267152	ケーススタディ言語６（中国語観光案内実践）		2	2･3	前期･後期	5									
		2172	DP3, DP5	267153	ケーススタディ言語７（中国語文化翻訳）		2	2･3	前期･後期	5									
		2173	DP3, DP5	267154	ケーススタディ言語８（韓国・朝鮮語と社会）		2	2･3	前期･後期	5									
		2173	DP3, DP5	267155	ケーススタディ言語９（韓国・朝鮮語文化翻訳）		2	2･3	前期･後期	5									
		2173	DP3, DP5	267227	ケーススタディ言語10（韓国・朝鮮語観光案内実践）		2	2･3	前期･後期	5									
		2170	DP3, DP5	267156	ケーススタディ言語11（日本語学）		2	2･3	前期･後期	5									
		2171	DP3, DP5	267228	ケーススタディ言語12（演劇教育）		2	2･3	後期	5									隔年開講：奇数の年
		2170	DP3, DP5	267001	ケーススタディ言語13（英語教育実践）		2	2･3	前期	5									
	フィールドスタディ交流	1250	DP3, DP5	267157	フィールドスタディ交流１（歴史と文化）		2	2･3	前期	10					フィールドスタディ交流・ケーススタディ交流から6単位以上	フィールドスタディ交流・ケーススタディ交流から6単位以上	フィールドスタディ交流・ケーススタディ交流から2単位以上	フィールドスタディ交流・ケーススタディ交流から2単位以上	履修を認められた者の履修登録は教学事務室が行うので各自での登録は不要 原則取消不可
		1250	DP3, DP5	267158	フィールドスタディ交流２（教育と開発）		2	2･3	前期	10									履修を認められた者の履修登録は教学事務室が行うので各自での登録は不要 原則取消不可
		1250	DP3, DP5	267159	フィールドスタディ交流３（アートと地域開発）		2	2･3	前期	10									
		1250	DP3, DP5	267229	フィールドスタディ交流４（国際開発と交流）		2	2･3	後期	10									
	ケーススタディ交流	2240	DP3, DP5	267160	ケーススタディ交流１（異文化トレーニング）		2	2･3	前期･後期	5									
		2241	DP3, DP5	267161	ケーススタディ交流２（アジア事情研究）		2	2･3	前期･後期	5									
		2240	DP3, DP5	267162	ケーススタディ交流３（ヨーロッパ事情研究）		2	2･3	前期･後期	5									
		2240	DP3, DP5	267230	ケーススタディ交流４（ストーリーテリング）		2	2･3	前期	5									
		2240	DP3, DP5	267164	ケーススタディ交流５（社会調査法）		2	2･3	前期･後期	5									
		2240	DP3, DP5	267166	ケーススタディ交流６（ファッションプロデュース研究）		2	2･3	前期･後期	5									
		2240	DP3, DP5	267169	ケーススタディ交流７（SNSプロモーション）		2	2･3	前期･後期	5									
		2240	DP3, DP5	267170	ケーススタディ交流８（国際交流）		2	2･3	前期･後期	5									

（注９）「中国語海外研修」、「中国語国内研修」、「ケーススタディ言語５（中国語メディア制作研究）」、「ケーススタディ言語６（中国語観光案内実践）」、「ケーススタディ言語７（中国語文化翻訳）」、「フィールドスタディ言語２（中国）」から６単位必修

（注12）「韓国・朝鮮語国内研修」、「フィールドスタディ言語３（韓国）」、「ケーススタディ言語８（韓国・朝鮮語と社会）」、「ケーススタディ言語９（韓国・朝鮮語文化翻訳）」、ケーススタディ言語10（韓国語観光案内実践）から６単位必修

科目群		ナンバリング	DP番号	科目番号	科　目	必修単位	選択単位	履修年次	開講学期	開講最少履修者数（目安）	卒業要件								備　考
											ランゲージ専攻				国際交流・観光専攻				
											イングリッシュ・エクスパート	チャイニーズ・エクスパート	コリアン・エクスパート	日本語教育	エリアスタディーズ	グローバルスタディーズ	観光ホスピタリティ	観光デザイン	
体験科目	フィールドスタディ観光	1330	DP3, DP5	267171	フィールドスタディ観光1（コミュニティデザイン）		2	1･2	後期	10							フィールドスタディ観光・ケーススタディ観光から6単位以上	フィールドスタディ観光・ケーススタディ観光から6単位以上	
		1330	DP3, DP5	267172	フィールドスタディ観光2（観光産業）		2	1･2	後期	10									履修を認められた者の履修登録は教学事務室が行うので各自での登録は不要 原則取消不可 定員を超えた場合、選考を行う
		2330	DP3, DP5	267173	フィールドスタディ観光3（観光プロモーション）		2	2･3	前期	10									
		2330	DP3, DP5	267174	フィールドスタディ観光4（ホスピタリティ）		2	2･3	前期	10									
		2330	DP3, DP5	267175	フィールドスタディ観光5（観光まちづくり）		2	2･3	前期	10									
		2330	DP3, DP5	267176	フィールドスタディ観光6（観光社会学）		2	2･3	前期	10									隔年開講
		2330	DP3, DP5	267231	フィールドスタディ観光7（サステナブルツーリズム）		2	2･3	後期	10									隔年開講
		1330	DP3, DP5	267232	フィールドスタディ観光8（観光政策）		2	1･2	後期	10									履修を認められた者の履修登録は教学事務室が行うので各自での登録は不要 原則取消不可 定員を超えた場合、選考を行う
	ケーススタディ観光	2320	DP3, DP5	267177	ケーススタディ観光1（国内観光ツアープランニング）		2	2･3	前期･後期	5									
		2320	DP3, DP5	267178	ケーススタディ観光2（海外観光ツアープランニング）		2	2･3	前期･後期	5									
		2320	DP3, DP5	267179	ケーススタディ観光3（観光資源研究）		2	2･3	前期･後期	5									
		2320	DP3, DP5	267180	ケーススタディ観光4（観光メディア）		2	2･3	後期	5									
		2320	DP3, DP5	267181	ケーススタディ観光5（ブライダル）		2	2･3	前期･後期	5									
		2320	DP3, DP5	267233	ケーススタディ観光6（実践ホスピタリティ・エアライン）		2	2･3	前期･後期	5									
		2320	DP3, DP5	267234	ケーススタディ観光7（実践ホスピタリティ・ホテル）		2	2･3	前期･後期	5									
		2320	DP3, DP5	267183	ケーススタディ観光8（観光英語）		2	2･3	前期･後期	5									
		2320	DP3, DP5	267184	ケーススタディ観光9（観光セールス）		2	2･3	後期	5									
		2320	DP3, DP5	267235	ケーススタディ観光10（観光サービス産業研究）		2	2･3	後期	5									
		2320	DP3, DP5	267236	ケーススタディ観光11（旅行情報）		2	2･3	前期	5									

科目群	ナンバリング	DP番号	科目番号	科　目	必修単位	選択単位	履修年次	開講学期	開講最少履修者数（目安）	卒業要件								備　考
										ランゲージ専攻				国際交流・観光専攻				
										イングリッシュ・エクスパート	チャイニーズ・エクスパート	コリアン・エクスパート	日本語教育	エリアスタディーズ	グローバルスタディーズ	観光ホスピタリティ	観光デザイン	
プロジェクト科目	1000	DP3, DP5	264001	基礎演習	2		1	前期	1	4単位（必修）	4単位（必修）	4単位（必修）	4単位（必修）	4単位（必修）	4単位（必修）	4単位（必修）	4単位（必修）	専攻毎にクラス指定
	1000	DP3, DP5	267185	交流文化概論	2		1	前期	1									専攻毎にクラス指定
	2000	DP3, DP5	264002	交流文化演習1a	2		2	前期	1	11単位以上（必修）（注1）	11単位以上（必修）（注1）	11単位以上（必修）（注1）	11単位以上（必修）（注1）	11単位以上（必修）（注1）	11単位以上（必修）（注1）	11単位以上（必修）（注1）	11単位以上（必修）（注1）	履修条件あり　詳細はゼミ登録説明会で確認する
	2000	DP3, DP5	264003	交流文化演習1b	2		2	後期	1									
	3000	DP3, DP5	264004	交流文化演習2a	2		3	前期	1									
	3000	DP3, DP5	264005	交流文化演習2b	2		3	後期	1									
	3000	DP3, DP5	264006	卒業プロジェクトa	2		4	前期	1									
	3000	DP3, DP5	264007	卒業プロジェクトb	2		4	後期	1									
キャリアデザイン科目	2010	DP3, DP5	265002	キャリアデザイン（交流文化）	1		2	後期	1	1単位（必修）	1単位（必修）	1単位（必修）	1単位（必修）	1単位（必修）	1単位（必修）	1単位（必修）	1単位（必修）	1/4期科目
星が丘キャンパスモデル				星が丘キャンパスモデル認定科目														
特別実習科目	3030	DP3, DP5	266218	エアラインスクール		2	1-3	前期・後期	8									履修条件あり 事前説明会で詳しい講義内容を説明する 選考を通った学生のみ履修可 １年次前期は履修不可

（注１）星が丘モデルゼミ・アクティブ履修登録者は、ビジネス学部、グローバル・コミュニケーション学部のいずれかより履修する。

ビジネス学部カリキュラムと卒業要件

AICHI SHUKUTOKU UNIVERSITY

1 ディプロマ・ポリシー（人材養成像）

企業や職場を取り巻く環境は合理化、情報化、グローバリゼーションの波を受け、日々刻々と変化を遂げている。ビジネス学部は、環境変化に柔軟に対応し、実社会で自ら道を切り開く人材を育成する。そのためには、まず自らが持たない能力やスキルを持つ「他者」とつながり、「他者」の能力、スキルを活用することが不可欠となる。さらに、終身雇用制度の衰退、メンバーシップ雇用からジョブ型雇用への変化に対応するためには、「多様な業界に関する知識」を持ち、「高い職業意識」を育成することが必要となる。その上で、簿記、ITパスポート、TOEICなど実務的に有用な資格を取得し、その資格を現場で「応用」可能なノウハウを身に付けなければならない。合理化、グローバリゼーションの波に対応するためには、企業・団体等との連携を通じたアクティブラーニング・海外インターンシップ研修によって「行動するチカラ」を高めることも必須となる。

この目標を達成するために、ビジネス学部は「ビジネスイノベーション（マーケティング×経営学×アクティブラーニング）」、「ビジネスアカウンティング（会計理論・実務×経営分析×アクティブラーニング）」、「グローバルビジネス（国際経済・国際金融×ビジネス英語×アクティブラーニング）」の３専修を設置し、専修を相互に横断できる柔軟性に富むカリキュラムを編成し、以下のような知識・能力を身に付けた者に学位を授与する。

DP①　ビジネスパーソンとして不可欠となるコミュニケーション力・情報スキルをみがく「つながるチカラ」
DP②　多様な業界に関する知識を修得し、シゴトを理解していると同時に高い職業意識を持つことによって高められる「適応するチカラ」
DP③　資格を取得し、そのスキルを社会で役立てることを可能にする「応用するチカラ」
DP④　企業・団体等と連携したプログラムや海外インターンシップ研修など、実践を通じて主体的にやり抜く「行動するチカラ」

これに加え、各専修で、次の「第５の能力」を修得することを学位授与の条件と定める。

【ビジネスイノベーション専修】
DP⑤-BI　マーケティングと経営学の知識をベースとし、アクティブラーニングを通じて、企業、組織に対して問題解決案を提示する「アイデアを創造し、形にするチカラ」

【ビジネスアカウンティング専修】
DP⑤-BA　会計学全般の知識をベースとし、財務諸表を作成・分析するスキルを修得した上で、経営者に対して専門的な助言ができる「ビジネスの言語を読み解き、経営をサポートするチカラ」

【グローバルビジネス専修】
DP⑤-GB　国際経済・国際金融などのグローバルビジネスの現場に必要な専門知識を、英語と日本語のバイリンガルで学修することで得られる「世界とつながり、現場で活躍するチカラ」

2 カリキュラム・ポリシー(ディプロマ・ポリシーに整合し、それを保証するカリキュラムの体系性を記したもの)

ビジネス学部が目標とする「５つのチカラ」を身に付けた「環境変化に柔軟に対応し、実社会で自ら道を切り開く人材」を育成するために、以下の方針でカリキュラムを編成し、実施する。

CP① ビジネスパーソンとして必要となるコミュニケーション力・情報スキルに代表される「つながるチカラ」を育成するために、「コミュニケーションスキル系」・「情報スキル」科目群（クラスター）を設定する。「コミュニケーションスキル系」科目群には、成果発表を目指す強度の高いグループワーク科目を１年前期に開講して全専任教員が担当し、アドバイザーとしての役割も果たすことで、導入教育としての効果も実現する。さらに、社会で他者と協働する上で不可欠となる「ビジネスとマナー」・「ビジネスプレゼンテーション」といった科目を置き、１・２年次で修得することを推奨する。また、「データ分析とレポート作成」・「ビジネス統計基礎」などを置く「情報スキル」科目群と合わせて、「つながるチカラ」を育成する。

CP② 多様な業界に関する知識を修得し、シゴトを理解していると同時に高い職業意識を持つことによって高められる「適応するチカラ」を育成するために、「シゴト学」科目群を設定する。「シゴト学」科目群には、実際に社会に出て働く上で必須となる経営学の知識を学ぶ「シゴト学入門」、「小売・流通の基礎知識」・「製造業の基礎知識」など業界の事情を学ぶ科目、３年次には実際にビジネスの世界で活躍する実務家の経験から学ぶことで、自らのキャリアパスを描く「私のシゴト学」を配置する。多様な業界のより「リアル」な知識の修得と、実務家との交流を通じて職業意識を高め、流動的な未来に「適応するチカラ」を修得する。

CP③ 資格を取得し、そのスキルをビジネスの現場で役立てることを可能にする「応用するチカラ」を育成するために、会計教育センター、AI・データサイエンス教育センターと連携し、資格取得を学習面、経済面で支援する「応用力育成プログラム」・「資格試験サポートプログラム」を設ける。さらに、資格で学んだ知識を現場で活かすことを目指し、実務経験のある教員が担当する応用科目を「経営分析Ⅰ・Ⅱ」「会計実務Ⅰ・Ⅱ」など多数設置し、専修を問わず履修できるようにすることで、「応用するチカラ」を修得する。

CP④ 企業と連携したプログラムや海外インターンシップ研修など、３専修すべてに企業と連携する「アクティブラーニング科目」の修得を必修で義務づけ、実践を通じて主体的にやり抜く「行動するチカラ」を育成する。

これに加え、各専修では、それぞれ異なる５番目のチカラの修得を目指すカリキュラムを編成・実施する。

【ビジネスイノベーション専修】

CP⑤-BI マーケティングと経営学の知識をベースとし、アクティブラーニングを通じて、企業、組織に対して問題解決案を提示する「アイデアを創造し、形にするチカラ」を育成するために、「マーケティング&ストラテジー」と「ASICP(イノベーション・チャレンジプログラム)」という２つの科目群を設定する。「マーケティング&ストラテジー」では、１年次の段階でマーケティングの基礎知識を修得し、２・３年次でプロモーションやファッションに関するマーケティングの応用科目を学ぶことで「マーケティング」の知識を段階的に修得する。さらに１年次に「マネジメント入門」、２・３年次に「戦略設計Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」においてグループワークで戦略論の知識を「生きた知識」として修得する。その上で、２年次からは、「イノベーション・チャレンジプログラム」を専修に所属する学生全員が履修し、企業・団体との連携に１年間を通じて真剣に取り組むことで「アイデアを創造し、形にするチカラ」を修得する。

【ビジネスアカウンティング専修】

CP⑤-BA　会計学全般の知識をベースとし、財務諸表を作成・分析するスキルを修得した上で、経営者に対して専門的な助言ができる「ビジネスの言語を読み解き、経営をサポートするチカラ」を育成するために、「アカウンティング」と「ASAAP(アカウンティング&アナリシスプログラム)」という2つの科目群を設定する。「アカウンティング」では、大学院所属教員による会計理論系科目と実務家教員による現場の実務を重視した科目をバランスよく配置することで、会計学の知識を広く深く身に付ける。さらに、そこで身に付けた会計学の知識」をベースに、「アカウンティング&アナリシスプログラム」を専修全員が必修で履修することで、現実企業の会計数値を読み解き、企業が直面する課題を分析する体験を積むことで、「ビジネスの言語を読み解き、経営をサポートするチカラ」を修得する。

【グローバルビジネス専修】

CP⑤-GB　国際経済・国際金融などのグローバルビジネスの現場に必要な専門知識を、英語と日本語のバイリンガルで学修することで得られる「世界とつながり、現場で活躍するチカラ」を育成するために、「グローバルエコノミー」・「ASBBE(バイリンガル・ビジネス・エデュケーションプログラム)」という2つの科目群を設定し、さらに学修の集大成として「Bilingual Internship Overseas/Domestic」への参加を義務づける。また、「グローバルエコノミー」科目群では、国際経済・国際金融に関する科目に加え、国内外の最新のビジネストレンド（「国際ビジネストレンド」・「アジアビジネス」・「ヨーロッパビジネス」など）を学ぶ科目を設置し、グローバリゼーションに伴い必須となる知識を修得する。その上で、必要な専門知識を英語で修得し、グローバルビジネスの共通語である英語を活用する能力を身に付けるために、「バイリンガル・ビジネス・エデュケーションプログラム」を設定し、選択必修条件を設けることで、体系的な学修を促す。さらに学修の集大成として「Bilingual Internship Overseas/Domestic」への参加を義務づけ、「世界とつながり、現場で活躍するチカラ」を修得する。

なお、ビジネス学部では、専修を問わず、「ゼミナール科目」を1年次から4年次までの全ての年次に設定する。特に2年次から始まる専門別の「ゼミナール科目」では、学修成果を体系的にまとめ、「見える化」するために、「ビジネスイノベーション専修」・「ビジネスアカウンティング専修」では「卒業論文」を、「グローバルビジネス専修」では、「Bilingual Internship Overseas/Domestic」の成果を取り込みつつ、派遣先の政治経済情勢や企業分析をまとめた「リサーチペーパー」の提出を全員に義務づけ、個別に綿密な研究・調査指導を実施する。

以上のカリキュラムを通じて、ビジネス学部では「環境変化に柔軟に対応し、実社会で自ら道を切り開く人材」の育成という目標を達成する。

3 アドミッション・ポリシー

ビジネス学部は、国内外のビジネスの現場で能力を発揮することを通じて、社会の発展に貢献する人材を育てる。1）さまざまな職種、業種で役に立つ知識やスキル、2）直面する問題を解決するための論理的な思考力や判断力、3）組織の目標を達成するための協調性やリーダーシップ――これらを身につけたい人の入学を求める。

●ビジネス学科

①学生に期待すること

ビジネス学部は、グループワーク、産学連携プロジェクトなどアクティブラーニングによる実践的な授業を多く開講しているほか、国内外のインターンシップ研修などもカリキュラムに取り入れている。このような授業に参画することを通じて、ビジネスの現場で必要となるさまざまな能力を身につけたいと考える人を歓迎する。

②学生募集に際して重視すること

ビジネス学部では、ビジネスの現場で能力を発揮する人材になりたいという積極的な姿勢に加え、アクティブラーニングにおいて必要となる行動力、多様な考え方と向き合うコミュニケーション力を重視する。

③入学前学習として推奨すること

政治･経済など国内外の動きについて､新聞･テレビ･インターネットなどを通じて広く関心をもつことが大事である。また、重要なニュースや国際情勢については、自分の考えや意見を持つように心がける。国語・英語・数学など主要科目の基礎学力は学修の基盤となる。

4 卒業に必要な単位（卒業要件単位数）

本学のビジネス学部を卒業するためには、４年以上在学（休学期間は含まない）し、**124単位**以上修得しなければならない（愛知淑徳大学学則第47条）。その内訳は次の表のとおりである。

■2025年度入学者

<table>
<tr><th colspan="3">授業科目の種類</th><th colspan="5">卒業要件単位</th></tr>
<tr><td rowspan="15">専門教育科目</td><td rowspan="2">学部共通科目</td><td colspan="2">学部必修科目</td><td colspan="3">８単位</td><td rowspan="16">90単位以上</td><td rowspan="17">合計124単位以上</td></tr>
<tr><td colspan="2">コミュニケーションスキル系科目</td><td colspan="3">４単位以上
（「グループワークⅠ（ビジネス学部入門）」必修１単位および「グループワークⅡ（問題解決）」必修１単位の合計２単位を含む）</td></tr>
<tr><td rowspan="13">専修専門科目</td><td rowspan="4">ビジネスイノベーション専修</td><td colspan="2">マーケティング&ストラテジー</td><td>16単位以上
（「マーケティングⅡ」必修２単位を含む）</td></tr>
<tr><td colspan="2">シゴト学
情報スキル
ASICP</td><td>20単位以上
（「私のシゴト学」必修１単位、「ビジネスプランニング入門」必修２単位、「ICPベーシック」必修２単位、「専攻入門ゼミ」必修２単位および専修選択必修４単位を含む）</td></tr>
<tr><td rowspan="2">ゼミナール</td><td>ビジネス</td><td>12単位</td></tr>
<tr><td>星が丘キャンパスモデルゼミ・アクティブ履修制度※
交流
グロウコム</td><td>12単位
11単位</td></tr>
<tr><td rowspan="4">ビジネスアカウンティング専修</td><td colspan="2">アカウンティング</td><td>16単位以上</td></tr>
<tr><td colspan="2">シゴト学
情報スキル
ASAAP</td><td>20単位以上
（「私のシゴト学」必修１単位、「コンピュータ会計」必修２単位、「専攻入門ゼミ」必修２単位および専修選択必修10単位を含む）</td></tr>
<tr><td rowspan="2">ゼミナール</td><td>ビジネス</td><td>12単位</td></tr>
<tr><td>星が丘キャンパスモデルゼミ・アクティブ履修制度※
交流
グロウコム</td><td>12単位
11単位</td></tr>
<tr><td rowspan="5">グローバルビジネス専修</td><td colspan="2">シゴト学
グローバルエコノミー</td><td>16単位以上
（「私のシゴト学」必修１単位を含む）</td></tr>
<tr><td rowspan="3">ASBBE</td><td></td><td>32単位以上
（専修必修30単位、専修選択必修２単位を含む）</td></tr>
<tr><td rowspan="3">ゼミナール</td><td>ビジネス</td><td rowspan="3">12単位
12単位
11単位</td></tr>
<tr><td>星が丘キャンパスモデルゼミ・アクティブ履修制度※</td></tr>
<tr><td>交流
グロウコム</td></tr>
<tr><td rowspan="2">選択科目</td><td colspan="2">資格取得支援科目</td><td colspan="2">０単位以上</td></tr>
<tr><td colspan="2">星が丘キャンパスモデル</td><td>専門科目読替制度
スキルアッププログラム</td><td>０単位以上</td></tr>
<tr><td rowspan="12">全学共通履修科目</td><td rowspan="2">基幹科目</td><td>違いを共に生きる科目</td><td colspan="4" rowspan="2">６単位以上
（「違いを共に生きる・ライフデザイン」「AI・データサイエンス入門」［M］必修４単位および「コンピュータリテラシーⅠ」「コンピュータリテラシーⅡ」の中から２単位以上を含む）</td></tr>
<tr><td>AI・データサイエンス科目</td></tr>
<tr><td rowspan="5">アクティブラーニング科目</td><td>国際交流センター開設科目</td><td colspan="4" rowspan="5">４単位以上
（「日本語表現１」必修２単位を含む）</td></tr>
<tr><td>CCC開設科目</td></tr>
<tr><td>キャリアセンター開設科目</td></tr>
<tr><td>ダイバーシティ共生センター開設科目</td></tr>
<tr><td>学修・教育支援センター開設科目</td></tr>
<tr><td rowspan="2">スキル科目</td><td>言語活用科目（英語）</td><td colspan="4" rowspan="2">４単位以上</td></tr>
<tr><td>言語活用科目（初めての外国語）</td></tr>
<tr><td rowspan="4">学部認定科目</td><td colspan="2">他学部・他学科開放科目</td><td colspan="4" rowspan="4">０単位以上</td></tr>
<tr><td colspan="2">星が丘キャンパスモデル開放科目</td></tr>
<tr><td colspan="2">愛知学長懇話会単位互換科目（上限10単位）</td></tr>
<tr><td colspan="2">放送大学単位互換科目（上限10単位）</td></tr>
</table>

※「星が丘キャンパスモデル」参照

なお、以下の表にある科目は、**卒業に必要な単位に算入されない**ため、注意する。

①言語活用科目（英語） 「Introduction to English」	②教職課程科目	③学芸員課程科目
④司書課程科目	⑤コンピュータ資格科目 「ウェブデザイン技能検定対策講座」	⑥会計教育科目 「上級簿記A～E」「初級簿記演習」 「中級簿記演習A・B」
⑦研究科開放科目	⑧文学部国文学科専門教育科目 「学びなおし古文」「学びなおし漢文」	⑨建築学部建築学科専門教育科目 「基礎数学」
⑩食健康科学部専門教育科目 「基礎化学」「基礎生物学」		

5 履修上の注意

●2025年度入学

（1）卒業に必要な単位数について

ビジネス学部を卒業するためには、124単位以上修得しなければならない。そして、その内訳として、専門教育科目90単位以上、違いを共に生きる科目およびAI・データサイエンス科目から6単位以上、アクティブラーニング科目から4単位以上、言語活用科目から4単位以上、を含まなければならない。

（2）専門教育科目

ビジネス学部の専門教育科目は、1学部共通科目、2専修専門科目と3選択科目から構成されている。

1学部共通科目

学部共通科目は、①学部必修科目、②コミュニケーションスキル系科目の2つに分類される。

学部必修科目

学部必修科目とは、学部に所属する学生全員が必ず修得しなくてはならない科目であり、以下のように定められている。

2025年度入学

シゴト学入門 （1年次）	マーケティングⅠ （1年次）	会計学入門 （1年次）	ビジネス・エコノミクスⅠ （1年次）

上記の学部必修科目を指定された年次に修得できなかった場合には、次年度以降に必ず修得しなければならない。

コミュニケーションスキル系科目

ビジネスは「個人プレー」ではなく「チームプレー」で動かしていくものである。ビジネスを実際に動かしていくには、他者とのつながりを創造し、維持していかなければならない。そこで必要となるのが他者と上手に「コミュニケーション」をとる能力である。この「コミュニケーション能力」を高めることに直結する科目を集めた科目群が、「コミュニケーションスキル系科目」である。

学部に所属する学生全員に対し、「コミュニケーションスキル系科目」から4単位以上修得することが求められている。なお「コミュニケーションスキル系科目」に含まれる「グループワークⅠ（ビジネス学部入門）」（1年次前期1単位）、「グループワークⅡ（問題解決）」（1年次前期1単位）は、学部に所属する学生全員が修得しなければならない必修科目であるため、注意が必要である。

なお「グループワークⅠ・Ⅱ」の単位は、選択必修の要件に含まれるため、この2科目を除くと残り2単位以上を「コミュニケーションスキル系科目」から修得すればよい、ということになる。

ビジネス学部に所属する学生は、1年次後期から次の専修に振り分けられる。

ビジネスイノベーション専修
ビジネスアカウンティング専修
グローバルビジネス専修

②専修専門科目

各専修で学ぶことのできる専門科目は、クラスター（科目群）の組み合わせから構成されている。すなわち、各専修の学び間で見られる「学べる知識の違い」は、各専修に配置されたクラスターの種類が異なるという点に集約される。それを式の形でわかりやすく示したのが以下の式である。

ビジネスイノベーション専修の専門科目
＝　シゴト学　＋　情報スキル　＋　マーケティング&ストラテジー　＋　ASICP　＋　ゼミナール

ビジネスアカウンティング専修の専門科目
＝　シゴト学　＋　情報スキル　＋　アカウンティング　＋ ASAAP　＋　ゼミナール

グローバルビジネス専修の専門科目
＝　シゴト学　＋　グローバルエコノミー　＋　ASBBE（ゼミナールを含む）

各クラスターからどれだけの単位数を修得しなくてはならないのか、に関するルールも専修ごとに異なる形で定められている。

各専修別に専門科目修得にあたって必要とされる要件は以下の通りである。

	クラスター名	クラスターの目的	①ビジネスイノベーション専修	②ビジネスアカウンティング専修	③グローバルビジネス専修
専修専門科目	シゴト学	職業理解を深める	※1	※3	※5
	情報スキル	ビジネスの現場で求められる情報スキルの習得	※1	※3	
	マーケティング&ストラテジー	企業の行動と消費者の行動を読み解き、戦略の策定につなげる	※2		
	ASICP	企業・団体と連携し、問題解決型学習（PBL）に取り組む	※1		
	アカウンティング	会計情報を読み解くチカラを身につける		※4	
	ASAAP	アカウンティングクラスターで身につけた知識を活かし、現実の企業を分析、意思決定につなげる		※3	
	グローバルエコノミー	国際的なビジネスの現場で起きているトピックスを読み解くチカラを身につける			※5
	ASBBE	ビジネスの現場で実際に活かせる英語力を養成する			※6
	ゼミナール	専門知識を少人数のグループワークで習得する	※1	※3	

前頁の表内の注記（※1～※6）について、以下のとおり所属専修の注意事項を確認すること。

①ビジネスイノベーション専修

2025年度入学

注記	注意事項
※1	「シゴト学」「情報スキル」「ASICP」「ゼミナール」の中から32単位以上 （必修　1単位 「私のシゴト学」1単位 専修必修　18単位 「専攻入門ゼミ（ビジネスイノベーション）」2単位、 「ビジネスプランニング入門」2単位、「ICPベーシック」2単位、 「ゼミナールⅠ～Ⅳ（ビジネスイノベーション）」計8単位、 「卒業プロジェクトⅠ・Ⅱ（ビジネスイノベーション）」計4単位を含む 専修選択必修　4単位 「イノベーションプログラムB～E」の中から2単位、 「チャレンジプログラムB～E」の中から（イノベーションプログラムと同じアルファベットの）2単位を含む）
※2	「マーケティング&ストラテジー」の中から16単位以上 （専修必修　2単位 「マーケティングⅡ」2単位を含む）

②ビジネスアカウンティング専修

2025年度入学

注記	注意事項
※3	「シゴト学」「情報スキル」「ASAAP」「ゼミナール」の中から32単位以上 （必修　1単位 「私のシゴト学」1単位 専修必修　16単位 「専攻入門ゼミ（ビジネスアカウンティング）」2単位、「コンピュータ会計」2単位、 「ゼミナールⅠ～Ⅳ（ビジネスアカウンティング）」計8単位、 「卒業プロジェクトⅠ・Ⅱ（ビジネスアカウンティング）」計4単位を含む 専修選択必修　10単位 「経営分析Ⅰ・Ⅱ」、「会計実務Ⅰ・Ⅱ」、「英文会計Ⅰ・Ⅱ」の中から8単位、 「企業分析プロジェクトA・B・C」の中から2単位を含む）
※4	「アカウンティング」の中から16単位以上

③グローバルビジネス専修

2025年度入学

注記	注意事項
※5	「シゴト学」「グローバルエコノミー」の中から16単位以上 （必修　1単位 「私のシゴト学」1単位）
※6	「ASBBE」の中から44単位以上 （専修必修　42単位 「ビジネス英語Ⅰ～Ⅳ」計8単位、「Global Business Elementary」2単位、 「Global Economy Elementary」2単位、「Business Communication Elementary」2単位、 「ビジネス文書英語Ⅰ・Ⅱ」計4単位、「英語プレゼンテーションⅠ・Ⅱ」計4単位、 「Global Business Ⅰ」2単位、「Global Economy Ⅰ」2単位、 「Business Communication Ⅰ」2単位、「専攻入門ゼミ（グローバルビジネス）」2単位、 「ゼミナールⅠ～Ⅵ（グローバルビジネス）」計12単位を含む 専修選択必修　2単位 「Bilingual Internship Overseas」、「Bilingual Internship Domestic」の中から2単位を含む）

3選択科目

選択科目は、①資格取得支援科目と②星が丘キャンパスモデルの「専門教育科目読替制度」・「スキルアッププログラム」から構成される。

資格取得支援科目

後述する「応用力育成プログラム」の対象科目を中心に、資格取得を目指す学生に向けた対策科目から構成される科目群である。

星が丘キャンパスモデル

星が丘キャンパスモデルは、星が丘キャンパスに属する３学部の学生が、学部を越えて学修できる仕組みであり、①専門教育科目読替制度、②ゼミ・アクティブ履修制度、③スキルアッププログラムの３つの制度から構成されている。

このうち、①専門教育科目読替制度、③スキルアッププログラムを通じて修得した単位はビジネス学部専門教育科目の選択科目として扱い、②ゼミ・アクティブ履修制度を通じて修得した単位に関しては専修専門科目として扱う。詳細については星が丘キャンパスモデルのページを参照すること。

（３）ビジネス応用力認定試験

ビジネスイノベーション専修・ビジネスアカウンティング専修の「卒業プロジェクトⅠ」と、グローバルビジネス専修の「ゼミナールⅤ」の履修にあたっては、学部独自に行う「ビジネス応用力認定試験」（ビジネスイノベーション、ビジネスアカウンティング、グローバルビジネスのいずれか所属専修の試験を受けること）に合格することが求められる。

「ビジネス応用力認定試験」は、３年次の２月下旬～３月中旬に行う。試験の詳細については、CampusSquareの掲示にて案内する。

但し、次に説明する「応用力育成プログラム」に定める要件を満たした場合に限り、「ビジネス応用力認定試験」の受験が免除される。

（４）応用力育成プログラム

以下の①～④のいずれかの条件を３年次後期の指定された期日までに満たした学生は、「応用力育成プログラム」を修了したと認定され、「ビジネス応用力認定試験」の受験が免除される。取得した資格・スコアの証明書は、各自保管しておくこと。

①日商簿記検定２級以上に合格すること
②ITパスポート試験に合格すること
③情報セキュリティマネジメント試験に合格すること
④TOEIC®L&R(IPテスト含)550点以上をとること（ただし、入学時に受験するIPテストを除く）

※大学入学後に取得した資格で、３年次後期の指定された期日までに合格証書・スコア証明書等の証明書類で取得を確認できるものに限る。手続き期間内に証明書等の必要書類が提出できない場合は、ビジネス応用力認定試験を受験すること。手続き期間・場所はCampusSquareにて確認すること。

（５）専修振り分け

ビジネス学部に所属する学生は、「ビジネスイノベーション専修」「ビジネスアカウンティング専修」「グローバルビジネス専修」のいずれかの専修に必ず所属しなくてはならない。

専修に配属されるのは、１年次の後期からである。専修振り分けは1年次の前期GPAを基準に、１年次の前期末に行う。各専修には「学びの質」を維持するために、ゼミナール担当教員数を基準とする定員が定められている。振り分けの詳細については１年次前期に行われる予定の専修振り分けガイダンスにて説明するので、CampusSquareの掲示に注意すること。

（６）転専修

２年次前期末、２年次後期末のいずれか１回のみ、転専修試験を受験することができる。

転専修試験は面接によって行う。詳細は掲示を参照すること。

（７）ゼミナール

「ゼミナール」とは、１人の教員に対し原則20名以下の少人数クラスで、双方向性を保ちながら展開される授業である。ビジネス学部では、１年次から４年次までの全ての期間において、「ゼミナール科目」が開講されており、学部に所属する学生全員が必ず履修しなくてはならない科目として指定されている。

ビジネス学部で開講されている「ゼミナール」科目は以下の通りである。

１年次前期：「グループワークⅠ・Ⅱ」（合計２単位）
１年次後期：「専攻入門ゼミ」
２年次前期：「ゼミナールⅠ」
２年次後期：「ゼミナールⅡ」
３年次前期：「ゼミナールⅢ」
３年次後期：「ゼミナールⅣ」

「ビジネスイノベーション専修」「ビジネスアカウンティング専修」では、４年次前期、後期にそれぞれ「卒業プロジェクトⅠ・Ⅱ」が開講されており、専修に所属する学生は必ず修得しなくてはならない。

「グローバルビジネス専修」は、「Bilingual Internship Overseas」、「Bilingual Internship Domestic」のいずれかを履修することが、「卒業研究」の代わりとして位置付けられているため、「卒業プロジェクトⅠ・Ⅱ」は開講されていない。しかしその代わりに「ゼミナールⅤ（グローバルビジネス）」（４年次前期）、「ゼミナールⅥ（グローバルビジネス）」（４年次後期）を必ず修得しなくてはならない。

どのゼミナールに所属することになるかは、１年次後期に行われるゼミナール募集手続きによって決定される。ゼミ募集手続きの詳細については、１年次前期末にアナウンスされるため、その時期は特に掲示に注意すること。

「ゼミナール」科目群に配置されている科目は全て、ビジネス学部に所属する学生全員が必ず修得しなくてはならない科目として指定されている。配当年次に修得できなかった科目は、当該年度以降の年次で再履修し、単位を修得する必要がある。

（８）所属ゼミの変更

２年次前期の「ゼミナールⅠ」から「ゼミナールⅣ」、ならびに「卒業プロジェクトⅠ・Ⅱ」（グローバルビジネス専修では「ゼミナールⅤ・Ⅵ」）は、原則として同一教員のもとで継続受講しなくてはならない。

ただし、例外的に所属ゼミの変更が認められる場合もある。正式な所属ゼミ変更手続きの詳細については、所属ゼミ変更を受け付ける時期（２年次６～７月頃、11～12月頃）にアナウンスされるため、その時期は特に掲示に注意すること。なお、ここではビジネスイノベーション専修内、ビジネスアカウンティング専修内、グローバルビジネス専修内での転ゼミを指す。

（9）ビジネスイノベーション専修・ビジネスアカウンティング専修の卒業プロジェクトⅠ・Ⅱの成果物（卒業論文、卒業制作）・グローバルビジネス専修のゼミナールⅤ・Ⅵの成果物（「Bilingual Internship Overseas/Domestic」の学びを活かしたリサーチペーパー）について

1）成果物の提出について

① 成果物の審査は原則としてゼミナールの担当教員が行う。

② 成果物の提出に際しては所定の手続きに従うこと。

③ 成果物の制作は個人で行うこと。共著（共作）は認めない。

④ 成果物提出期間内に成果物を提出しなかった場合、当該学期の成績評価は「欠」とする。（＊「欠」の場合、再試験を受験することができない。）

⑤ 成果物審査が不合格の場合、当該学期の単位は認定されない。

2）成果物の制作要領について

成果物制作要領に関する掲示に従うこと。

3）成果物の提出期間・場所について

提出期間：例年12月に提出期間を設定している。別途掲示に従うこと。

提出場所：成果物提出場所に関する掲示に従うこと。

※前期卒業者については個別に案内する。

<専門科目設置表>　(2025年度入学者用)

					1年	2年	3年	4年
専門教育科目	学部共通科目	コミュニケーションスキル系		基礎	グループワークⅠ(ビジネス学部入門)・Ⅱ(問題解決) ビジネスとマナー、N1対策講座Ⅰ・Ⅱ			
				中級		ビジネスプレゼンテーション		
				発展			クリティカルシンキング	
	専修専門科目	ビジネスイノベーション専修	シゴト学	基礎	シゴト学入門、マネジメント入門			
				中級		製造業の基礎知識、小売・流通の基礎知識、中小企業を学ぶ、 ホスピタリティマネジメント、会社学Ⅰ・Ⅱ、銀行ビジネスを学ぶ、 証券ビジネスを学ぶ、保険ビジネスを学ぶ、リーダーシップ	私のシゴト学、業界を学ぶ	
				発展			職業倫理、職業指導論、会社法を学ぶ、eビジネス	
			情報スキル	基礎	PowerPointスキルアップ			
				中級		データ分析とレポート作成、ビジネス統計基礎、コンピュータシミュレーション、 ビジネスプロセスとICT、経営情報システム論、IT産業の動向とビジネス、 ものづくりとICT、セキュリティとリスクマネジメント		
			マーケティング&ストラテジー	基礎	マーケティングⅠ・Ⅱ			
				中級		戦略設計Ⅰ(ポジショニングビュー)・Ⅱ(リソースベースドビュー)、 クチコミとネットワーク、プロモーションストラテジー、 ファッションマーケティング、広告制作		
				発展			企業間関係のマネジメント、戦略設計Ⅲ（全社戦略)、 ケーススタディA(競争戦略)・B(ヒット商品)、 マーケティングリサーチ、プロダクトデザインⅠ・Ⅱ	
			ASICP：Innovation & Challenge Program	基礎	ビジネスプランニング入門	ICPベーシック		
				中級		ファシリテーター入門		
						イノベーションプログラムB(ものづくり)・C(まちづくり)・ D(プロモーション)・E(ホスピタリティ)、Overseas ICP(アジア・欧米)		
				発展			ファシリテーション実習 チャレンジプログラムB(ものづくり)・C(まちづくり)・ D(プロモーション)・E(ホスピタリティ)	
			ゼミナール	基礎	専攻入門ゼミ（1年後期）			
				中級		ゼミナールⅠ・Ⅱ	ゼミナールⅢ・Ⅳ	
				発展				卒業プロジェクトⅠ・Ⅱ
		ビジネスアカウンティング専修	シゴト学	基礎	シゴト学入門、マネジメント入門			
				応用		製造業の基礎知識、小売・流通の基礎知識、中小企業を学ぶ、 ホスピタリティマネジメント、会社学Ⅰ・Ⅱ、銀行ビジネスを学ぶ、 証券ビジネスを学ぶ、保険ビジネスを学ぶ、リーダーシップ	私のシゴト学、業界を学ぶ	
				発展			職業倫理、職業指導論、会社法を学ぶ、eビジネス	
			情報スキル	基礎	PowerPointスキルアップ			
				中級		データ分析とレポート作成、ビジネス統計基礎、コンピュータシミュレーション、 ビジネスプロセスとICT、経営情報システム論、IT産業の動向とビジネス、 ものづくりとICT、セキュリティとリスクマネジメント		
			アカウンティング	基礎	簿記論Ⅰ・Ⅱ	財務会計Ⅰ・Ⅱ、管理会計Ⅰ・Ⅱ、 原価計算Ⅰ・Ⅱ、租税法Ⅰ・Ⅱ		
				中級			日本の会計制度、監査論Ⅰ、法人税法Ⅰ	
				発展			国際会計論、監査論Ⅱ、法人税法Ⅱ	
			ASAAP	基礎	会計学入門	コンピュータ会計		
				中級			経営分析Ⅰ・Ⅱ、会計実務Ⅰ・Ⅱ、 英文会計Ⅰ・Ⅱ	
				発展			企業分析プロジェクトA、企業分析プロジェクトB、 企業分析プロジェクトC	
			ゼミナール	基礎	専攻入門ゼミ（1年後期）			
				中級		ゼミナールⅠ・Ⅱ	ゼミナールⅢ・Ⅳ	
				発展				卒業プロジェクトⅠ・Ⅱ
		グローバルビジネス専修	シゴト学	基礎	シゴト学入門、マネジメント入門			
				中級		製造業の基礎知識、小売・流通の基礎知識、中小企業を学ぶ、 ホスピタリティマネジメント、会社学Ⅰ・Ⅱ、銀行ビジネスを学ぶ、 証券ビジネスを学ぶ、保険ビジネスを学ぶ、リーダーシップ	私のシゴト学、業界を学ぶ	
				発展			職業倫理、職業指導論、会社法を学ぶ、eビジネス	
			グローバルエコノミー	基礎	日本経済事情、ビジネス・エコノミクスⅠ・Ⅱ	国際政治経済事情		
				中級		国際ビジネストレンド、金融システム、ファイナンシャルプランニングⅠ・Ⅱ、外国為替		
							グローバル・マーケティング、サステイナブル・ビジネス	
				発展			アジアビジネス、アメリカビジネス、ヨーロッパビジネス、国際金融	
			ASBBE	基礎	ビジネス英語Ⅰ・Ⅱ(1年前期クォーター)、 ビジネス英語Ⅲ・Ⅳ(1年後期クォーター)、 専攻入門ゼミ（1年後期）			
					Global Economy Elementary	Global Business Elementary、 Business Communication Elementary		
				中級		ビジネス文書英語Ⅰ・Ⅱ、英語プレゼンテーションⅠ・Ⅱ、 Global Economy Ⅰ、Business Communication Ⅰ		
							Global Business Ⅰ、Global Business Ⅱ、Global Economy Ⅱ、 Business Communication Ⅱ	
						ゼミナールⅠ・Ⅱ	ゼミナールⅢ・Ⅳ	
				発展			Bilingual Internship事前研修 Bilingual Internship Overseas、Bilingual Internship Domestic、	
								ゼミナールⅤ・Ⅵ
	資格取得支援			基礎	初級簿記（3級程度）			
				中級	中級簿記(2級程度)A、中級簿記(2級程度)B、中級簿記(2級程度)C			
					ITパスポート対策講座Ⅰ・Ⅱ	情報セキュリティマネジメント試験対策講座Ⅰ・Ⅱ		
	星が丘キャンパスモデル							

6 カリキュラム表（ビジネス学部　専門教育科目）

科目群	ナンバリング	DP番号	科目番号	科　目	必修単位	選択単位	履修年次	開講学期	開講最少履修者数（目安）	卒業要件			備　考
										ビジネスイノベーション	ビジネスアカウンティング	グローバルビジネス	
学部必修	1120	DP2	151328	シゴト学入門	2		1	後期	1				
	1310	DP5-BI	151346	マーケティングⅠ	2		1	前期	1				
	1610	DP3, DP4, DP5-BA	151371	会計学入門	2		1	後期	1				クラス指定
	1710	DP3, DP5-GB	151438	ビジネス・エコノミクスⅠ	2		1	前期	1				
コミュニケーションスキル系	1030	DP1, DP4	151324	グループワークⅠ（ビジネス学部入門）	1		1	前期	1				クラス指定 1/4期科目
	1030	DP1, DP4	151325	グループワークⅡ（問題解決）	1		1	前期	1				
	1010	DP1, DP4	151326	ビジネスとマナー		2	1	前期・後期	10				
	2240	DP1, DP4	151042	ビジネスプレゼンテーション		2	2	前期・後期	10				
	3040	DP1, DP4	151231	クリティカルシンキング		2	3	後期	10				
	1040	DP1, DP4	110057	N1対策講座Ⅰ		2	1	前期	1				N1取得者は履修不可 日本語を第一言語としない者のみ履修可 時間割表のアクティブラーニング科目のページを見て履修登録する
	1040	DP1, DP4	110058	N1対策講座Ⅱ		2	1	後期	1				
シゴト学	1110	DP2	151329	マネジメント入門		2	1	前期・後期	10				
	2120	DP2	151330	製造業の基礎知識		2	2·3	前期	10				
	2120	DP2	151331	小売・流通の基礎知識		2	2·3	前期・後期	10				
	2120	DP2	151310	中小企業を学ぶ		2	2·3	前期	10				
	2120	DP2	151333	ホスピタリティマネジメント		2	2·3	前期	10				
	2120	DP2	151334	会社学Ⅰ		2	2·3	後期	10				
	2120	DP2	151335	会社学Ⅱ		2	2·3	前期	10				
	2120	DP2	151336	銀行ビジネスを学ぶ		2	2·3	前期・後期	10				
	2120	DP2	151337	証券ビジネスを学ぶ		2	2·3	前期・後期	10				

（注1）「グループワークⅠ（ビジネス学部入門）」必修1単位および「グループワークⅡ（問題解決）」必修1単位の合計2単位を含む。
（注2）◆1の中から32単位以上
「私のシゴト学」必修1単位を含む。
専修必修：「専攻入門ゼミ（ビジネスイノベーション）」2単位、「ビジネスプランニング入門」2単位、「ICPベーシック」2単位、「ゼミナールⅠ～Ⅳ（ビジネスイノベーション）」計8単位、「卒業プロジェクトⅠ・Ⅱ（ビジネスイノベーション）」計4単位を含む。
専修選択必修：「イノベーションプログラムB～E」の中から2単位、「チャレンジプログラムB～E」の中から2単位を含む。
（注3）◆2の中から32単位以上
「私のシゴト学」必修1単位を含む。
専修必修：「専攻入門ゼミ（ビジネスアカウンティング）」2単位、「コンピュータ会計」2単位、「ゼミナールⅠ～Ⅳ（ビジネスアカウンティング）」計8単位、「卒業プロジェクトⅠ・Ⅱ（ビジネスアカウンティング）」計4単位を含む。
専修選択必修：「経営分析Ⅰ・Ⅱ」、「会計実務Ⅰ・Ⅱ」、「英文会計Ⅰ・Ⅱ」の中から8単位、「企業分析プロジェクトA·B·C」の中から2単位を含む。
（注4）「私のシゴト学」必修1単位を含む。

科目群	ナンバリング	DP番号	科目番号	科　目	必修単位	選択単位	履修年次	開講学期	開講最少履修者数（目安）	卒業要件			備　考
										ビジネスイノベーション	ビジネスアカウンティング	グローバルビジネス	
シゴト学	2120	DP2	151338	保険ビジネスを学ぶ		2	2･3	前期･後期	10			16単位以上（注4）	
	2120	DP2	151431	リーダーシップ		2	2･3	前期･後期	10				
	2120	DP2	151339	私のシゴト学	1		3	前期	1				1/4期科目
	3110	DP2	151340	職業倫理		2	3･4	前期･後期	10				
	3120	DP2	151115	職業指導論		2	3･4	後期	1				
	3120	DP2	151341	会社法を学ぶ		2	3･4	前期	1				
	3120	DP2	151093	eビジネス		2	3･4	前期	10				
	3120	DP2	151436	業界を学ぶ		1	3	前期	10	◆1（注2）	◆2（注3）		1/4期科目
情報スキル	2240	DP1	151342	データ分析とレポート作成		2	2･3	前期･後期	1				
	1240	DP1	151323	PowerPointスキルアップ		2	1	前期･後期	10				
	2240	DP1	151207	ビジネス統計基礎		2	2･3	後期	10				
	2220	DP1	151052	コンピュータシミュレーション		2	2･3	前期･後期	10				
	2240	DP1	151343	ビジネスプロセスとICT		2	2･3	前期･後期	10				
	2210	DP1	151051	経営情報システム論		2	2･3	後期	10				
	2220	DP1	151344	IT産業の動向とビジネス		2	2･3	前期	10				
	2210	DP1	151345	ものづくりとICT		2	2･3	後期	10				
	2210	DP1	151242	セキュリティとリスクマネジメント		2	2･3	後期	10				
資格取得支援	1040	DP3	113001	初級簿記（3級程度）　＊基礎総合		4	1	前期･後期	1				所属するキャンパスで受講する 2時限連続の授業を週2回の1/4期科目 時間割表の会計教育科目のページを見て履修登録する
	2040	DP3	113002	中級簿記（2級程度)A　＊商業簿記		4	1･2	前期･後期	1				日商簿記検定3級レベルの力を有する者を対象とする 2時限連続の授業を週2回の1/4期科目 中級簿記A～Cまで1セットとして履修することが望ましい 時間割表の会計教育科目のページを見て履修登録する
	2040	DP3	113003	中級簿記（2級程度)B　＊工業簿記		4	1･2	前期･後期	1				
	2040	DP3	113004	中級簿記（2級程度)C　＊実践 (試験直前対策)		4	1･2	前期･後期	1				中級簿記AまたはBの履修者を対象とする 中級簿記A～Cまで1セットとして履修することが望ましい 時間割表の会計教育科目のページを見て履修登録する
	2040	DP3	104129	ITパスポート対策講座Ⅰ		2	1	前期･後期	5				時間割表のコンピュータ資格科目のページを見て履修登録する
	2040	DP3	104130	ITパスポート対策講座Ⅱ		2	1	前期･後期	5				
	2040	DP3	104135	情報セキュリティマネジメント試験対策講座Ⅰ		2	2	前期･後期	5				ITパスポート資格取得者レベル 時間割表のコンピュータ資格科目のページを見て履修登録する
	2040	DP3	104136	情報セキュリティマネジメント試験対策講座Ⅱ		2	2	前期･後期	5				

（注2）◆1の中から32単位以上
「私のシゴト学」必修1単位を含む。
専修必修：「専攻入門ゼミ（ビジネスイノベーション）」2単位、「ビジネスプランニング入門」2単位、「ICPベーシック」2単位、「ゼミナールⅠ～Ⅳ（ビジネスイノベーション）」計8単位、「卒業プロジェクトⅠ・Ⅱ（ビジネスイノベーション）」計4単位を含む。
専修選択必修：「イノベーションプログラムB～E」の中から2単位、「チャレンジプログラムB～E」の中から2単位を含む。

（注3）◆2の中から32単位以上
「私のシゴト学」必修1単位を含む。
専修必修：「専攻入門ゼミ（ビジネスアカウンティング）」2単位、「コンピュータ会計」2単位、「ゼミナールⅠ～Ⅳ（ビジネスアカウンティング）」計8単位、「卒業プロジェクトⅠ・Ⅱ（ビジネスアカウンティング）」計4単位を含む。
専修選択必修：「経営分析Ⅰ・Ⅱ」、「会計実務Ⅰ・Ⅱ」、「英文会計Ⅰ・Ⅱ」の中から8単位、「企業分析プロジェクトA･B･C」の中から2単位を含む。

（注4）「私のシゴト学」必修1単位を含む。

科目群	ナンバリング	DP番号	科目番号	科　目	必修単位	選択単位	履修年次	開講学期	開講最少履修者数（目安）	卒業要件 ビジネスイノベーション	卒業要件 ビジネスアカウンティング	卒業要件 グローバルビジネス	備　考
マーケティング&ストラテジー	1310	DP5-BI	151347	マーケティングⅡ		2	1	後期	1	16単位以上			マーケティングⅠの単位を修得していること ビジネスイノベーション専修の1年生はクラス指定
	2310	DP5-BI	151348	戦略設計Ⅰ（ポジショニングビュー）		2	2･3	前期	10				
	2310	DP5-BI	151349	戦略設計Ⅱ（リソースベースドビュー）		2	2･3	後期	10				
	2310	DP5-BI	151350	クチコミとネットワーク		2	2･3	前期･後期	10				
	2310	DP5-BI	151351	プロモーションストラテジー		2	2･3	前期･後期	10				
	2310	DP5-BI	151264	ファッションマーケティング		2	2･3	前期	10				
	2310	DP5-BI	151440	広告制作		2	2･3	後期	10				
	3310	DP5-BI	151352	企業間関係のマネジメント		2	3･4	後期	10				
	3310	DP5-BI	151353	戦略設計Ⅲ（全社戦略）		2	3･4	前期	10				戦略設計Ⅰ（ポジショニングビュー）および戦略設計Ⅱ（リソースベースドビュー）の単位を修得していること
	3330	DP5-BI	151354	ケーススタディA（競争戦略）		2	3･4	前期･後期	5				
	3330	DP5-BI	151355	ケーススタディB（ヒット商品）		2	3･4	後期	5				
	3330	DP5-BI	151089	マーケティングリサーチ		2	3･4	前期･後期	10				
	3310	DP5-BI	151446	プロダクトデザインⅠ		2	3･4	前期	10				
	3310	DP5-BI	151447	プロダクトデザインⅡ		2	3･4	後期	10				「プロダクトデザインⅠ」の単位を修得していること
ASICP:Innovation & Challenge Program	1430	DP4, DP5-BI	151439	ビジネスプランニング入門		2	1	後期	10	◆1（注2）			ビジネスイノベーション専修の1年生はクラス指定
	1430	DP4, DP5-BI	151356	ICPベーシック		2	2	前期	1				ビジネスイノベーション専修の2年生はクラス指定
	2440	DP4, DP5-BI	151445	ファシリテーター入門		2	2	前期･後期	10				
	2430	DP4, DP5-BI	151358	イノベーションプログラムB （ものづくり）		2	2･3	後期	5				ビジネスイノベーション専修の学生のみ履修可 イノベーションプログラムB～Eのいずれか1つのみ履修・修得可。
	2430	DP4, DP5-BI	151359	イノベーションプログラムC （まちづくり）		2	2･3	後期	5				ビジネスイノベーション専修の学生のみ履修可 イノベーションプログラムB～Eのいずれか1つのみ履修・修得可。
	2430	DP4, DP5-BI	151360	イノベーションプログラムD （プロモーション）		2	2･3	後期	5				ビジネスイノベーション専修の学生のみ履修可 イノベーションプログラムB～Eのいずれか1つのみ履修・修得可。
	2430	DP4, DP5-BI	151361	イノベーションプログラムE （ホスピタリティ）		2	2･3	後期	5				ビジネスイノベーション専修の学生のみ履修可 イノベーションプログラムB～Eのいずれか1つのみ履修・修得可。
	3430	DP4, DP5-BI	151363	チャレンジプログラムB（ものづくり）		2	3･4	前期	5				イノベーションプログラムB（ものづくり）の単位を修得していること
	3430	DP4, DP5-BI	151364	チャレンジプログラムC（まちづくり）		2	3･4	前期	5				イノベーションプログラムC（まちづくり）の単位を修得していること
	3430	DP4, DP5-BI	151365	チャレンジプログラムD（プロモーション）		2	3･4	前期	5				イノベーションプログラムD（プロモーション）の単位を修得していること
	3430	DP4, DP5-BI	151366	チャレンジプログラムE（ホスピタリティ）		2	3･4	前期	5				イノベーションプログラムE（ホスピタリティ）の単位を修得していること

（注2）　◆1の中から32単位以上
「私のシゴト学」必修1単位を含む。
専修必修：「専攻入門ゼミ（ビジネスイノベーション）」2単位、「ビジネスプランニング入門」2単位、「ICPベーシック」2単位、「ゼミナールⅠ～Ⅳ（ビジネスイノベーション）」計8単位、「卒業プロジェクトⅠ・Ⅱ（ビジネスイノベーション）」計4単位を含む。
専修選択必修：「イノベーションプログラムB～E」の中から2単位、「チャレンジプログラムB～E」の中から2単位を含む。

科目群	ナンバリング	DP番号	科目番号	科目	必修単位	選択単位	履修年次	開講学期	開講最少履修者数（目安）	卒業要件 ビジネスイノベーション	卒業要件 ビジネスアカウンティング	卒業要件 グローバルビジネス	備考
ASICP:Innovation & Challenge Program	2430	DP4, DP5-BI	151367	OverseasICP（アジア・欧米）		2	2･3	前期	10	◆1（注2）			履修を認められた者の履修登録は教学事務室が行うので各自で登録は不要。原則、取消不可。
	2440	DP4, DP5-BI	151444	ファシリテーション実習		2	3･4	後期	5				ビジネスプランニング入門の単位を修得していること ビジネスイノベーション専修の学生のみ履修可
アカウンティング	1510	DP5-BA	151116	簿記論Ⅰ		4	1	前期･後期	10		16単位以上		週2回
	1510	DP5-BA	151117	簿記論Ⅱ		4	1	前期･後期	10				
	1510	DP5-BA	151118	財務会計Ⅰ		2	2	前期	10				
	1510	DP5-BA	151119	財務会計Ⅱ		2	2	後期	10				
	1510	DP5-BA	151007	管理会計Ⅰ		2	2	前期	10				
	1510	DP5-BA	151008	管理会計Ⅱ		2	2	後期	10				
	1520	DP5-BA	151212	原価計算Ⅰ		2	2	前期	10				
	1520	DP5-BA	151213	原価計算Ⅱ		2	2	後期	10				
	1520	DP5-BA	151143	租税法Ⅰ		2	2	前期	10				
	1520	DP5-BA	151144	租税法Ⅱ		2	2	後期	10				
	2510	DP5-BA	151369	日本の会計制度		2	3	前期	10				
	2520	DP5-BA	151010	監査論Ⅰ		2	3	前期	10				
	3520	DP5-BA	151011	監査論Ⅱ		2	3･4	後期	10				
	2520	DP5-BA	151120	法人税法Ⅰ		2	3	前期	10				
	3520	DP5-BA	151121	法人税法Ⅱ		2	3･4	後期	10				
	3510	DP5-BA	151370	国際会計論		2	3･4	前期	10				
ASAAP:Accounting & Analysis Program	1620	DP3, DP4, DP5-BA	151275	コンピュータ会計		2	2	前期･後期	1		◆2（注3）		
	2620	DP3, DP4, DP5-BA	151012	経営分析Ⅰ		2	3	前期	10				
	2620	DP3, DP4, DP5-BA	151013	経営分析Ⅱ		2	3	後期	10				
	2620	DP3, DP4, DP5-BA	151018	会計実務Ⅰ		2	3	前期	10				
	2620	DP3, DP4, DP5-BA	151019	会計実務Ⅱ		2	3	後期	10				
	2642	DP3, DP4, DP5-BA	151442	英文会計Ⅰ		2	3	前期	10				
	2642	DP3, DP4, DP5-BA	151443	英文会計Ⅱ		2	3	後期	10				

（注2） ◆1の中から32単位以上
「私のシゴト学」必修1単位を含む。
専修必修：「専攻入門ゼミ（ビジネスイノベーション）」2単位、「ビジネスプランニング入門」2単位、「ICPベーシック」2単位、「ゼミナールⅠ～Ⅳ（ビジネスイノベーション）」計8単位、「卒業プロジェクトⅠ・Ⅱ（ビジネスイノベーション）」計4単位を含む。
専修選択必修：「イノベーションプログラムB～E」の中から2単位、「チャレンジプログラムB～E」の中から2単位を含む。

（注3） ◆2の中から32単位以上
「私のシゴト学」必修1単位を含む。
専修必修：「専攻入門ゼミ（ビジネスアカウンティング）」2単位、「コンピュータ会計」2単位、「ゼミナールⅠ～Ⅳ（ビジネスアカウンティング）」計8単位、「卒業プロジェクトⅠ・Ⅱ（ビジネスアカウンティング）」計4単位を含む。
専修選択必修：「経営分析Ⅰ・Ⅱ」、「会計実務Ⅰ・Ⅱ」、「英文会計Ⅰ・Ⅱ」の中から8単位、「企業分析プロジェクトA･B･C」の中から2単位を含む。

科目群	ナンバリング	DP番号	科目番号	科　目	必修単位	選択単位	履修年次	開講学期	開講最少履修者数（目安）	卒業要件 ビジネスイノベーション	卒業要件 ビジネスアカウンティング	卒業要件 グローバルビジネス	備　考
ASAAP:Accounting & Analysis Program	3630	DP3, DP4, DP5-BA	151373	企業分析プロジェクトA		2	3･4	後期	1		◆2（注3）		ビジネスアカウンティング専修の学生のみ履修可 クラス指定
	3630	DP3, DP4, DP5-BA	151374	企業分析プロジェクトB		2	3･4	後期	1				
	3630	DP3, DP4, DP5-BA	151433	企業分析プロジェクトC		2	3･4	後期	1				
グローバルエコノミー	1720	DP3, DP5-GB	151203	日本経済事情		2	1	後期	10			16単位以上（注4）	
	1710	DP3, DP5-GB	151375	ビジネス・エコノミクスⅡ		2	1	後期	10				
	1720	DP3, DP5-GB	151210	国際政治経済事情		2	2	後期	10				
	2720	DP3, DP5-GB	151084	国際ビジネストレンド		2	2･3	前期	10				
	2710	DP3, DP5-GB	151376	金融システム		2	2･3	前期	10				
	2740	DP3, DP5-GB	151037	ファイナンシャルプランニングⅠ		2	2･3	前期	10				
	2740	DP3, DP5-GB	151038	ファイナンシャルプランニングⅡ		2	2･3	後期	10				
	2710	DP3, DP5-GB	151377	外国為替		2	2･3	前期	10				
	3720	DP3, DP5-GB	151378	アジアビジネス		2	3･4	後期	10				
	3720	DP3, DP5-GB	151379	アメリカビジネス		2	3･4	前期	10				
	3720	DP3, DP5-GB	151380	ヨーロッパビジネス		2	3･4	後期	10				
	3710	DP3, DP5-GB	151381	国際金融		2	3･4	後期	10				
	2710	DP3, DP5-GB	151435	グローバル・マーケティング		2	3	前期	10				
	2720	DP3, DP5-GB	151437	サステイナブル・ビジネス		2	3	前期	10				
ASBBE:Bilingual Business Education	1842	DP4, DP5-GB	151382	ビジネス英語Ⅰ		2	1	前期	1			44単位以上（注5）	2時限連続 1/4期科目 「ビジネス英語Ⅰ」と「ビジネス英語Ⅱ」は同じ曜日・時限・担当者で受講すること
	1842	DP4, DP5-GB	151383	ビジネス英語Ⅱ		2	1	前期	1				
	1842	DP4, DP5-GB	151384	ビジネス英語Ⅲ		2	1	後期	1				2時限連続 1/4期科目 「ビジネス英語Ⅲ」と「ビジネス英語Ⅳ」は同じ曜日・時限・担当者で受講すること
	1842	DP4, DP5-GB	151385	ビジネス英語Ⅳ		2	1	後期	1				

（注3）◆2の中から32単位以上
「私のシゴト学」必修1単位を含む。
専修必修:「専攻入門ゼミ（ビジネスアカウンティング）」2単位、「コンピュータ会計」2単位、「ゼミナールⅠ～Ⅳ（ビジネスアカウンティング）」計8単位、「卒業プロジェクトⅠ・Ⅱ（ビジネスアカウンティング）」計4単位を含む。
専修選択必修:「経営分析Ⅰ・Ⅱ」、「会計実務Ⅰ・Ⅱ」、「英文会計Ⅰ・Ⅱ」の中から8単位、「企業分析プロジェクトA･B･C」の中から2単位を含む。

（注4）「私のシゴト学」必修1単位を含む。

（注5）専修必修：「ビジネス英語Ⅰ～Ⅳ」計8単位、「Global Economy Elementary」2単位、「Global Business Elementary」2単位、「Business Communication Elementary」2単位、「ビジネス文書英語Ⅰ・Ⅱ」計4単位、「英語プレゼンテーションⅠ・Ⅱ」計4単位、「Global Business Ⅰ」2単位、「Global Economy Ⅰ」2単位、「Business Communication Ⅰ」2単位、「専攻入門ゼミ（グローバルビジネス）」2単位、「ゼミナールⅠ～Ⅵ（グローバルビジネス）」計12単位を含む。
専修選択必修：「Bilingual Internship Overseas」、「Bilingual Internship Domestic」の中から2単位を含む。

科目群	ナンバリング	DP番号	科目番号	科目	必修単位	選択単位	履修年次	開講学期	開講最少履修者数（目安）	卒業要件			備考
										ビジネスイノベーション	ビジネスアカウンティング	グローバルビジネス	
ASBBE:Bilingual Business Education	1812	DP4, DP5-GB	151387	Global Economy Elementary		2	1･2	後期	1			44単位以上（注5）	グローバルビジネス専修の1年生はクラス指定
	1812	DP4, DP5-GB	151386	Global Business Elementary		2	2	後期	1				
	1812	DP4, DP5-GB	151388	Business Communication Elementary		2	2	前期	1				
	2842	DP4, DP5-GB	151389	ビジネス文書英語Ⅰ		2	2･3	前期	1				グローバルビジネス専修の2年生はクラス指定
	2842	DP4, DP5-GB	151390	ビジネス文書英語Ⅱ		2	2･3	後期	1				
	2842	DP4, DP5-GB	151391	英語プレゼンテーションⅠ		2	2･3	前期	1				
	2842	DP4, DP5-GB	151392	英語プレゼンテーションⅡ		2	2･3	後期	1				
	2811	DP4, DP5-GB	151393	Global Business Ⅰ		2	3･4	前期	1				グローバルビジネス専修の3年生はクラス指定
	2811	DP4, DP5-GB	151394	Global Economy Ⅰ		2	2･3	後期	1				グローバルビジネス専修の2年生はクラス指定
	2811	DP4, DP5-GB	151395	Business Communication Ⅰ		2	2･3	後期	1				
	2811	DP4, DP5-GB	151396	Global Business Ⅱ		2	3･4	後期	1				
	2811	DP4, DP5-GB	151397	Global Economy Ⅱ		2	3･4	前期	1				
	2811	DP4, DP5-GB	151398	Business Communication Ⅱ		2	3･4	後期	1				グローバルビジネス専修の3年生はクラス指定
	1832	DP4, DP5-GB	151403	専攻入門ゼミ（グローバルビジネス）		2	1	後期	1				クラス指定 グローバルビジネス専修の学生のみ履修可
	2832	DP4, DP5-GB	151404	ゼミナールⅠ（グローバルビジネス）		2	2	前期	1				
	2832	DP4, DP5-GB	151405	ゼミナールⅡ（グローバルビジネス）		2	2	後期	1				
	2832	DP4, DP5-GB	151406	ゼミナールⅢ（グローバルビジネス）		2	3	前期	1				
	2832	DP4, DP5-GB	151407	ゼミナールⅣ（グローバルビジネス）		2	3	後期	1				
	3832	DP4, DP5-GB	151432	Bilingual Internship 事前研修		1	3	前期	1				1/4期科目（変則授業） グローバルビジネス専修の学生のみ履修可
	3831	DP4, DP5-GB	151408	Bilingual Internship Overseas		2	3･4	前期	1				グローバルビジネス専修の学生のみ履修可 Bilingual Internship事前研修の単位を取得していること 履修を認められた者の履修登録は教学事務室が行うので各自で登録は不要。原則、取消不可。

（注5） 専修必修：「ビジネス英語Ⅰ～Ⅳ」計8単位、「Global Economy Elementary」2単位、「Global Business Elementary」2単位、「Business Communication Elementary」2単位、「ビジネス文書英語Ⅰ・Ⅱ」計4単位、「英語プレゼンテーションⅠ・Ⅱ」計4単位、「Global Business Ⅰ」2単位、「Global Economy Ⅰ」2単位、「Business Communication Ⅰ」2単位、「専攻入門ゼミ（グローバルビジネス）」2単位、「ゼミナールⅠ～Ⅵ（グローバルビジネス）」計12単位を含む。
専修選択必修：「Bilingual Internship Overseas」、「Bilingual Internship Domestic」の中から2単位を含む。

科目群	ナンバリング	DP番号	科目番号	科　目	必修単位	選択単位	履修年次	開講学期	開講最少履修者数（目安）	卒業要件 ビジネスイノベーション	卒業要件 ビジネスアカウンティング	卒業要件 グローバルビジネス	備　考
ASBBE:Bilingual Business Education	3831	DP4, DP5-GB	151409	Bilingual Internship Domestic		2	3･4	前期	1			44単位以上（注5）	グローバルビジネス専修の学生のみ履修可 Bilingual Internship事前研修の単位を取得していること 履修を認められた者の履修登録は教学事務室が行うので各自で登録は不要。原則、取消不可。
	3832	DP4, DP5-GB	151411	ゼミナールⅤ（グローバルビジネス）		2	4	前期	1				ビジネス応用力認定試験の合格もしくは、応用力育成プログラムを修了していること
	3832	DP4, DP5-GB	151412	ゼミナールⅥ（グローバルビジネス）		2	4	後期	1				
ゼミナール	1930	DP4	151413	専攻入門ゼミ（ビジネスイノベーション）		2	1	後期	1	◆1（注2）	◆2（注3）		クラス指定 ビジネスイノベーション専修の学生のみ履修可
	1930	DP4	151414	専攻入門ゼミ（ビジネスアカウンティング）		2	1	後期	1				クラス指定 ビジネスアカウンティング専修の学生のみ履修可
	2930	DP4	151415	ゼミナールⅠ（ビジネスイノベーション）		2	2	前期	1				
	2930	DP4	151425	ゼミナールⅠ（ビジネスアカウンティング）		2	2	前期	1				
	2930	DP4	151416	ゼミナールⅡ（ビジネスイノベーション）		2	2	後期	1				
	2930	DP4	151426	ゼミナールⅡ（ビジネスアカウンティング）		2	2	後期	1				
	2930	DP4	151417	ゼミナールⅢ（ビジネスイノベーション）		2	3	前期	1				
	2930	DP4	151427	ゼミナールⅢ（ビジネスアカウンティング）		2	3	前期	1				
	2930	DP4	151418	ゼミナールⅣ（ビジネスイノベーション）		2	3	後期	1				
	2930	DP4	151428	ゼミナールⅣ（ビジネスアカウンティング）		2	3	後期	1				
	3930	DP4	151419	卒業プロジェクトⅠ（ビジネスイノベーション）		2	4	前期	1				ビジネス応用力認定試験の合格もしくは、応用力育成プログラムを修了していること
	3930	DP4	151429	卒業プロジェクトⅠ（ビジネスアカウンティング）		2	4	前期	1				ビジネス応用力認定試験の合格もしくは、応用力育成プログラムを修了していること
	3930	DP4	151420	卒業プロジェクトⅡ（ビジネスイノベーション）		2	4	後期	1				
	3930	DP4	151430	卒業プロジェクトⅡ（ビジネスアカウンティング）		2	4	後期	1				
星が丘キャンパスモデル				星が丘キャンパスモデル認定科目									

（注2）◆1の中から32単位以上
「私のシゴト学」必修1単位を含む。
専修必修：「専攻入門ゼミ（ビジネスイノベーション）」2単位、「ビジネスプランニング入門」2単位、「ICPベーシック」2単位、「ゼミナールⅠ～Ⅳ（ビジネスイノベーション）」計8単位、「卒業プロジェクトⅠ・Ⅱ（ビジネスイノベーション）」計4単位を含む。
専修選択必修：「イノベーションプログラムB～E」の中から2単位、「チャレンジプログラムB～E」の中から2単位を含む。

（注3）◆2の中から32単位以上
「私のシゴト学」必修1単位を含む。
専修必修：「専攻入門ゼミ（ビジネスアカウンティング）」2単位、「コンピュータ会計」2単位、「ゼミナールⅠ～Ⅳ（ビジネスアカウンティング）」計8単位、「卒業プロジェクトⅠ・Ⅱ（ビジネスアカウンティング）」計4単位を含む。
専修選択必修：「経営分析Ⅰ・Ⅱ」、「会計実務Ⅰ・Ⅱ」、「英文会計Ⅰ・Ⅱ」の中から8単位、「企業分析プロジェクトA･B･C」の中から2単位を含む。

（注5）専修必修：「ビジネス英語Ⅰ～Ⅳ」計8単位、「Global Economy Elementary」2単位、「Global Business Elementary」2単位、「Business Communication Elementary」2単位、「ビジネス文書英語Ⅰ・Ⅱ」計4単位、「英語プレゼンテーションⅠ・Ⅱ」計4単位、「Global BusinessⅠ」2単位、「Global EconomyⅠ」2単位、「Business CommunicationⅠ」2単位、「専攻入門ゼミ（グローバルビジネス）」2単位、「ゼミナールⅠ～Ⅵ（グローバルビジネス）」計12単位を含む。
専修選択必修：「Bilingual Internship Overseas」、「Bilingual Internship Domestic」の中から2単位を含む。

グローバル・コミュニケーション学部カリキュラムと卒業要件

AICHI SHUKUTOKU UNIVERSITY

1 ディプロマ・ポリシー（人材養成像）

グローバル・コミュニケーション学部では、グローバル社会において、文化や価値観の異なる人々と協力してさまざまな課題や問題を解決する能力のある「地球市民」を育成することにしている。

（DP 1）
国内・国外の文化や社会情勢を理解し、世界の人々に説得力のあるメッセージを発信するために必要な知識を身に付ける。

（DP 2）
グローバル社会であらゆる状況に対応するために必要な英語運用能力、英語コミュニケーション能力、問題解決能力を身に付ける。

（DP 3）
文化や価値観が異なる社会での学修や体験を通じ、社会的・文化的背景の異なる人々の違いを認め、同じ「地球市民」として共生するように考えることができる姿勢を身に付ける。

2 カリキュラム・ポリシー（ディプロマ・ポリシーに整合し、それを保証するカリキュラムの体系性を記したもの）

グローバル・コミュニケーション学部では、グローバルな視点を持ち、どのような状況にも十分対応できる実践的な英語コミュニケーション能力を備える人材を育成することを目的とする。そのため、本学部のカリキュラムは「中心科目」「スキル科目」「セミナー科目」で構成する。

「中心科目」（Core Subjects）では、グローバルな視点を持ち、多様化する社会で地球市民として活躍するために必要な知識を身につける。対人から集団にいたるさまざまな状況におけるコミュニケーションや、異なる文化との摩擦、および交渉などに対応できるよう言語とコミュニケーションについて学ぶ「Language and Communication」（異文化コミュニケーション）と日本の文化や歴史、伝統をグローバル社会における日本という視点から学ぶ「Global Japan Studies」（国際日本学）の２つの科目群によって専門教育科目を構成する。本学部の学生は、１年次後期に「異文化コミュニケーション」または「国際日本学」のいずれかのコースを選択し、それぞれの科目群に配置してあるBasicレベル科目（１年次）、Intermediate レベル科目（２年次）、およびAdvanced レベル科目（３年次・４年次）を段階的に履修する。

「スキル科目」（Skill Subjects）では、グローバル社会で必要となる英語運用スキルを身につける。スキル科目は、英語運用能力を徹底的に磨くための「English Language Skills」、高度な英語コミュニケーション能力を身につけるための「English Communication Skills」、学術的な言語運用能力を高めるための「Academic Skills」の３つの科目群から構成する。学部専門科目の授業が英語で実施されるため、また、２年次Q2（６～７月）には全員が海外渡航をするため、英語で授業を理解し単位を修得できるよう、１年次には「FEP（First-year English Program）」という集中的な英語学習プログラムを設置する。２年次と３年次には「STEP（Second and Third-year English Program）」というプログラムを設置し、海外渡航後も継続してより高度な英語運用能力とコミュニケーション能力を高めることを目指す。

「セミナー科目」（Seminar Subjects）では、４年間の切れ目のない指導を通じて、異文化適応能力を高め、問題発見・解決能力を身につける。１年次には、大学における学修の意義、知識とその獲得手法について理解を深める（「New Student Seminar」）。さらに１年次から２年次にかけて「Study Abroad」の準備として、海外に目を向ける姿勢を育成する（「GLOCOM Practicum 1」「同２」「Seminar 1」）。海外渡航後は、これまでの学びを振り返り、自らの関心を見出し深める（「Seminar 2」「同３」）。３年次、４年次には見出した問いに対し情報収集を行い、解決手法について理解を深め、その学修の集大成として英語で卒業論文を完成する（「Seminar 4」～「同11」）。

3 アドミッション・ポリシー

グローバル・コミュニケーション学部は、英語で考え、英語で情報を発信し、行動する、人・地域・世界の架け橋となる「地球市民」の育成を目標とした学部であり、「実用的な英語コミュニケーション能力を身に付けたい」「英語を使った仕事に就きたい」という学生を求める。

①学生に期待すること

グローバル社会に求められる地球市民になるためには、高度な英語コミュニケーション能力とともに、幅広い教養も必要である。学生には、世界と日本の社会や文化、人間コミュニケーション、グローバルな課題などに関心を持ち積極的に学ぶ姿勢を期待する。

②学生募集に際して重視すること

高度なコミュニケーション能力は、受動的な姿勢で身に付くものではない。すべての学部専門科目が英語のみで開講される“All English”の環境のもと、主体的に学ぼうとする意欲と姿勢を重視する。

③入学前学習として推奨すること

高等学校までの英語学習をしっかりと理解・定着させておくことが、大学入学後の高度で実践的な英語コミュニケーション能力修得の基礎となる。新聞・書籍・インターネット・テレビなどを通じて、グローバルなトピックに常に関心を向けることも重要である。

4 卒業に必要な単位（卒業要件単位数）

本学のグローバル・コミュニケーション学部を卒業するためには、4年以上在学し（休学期間は含まない）、124単位以上を修得しなければならない（愛知淑徳大学学則第47条）。その内訳は次の表のとおりである。

■2025年度入学者

<table>
<tr><th colspan="5">授業科目の種類</th><th colspan="2">卒業要件単位</th></tr>
<tr><td rowspan="11">専門教育科目</td><td colspan="4">必修科目（FEP（1年次英語プログラム）を含む）</td><td colspan="2">56単位</td><td rowspan="11">95単位以上</td></tr>
<tr><td rowspan="5">選択必修科目</td><td colspan="3">Language and Communication Course
（異文化コミュニケーション）</td><td rowspan="5">22単位以上※1
異文化コミュニケーション、または、国際日本学のいずれかのコースを選択し、選択したコース内のBasicレベルから4単位、Intermediateレベルから6単位、Advancedレベルから12単位を修得する。共通科目は、レベルが同じ場合、どちらのコースの科目としてもみなすことができる。
（ただし、必修科目「Readings in Global Communication」「Intercultural Training」「Careers in the Global Age」は選択必修の単位に含めることはできない）</td><td rowspan="5">39単位以上</td></tr>
<tr><td colspan="3">Global Japan Studies Course
（国際日本学）</td></tr>
<tr><td colspan="3">Second and Third-year English Program
（STEP、2・3年次英語プログラム）</td><td>6単位以上
スキル科目の中から、Intermediateレベルまたは Advancedレベルの科目の単位を修得する。
（ただし必修科目「Study Abroad」「Journal Writing」「Academic Writing」は選択必修の単位に含まれない）</td></tr>
<tr><td colspan="3">Seminar・ゼミナール・演習・卒業プロジェクト</td><td>11単位以上</td></tr>
<tr><td rowspan="3">星が丘キャンパスモデル※2
（ゼミ・アクティブ履修制度）</td><td colspan="2">グローバル・コミュニケーション</td><td>11単位</td></tr>
<tr><td rowspan="2">交流文化</td><td>12単位</td></tr>
<tr><td>ビジネス</td><td>12単位</td></tr>
<tr><td colspan="4">選択科目</td><td colspan="2">0単位以上</td></tr>
<tr><td rowspan="3">全学共通履修科目</td><td rowspan="2">基幹科目</td><td colspan="3">違いを共に生きる科目</td><td colspan="2" rowspan="2">6単位以上
（「違いを共に生きる・ライフデザイン」「AI・データサイエンス入門［M］」「コンピュータリテラシーⅠ」必修6単位を含む）</td></tr>
<tr><td colspan="3">AI・データサイエンス科目</td></tr>
<tr><td rowspan="5">アクティブラーニング科目</td><td colspan="3">国際交流センター開設科目</td><td colspan="2" rowspan="5">4単位以上
（「日本語表現1」「日本語表現2」必修4単位を含む）</td></tr>
<tr><td colspan="3">CCC開設科目</td></tr>
<tr><td colspan="3">キャリアセンター開設科目</td></tr>
<tr><td colspan="3">ダイバーシティ共生センター開設科目</td></tr>
<tr><td colspan="3">学修・教育支援センター開設科目</td></tr>
<tr><td rowspan="2">スキル科目</td><td colspan="3">言語活用科目（英語）</td><td colspan="2" rowspan="2">4単位以上
（言語活用科目「初めての外国語」2単位を含む）</td></tr>
<tr><td colspan="3">言語活用科目（初めての外国語）</td></tr>
<tr><td rowspan="4">学部認定科目</td><td colspan="4">他学部・他学科開放科目</td><td colspan="2" rowspan="4">0単位以上</td></tr>
<tr><td colspan="4">星が丘キャンパスモデル開放科目※2</td></tr>
<tr><td colspan="4">愛知学長懇話会単位互換科目（上限10単位）</td></tr>
<tr><td colspan="4">放送大学単位互換科目（上限10単位）</td></tr>
<tr><td colspan="5">合　　計</td><td colspan="2">124単位以上</td></tr>
</table>

※1 「履修上の注意」参照
※2 「星が丘キャンパスモデル」参照

なお、以下の表にある科目は、**卒業に必要な単位に算入されない**ため、注意する。

①言語活用科目（英語） 「Introduction to English」	②教職課程科目	③学芸員課程科目
④司書課程科目	⑤コンピュータ資格科目	⑥会計教育科目
⑦研究科開放科目	⑧文学部国文学科専門教育科目 「学びなおし古文」「学びなおし漢文」	⑨建築学部建築学科専門教育科目 「基礎数学」
⑩食健康科学部専門教育科目 「基礎化学」「基礎生物学」		

5 履修上の注意

●全体的な注意事項

（1）卒業に必要な単位数・在学期間について

グローバル・コミュニケーション学部（通称GLOCOM、「グロウコム」)の卒業に要する単位数は、124単位以上である。内訳は、専門教育科目に加え、違いを共に生きる科目２単位、AI・データサイエンス科目４単位以上、アクティブラーニング科目４単位以上、言語活用科目４単位以上である。これらの単位数を、在学期間中に計画的に修得しなければならない。

なお、基幹科目「違いを共に生きる・ライフデザイン」「AI・データサイエンス入門［M］」「コンピュータリテラシーⅠ」(６単位)と日本語表現科目「日本語表現１」「日本語表現２」(計４単位)は卒業に必要な科目、すなわち「必修科目」である。また言語活用科目は、４単位以上を修得すること（２単位まで英語を含めてもよい)。開講主体は履修要覧の「言語活用科目」から選択すること。

さらに、４年以上の在学（休学期間は含まない)も卒業要件であることに留意すること。ただし、学部の必修科目である「Study Abroad」の期間は在学期間に含まれる。

（2）「必修科目」について

必修科目とは、卒業するために単位の修得が不可欠な科目を指す。必修科目の履修を最優先させること。必修科目は自動的に登録されないので、各自で履修登録を行うこと。クラス指定のある科目については、ガイダンスの資料や掲示をもとに履修登録を行うこと。

（3）「選択必修科目」について

選択必修科目とは、所定の科目群やレベルなどから、指定の単位数以上の修得が必要とされている科目を指す。「○単位以上」「○単位以上選択必修」などの表記が履修要覧の卒業要件表とカリキュラム表にある。各自で選択し、計画的に履修登録を行うこと。学部の専門教育科目の授業とその他の学部やセンター等が開講する授業が同じ時間帯で開講されている場合は、学部の専門教育科目の授業の履修を優先させること。

（4）教職課程など、資格教育科目の履修について

教職課程などの資格取得を目指す場合は、各自で履修要覧や掲示を参照し、当該ガイダンスに必ず出席すること。特に、教職課程に関わる授業は、指定されている学年で必ず単位を修得すること。本学部特有の学期制度や留学制度により時間割上の制約が大いにあり、指定された学年・学期でさえ関係者間の多大な調整の結果、必要な科目が開講されている。単位を落とした場合のその科目の翌年度の再履修については、時間割上保証されないので注意すること。

（5）出席と第１回目の授業

履修が認められた科目については、全ての授業に出席すること。特に、各科目の第１回の授業は担当教員から授業方針・使用テキスト・評価基準などについての詳細な説明があるので必ず出席すること。大学の規定では、所定の回数以内の欠席では、定期試験の受験資格を失うことはない。ただし、授業態度、事前課題や授業内課題などの未提出などにより評価が下がり、所定の回数以内の欠席でも単位が修得できないこともある。よって、可能な限り全ての授業に出席すること。

●専門教育科目

（1）英語での授業実施について

本学部の専門教育科目の授業はすべて英語で行われる。科目により、学習上の必要に応じて、日本語や日本語のテキストが使用される場合がある。履修や成績、学習方法に関連する悩みは一人で抱え込まずに「早めに」授業担当者やアドバイザーに相談すること。

２年次以降の開設科目には、後述するように、各学年または学期ごとに履修条件が設定されている。語学試験のスコアに応じて、履修できる科目が決まってくる。また、語学力が不十分であると、授業内容が理解できないため単位が修得できず、４年間で卒業することが難しくなる。よって、これらの点に留意し日々の学修に努めること。

（2）カリキュラムについて

GLOCOMのカリキュラムは、「Core Subjects」「Skill Subjects」「Seminar Subjects」の３分野から構成される。「Core Subjects」にはさらに「Language and Communication」「Global Japan Studies」の２つの科目群がある。「Skill Subjects」には、「English Language Skills」「English Communication Skills」「Academic Skills」の３つの科目群がある。Skill Subjects のうち、１年次に開講される３科目群の総称を「First-year English Program」（FEP）、２年次と３年次に開講される３科目群の総称を「Second and Third-year English Program」（STEP）とし、英語運用能力を切れ目なく高めるカリキュラムとなっている。

それぞれの分野・科目群より、所定の必修科目・選択必修科目の履修が求められている。各自、カリキュラム表の「必修単位」「卒業要件」の欄を見て、計画的に履修をすること。

（3）学期（セメスター制・クォーター制）と単位数について

本学は、基本的に１年間に２つ学期があるセメスター制（90分授業を15週にわたり週１回開講、２単位、名称：前期・後期）であり、専門教育科目のうちCore Subjectsの多くはセメスター制であるが、中にはクォーター制の科目も交じっている（クォーター制については、下の表を参照すること）。

また、Skill Subjectsのうち 1, 2 年生向けの多くの授業や２年次以降に始まる「Seminar 1」～「同11」は、学修効果を高めるためなどの理由で、クォーター制（名称「第１クォーター」（Q1）～「第４クォーター」（Q4））となっている。ただし、クォーター制の科目には次の３つの種類があるので注意すること。

クォーター制科目の種類	単位数	例
60分授業を８週にわたり週３回開講	2	「English Skills I」～「同Ⅳ」など
90分授業を7.5週にわたり週１回開講	1	「Careers in the Global Age」など
90分授業を7.5週にわたり週２回開講	2	「Journal Writing」など

１コマあたりの授業時間や履修期間の異なるセメスター制とクォーター制の授業の両方を学期中に履修することになるので、履修要覧のカリキュラム表の「備考」欄をよく読み、履修やスケジュール管理には各自が十分な注意を払うこと。なお、履修登録や登録確認、追加登録については、Q2の科目はQ1の科目と同時に、Q4の科目はQ3の科目と同時に、大学全体のスケジュールに従いそれぞれ行うこと。

本学では、「授業科目の単位数は、１単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準」とすると定めている（愛知淑徳大学学則第30条）。本学では、90分の授業を120分（２時間）とみなしているので、通常の90分授業については、90分つまり２時間の授業15回分（30時間）に、それぞれ15回の事前学修（２時間×15回＝30時間）と事後学修（２時間×15回＝30時間）を加えた合計90時間で２単位としている。

グローバル・コミュニケーション学部で導入されているクォーター制の科目については、60分の授業を80分とみなしている。クォーター制の科目では１回の授業につき、事前学修（80分）と事後学修（80分）が必要なので、１回の授業では合計240分（４時間）の学修を必要としている。クォーター制の科目は23回実施されるため、合計92時間（４時間×23回＝92時間）を２単位としている。

（4）クォーター制の学年暦と追試験について

クォーター制の科目で、さらに注意が必要な点は、学年暦と追試験である。学年暦とは、本学の授業や試験期間に関するカレンダーである。追試験とは、定期試験を受験できなかった者に対して行われる追加の試験である。追試験に該当する場合は、所定の期日までに必要な書類を添えて教学事務室に各自が申請をする必要がある。

追試験については、大学の所定の手続が必要であり、試験日程及び追試験が認められる事由は時間割表の「追試験」に記載の通りである。

ただし、クォーター科目の開講時期によっては、追試験の申請の時期に大学全体の制度から若干の変更があるので、注意が必要である。本学の専門科目で、Q1・Q3にクォーター制で開講される科目の追試験の申請期日、追試験については次の通りとなる。

	授業回数	定期試験（第８週）	追試験　申請期日	追試験　実施日
60分・週３回授業	23回	24回目	Q1・Q3の 定期試験直後 （掲示を参照）	大学の追試験の 日程に準じる
90分・週１回授業	7.5回	８回目		
90分・週２回授業	15回	16回目		

Q1・Q3の追試験は、大学の追試験の日程に準じて実施されるので、学年暦を参照し、日程を確認すること。ただし、２年次Q1の追試験については、直後のQ2に「Study Abroad」が設定されているため、各授業担当者に指示を仰ぐこと。

本学部の専門教育科目で、Q2・Q4にクォーター制で開講される科目の追試験の申請期日、追試験については次の通りとなる。

	授業回数	定期試験（第16週）	追試験　申請期日	追試験　実施日
60分・週３回授業	23回	24回目	大学の手続きに準じる （時間割表を参照）	大学の追試験の 日程に準じる
90分・週１回授業	7.5回	８回目		
90分・週２回授業	15回	16回目		

Q2・Q4の追試験も、大学の追試験の日程に準じて実施される。学年暦を参照し、日程を確認すること。

なお、定期試験を実施しない科目もあるので、各授業に出席し、成績評価の方法を確認のうえ各自が責任を持ってスケジュール管理を行うこと。

（5）必修科目について

学部の専門教育科目のうち必修科目は、次の通りである。

履修学年	必修科目	
1年	New Student Seminar（前期） English Skills Ⅰ,Ⅱ,Ⅲ,Ⅳ（Q1～Q4） Academic Skills Ⅰ,Ⅱ,Ⅲ,Ⅳ（Q1～Q4）	Basic Pronunciation Training（前期） Communication Skills Ⅰ,Ⅱ,Ⅲ,Ⅳ（Q1～Q4） GLOCOM Practicum 1（後期）
2年	Careers in the Global Age（Q3） Journal Writing（Q1） Intercultural Training（Q1） GLOCOM Practicum 2（Q1）	Readings in Global Communication（Q1） Seminar 1, 2, 3（Q1,Q3,Q4）※ Study Abroad（Q2）
3年	Academic Writing（後期）	Seminar 4, 5, 6, 7（Q1～Q4）※
4年	Writing Lab I, II（前期,後期）	Seminar 8, 9, 10, 11（Q1～Q4）※

※　選択必修

「星が丘キャンパスモデル（２）グローバル学部間　ゼミ・アクティブ履修制度」を参照すること。

これらの科目は「必ず」指定された学年で履修すること。繰り返すが、必修科目を最優先で履修すること。2年次Q2には6～10週間の「Study Abroad」が設定されているので、その基礎となる1年次と2年次Q1の必修科目の単位は必ず指定された学期で修得できるよう最大限努めること。

指定された学年・学期で必修科目の単位を修得できなかった場合は、翌学期以降で開講される一番早い学期に受講し、単位を修得すること。また、自身の正規の学年で履修すべき必修科目は優先して履修すること。ただし、本学部特有の学期制度や留学制度により時間割上の制約が大いにある。よって、修得できなかった必修科目の単位数が増えれば増えるほど、4年間で卒業することが難しくなる可能性が高まることにも留意すること。

（6）選択必修科目について

学部の専門教育科目のうち選択必修科目については、カリキュラム表の「履修条件」を読み、計画的に学修すること。

「Language and Communication」または「Global Japan Studies」のいずれかのコースを選択し、選択したコース内のBasicレベルから4単位以上、Intermediateレベルから6単位以上、Advancedレベルから12単位以上を修得する。共通科目は、レベルが同じ場合、どちらのコースの科目としてもみなすことができる。コース選択については、「（12）コースの選択について」を参照すること。さらに、Skill SubjectsのIntermediateまたはは Advancedレベルから6単位以上を修得する。選択必修科目の単位に、必修科目の単位を含めることはできない。

Basicレベルの科目から履修をはじめ、Intermediate、Advancedレベルの科目へと、履修を進めることが望ましい。レベルについてはカリキュラム表の「ナンバリング」や「卒業要件」欄で確認すること。

（7）履修年次と履修条件について

各科目は、履修できる学年が指定されている。カリキュラム表や時間割の「履修年次」を確認すること。指定された学年や下の学年の科目は履修できるが、上の学年の科目を履修することはできない。

ただし、2年次以降のCore Subjectsの多くの科目には語学力（TOEIC® L&R IP、TOEFL iBT®、IELTS™のスコア）に応じて履修条件が設定されている。カリキュラム表の「備考」欄を参照し、自身がその条件を満たしているのか確認をしてから登録すること。また、学内で実施されるTOEIC® L&R IPテスト（受験料大学負担）を毎学期（前期・後期）の後半に受験すること。GLOCOMの学生には4年間の受験義務がある。履修条件の判定に使用するTOEIC® L&R IPテストは履修登録の直前2回分のうち、いずれか高い方のスコアである（例：2年次前期の履修登録には、1年次前期末と後期末の2回のテストのうち高い方のスコアを利用する）。履修条件として、各学年・学期で求められる語学試験のスコアは、次の通りである。

履修の年次・学期	履修に必要なスコア（履修条件）		
	TOEIC® L&R IP	TOEFL iBT®	IELTS™
2年生　前期・後期	500	51	4.5
3年生　前期	600	61	5.0
3年生　後期	600	71	5.5

学内で実施されるTOEIC® L&R IPテストの日程と集合時間については、各自が国際交流センターの掲示を確認すること。

学外で実施される語学試験（公開テスト、TOEIC® L&R など）を個人的に受験してもよい。各自で試験日程を調べ、手続きを取ること（受験料は各自が負担）。個人で受験した上記語学試験のスコアを翌学期の履修に反映させたい場合は、国際交流センターの指示に従いスコアを提出すること。各学期の履修登録に間に合わせるためには、同センターの指定する期日（8月下旬及び3月上旬）を各自が掲示で確認の上、厳守すること。ただし、他機関が実施するIPテストや自宅で受験したテストのスコアは、本人確認の観点から履修条件の判定、クラス分け、表彰制度には用いることができない。

なお、卒業要件として語学試験のスコアの設定はないが、４年次や卒業時の目標としてほしい語学試験のスコアは次の通りである。

年次・時期	目標とするスコア		
	TOEIC® L&R IP	TOEFL iBT®	IELTS™
４年生　前期	785	80	6.0
卒業時	800～900	100	6.5

特に、交換留学や海外の大学院を目指す者は、スコアの向上に励むこと。各自で該当する情報を収集し、必要となる語学試験のスコアとそのスコア取得の期限を確認したうえで計画的に学修し、受験すること。

（８）「Study Abroad」について（2年次Q2）

2年次Q2に、本学部教育課程の特色の一つである「Study Abroad」（必修科目）が設定されている。履修や各種手続きに際しては、１年次より準備を開始する。

「GLOCOM Practicum 1」（１年次後期、２単位）と「GLOCOM Practicum 2」（２年次Q1、１単位）の授業内で「Study Abroad」に必要な知識やスキルの修得や手続きの連絡が行われる。必ず全ての授業に出席すること。

また、派遣先大学は、本学部と先方との協定で定員制をとっているため、必ずしも全員が第一志望先に留学が叶うわけではない。事前に各自で、希望する派遣先大学の特色に加え、参加するプログラムや、大学の所在する地域についての情報を収集し、なぜその派遣先大学を希望するのか、自らの目的を明確にしておくこと。そのためにも、Core Subjectsのそれぞれの領域から多様な授業を履修しておくことが望ましい。さらに、１単位当たりの成績の平均値であるGPA（参照：履修要覧「試験・成績評価　GPA制度」）も派遣先の決定には重要な役割を果たすので、１年次の学修に努めること。

（９）「Seminar 1」～「同11」について（2年次～4年次）

それぞれが関心を抱いたトピックに関し、獲得した知識や技能を深化させ、学修の成果を卒業論文へと結実させるための機会がSeminar（日本語では「ゼミ」）である。

GLOCOMでは、「Seminar 1」～「同11」は選択必修科目である。「Seminar 1」～「同3」（２年次）、「Seminar 4」～「同7」（３年次）、「Seminar 8」～「同11」（４年次）を履修すること。原則、同一教員の指導を受けることと、上の学年のゼミを履修するためには、下の学年のゼミを履修していることが条件となる。４年次のゼミでは、卒業論文の執筆指導が行われる。また、「Seminar 11」の評価には卒業論文（英語）の提出が必須要件である。卒業論文の提出期限や書式などの詳細については、４年次にゼミの担当教員や掲示などを通じて連絡がある。

ゼミの選択に関しては、１年次前期「New Student Seminar」においてガイダンスを行うので、その指示に従うこと。どのゼミに所属するかは、１年次後期に決定する。学修効果を考慮してゼミには定員が設けられているため、必ずしも全員が第一志望のゼミへの配属が叶うわけではない。より良いゼミ選択を行うためにも、Core Subjectsのそれぞれの領域から多様な授業を履修し、自らの興味関心を広げておくことが望ましい。高いGPAも維持すること。

また、所属ゼミの変更は可能ではあるが、専門分野の継続的な学修の観点から奨励はしない。ただし、やむを得ない事情がある場合のみ、所定の手続きを経て、変更することができる。１号館地下２階の学部の掲示板で手続き方法を確認すること。

GLOCOMの学生は、「星が丘キャンパスモデル　グローバル学部間　ゼミ・アクティブ履修制度」を利用することができる。この制度については、１年次前期「New Student Seminar」にてガイダンスが行われる。詳細は履修要覧の「星が丘キャンパスモデル」を参照すること。

（10）「Internship in the Global Age」について

これまでに各自が獲得した広範な知識や技能を実社会で応用させ、学びを深化させる機会が「Internship in the Global Age」である。希望する者は掲示に注意し、ガイダンスに必ず出席すること。ガイダンスを欠席した場合、当該科目の履修登録はできない。

(11)卒業論文について

GLOCOMでは、「Seminar 11」の成績評価に卒業論文の提出が必要である。所属したゼミでの「Seminar 1」～「同11」の学修にもとづき、卒業論文を完成させ、期日までに提出すること。提出には、ゼミ担当教員の許可を必ず得ること。提出された卒業論文の評価はゼミ担当教員が行い、その上で「Seminar 11」の最終評価を行う。卒業論文を提出すれば自動的に単位の修得と卒業が約束されるものではないことに留意し、真摯に取り組むこと。

卒業論文の要件と書式の概要は以下の通りである。 提出方法などについての詳細は、4年次Q3にゼミの担当教員から連絡される。

卒業論文の要件と書式概要

1）言語・分量　　：英語・4,500語以上
2）提出期限　　：4年次12月上旬（9月卒業予定者は6月下旬）
　　［理由の如何を問わず日時厳守］
3）余白　　：上下左右　各25ミリ
4）フォント・サイズ：Times New Roman・12ポイント
5）行間　　：1.5行
6）スタイル　　：APA

星が丘キャンパスモデルにより他学部のゼミを履修する者は、ゼミ開講学部の指示に従って卒業に必要な要件を満たすこと。

(12)コースの選択について（2022年度以降入学者）

2年次以降「Language and Communication」コースまたは「Global Japan Studies」コースのいずれかを選択しなければならない。これは専門科目Core Subjectの履修をより系統立てて行うためであり、コースごとに卒業に必要な選択必修科目群が異なる（「(6) 選択必修科目について」を参照）。コースの選択は、1年次後期に申請を行い決定する。変更は2年次後期の申請に基づき、3年次前期に一度だけ認められる。申請の手続きは各自で掲示を確認の上、2年次Q4の最終週までに行うこと。

(13)「Independent Study Program」（自由設計プログラム）について（2022年度以降入学者）

自らの学びを主体的に設計し、学部の枠組みを超えた幅の広い学びが可能となる「Independent Study Program」（自由設計プログラム）制度を利用することができる。具体的には、3年次（前期・後期）に履修し修得した他学部開放科目の単位を12単位まで、本学部で卒業に必要な選択必修科目（専門科目Core SubjectsのAdvanced レベルの科目）として認定（区分変更）することができる。この制度を利用するためには、2年次後期末にアドバイザーの指導を受け、どのような目的で他学部開放科目を履修するかについて計画書を作成する必要がある。単位の認定には必要な書類を4年次Q1末までに提出し、教授会の承認を得なければならない。申請の手続きや締め切りについての連絡は、掲示で行われる。

なお、「自由設計プログラム」を選択した場合の卒業要件は、TOEIC 600点以上、または、学部が実施するEnglish Proficiency Testに合格することである。

6 カリキュラム表(グローバル・コミュニケーション学部 専門教育科目)

科目群		ナンバリング	DP番号	科目番号	科目	必修単位	選択単位	履修年次	開講学期	開講最少履修者数(目安)	卒業要件 Language and Communication Course	卒業要件 Global Japan Studies Course	備考
Core Subjects	Language and Communication Studies	1121	DP1, DP3	281102	Interpersonal Communication		2	1	後期	5	Basicレベル 4単位以上 選択必修		
		1121	DP1, DP3	284001	Introduction to Communication Studies		2	1	後期	1			
		1121	DP1, DP3	284002	Introduction to Language Studies		2	1	後期	1			
		2121	DP1, DP3	281104	Nonverbal Communication		2	2	後期	5	Intermediateレベル 6単位以上 選択必修		TOEICスコア500点＊以上の取得者を対象とする
		2121	DP1, DP3	281107	Morphology		2	2	後期	1			TOEICスコア500点＊以上の取得者を対象とする
		2121	DP1, DP3	281205	Gender and Communication		2	2	後期	5			TOEICスコア500点＊以上の取得者を対象とする
		2121	DP1, DP3	284003	Readings in Language and Communication		2	2･3	前期･後期	10			2年生前期は履修不可 TOEICスコア500点＊以上の取得者を対象とする
		3121	DP1, DP3	281108	Persuasion		2	3	後期	1	Advancedレベル 12単位以上 選択必修		TOEICスコア600点＊以上の取得者を対象とする
		3121	DP1, DP3	284004	Negotiation		2	3	後期	10			TOEICスコア600点＊以上の取得者を対象とする
		3121	DP1, DP3	281112	Syntax		2	3	前期	1			TOEICスコア600点＊以上の取得者を対象とする
		3121	DP1, DP3	281113	Semantics		2	3	前期	1			TOEICスコア600点＊以上の取得者を対象とする
		3121	DP1, DP3	281114	Language Acquisition		2	3	後期	1			TOEICスコア600点＊以上の取得者を対象とする
		3121	DP1, DP3	281116	Sociolinguistics		2	3	後期	1			TOEICスコア600点＊以上の取得者を対象とする
		3121	DP1, DP3	281317	Intercultural Communication		2	3	前期	1			TOEICスコア600点＊以上の取得者を対象とする
		3121	DP1, DP3	284005	Organizational Communication		2	3	後期	10			TOEICスコア600点＊以上の取得者を対象とする
		3121	DP1, DP3	281117	Special Topics in Language and Communication Ⅰ		2	3	前期	10			TOEICスコア600点＊以上の取得者を対象とする
		3121	DP1, DP3	281118	Special Topics in Language and Communication Ⅱ		2	3	前期	10			TOEICスコア600点＊以上の取得者を対象とする
	Global Japan Studies	1291	DP1, DP3	281201	Japanese Popular Culture		2	1	前期･後期	5		Basicレベル 4単位以上 選択必修	前期は1/4期科目 Q1：90分週2回授業
		1221	DP1, DP3	284006	Introduction to Global Japan Studies		2	1	前期	1			
		2221	DP1, DP3	281203	Japanese Performing Arts		2	2	後期	5		Intermediateレベル 6単位以上 選択必修	TOEICスコア500点＊以上の取得者を対象とする
		2221	DP1, DP3	284007	Readings in Global Japan Studies		2	2･3	前期･後期	10			2年生前期は履修不可 TOEICスコア500点＊以上の取得者を対象とする

＊TOEICとそのスコアに該当する他の語学試験とスコアについては履修上の注意を参照すること。

科目群		ナンバリング	DP番号	科目番号	科　目	必修単位	選択単位	履修年次	開講学期	開講最少履修者数（目安）	卒業要件		備　考
											Language and Communication Course	Global Japan Studies Course	
Core Subjects	Global Japan Studies	3221	DP1, DP3	281206	Comparative Education		2	3	前期	1		Advancedレベル 12単位以上 選択必修	TOEICスコア600点＊以上の取得者を対象とする
		3221	DP1, DP3	281209	Multiculturalism in Japan		2	3	後期	5			TOEICスコア600点＊以上の取得者を対象とする
		3221	DP1, DP3	281312	Global Business		2	3	前期・後期	5			TOEICスコア600点＊以上の取得者を対象とする
		3221	DP1, DP3	281313	Gender and Society		2	3	前期	5			TOEICスコア600点＊以上の取得者を対象とする
		3221	DP1, DP3	281318	Media and Society		2	3	後期	5			TOEICスコア600点＊以上の取得者を対象とする
		3221	DP1, DP3	284008	Modern Japan		2	3	後期	10			TOEICスコア600点＊以上の取得者を対象とする
		3221	DP1, DP3	281210	Special Topics in Global Japan Studies Ⅰ		2	3	後期	10			TOEICスコア600点＊以上の取得者を対象とする
		3221	DP1, DP3	281211	Special Topics in Global Japan Studies Ⅱ		2	3	後期	10			TOEICスコア600点＊以上の取得者を対象とする
		3221	DP1, DP3	281212	Special Topics in Global Japan Studies Ⅲ		2	3	前期	10			TOEICスコア600点＊以上の取得者を対象とする
	Common Subjects	1341	DP1, DP3	110019	Globalization and Society		1	1	後期	10	Basicレベル 共通科目※1		1/4期科目 Q3：90分週１回授業 時間割表のアクティブラーニング科目のページを見て履修登録する
		1341	DP1, DP3	110010	Traditional Arts in Japan		1	1	後期	10			1/4期科目 Q4：90分週１回授業 時間割表のアクティブラーニング科目のページを見て履修登録する
		1321	DP1, DP3	281303	American Studies		2	1	後期	1			
		1321	DP1, DP3	281305	Australian Studies		2	1	前期	5			
		2341	DP1, DP3	281308	American Literature		1	2	後期	1	Intermediateレベル 共通科目※2		1/4期科目 Q4：90分週１回授業 TOEICスコア500点＊以上の取得者を対象とする
		2341	DP1, DP3	281309	British Literature		1	2	後期	1			1/4期科目 Q3：90分週１回授業 TOEICスコア500点＊以上の取得者を対象とする
		2391	DP1, DP3	284009	Internship in the Global Age		2	2-4	前期・後期	1			TOEICスコア500点＊以上の取得者を対象とする 履修を認められたものの履修登録は教学事務室で行うので各自での登録は不要 原則、取消不可 履修には選考の通過が必要な場合がある。
		2321	DP1, DP3	284010	World Englishes		2	2	後期	10			TOEICスコア500点＊以上の取得者を対象とする
		2341	DP1, DP3	281310	Careers in the Global Age	1		2	後期	1			1/4期科目 Q3：90分週１回授業
		2341	DP1, DP3	282105	Readings in Global Communication	2		2	前期	1			1/4期科目 Q1：90分週２回授業 クラス指定

＊TOEICとそのスコアに該当する他の語学試験とスコアについては履修上の注意を参照すること。
※1　「Language and Communication Course」または「Global Japan Studies Course」のBasicレベルの単位として見なすことができる。
※2　「Language and Communication Course」または「Global Japan Studies Course」のIntermediateレベルの単位として見なすことができる。

科目群		ナンバリング	DP番号	科目番号	科目	必修単位	選択単位	履修年次	開講学期	開講最少履修者数（目安）	卒業要件 Language and Communication Course	卒業要件 Global Japan Studies Course	備考
Core Subjects	Common Subjects	2341	DP1, DP3	283101	Intercultural Training	2		2	前期	1			1/4期科目 Q1：90分２時限連続授業 （再履修の学生は履修不可） 再履修者専用クラスあり（半期科目）
		3321	DP1, DP3	281304	Asian Studies		2	3	前期	5	Advancedレベル共通科目※3		TOEICスコア600点＊以上の取得者を対象とする
		3321	DP1, DP3	281306	British Studies		2	3	前期	1			TOEICスコア600点＊以上の取得者を対象とする
		3321	DP1, DP3	284011	Advertising		2	3	前期	10			TOEICスコア600点＊以上の取得者を対象とする
		3321	DP1, DP3	284012	Social Media		2	3	後期	10			TOEICスコア600点＊以上の取得者を対象とする
Skill Subjects	English Language Skills	1441	DP2, DP3	282101	English Skills Ⅰ（Grammar）	2		1	前期	1			1/4期科目 Q1：60分週３回授業 クラス指定
		1441	DP2, DP3	282102	English Skills Ⅱ（Reading）	2		1	前期	1			1/4期科目 Q2：60分週３回授業 クラス指定 後期：再履修者専用クラスあり （半期科目）
		1441	DP2, DP3	282103	English Skills Ⅲ（Paragraph Writing）	2		1	後期	1			1/4期科目 Q3：60分週３回授業 クラス指定 再履修者専用クラスあり（半期科目）
		1441	DP2, DP3	282104	English Skills Ⅳ（Academic Writing）	2		1	後期	1			1/4期科目 Q4：60分週３回授業 クラス指定 再履修者専用クラスあり（半期科目）
		1491	DP2, DP3	282121	Destination 500		2	1	前期・後期	10			原則TOEICスコア500点＊未満の取得者を対象とする 前期：半期科目と1/4期科目あり Q1：90分週２回授業
		1421	DP2, DP3	284013	Basic English Proficiency Testing		2	1	前期	10			
		1421	DP2, DP3	284014	Intermediate English Proficiency Testing		2	1	後期	10			
		2441	DP2, DP3	282112	Journal Writing	2		2	前期	1			1/4期科目 Q1：90分週２回授業 クラス指定
		2421	DP2, DP3	282113	Descriptive Writing		2	2	後期	5	Second and Third-year English Program（STEP） 「Skills Subjects」いずれかの科目群から選択必修６単位以上※4		
		2492	DP2, DP3	282206	Introduction to Translation and Interpretation		2	2	前期・後期	1			前期は1/4期科目 Q1：90分２時限連続授業
		2421	DP2, DP3	284015	Advanced English Proficiency Testing		2	2	後期	10			
		3421	DP2, DP3	282116	Business Writing		2	3	前期	5			
		3422	DP2, DP3	284016	Translation Practice		2	3	後期	10			
		3422	DP2, DP3	284017	Interpretation Practice		2	3	後期	10			

＊TOEICとそのスコアに該当する他の語学試験とスコアについては履修上の注意を参照すること。
※3　「Language and Communication Course」または「Global Japan Studies Course」のAdvancedレベルの単位として見なすことができる。
※4　「Skill Subjects」の３つの科目群「English Language Skills」「English Communication Skills」「Academic Skills」のいずれかから、IntermediateまたはAdvancedレベルの科目を６単位以上修得する。

科目群		ナンバリング	DP番号	科目番号	科　目	必修単位	選択単位	履修年次	開講学期	開講最少履修者数（目安）	卒業要件		備　考
											Language and Communication Course	Global Japan Studies Course	
Skill Subjects	English Communication Skills	1521	DP2, DP3	282201	Basic Pronunciation Training	2		1	前期	1			クラス指定
		1541	DP2, DP3	282202	Communication Skills Ⅰ（Interaction）	2		1	前期	1			1/4期科目 Q1：60分週３回授業 クラス指定
		1541	DP2, DP3	282203	Communication Skills Ⅱ（Listening）	2		1	前期	1			1/4期科目 Q2：60分週３回授業 クラス指定 後期：再履修者専用クラスあり （半期科目）
		1541	DP2, DP3	282204	Communication Skills Ⅲ（Presentation）	2		1	後期	1			1/4期科目 Q3：60分週３回授業 クラス指定 再履修者専用クラスあり（半期科目）
		1541	DP2, DP3	282205	Communication Skills Ⅳ（Debate）	2		1	後期	1			1/4期科目 Q4：60分週３回授業 クラス指定 再履修者専用クラスあり（半期科目）
		2521	DP2, DP3	282207	Advanced Pronunciation Training		2	2	後期	1	Second and Third-year English Program（STEP） 「Skills Subjects」いずれかの科目群から選択必修６単位以上※４		
		2521	DP2, DP3	284018	Discussion and Debate		2	2	後期	1			
		3521	DP2, DP3	284019	Academic Debate		2	3	前期	1			
		3521	DP2, DP3	284020	Digital Presentation		2	3	前期	10			
		3521	DP2, DP3	284021	Business Presentation		2	3	前期	10			
	Academic Skills	1622	DP2, DP3	110057	N1対策講座Ⅰ		2	1	前期	1			時間割表のアクティブラーニング科目のページを見て履修登録する N1取得者は履修不可 日本語を第一言語としない者のみ履修可
		1622	DP2, DP3	110058	N1対策講座Ⅱ		2	1	後期	1			時間割表のアクティブラーニング科目のページを見て履修登録する N1取得者は履修不可 日本語を第一言語としない者のみ履修可
		1641	DP2, DP3	282302	Academic Skills Ⅰ（Basic）	2		1	前期	1			1/4期科目 Q1：60分週３回授業 クラス指定 後期：再履修者専用クラスあり （半期科目）
		1641	DP2, DP3	282303	Academic Skills Ⅱ（Research）	2		1	前期	1			1/4期科目 Q2：60分週３回授業 クラス指定 後期：再履修者専用クラスあり （半期科目）
		1641	DP2, DP3	282304	Academic Skills Ⅲ（Thinking）	2		1	後期	1			1/4期科目 Q3：60分週３回授業 クラス指定 再履修者専用クラスあり（半期科目）

※４　「Skill Subjects」の３つの科目群「English Language Skills」「English Communication Skills」「Academic Skills」のいずれかから、IntermediateまたはAdvancedレベルの科目を６単位以上修得する。

科目群		ナンバリング	DP番号	科目番号	科　目	必修単位	選択単位	履修年次	開講学期	開講最少履修者数（目安）	卒業要件 Language and Communication Course	卒業要件 Global Japan Studies Course	備　考
Skill Subjects	Academic Skills	1641	DP2, DP3	282305	Academic Skills Ⅳ（Reporting）	2		1	後期	1			1/4期科目 Q4：60分週３回授業 クラス指定 再履修者専用クラスあり（半期科目）
		2641	DP2, DP3	284022	Critical Thinking		2	2	前期	10	Second and Third-year English Program（STEP） 「Skills Subjects」いずれかの科目群から選択必修６単位以上※４		1/4期科目 Q1：90分週２回授業
		3621	DP2, DP3	282117	Academic Writing	2		3	後期	1			クラス指定
		3621	DP2, DP3	282314	Data Analysis		2	3	後期	5			
		3621	DP2, DP3	282315	Text Analysis		2	3	後期	5			
		3621	DP2, DP3	284023	Research in Global Communication		2	3	前期	10			
		3621	DP2, DP3	282118	Writing Lab Ⅰ	2		4	前期	1			クラス指定 後期：再履修者専用クラスあり
		3621	DP2, DP3	282119	Writing Lab Ⅱ	2		4	後期	1			クラス指定
		2891	DP2, DP3	283102	Study Abroad	12		2	前期	1			1/4期科目 Q2：６～10週間
		2891	DP2, DP3	283106	Extended Study Abroad		2	2	後期	5			履修を認められた者の履修登録は教学事務室で行うので各自での登録は不要 原則、取消不可
Seminar Subjects		1722	DP1	282301	New Student Seminar	2		1	前期	1			クラス指定 後期：再履修者専用クラスあり
		1721	DP1	284024	GLOCOM Practicum 1	2		1	後期	1			
		2741	DP1	282306	Seminar 1	1		2	前期	1			1/4期科目 Q1：90分週１回授業
		2741	DP1	284025	GLOCOM Practicum 2	1		2	前期	1			1/4期科目 Q1：90分週１回授業
		2741	DP1	282307	Seminar 2	1		2	後期	1			1/4期科目 Q3：90分週１回授業
		2741	DP1	282308	Seminar 3	1		2	後期	1			1/4期科目 Q4：90分週１回授業
		3741	DP1	282309	Seminar 4	1		3	前期	1			1/4期科目 Q1：90分週１回授業
		3741	DP1	282310	Seminar 5	1		3	前期	1			1/4期科目 Q2：90分週１回授業
		3741	DP1	282311	Seminar 6	1		3	後期	1			1/4期科目 Q3：90分週１回授業
		3741	DP1	282312	Seminar 7	1		3	後期	1			1/4期科目 Q4：90分週１回授業
		3741	DP1	282316	Seminar 8	1		4	前期	1			1/4期科目 Q1：90分週１回授業
		3741	DP1	282317	Seminar 9	1		4	前期	1			1/4期科目 Q2：90分週１回授業
		3741	DP1	282318	Seminar 10	1		4	後期	1			1/4期科目 Q3：90分週１回授業
		3741	DP1	282319	Seminar 11	1		4	後期	1			1/4期科目 Q4：90分週１回授業

※４　「Skill Subjects」の３つの科目群「English Language Skills」「English Communication Skills」「Academic Skills」のいずれかから、IntermediateまたはAdvancedレベルの科目を６単位以上修得する。

履修要覧［2025年度入学者用］
学部

2025年４月１日発行
編集・発行　愛知淑徳大学

長久手キャンパス
〒480-1197
愛知県長久手市片平二丁目９
TEL(0561)62-4111(代)　FAX(0561)63-1844

星が丘キャンパス
〒464-8671
愛知県名古屋市千種区桜が丘23番地
TEL(052)781-1151(代)　FAX(052)783-1614

URL https://www.aasa.ac.jp/

履修要覧　学部　［ 2025 年度入学者用 ］

愛知淑徳大学